世田谷区
令和５年度「子どもの生活実態調査」

報 告 書

2024 年３月

世田谷区

本書は、世田谷区の委託を受け、株式会社富士通総研が分析・執筆したものである。

目次

第１章　調査の概要 6
１．調査の目的・対象・方法等 6
（１）調査の目的 6
（２）調査対象者 6
（３）抽出方法 6
（４）主な調査項目 6
（５）調査方法 6
（６）調査期間 7
２．有効回答数（率）と回答者属性 7
３．結果の概要 9
第２章　世帯構成と親の就労状況 20
１．世帯構成 20
（１）世帯タイプ 20
（２）世帯内の子ども数 20
（３）外国にルーツを持つ子ども 21
２．親の就労状況 22
（１）母親の就労状況 22
（２）母親の就労時間 26
（３）母親の日中以外の勤務 28
（４）父親の就労状況 31
（５）父親の就労時間 32
（６）父親の日中以外の勤務 33
（７）共働きの状況 34
（８）母親の新型コロナウイルス感染症拡大による就労状況の変化 36
（９）父親の新型コロナウイルス感染症拡大による就労状況の変化 39
（10）母親の新型コロナウイルス感染症拡大による収入の変化 40
（11）父親の新型コロナウイルス感染症拡大による収入の変化 44
（12）母親の新型コロナウイルス感染症拡大による労働時間の変化 45
（13）父親の新型コロナウイルス感染症拡大による労働時間の変化 49
３．まとめ 50
（１）世田谷区における子育て世帯の世帯構成 50
（２）外国にルーツを持つ子ども 50
（３）親の就労状況 50
（４）新型コロナウイルス感染症の影響 50
第３章　生活困難の状況 51
１．生活困難度の定義 51
２．世田谷区の生活困難度の分布 53

（１）世田谷区の生活困難層 53
（２）世帯タイプ別 55
（３）子どもの人数別 57
（４）学校の種類別 59
（５）地域別 61
（６）外国にルーツを持つ子ども 62
３．家計の状況 63
（１）食料を買えなかった経験 63
（２）衣類を買えなかった経験 65
（３）公共料金等が支払えなかった経験 67
（４）暮らしの状況 71
（５）家計の状況 73
４．住居の状況 75
（１）住宅の種類 75
（２）住宅費 77
５．まとめ 81
（１）世田谷区における子育て世帯の生活困難度 81
（２）食料・衣類が買えなかった経験・公共料金等が払えなかった経験 81
（３）家計の状況・住居の状況 81
第４章　子どもの生活 82
１．子どもの食 82
（１）平日の食事回数 82
（２）食品群別の摂取頻度 84
（３）食に関する支援事業 87
２．子どもの所有物・体験 95
３．子どもの日常的な活動 101
（１）ゲーム機の利用・テレビやインターネットの視聴・SNS の利用 101
（２）家事・家族の世話 105
４．子どものための支出 109
５．まとめ 116
（１）子どもの食 116
（２）子どもの所有物・体験 116
（３）子どもの日常的な活動 116
（４）子どものための支出 116
第５章　子どもの学び 118
１．子どもの学習状況 118
（１）就学状況 118
（２）授業の理解度 120
（３）授業がわからなくなった時期 122

（４）授業以外の勉強時間 124
（５）自宅の学習環境 126
（６）塾や家庭教師の有無 128
２．学習支援事業 130
３．不登校・いじめの経験 137
（１）不登校経験 137
（２）いじめられた経験 140
４．進学意向 142
（１）希望する進学先 142
（２）子どもの進学予定 146
（３）保護者の進学期待 151
（４）子ども本人の高等教育の修学支援新制度の認知と利用意向 155
（５）保護者の高等教育の修学支援新制度の認知と利用意向 159
５．まとめ 163
（１）子どもの学習状況 163
（２）無料学習支援の利用意向 163
（３）不登校・いじめの経験 164
（４）高校卒業後の進学と高等教育の修学支援新制度 164
第６章　子どもの人間関係と居場所 165
１．子どもの人間関係 165
（１）友人関係 165
（２）家族との関係 168
（３）他の人との会話の頻度 172
（４）相談相手 177
（５）相談事業 182
２．逆境体験 188
３．子どもの過ごし方 190
（１）部活動 190
（２）夜遅くまで子どもだけで過ごした経験 195
（３）居場所事業 197
４．まとめ 200
（１）子どもの人間関係 200
（２）逆境体験 200
（３）部活動・居場所事業 201
第７章　子どもの仕事 202
１．子どもの就労状況 202
（１）就労状況 202
（２）雇用形態 206
（３）就労時期・就労日数・就労時間 208

（４）収入と使途 221
２．職場での経験 225
３．まとめ 229
（１）子どもの就労状況と収入の使途 229
（２）職場での経験 229
第８章　子どものこころ 230
１．自己肯定感 230
２．子どもの抑うつ傾向 235
３．まとめ 239
（１）自己肯定感 239
（２）子どもの抑うつ傾向 239
第９章　子どもの健康 240
１．健康状態についての主観的評価 240
（１）子どもの主観的健康状態 240
（２）保護者から見た子どもの健康状態 242
２．医療機関での受診状況 244
（１）受診抑制経験 244
（２）受診抑制の理由 246
３．まとめ 248
（１）子どもの健康状態 248
（２）医療機関での受診状況 248
第 10 章　保護者の状況 249
１．保護者の健康状態 249
（１）母親の主観的健康状態 249
（２）母親の抑うつ傾向 251
２．保護者の成育環境 255
（１）母親の最終学歴 255
（２）父親の最終学歴 258
（３）15 歳当時の暮らし向き 261
（４）成人するまでに体験した困難 265
３．保護者の所有物・体験 268
４．保護者の相談相手の有無 272
５．まとめ 274
（１）保護者の健康状態・成育環境 274
（２）保護者の学歴 274
（３）保護者の所有物・体験 274
（４）保護者の相談相手の有無 274
第 11 章　制度・サービスの利用 276
１．様々な支援サービス 276

（１）支援サービスの利用状況 276
（２）支援サービスの利用意向 280
２．経済的支援制度 284
（１）経済的支援制度の利用状況..... 284
（２）経済的支援制度の利用意向..... 289
３．公的機関への相談 293
４．まとめ 298
（１）様々な支援サービス..... 298
（２）経済的支援制度 298
（３）公的機関への相談..... 298

第１章　調査の概要

１．調査の目的・対象・方法等

（１）調査の目的

世田谷区は、令和７年度からの「子ども計画（第３期）」に内包する次期子どもの貧困対策計画の策定に向け、前回平成３０年度に調査対象でなかった高校生世代の子どもの実態を把握し、重点的に取り組むべき施策を講じていくために、高校生世代の子どもと保護者に対するアンケート調査を行った。

本報告書では、アンケート調査をもとに、子どもの生活（食、所有物、体験、子どもに関する支出など）、子どもの学び、子どもの人間関係と居場所、子どものこころと健康、保護者の状況（健康状態、成育環境、所有物、相談相手の有無など）、制度・サービスの利用について現状を把握すると共に、それらと生活困難や世帯構成との関連を分析する。

（２）調査対象者

世田谷区に在住の令和５年度高校２年生世代（※）のすべての子ども本人とその保護者

※平成 18 年４月２日～平成 19 年４月１日生まれ（16-17 歳）

世田谷区５地域別の調査対象者数は以下の通り。

図表 1-1　対象者数（件）

世田谷区計	世田谷	北沢	玉川	砧	烏山
6,875 件	1,651 件	906 件	1,568 件	1,865 件	885 件

（３）抽出方法

住民基本台帳により、世田谷区に在住の、上記（2）記載の生年月日の者（全て）を抽出。

（４）主な調査項目

平成 30 年度に小学５年生及び中学２年生の子どもと保護者を対象に実施した際の調査項目および令和４年度に東京都立大学と３区が実施した子どもの生活実態調査の調査項目を参考に作成。

子ども：子ども自身の状況、友人関係、学校・勉強、普段の生活、食事・健康、アルバイトなどの仕事、普段考えていること、公的支援の利用状況　等

保護者：保護者自身と世帯の状況、父母の職業、新型コロナウイルス感染症による家庭への影響、親子の健康、子どもの進路、子育てにかかる費用、家庭での生活、父母の成育歴、公的支援の利用状況　等

（５）調査方法

各世帯に子ども用・保護者用の依頼文およびアンケートを郵送回答し、子ども・保護者それぞれ自記式にて任意回答の上、インターネットもしくは郵送で回収

（6）調査期間

令和 5 年 9 月 1 日から 10 月 2 日まで

2．有効回答数（率）と回答者属性

有効回答数は高校生世代票 1,611 票、保護者票 2,121 票であり、有効回答率はそれぞれ 23.4%、30.9%であった。有効回答となった高校生世代票、保護者票のうち、高校生世代と保護者がマッチングできたのは 1,482 票（有効回答率 21.6%）であった。なお、高校生世代票にて、紙と Web による重複回答が 1 件存在したため、紙回答を無効票としている。

本報告書においては、子ども票の質問項目と保護者票の質問項目を掛け合わせて集計をする場合は、子ども票と保護者票をマッチングできたケースのみを集計対象とする。

図表 1-2-1 有効回答数及び有効回答率

属性	対象者数	回答数	回答率
高校生世代	6.875	1,611	23.4%
保護者		2,121	30.9%
マッチングできた件数		1,482	21.6%

世田谷区 5 地域別の有効回答数は、世田谷地域では、高校生世代票 394 票（有効回答率 23.9%）、保護者票 544 票（有効回答率 32.9%）、マッチングができた票 368 票（有効回答率 22.3%）であった。北沢地域では、高校生世代票 200 票（有効回答率 22.1%）、保護者票 255 票（有効回答率 28.1%）、マッチングができた票 181 票（有効回答率 20.0%）であった。玉川地域では、高校生世代票 414 票（有効回答率 26.4%）、保護者票 557 票（有効回答率 35.5%）、マッチングができた票 388 票（有効回答率 24.7%）であった。砧地域では、高校生世代票 372 票（有効回答率 19.9%）、保護者票 475 票（有効回答率 25.5%）、マッチングができた票 337 票（有効回答率 18.1%）であった。烏山地域では、高校生世代票 230 票（有効回答率 26.0%）、保護者票 289 票（有効回答率 32.7%）、マッチングができた票 207 票（有効回答率 23.4%）であった。なお、地域を判別できない回答が 1 世帯分あった。

図表 1-2-2 地域別の有効回答数及び有効回答率

地域	属性	対象者数	回答数	回答率
世田谷地域	高校生世代	1,651	394	23.9%
	保護者		544	32.9%
	マッチングできた件数		368	22.3%
北沢地域	高校生世代	906	200	22.1%
	保護者		255	28.1%
	マッチングできた件数		181	20.0%
玉川地域	高校生世代	1,568	414	26.4%
	保護者		557	35.5%
	マッチングできた件数		388	24.7%
砧地域	高校生世代	1,865	372	19.9%
	保護者		475	25.5%
	マッチングできた件数		337	18.1%
烏山地域	高校生世代	885	230	26.0%
	保護者		289	32.7%
	マッチングできた件数		207	23.4%

※その他、地域不明が 1 世帯分存在（同一の世帯であるため、マッチングは可能）

３．結果の概要

1	世帯構成と親の就労状況

（１）世帯タイプ

本調査において、ふたり親世帯が 85%を占める。

[世帯タイプ]

○77.4%がふたり親（二世代）、7.6%ふたり親（三世代）に属しており、一方で 14.6%がひとり親世帯に属している。（**図表 2-1-1**）

（２）外国にルーツを持つ子ども

外国にルーツを持つ子どもの割合は、ひとり親世帯にて高い。

[外国にルーツを持つ子ども]

○外国にルーツを持つ子どもの割合は 3.7%である（**図表 2-1-5**）。

○ふたり親世帯に限ると、外国にルーツを持つ子どもの割合は 3.1%であるが、ひとり親世帯に限ると、その割合は 7.0%である（**図表 2-1-5**）。

（３）母親の就労時間

ひとり親（二世代）世帯の母親は、就労時間が長く、平日日中以外の時間帯で働く母親の割合は、困窮層やひとり親世帯において高い。

[母親の就労時間]

○週の労働時間が 40 時間以上の母親が、全体では 32.2%であるのに対し、ひとり親（二世代）世帯の母親では 57.4%にのぼる（**図表 2-2-8**、**図表 2-2-9**）。

[平日日中以外の時間帯の就労]

○平日日中の勤務がないと回答した母親は、全体では 56.8%であるのに対し、困窮層では 41.0%、ひとり親（二世代）世帯では 44.4%、ひとり親（三世代）世帯では 30.0%である（**図表 2-2-10**、**図表 2-2-11**、**図表 2-2-12**）。

（４）新型コロナウイルス感染症の影響

困窮層、周辺層にて、約 3 割が新型コロナウイルス感染拡大前に比べ収入が減っている。

[新型コロナウイルス感染症による親の就労状況の変化]

○新型コロナウイルス感染症によって就労状況が変化した母親は 4 割程度、父親は 6 割程度にのぼる（**図表 2-2-23**、**図表 2-2-25**、**図表 2-2-26**、**図表 2-2-27**）。

○「テレワークの増加」を経験したと回答した母親は、一般層では 18.1%であるのに対し、困窮層では 6.8%にとどまった。一方で、「転職した」「仕事を辞めた」「労働時間の減少」「収入の減少」「時間外労働の増加」については生活困難層の方が経験した母親の割合が多い（**図表 2-2-23**、**図表 2-2-25**）。

[新型コロナウイルス感染症による収入の変化]

○新型コロナウイルス感染拡大前に比べ収入が減った割合は、全体では同居の母親の収入で 12.0%、同居の父親の収入で 17.4%である。一方、その割合は困窮層の母親になると 29.5%、周辺層の母親になると 28.6%にものぼる（**図表 2-2-28**、**図表 2-2-30**、**図表 2-2-34**、**図表 2-2-35**）。

2 生活困難の状況

（1）世田谷区の生活困難層

15.4%の高校２年生世代が経済的な理由による生活困難を抱えている。

[世田谷区における生活困難の状況]

○高校２年生世代のうち、5.6%が困窮層、9.8%が周辺層、84.6%が一般層である（**図表 3-2-1**、**図表 3-2-2**）。

○生活困難層の割合は、特にひとり親（二世代、三世代）世帯において高く、ひとり親（二世代）世帯では 37.8%、ひとり親（三世代）世帯では 50.0%が生活困難層である（**図表 3-2-5**、**図表 3-2-6**）。しかし、ひとり親世帯の数が少ないため、生活困難層の子どもの半数以上がふたり親世帯である（**図表 3-2-7**、**図表 3-2-8**）。

○困窮層においても、49.1%が私立学校に通っている（**図表 3-2-13**、**図表 3-2-14**）。

○生活困難層の分布は、地域別には確認できない（**図表 3-2-17**、**図表 3-2-18**）。

（2）食料・衣類が買えなかった経験・公共料金等が払えなかった経験

困窮層やひとり親世帯においては、経済的な理由で食料や衣類の購入ができなかったり、公共料金の滞納がある世帯がある。

[食料・衣類が買えなかった経験・公共料金等が払えなかった経験]

○過去１年間に家族が必要な食料が買えなかった経験が「よくあった」「時々あった」割合は、全体では 2.1%であるのに対し、困窮層では 38.2%、ひとり親（二世代）世帯では 8.8%にのぼる（**図表 3-3-1**、**図表 3-3-2**、**図表 3-3-3**、**図表 3-3-4**）。

○過去１年間に家族が必要な衣類が買えなかった経験が「よくあった」「時々あった」割合は、全体では 3.2%であるのに対し、困窮層では 50.9%、ひとり親（二世代）世帯では 9.3%にのぼる（**図表 3-3-5**、**図表 3-3-6**、**図表 3-3-7**、**図表 3-3-8**）。

○困窮層では、約２～４割の世帯にて、過去１年間に電話、電気、ガス、水道、家賃、その他債務の支払いが経済的な理由でできなかった経験がある（**図表 3-3-9**、**図表 3-3-11**）。

（3）家計の状況

約 16%の世帯が、家計が赤字で生活しており、その割合は生活困難度が上がるほど高くなる。

[家計の状況]

○困窮層の 65.4%、周辺層の 40.2%にて、家計が赤字であり、借金をしたり、貯蓄を取り崩したりして生活している。一方で、一般層の 46.5%が黒字であり、毎月貯蓄をしている（**図表 3-3-16**、**図表 3-3-18**）。

（４）住居の状況

困窮層の約半数が民間の賃貸住宅に居住している。

[住居の種類]

○住居の状況が「持ち家」である割合は一般層では 78.6%であるのに対し、困窮層では 32.7%である。一方、「民間の賃貸住宅」に住んでいる割合が一般層では 14.0%であるのに対し、困窮層では 47.3%にのぼる（**図表 3-4-1**、**図表 3-4-3**、**図表 3-4-4**）。

3　子どもの生活

（１）子どもの食

平日の食事回数や食品群別の摂取頻度については、世帯の状況による差が見られ、食に関する支援事業は困窮層を中心に一定のニーズが存在する。

[子どもの食生活]

○平日の食事回数については、ほぼ毎日３食食べる者が全体では 87.0%であるのに対し、困窮層では 74.5%、ひとり親（二世代）世帯では 77.5%にとどまった（**図表 4-1-1**、**図表 4-1-2**、**図表 4-1-3**）。

○「果物」の摂取頻度について、困窮層では少ない傾向が見られた。また、「野菜」および「大豆・小麦などの植物性たんぱく質」の摂取頻度について、ひとり親世帯では少ない傾向が見られた（**図表 4-1-4**、**図表 4-1-5**、**図表 4-1-6**）。

[食に関する支援事業]

○「子ども食堂」について、困窮層の 32.7%、周辺層の 35.1%に利用意向がある（**図表 4-1-10**、**図表 4-1-12**）。

○「学校における無料の給食サービス」「夕ご飯を同世代と食べることのできる場所」「食料品が無料でもらえる場所」について、全体では４～５割の子どもの利用意向がある（**図表 4-1-13**、**図表 4-1-15**）。

○「食料品が無料でもらえる場所」は困窮層の 69.1%、ひとり親（二世代）世帯の 60.5%の子どもの利用意向がある（**図表 4-1-13**、**図表 4-1-14**、**図表 4-1-15**、**図表 4-1-16**）。

（２）子どもの所有物・体験

（自宅で）インターネットにつながる環境やスマートフォン以外は、様々な所有物や・体験において生活困難度による差がある。

[子どもの所有物・体験]

○「自分の部屋」「学習塾（または家庭教師、オンライン含む）」「１年に１回の家族旅行（１泊以上）」については、全体では 82.3%、62.4%、71.9%が所有・体験していたのに対し、困窮層では 52.7%、21.8%、25.5%にとどまった（**図表 4-2-1**、**図表 4-2-2**）。

（３）子どもの日常的な活動

１～３割程度の子どもが、ゲーム・SNS・テレビやインターネットの利用を毎日２時間以上行っており、特に困窮層でゲームやテレビ、インターネットの活用時間が長い傾向がある。

[電子機器・情報通信機器の利用]

○「ゲーム（ゲーム機、ウェブ等）をする」は 26.3%、「SNS（Instagram、TikTok などを見たり、書き込んだりする）」は 26.6%、「テレビやインターネット（YouTube など）を観る」は 34.5%、「SNS（LINE、X（旧 Twitter）、Instagram など）などによる他者とのやりとり」は 13.8%が、毎日２時間以上行っている（**図表 4-3-1**、**図表 4-3-3**）。

○困窮層においては、毎日２時間以上「ゲーム（ゲーム機、ウェブ等）をする」割合が 43.6%、「テレビやインターネット（YouTube など）を観る」割合が 50.9%である（**図表 4-3-1**、**図表 4-3-3**）。

[家事・家族の世話]

○「家事（洗濯、掃除、料理、片付けなど）」は 1.2%、「弟や妹の世話」は 1.0%、「父母・祖父母など家族の介護・看病」は 0.2%、「家族の通訳や手続きの手伝い」は 0.3%が、毎日２時間以上行っている（**図表 4-3-5**、**図表 4-3-7**）。

（４）子どものための支出

生活困難層やひとり親世帯では、経済的な理由から子どものための支出をできない保護者の割合が高い。

[子どものための支出]

○「習い事（音楽、スポーツ、習字等）に通わせる」（全体 10.5%、困窮層では 78.2%）、「学習塾に通わせる（または家庭教師に来てもらう、オンライン含む）」（全体 10.1%、困窮層 70.9%）といった定期的な教育費の支出ができない保護者の割合が高い（**図表 4-4-1**、**図表 4-4-3**、**図表 4-4-5**）。

4　子どもの学び

（１）学力

授業の理解度は生活困難度が上がると悪化し、３割強は高校入学以降に授業が分からなくなっている。

[授業の理解度]

○学校の授業が「いつもわかる」、「だいたいわかる」と子どもは、合わせて 85.9%にのぼるが、9.0%が「あまりわからない」、3.4%が「わからないことが多い」、0.7%が「ほとんどわからない」と回答しており、学習に課題を抱えた子どもが１割強存在する（**図表 5-1-4**、**図表 5-1-6**）。

○学校の授業がよくわからない（「あまりわからない」、「わからないことが多い」、「ほとんどわからない」）と回答した子どもの割合は、困窮層では 27.2%にのぼる（**図表 5-1-4**、**図表 5-1-6**）。

[授業がわからなくなった時期]

○授業がわからなくなった時期としては、高校１年生の頃が 24.7%と最も多く、次が「中学２年生の頃」の 16.9%であった（**図表 5-1-7**、**図表 5-1-9**）。

（２）学校外での学習状況

生活困難層では授業以外の勉強時間が短い傾向があり、塾や家庭教師を利用していない割合が高い。

[授業以外の勉強時間]

○学校の授業以外の勉強時間については、「30 分以上、1 時間より少ない」と回答した割合が最も高く、25.9%であった（**図表 5-1-10**、**図表 5-1-12**）。

○全体では 12.0%の子どもが、学校の授業以外で勉強を「まったくしない」と回答し、その割合は困窮層では 29.1%、周辺層では 17.5%にのぼる（**図表 5-1-10**、**図表 5-1-12**）。

[自宅の学習環境]

○「家の中で勉強ができる場所」が「ある」と回答した子どもは全体では 95.3%であるが、困窮層では 80.0%、周辺層では 84.5%にとどまった（**図表 5-1-13**、**図表 5-1-15**）。

[塾や家庭教師の有無]

○50.1%が学習塾や家庭教師を利用しており、利用頻度が週 3 日以上の割合は 18.5%である（**図表 5-1-16**、**図表 5-1-18**）。

○困窮層では 74.5%、ひとり親（二世代）世帯では 64.3%が塾や家庭教師を利用していない（**図表 5-1-16**、**図表 5-1-17**、**図表 5-1-18**）。

（３）学習支援事業の利用意向

各種学習支援は困窮層を中心に一定のニーズが存在する。

[無料学習支援事業の利用状況]

○無料学習支援事業は、「利用したことがある」者は 1.4%にとどまった一方で、「利用の仕方が分からなかった」者が 5.9%、「これについて全く知らなかった」者が 40.6%存在する（**図表 5-2-1**、**図表 5-2-3**）。

[各種学習支援事業の利用意向]

○「無料学習支援」では 26.1%が、「低額・無料で、通信教育が受けられるサービス」では 36.0%、「家から出て学校に通うことできる低額・無料の寮」では 25.2%の子どもが利用意向を示している。（**図表 5-2-4、図表 5-2-6、図表 5-2-7、図表 5-2-9**）。

○「無料学習支援」について、困窮層では 38.2%、ひとり親（二世代）世帯では 31.9%、ひとり親（三世代）世帯では 34.4%が利用意向を示している（**図表 5-2-4**、**図表 5-2-5**、**図表 5-2-6**）。

（４）不登校・いじめ

不登校を経験した子どもの割合は困窮層やひとり親（二世代）世帯において高く、いじめを経験した子どもの割合は、生活困難度や世帯タイプと関連していない。

[不登校]

○不登校を経験したことのある子どもは、8.2%である（**図表 5-3-1**、**図表 5-3-3**、**図表 5-3-4**）。

○困窮層においては 16.4%、ひとり親（二世代）世帯においては 17.6%と、その割合は高くなる（**図表 5-3-4**）。

[いじめ]

○「いじめられた」ことが「よくあった」「時々あった」と答えた子どもの割合は、9.9%である。いじめの経験は、生活困難度や世帯タイプとは関連していない（**図表 5-3-5**、**図表 5-3-6**、**図表 5-3-7**）。

（5）進学と高等教育の修学支援新制度

困窮層でも多くが進学を希望しており、困窮層の高等教育の修学支援新制度のニーズは高いが、制度の認知度は高くない。

[子どもの進学意向]

○87.3%の子どもが進学先として「四年制大学」を希望している（**図表 5-4-1**、**図表 5-4-3**）。

○今後進学を希望する子どものうち、全体では 90.6%が進学予定があるものの、困窮層では 69.6%にとどまった（**図表 5-4-4**、**図表 5-4-6**）。

[保護者の進学期待]

○83.4%の保護者が大学進学を期待するが、「経済的に受けさせられない」と回答した割合は一般層では 0.6%であるのに対し、困窮層では 32.7%にのぼる（**図表 5-4-10**、**図表 5-4-12**）。

[高等教育の修学支援新制度の認知と利用希望]

○子ども本人の高等教育の修学支援新制度の認知については、認知している割合が全体では 32.1%であるのに対し、特に困窮層では 25.5%である（**図表 5-4-14**、**図表 5-4-16**）。一方で、利用を希望する割合は、全体では 22.5%であるのに対し、困窮層では 54.5%にのぼる（**図表 5-4-17**、**図表 5-4-19**）。

○保護者の高等教育の修学支援新制度の認知については、認知している者が 74.4%である（**図表 5-4-20**、**図表 5-4-22**）。利用を希望する割合が全体では 24.5%であるのに対し、困窮層では 63.6%、ひとり親（二世代）世帯では 52.7%にのぼる（**図表 5-4-23**、**図表 5-4-24**、**図表 5-4-25**）。

5 子どもの人間関係と居場所

（1）子どもの人間関係

1 割弱の子どもが「SNS を通じて知り合った人」とよく話している。

[会話の相手]

○子ども本人が「よく話す」と回答した相手として、「友人」が 87.8%と最も多く、次いで「親」が 78.8%と多かった。「SNS を通じて知り合った人」と頻繁に会話する者も 8.4%存在した（**図表 6-1-8**、**図表 6-1-10**）。

○「スクールカウンセラー・スクール（ユース）ソーシャルワーカー」「児童館職員」「青少年交流センター職員」「子ども食堂や無料学習支援事業の人」と頻繁に会話をしている者はそれぞれ数%程度にとどまった（**図表 6-1-8**、**図表 6-1-10**）。

（2）相談相手

約 2 割の子どもが困ったことや、悩んでいることがある時、そのことを誰にも話していない。

[相談の相手]

○困ったことや、悩んでいることがある時、そのことを誰にも話さない子どもの割合は 19.8%であった（**図表 6-1-12**、**図表 6-1-14**）。

○相談相手は「友人」が 85.1%と最も多く、次いで「親」が 85.0%と多かった。「SNS を通じて知り合った人」も 8.1%存在した（**図表 6-1-15**、**図表 6-1-17**）。

○「スクールカウンセラー・スクール（ユース）ソーシャルワーカー」「児童館職員」「青少年交流センター職員」「子ども食堂や無料学習支援事業の人」に相談する者はそれぞれ数%程度にとどまった（**図表 6-1-15**、**図表 6-1-17**）。

（3）相談事業

約 3 割の子どもが「せたホッと」の利用意向がある。

[「せたホッと」の利用状況と利用意向]

○「せたホッと」を利用したことのある子どもの割合は 2.8%である一方、「利用の仕方が分からなかった」が 3.6%、「これについて全く知らなかった」が 23.7%存在する（**図表 6-1-18**、**図表 6-1-20**）。

○「せたホッと」を利用したいと考えている子どもの割合は、27.1%である（**図表 6-1-21**、**図表 6-1-23**）。

（4）逆境体験

生活困難層に属する子どもほど、様々な逆境体験をした割合が高い。

[逆境体験]

○様々な逆境体験をしたことがないと回答した子どもの割合は、全体では 68.8%であったが、周辺層では 49.5%、困窮層では 34.5%にとどまった（**図表 6-2-1**、**図表 6-2-3**）。

（5）居場所事業

5 割弱の子どもが平日の放課後から夜や休日の居場所の利用意向がある。

[居場所事業の利用意向]

○「使ってみたい」「興味がある」と回答した子どもの割合は、「（家以外で）平日の放課後に夜までいることができる場所」では 47.5%が、「（家以外で）休日にいることができる場所」では 47.9%である（**図表 6-3-10**、**図表 6-3-12**）。

6	子どもの仕事

（１）就労状況

約１割強が就労しており、特に困窮層にてその割合が高い。

[就労状況]

○全体の 82.1%が「働いていない」が、「働いている（アルバイト・パートタイム・派遣・日雇い・正社員）」子どもの割合は、一般層では 11.6%であるのに対し、困窮層では 34.5%にのぼる（**図表 7-1-1**、**図表 7-1-3**）。

（２）職場での経験

就労している子どものうち、２割弱の子どもが職場で何らかの問題のある経験している。

[職場での経験]

○就労している子どもの 54.1%は職場で特に嫌な経験をしたことがない（**図表 7-2-1**、**図表 7-2-3**）。

○経験した何らかの問題としては、「直前まで勤務スケジュールがわからない」が 7.1%と最も多く、次いで「短期間で辞めていく人が多い」が 6.3%と多い（**図表 7-2-1**、**図表 7-2-3**）。

7	子どものこころ

（１）自己肯定感

約半数の子どもが何かしらの不安感を抱えている。

[自己肯定感]

○「とてもそう思う」「そう思う」と回答した子どもの割合は、「頑張れば、むくわれる」については 75.4%が、「自分は価値のある人間だと思う」については 73.7%が、「自分は家族に大事にされている」については 95.1%が、「自分は友達に好かれている」については 89.2%が、「不安に感じることはない」については 43.7%が、「孤独を感じることはない」については 63.7%が、「自分の将来が楽しみだ」については 67.0%が、「毎日の生活が楽しい」については 83.7%が、「自分のことが好きだ」については 71.7%である（**図表 8-1-1**、**図表 8-1-3**）。

（２）子どもの抑うつ傾向

２割弱の子どもが抑うつ傾向にあるが、困窮層、周辺層では３割弱にのぼる。

[子どもの抑うつ傾向]

○全体では 17.9%の子どもが抑うつ傾向にあるが、困窮層では 27.3%、周辺層では 26.8%にのぼる（**図表 8-2-1**、**図表 8-2-3**）。

8	子どもの健康

（１）子どもの健康状態

約７割の子どもは自分自身の健康状態を「よい」「まあよい」と考えている。

[主観的健康状態]

○自分の健康状態を、全体では 57.8%が「よい」と答えており、16.1%が「まあよい」と回答している（**図表 9-1-1**、**図表 9-1-3**）。

○困窮層では、「よい」と答える子どもの割合が低く、一般層の 58.7%と比較して、11.4 ポイント低い 47.3%である（**図表 9-1-1**、**図表 9-1-3**）。

（2）受診抑制

1 割強の保護者は、子どもを医療機関に受診させることを抑制したことがある。

[医療機関の受診抑制]

○保護者の 13.5%が「子どもを医療機関で受診させた方がよいと思ったが、実際には受診させなかった」経験がある（**図表 9-2-1**、**図表 9-2-3**）。

○困窮層では 23.6%の保護者に受診抑制経験があり、一般層の 12.8%と比較して約 2 倍にのぼる（**図表 9-2-1**、**図表 9-2-3**）。

9 保護者の状況

（1）保護者の健康状態

1 割強の母親が抑うつ傾向にあるが、生活困難層やひとり親（二世代）世帯にてその割合が高い。

[保護者の健康状態]

○全体では 13.5%の母親が抑うつ傾向にあるが、困窮層では 38.5%、周辺層では 29.9%、ひとり親（二世代）世帯では 22.8%にのぼる（**図表 10-1-4**、**図表 10-1-6**）。

（2）保護者の成育環境

生活困難層の保護者は、成人する前に親から暴力を振るわれた経験、育児放棄をされた経験がある割合が高い。

[保護者の成育環境]

○「両親が離婚した」「親から暴力を振るわれた」「育児放棄（ネグレクト）された」については、それぞれ、一般層では 6.7%・3.8%・0.7%であるのに対し、困窮層では 16.4%・10.9%・3.6%にのぼる。また、どれも経験していない保護者は一般層では 84.9%であるのに対し、困窮層では 72.7%にとどまった（**図表 10-2-19**、**図表 10-2-21**）。

（3）保護者の学歴

保護者は高学歴な傾向がある。

[保護者の学歴]

○保護者は、全体的には高学歴層が多く、高等教育（高等専門学校、短期大学、専門学校、大学、大学院）を受けた割合は、母親で 9 割弱、父親で 8 割強である（**図表 10-2-1**、**図表 10-2-3**、**図表 10-2-4**、**図表 10-2-6**、**図表 10-2-7**、**図表 10-2-9**、**図表 10-2-10**、**図表 10-2-12**）。

（４）保護者の所有物・体験

困窮層にて、保護者が様々な所有物・体験を「金銭的にない（できない）」と回答した割合が高い。

[保護者の所有物・体験]

○「ある（できる）」と回答した割合は、「最低２足の靴」「自宅で自分が使えるインターネット環境」はほぼ全員が、「自分自身のために使うことができるお金（月 5,000 円）」「古くなった服を買い替える」「友人や家族と１か月に１回ほど外食する」は９割前後が、「自分の趣味やレジャーのためのお金」は８割半ばであった（**図表 10-3-1**、**図表 10-3-3**）。

○困窮層では、「金銭的にない（できない）」と回答した割合は、「自分の趣味やレジャーのためのお金」については 67.3%、「自分自身のために使うことができるお金（月５千円）」については 56.4%が、「古くなった服を買い替える」については 50.9%にのぼる（**図表 10-3-1**、**図表 10-3-3**）。

10 制度・サービスの利用

（１）様々な支援・サービス

実際に支援・サービスを利用した経験を持つ保護者よりも、利用意向はあったが利用しなかった保護者の方が多い傾向がある。

[支援・サービスの利用状況]

○「こども食堂」「フードバンク・フードパントリーによる食料支援」「学校以外が実施する無料学習支援」について、実際に利用した経験をもつ保護者の割合よりも、利用意向があったが利用しなかった保護者の割合が高い（**図表 11-1-1**、**図表 11-1-3**）。

○その割合は、生活困難度および世帯タイプの影響を受けており、困窮層・ひとり親世帯において、利用意向はあったが、利用しなかった保護者の割合が高い傾向にある（**図表 11-1-1**、**図表 11-1-2**、**図表 11-1-3**、**図表 11-1-4**）。

[支援サービスの利用意向]

○「こども食堂」「フードバンク・フードパントリーによる食料支援」「学校以外が実施する無料学習支援」「発達障害に関する専門支援」については、それぞれ 13.8%、13.8%、24.8%、11.7%の利用意向がある（**図表 11-1-5**、**図表 11-1-7**）。

○「学校以外が実施する無料学習支援」について利用意向が最も高く、困窮層では 45.5%、周辺層では 47.4%、ひとり親（二世代）世帯では 31.9%である（**図表 11-1-5**、**図表 11-1-6**、**図表 11-1-7**、**図表 11-1-8**）。

（２）経済的支援制度

利用意向があったが、利用しなかった保護者の割合は、「高校生等奨学給付金（授業料以外の教育費支援）」において、最も高い。

[経済的支援制度の利用状況]

○「利用したかったが、条件を満たしていなかった」「利用時間や制度等が使いづらかった」「利用の仕方が分からなかった」と回答した保護者の割合は、「高校生等奨学給付金（授業料以外の教育費支援）」において最も高く、全体では 41.6%、困窮層では 45.5%が、周辺層では 56.7%にのぼる（**図表 11-2-1**、**図表 11-2-3**）。

（３）公的機関への相談

生活困難層は、相談経験のある保護者が多い傾向にあるが、相談意向があったが相談にいたらなかった保護者の割合も高い傾向にある。

[公的機関への相談状況]

○公的機関への相談は、「学校・保育所・幼稚園の先生、スクールカウンセラー」に対しては 31.1%の保護者が、「ハローワーク」については 19.4%の保護者が相談しているものの、その他の公的機関については、約 1 割かそれ以下の保護者しか相談していない（**図表 11-3-1**、**図表 11-3-3**）。

○全体的に、相談意向があったが相談にいたらなかった保護者のうち、「相談する窓口や方法がわからなかった」と回答する割合が、「相談したかったが、抵抗感があった」「相談時間や場所などが使いづらかった」と回答する割合よりも高い傾向にある（**図表 11-3-1**、**図表 11-3-3**）。

第２章　世帯構成と親の就労状況

１．世帯構成

（１）世帯タイプ

まず、世帯タイプの分布を見た。ここでは、世帯タイプを「ふたり親（二世代）世帯」「ふたり親（三世代）世帯」「ひとり親（二世代）世帯」「ひとり親（三世代）世帯」「親がいない世帯」「施設」の６つの世帯タイプに分類する。世帯タイプの判別は、保護者票における同居家族においての父母および祖父母の同居から行う。また、保護者票の回答者が施設職員の場合は、施設にて暮らしていると判断する。さらに、単身赴任している保護者は同居家族と見なしている。

その結果、世田谷区に住む高校２年生世代の世帯構成としては、ふたり親（二世代）が最も多く、世帯タイプを把握できなかったケース（欠損）を除くと 77.4%となっていた。次いで多いのはひとり親（二世代）世帯であり、12.4%となっていた。なお、本報告書にて世帯タイプ別の分析をする際には、n 値の小さい「親のいない世帯」と施設にて暮らす子どもを除いて行う。

図表 2-1-1　世帯タイプ

	n	%	%（欠損除く）
ふたり親（二世代）世帯	1,135	76.6%	77.4%
ふたり親（三世代）世帯	111	7.5%	7.6%
ひとり親（二世代）世帯	182	12.3%	12.4%
ひとり親（三世代）世帯	32	2.2%	2.2%
親がいない世帯	6	0.4%	0.4%
施設	1	0.1%	0.1%
欠損	15	1.0%	
合計	1,482	100.0%	100.0%

（２）世帯内の子ども数

次に、調査対象世帯内の子ども数別の構成割合を見た。世帯内の子ども数は、保護者票の同居家族の中から、姉、兄、妹、弟の人数に調査対象の子ども１人を足した数とした。なお、世帯内に兄弟姉妹以外の子どもがいる場合においては、子ども数にカウントされていない。

すると、高校２年生世代の世帯においては約半数である 53.4%が子ども数２人であることが分かった。

図表 2-1-2　世帯内の子ども数

	n	%
１人	431	29.1%
２人	791	53.4%
３人	205	13.8%
４人以上	55	3.7%
合計	1,482	100.0%

（３）外国にルーツを持つ子ども

次に、外国にルーツを持つ子どもの割合を見た。本調査においては、保護者票において、子どもの両親の国籍を「日本」「日本以外」の２つの選択肢で聞いている。なお、ひとり親世帯の場合、同居していない親について回答していないことが多いため、「無回答」の割合が高くなっている。

まず、母親、父親別に国籍を集計すると、母親全体では 97.5%、父親全体では 91.2%が「日本」となっており、「日本以外」は母親 1.8%、父親 2.8%となっている。ひとり親世帯は、ふたり親世帯よりも「日本」の割合が低くなっているが、これは「無回答」の割合が高いことが理由としてあげられる。一方、父親に関しては、「日本以外」の割合は、ふたり親世帯よりもひとり親世帯の方が高い。

母親と父親の国籍を組み合わせると、全体の 90.1%が「共に日本」となっている。外国にルーツを持つ子ども（「日本＋日本以外」「共に日本以外」）は 2.9%であるが、ひとり親世帯では 7.0%とふたり親世帯（3.1%）より高い。

図表 2-1-3　母親の国籍

	日本	日本以外	無回答	合計
母親全体	97.5%	1.8%	0.7%	100.0%
ふたり親世帯	98.2%	1.8%	0.1%	100.0%
ひとり親世帯	96.3%	1.4%	2.3%	100.0%

図表 2-1-4 父親の国籍

	日本	日本以外	無回答	合計
父親全体	91.2%	2.8%	6.0%	100.0%
ふたり親世帯	97.0%	2.2%	0.8%	100.0%
ひとり親世帯	60.7%	6.1%	33.2%	100.0%

図表 2-1-5　子どもの親の国籍の組み合わせ

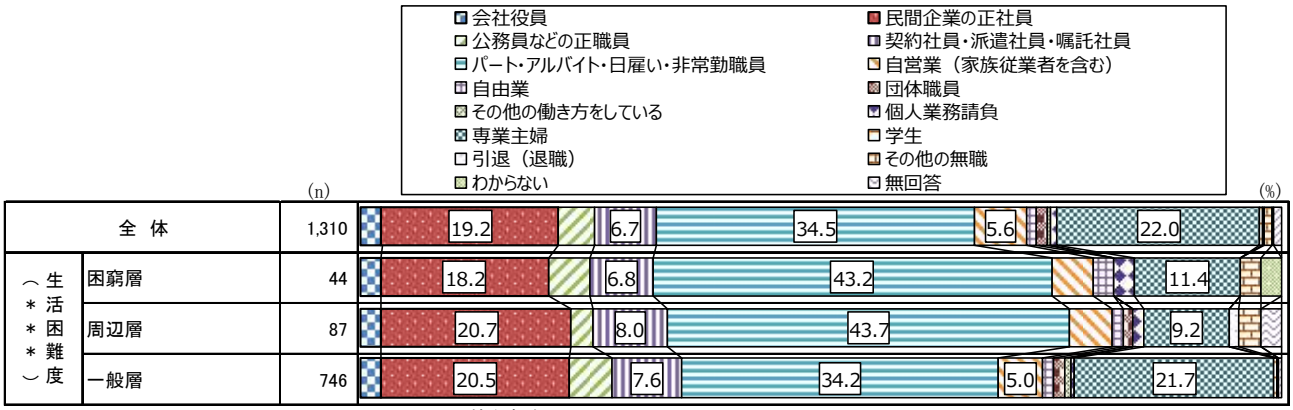
	全体	ふたり親世帯	ひとり親世帯
共に日本	90.1%	96.2%	57.9%
日本＋日本以外	2.6%	2.0%	6.5%
共に日本以外	0.9%	0.9%	0.5%
日本＋無回答	5.8%	0.7%	34.6%
日本以外＋無回答	0.2%	0.2%	0.0%
共に無回答	0.3%	0.0%	0.5%
合計	100.0%	100.0%	100.0%

２．親の就労状況

（１）母親の就労状況

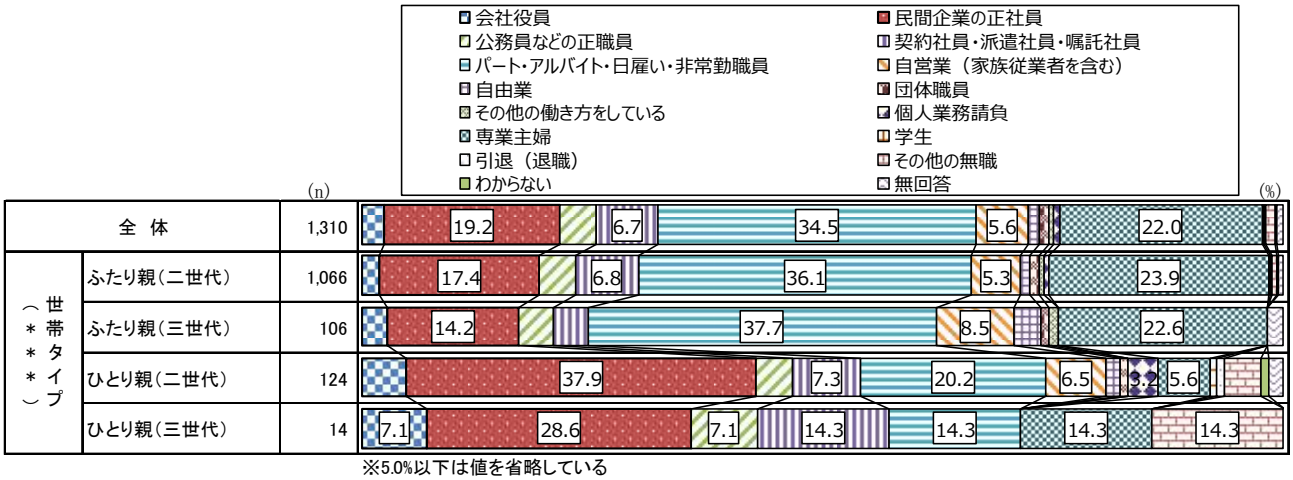
次に、母親の就労状況を見た。ここでは、同居の母親の就労状況が子どもの状況と関連していると考えられることから、集計を同居の母親に限っている。全体では「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」（34.5%）が最も多く、次いで「専業主婦」（22.0%）が多かった。また、生活困難度別・世帯タイプ別に見ると、統計的に有意な差が確認され、生活困難層やひとり親世帯には専業主婦が少ない傾向が見られた。

図表 2-2-1　同居の母親の就労状況：全体、生活困難度別（*）**



※5.0%以下は値を省略している

図表 2-2-2　同居の母親の就労状況：全体、世帯タイプ別（*）**



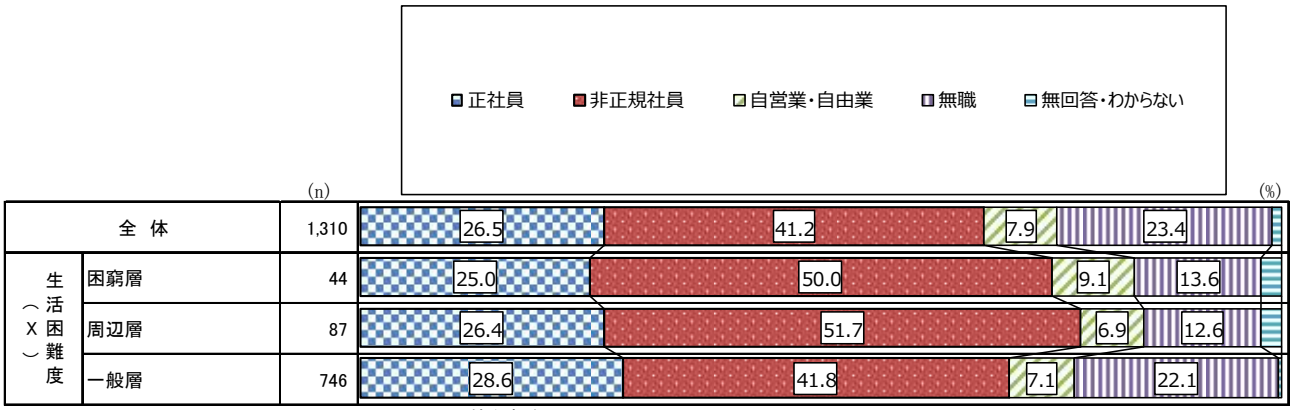
※5.0%以下は値を省略している

図表 2-2-3 同居の母親の就労状況：全体、生活困難度別（***）、世帯タイプ別（***）

		該当数	会社役員	民間企業の正社員	公務員などの正職員	契約社員・派遣社員・嘱託社員	パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員	自営業（家族従業者を含む）	自由業	団体職員	その他の働き方をしている	個人業務請負	専業主婦	学生	引退（退職）	その他の無職	わからない	無回答
全 体		1,310	31	251	51	88	452	74	15	14	6	9	288	3	2	13	2	11
		100.0	2.4	19.2	3.9	6.7	34.5	5.6	1.1	1.1	0.5	0.7	22.0	0.2	0.2	1.0	0.2	0.8
（生活困難度＊＊＊）	困窮層	44	1	8	2	3	19	2	1	0	0	1	5	0	0	1	1	0
		100.0	2.3	18.2	4.5	6.8	43.2	4.5	2.3	0.0	0.0	2.3	11.4	0.0	0.0	2.3	2.3	0.0
	周辺層	87	2	18	2	7	38	4	1	1	0	1	8	0	1	2	0	2
		100.0	2.3	20.7	2.3	8.0	43.7	4.6	1.1	1.1	0.0	1.1	9.2	0.0	1.1	2.3	0.0	2.3
	一般層	746	17	153	34	57	255	37	8	9	5	3	162	2	0	1	0	3
		100.0	2.3	20.5	4.6	7.6	34.2	5.0	1.1	1.2	0.7	0.4	21.7	0.3	0.0	0.1	0.0	0.4
（世帯タイプ＊＊＊）	ふたり親（二世代）	1,066	21	185	41	73	385	57	10	12	5	5	255	2	1	6	1	7
		100.0	2.0	17.4	3.8	6.8	36.1	5.3	0.9	1.1	0.5	0.5	23.9	0.2	0.1	0.6	0.1	0.7
	ふたり親（三世代）	106	3	15	4	4	40	9	3	1	1	0	24	0	0	0	0	2
		100.0	2.8	14.2	3.8	3.8	37.7	8.5	2.8	0.9	0.9	0.0	22.6	0.0	0.0	0.0	0.0	1.9
	ひとり親（二世代）	124	6	47	5	9	25	8	2	1	0	4	7	1	1	5	1	2
		100.0	4.8	37.9	4.0	7.3	20.2	6.5	1.6	0.8	0.0	3.2	5.6	0.8	0.8	4.0	0.8	1.6
	ひとり親（三世代）	14	1	4	1	2	2	0	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0
		100.0	7.1	28.6	7.1	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0

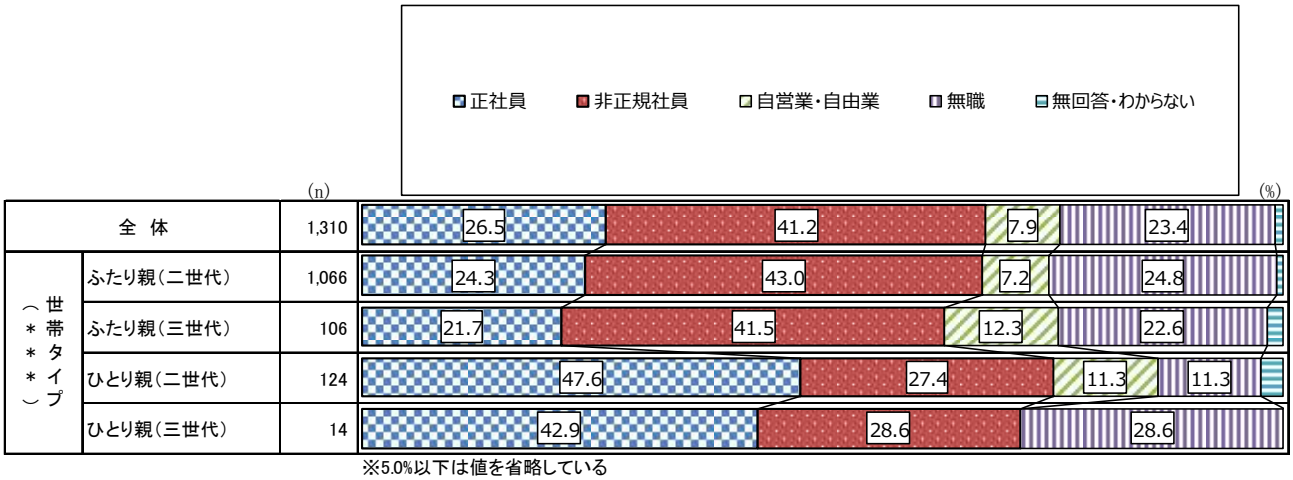
正社員（「会社役員」「民間企業の正社員」「公務員などの正職員」「団体職員」）、非正規社員（「契約社員・派遣社員・嘱託職員」「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」）、自営業・自由業（「自営業（家族従事者を含む）」「自由業」「その他の働き方をしている」「個人業務請負」）、無職（「専業主婦」「学生」「引退（退職）」「その他の無職」）に分けて集計すると、生活困難度別には統計的に有意な差は確認できなかったが、世帯タイプ別に見ると、ひとり親世帯の方がふたり親世帯よりも「正社員」が多く「非正規社員」が少ない傾向が見られた。また、ひとり親（二世代）世帯では、「無職」が少ない傾向が見られた。

図表 2-2-4　同居の母親の就業形態：全体、生活困難度別（X）



※5.0%以下は値を省略している

図表 2-2-5　同居の母親の就業形態：全体、世帯タイプ別（*）**



※5.0%以下は値を省略している

図表 2-2-6 同居の母親の就業形態：全体、生活困難度別（X）、世帯タイプ別（*）**

		該当数	正社員	非正規社員	自営業・自由業	無職	無回答・わからない
全 体		1,310	347	540	104	306	13
		100.0	26.5	41.2	7.9	23.4	1.0
生活困難度（X）	困窮層	44	11	22	4	6	1
		100.0	25.0	50.0	9.1	13.6	2.3
	周辺層	87	23	45	6	11	2
		100.0	26.4	51.7	6.9	12.6	2.3
	一般層	746	213	312	53	165	3
		100.0	28.6	41.8	7.1	22.1	0.4
世帯タイプ（***）	ふたり親（二世代）	1,066	259	458	77	264	8
		100.0	24.3	43.0	7.2	24.8	0.8
	ふたり親（三世代）	106	23	44	13	24	2
		100.0	21.7	41.5	12.3	22.6	1.9
	ひとり親（二世代）	124	59	34	14	14	3
		100.0	47.6	27.4	11.3	11.3	2.4
	ひとり親（三世代）	14	6	4	0	4	0
		100.0	42.9	28.6	0.0	28.6	0.0

（２）母親の就労時間

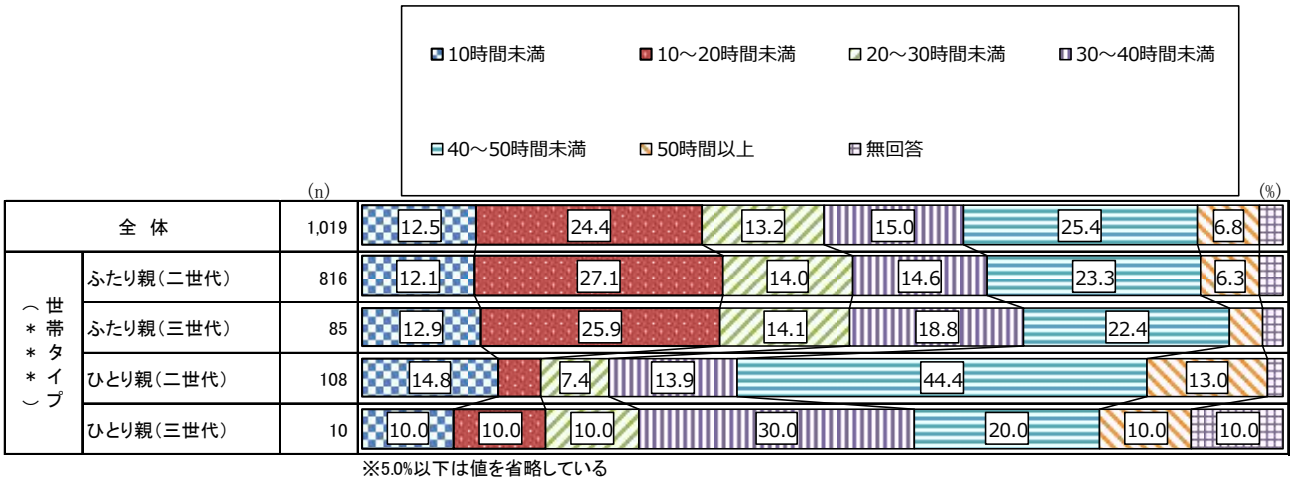
次に、就労している同居の母親の週あたりの就労時間数（平均）を集計したところ、全体では 27.1 時間であった。生活困難度が高いほど、就労時間が長かった。また、ふたり親世帯よりもひとり親世帯の方が、就労時間が長く、特にひとり親（二世代）世帯で顕著な差が見られた。

統計的に有意か否かを確認するため、同居の母親の就労時間を「10 時間未満」「10～20 時間未満」「20～30 時間未満」「30～40 時間未満」「40～50 時間未満」「50 時間以上」「無回答」のカテゴリに分けて集計したところ、世帯タイプ別で見た際に統計的に有意な差が確認され、週の労働時間が 40 時間以上の割合が、全体では 32.2%であったのに対し、ひとり親（二世代）では 57.4%にのぼった。

図表 2-2-7　同居の母親の就労時間（無回答を除く）：全体、生活困難度別、世帯タイプ別

		n	平均値
全体		992	27.1 時間
生活困難度	困窮層	39	29.4 時間
	周辺層	76	29.2 時間
	一般層	583	27.2 時間
世帯タイプ	ふたり親（二世代）	794	26.1 時間
	ふたり親（三世代）	83	25.4 時間
	ひとり親（二世代）	106	35.2 時間
	ひとり親（三世代）	9	30.3 時間

図表 2-2-8　同居の母親の就労時間：全体、世帯タイプ別（*）**



図表 2-2-9 同居の母親の就労時間：全体、世帯タイプ別（*）**

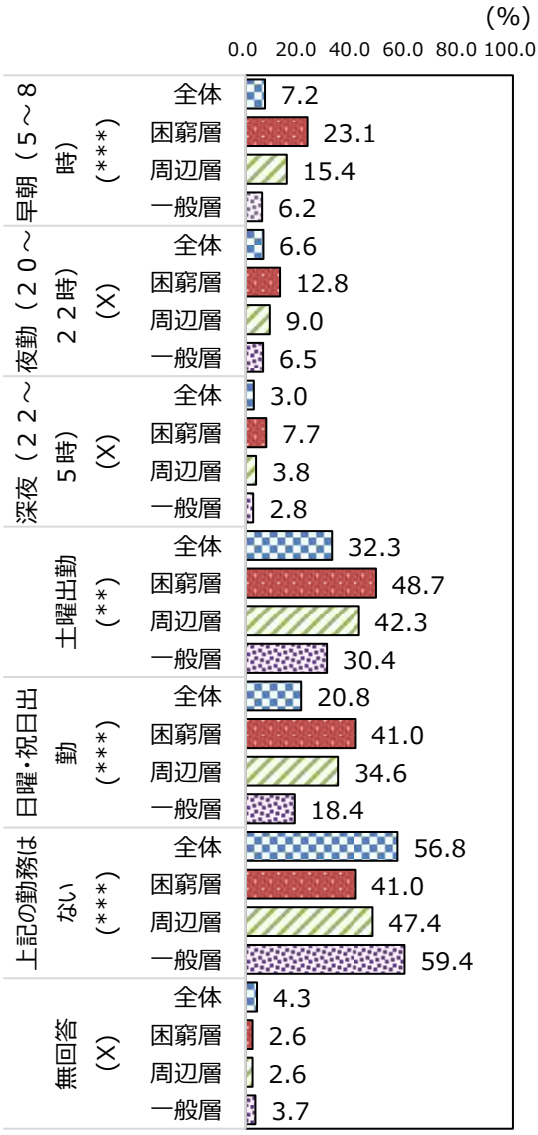
		該当数	10時間未満	10～20時間未満	20～30時間未満	30～40時間未満	40～50時間未満	50時間以上	無回答
全 体		1,019	127	249	135	153	259	69	27
		100.0	12.5	24.4	13.2	15.0	25.4	6.8	2.6
世帯タイプ（***）	ふたり親（二世代）	816	99	221	114	119	190	51	22
		100.0	12.1	27.1	14.0	14.6	23.3	6.3	2.7
	ふたり親（三世代）	85	11	22	12	16	19	3	2
		100.0	12.9	25.9	14.1	18.8	22.4	3.5	2.4
	ひとり親（二世代）	108	16	5	8	15	48	14	2
		100.0	14.8	4.6	7.4	13.9	44.4	13.0	1.9
	ひとり親（三世代）	10	1	1	1	3	2	1	1
		100.0	10.0	10.0	10.0	30.0	20.0	10.0	10.0

（３）母親の日中以外の勤務

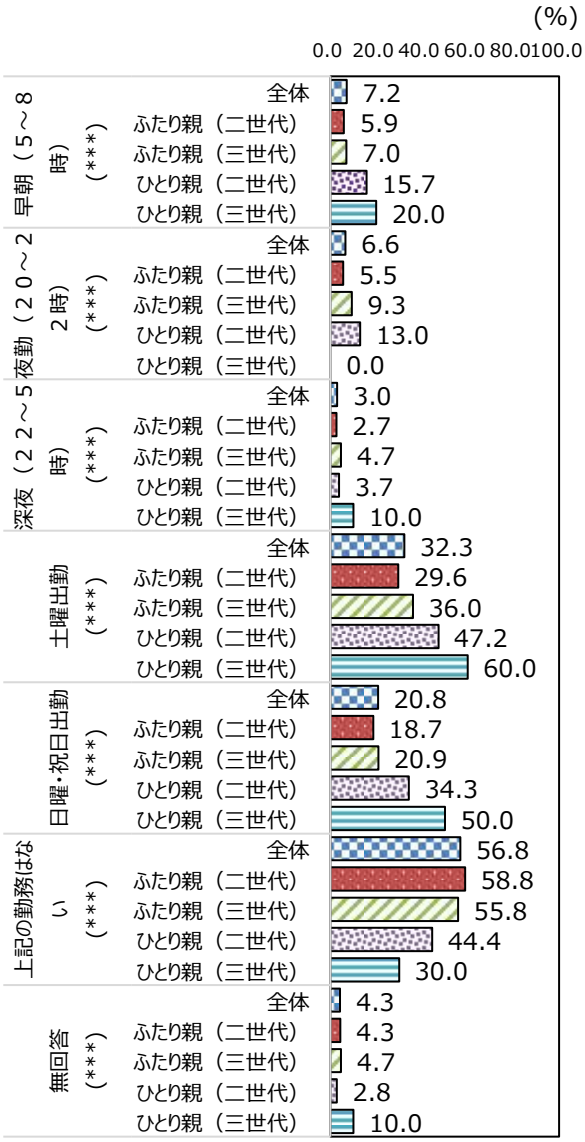
次に、同居の母親の日中以外の勤務の状況を見た。「上記の勤務がない」、すなわち日中以外の勤務がない割合は全体の 56.8%であり、「無回答」を加味しても、４割程度の母親は平日の日中以外に勤務している。生活困難度別に見ると、生活に困窮するほど「上記の勤務はない」と回答した割合が低い傾向が見られた。特に、「早朝（５～８時）」「土曜出勤」「日曜・祝日出勤」は統計的に有意な差が確認された。

世帯タイプ別に見ると、すべての項目で統計的に有意な差が確認され、ひとり親世帯の母親の方がふたり親世帯の母親よりも平日日中の勤務が多い傾向が見られた。

図表 2-2-10　同居の母親の日中以外の勤務の状況：全体、生活困難度別



図表 2-2-11　同居の母親の日中以外の勤務の状況：全体、世帯タイプ別



図表 2-2-12 同居の母親の日中以外の勤務の状況：全体、生活困難度別、世帯タイプ別

		該当数	早朝（5～8時）	夜勤（20～22時）	深夜（22～5時）	土曜出勤	日曜・祝日出勤	上記の勤務はない	無回答
全 体		1,034	74	68	31	334	215	587	44
		100.0	7.2	6.6	3.0	32.3	20.8	56.8	4.3
生活困難度	困窮層	39	9	5	3	19	16	16	1
		100.0	23.1	12.8	7.7	48.7	41.0	41.0	2.6
	周辺層	78	12	7	3	33	27	37	2
		100.0	15.4	9.0	3.8	42.3	34.6	47.4	2.6
	一般層	599	37	39	17	182	110	356	22
		100.0	6.2	6.5	2.8	30.4	18.4	59.4	3.7
世帯タイプ	ふたり親（二世代）	830	49	46	22	246	155	488	36
		100.0	5.9	5.5	2.7	29.6	18.7	58.8	4.3
	ふたり親（三世代）	86	6	8	4	31	18	48	4
		100.0	7.0	9.3	4.7	36.0	20.9	55.8	4.7
	ひとり親（二世代）	108	17	14	4	51	37	48	3
		100.0	15.7	13.0	3.7	47.2	34.3	44.4	2.8
	ひとり親（三世代）	10	2	0	1	6	5	3	1
		100.0	20.0	0.0	10.0	60.0	50.0	30.0	10.0

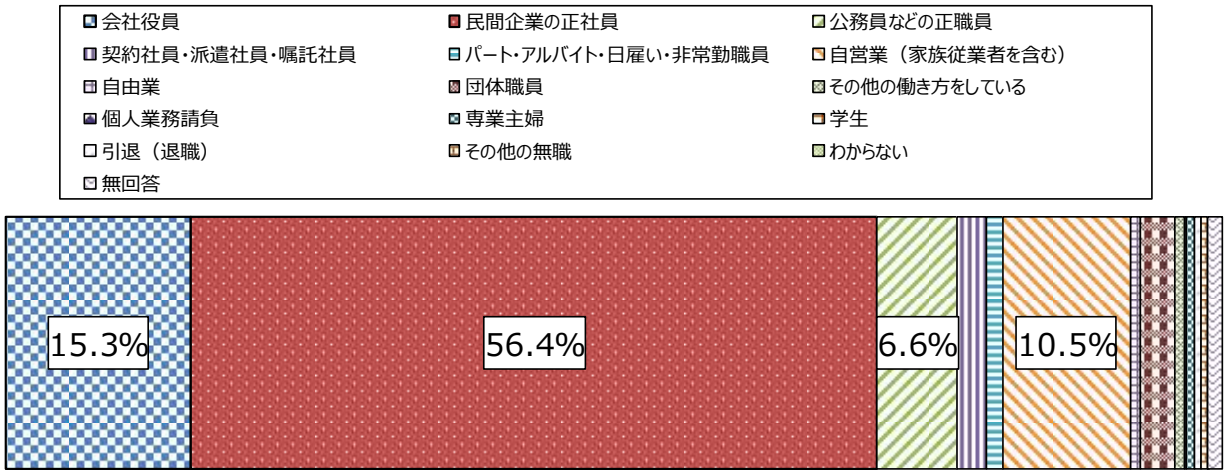
（4）父親の就労状況

次に、同居の父親の就労状況を見た。最も多いのは「民間企業の正社員」（56.4%）であり、次いで「会社役員」（15.3%）であった。

なお、困窮層の半数がひとり親世帯であるため、困窮層・ひとり親世帯では「無回答」が多数を占め、n 値が僅少となってしまうことから、父親の状況については、生活困難度別・世帯タイプ別の分析は行わず、全体の値のみ掲載する。

図表 2-2-13 同居の父親の就労状況：全体

（n=1,247）



図表 2-2-14 同居の父親の就労状況：全体

	該当数	会社役員	民間企業の正社員	公務員などの正職員	契約社員・派遣社員・嘱託社員	パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員	自営業（家族従業者を含む）	自由業	団体職員	その他の働き方をしている	個人業務請負	専業主婦	学生	引退（退職）	その他の無職	わからない	無回答
全 体	1,247 100.0	191 15.3	703 56.4	82 6.6	29 2.3	17 1.4	131 10.5	11 0.9	34 2.7	11 0.9	1 0.1	9 0.7	0 0.0	7 0.6	6 0.5	1 0.1	14 1.1

（５）父親の就労時間

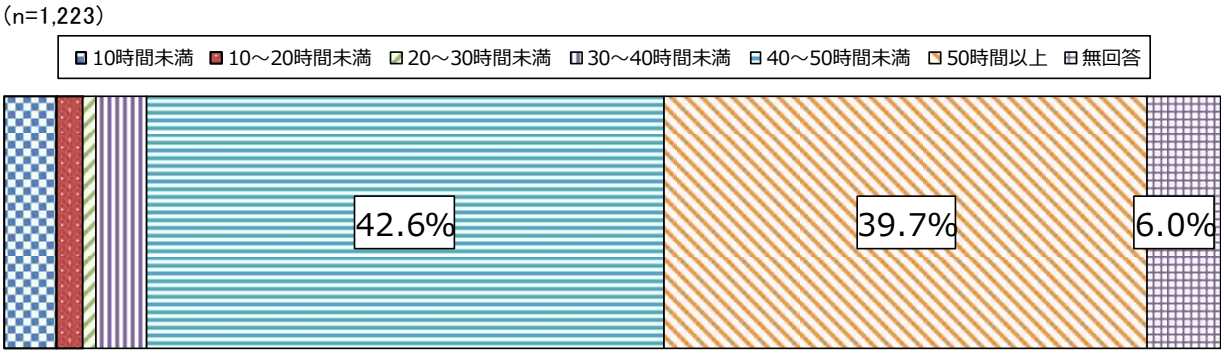
次に、就労している同居の父親の週あたりの就労時間数（平均）を集計したところ、全体では 45.4 時間であった。

同居の父親の就労時間を「10 時間未満」「10～20 時間未満」「20～30 時間未満」「30～40 時間未満」「40～50 時間未満」「50 時間以上」「無回答」のカテゴリに分けて集計したところ、最も多いのは「40～50 時間未満」（42.6%）であり、次いで「50 時間以上」（39.7%）であった。

図表 2-2-15 同居の父親の就労時間（無回答を除く）：全体

n	平均値
1,150	45.4 時間

図表 2-2-16 同居の父親の就労時間：全体



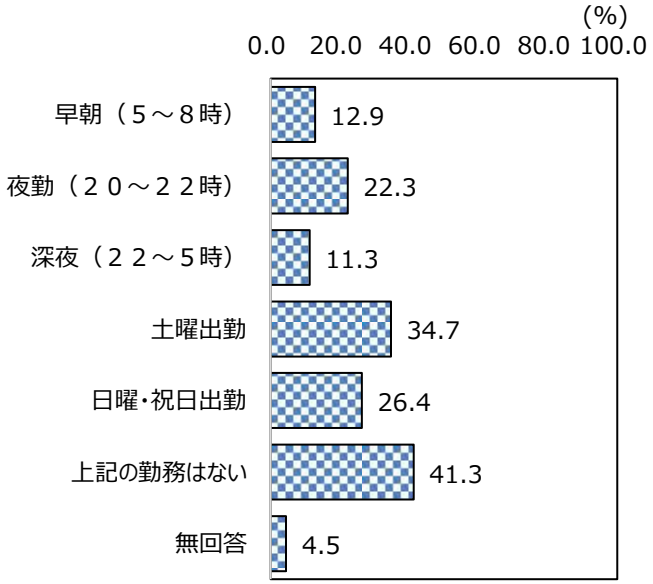
図表 2-2-17 同居の父親の就労時間：全体

	該当数	10時間未満	10～20時間未満	20～30時間未満	30～40時間未満	40～50時間未満	50時間以上	無回答
全 体	1,223	54	25	14	50	521	486	73
	100.0	4.4	2.0	1.1	4.1	42.6	39.7	6.0

（６）父親の日中以外の勤務

次に、同居の父親の日中以外の勤務の状況を見た。「上記の勤務がない」、すなわち日中以外の勤務がない割合は全体の 41.3%であり、「無回答」を踏まえても５割強の父親は平日の日中以外に勤務している。

図表 2-2-18 同居の父親の日中以外の勤務の状況：全体



図表 2-2-19 同居の父親の日中以外の勤務の状況：全体

	該当数	早朝（５～８時）	夜勤（２０～２２時）	深夜（２２～５時）	土曜出勤	日曜・祝日出勤	上記の勤務はない	無回答
全 体	1,222 100.0	175 12.9	302 22.3	153 11.3	471 34.7	358 26.4	560 41.3	61 4.5

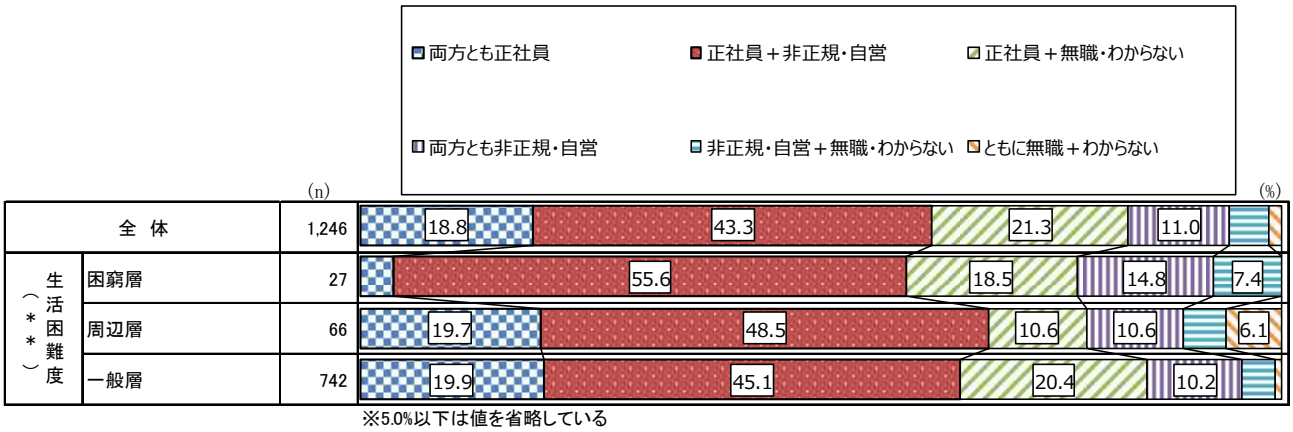
（７）共働きの状況

次に、ふたり親世帯について、父母の就労状況の組み合わせを見た。なお、組み合わせは、「両方とも正社員」（父母ともに正社員）、「正社員＋非正規・自営」（一方が正社員であり、他方が非正規社員もしくは自営業・自由業）、「正社員＋無職・わからない」（一方が正社員であり、他方が無職もしくは「わからない＋無回答」）、「両方とも非正規・自営」（両方とも非正規社員あるいは自営業・自由業）、「非正規・自営＋無職・わからない」（一方が非正規社員もしくは自営業・自由業であり、他方が無職あるいは「わからない＋無回答」）、「ともに無職＋わからない」（父母ともに無職あるいは「わからない＋無回答」）としている。

その結果、全体では、「正社員＋非正規・自営」43.3%、「正社員＋無職・わからない」21.3%、「両方とも正社員」18.8%、「両方とも非正規・自営」11.0%、「非正規・自営＋無職・わからない」4.3%の順で割合が高かった。共働き世帯（「両方とも正社員」＋「正社員＋非正規・自営」＋「両方とも非正規・自営」）の割合は、合わせて73.1%であった。

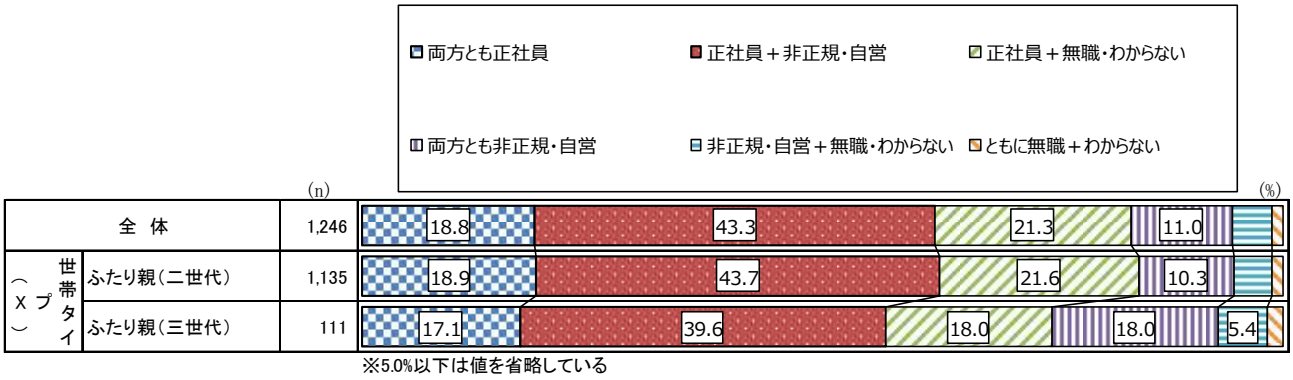
生活困難度別には、「両方とも正社員」の割合が、困窮層、周辺層、一般層の順に高くなっている。特に、困窮層においては、「非正規＋非正規・自営」や「両方とも非正規・自営」の割合の高いことが特徴的である。なお、ふたり親世帯の二世代世帯と三世代世帯を比べた際に、統計的に有意な差は確認されなかった。

図表 2-2-20　ふたり親世帯の父母の就労状況の組み合わせ：全体、生活困難度別（）**



※5.0%以下は値を省略している

図表 2-2-21　ふたり親世帯の父母の就労状況の組み合わせ：全体、世帯タイプ別（X）



※5.0%以下は値を省略している

図表 2-2-22 ふたり親世帯の父母の就労状況の組み合わせ
：全体、生活困難度別（）、世帯タイプ別（X）**

		該当数	両方とも正社員	正社員＋非正規・自営	正社員＋無職・わからない	両方とも非正規・自営	非正規・自営＋無職・わからない	ともに無職＋わからない
全 体		1,246	234	540	265	137	53	17
		100.0	18.8	43.3	21.3	11.0	4.3	1.4
生活困難度（**）	困窮層	27	1	15	5	4	2	0
		100.0	3.7	55.6	18.5	14.8	7.4	0.0
	周辺層	66	13	32	7	7	3	4
		100.0	19.7	48.5	10.6	10.6	4.5	6.1
	一般層	742	148	335	151	76	27	5
		100.0	19.9	45.1	20.4	10.2	3.6	0.7
世帯タイプ（X）	ふたり親（二世代）	1,135	215	496	245	117	47	15
		100.0	18.9	43.7	21.6	10.3	4.1	1.3
	ふたり親（三世代）	111	19	44	20	20	6	2
		100.0	17.1	39.6	18.0	18.0	5.4	1.8

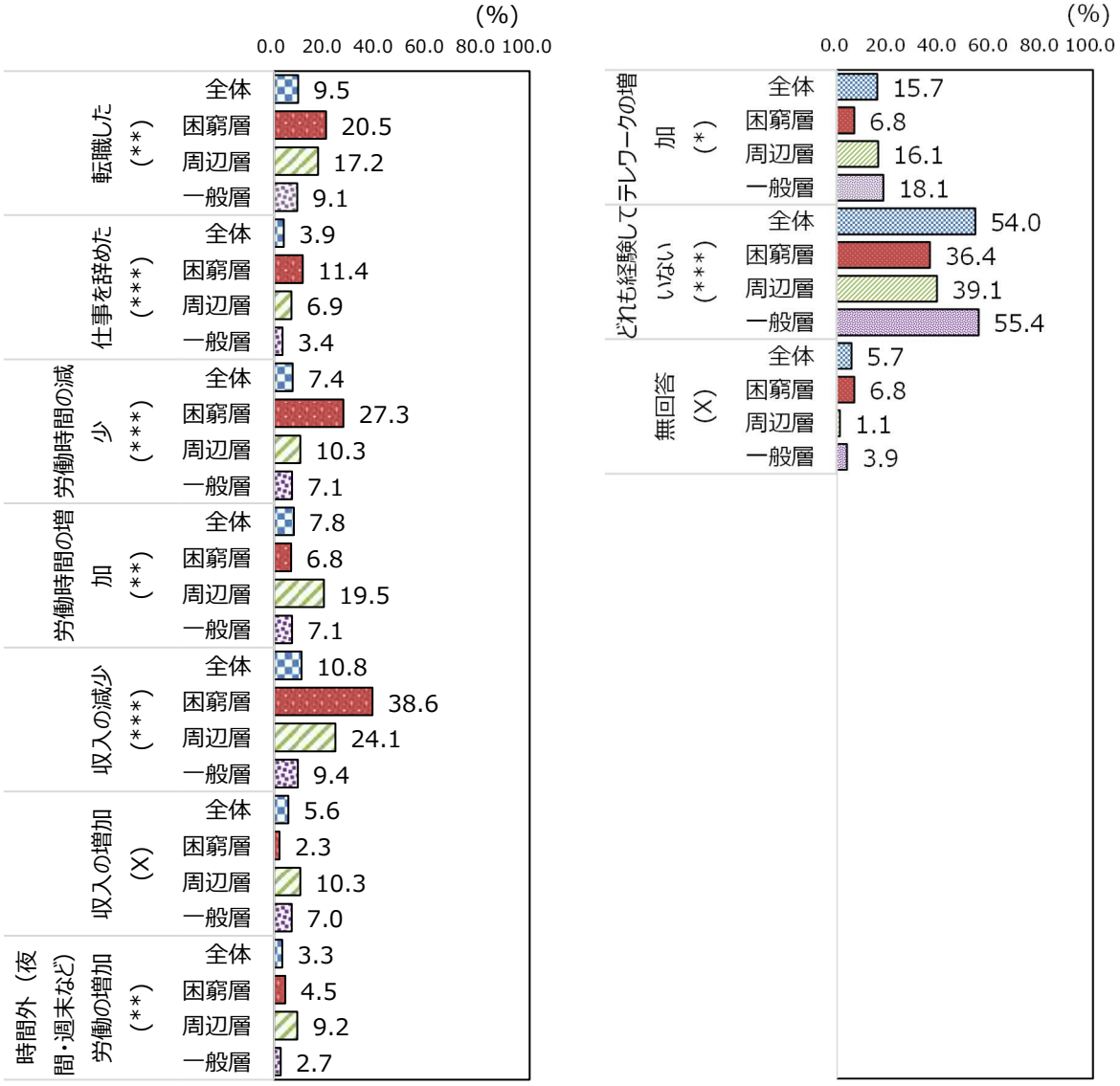
（８）母親の新型コロナウイルス感染症拡大による就労状況の変化

次に、同居の父母の新型コロナウイルス感染症拡大による就労状況の変化を見た。同居の母親について、全体では、「どれも経験していない」を除くと、「テレワークの増加」（15.7%）が最も多く、次いで「収入の減少」（10.8%）が多かった。

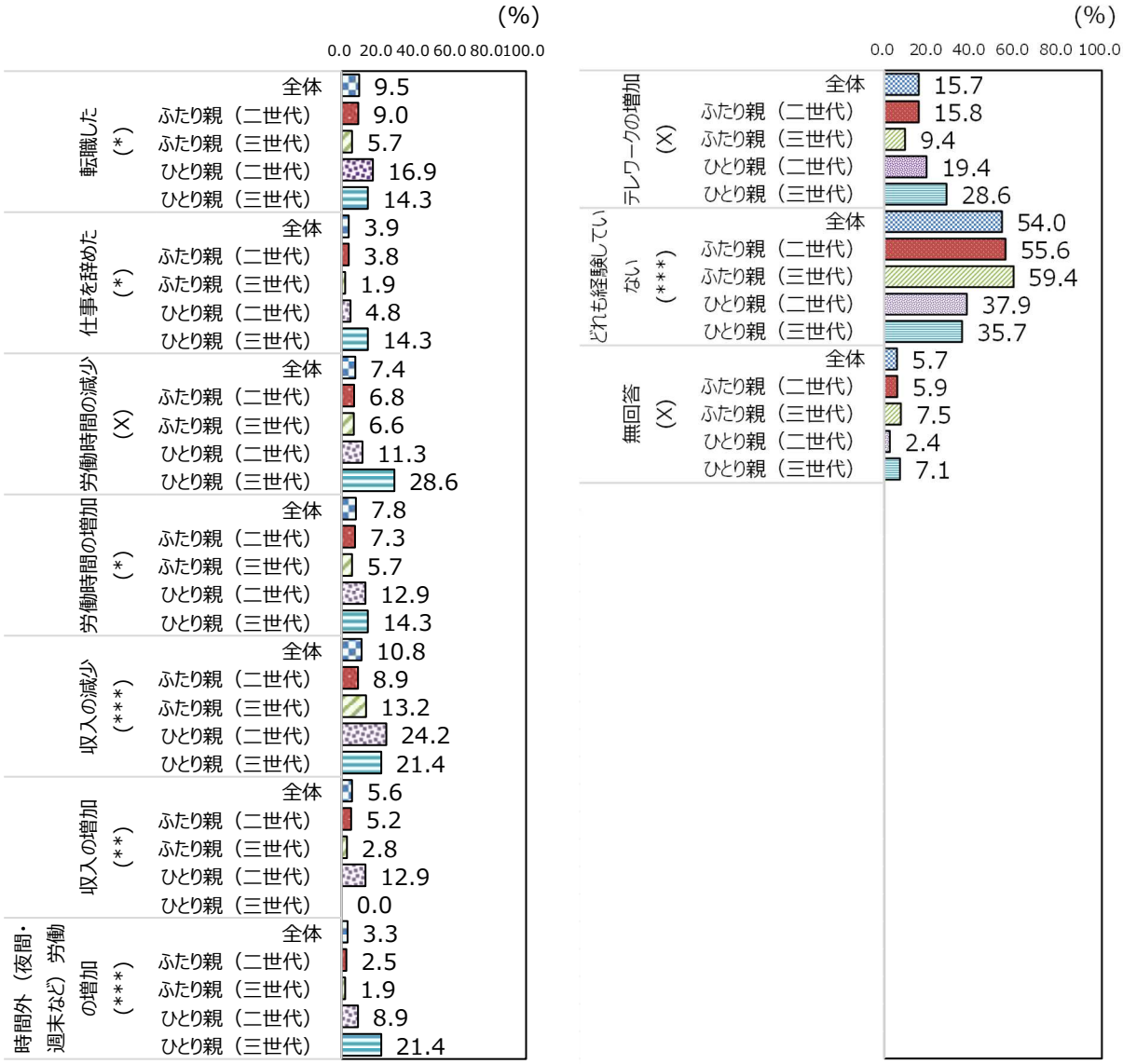
生活困難度別に差異を見たところ、「どれも経験していない」割合は生活困難層の方が一般層よりも低く、生活困難層では、何らかの就労状況の影響を受けた母親が多かった。具体的には、「転職した」「仕事を辞めた」「労働時間の減少」「収入の減少」「時間外労働の増加」について、一般層の母親よりも生活困難層の母親の方が経験した割合が高かった。反対に、「テレワークの増加」については、生活困難層の母親よりも一般層の母親の方が経験した割合が高かった。

世帯タイプ別に見ると、「無回答」を加味しても、「どれも経験していない」割合はひとり親世帯の方がふたり親世帯よりも低く、特に「時間外（夜間・週末など）労働の増加」にて顕著な差が見られた。

図表 2-2-23　同居の母親の就労状況の変化：全体、生活困難度別



図表 2-2-24 同居の母親の就労状況の変化：全体、世帯タイプ別



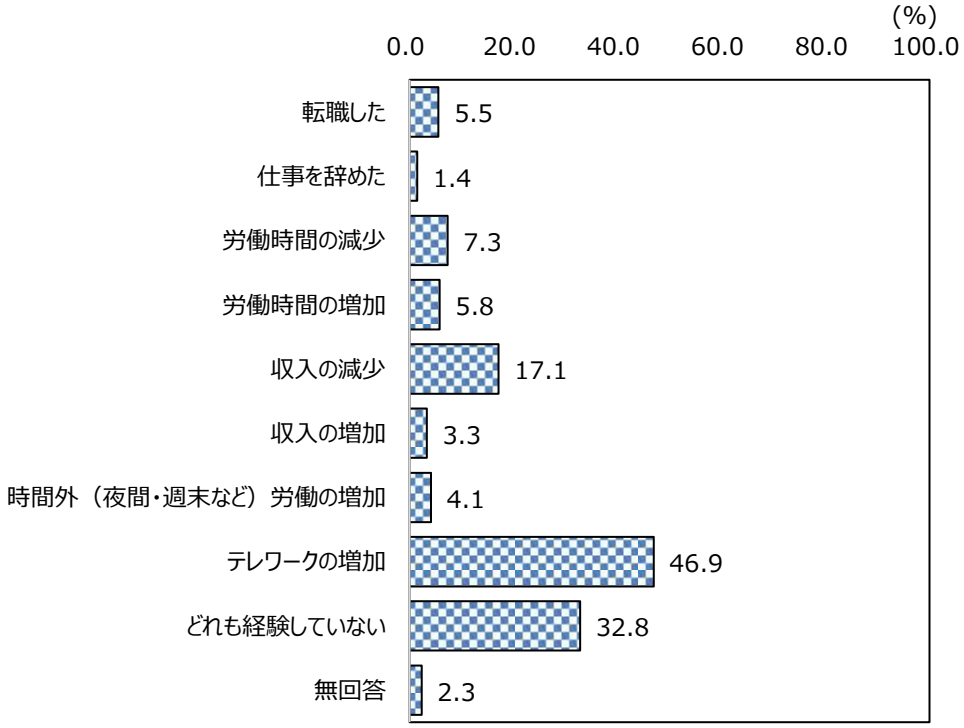
図表 2-2-25 同居の母親の就労状況の変化：全体、生活困難度別、世帯タイプ別

		該当数	転職した	仕事を辞めた	労働時間の減少	労働時間の増加	収入の減少	収入の増加	時間外（夜間・週末など）労働の増加	テレワークの増加	どれも経験していない	無回答
全 体		1,310	125	51	97	102	142	74	43	206	708	75
		100.0	9.5	3.9	7.4	7.8	10.8	5.6	3.3	15.7	54.0	5.7
生活困難度	困窮層	44	9	5	12	3	17	1	2	3	16	3
		100.0	20.5	11.4	27.3	6.8	38.6	2.3	4.5	6.8	36.4	6.8
	周辺層	87	15	6	9	17	21	9	8	14	34	1
		100.0	17.2	6.9	10.3	19.5	24.1	10.3	9.2	16.1	39.1	1.1
	一般層	746	68	25	53	53	70	52	20	135	413	29
		100.0	9.1	3.4	7.1	7.1	9.4	7.0	2.7	18.1	55.4	3.9
世帯タイプ	ふたり親（二世代）	1,066	96	41	72	78	95	55	27	168	593	63
		100.0	9.0	3.8	6.8	7.3	8.9	5.2	2.5	15.8	55.6	5.9
	ふたり親（三世代）	106	6	2	7	6	14	3	2	10	63	8
		100.0	5.7	1.9	6.6	5.7	13.2	2.8	1.9	9.4	59.4	7.5
	ひとり親（二世代）	124	21	6	14	16	30	16	11	24	47	3
		100.0	16.9	4.8	11.3	12.9	24.2	12.9	8.9	19.4	37.9	2.4
	ひとり親（三世代）	14	2	2	4	2	3	0	3	4	5	1
		100.0	14.3	14.3	28.6	14.3	21.4	0.0	21.4	28.6	35.7	7.1

（９）父親の新型コロナウイルス感染症拡大による就労状況の変化

次に、同居の父親について、全体では、「どれも経験していない」を除くと、「テレワークの増加」（46.9%）が最も多く、次いで「収入の減少」（17.1%）が多かった。

図表 2-2-26　同居の父親の就労状況の変化：全体



図表 2-2-27　同居の父親の就労状況の変化：全体

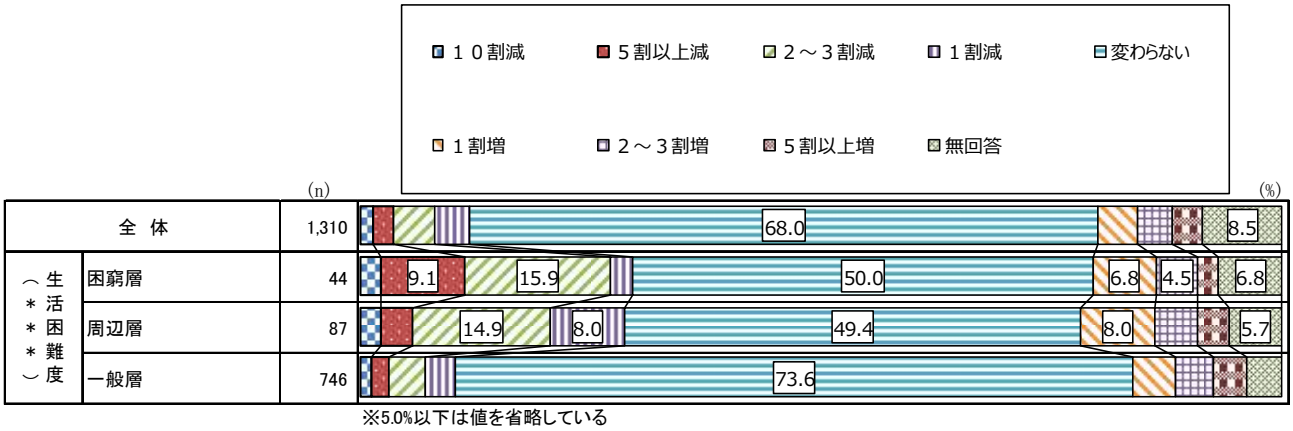
	該当数	転職した	仕事を辞めた	労働時間の減少	労働時間の増加	収入の減少	収入の増加	時間外（夜間・週末など）労働の増加	テレワークの増加	どれも経験していない	無回答
全　体	1,247	69	18	91	72	213	41	51	585	409	29
	100.0	5.5	1.4	7.3	5.8	17.1	3.3	4.1	46.9	32.8	2.3

（10）母親の新型コロナウイルス感染症拡大による収入の変化

次に、同居の父母の新型コロナウイルス感染症拡大による収入の変化を見た。同居の母親について、全体では、「変わらない」（68.0%）が最も多く、減少した割合は 12.0%、増加した割合は 11.5%と、減少した割合の方がやや高かった。

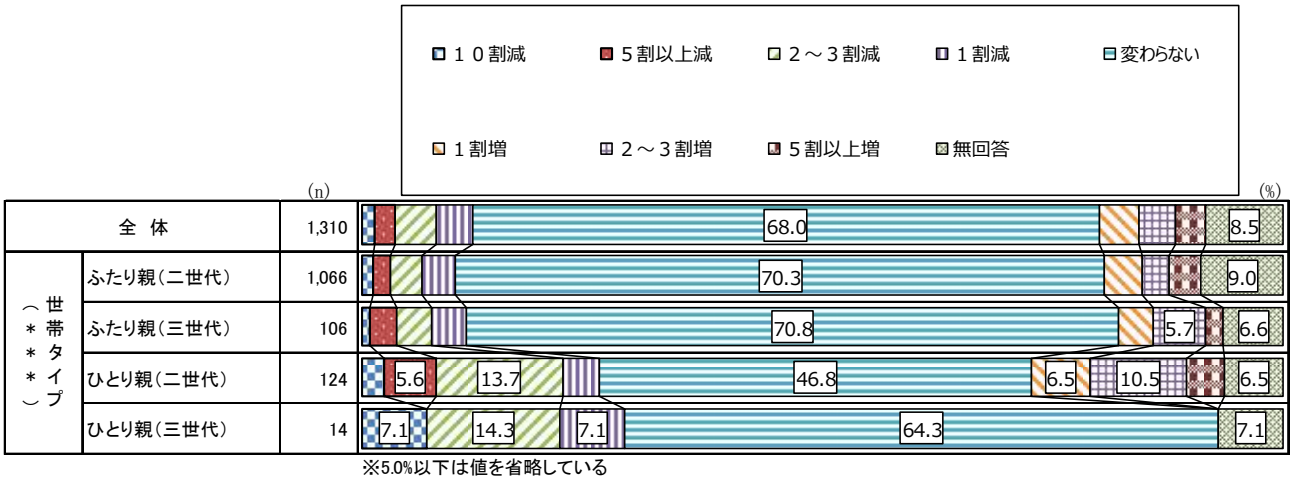
生活困難度別に見ると、収入の変化を経験していない母親は一般層では 73.6%であったのに対し、周辺層では 49.4%、困窮層では 50.0%にとどまった。収入が減少した母親・増加した母親のいずれも生活困難層の方が多い傾向にあるが、特に収入が減少した母親の割合が高く、一般層では 10.3%であったのに対し、困窮層では 29.5%にのぼった。

図表 2-2-28 同居の母親の収入の変化：全体、生活困難度別（*）**



※5.0%以下は値を省略している

図表 2-2-29 同居の母親の収入の変化：全体、世帯タイプ別（*）**



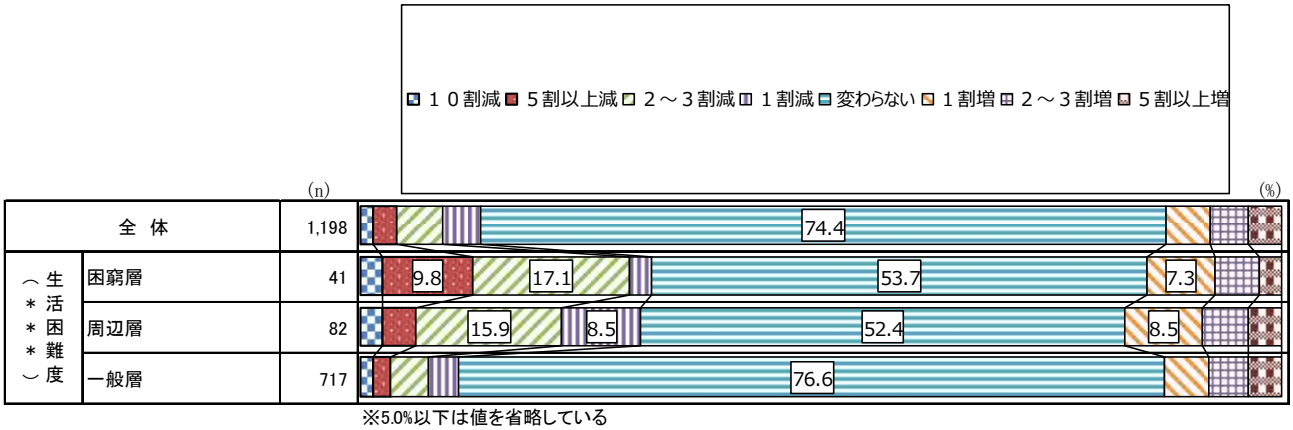
※5.0%以下は値を省略している

図表 2-2-30 同居の母親の収入の変化：全体、生活困難度別（***）、世帯タイプ別（***）

		該当数	１０割減	５割以上減	２～３割減	１割減	変わらない	１割増	２～３割増	５割以上増	無回答
全 体		1,310	18	30	59	50	891	57	50	43	112
		100.0	1.4	2.3	4.5	3.8	68.0	4.4	3.8	3.3	8.5
（***）生活困難度	困窮層	44	1	4	7	1	22	3	2	1	3
		100.0	2.3	9.1	15.9	2.3	50.0	6.8	4.5	2.3	6.8
	周辺層	87	2	3	13	7	43	7	4	3	5
		100.0	2.3	3.4	14.9	8.0	49.4	8.0	4.6	3.4	5.7
	一般層	746	10	14	29	24	549	34	31	26	29
		100.0	1.3	1.9	3.9	3.2	73.6	4.6	4.2	3.5	3.9
（***）世帯タイプ	ふたり親（二世代）	1,066	13	20	36	40	749	45	31	36	96
		100.0	1.2	1.9	3.4	3.8	70.3	4.2	2.9	3.4	9.0
	ふたり親（三世代）	106	1	3	4	4	75	4	6	2	7
		100.0	0.9	2.8	3.8	3.8	70.8	3.8	5.7	1.9	6.6
	ひとり親（二世代）	124	3	7	17	5	58	8	13	5	8
		100.0	2.4	5.6	13.7	4.0	46.8	6.5	10.5	4.0	6.5
	ひとり親（三世代）	14	1	0	2	1	9	0	0	0	1
		100.0	7.1	0.0	14.3	7.1	64.3	0.0	0.0	0.0	7.1

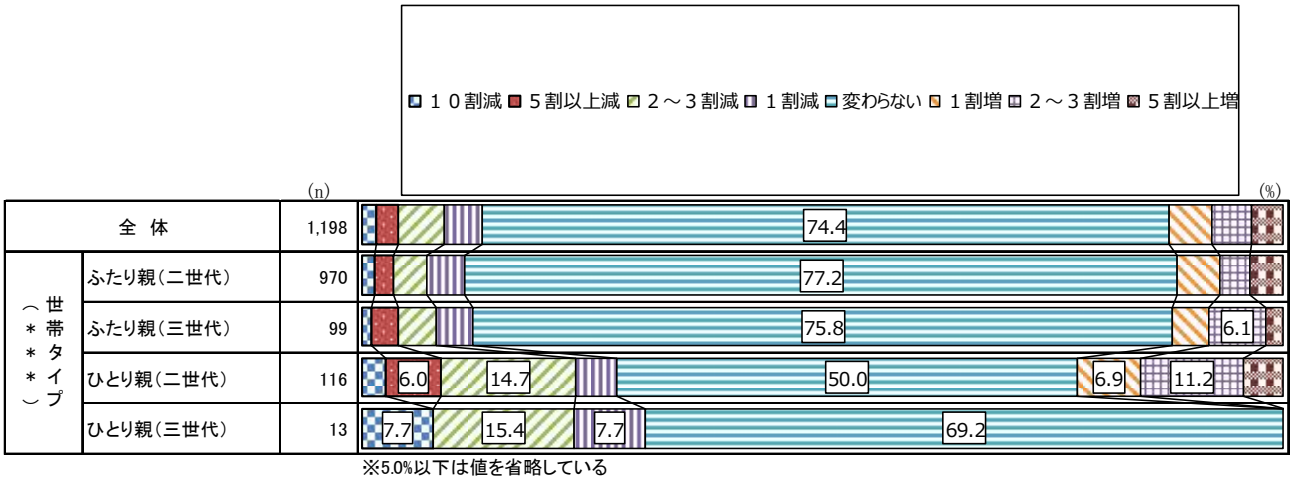
世帯タイプ別には、ひとり親世帯の方が「無回答」が多く、一貫した傾向を確認することが難しい。そこで、無回答を除いて集計を行ったところ、収入の変化を経験していない母親は全体では 74.4%であったのに対し、ひとり親（二世代）世帯では 50.0%にとどまった。収入が減少した母親・増加した母親のいずれもひとり親（二世代）世帯にて多い傾向にあるが、特に収入が減少した母親の割合が高く、全体では 13.1%であったのに対し、ひとり親（二世代）世帯では 27.6%にのぼった。

図表 2-2-31　同居の母親の収入の変化（無回答を除く）：全体、生活困難度別（*）**



※5.0%以下は値を省略している

図表 2-2-32　同居の母親の収入の変化（無回答を除く）：全体、世帯タイプ別（*）**



※5.0%以下は値を省略している

図表 2-2-33 同居の母親の収入の変化（無回答を除く）
：全体、生活困難度別（*）、世帯タイプ別（***）**

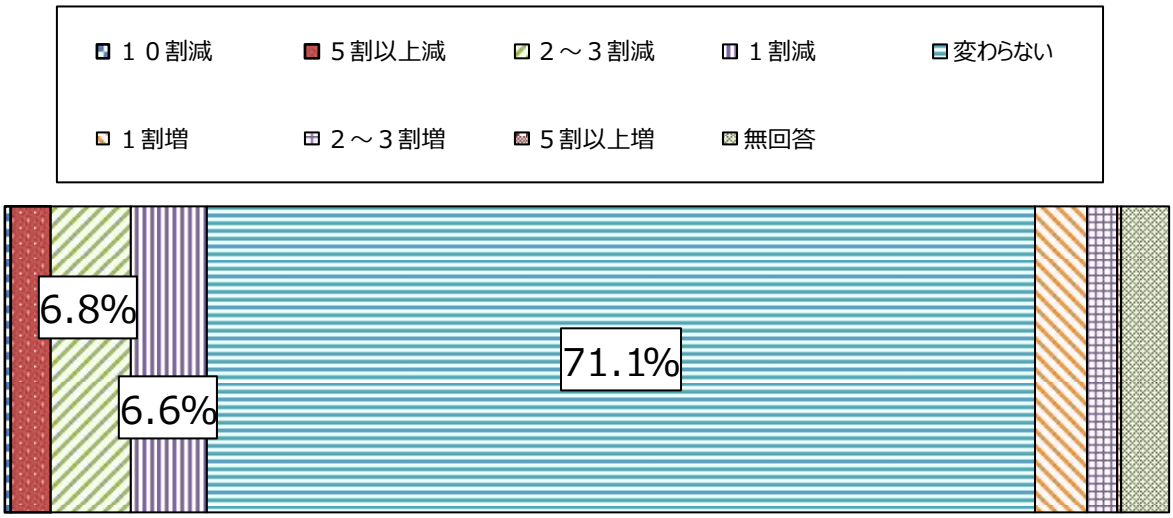
		該当数	１０割減	５割以上減	２～３割減	１割減	変わらない	１割増	２～３割増	５割以上増
全 体		1,198	18	30	59	50	891	57	50	43
		100.0	1.5	2.5	4.9	4.2	74.4	4.8	4.2	3.6
生活困難度（***）	困窮層	41	1	4	7	1	22	3	2	1
		100.0	2.4	9.8	17.1	2.4	53.7	7.3	4.9	2.4
	周辺層	82	2	3	13	7	43	7	4	3
		100.0	2.4	3.7	15.9	8.5	52.4	8.5	4.9	3.7
	一般層	717	10	14	29	24	549	34	31	26
		100.0	1.4	2.0	4.0	3.3	76.6	4.7	4.3	3.6
世帯タイプ（***）	ふたり親（二世代）	970	13	20	36	40	749	45	31	36
		100.0	1.3	2.1	3.7	4.1	77.2	4.6	3.2	3.7
	ふたり親（三世代）	99	1	3	4	4	75	4	6	2
		100.0	1.0	3.0	4.0	4.0	75.8	4.0	6.1	2.0
	ひとり親（二世代）	116	3	7	17	5	58	8	13	5
		100.0	2.6	6.0	14.7	4.3	50.0	6.9	11.2	4.3
	ひとり親（三世代）	13	1	0	2	1	9	0	0	0
		100.0	7.7	0.0	15.4	7.7	69.2	0.0	0.0	0.0

（11）父親の新型コロナウイルス感染症拡大による収入の変化

次に、同居の父親について見た。全体では、「変わらない」（71.1%）が最も多く、減少した割合は 17.4%、増加した割合は 11.5%と、減少した割合の方が高かった。

図表 2-2-34 同居の父親の収入の変化：全体

（n=1,247）



図表 2-2-35 同居の父親の収入の変化：全体

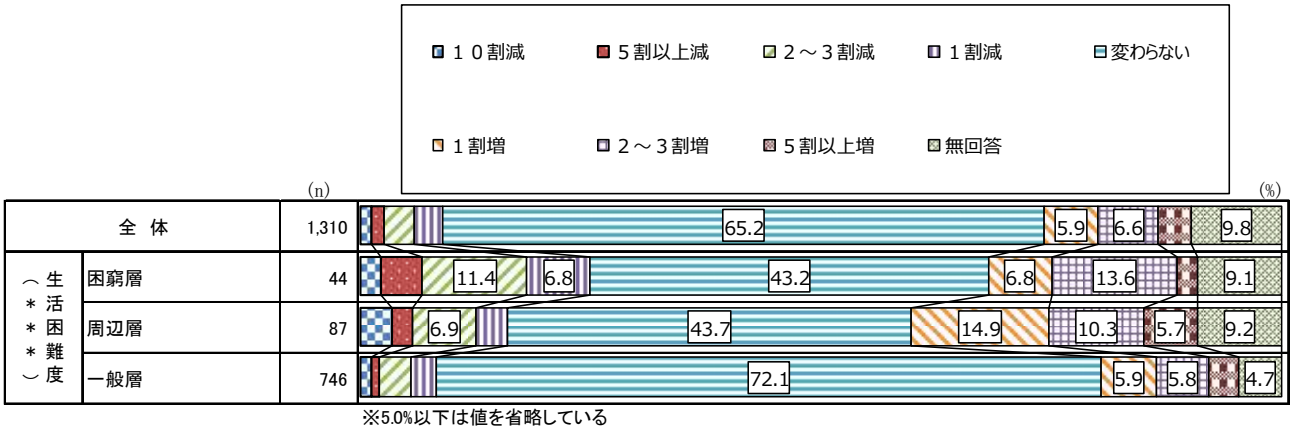
	該当数	１０割減	５割以上減	２～３割減	１割減	変わらない	１割増	２～３割増	５割以上増	無回答
全 体	1,247	8	42	85	82	886	55	34	3	52
	100.0	0.6	3.4	6.8	6.6	71.1	4.4	2.7	0.2	4.2

（12）母親の新型コロナウイルス感染症拡大による労働時間の変化

次に、同居の父母の新型コロナウイルス感染症拡大による労働時間の変化を見た。同居の母親について、全体では、「変わらない」（65.2%）が最も多く、減少した割合は 9.0%、増加した割合は 16.0%と、増加した割合の方が高かった。

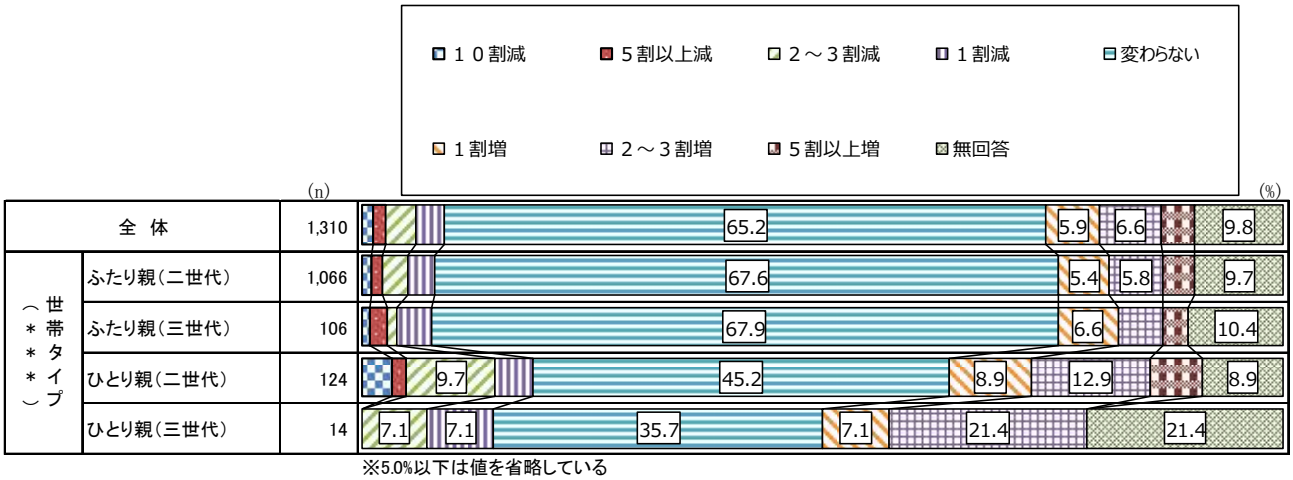
生活困難度別に見ると、労働時間の変化を経験していない母親は一般層では 72.1%であったのに対し、周辺層では 43.7%、困窮層では 43.2%にとどまった。労働時間が減少した母親・増加した母親のいずれも生活困難層の方が多い傾向にあり、減少した母親は一般層では 8.3%であったのに対し困窮層では 25.0%、増加した母親は一般層では 14.9%であったのに対し困窮層では 22.7%にのぼった。

図表 2-2-36 同居の母親の労働時間の変化：全体、生活困難度別（*）**



※5.0%以下は値を省略している

図表 2-2-37 同居の母親の労働時間の変化：全体、世帯タイプ別（*）**



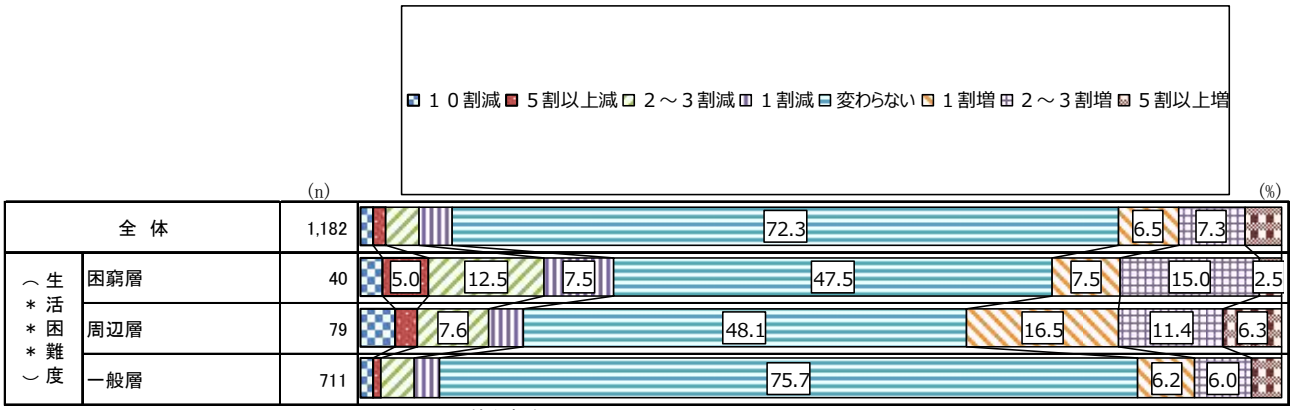
※5.0%以下は値を省略している

図表 2-2-38 同居の母親の労働時間の変化：全体、生活困難度別（*）、世帯タイプ別（***）**

		該当数	１０割減	５割以上減	２～３割減	１割減	変わらない	１割増	２～３割増	５割以上増	無回答
全 体		1,310	17	17	43	41	854	77	86	47	128
		100.0	1.3	1.3	3.3	3.1	65.2	5.9	6.6	3.6	9.8
（生活困難度＊＊＊）	困窮層	44	1	2	5	3	19	3	6	1	4
		100.0	2.3	4.5	11.4	6.8	43.2	6.8	13.6	2.3	9.1
	周辺層	87	3	2	6	3	38	13	9	5	8
		100.0	3.4	2.3	6.9	3.4	43.7	14.9	10.3	5.7	9.2
	一般層	746	10	6	26	20	538	44	43	24	35
		100.0	1.3	0.8	3.5	2.7	72.1	5.9	5.8	3.2	4.7
（世帯タイプ＊＊＊）	ふたり親（二世代）	1,066	12	13	29	31	721	58	62	37	103
		100.0	1.1	1.2	2.7	2.9	67.6	5.4	5.8	3.5	9.7
	ふたり親（三世代）	106	1	2	1	4	72	7	5	3	11
		100.0	0.9	1.9	0.9	3.8	67.9	6.6	4.7	2.8	10.4
	ひとり親（二世代）	124	4	2	12	5	56	11	16	7	11
		100.0	3.2	1.6	9.7	4.0	45.2	8.9	12.9	5.6	8.9
	ひとり親（三世代）	14	0	0	1	1	5	1	3	0	3
		100.0	0.0	0.0	7.1	7.1	35.7	7.1	21.4	0.0	21.4

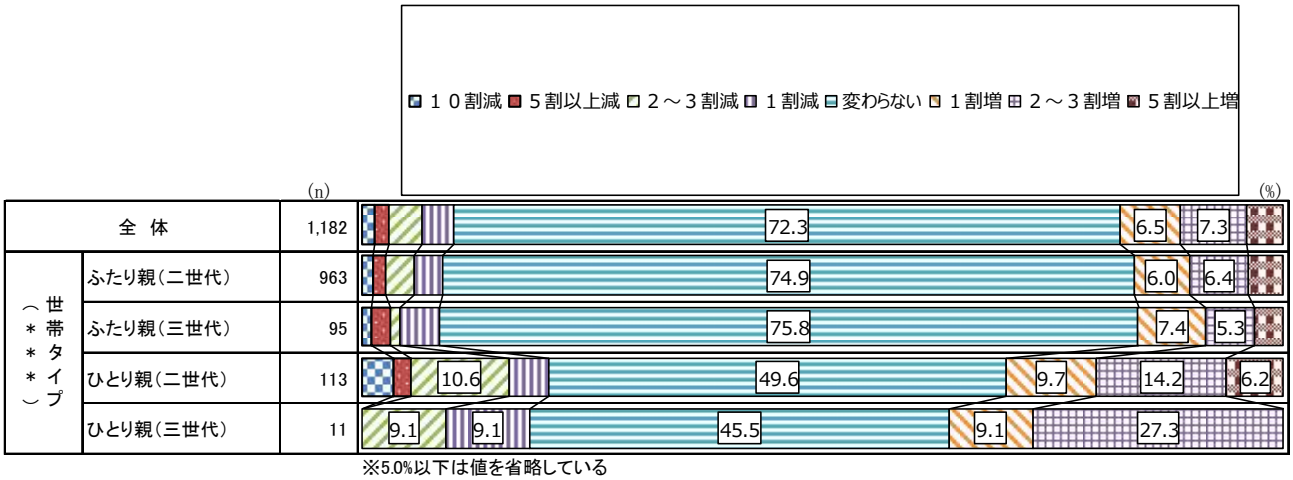
世帯タイプ別には、ひとり親世帯の方が「無回答」が多く、そのままでは一貫した傾向を確認することが難しい。そこで、「無回答」を除いて集計を行ったところ、労働時間の変化を経験していない母親は全体では 72.3%であったのに対し、ひとり親（二世代）世帯では 49.6%、ひとり親（三世代）世帯では 45.5%にとどまった。労働時間が減少した母親・増加した母親のいずれもひとり親世帯にて多い傾向にあるが、特に労働時間が増加した母親の割合が高く、全体では 17.8%であったのに対し、ひとり親（二世代）世帯では 30.1%、ひとり親（三世代）世帯では 36.4%にのぼった。

図表 2-2-39 同居の母親の労働時間の変化（無回答を除く）：全体、生活困難度別（*）**



※5.0%以下は値を省略している

図表 2-2-40 同居の母親の労働時間の変化（無回答を除く）：全体、世帯タイプ別（*）**



※5.0%以下は値を省略している

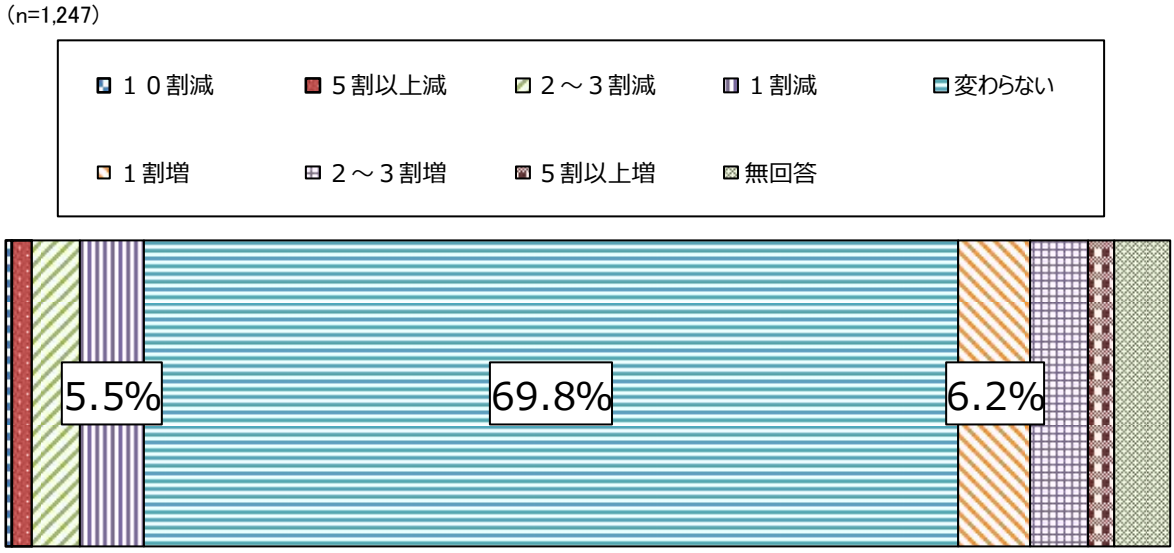
図表 2-2-41 同居の母親の労働時間の変化（無回答を除く）
：全体、生活困難度別（*）、世帯タイプ別（***）**

		該当数	１０割減	５割以上減	２～３割減	１割減	変わらない	１割増	２～３割増	５割以上増
全 体		1,182	17	17	43	41	854	77	86	47
		100.0	1.4	1.4	3.6	3.5	72.3	6.5	7.3	4.0
（生活困難度***）	困窮層	40	1	2	5	3	19	3	6	1
		100.0	2.5	5.0	12.5	7.5	47.5	7.5	15.0	2.5
	周辺層	79	3	2	6	3	38	13	9	5
		100.0	3.8	2.5	7.6	3.8	48.1	16.5	11.4	6.3
	一般層	711	10	6	26	20	538	44	43	24
		100.0	1.4	0.8	3.7	2.8	75.7	6.2	6.0	3.4
（世帯タイプ***）	ふたり親（二世代）	963	12	13	29	31	721	58	62	37
		100.0	1.2	1.3	3.0	3.2	74.9	6.0	6.4	3.8
	ふたり親（三世代）	95	1	2	1	4	72	7	5	3
		100.0	1.1	2.1	1.1	4.2	75.8	7.4	5.3	3.2
	ひとり親（二世代）	113	4	2	12	5	56	11	16	7
		100.0	3.5	1.8	10.6	4.4	49.6	9.7	14.2	6.2
	ひとり親（三世代）	11	0	0	1	1	5	1	3	0
		100.0	0.0	0.0	9.1	9.1	45.5	9.1	27.3	0.0

（13）父親の新型コロナウイルス感染症拡大による労働時間の変化

次に、同居の父親について見た。全体では、「変わらない」（69.8%）が最も多く、減少した割合は 11.9%、増加した割合は 13.4%と、増加した割合の方がやや高かった。

図表 2-2-42 同居の父親の労働時間の変化：全体



図表 2-2-43 同居の父親の労働時間の変化：全体

	該当数	１０割減	５割以上減	２～３割減	１割減	変わらない	１割増	２～３割増	５割以上増	無回答
全 体	1,247	8	21	51	69	871	77	61	29	60
	100.0	0.6	1.7	4.1	5.5	69.8	6.2	4.9	2.3	4.8

３．まとめ

（１）世田谷区における子育て世帯の世帯構成

世帯タイプの内訳を見ると、本調査においては、欠損を除いて 14.6%がひとり親世帯となっていた（**図表 2-1-1**）。高校生世代のうち約 7 人に 1 人がひとり親世帯であるという事実は、各種施策において考慮するべきであると考えられる。

（２）外国にルーツを持つ子ども

外国にルーツを持つ子どもについては、全体では 90.1%が両親ともに日本人であるとの結果となっており、外国にルーツを持つ子どもは 3.7%となっているが、ひとり親世帯に限ると、この割合が 7%となり、約 14 人に 1 人は外国にルーツを持つ子どもである（**図表 2-1-5**）。自記式アンケート調査においては、外国にルーツを持つ保護者の回答率が低下すると考えられるため、この割合が過少推計されている可能性も高い。特に、ひとり親世帯を対象とした情報提供に際には、外国にルーツを持つ保護者を念頭におく必要があるであろう。

（３）親の就労状況

親の就労状況については、全国的な傾向と同じく、世田谷区においても専業主婦の母親は 22.0%となっており、もはやマイノリティであることが確認できる（**図表 2-2-1**、**図表 2-2-3**）。共働き世帯は全体の 43.3%を占め、特に困窮層では 55.6%にのぼる（**図表 2-2-20**、**図表 2-2-22**）。

母親の就労形態は「パート・アルバイト・日雇い・非正規社員」の占める割合が最も高く、3 割強を占めている（**図表 2-2-1**、**図表 2-2-3**）。母親の就労時間を見ると、週に 40 時間未満の母親が 7 割弱を占めるものの、40 時間以上就労している母親も 3 割以上存在する（**図表 2-2-8**、**図表 2-2-9**）。

同様に、平日日中以外の時間帯に働く割合が、母親では 4 割程度、父親では 5 割弱にものぼることが指摘できる。特に困窮層では、平日日中以外に働く母親は 6 割程度にのぼる。特に土日に出勤する割合が高く、土曜日に出勤する母親・父親は 3 割～ 4 割程度存在し、生活困難層の母親では 48.7%にのぼる。また、日曜日に出勤する母親・父親は 2 ～ 3 割程度存在し、生活困難層の母親では 41.0%にのぼる。さまざまな子育て支援サービスや事業において、親の就労時間が平日日中に限らない点を考慮すべきであろう（**図表 2-2-10**、**図表 2-2-12**、**図表 2-2-18**、**図表 2-2-19**）。

（４）新型コロナウイルス感染症の影響

新型コロナウイルス感染症の影響を見ると、「無回答」を加味しても、就労状況が変化した母親が 4 割程度にのぼっていることが指摘できる。母親について見ると、「テレワークの増加」のような肯定的な影響を受けた割合は一般層の母親の方が高かった一方で、「転職した」「仕事を辞めた」「労働時間の減少」「収入の減少」「時間外労働の増加」といった項目では、生活困難層の母親の方が影響を受けた割合が高いことが重要である（**図表 2-2-23**、**図表 2-2-25**）。具体的な変化の割合を見ると、収入については 2 ～ 3 割以上減少した母親が困窮層では 3 割弱にのぼり（**図表 2-2-28**、**図表 2-2-30**）、労働時間については 2 割弱にのぼる（**図表 2-2-31**、**図表 2-2-33**）。新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた経済支援や就労支援が今後は望まれる。

第３章　生活困難の状況

１．生活困難度の定義

本報告書では、平成 30 年度に小学 5 年生と中学 2 年生の保護者を対象に行った「世田谷区平成 30 年度子どもの生活実態調査」と同様に、生活困難を抱えている子どもの状況を 3 段階の生活困難度指標（以下、「生活困難度」）を用いて定義する。生活困難度は、東京都より委託を受け、首都大学東京子ども・若者貧困研究センターが対象に行った東京都調査（『平成 28 年度東京都子供の生活実態調査』）にて開発されており、統計的妥当性が確認されている（阿部 2018）[1]。

「生活困難度」は、子どもの生活における生活困難を三つの要素から捉えている：（ア）低所得、（イ）家計の逼迫、（ウ）子どもの体験や所有物の欠如。本調査では、東京都調査に倣って、三つの要素のうち、二つ以上該当する世帯を「困窮層」、一つのみ該当する世帯を「周辺層」、どれにも該当しない世帯を「一般層」と分類する。また、「生活困難層」は、「困窮層」と「周辺層」を合わせた層とする。

各要素の定義は以下の通りである[2]：

（ア）低所得

「低所得」は、保護者票から得られる世帯所得（勤労収入、事業収入等＋社会保障給付）を、世帯人数の平方根で割り算した値（＝等価世帯所得）が、厚生労働省「2022（令和 4）年国民生活基礎調査」から算出される基準未満の世帯と定義する。東京都調査と調査年度が異なるため、参照する「国民生活基礎調査」も異なる年度のものを用いている。なお、ここでいう「低所得」は所得の定義の違いなどがあるため、厚生労働省「2022（令和 4）年国民生活基礎調査」にて公表されている子どもの貧困率（11.5%）とは比較はできない。

（イ）家計の逼迫

公共料金、住宅費、食費、衣類費などの逼迫の状況を表す。具体的には、保護者票にて「過去 1 年間に経済的な理由で電話、電気、ガス、水道、家賃などの料金の滞納」があったか、また、過去 1 年間に「家族が必要とする食料が買えなかった経験」「家族が必要とする衣類が買えなかった経験」があったかの 7 つの項目のうち、1 つ以上が該当する場合を「家計の逼迫」があると定義する。

（ウ）子どもの体験や所有物の欠如

子ども自身の体験や所有物の欠如といった生活困難を表す。具体的には、保護者票において過去 1 年間において、「海水浴に行く」「博物館・科学館・美術館などに行く」「スポーツ観戦や劇場に行く」「キャンプやバーベキューに行く」「遊園地やテーマパークに行く」ことが経済的にできない、または、「毎月おこづかいを渡す」「毎年新しい洋服・靴を買う」「習い事（音楽、スポーツ、習字等）に通わせる」「学習塾に通わせる（または家庭教師に来てもらう）」「お誕生日のお祝いをする」「1 年に 1 回くらい家族旅行に「クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる」が「経済的にできない」、または、「子どもの年齢に合った本」「子ども用のスポーツ用品・おもちゃ」「子

---

[1] 阿部彩（2018）「日本版子どもの剥奪指標の開発」首都大学東京　子ども・若者貧困研究センター Discussion paper Series No.1。

[2] 東京都（2017）『平成 28 年度子供の生活実態調査報告書』。

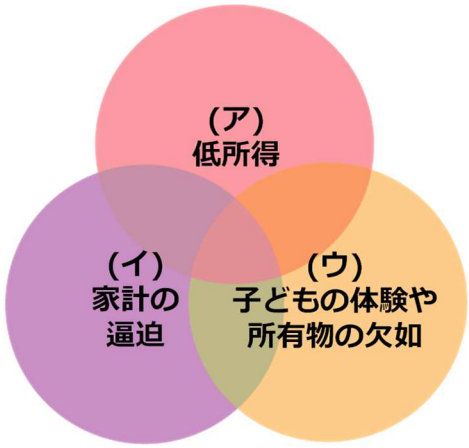
どもが自宅で宿題をすることができる場所」が「経済的理由のために世帯にない」（全 15 項目）である。これらの項目のうち 3 つ以上が該当している場合に、「子どもの体験や所有物の欠如」の状況にあると定義する。

図表 3-1-1　生活困難について

（ア）低所得	（ウ）子どもの体験や所有物の欠如
等価世帯所得が「2022(令和 4)年 国民生活基礎調査」から算出される基準未満の世帯 <低所得基準> 世帯所得の中央値(423 万円)÷ √平均世帯人数(2.25 人)×50% ＝141.0 万円	子どもの体験や所有物などに関する 15 項目のうち、経済的な理由で、剥奪されている項目が 3 つ以上該当 1 海水浴に行く 2 博物館・科学館・美術館などに行く 3 キャンプやバーベキューに行く 4 スポーツ観戦や劇場に行く 5 遊園地やテーマパークに行く 6 毎月小遣いを渡す 7 毎年新しい洋服・靴を買う 8 習い事（音楽、スポーツ、習字等）に通わせる 9 学習塾に通わせる（又は家庭教師に来てもらう） 10 お誕生日のお祝いをする 11 １年に１回くらい家族旅行に行く 12 クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる 13 子どもの年齢に合った本 14 子ども用のスポーツ用品・おもちゃ 15 子どもが自宅で宿題（勉強）をすることができる場所
（イ）家計の逼迫	
経済的な理由で、公共料金や家賃を支払えなかった経験、食料・衣服を買えなかった経験などの７項目のうち、１つ以上が該当 1 電話料金が支払えなかった 2 電気料金が支払えなかった 3 ガス料金が支払えなかった 4 水道料金が支払えなかった 5 家賃が支払えなかった 6 家族が必要とする食料が買えなかった 7 家族が必要とする衣類が買えなかった	

◆生活困難層（困窮層・周辺層）、一般層

生活困難層		困窮層＋周辺層
	困窮層	２つ以上の要素に該当
	周辺層	いずれか１つの要素に該当
一般層		いずれの要素にも該当しない



２．世田谷区の生活困難度の分布

（１）世田谷区の生活困難層

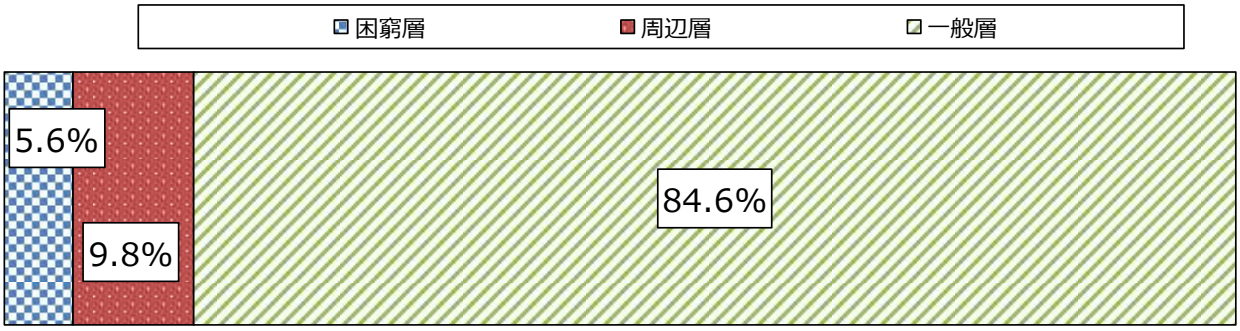
世田谷区における生活困難度の割合を集計した。判別不可を除いた総数の割合で見ると、困窮層は 5.6%、周辺層は 9.8%、一般層は 84.6%となっている。世田谷区において、15.4%の高校生世代が生活困難層に該当する。

図表 3-2-1 生活困難層の割合

		全数に対する割合(%)	判別不可を除いた割合(%)
生活困難層		10.2%	15.4%
	困窮層	3.7%	5.6%
	周辺層	6.5%	9.8%
一般層		56.5%	84.6%
判別不可		33.2%	

図表 3-2-2 生活困難層の割合

（n=990）



各要素別に見ると、最も該当者が多かったのは子どもの体験や所有物の欠如であり、家計の逼迫、低所得が続く。

図表 3-2-3 各要素の該当者の割合

	判別不可を除いた割合(%)
低所得	4.3%
家計の逼迫	5.5%
子どもの体験や所有物の欠如	11.5%

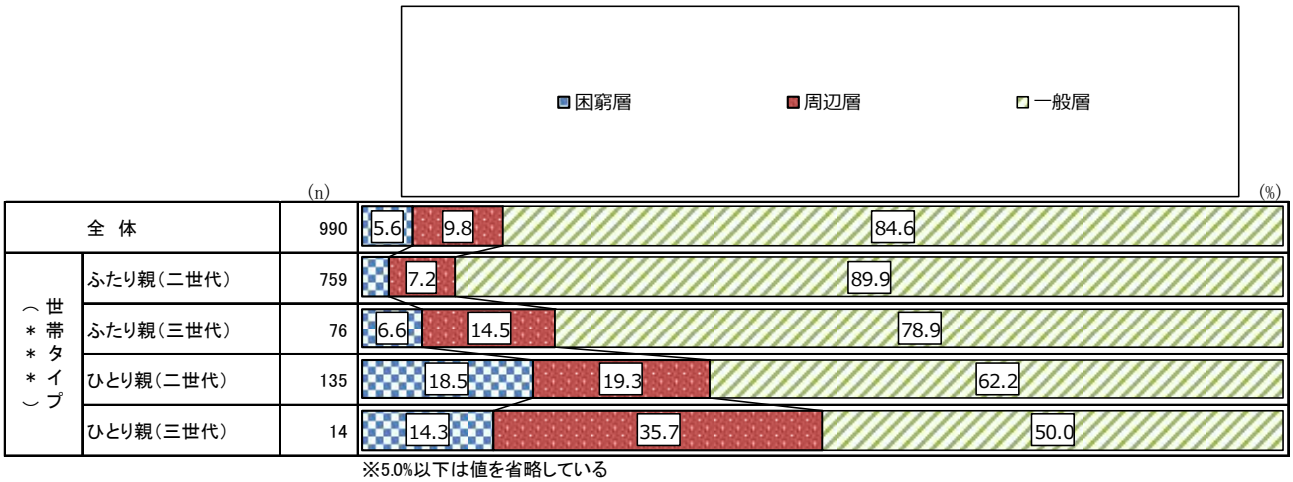
図表 3-2-4 各要素の該当者の割合

困窮層	３つに該当	低所得＋家計の逼迫＋ 子どもの体験や所有物の欠如	0.3%	5.6%
	２つに該当	低所得＋家計の逼迫	0.2%	
		低所得＋子どもの体験や所有物の欠如	1.3%	
		家計の逼迫＋子どもの体験や所有物の欠如	3.7%	
周辺層	１つに該当	低所得のみ	2.4%	9.8%
		家計の逼迫のみ	1.2%	
		子どもの体験や所有物の欠如のみ	6.2%	
困窮層と周辺層の計				15.4%

（２）世帯タイプ別

次に、世帯タイプ別に生活困難度を見ると、ひとり親（二世代）世帯においては、困窮層が 18.5%、ひとり親（三世代）世帯では 14.3%と、ふたり親（二世代）世帯、ふたり親（三世代）世帯の 2.9%、6.6%に比べて高い。ひとり親世帯の構成比は、14.6%と、比較的低いが、ひとり親世帯における生活困難層の割合は、ふたり親世帯よりも高い。しかしながら、ひとり親世帯の数が少ないため、生活困難層（困窮層＋周辺層）の子どもの中における構成比を見ると、困窮層では 50.0%がふたり親世帯、周辺層では 68.0%がふたり親世帯に属している。すなわち、生活困難層をターゲットとする施策においては、ひとり親世帯のみを対象とするものでは生活困難層全体にいきわたらないことがわかる。

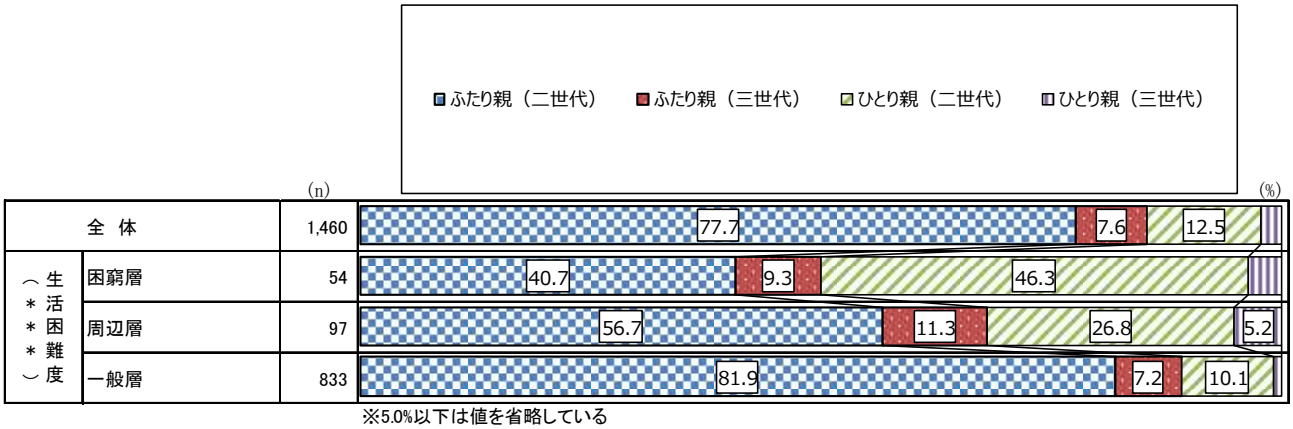
図表 3-2-5 生活困難層の割合：世帯タイプ別（*）**



図表 3-2-6 生活困難層の割合：世帯タイプ別（*）**

		該当数	困窮層	周辺層	一般層
全 体		990	55	97	838
		100.0	5.6	9.8	84.6
（世帯タイプ***）	ふたり親（二世代）	759	22	55	682
		100.0	2.9	7.2	89.9
	ふたり親（三世代）	76	5	11	60
		100.0	6.6	14.5	78.9
	ひとり親（二世代）	135	25	26	84
		100.0	18.5	19.3	62.2
	ひとり親（三世代）	14	2	5	7
		100.0	14.3	35.7	50.0

図表 3-2-7 生活困難層の子どもの世帯タイプ（***）



※5.0%以下は値を省略している

図表 3-2-8 生活困難層の子どもの世帯タイプ（***）

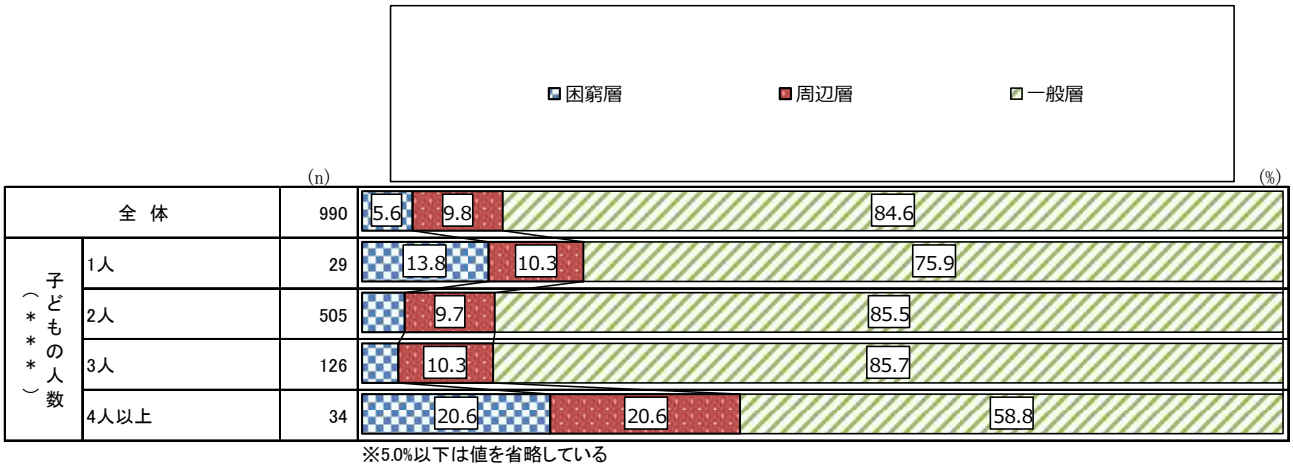
		該当数	ふたり親（二世代）	ふたり親（三世代）	ひとり親（二世代）	ひとり親（三世代）
全 体		1,460	1,135	111	182	32
		100.0	77.7	7.6	12.5	2.2
（生活困難度）	困窮層	54	22	5	25	2
		100.0	40.7	9.3	46.3	3.7
	周辺層	97	55	11	26	5
		100.0	56.7	11.3	26.8	5.2
	一般層	833	682	60	84	7
		100.0	81.9	7.2	10.1	0.8

（３）子どもの人数別

次に、世帯内における子どもの人数別に生活困難度を見てみる。占める割合が最も大きい子ども 2 人世帯の困窮層の割合が 4.8%、周辺層の割合が 9.7%なのに対し、子ども 1 人世帯では 13.8%、10.3%、子ども 4 人以上の世帯では 20.6%、20.6%となっている。

逆に、困窮層の子ども人数を見ると、「子ども 1 人」の世帯が 1 割、「子ども 2 人」の世帯の子どもが 6 割となっている。周辺層の子ども人数を見ると、「子ども 1 人」の世帯が 4.2%、「子ども 2 人」の世帯が 68.1%となっている。

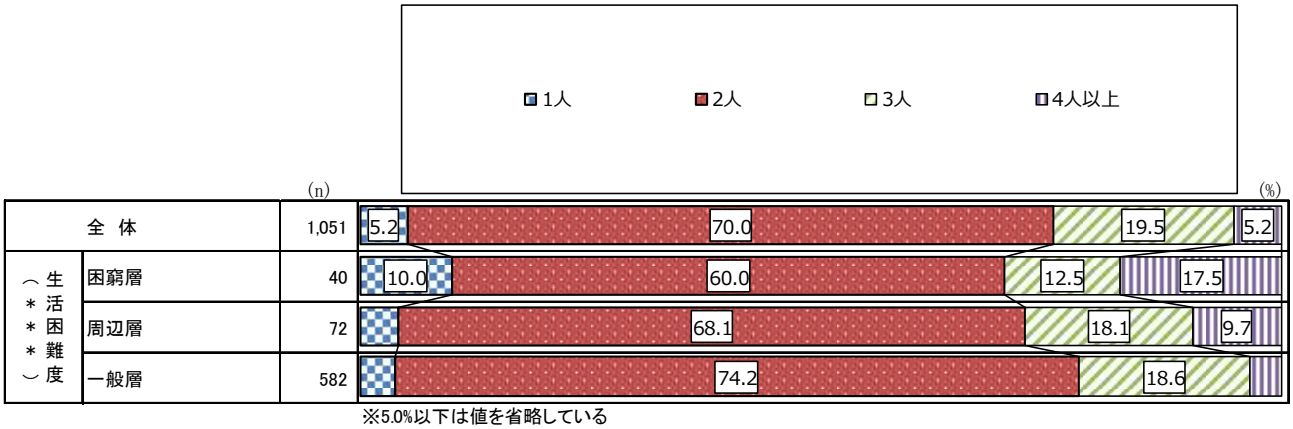
図表 3-2-9 生活困難層の割合：子どもの人数別（*）**



図表 3-2-10 生活困難層の割合：子どもの人数別（*）**

		該当数	困窮層	周辺層	一般層
全 体		990	55	97	838
		100.0	5.6	9.8	84.6
子どもの人数（***）	1人	29	4	3	22
		100.0	13.8	10.3	75.9
	2人	505	24	49	432
		100.0	4.8	9.7	85.5
	3人	126	5	13	108
		100.0	4.0	10.3	85.7
	4人以上	34	7	7	20
		100.0	20.6	20.6	58.8

図表 3-2-11　生活困難層の子どもの世帯内子どもの人数（***）



※5.0%以下は値を省略している

図表 3-2-12　生活困難層の子どもの世帯内子どもの人数（***）

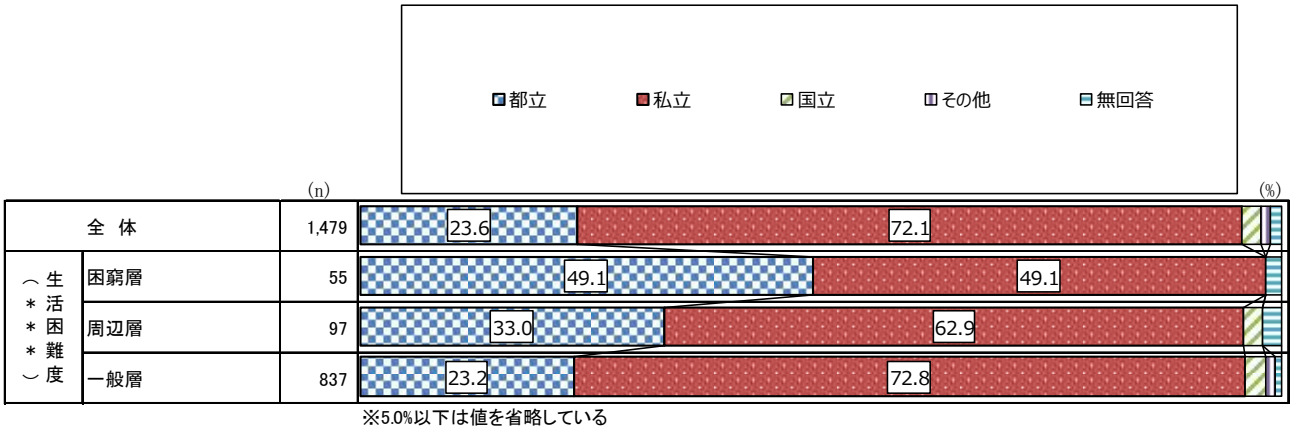
		該当数	1人	2人	3人	4人以上
全　体		1,051	55	736	205	55
		100.0	5.2	70.0	19.5	5.2
（＊＊生活困難度）	困窮層	40	4	24	5	7
		100.0	10.0	60.0	12.5	17.5
	周辺層	72	3	49	13	7
		100.0	4.2	68.1	18.1	9.7
	一般層	582	22	432	108	20
		100.0	3.8	74.2	18.6	3.4

（４）学校の種類別

次に、学校の種類別に生活困難度を集計した。全体では、23.6%が都立、72.1%が私立に通っていた。また、生活困難度別に統計的に有意な差が確認され、生活困難層では一般層と比較して「都立」が多く、一般層では生活困難層と比較して「私立」が多かった。

学校の種類別に生活困難度を見ると、統計的に有意な差が確認され、「都立」では困窮層が 10.7%、周辺層が 12.6%であったのに対し、「私立」では困窮層は 3.9%、周辺層は 8.8%、「国立」では困窮層は 0.0%、周辺層は 9.1%にとどまった。

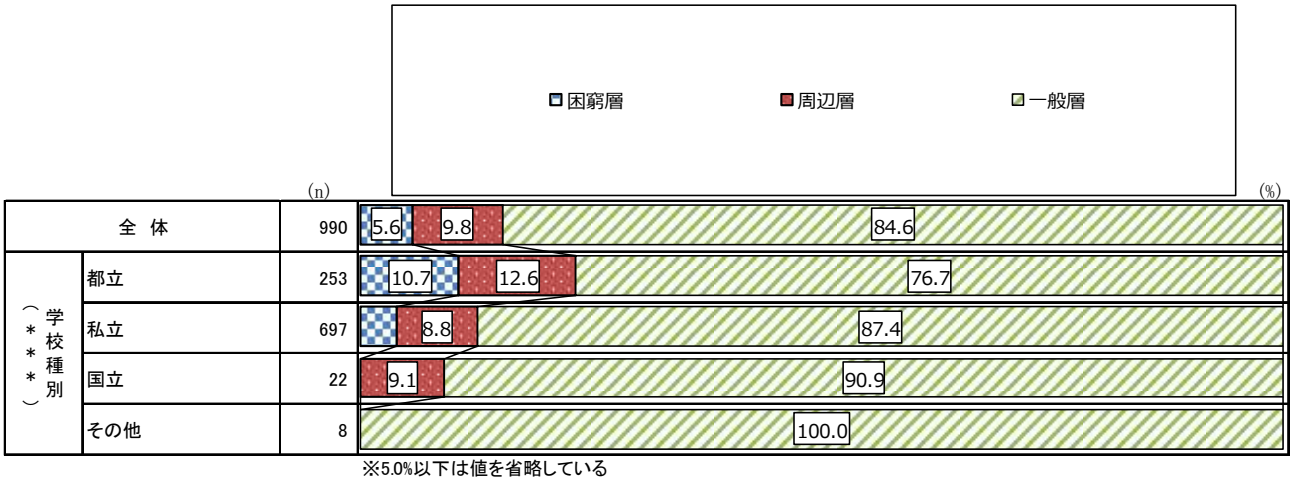
図表 3-2-13 生活困難層の子どもの学校の種類（*）**



図表 3-2-14 生活困難層の子どもの学校の種類（*）**

		該当数	都立	私立	国立	その他	無回答
全 体		1,479	349	1,066	30	16	18
		100.0	23.6	72.1	2.0	1.1	1.2
（生活困難度）	困窮層	55	27	27	0	0	1
		100.0	49.1	49.1	0.0	0.0	1.8
	周辺層	97	32	61	2	0	2
		100.0	33.0	62.9	2.1	0.0	2.1
	一般層	837	194	609	20	8	6
		100.0	23.2	72.8	2.4	1.0	0.7

図表 3-2-15 生活困難度：学校の種類別（***）



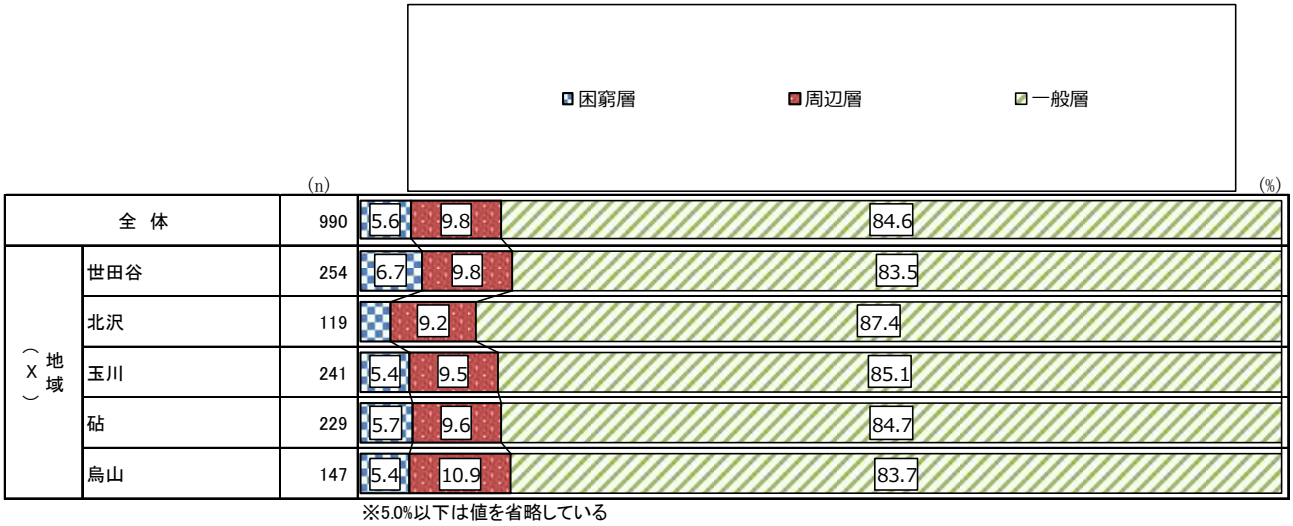
図表 3-2-16 生活困難度：学校の種類別（***）

		該当数	困窮層	周辺層	一般層
全 体		990	55	97	838
		100.0	5.6	9.8	84.6
学校種別（***）	都立	253	27	32	194
		100.0	10.7	12.6	76.7
	私立	697	27	61	609
		100.0	3.9	8.8	87.4
	国立	22	0	2	20
		100.0	0.0	9.1	90.9
	その他	8	0	0	8
		100.0	0.0	0.0	100.0

（5）地域別

次に、世田谷区の 5 地域（世田谷、北沢、玉川、砧、烏山）別に生活困難度を集計した。地域別に若干の差が見られるが、統計的に有意な差は確認されず、誤差の範囲内である。すなわち、生活困難層は、世田谷区内の 5 地域にまんべんなく分布している。

図表 3-2-17 生活困難度：地域別（X）



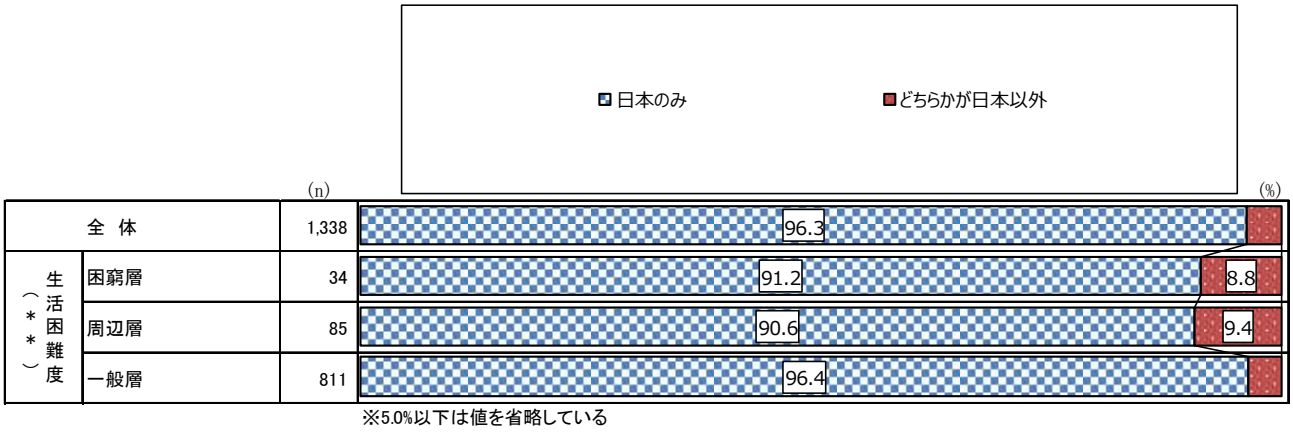
図表 3-2-18 生活困難度：地域別（X）

		該当数	困窮層	周辺層	一般層
全 体		990	55	97	838
		100.0	5.6	9.8	84.6
（X地域）	世田谷	254	17	25	212
		100.0	6.7	9.8	83.5
	北沢	119	4	11	104
		100.0	3.4	9.2	87.4
	玉川	241	13	23	205
		100.0	5.4	9.5	85.1
	砧	229	13	22	194
		100.0	5.7	9.6	84.7
	烏山	147	8	16	123
		100.0	5.4	10.9	83.7

（６）外国にルーツを持つ子ども

最後に、外国にルーツを持つ子どもの生活困難度を見る。2 章において分類した父母の国籍の組み合わせを 2 つに集約し、一方を父母が日本国籍の子どものみ、もう一つを父母の少なくとも一人が「日本以外」の国籍の子どもとした。その結果、統計的に有意な差が確認され、一般層では外国にルーツを持つ子どもは 3.6%であったのに対し、周辺層では 9.4%、困窮層では 8.8%であった。

図表 3-2-19 父母の国籍：生活困難度別（）**



図表 3-2-20 父母の国籍：生活困難度別（）**

		該当数	日本のみ	どちらかが日本以外
全 体		1,388	1,336	52
		100.0	96.3	3.7
生活困難度（**）	困窮層	34	31	3
		100.0	91.2	8.8
	周辺層	85	77	8
		100.0	90.6	9.4
	一般層	811	782	29
		100.0	96.4	3.6

３．家計の状況

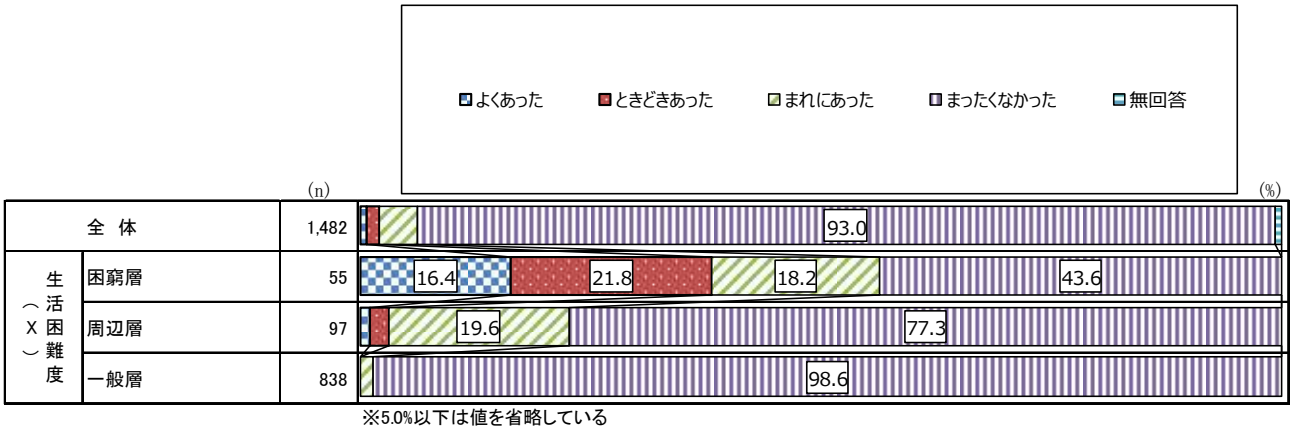
（１）食料を買えなかった経験

高校２年生世代の子どもの保護者に「過去１年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする食料を買えないことがありましたか」と聞いた。すると、「まったくなかった」と答えた割合は９割を超えるものの、一部の保護者においてはそれ以外の回答が見られた。

生活困難度別に見ると、一般層では「まったくなかった」は 98.6%であったのに対し、困窮層では 43.6%と、６割弱が食料困窮を経験していた。なお、無回答が困窮層・周辺層・一般層のいずれも０人であり、検定に馴染まなかったため、食料の困窮について、「よくあった」または「ときどきあった」を選択しているか否かということについて統計的に有意な差があるかを確認した。その結果、統計的に有意な差があることが確認され、食料の困窮の経験が「よくあった」または「ときどきあった」割合が、一般層では 0.0%であったのに対し、困窮層では 38.2%にのぼった。

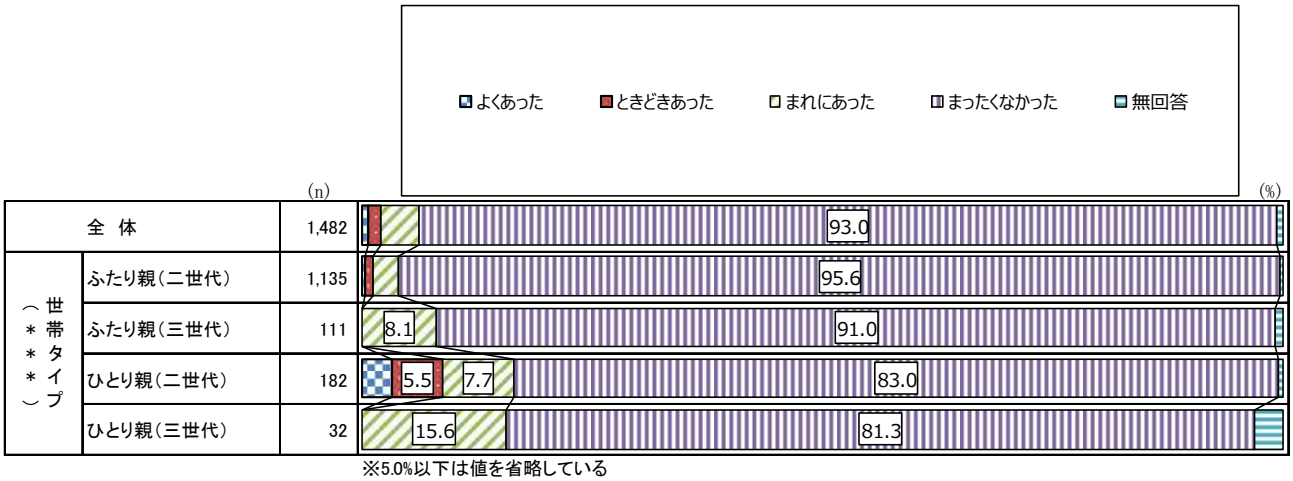
世帯タイプ別では統計的に有意な差が確認され、食料が買えなかった経験が最もあるのは、ひとり親（二世代）世帯であり、「よくあった」と「ときどきあった」を合わせると、全体では 2.1%であったのに対し、ひとり親（二世代）世帯では 8.8%にのぼった。

図表 3-3-1　食料の困窮の経験：全体、生活困難度別（X）



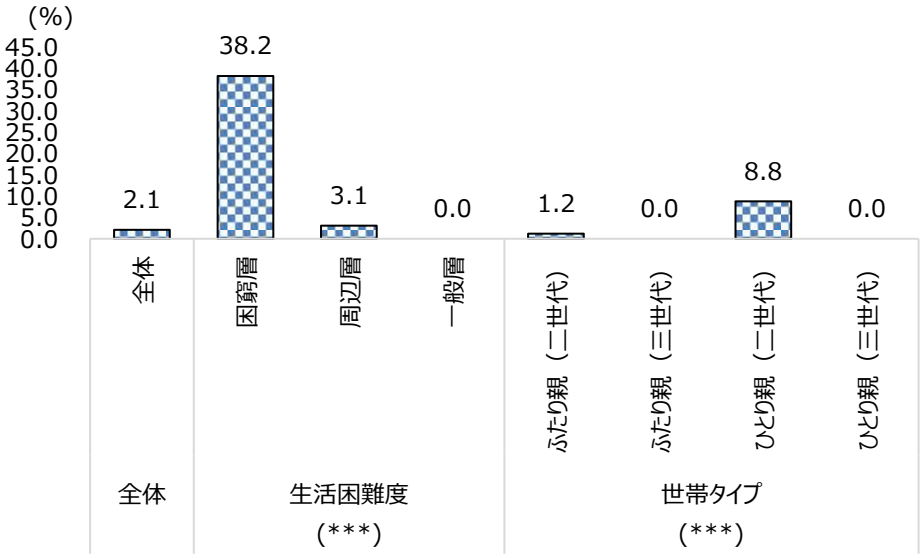
※5.0%以下は値を省略している

図表 3-3-2　食料の困窮の経験：全体、世帯タイプ別（*）**



※5.0%以下は値を省略している

図表 3-3-3　食料の困窮が「よくあった」または「ときどきあった」割合
：全体、生活困難度別（*）、世帯タイプ別（***）**



図表 3-3-4　食料の困窮の経験：全体、生活困難度別（X）、世帯タイプ別（*）**

		該当数	よくあった	ときどきあった	まれにあった	まったくなかった	無回答
全　体		1,482	11	20	61	1,379	11
		100.0	0.7	1.3	4.1	93.0	0.7
生活困難度（X）	困窮層	55	9	12	10	24	0
		100.0	16.4	21.8	18.2	43.6	0.0
	周辺層	97	1	2	19	75	0
		100.0	1.0	2.1	19.6	77.3	0.0
	一般層	838	0	0	12	826	0
		100.0	0.0	0.0	1.4	98.6	0.0
世帯タイプ（***）	ふたり親（二世代）	1,135	4	10	32	1,085	4
		100.0	0.4	0.9	2.8	95.6	0.4
	ふたり親（三世代）	111	0	0	9	101	1
		100.0	0.0	0.0	8.1	91.0	0.9
	ひとり親（二世代）	182	6	10	14	151	1
		100.0	3.3	5.5	7.7	83.0	0.5
	ひとり親（三世代）	32	0	0	5	26	1
		100.0	0.0	0.0	15.6	81.3	3.1

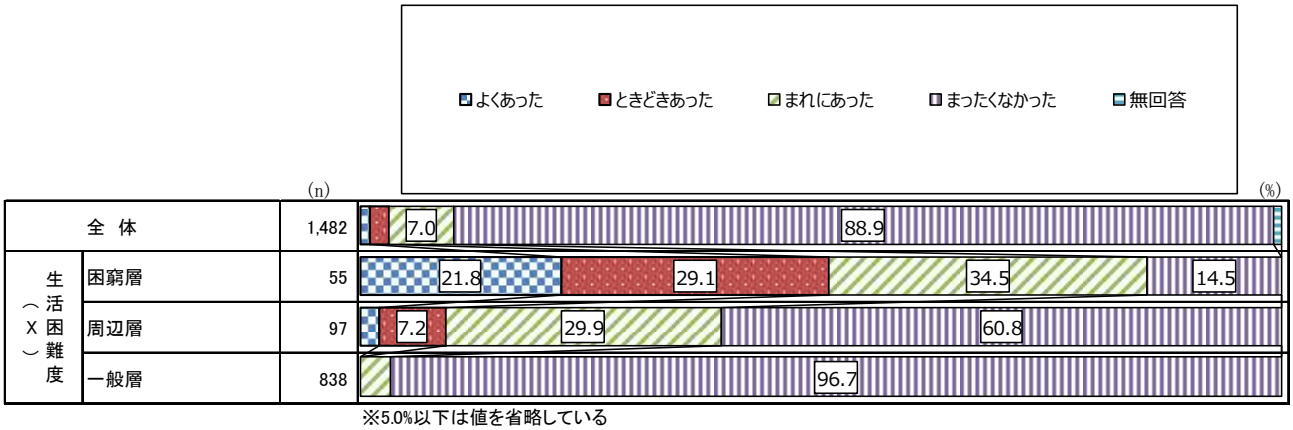
（２）衣類を買えなかった経験

次に、食料と同様に、「過去 1 年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする衣類を買えないことがありましたか」と聞いた。すると、「まったくなかった」と答えた割合は 88.9%であった。1 割強の高校 2 年生世代の保護者が、家族が必要とする衣類が買えなかった経験があると回答している。

生活困難度別に見ると、衣類が買えなかった経験の割合に顕著な差が見られた。一般層では「まったくなかった」は 96.7%であったのに対し、困窮層では 14.5%と、9 割弱が衣類が買えなかった経験があった。なお、無回答が困窮層・周辺層・一般層のいずれも 0 人であり、検定に馴染まなかったため、衣類の困窮について、「よくあった」または「ときどきあった」を選択しているか否かということについて統計的に有意な差があるかを確認した。その結果、統計的に有意であることが確認され、食料の困窮の経験が「よくあった」または「ときどきあった」割合が、一般層では 0.0%であったのに対し、困窮層では 50.9%にのぼった。

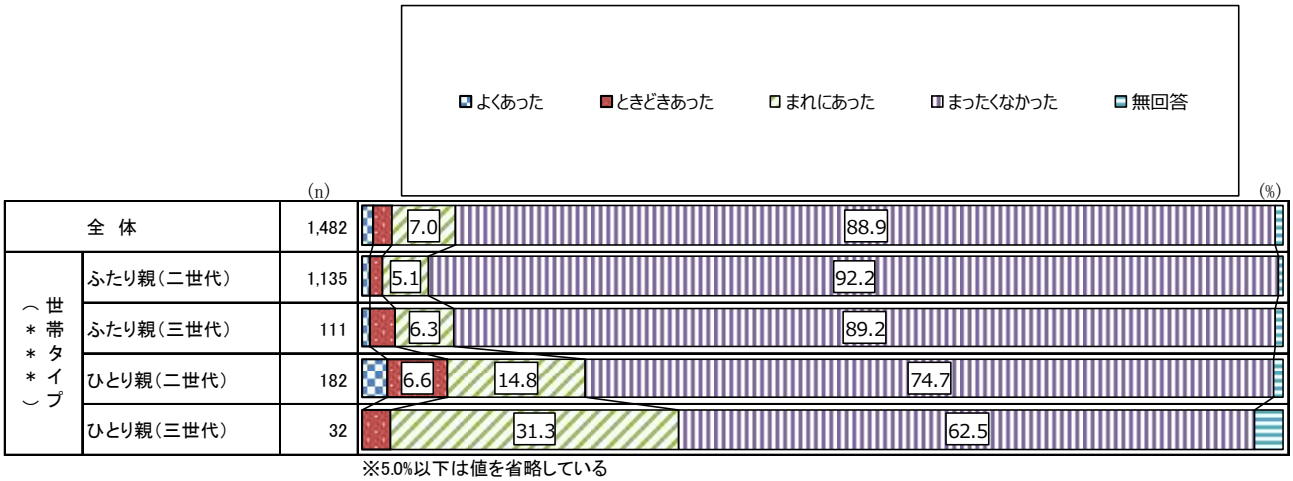
世帯タイプ別に見ると、統計的に有意な差が確認され、衣類が買えなかった経験が最もあるのは、ひとり親（二世代）世帯であり、「よくあった」と「ときどきあった」を合わせると、全体では 3.2%であったのに対し、ひとり親（二世代）世帯では 9.3%にのぼった。

図表 3-3-5　衣類の困窮の経験：全体、生活困難度別（X）



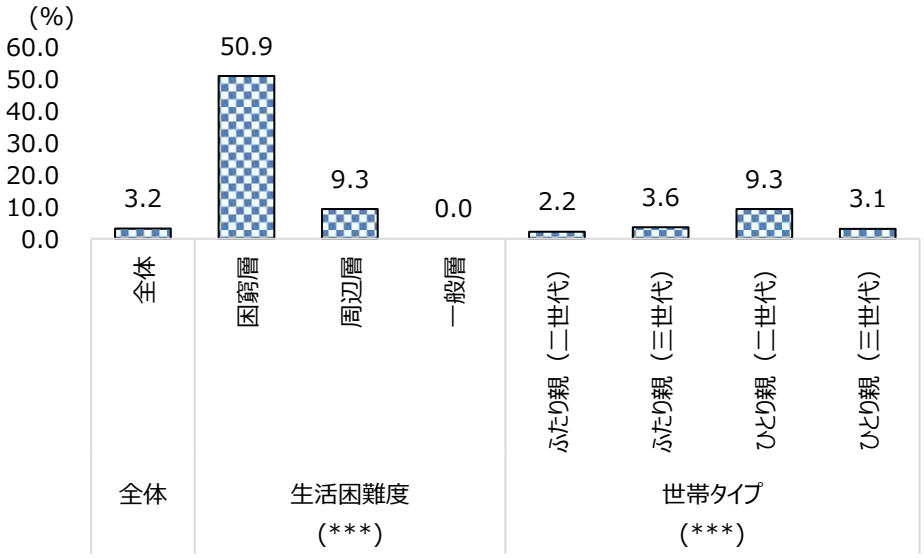
※5.0%以下は値を省略している

図表 3-3-6　衣類の困窮の経験：全体、世帯タイプ別（*）**



※5.0%以下は値を省略している

図表 3-3-7　衣類の困窮が「よくあった」または「ときどきあった」割合
：全体、生活困難度別（*）、世帯タイプ別（***）**



図表 3-3-8　衣類の困窮の経験：全体、生活困難度別（X）、世帯タイプ別（*）**

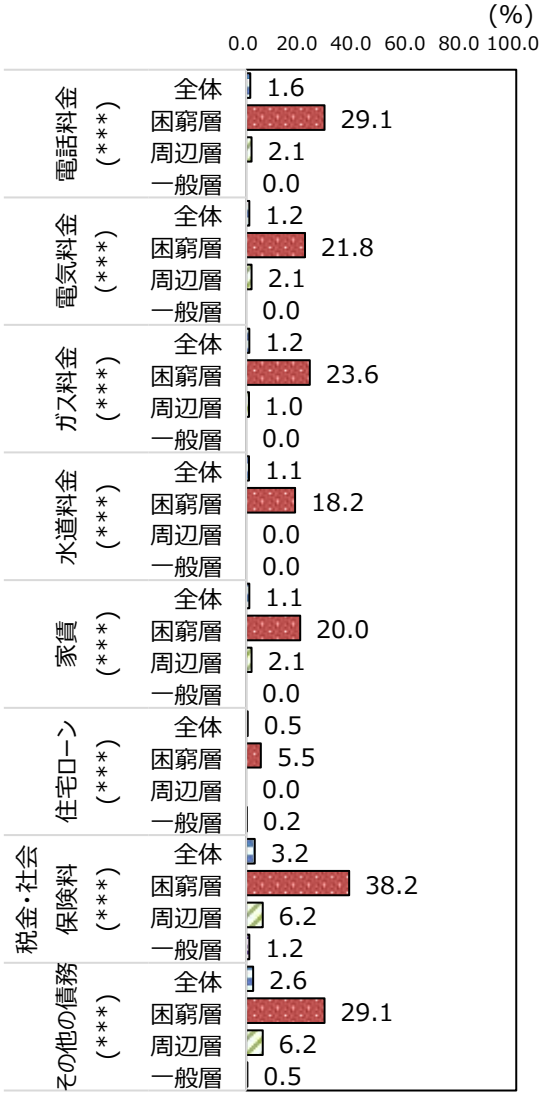
		該当数	よくあった	ときどきあった	まれにあった	まったくなかった	無回答
全　体		1,482	17	31	103	1,317	14
		100.0	1.1	2.1	7.0	88.9	0.9
生活困難度（X）	困窮層	55	12	16	19	8	0
		100.0	21.8	29.1	34.5	14.5	0.0
	周辺層	97	2	7	29	59	0
		100.0	2.1	7.2	29.9	60.8	0.0
	一般層	838	0	0	28	810	0
		100.0	0.0	0.0	3.3	96.7	0.0
世帯タイプ（***）	ふたり親（二世代）	1,135	10	15	58	1,046	6
		100.0	0.9	1.3	5.1	92.2	0.5
	ふたり親（三世代）	111	1	3	7	99	1
		100.0	0.9	2.7	6.3	89.2	0.9
	ひとり親（二世代）	182	5	12	27	136	2
		100.0	2.7	6.6	14.8	74.7	1.1
	ひとり親（三世代）	32	0	1	10	20	1
		100.0	0.0	3.1	31.3	62.5	3.1

（３）公共料金等が支払えなかった経験

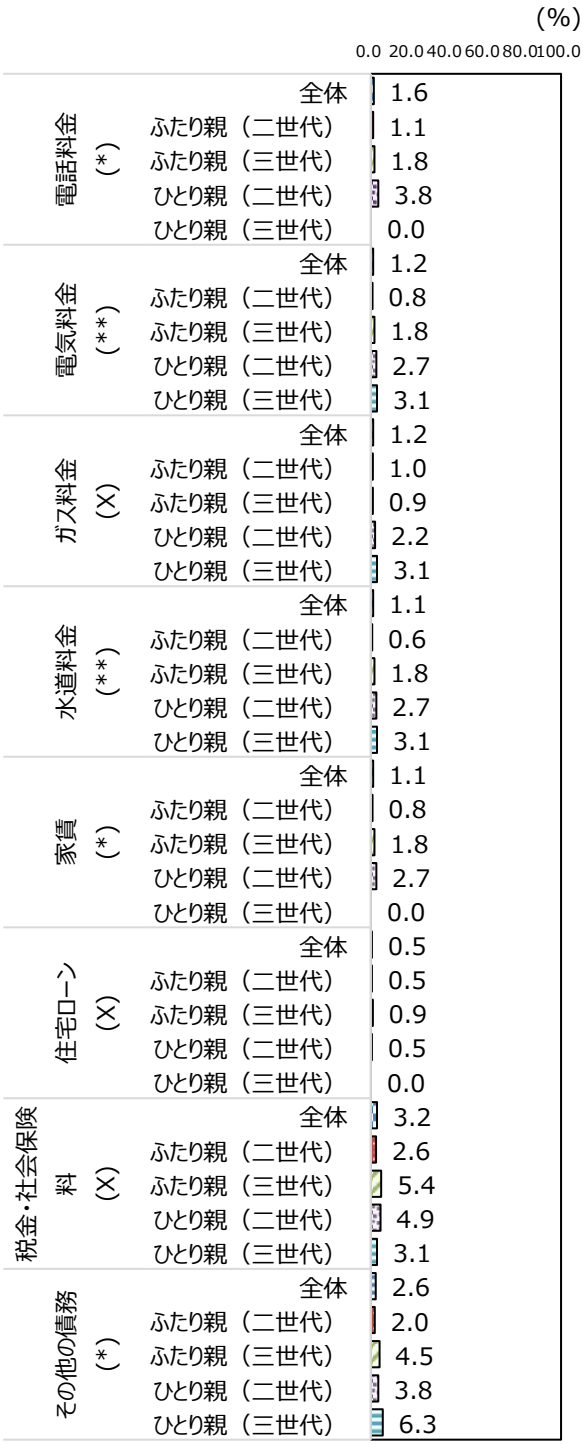
次に、過去１年間において、経済的な理由で、「公共料金（電話、電気、ガス、水道）」「家賃」「住宅ローン」及び「その他債務」について、支払えないことがあったかを聞いた。全体では、電話、電気、ガス、水道について、1.1%～1.6%の世帯において滞納経験が見られた。「家賃」は 1.1%、「住宅ローン」は 0.5%、「税金・社会保険料」は 3.2%、「その他の債務」は 2.6%であった。

各項目について、「あった」を選択しているか否かということについて統計的に有意な差があるかを確認したところ、生活困難度別・世帯タイプ別共に統計的に有意な差が確認された。困窮層では、およそ２～４割が公共料金等が支払えなかった経験があると分かる。

図表 3-3-9　公共料金等が払えなかった経験が「あった」割合：全体、生活困難度別



図表 3-3-10 公共料金等が払えなかった経験が「あった」割合：全体、世帯タイプ別



図表 3-3-11 公共料金等が払えなかった経験：全体、生活困難度別

		該当数	あった	なかった	該当しない（払う必要がない）	無回答
電話料金（X）	全体	1,482	23	1,330	112	17
		100.0	1.6	89.7	7.6	1.1
	困窮層	55	16	37	2	0
		100.0	29.1	67.3	3.6	0.0
	周辺層	97	2	88	7	0
		100.0	2.1	90.7	7.2	0.0
	一般層	838	0	778	60	0
		100.0	0.0	92.8	7.2	0.0
電気料金（X）	全体	1,482	18	1,338	109	17
		100.0	1.2	90.3	7.4	1.1
	困窮層	55	12	42	1	0
		100.0	21.8	76.4	1.8	0.0
	周辺層	97	2	88	7	0
		100.0	2.1	90.7	7.2	0.0
	一般層	838	0	779	59	0
		100.0	0.0	93.0	7.0	0.0
ガス料金（X）	全体	1,482	18	1,317	131	16
		100.0	1.2	88.9	8.8	1.1
	困窮層	55	13	41	1	0
		100.0	23.6	74.5	1.8	0.0
	周辺層	97	1	88	8	0
		100.0	1.0	90.7	8.2	0.0
	一般層	838	0	768	70	0
		100.0	0.0	91.6	8.4	0.0
水道料金（X）	全体	1,482	16	1,336	112	18
		100.0	1.1	90.1	7.6	1.2
	困窮層	55	10	44	1	0
		100.0	18.2	80.0	1.8	0.0
	周辺層	97	0	90	7	0
		100.0	0.0	92.8	7.2	0.0
	一般層	838	0	779	59	0
		100.0	0.0	93.0	7.0	0.0
家賃（X）	全体	1,482	17	877	556	32
		100.0	1.1	59.2	37.5	2.2
	困窮層	55	11	35	9	0
		100.0	20.0	63.6	16.4	0.0
	周辺層	97	2	63	32	0
		100.0	2.1	64.9	33.0	0.0
	一般層	838	0	477	361	0
		100.0	0.0	56.9	43.1	0.0
住宅ローン（＊＊＊）	全体	1,482	8	875	572	27
		100.0	0.5	59.0	38.6	1.8
	困窮層	55	3	20	32	0
		100.0	5.5	36.4	58.2	0.0
	周辺層	97	0	49	47	1
		100.0	0.0	50.5	48.5	1.0
	一般層	838	2	511	322	3
		100.0	0.2	61.0	38.4	0.4
税金・社会保険料（＊＊＊）	全体	1,482	48	1,294	120	20
		100.0	3.2	87.3	8.1	1.3
	困窮層	55	21	28	5	1
		100.0	38.2	50.9	9.1	1.8
	周辺層	97	6	82	9	0
		100.0	6.2	84.5	9.3	0.0
	一般層	838	10	767	59	2
		100.0	1.2	91.5	7.0	0.2
その他の債務（＊＊＊）	全体	1,482	38	914	497	33
		100.0	2.6	61.7	33.5	2.2
	困窮層	55	16	26	12	1
		100.0	29.1	47.3	21.8	1.8
	周辺層	97	6	47	44	0
		100.0	6.2	48.5	45.4	0.0
	一般層	838	4	541	292	1
		100.0	0.5	64.6	34.8	0.1

図表 3-3-12 公共料金等が払えなかった経験：全体、世帯タイプ別

		該当数	あった	なかった	該当しない（払う必要がない）	無回答
電話料金（X）	全体	1,482	23	1,330	112	17
		100.0	1.6	89.7	7.6	1.1
	ふたり親（二世代）	1,135	13	1,030	84	8
		100.0	1.1	90.7	7.4	0.7
	ふたり親（三世代）	111	2	100	8	1
		100.0	1.8	90.1	7.2	0.9
	ひとり親（二世代）	182	7	160	14	1
		100.0	3.8	87.9	7.7	0.5
	ひとり親（三世代）	32	0	28	3	1
		100.0	0.0	87.5	9.4	3.1
電気料金（X）	全体	1,482	18	1,338	109	17
		100.0	1.2	90.3	7.4	1.1
	ふたり親（二世代）	1,135	9	1,036	82	8
		100.0	0.8	91.3	7.2	0.7
	ふたり親（三世代）	111	2	99	9	1
		100.0	1.8	89.2	8.1	0.9
	ひとり親（二世代）	182	5	165	11	1
		100.0	2.7	90.7	6.0	0.5
	ひとり親（三世代）	32	1	26	4	1
		100.0	3.1	81.3	12.5	3.1
ガス料金（X）	全体	1,482	18	1,317	131	16
		100.0	1.2	88.9	8.8	1.1
	ふたり親（二世代）	1,135	11	1,016	101	7
		100.0	1.0	89.5	8.9	0.6
	ふたり親（三世代）	111	1	100	9	1
		100.0	0.9	90.1	8.1	0.9
	ひとり親（二世代）	182	4	164	13	1
		100.0	2.2	90.1	7.1	0.5
	ひとり親（三世代）	32	1	25	5	1
		100.0	3.1	78.1	15.6	3.1
水道料金（＊＊）	全体	1,482	16	1,336	112	18
		100.0	1.1	90.1	7.6	1.2
	ふたり親（二世代）	1,135	7	1,034	84	10
		100.0	0.6	91.1	7.4	0.9
	ふたり親（三世代）	111	2	100	9	0
		100.0	1.8	90.1	8.1	0.0
	ひとり親（二世代）	182	5	165	11	1
		100.0	2.7	90.7	6.0	0.5
	ひとり親（三世代）	32	1	25	5	1
		100.0	3.1	78.1	15.6	3.1
家賃（＊＊）	全体	1,482	17	877	556	32
		100.0	1.1	59.2	37.5	2.2
	ふたり親（二世代）	1,135	9	664	441	21
		100.0	0.8	58.5	38.9	1.9
	ふたり親（三世代）	111	2	63	45	1
		100.0	1.8	56.8	40.5	0.9
	ひとり親（二世代）	182	5	123	52	2
		100.0	2.7	67.6	28.6	1.1
	ひとり親（三世代）	32	0	19	11	2
		100.0	0.0	59.4	34.4	6.3
住宅ローン（＊＊＊）	全体	1,482	8	875	572	27
		100.0	0.5	59.0	38.6	1.8
	ふたり親（二世代）	1,135	6	711	402	16
		100.0	0.5	62.6	35.4	1.4
	ふたり親（三世代）	111	1	59	50	1
		100.0	0.9	53.2	45.0	0.9
	ひとり親（二世代）	182	1	87	92	2
		100.0	0.5	47.8	50.5	1.1
	ひとり親（三世代）	32	0	10	20	2
		100.0	0.0	31.3	62.5	6.3
税金・社会保険料（＊＊＊）	全体	1,482	48	1,294	120	20
		100.0	3.2	87.3	8.1	1.3
	ふたり親（二世代）	1,135	30	1,010	83	12
		100.0	2.6	89.0	7.3	1.1
	ふたり親（三世代）	111	6	98	7	0
		100.0	5.4	88.3	6.3	0.0
	ひとり親（二世代）	182	9	153	18	2
		100.0	4.9	84.1	9.9	1.1
	ひとり親（三世代）	32	1	21	9	1
		100.0	3.1	65.6	28.1	3.1
その他の債務（＊）	全体	1,482	38	914	497	33
		100.0	2.6	61.7	33.5	2.2
	ふたり親（二世代）	1,135	23	722	369	21
		100.0	2.0	63.6	32.5	1.9
	ふたり親（三世代）	111	5	67	37	2
		100.0	4.5	60.4	33.3	1.8
	ひとり親（二世代）	182	7	105	67	3
		100.0	3.8	57.7	36.8	1.6
	ひとり親（三世代）	32	2	13	16	1
		100.0	6.3	40.6	50.0	3.1

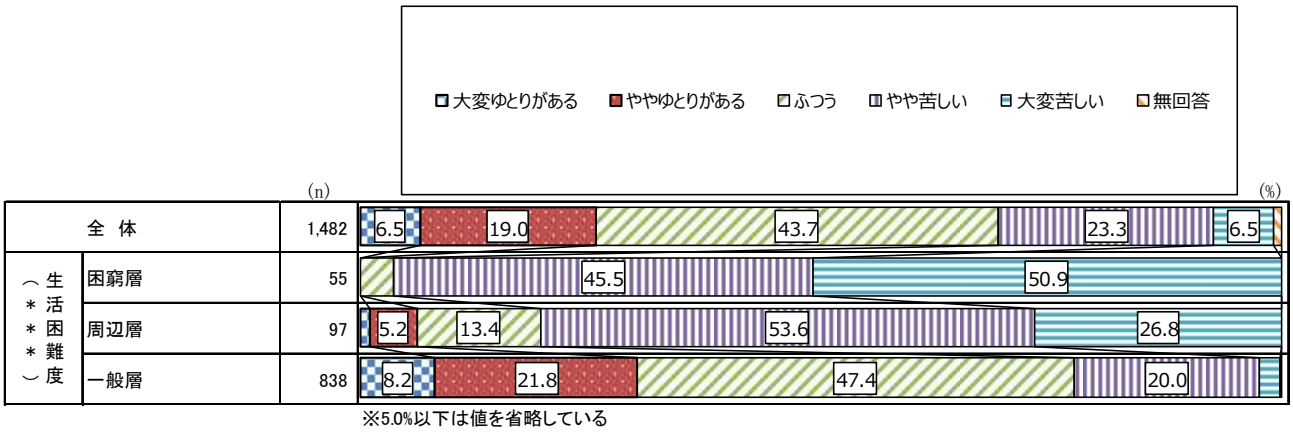
（４）暮らしの状況

保護者に、「現在の暮らしの状況をどのように感じていますか」との設問にて、「大変ゆとりがある」から「大変苦しい」まで 5 段階の選択肢を設けて聞いた。その結果、6.5%は「大変ゆとりがある」としているが、「大変苦しい」とした保護者も 6.5%あった。「大変ゆとりがある」「ややゆとりがある」と、「大変苦しい」「やや苦しい」を比べると、「苦しい」とした保護者は 29.8%、「ゆとり」があると回答した保護者は 25.5%となっている。43.7%は「普通」と回答している。

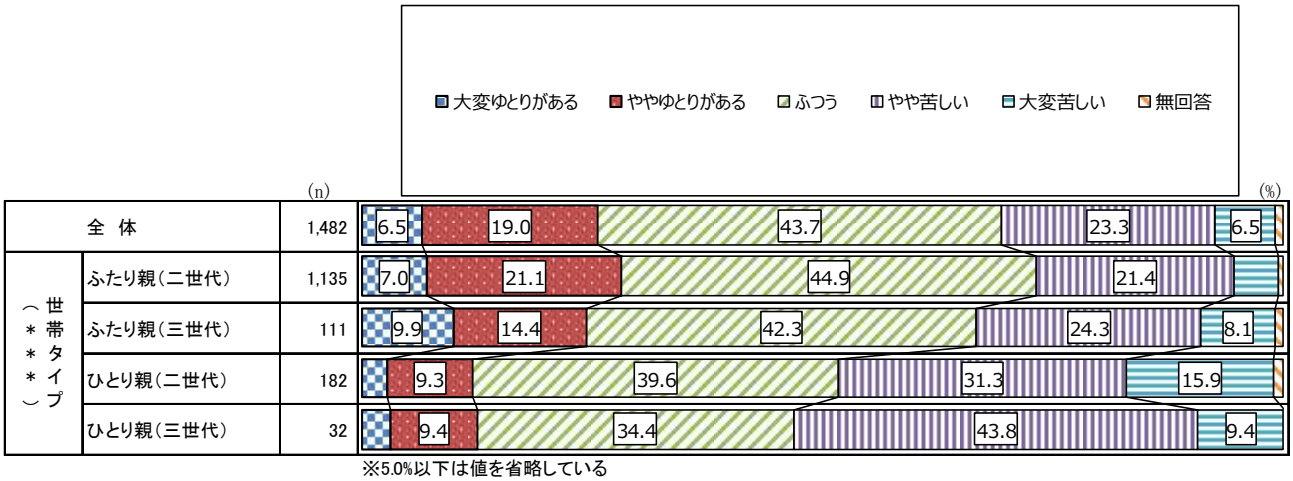
生活困難度別では、困窮層の暮らしの状況の厳しさが際立っている。困窮層における「大変苦しい」の割合は半数を超え、50.9%となっている。「やや苦しい」を加えると、困窮層では、９割以上が「苦しい」と回答している。

世帯タイプ別に暮らしの状況を見ると、ふたり親（二世代）世帯、ふたり親（三世代）世帯、ひとり親（三世代）世帯、ひとり親（二世代）世帯の順に「（大変、やや）ゆとりがある」の割合が低くなり、ふたり親（二世代）世帯、ふたり親（三世代）世帯、ひとり親（二世代）世帯、ひとり親（三世代）世帯の順に「（大変、やや）苦しい」が高くなる傾向が見られた。三世代世帯は二世代世帯より、ひとり親世帯はふたり親世帯より、暮らし向きが厳しい。

図表 3-3-13 暮らしの状況：全体、生活困難度別(***)



図表 3-3-14 暮らしの状況：全体、世帯タイプ別(***)



図表 3-3-15 暮らしの状況：全体、生活困難度別(***)、世帯タイプ別(***)

		該当数	大変ゆとりがある	ややゆとりがある	ふつう	やや苦しい	大変苦しい	無回答
全 体		1482	97	282	648	345	97	13
		100.0	6.5	19.0	43.7	23.3	6.5	0.9
生活困難度（***）	困窮層	55	0	0	2	25	28	0
		100.0	0.0	0.0	3.6	45.5	50.9	0.0
	周辺層	97	1	5	13	52	26	0
		100.0	1.0	5.2	13.4	53.6	26.8	0.0
	一般層	838	69	183	397	168	20	1
		100.0	8.2	21.8	47.4	20.0	2.4	0.1
世帯タイプ（***）	ふたり親（二世代）	1135	80	240	510	243	55	7
		100.0	7.0	21.1	44.9	21.4	4.8	0.6
	ふたり親（三世代）	111	11	16	47	27	9	1
		100.0	9.9	14.4	42.3	24.3	8.1	0.9
	ひとり親（二世代）	182	5	17	72	57	29	2
		100.0	2.7	9.3	39.6	31.3	15.9	1.1
	ひとり親（三世代）	32	1	3	11	14	3	0
		100.0	3.1	9.4	34.4	43.8	9.4	0.0

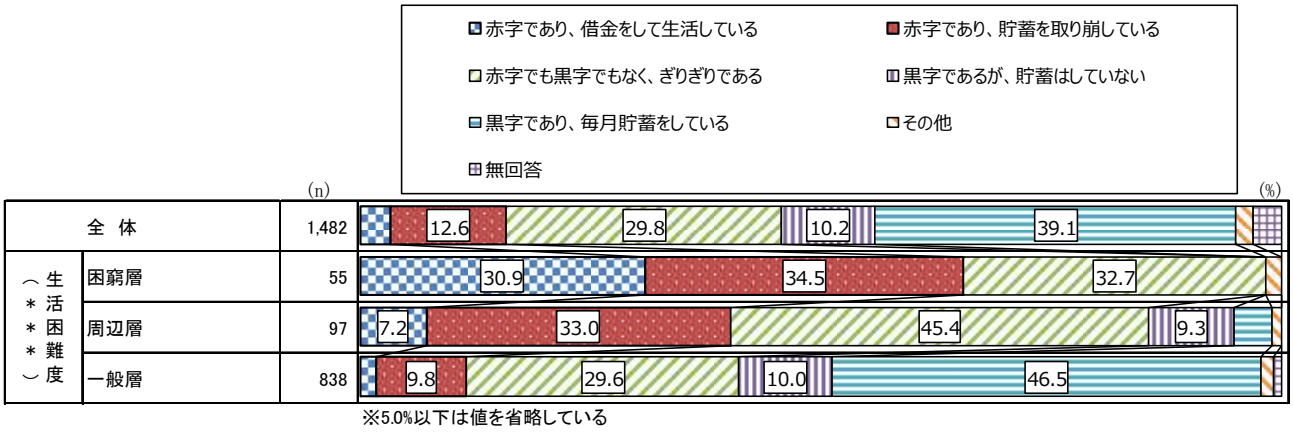
（５）家計の状況

世帯における家計の状況について、保護者に聞いた。すると、3.3%が「赤字であり、借金をして生活をしている」と回答している。また、12.6%が「赤字であり、貯蓄を取り崩している」としており、合わせて 15.9%が「赤字」であった。一方、39.1%は「黒字であり、毎月貯蓄をしている」と回答している。

生活困難度別に見ると、困窮層の 30.9%が「赤字であり、借金をして生活している」と回答している。「赤字であり貯蓄を取り崩している」世帯も 34.5%となっている。

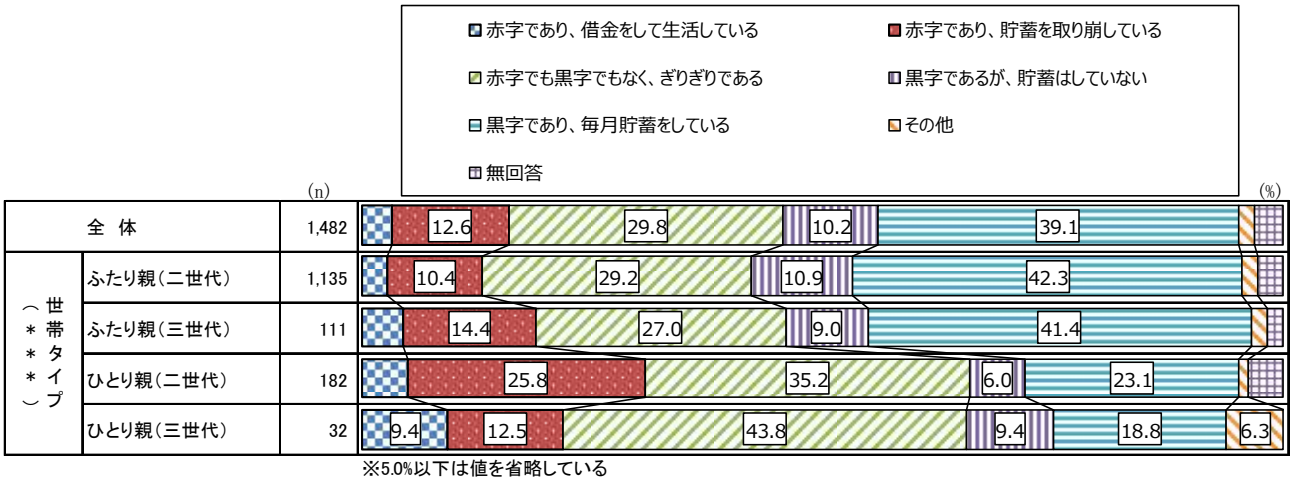
世帯タイプ別に見ると、ひとり親世帯においては、「黒字であり、毎月貯蓄をしている」の割合がふたり親世帯よりも低くなっている。また、ふたり親世帯の二世代世帯と三世代世帯を比べると、三世代世帯のほうが「黒字であり、毎月貯蓄」している割合が低い。一方、ひとり親世帯では、「赤字であり、借金」「赤字であり、貯蓄を取り崩し」を合算した割合が高くなっており、特に、ひとり親（二世代）世帯では３割を超えている。

図表 3-3-16 家計の状況：全体、生活困難度別(***)



※5.0%以下は値を省略している

図表 3-3-17 家計の状況：全体、世帯タイプ別(***)



※5.0%以下は値を省略している

図表 3-3-18 家計の状況：全体、生活困難度別(***)、世帯タイプ別(***)

		該当数	赤字であり、借金をして生活している	赤字であり、貯蓄を取り崩している	赤字でも黒字でもなく、ぎりぎりである	黒字であるが、貯蓄はしていない	黒字であり、毎月貯蓄をしている	その他	無回答
全 体		1,482	49	187	442	151	580	26	47
		100.0	3.3	12.6	29.8	10.2	39.1	1.8	3.2
（生活困難度＊＊＊）	困窮層	55	17	19	18	0	0	1	0
		100.0	30.9	34.5	32.7	0.0	0.0	1.8	0.0
	周辺層	97	7	32	44	9	4	1	0
		100.0	7.2	33.0	45.4	9.3	4.1	1.0	0.0
	一般層	838	15	82	248	84	390	12	7
		100.0	1.8	9.8	29.6	10.0	46.5	1.4	0.8
（世帯タイプ＊＊＊）	ふたり親（二世代）	1,135	31	118	331	124	480	19	32
		100.0	2.7	10.4	29.2	10.9	42.3	1.7	2.8
	ふたり親（三世代）	111	5	16	30	10	46	2	2
		100.0	4.5	14.4	27.0	9.0	41.4	1.8	1.8
	ひとり親（二世代）	182	9	47	64	11	42	2	7
		100.0	4.9	25.8	35.2	6.0	23.1	1.1	3.8
	ひとり親（三世代）	32	3	4	14	3	6	2	0
		100.0	9.4	12.5	43.8	9.4	18.8	6.3	0.0

４．住居の状況

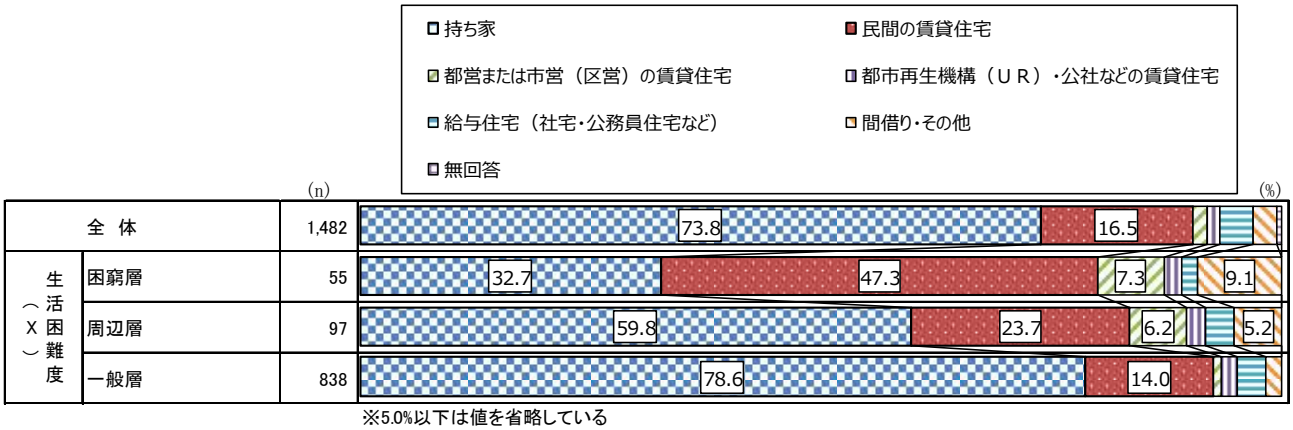
（１）住宅の種類

住宅の種類について見ると、73.8%が「持ち家」となっており、大多数を占める。「民間の賃貸住宅」は 16.5%であり、「給与住宅（社宅・公務員住宅）」「間借り・その他」も若干存在する。

生活困難度別に見ると、生活困難度が高いほど、「持ち家」の割合が低くなり、「民間の賃貸住宅」の割合が高くなっている。特に困窮層では 47.3%が「民間の賃貸住宅」に居住している。なお、無回答が困窮層・周辺層・一般層のいずれも 0 人であり、検定に馴染まなかったため、住宅の種類について、「持ち家」を選択しているか否かということについて統計的に有意な差があるかを確認した。その結果、統計的に有意であることが確認され、「持ち家」に住んでいる割合が、一般層では 78.6%であったのに対し、困窮層では 32.7%にとどまった。

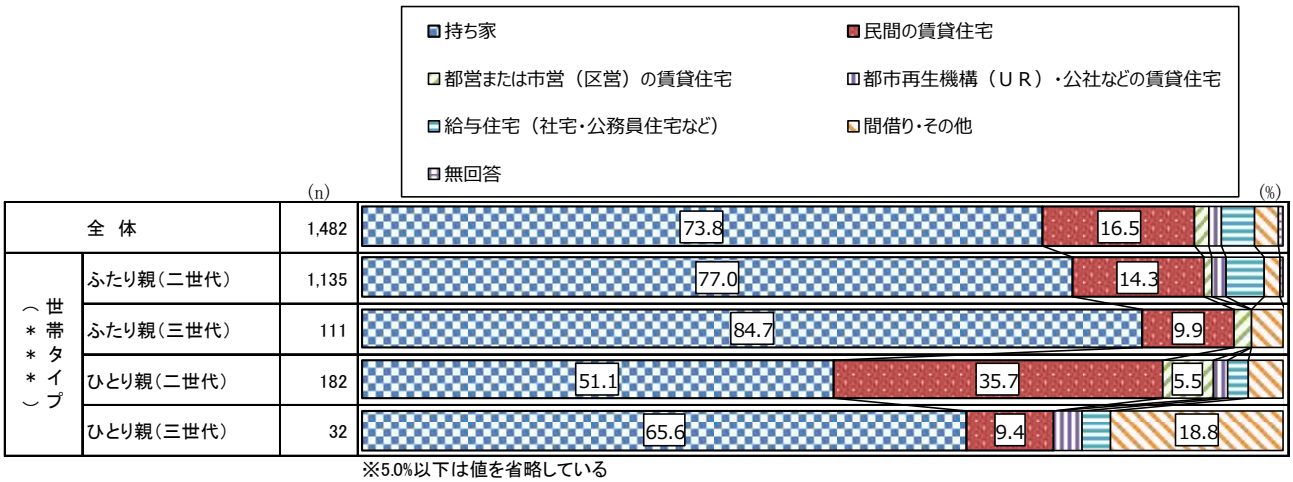
世帯タイプ別に見ると、統計的に有意な差が確認され、ふたり親（三世代）世帯において「持ち家」の割合が最も高く、ひとり親（二世代）世帯にて最も低い。ひとり親（二世代）世帯においては、「民間の賃貸住宅」の割合が他の世帯タイプより高いことが特徴である。

図表 3-4-1　住宅の種類：全体、生活困難度別(X)



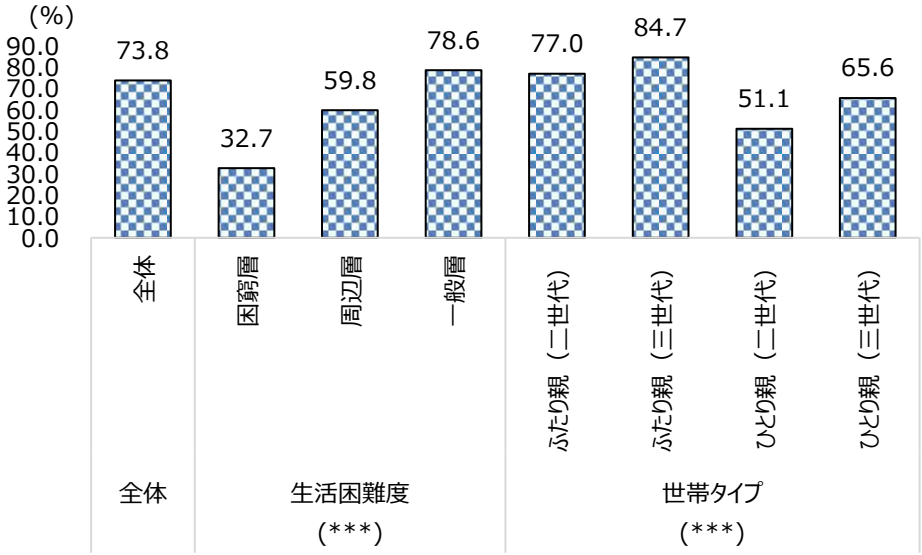
※5.0%以下は値を省略している

図表 3-4-2　住宅の種類：全体、世帯タイプ別(***)



※5.0%以下は値を省略している

図表 3-4-3 住宅の種類が「持ち家」である割合：全体、生活困難度別（*）、世帯タイプ別（***）**



図表 3-4-4 住宅の種類：全体、生活困難度別(X)、世帯タイプ別(***)

		該当数	持ち家	民間の賃貸住宅	都営または市営）区営（の賃貸住宅	都市再生機構（UR）・公社などの賃貸住宅	給与住宅（社宅・公務員住宅など）	間借り・その他	無回答
全 体		1,482	1,094	245	22	21	53	39	8
		100.0	73.8	16.5	1.5	1.4	3.6	2.6	0.5
生活困難度（X）	困窮層	55	18	26	4	1	1	5	0
		100.0	32.7	47.3	7.3	1.8	1.8	9.1	0.0
	周辺層	97	58	23	6	2	3	5	0
		100.0	59.8	23.7	6.2	2.1	3.1	5.2	0.0
	一般層	838	659	117	7	14	26	15	0
		100.0	78.6	14.0	0.8	1.7	3.1	1.8	0.0
世帯タイプ（***）	ふたり親（二世代）	1,135	874	162	10	17	47	21	4
		100.0	77.0	14.3	0.9	1.5	4.1	1.9	0.4
	ふたり親（三世代）	111	94	11	2	0	0	4	0
		100.0	84.7	9.9	1.8	0.0	0.0	3.6	0.0
	ひとり親（二世代）	182	93	65	10	3	4	7	0
		100.0	51.1	35.7	5.5	1.6	2.2	3.8	0.0
	ひとり親（三世代）	32	21	3	0	1	1	6	0
		100.0	65.6	9.4	0.0	3.1	3.1	18.8	0.0

（2）住宅費

保護者票にて持ち家の場合には毎月の住宅ローン返済額、賃貸の場合は毎月の家賃・間代の金額を聞いた。それぞれの平均金額を見ると、住宅ローン返済額は 97,016 円、家賃・間代の金額は 127,477 円であり、住宅ローン返済額よりも家賃・間代の方が高額だった。

住宅ローン返済額について「0 円」「1 円~10 万円未満」「10 万円~15 万円未満」「15 万円~20 万円未満」「20 万円~25 万円未満」「25 万円以上」に分けたうえで、分布を見ると、0 円が 29.9%、1 円～10 万円未満が 17.2%、10 万円～15 万円未満が 18.0%、15 万円～20 万円未満が 11.9%、20 万円～25 万円未満が 7.2%、25 万円以上が 6.0%であった。

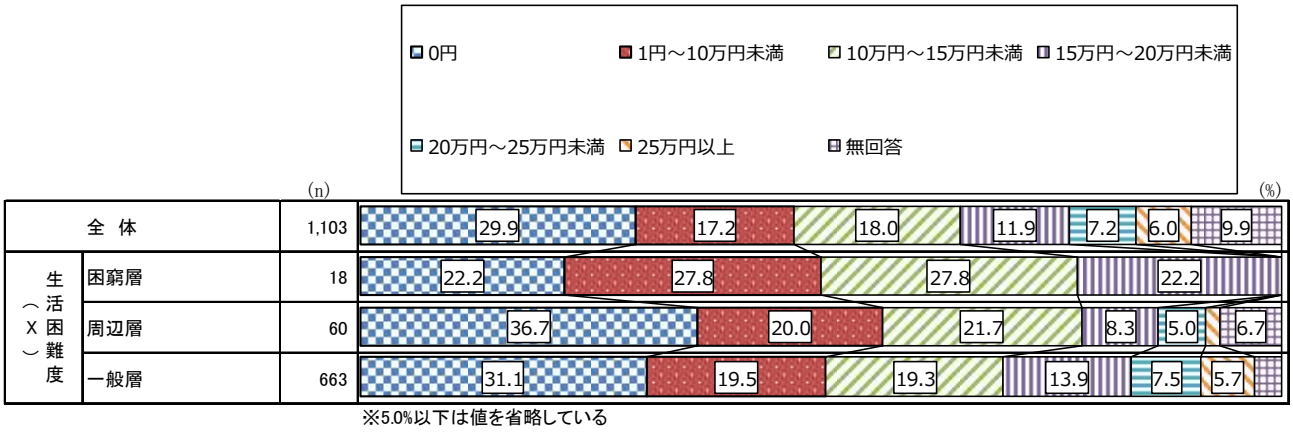
住宅ローン返済額を生活困難度別に見ると、統計的に有意な差は確認されず、住宅ローン返済額の負担の大きさが、持ち家を持つ生活困難層の生活を圧迫している可能性がある。

住宅ローン返済額を世帯タイプ別に見ると、統計的に有意な差が確認され、全体としてふたり親（二世代）世帯において住宅ローン返済額が高い傾向にあると言える。

図表 3-4-5　1か月あたりの住宅費の平均金額

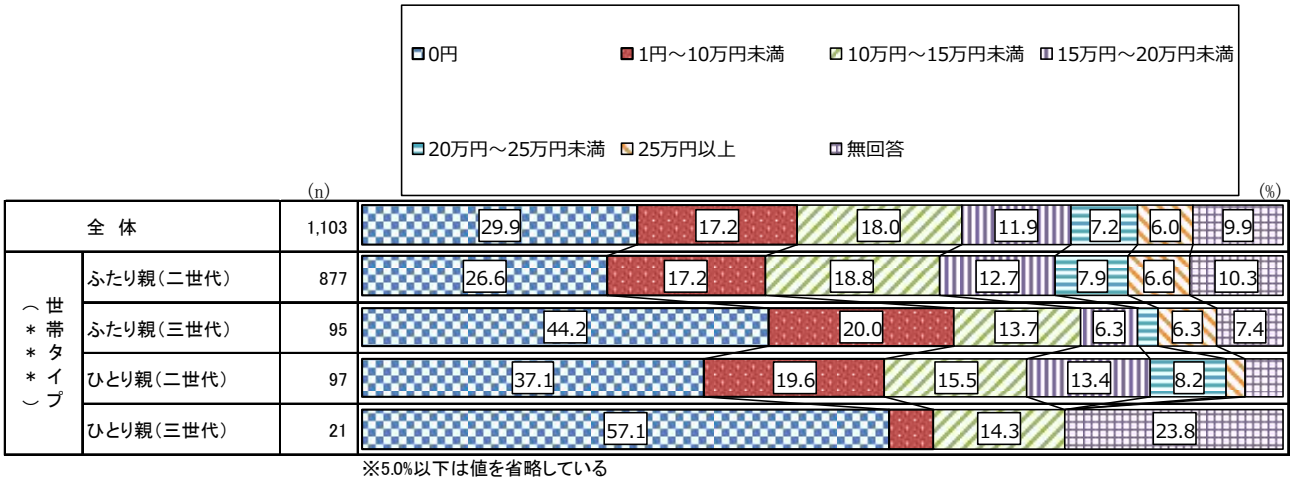
住宅ローン	97,016 円
家賃・間代	127,477 円

図表 3-4-6　1か月あたりの住宅ローン返済額：全体、生活困難度別(X)



※5.0%以下は値を省略している

図表 3-4-7　1か月あたりの住宅ローン返済額：全体、世帯タイプ別(***)



※5.0%以下は値を省略している

図表 3-4-8　1か月あたりの住宅ローン返済額：全体、生活困難度別(X)、世帯タイプ別(***)

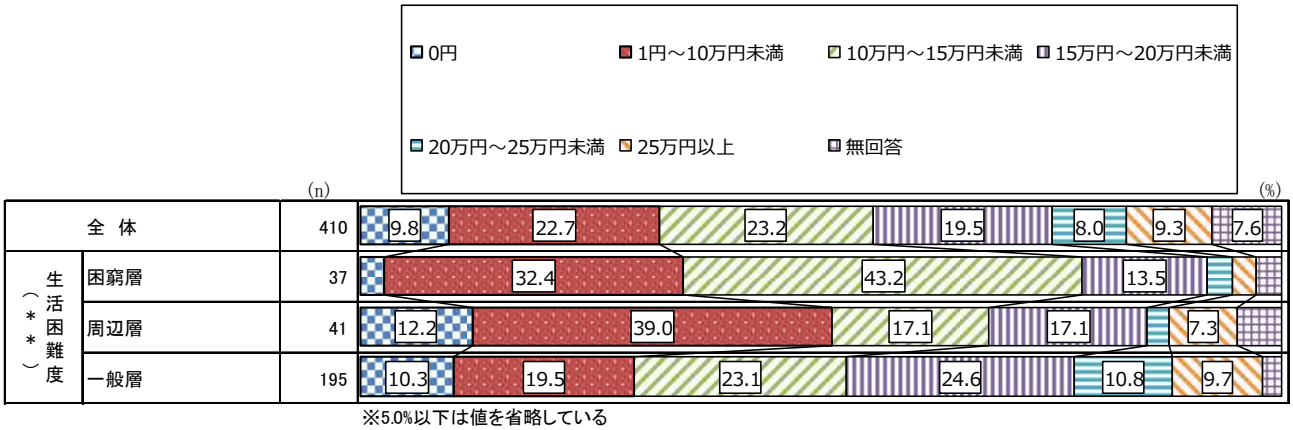
		該当数	0円	1円～10万円未満	10万円～15万円未満	15万円～20万円未満	20万円～25万円未満	25万円以上	無回答
全 体		1103	330	190	198	131	79	66	109
		100.0	29.9	17.2	18.0	11.9	7.2	6.0	9.9
（生活困難度X）	困窮層	18	4	5	5	4	0	0	0
		100.0	22.2	27.8	27.8	22.2	0.0	0.0	0.0
	周辺層	60	22	12	13	5	3	1	4
		100.0	36.7	20.0	21.7	8.3	5.0	1.7	6.7
	一般層	663	206	129	128	92	50	38	20
		100.0	31.1	19.5	19.3	13.9	7.5	5.7	3.0
（世帯タイプ***）	ふたり親（二世代）	877	233	151	165	111	69	58	90
		100.0	26.6	17.2	18.8	12.7	7.9	6.6	10.3
	ふたり親（三世代）	95	42	19	13	6	2	6	7
		100.0	44.2	20.0	13.7	6.3	2.1	6.3	7.4
	ひとり親（二世代）	97	36	19	15	13	8	2	4
		100.0	37.1	19.6	15.5	13.4	8.2	2.1	4.1
	ひとり親（三世代）	21	12	1	3	0	0	0	5
		100.0	57.1	4.8	14.3	0.0	0.0	0.0	23.8

家賃・間代について「0 円」「1 円~10 万円未満」「10 万円~15 万円未満」「15 万円~20 万円未満」「20 万円~25 万円未満」「25 万円以上」に分けたうえで、分布を見ると、0 円が 9.8%、1 円～10 万円未満が 22.7%、10 万円～15 万円未満が 23.2%、15 万円～20 万円未満が 19.5%、20 万円～25 万円未満が 8.0%、25 万円以上が 9.3%であった。

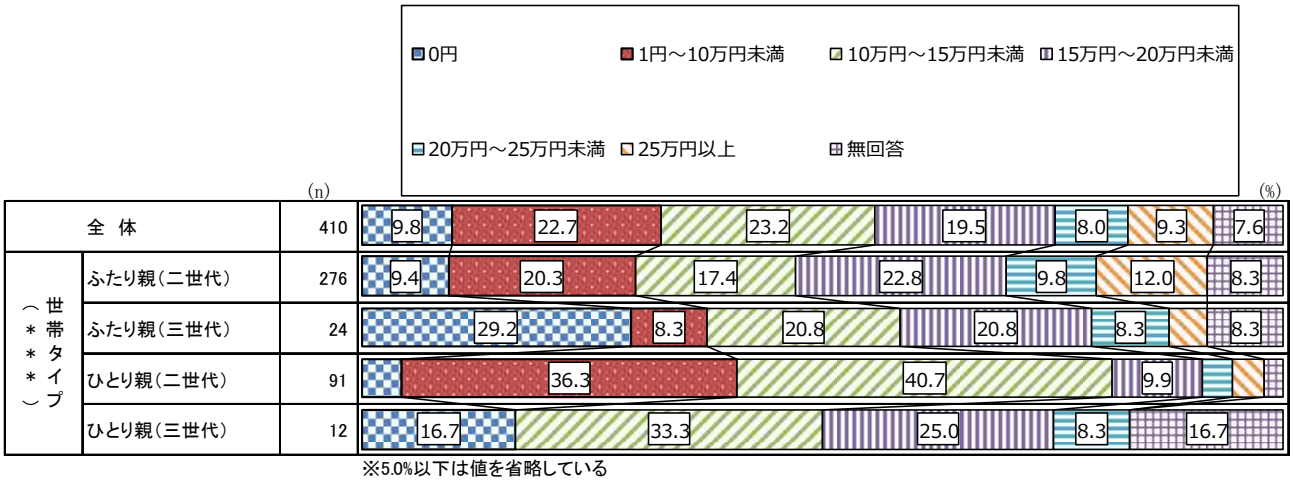
家賃・間代を生活困難度別に見ると、統計的に有意な差が確認され、全体として生活困難度が上がるほど、低額の家賃額が占める割合が高くなるものの、20 万円以上の家賃を支払う世帯が、周辺層においても 1 割程度存在する。

家賃・間代を世帯タイプ別に見ると、統計的に有意な差が確認され、全体としてひとり親（二世代）世帯において家賃額が低額な傾向にあると言える。

図表 3-4-9　1 か月あたりの家賃・間代額：全体、生活困難度別(**)



図表 3-4-10　1 か月あたりの家賃・間代額：全体、世帯タイプ別(***)



図表 3-4-11　1か月あたりの家賃･間代額：全体、生活困難度別(**)、世帯タイプ別(***)

		該当数	0円	1円～10万円未満	10万円～15万円未満	15万円～20万円未満	20万円～25万円未満	25万円以上	無回答
全　体		410	40	93	95	80	33	38	31
		100.0	9.8	22.7	23.2	19.5	8.0	9.3	7.6
生活困難度（**）	困窮層	37	1	12	16	5	1	1	1
		100.0	2.7	32.4	43.2	13.5	2.7	2.7	2.7
	周辺層	41	5	16	7	7	1	3	2
		100.0	12.2	39.0	17.1	17.1	2.4	7.3	4.9
	一般層	195	20	38	45	48	21	19	4
		100.0	10.3	19.5	23.1	24.6	10.8	9.7	2.1
世帯タイプ（***）	ふたり親（二世代）	276	26	56	48	63	27	33	23
		100.0	9.4	20.3	17.4	22.8	9.8	12.0	8.3
	ふたり親（三世代）	24	7	2	5	5	2	1	2
		100.0	29.2	8.3	20.8	20.8	8.3	4.2	8.3
	ひとり親（二世代）	91	4	33	37	9	3	3	2
		100.0	4.4	36.3	40.7	9.9	3.3	3.3	2.2
	ひとり親（三世代）	12	2	0	4	3	1	0	2
		100.0	16.7	0.0	33.3	25.0	8.3	0.0	16.7

５．まとめ

（１）世田谷区における子育て世帯の生活困難度

世田谷区にて生活困難を抱える高校生世代の割合は、判別不可を除いて 15.4%である。世田谷区においても、困窮層、周辺層を合わせる１割半ばを超える子どもが生活困難層に該当する（**図表 3-2-1**、**図表 3-2-2**、**図表 3-2-4**）。世帯タイプ別に見ると、ひとり親（二世代）世帯、ひとり親（三世代）世帯の生活困難度が高い（**図表 3-2-5**、**図表 3-2-6**）。一方で、「生活困難層」と判断される子どもの世帯タイプを見ると、困窮層では５割、周辺層では７割弱の子どもはふたり親世帯に属する（**図表 3-2-7**、**図表 3-2-8**）。すなわち、世田谷区において、生活困難層を対象とする施策を行う時には、ひとり親世帯のみを対象としたものでは過半数の生活困難層の子どもには届かない。

学校のタイプ別では、困窮層であっても私立学校に通う率が 49.1%であり、約２人に１人存在することも重要である（**図表 3-2-13**、**図表 3-2-14**）。このことは、厳しい家計をさらに圧迫する理由になっていると考えられる。また、5 つの地域（世田谷、北沢、玉川、砧、烏山）別の生活困難度の分布の差は統計的には有意となっていない（**図表 3-2-17**、**図表 3-2-18**）。

（２）食料・衣類が買えなかった経験・公共料金等が払えなかった経験

食料が買えなかった経験、衣類が買えなかった経験、公共料金等が払えなかった経験などの生活困難の実態については、これらの経験を持つ世帯は少ない。しかしながら、生活困難度別、世帯タイプ別に集計すると、困窮層・周辺層において生活が困窮していることが伺える。具体的には、困窮層の 38.2%、ひとり親（二世代）世帯の 8.8%が過去 1 年間に家族が必要な食料が買えなかった経験（「よくあった」「ときどきあった」）がある（**図表 3-3-1**、**図表 3-3-2**、**図表 3-3-3**、**図表 3-3-4**）。また、困窮層の 50.9%、ひとり親（二世代）世帯の 9.3%が過去１年間に家族が必要な衣類を買えなかった経験（「よくあった」「ときどきあった」）がある（**図表 3-3-5**、**図表 3-3-6**、**図表 3-3-7**、**図表 3-3-8**）。また、困窮層では、約２～４割の世帯にて、過去１年間に電話、電気、ガス、水道、家賃、その他債務の支払いが経済的な理由でできなかった経験がある（**図表 3-3-9**、**図表 3-3-11**）。

（３）家計の状況・住居の状況

家計の状況について、15.9%が赤字であった。特に、赤字である割合が困窮層では 65.4%にものぼっている（**図表 3-3-16**、**図表 3-3-18**）。また、困窮層においては「持ち家」の割合が低く、「民間の賃貸住宅」が、困窮層において約半数を占めている（**図表 3-4-1**、**図表 3-4-3**、**図表 3-4-4**）。また、20 万円以上の家賃を支払う世帯が、周辺層においても 1 割程度存在している（**図表 3-4-9**、**図表 3-4-11**）。このことから、生活困難層の家計が家賃によって圧迫されている可能性が示唆される。

第４章　子どもの生活

１．子どもの食

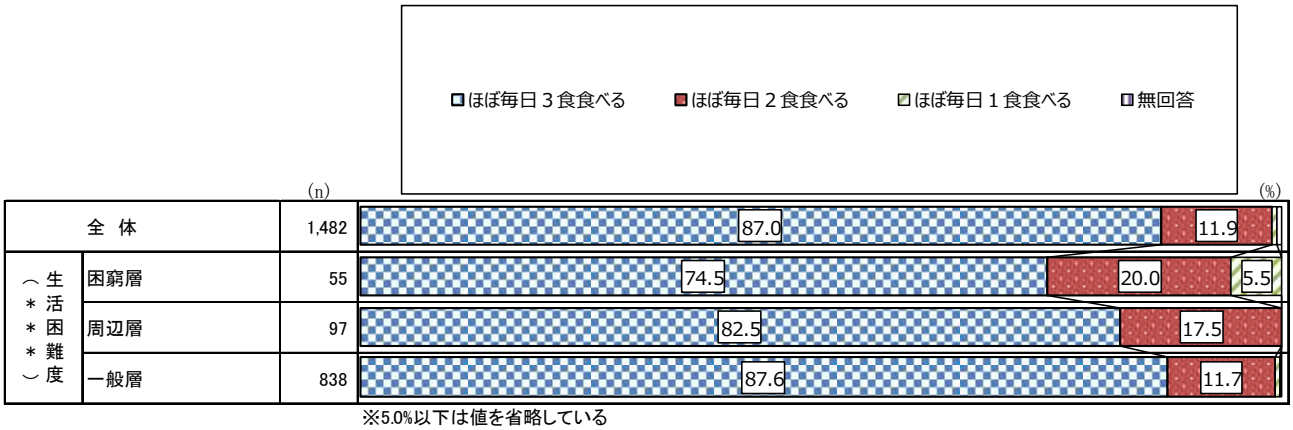
（１）平日の食事回数

子どもの食生活の状況を把握するために、子ども本人に平日に食事をとる頻度について聞いた。その結果、全体の87.0%が「ほぼ毎日３食食べる」と回答していた。

生活困難度別に見たところ、統計的に有意な差が確認された。具体的には「ほぼ毎日３食食べる」と答えた子どもの割合が、一般層では 87.6%、周辺層では 82.5%であったのに対し、困窮層では 74.5%であった。生活が困窮するほど、食事をする頻度が低くなる傾向がある。

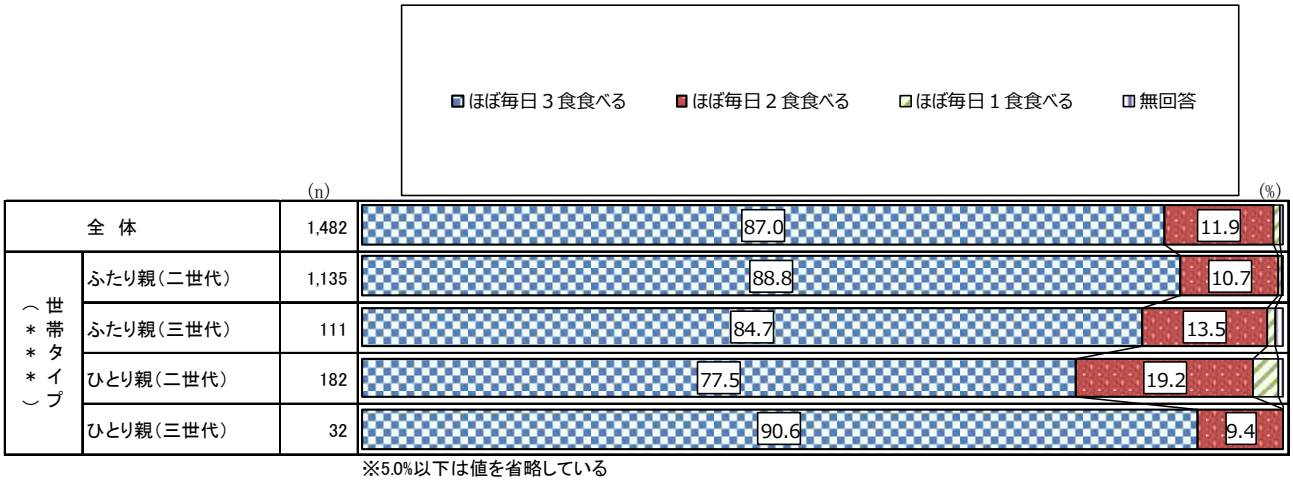
世帯タイプ別に見たところ、統計的に有意な差が確認された。具体的には、「ほぼ毎日３食食べる」と答えた子どもの割合が、ふたり親（二世代）世帯は 88.8%、ふたり親（三世代）世帯は 84.7%、ひとり親（三世代）世帯は 90.6%であるのに対し、ひとり親（二世代）世帯は 77.5%であった。ひとり親（二世代）世帯は、他の世帯タイプより食事をとる頻度が低い傾向にある。

図表 4-1-1　平日の食事回数：全体、生活困難度別(***)



※5.0%以下は値を省略している

図表 4-1-2 平日の食事回数：全体、世帯タイプ別(***)



※5.0%以下は値を省略している

図表 4-1-3 平日の食事回数：全体、生活困難度別(***)、世帯タイプ別(***)

		該当数	ほぼ毎日３食食べる	ほぼ毎日２食食べる	ほぼ毎日１食食べる	無回答
全 体		1,482	1,289	177	9	7
		100.0	87.0	11.9	0.6	0.5
（生活困難度***）	困窮層	55	41	11	3	0
		100.0	74.5	20.0	5.5	0.0
	周辺層	97	80	17	0	0
		100.0	82.5	17.5	0.0	0.0
	一般層	838	734	98	4	2
		100.0	87.6	11.7	0.5	0.2
（世帯タイプ***）	ふたり親（二世代）	1,135	1,008	121	3	3
		100.0	88.8	10.7	0.3	0.3
	ふたり親（三世代）	111	94	15	1	1
		100.0	84.7	13.5	0.9	0.9
	ひとり親（二世代）	182	141	35	5	1
		100.0	77.5	19.2	2.7	0.5
	ひとり親（三世代）	32	29	3	0	0
		100.0	90.6	9.4	0.0	0.0

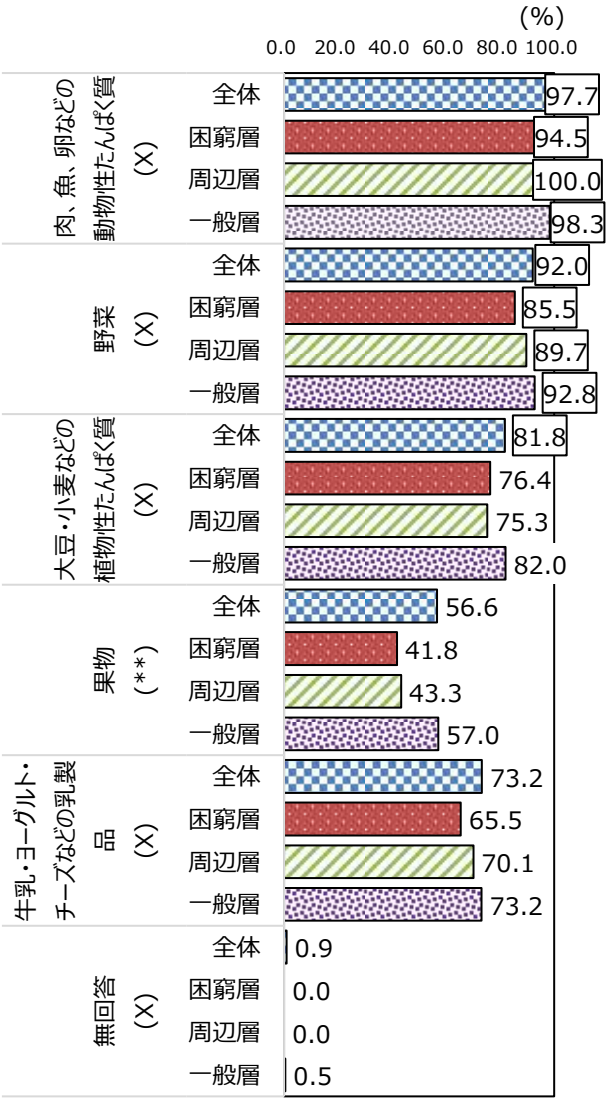
（２）食品群別の摂取頻度

子どもに、「肉、魚、卵などの動物性たんぱく質」「野菜」「大豆・小麦などの植物性たんぱく質」「果物」「牛乳・ヨーグルト・チーズなどの乳製品」を１日１回は食べているか聞いたところ、「肉、魚、卵などの動物性たんぱく質」は 97.7%、「野菜」は 92.0%、「大豆・小麦などの植物性たんぱく質」は 81.8%、「果物」は 56.6%、「牛乳・ヨーグルト・チーズなどの乳製品」は 73.2%が「食べている」と回答した。

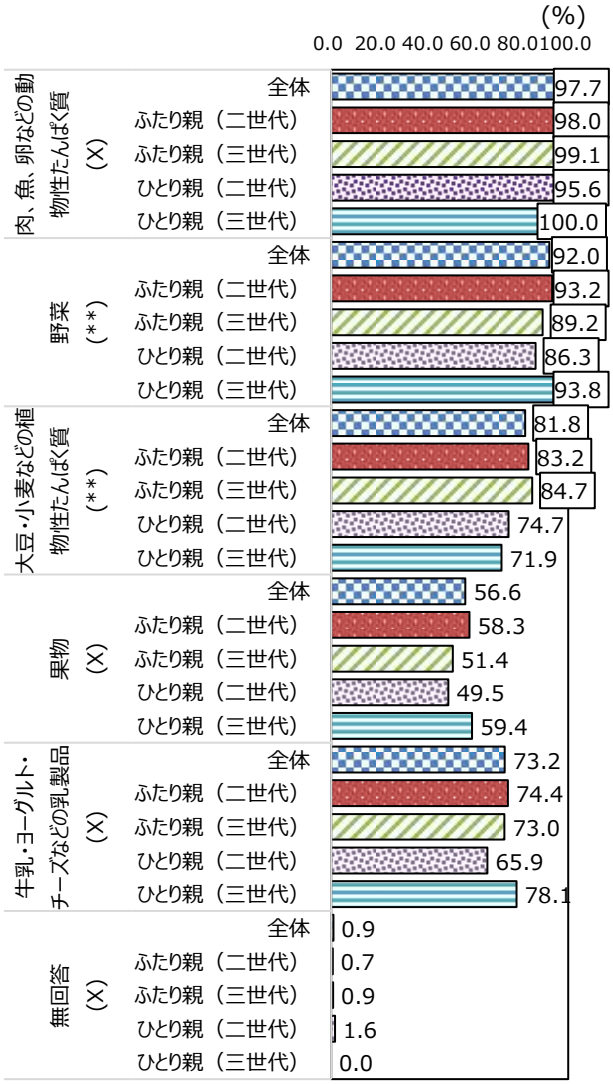
生活困難度別に見たところ、「果物」で統計的に有意な差が確認され、一般層では 57.0%が「1 日 1 回は食べている」と回答したのに対し、困窮層では 41.8%にとどまった。

世帯タイプ別に見たところ、「野菜」「大豆・小麦などの植物性たんぱく質」で統計的に有意な差が確認され、「野菜」はひとり親（二世代）世帯で、「大豆・小麦などの植物性たんぱく質」はひとり親（二世代）世帯およびひとり親（三世代）世帯にて食べている割合が低い傾向が見られた。

図表 4-1-4　食品群別の摂取頻度：全体、生活困難度別



図表 4-1-5 食品群別の摂取頻度：全体、世帯タイプ別



図表 4-1-6 食品群別の摂取頻度：全体、生活困難度別、世帯タイプ別

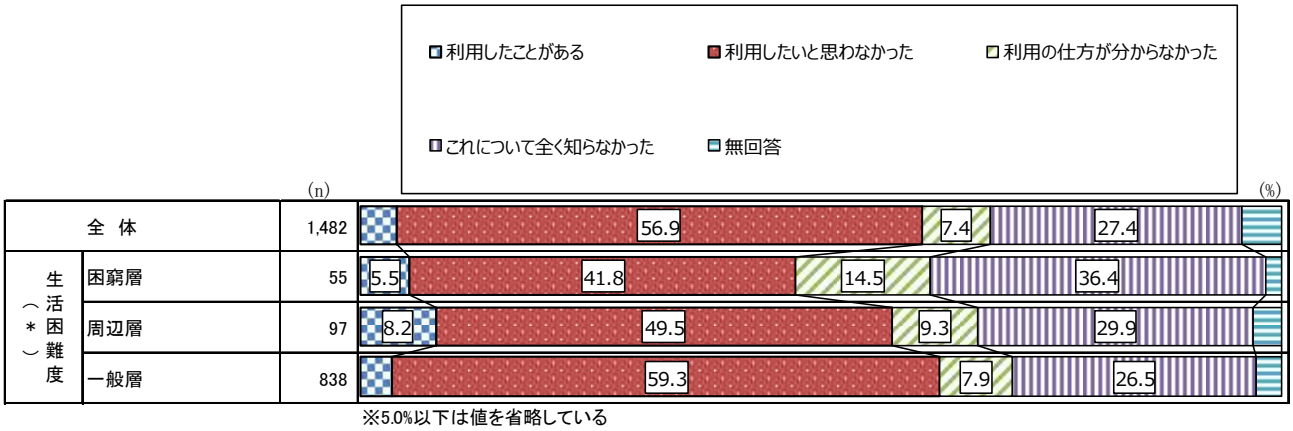
		該当数	肉、魚、卵などの動物性たんぱく質	野菜	大豆・小麦などの植物性たんぱく質	果物	牛乳・ヨーグルト・チーズなどの乳製品	無回答
全 体		1,482	1,448	1,364	1,212	839	1,085	14
		100.0	97.7	92.0	81.8	56.6	73.2	0.9
生活困難度	困窮層	55	52	47	42	23	36	0
		100.0	94.5	85.5	76.4	41.8	65.5	0.0
	周辺層	97	97	87	73	42	68	0
		100.0	100.0	89.7	75.3	43.3	70.1	0.0
	一般層	838	824	778	687	478	613	4
		100.0	98.3	92.8	82.0	57.0	73.2	0.5
世帯タイプ	ふたり親（二世代）	1,135	1,112	1,058	944	662	845	8
		100.0	98.0	93.2	83.2	58.3	74.4	0.7
	ふたり親（三世代）	111	110	99	94	57	81	1
		100.0	99.1	89.2	84.7	51.4	73.0	0.9
	ひとり親（二世代）	182	174	157	136	90	120	3
		100.0	95.6	86.3	74.7	49.5	65.9	1.6
	ひとり親（三世代）	32	32	30	23	19	25	0
		100.0	100.0	93.8	71.9	59.4	78.1	0.0

（３）食に関する支援事業

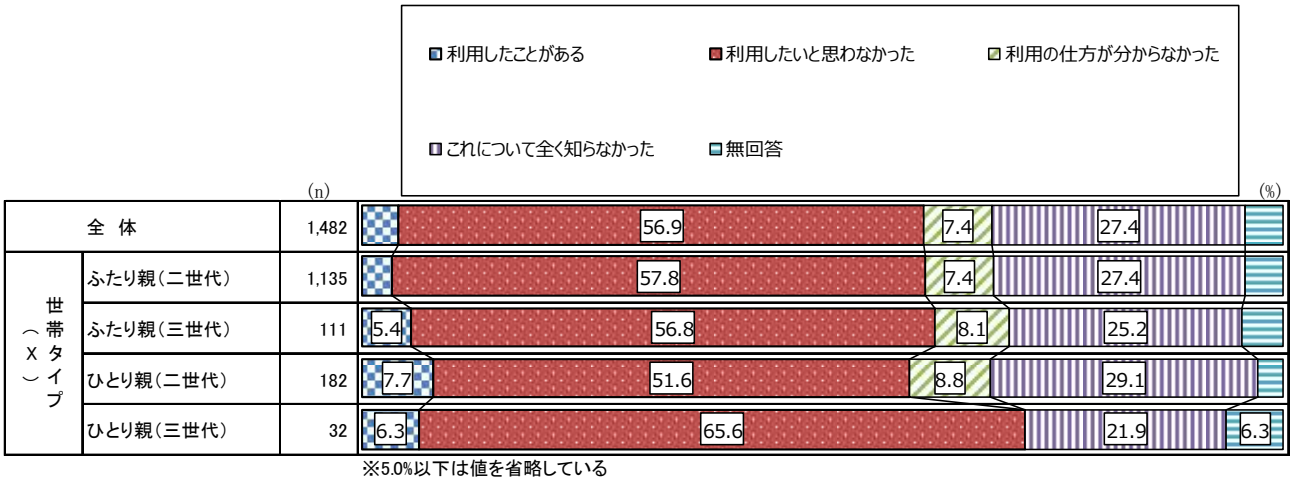
次に、子ども本人に食に関する支援事業の認知と利用状況について聞いた。まず、子ども食堂について使ってみたことがあるかを聞いたところ、「利用したことがある」と回答した割合は 4.0%であり、27.4%は「これについて全く知らなかった」と回答している。

生活困難度別に見ると、統計的に有意な差が確認された。「利用したいと思わなかった」と回答する割合が困窮層では少なくなる傾向が見られた。一方で、「利用の仕方が分からなかった」「これについて全く知らなかった」割合が一般層では 34.4%であったのに対し、困窮層では 50.9%にのぼった。これは、子ども食堂について情報が行き届いていないことを示唆している。なお、世帯タイプ別には、統計的に有意な差が確認されなかった。

図表 4-1-7 子ども食堂の利用状況：全体、生活困難度別(*)



図表 4-1-8 子ども食堂の利用状況：全体、世帯タイプ別(X)



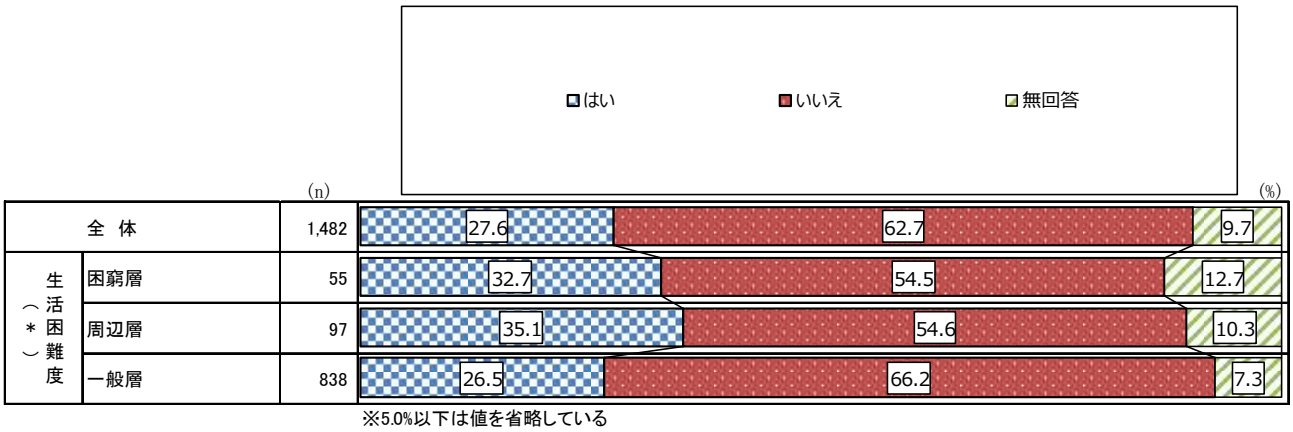
図表 4-1-9 子ども食堂の利用状況：全体、生活困難度別(*)、世帯タイプ別(X)

		該当数	利用したことがある	利用したいと思わなかった	利用の仕方が分からなかった	これについて全く知らなかった	無回答
全 体		1,482	60	843	110	406	63
		100.0	4.0	56.9	7.4	27.4	4.3
生活困難度（*）	困窮層	55	3	23	8	20	1
		100.0	5.5	41.8	14.5	36.4	1.8
	周辺層	97	8	48	9	29	3
		100.0	8.2	49.5	9.3	29.9	3.1
	一般層	838	30	497	66	222	23
		100.0	3.6	59.3	7.9	26.5	2.7
世帯タイプ（X）	ふたり親（二世代）	1,135	37	656	84	311	47
		100.0	3.3	57.8	7.4	27.4	4.1
	ふたり親（三世代）	111	6	63	9	28	5
		100.0	5.4	56.8	8.1	25.2	4.5
	ひとり親（二世代）	182	14	94	16	53	5
		100.0	7.7	51.6	8.8	29.1	2.7
	ひとり親（三世代）	32	2	21	0	7	2
		100.0	6.3	65.6	0.0	21.9	6.3

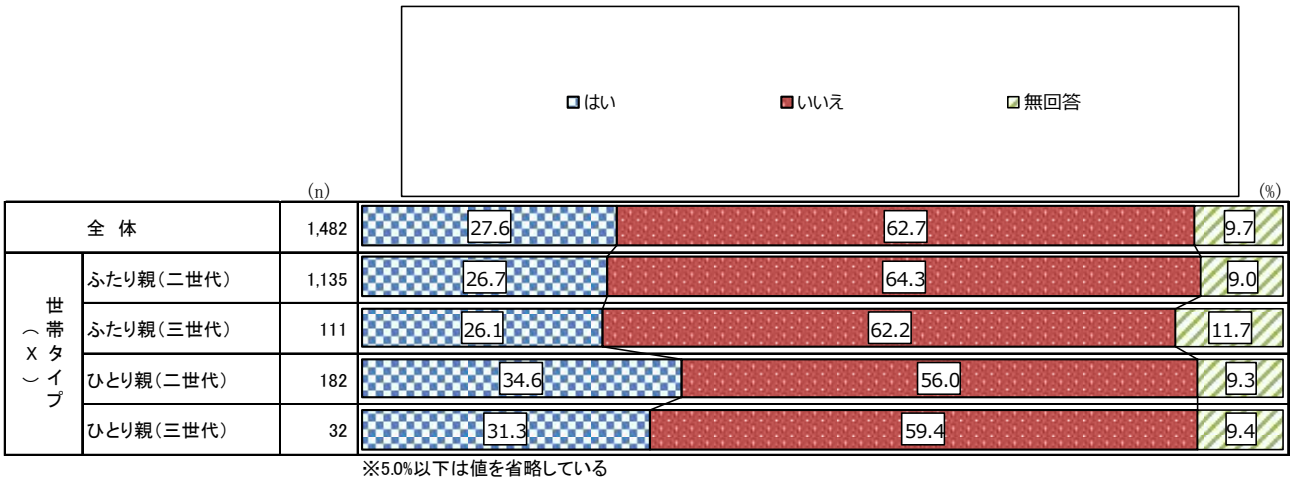
次に、子ども食堂の利用意向について、「機会があれば、利用したいか」という質問により聞いたところ、「はい」と回答した割合は 27.6%であった。

生活困難度別に見ると、統計的に有意な差が確認され、「はい」と回答した割合は一般層では 26.5%であったのに対し、困窮層では 32.7%、周辺層では 35.1%にのぼった。なお、世帯タイプ別には、統計的に有意な差が確認されなかった。

図表 4-1-10 子ども食堂の利用意向：全体、生活困難度別(*)



図表 4-1-11 子ども食堂の利用意向：全体、世帯タイプ別(X)



図表 4-1-12 子ども食堂の利用意向：全体、生活困難度別(*)、世帯タイプ別(X)

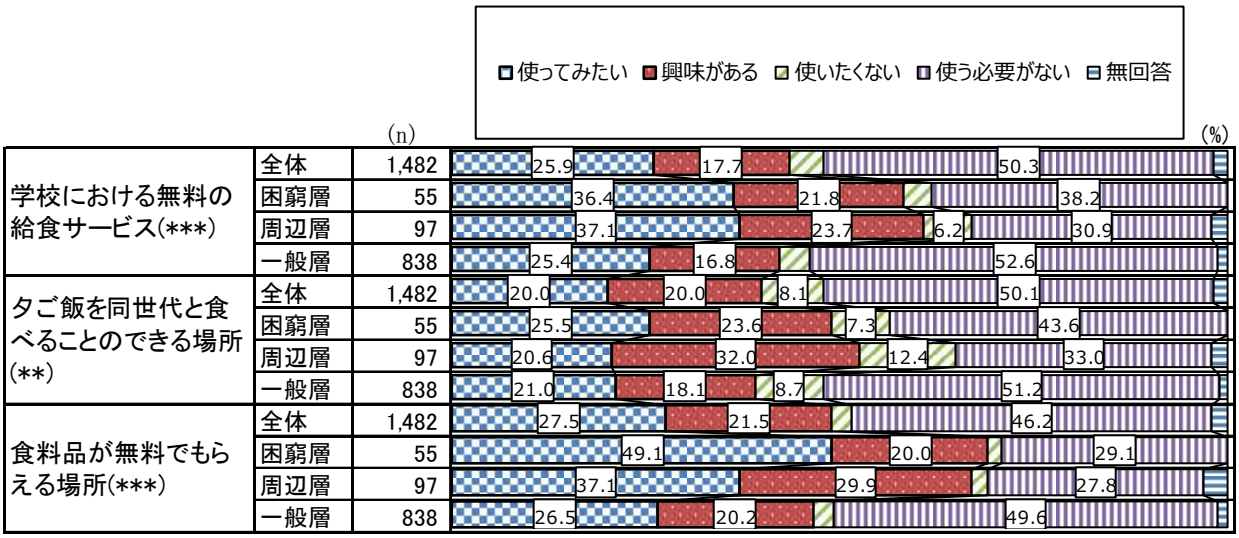
		該当数	はい	いいえ	無回答
全 体		1,482	409	929	144
		100.0	27.6	62.7	9.7
生活困難度（*）	困窮層	55	18	30	7
		100.0	32.7	54.5	12.7
	周辺層	97	34	53	10
		100.0	35.1	54.6	10.3
	一般層	838	222	555	61
		100.0	26.5	66.2	7.3
世帯タイプ（X）	ふたり親（二世代）	1,135	303	730	102
		100.0	26.7	64.3	9.0
	ふたり親（三世代）	111	29	69	13
		100.0	26.1	62.2	11.7
	ひとり親（二世代）	182	63	102	17
		100.0	34.6	56.0	9.3
	ひとり親（三世代）	32	10	19	3
		100.0	31.3	59.4	9.4

次に、「学校における無料の給食サービス」「夕ご飯を同世代と食べることのできる場所」「食料品が無料でもらえる場所」といった支援事業について、利用に対する関心の度合いを聞いたところ、「学校における無料の給食サービス」は43.6%が、「夕ご飯を同世代と食べることができる場所」は 40.0%が、「食料品が無料でもらえる場所」は 49.0%が、「使ってみたい」または「興味がある」と回答していた。

生活困難度別に見ると、「学校における無料の給食サービス」「夕ご飯を同世代と食べることのできる場所」「食料品が無料でもらえる場所」のいずれの項目でも統計的に有意な差が確認され、一般層よりも、生活困難層の方が「使ってみたい」または「関心がある」と回答した割合が高く、困窮層では、「学校における無料の給食サービス」は 58.2%が、「夕ご飯を同世代と食べることができる場所」は 49.1%が、「食料品が無料でもらえる場所」は 69.1%が、「使ってみたい」または「興味がある」と回答していた。

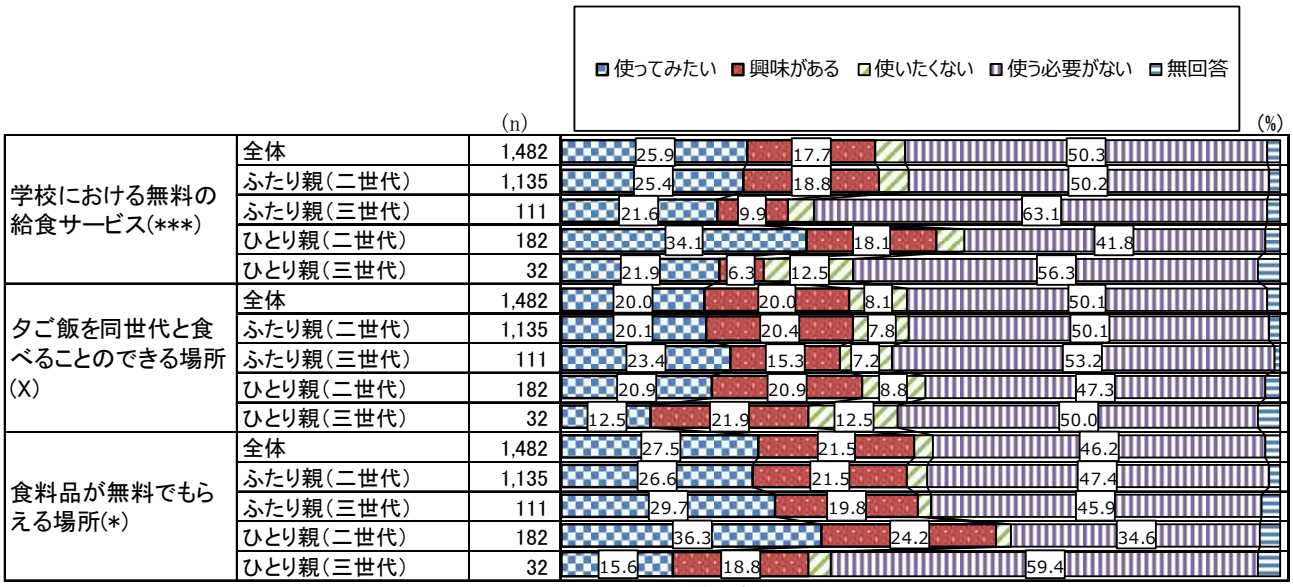
世帯タイプ別に見ると、「学校における無料の給食サービス」「食料品が無料でもらえる場所」にて統計的に有意な差が確認された。特にひとり親（二世代）世帯にて「使ってみたい」または「関心がある」と回答した割合が高く、「学校における無料の給食サービス」では 52.2%、「食料品が無料でもらえる場所」では 60.5%にのぼった。

図表 4-1-13 食に関する各種支援事業の利用意向：全体、生活困難度別



※5.0%以下は値を省略している

図表 4-1-14 食に関する各種支援事業の利用意向：全体、世帯タイプ別



※5.0%以下は値を省略している

図表 4-1-15 食に関する各種支援事業の利用意向：全体、生活困難度別

		該当数	使ってみたい	興味がある	使いたくない	使う必要がない	無回答
学校における無料の給食サービス（＊＊＊＊）	全体	1,482	384	262	63	745	28
		100.0	25.9	17.7	4.3	50.3	1.9
	困窮層	55	20	12	2	21	0
		100.0	36.4	21.8	3.6	38.2	0.0
	周辺層	97	36	23	6	30	2
		100.0	37.1	23.7	6.2	30.9	2.1
	一般層	838	213	141	33	441	10
		100.0	25.4	16.8	3.9	52.6	1.2
夕ご飯を同世代と食べることのできる場所（＊＊＊）	全体	1,482	296	296	120	743	27
		100.0	20.0	20.0	8.1	50.1	1.8
	困窮層	55	14	13	4	24	0
		100.0	25.5	23.6	7.3	43.6	0.0
	周辺層	97	20	31	12	32	2
		100.0	20.6	32.0	12.4	33.0	2.1
	一般層	838	176	152	73	429	8
		100.0	21.0	18.1	8.7	51.2	1.0
食料品が無料でもらえる場所（＊＊＊）	全体	1,482	407	319	39	685	32
		100.0	27.5	21.5	2.6	46.2	2.2
	困窮層	55	27	11	1	16	0
		100.0	49.1	20.0	1.8	29.1	0.0
	周辺層	97	36	29	2	27	3
		100.0	37.1	29.9	2.1	27.8	3.1
	一般層	838	222	169	21	416	10
		100.0	26.5	20.2	2.5	49.6	1.2

図表 4-1-16 食に関する各種支援事業の利用意向：全体、世帯タイプ別

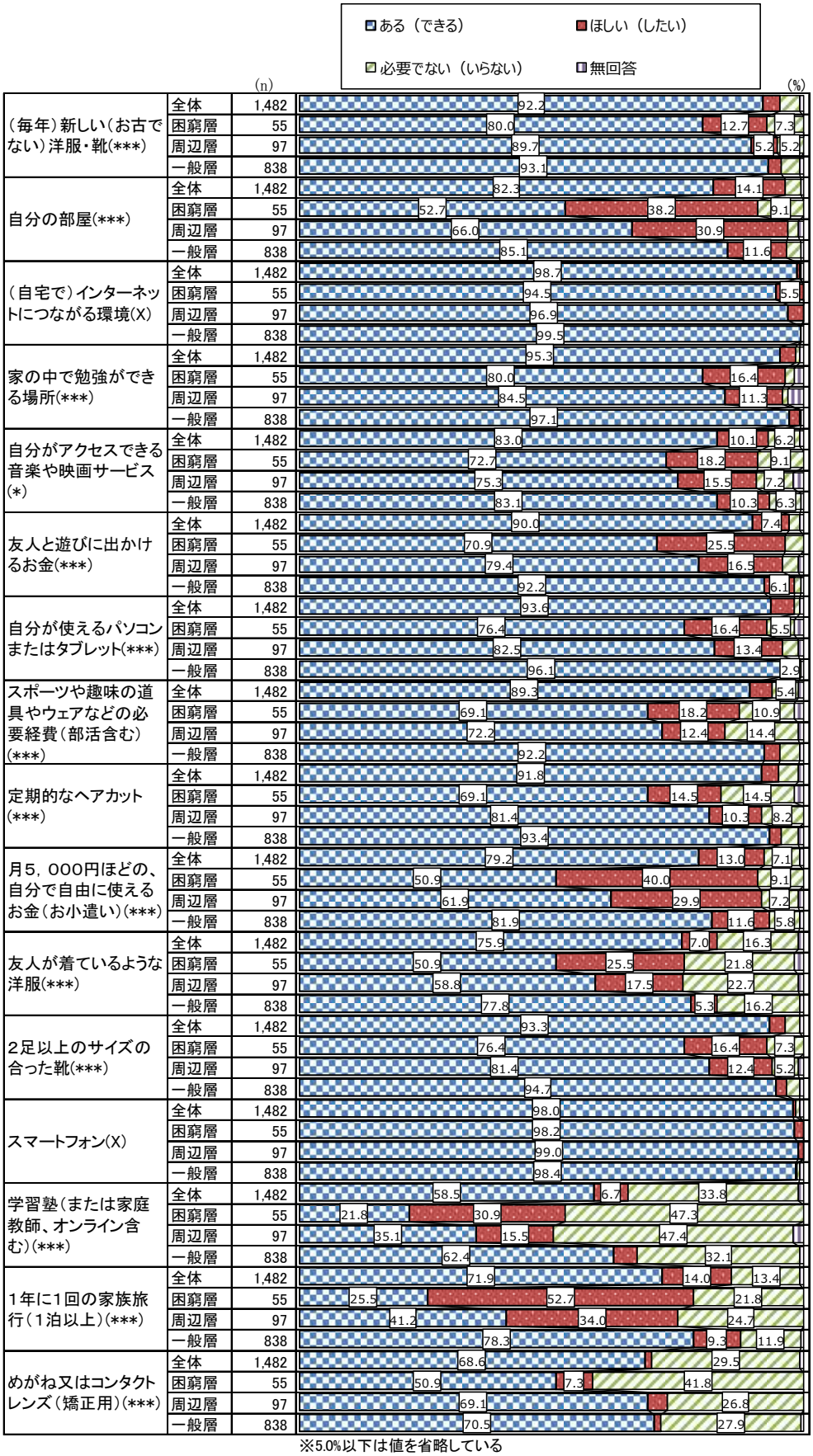
		該当数	使ってみたい	興味がある	使いたくない	使う必要がない	無回答
学校における無料の給食サービス（＊＊＊）	全体	1,482	384	262	63	745	28
		100.0	25.9	17.7	4.3	50.3	1.9
	ふたり親（二世代）	1,135	288	213	46	570	18
		100.0	25.4	18.8	4.1	50.2	1.6
	ふたり親（三世代）	111	24	11	4	70	2
		100.0	21.6	9.9	3.6	63.1	1.8
	ひとり親（二世代）	182	62	33	7	76	4
		100.0	34.1	18.1	3.8	41.8	2.2
	ひとり親（三世代）	32	7	2	4	18	1
		100.0	21.9	6.3	12.5	56.3	3.1
夕ご飯を同世代と食べることのできる場所（Ｘ）	全体	1,482	296	296	120	743	27
		100.0	20.0	20.0	8.1	50.1	1.8
	ふたり親（二世代）	1,135	228	232	89	569	17
		100.0	20.1	20.4	7.8	50.1	1.5
	ふたり親（三世代）	111	26	17	8	59	1
		100.0	23.4	15.3	7.2	53.2	0.9
	ひとり親（二世代）	182	38	38	16	86	4
		100.0	20.9	20.9	8.8	47.3	2.2
	ひとり親（三世代）	32	4	7	4	16	1
		100.0	12.5	21.9	12.5	50.0	3.1
食料品が無料でもらえる場所（＊）	全体	1,482	407	319	39	685	32
		100.0	27.5	21.5	2.6	46.2	2.2
	ふたり親（二世代）	1,135	302	244	32	538	19
		100.0	26.6	21.5	2.8	47.4	1.7
	ふたり親（三世代）	111	33	22	2	51	3
		100.0	29.7	19.8	1.8	45.9	2.7
	ひとり親（二世代）	182	66	44	4	63	5
		100.0	36.3	24.2	2.2	34.6	2.7
	ひとり親（三世代）	32	5	6	1	19	1
		100.0	15.6	18.8	3.1	59.4	3.1

２．子どもの所有物・体験

子ども本人に、現在の日本において多くの子どもが所有している物品等について「ある」「ほしい（したい）」「必要でない（いらない）」の選択肢で所有・体験の状況を聞いた。「ある（できる）」と回答した割合が高い項目は「（自宅で）インターネットにつながる環境」「スマートフォン」「家の中で勉強ができる場所」、反対に「ある（できる）」と回答した割合が低い項目は「学習塾（または家庭教師、オンライン含む）」「めがね又はコンタクトレンズ」「１年に１回の家族旅行（１泊以上）」だった。

生活困難度別に見ると、「（自宅で）インターネットがつながる環境」「スマートフォン」以外の項目で統計的に有意な差が確認され、一般層よりも生活困難層の方が「ほしい（したい）」と回答した割合が高い傾向が見られた。「自分の部屋」「学習塾（または家庭教師、オンライン含む）」「１年に１回の家族旅行（１泊以上）」については、全体では 82.3%、58.5%、71.9%が所有・体験していたのに対し、困窮層では 52.7%、21.8%、25.5%にとどまった。

図表 4-2-1　子どもの所有物・体験：全体、生活困難度別



※5.0%以下は値を省略している

図表 4-2-2 子どもの所有物・体験：全体、生活困難度別

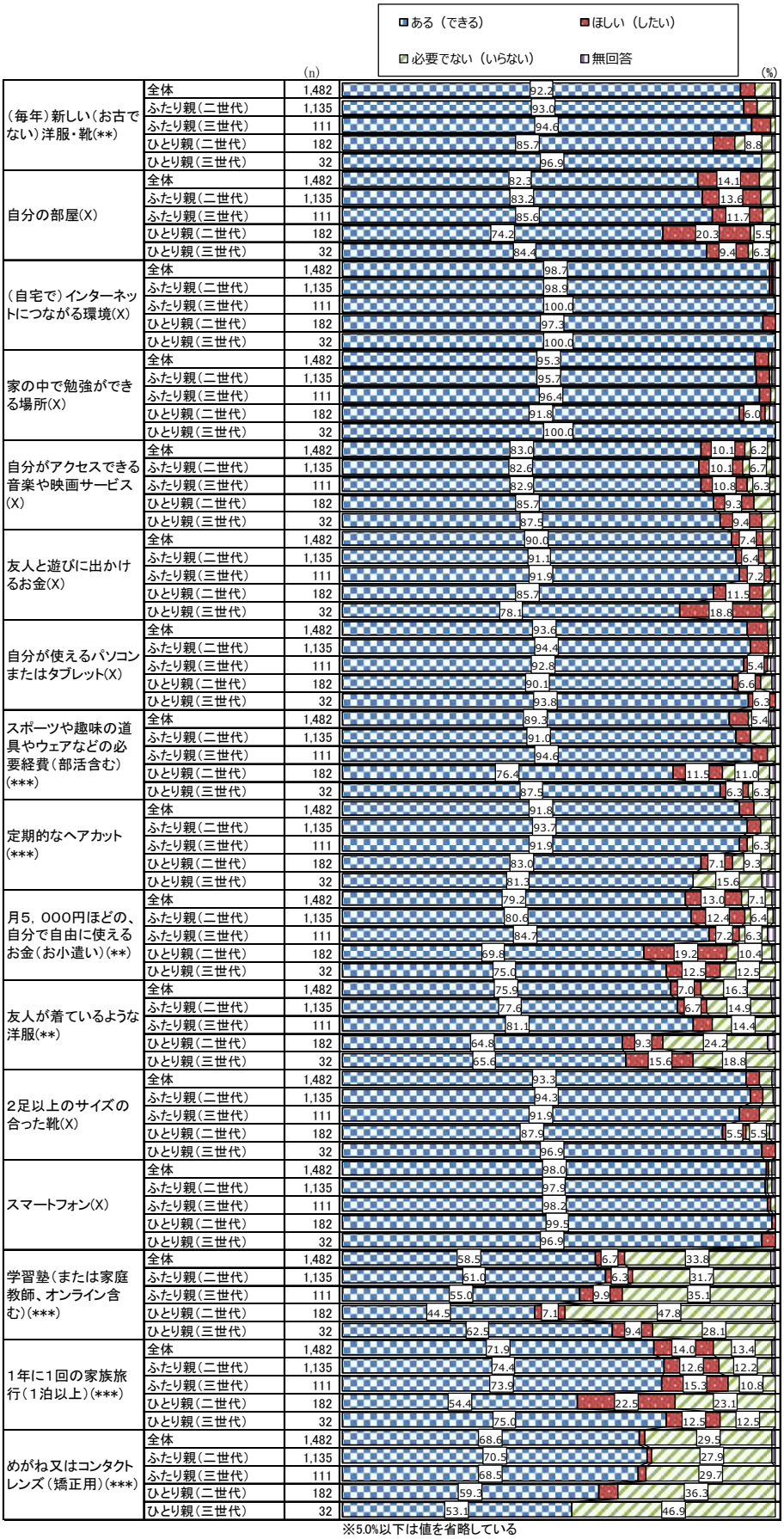
		該当数	ある（できる）	ほしい（したい）	必要でない（いらない）	無回答
（毎年）新しい（お古でない）洋服・靴（＊＊＊）	全体	1,482	1,366	47	61	8
		100.0	92.2	3.2	4.1	0.5
	困窮層	55	44	7	4	0
		100.0	80.0	12.7	7.3	0.0
	周辺層	97	87	5	5	0
		100.0	89.7	5.2	5.2	0.0
	一般層	838	780	22	30	6
		100.0	93.1	2.6	3.6	0.7
自分の部屋（＊＊＊）	全体	1,482	1,219	209	47	7
		100.0	82.3	14.1	3.2	0.5
	困窮層	55	29	21	5	0
		100.0	52.7	38.2	9.1	0.0
	周辺層	97	64	30	2	1
		100.0	66.0	30.9	2.1	1.0
	一般層	838	713	97	25	3
		100.0	85.1	11.6	3.0	0.4
（自宅で）インターネットにつながる環境（Ｘ）	全体	1,482	1,463	10	2	7
		100.0	98.7	0.7	0.1	0.5
	困窮層	55	52	3	0	0
		100.0	94.5	5.5	0.0	0.0
	周辺層	97	94	3	0	0
		100.0	96.9	3.1	0.0	0.0
	一般層	838	834	1	0	3
		100.0	99.5	0.1	0.0	0.4
家の中で勉強ができる場所（＊＊＊）	全体	1,482	1,413	49	10	10
		100.0	95.3	3.3	0.7	0.7
	困窮層	55	44	9	1	1
		100.0	80.0	16.4	1.8	1.8
	周辺層	97	82	11	1	3
		100.0	84.5	11.3	1.0	3.1
	一般層	838	814	18	3	3
		100.0	97.1	2.1	0.4	0.4
自分がアクセスできる音楽や映画サービス（＊）	全体	1,482	1,230	150	92	10
		100.0	83.0	10.1	6.2	0.7
	困窮層	55	40	10	5	0
		100.0	72.7	18.2	9.1	0.0
	周辺層	97	73	15	7	2
		100.0	75.3	15.5	7.2	2.1
	一般層	838	696	86	53	3
		100.0	83.1	10.3	6.3	0.4
友人と遊びに出かけるお金（＊＊＊）	全体	1,482	1,334	109	30	9
		100.0	90.0	7.4	2.0	0.6
	困窮層	55	39	14	2	0
		100.0	70.9	25.5	3.6	0.0
	周辺層	97	77	16	3	1
		100.0	79.4	16.5	3.1	1.0
	一般層	838	773	51	10	4
		100.0	92.2	6.1	1.2	0.5
自分が使えるパソコンまたはタブレット（＊＊＊）	全体	1,482	1,387	68	19	8
		100.0	93.6	4.6	1.3	0.5
	困窮層	55	42	9	3	1
		100.0	76.4	16.4	5.5	1.8
	周辺層	97	80	13	3	1
		100.0	82.5	13.4	3.1	1.0
	一般層	838	805	24	6	3
		100.0	96.1	2.9	0.7	0.4
スポーツや趣味の道具やウェアなどの必要経費（部活含む）（＊＊＊）	全体	1,482	1,324	66	80	12
		100.0	89.3	4.5	5.4	0.8
	困窮層	55	38	10	6	1
		100.0	69.1	18.2	10.9	1.8
	周辺層	97	70	12	14	1
		100.0	72.2	12.4	14.4	1.0
	一般層	838	773	27	33	5
		100.0	92.2	3.2	3.9	0.6

		該当数	ある（できる）	ほしい（したい）	必要でない（いらない）	無回答
定期的なヘアカット（＊＊＊）	全体	1,482	1,361	49	60	12
		100.0	91.8	3.3	4.0	0.8
	困窮層	55	38	8	8	1
		100.0	69.1	14.5	14.5	1.8
	周辺層	97	79	10	8	0
		100.0	81.4	10.3	8.2	0.0
	一般層	838	783	18	30	7
		100.0	93.4	2.1	3.6	0.8
月５，０００円ほどの自分で自由に使えるお金（お小遣い）（＊＊＊）	全体	1,482	1,174	193	105	10
		100.0	79.2	13.0	7.1	0.7
	困窮層	55	28	22	5	0
		100.0	50.9	40.0	9.1	0.0
	周辺層	97	60	29	7	1
		100.0	61.9	29.9	7.2	1.0
	一般層	838	686	97	49	6
		100.0	81.9	11.6	5.8	0.7
友人が着ているような洋服（＊＊＊）	全体	1,482	1,125	103	241	13
		100.0	75.9	7.0	16.3	0.9
	困窮層	55	28	14	12	1
		100.0	50.9	25.5	21.8	1.8
	周辺層	97	57	17	22	1
		100.0	58.8	17.5	22.7	1.0
	一般層	838	652	44	136	6
		100.0	77.8	5.3	16.2	0.7
２足以上のサイズの合った靴（＊＊＊）	全体	1,482	1,382	49	42	9
		100.0	93.3	3.3	2.8	0.6
	困窮層	55	42	9	4	0
		100.0	76.4	16.4	7.3	0.0
	周辺層	97	79	12	5	1
		100.0	81.4	12.4	5.2	1.0
	一般層	838	794	16	23	5
		100.0	94.7	1.9	2.7	0.6
スマートフォン（Ｘ）	全体	1,482	1,452	8	12	10
		100.0	98.0	0.5	0.8	0.7
	困窮層	55	54	1	0	0
		100.0	98.2	1.8	0.0	0.0
	周辺層	97	96	1	0	0
		100.0	99.0	1.0	0.0	0.0
	一般層	838	825	3	5	5
		100.0	98.4	0.4	0.6	0.6
学習塾（または家庭教師、オンライン含む）（＊＊＊）	全体	1,482	867	99	501	15
		100.0	58.5	6.7	33.8	1.0
	困窮層	55	12	17	26	0
		100.0	21.8	30.9	47.3	0.0
	周辺層	97	34	15	46	2
		100.0	35.1	15.5	47.4	2.1
	一般層	838	523	40	269	6
		100.0	62.4	4.8	32.1	0.7
１年に１回の家族旅行（１泊以上）（＊＊＊）	全体	1,482	1,066	207	199	10
		100.0	71.9	14.0	13.4	0.7
	困窮層	55	14	29	12	0
		100.0	25.5	52.7	21.8	0.0
	周辺層	97	40	33	24	0
		100.0	41.2	34.0	24.7	0.0
	一般層	838	656	78	100	4
		100.0	78.3	9.3	11.9	0.5
めがね又はコンタクトレンズ（矯正用）（＊＊＊）	全体	1,482	1,016	21	437	8
		100.0	68.6	1.4	29.5	0.5
	困窮層	55	28	4	23	0
		100.0	50.9	7.3	41.8	0.0
	周辺層	97	67	4	26	0
		100.0	69.1	4.1	26.8	0.0
	一般層	838	591	10	234	3
		100.0	70.5	1.2	27.9	0.4

世帯タイプ別に子どもの所有物・体験の状況に見ると、「（毎年）新しい（お古でない）洋服・靴」「スポーツや趣味の道具やウェアなどの必要経費（部活含む）」「定期的なヘアカット」「月 5,000 円ほどの、自分で自由に使えるお金（お小遣い）」「友人が着ているような洋服」「学習塾（または家庭教師、オンライン含む）」「１年に１回の家族旅行（１泊以上）」「めがね又はコンタクトレンズ（矯正用）」について、ひとり親（二世代）世帯にて「ほしい（したい）」と回答した割合が高い傾向が見られ、統計的に有意な差が確認された。

「（毎年）新しい（お古でない）洋服・靴」ではふたり親（二世代）が 2.9%であったのに対しひとり親（二世代）は 4.9%、「スポーツや趣味の道具やウェアなどの必要経費（部活含む）」ではふたり親（二世代）が 3.4%であったのに対しひとり親（二世代）は 11.5%、「定期的なヘアカット」ではふたり親（二世代）が 3.0%であったのに対しひとり親（二世代）は 7.1%、「月 5,000 円ほどの、自由に使えるお金（お小遣い）」ではふたり親（二世代）が 12.4%であったのに対しひとり親（二世代）は 19.2%、「友人が着ているような洋服」ではふたり親（二世代）が 6.7%であったのに対しひとり親（二世代）は 9.3%、「学習塾（または家庭教師、オンライン含む）」ではふたり親（二世代）が 6.3%であったのに対しひとり親（二世代）は 7.1%、「１年に１回の家族旅行（１泊以上）」ではふたり親（二世代）が 12.6%であったのに対しひとり親（二世代）は 22.5%、「めがね又はコンタクトレンズ（矯正用）」ではふたり親（二世代）が 1.0%であったのに対しひとり親（二世代）は 4.4%にのぼった。また、「友人が着ているような洋服」がふたり親（三世代）は 4.5%であったのに対し、ひとり親（三世代）は 15.6%と割合が高く、統計的に有意な差が確認された。

図表 4-2-3 子どもの所有物・体験：全体、世帯タイプ別



※5.0%以下は値を省略している

図表 4-2-4 子どもの所有物・体験：全体、世帯タイプ別

		該当数	ある（できる）	ほしい（したい）	必要でない（いらない）	無回答
（毎年）新しい（お古でない）洋服・靴（＊＊）	全体	1,482	1,366	47	61	8
		100.0	92.2	3.2	4.1	0.5
	ふたり親（二世代）	1,135	1,055	33	42	5
		100.0	93.0	2.9	3.7	0.4
	ふたり親（三世代）	111	105	5	1	0
		100.0	94.6	4.5	0.9	0.0
	ひとり親（二世代）	182	156	9	16	1
		100.0	85.7	4.9	8.8	0.5
	ひとり親（三世代）	32	31	0	1	0
		100.0	96.9	0.0	3.1	0.0
自分の部屋（Ｘ）	全体	1,482	1,219	209	47	7
		100.0	82.3	14.1	3.2	0.5
	ふたり親（二世代）	1,135	944	154	32	5
		100.0	83.2	13.6	2.8	0.4
	ふたり親（三世代）	111	95	13	3	0
		100.0	85.6	11.7	2.7	0.0
	ひとり親（二世代）	182	135	37	10	0
		100.0	74.2	20.3	5.5	0.0
	ひとり親（三世代）	32	27	3	2	0
		100.0	84.4	9.4	6.3	0.0
（自宅で）インターネットにつながる環境（Ｘ）	全体	1,482	1,463	10	2	7
		100.0	98.7	0.7	0.1	0.5
	ふたり親（二世代）	1,135	1,122	5	2	6
		100.0	98.9	0.4	0.2	0.5
	ふたり親（三世代）	111	111	0	0	0
		100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	ひとり親（二世代）	182	177	5	0	0
		100.0	97.3	2.7	0.0	0.0
	ひとり親（三世代）	32	32	0	0	0
		100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
家の中で勉強ができる場所（Ｘ）	全体	1,482	1,413	49	10	10
		100.0	95.3	3.3	0.7	0.7
	ふたり親（二世代）	1,135	1,086	35	7	7
		100.0	95.7	3.1	0.6	0.6
	ふたり親（三世代）	111	107	3	1	0
		100.0	96.4	2.7	0.9	0.0
	ひとり親（二世代）	182	167	11	2	2
		100.0	91.8	6.0	1.1	1.1
	ひとり親（三世代）	32	32	0	0	0
		100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
自分がアクセスできる音楽や映画サービス（Ｘ）	全体	1,482	1,230	150	92	10
		100.0	83.0	10.1	6.2	0.7
	ふたり親（二世代）	1,135	937	115	76	7
		100.0	82.6	10.1	6.7	0.6
	ふたり親（三世代）	111	92	12	7	0
		100.0	82.9	10.8	6.3	0.0
	ひとり親（二世代）	182	156	17	8	1
		100.0	85.7	9.3	4.4	0.5
	ひとり親（三世代）	32	28	3	1	0
		100.0	87.5	9.4	3.1	0.0
友人と遊びに出かけるお金（Ｘ）	全体	1,482	1,334	109	30	9
		100.0	90.0	7.4	2.0	0.6
	ふたり親（二世代）	1,135	1,034	73	22	6
		100.0	91.1	6.4	1.9	0.5
	ふたり親（三世代）	111	102	8	1	0
		100.0	91.9	7.2	0.9	0.0
	ひとり親（二世代）	182	156	21	4	1
		100.0	85.7	11.5	2.2	0.5
	ひとり親（三世代）	32	25	6	1	0
		100.0	78.1	18.8	3.1	0.0
自分が使えるパソコンまたはタブレット（Ｘ）	全体	1,482	1,387	68	19	8
		100.0	93.6	4.6	1.3	0.5
	ふたり親（二世代）	1,135	1,072	46	12	5
		100.0	94.4	4.1	1.1	0.4
	ふたり親（三世代）	111	103	6	1	1
		100.0	92.8	5.4	0.9	0.9
	ひとり親（二世代）	182	164	12	5	1
		100.0	90.1	6.6	2.7	0.5
	ひとり親（三世代）	32	30	2	0	0
		100.0	93.8	6.3	0.0	0.0
スポーツや趣味の道具やウェア等の必要経費（部活含む）（＊＊＊）	全体	1,482	1,324	66	80	12
		100.0	89.3	4.5	5.4	0.8
	ふたり親（二世代）	1,135	1,033	39	54	9
		100.0	91.0	3.4	4.8	0.8
	ふたり親（三世代）	111	105	4	2	0
		100.0	94.6	3.6	1.8	0.0
	ひとり親（二世代）	182	139	21	20	2
		100.0	76.4	11.5	11.0	1.1
	ひとり親（三世代）	32	28	2	2	0
		100.0	87.5	6.3	6.3	0.0

		該当数	ある（できる）	ほしい（したい）	必要でない（いらない）	無回答
定期的なヘアカット（＊＊＊）	全体	1,482	1,361	49	60	12
		100.0	91.8	3.3	4.0	0.8
	ふたり親（二世代）	1,135	1,063	34	29	9
		100.0	93.7	3.0	2.6	0.8
	ふたり親（三世代）	111	102	2	7	0
		100.0	91.9	1.8	6.3	0.0
	ひとり親（二世代）	182	151	13	17	1
		100.0	83.0	7.1	9.3	0.5
	ひとり親（三世代）	32	26	0	5	1
		100.0	81.3	0.0	15.6	3.1
月５．０００円ほどの自分で自由に使えるお金（お小遣い）（＊＊）	全体	1,482	1,174	193	105	10
		100.0	79.2	13.0	7.1	0.7
	ふたり親（二世代）	1,135	915	141	73	6
		100.0	80.6	12.4	6.4	0.5
	ふたり親（三世代）	111	94	8	7	2
		100.0	84.7	7.2	6.3	1.8
	ひとり親（二世代）	182	127	35	19	1
		100.0	69.8	19.2	10.4	0.5
	ひとり親（三世代）	32	24	4	4	0
		100.0	75.0	12.5	12.5	0.0
友人の着ているような洋服（＊＊）	全体	1,482	1,125	103	241	13
		100.0	75.9	7.0	16.3	0.9
	ふたり親（二世代）	1,135	881	76	169	9
		100.0	77.6	6.7	14.9	0.8
	ふたり親（三世代）	111	90	5	16	0
		100.0	81.1	4.5	14.4	0.0
	ひとり親（二世代）	182	118	17	44	3
		100.0	64.8	9.3	24.2	1.6
	ひとり親（三世代）	32	21	5	6	0
		100.0	65.6	15.6	18.8	0.0
２足以上のサイズの合った靴（Ｘ）	全体	1,482	1,382	49	42	9
		100.0	93.3	3.3	2.8	0.6
	ふたり親（二世代）	1,135	1,070	33	26	6
		100.0	94.3	2.9	2.3	0.5
	ふたり親（三世代）	111	102	5	4	0
		100.0	91.9	4.5	3.6	0.0
	ひとり親（二世代）	182	160	10	10	2
		100.0	87.9	5.5	5.5	1.1
	ひとり親（三世代）	32	31	1	0	0
		100.0	96.9	3.1	0.0	0.0
スマートフォン（Ｘ）	全体	1,482	1,452	8	12	10
		100.0	98.0	0.5	0.8	0.7
	ふたり親（二世代）	1,135	1,111	5	11	8
		100.0	97.9	0.4	1.0	0.7
	ふたり親（三世代）	111	109	1	1	0
		100.0	98.2	0.9	0.9	0.0
	ひとり親（二世代）	182	181	1	0	0
		100.0	99.5	0.5	0.0	0.0
	ひとり親（三世代）	32	31	1	0	0
		100.0	96.9	3.1	0.0	0.0
学習塾（または家庭教師、オンライン含む）（＊＊＊）	全体	1,482	867	99	501	15
		100.0	58.5	6.7	33.8	1.0
	ふたり親（二世代）	1,135	692	71	360	12
		100.0	61.0	6.3	31.7	1.1
	ふたり親（三世代）	111	61	11	39	0
		100.0	55.0	9.9	35.1	0.0
	ひとり親（二世代）	182	81	13	87	1
		100.0	44.5	7.1	47.8	0.5
	ひとり親（三世代）	32	20	3	9	0
		100.0	62.5	9.4	28.1	0.0
１年に１回の家族旅行（１泊以上）（＊＊＊）	全体	1,482	1,066	207	199	10
		100.0	71.9	14.0	13.4	0.7
	ふたり親（二世代）	1,135	845	143	138	9
		100.0	74.4	12.6	12.2	0.8
	ふたり親（三世代）	111	82	17	12	0
		100.0	73.9	15.3	10.8	0.0
	ひとり親（二世代）	182	99	41	42	0
		100.0	54.4	22.5	23.1	0.0
	ひとり親（三世代）	32	24	4	4	0
		100.0	75.0	12.5	12.5	0.0
めがね又はコンタクトレンズ（矯正用）（＊＊＊）	全体	1,482	1,016	21	437	8
		100.0	68.6	1.4	29.5	0.5
	ふたり親（二世代）	1,135	800	11	317	7
		100.0	70.5	1.0	27.9	0.6
	ふたり親（三世代）	111	76	2	33	0
		100.0	68.5	1.8	29.7	0.0
	ひとり親（二世代）	182	108	8	66	0
		100.0	59.3	4.4	36.3	0.0
	ひとり親（三世代）	32	17	0	15	0
		100.0	53.1	0.0	46.9	0.0

３．子どもの日常的な活動

（１）ゲーム機の利用・テレビやインターネットの視聴・SNS の利用

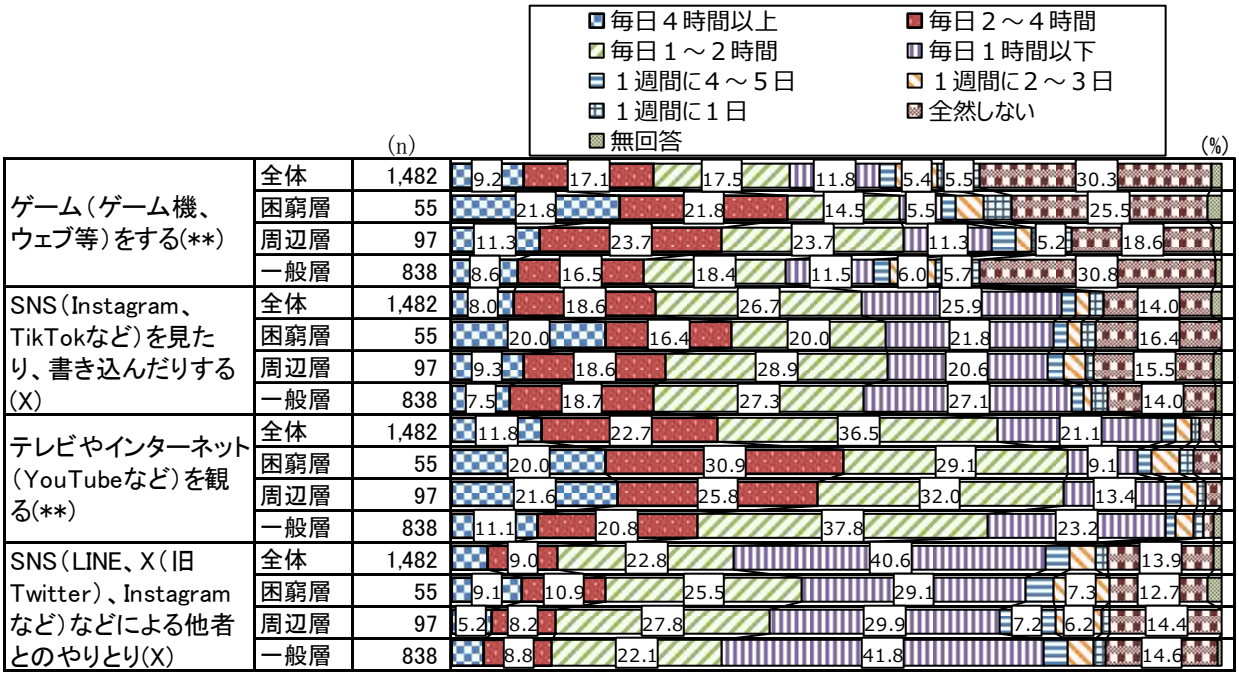
子ども本人に、「ゲーム（ゲーム機、ウェブ等）をする」「SNS（Instagram、TikTok など）を見たり、書き込んだりする」「テレビやインターネット（YouTube など）を観る」「SNS（LINE、X（旧 Twitter）、Instagram など）などによる他者とのやりとり」のそれぞれについて、普段どれぐらい行うかを聞いたところ、「毎日２時間以上」と答えた子どもは、「ゲーム（ゲーム機、ウェブ等）をする」では 26.3%、「SNS（Instagram、TikTok など）を見たり、書き込んだりする」では 26.6%、「テレビやインターネット（YouTube など）を観る」では 34.5%、「SNS（LINE、X（旧 Twitter）、Instagram など）などによる他者とのやりとり」では 13.8%であった。

反対に、「全然しない」と答えた子どもは、「ゲーム（ゲーム機、ウェブ等）をする」では 30.3%、「SNS（Instagram、TikTok など）を見たり、書き込んだりする」では 14.0%、「テレビやインターネット（YouTube など）を観る」では 1.7%、「SNS（LINE、X（旧 Twitter）、Instagram など）などによる他者とのやりとり」では 13.9%であった。

生活困難度別に見ると、「ゲーム（ゲーム機、ウェブ等）をする」および「テレビやインターネット（YouTube など）を観る」にて統計的に有意な差が確認され、困窮層ほど頻度が多くなる傾向が見られた。「ゲーム（ゲーム機、ウェブ等）をする」頻度が毎日２時間以上の子どもは一般層では 25.1%であったのに対し困窮層では 43.6%、「テレビやインターネット（YouTube など）を観る」頻度が毎日２時間以上の子どもは一般層では 31.9%であったのに対し困窮層では 50.9%にのぼった。

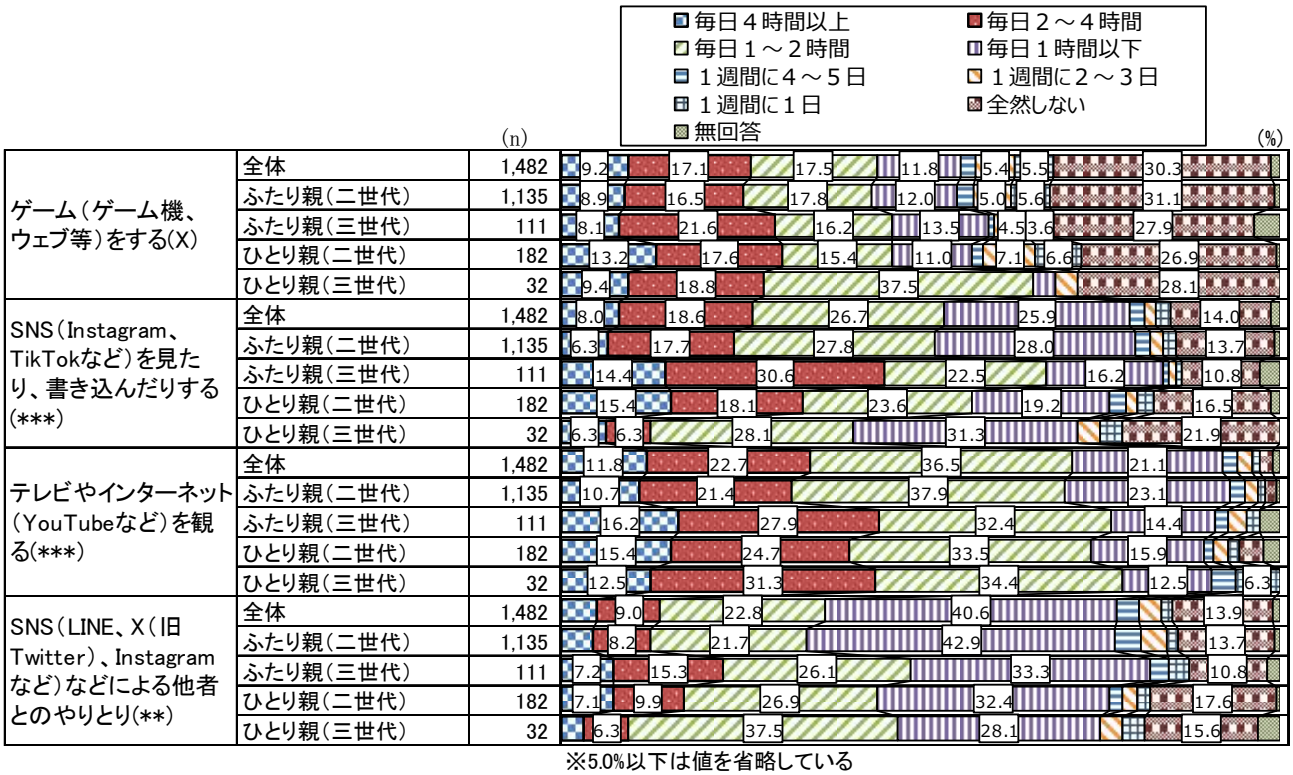
世帯タイプ別に見ると、「SNS（Instagram、TikTok など）を見たり、書き込んだりする」「テレビやインターネット（YouTube など）を観る」「SNS（LINE、X（旧 Twitter）、Instagram など）などによる他者とのやりとり」にて統計的に有意な差が確認され、特にふたり親（三世代）で毎日２時間以上実施している子どもが多い傾向が見られた。

図表 4-3-1 子どものゲーム機の利用・テレビやインターネットの視聴・SNS の利用にかかる状況：全体、生活困難度別



※5.0%以下は値を省略している

図表 4-3-2 子どものゲーム機の利用・テレビやインターネットの視聴・SNS の利用にかかる状況：全体、世帯タイプ別



※5.0%以下は値を省略している

図表 4-3-3 子どものゲーム機の利用・テレビやインターネットの視聴・SNS の利用にかかる状況：全体、生活困難度別

		該当数	毎日4時間以上	毎日2～4時間	毎日1～2時間	毎日1時間以下	1週間に4～5日	1週間に2～3日	1週間に1日	全然しない	無回答
ゲーム（ゲーム機・ウェブ等）をする（＊＊）	全体	1,482	137	253	260	175	30	80	81	449	17
		100.0	9.2	17.1	17.5	11.8	2.0	5.4	5.5	30.3	1.1
	困窮層	55	12	12	8	3	1	2	2	14	1
		100.0	21.8	21.8	14.5	5.5	1.8	3.6	3.6	25.5	1.8
	周辺層	97	11	23	23	11	3	2	5	18	1
		100.0	11.3	23.7	23.7	11.3	3.1	2.1	5.2	18.6	1.0
	一般層	838	72	138	154	96	16	50	48	258	6
		100.0	8.6	16.5	18.4	11.5	1.9	6.0	5.7	30.8	0.7
SNS（Instagram、TikTokなど）を見たり、書き込んだりする（X）	全体	1,482	119	275	395	384	29	26	28	208	18
		100.0	8.0	18.6	26.7	25.9	2.0	1.8	1.9	14.0	1.2
	困窮層	55	11	9	11	12	1	1	1	9	0
		100.0	20.0	16.4	20.0	21.8	1.8	1.8	1.8	16.4	0.0
	周辺層	97	9	18	28	20	2	3	1	15	1
		100.0	9.3	18.6	28.9	20.6	2.1	3.1	1.0	15.5	1.0
	一般層	838	63	157	229	227	13	7	19	117	6
		100.0	7.5	18.7	27.3	27.1	1.6	0.8	2.3	14.0	0.7
テレビやインターネット（YouTubeなど）を観る（＊＊）	全体	1,482	175	337	541	313	28	30	17	25	16
		100.0	11.8	22.7	36.5	21.1	1.9	2.0	1.1	1.7	1.1
	困窮層	55	11	17	16	5	1	2	1	2	0
		100.0	20.0	30.9	29.1	9.1	1.8	3.6	1.8	3.6	0.0
	周辺層	97	21	25	31	13	2	2	1	2	0
		100.0	21.6	25.8	32.0	13.4	2.1	2.1	1.0	2.1	0.0
	一般層	838	93	174	317	194	10	20	10	12	8
		100.0	11.1	20.8	37.8	23.2	1.2	2.4	1.2	1.4	1.0
SNS（LINE、X（旧Twitter）、Instagramなど）などによる他者とのやりとり（X）	全体	1,482	71	134	338	601	47	47	24	206	14
		100.0	4.8	9.0	22.8	40.6	3.2	3.2	1.6	13.9	0.9
	困窮層	55	5	6	14	16	2	4	0	7	1
		100.0	9.1	10.9	25.5	29.1	3.6	7.3	0.0	12.7	1.8
	周辺層	97	5	8	27	29	7	6	1	14	0
		100.0	5.2	8.2	27.8	29.9	7.2	6.2	1.0	14.4	0.0
	一般層	838	35	74	185	350	27	27	14	122	4
		100.0	4.2	8.8	22.1	41.8	3.2	3.2	1.7	14.6	0.5

図表 4-3-4 子どものゲーム機の利用・テレビやインターネットの視聴・SNS の利用にかかる状況
：全体、世帯タイプ別

		該当数	毎日4時間以上	毎日2～4時間	毎日1～2時間	毎日1時間以下	1週間に4～5日	1週間に2～3日	1週間に1日	全然しない	無回答
ゲーム（ゲーム機・ウェブ等）をする（X）	全体	1,482	137	253	260	175	30	80	81	449	17
		100.0	9.2	17.1	17.5	11.8	2.0	5.4	5.5	30.3	1.1
	ふたり親（二世代）	1,135	101	187	202	136	26	57	64	353	9
		100.0	8.9	16.5	17.8	12.0	2.3	5.0	5.6	31.1	0.8
	ふたり親（三世代）	111	9	24	18	15	1	5	4	31	4
		100.0	8.1	21.6	16.2	13.5	0.9	4.5	3.6	27.9	3.6
	ひとり親（二世代）	182	24	32	28	20	3	13	12	49	1
		100.0	13.2	17.6	15.4	11.0	1.6	7.1	6.6	26.9	0.5
	ひとり親（三世代）	32	3	6	12	1	0	1	0	9	0
		100.0	9.4	18.8	37.5	3.1	0.0	3.1	0.0	28.1	0.0
SNS（Instagram、TikTokなど）を見たり、書き込んだりする（＊＊＊）	全体	1,482	119	275	395	384	29	26	28	208	18
		100.0	8.0	18.6	26.7	25.9	2.0	1.8	1.9	14.0	1.2
	ふたり親（二世代）	1,135	72	201	316	318	24	19	21	155	9
		100.0	6.3	17.7	27.8	28.0	2.1	1.7	1.9	13.7	0.8
	ふたり親（三世代）	111	16	34	25	18	1	1	1	12	3
		100.0	14.4	30.6	22.5	16.2	0.9	0.9	0.9	10.8	2.7
	ひとり親（二世代）	182	28	33	43	35	4	3	4	30	2
		100.0	15.4	18.1	23.6	19.2	2.2	1.6	2.2	16.5	1.1
	ひとり親（三世代）	32	2	2	9	10	0	1	1	7	0
		100.0	6.3	6.3	28.1	31.3	0.0	3.1	3.1	21.9	0.0
テレビやインターネット（YouTubeなど）を観る（＊＊＊）	全体	1,482	175	337	541	313	28	30	17	25	16
		100.0	11.8	22.7	36.5	21.1	1.9	2.0	1.1	1.7	1.1
	ふたり親（二世代）	1,135	122	243	430	262	22	23	9	18	6
		100.0	10.7	21.4	37.9	23.1	1.9	2.0	0.8	1.6	0.5
	ふたり親（三世代）	111	18	31	36	16	2	3	2	0	3
		100.0	16.2	27.9	32.4	14.4	1.8	2.7	1.8	0.0	2.7
	ひとり親（二世代）	182	28	45	61	29	2	4	3	6	4
		100.0	15.4	24.7	33.5	15.9	1.1	2.2	1.6	3.3	2.2
	ひとり親（三世代）	32	4	10	11	4	1	0	2	0	0
		100.0	12.5	31.3	34.4	12.5	3.1	0.0	6.3	0.0	0.0
SNS（LINE、X（旧Twitter）、Instagramなど）などによる他者とのやりとり（＊＊）	全体	1,482	71	134	338	601	47	47	24	206	14
		100.0	4.8	9.0	22.8	40.6	3.2	3.2	1.6	13.9	0.9
	ふたり親（二世代）	1,135	49	93	246	487	40	41	17	155	7
		100.0	4.3	8.2	21.7	42.9	3.5	3.6	1.5	13.7	0.6
	ふたり親（三世代）	111	8	17	29	37	3	0	3	12	2
		100.0	7.2	15.3	26.1	33.3	2.7	0.0	2.7	10.8	1.8
	ひとり親（二世代）	182	13	18	49	59	3	4	3	32	1
		100.0	7.1	9.9	26.9	32.4	1.6	2.2	1.6	17.6	0.5
	ひとり親（三世代）	32	1	2	12	9	0	1	1	5	1
		100.0	3.1	6.3	37.5	28.1	0.0	3.1	3.1	15.6	3.1

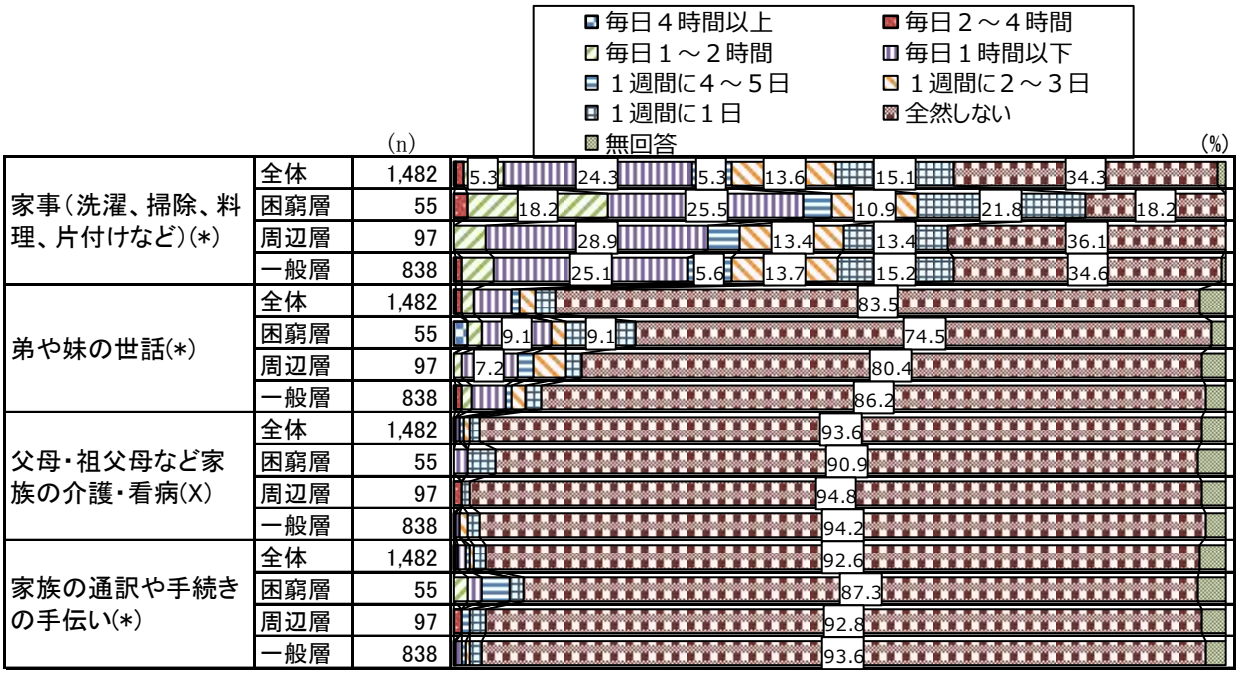
（２）家事・家族の世話

子ども本人に、「家事（洗濯、掃除、料理、片付けなど）」「弟や妹の世話」「父母・祖父母など家族の介護・看病」「家族の通訳や手続きの手伝い」のそれぞれについて、普段どれぐらい行うかを聞いたところ、「毎日２時間以上」と答えた子どもは、「家事（洗濯、掃除、料理、片付けなど）」では 1.2%、「弟や妹の世話」では 1.0%、「父母・祖父母など家族の介護・看病」では 0.2%、「家族の通訳や手続きの手伝い」では 0.3%であった。

反対に、「全然しない」と答えた子どもは、「家事（洗濯、掃除、料理、片付けなど）」では 34.3%、「弟や妹の世話」では 83.5%、「父母・祖父母など家族の介護・看病」では 93.6%、「家族の通訳や手続きの手伝い」では 92.6%であった。

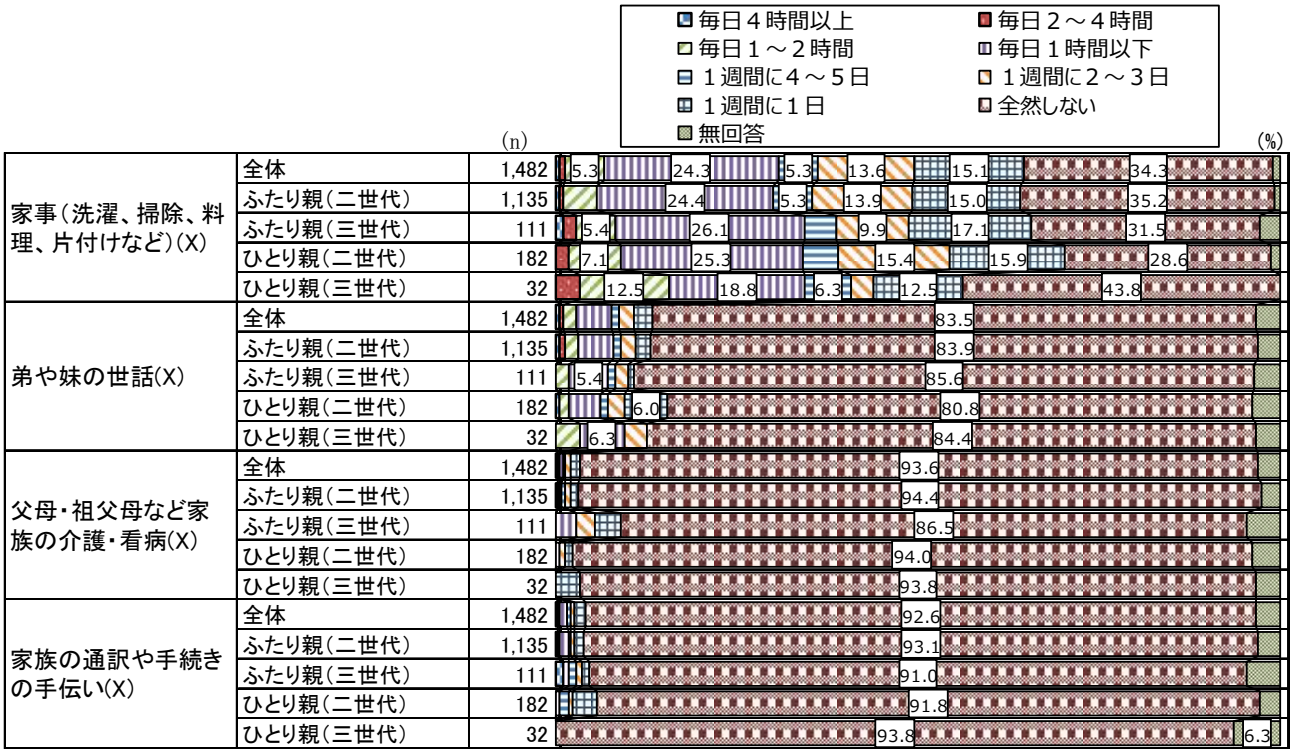
生活困難度別に見ると、「家事（洗濯、掃除、料理、片付けなど）」「弟や妹の世話」「家族の通訳や手続きの手伝い」にて統計的に有意な差が確認され、困窮層にて「全然しない」割合が低かった。具体的には、「家事（洗濯、掃除、料理、片付けなど）」では一般層が 34.6%であったのに対し困窮層が 18.2%、「弟や妹の世話」では一般層が 86.2%であったのに対し困窮層では 74.5%、「家族の通訳や手続きの手伝い」では一般層が 93.6%であったのに対し困窮層では 87.3%にとどまった。一方で、世帯タイプ別には統計的に有意な差が確認されなかった。

図表 4-3-5　家族・家事の世話：全体、生活困難度別



※5.0%以下は値を省略している

図表 4-3-6 家族･家事の世話：全体、世帯タイプ別



※5.0%以下は値を省略している

図表 4-3-7 家族･家事の世話：全体、生活困難度別

		該当数	毎日4時間以上	毎日2～4時間	毎日1～2時間	毎日1時間以下	1週間に4～5日	1週間に2～3日	1週間に1日	全然しない	無回答
家事（洗濯、掃除、料理、片付けなど）（＊）	全体	1,482	5	13	78	360	78	201	224	508	15
		100.0	0.3	0.9	5.3	24.3	5.3	13.6	15.1	34.3	1.0
	困窮層	55	0	1	10	14	2	6	12	10	0
		100.0	0.0	1.8	18.2	25.5	3.6	10.9	21.8	18.2	0.0
	周辺層	97	0	0	4	28	4	13	13	35	0
		100.0	0.0	0.0	4.1	28.9	4.1	13.4	13.4	36.1	0.0
	一般層	838	3	6	35	210	47	115	127	290	5
		100.0	0.4	0.7	4.2	25.1	5.6	13.7	15.2	34.6	0.6
弟や妹の世話（＊）	全体	1,482	5	10	25	72	15	31	37	1,238	49
		100.0	0.3	0.7	1.7	4.9	1.0	2.1	2.5	83.5	3.3
	困窮層	55	1	0	1	5	0	1	5	41	1
		100.0	1.8	0.0	1.8	9.1	0.0	1.8	9.1	74.5	1.8
	周辺層	97	0	0	1	7	2	4	2	78	3
		100.0	0.0	0.0	1.0	7.2	2.1	4.1	2.1	80.4	3.1
	一般層	838	2	6	11	37	8	14	17	722	21
		100.0	0.2	0.7	1.3	4.4	1.0	1.7	2.0	86.2	2.5
父母・祖父母など家族の介護・看病（Ｘ）	全体	1,482	2	1	3	7	5	12	20	1,387	45
		100.0	0.1	0.1	0.2	0.5	0.3	0.8	1.3	93.6	3.0
	困窮層	55	0	0	0	1	0	0	2	50	2
		100.0	0.0	0.0	0.0	1.8	0.0	0.0	3.6	90.9	3.6
	周辺層	97	0	1	0	0	0	0	1	92	3
		100.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	94.8	3.1
	一般層	838	1	0	1	4	1	8	13	789	21
		100.0	0.1	0.0	0.1	0.5	0.1	1.0	1.6	94.2	2.5
家族の通訳や手続きの手伝い（＊）	全体	1,482	2	3	2	15	8	7	23	1,373	49
		100.0	0.1	0.2	0.1	1.0	0.5	0.5	1.6	92.6	3.3
	困窮層	55	0	0	1	1	2	0	1	48	2
		100.0	0.0	0.0	1.8	1.8	3.6	0.0	1.8	87.3	3.6
	周辺層	97	0	1	0	0	1	0	2	90	3
		100.0	0.0	1.0	0.0	0.0	1.0	0.0	2.1	92.8	3.1
	一般層	838	1	0	1	8	3	4	14	784	23
		100.0	0.1	0.0	0.1	1.0	0.4	0.5	1.7	93.6	2.7

図表 4-3-8 家族･家事の世話：全体、世帯タイプ別

		該当数	毎日4時間以上	毎日2～4時間	毎日1～2時間	毎日1時間以下	1週間に4～5日	1週間に2～3日	1週間に1日	全然しない	無回答
家事（洗濯、掃除、料理、片付けなど）（X）	全体	1,482	5	13	78	360	78	201	224	508	15
		100.0	0.3	0.9	5.3	24.3	5.3	13.6	15.1	34.3	1.0
	ふたり親（二世代）	1,135	4	7	53	277	60	158	170	399	7
		100.0	0.4	0.6	4.7	24.4	5.3	13.9	15.0	35.2	0.6
	ふたり親（三世代）	111	1	2	6	29	5	11	19	35	3
		100.0	0.9	1.8	5.4	26.1	4.5	9.9	17.1	31.5	2.7
	ひとり親（二世代）	182	0	3	13	46	9	28	29	52	2
		100.0	0.0	1.6	7.1	25.3	4.9	15.4	15.9	28.6	1.1
	ひとり親（三世代）	32	0	1	4	6	2	1	4	14	0
		100.0	0.0	3.1	12.5	18.8	6.3	3.1	12.5	43.8	0.0
弟や妹の世話（X）	全体	1,482	5	10	25	72	15	31	37	1,238	49
		100.0	0.3	0.7	1.7	4.9	1.0	2.1	2.5	83.5	3.3
	ふたり親（二世代）	1,135	4	9	20	55	12	24	25	952	34
		100.0	0.4	0.8	1.8	4.8	1.1	2.1	2.2	83.9	3.0
	ふたり親（三世代）	111	0	0	2	6	1	2	1	95	4
		100.0	0.0	0.0	1.8	5.4	0.9	1.8	0.9	85.6	3.6
	ひとり親（二世代）	182	1	0	2	8	2	4	11	147	7
		100.0	0.5	0.0	1.1	4.4	1.1	2.2	6.0	80.8	3.8
	ひとり親（三世代）	32	0	0	1	2	0	1	0	27	1
		100.0	0.0	0.0	3.1	6.3	0.0	3.1	0.0	84.4	3.1
父母・祖父母など家族の介護・看病（X）	全体	1,482	2	1	3	7	5	12	20	1,387	45
		100.0	0.1	0.1	0.2	0.5	0.3	0.8	1.3	93.6	3.0
	ふたり親（二世代）	1,135	2	1	3	3	5	8	13	1,071	29
		100.0	0.2	0.1	0.3	0.3	0.4	0.7	1.1	94.4	2.6
	ふたり親（三世代）	111	0	0	0	3	0	3	4	96	5
		100.0	0.0	0.0	0.0	2.7	0.0	2.7	3.6	86.5	4.5
	ひとり親（二世代）	182	0	0	0	1	0	1	2	171	7
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.5	1.1	94.0	3.8
	ひとり親（三世代）	32	0	0	0	0	0	0	1	30	1
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.1	93.8	3.1
家族の通訳や手続きの手伝い（X）	全体	1,482	2	3	2	15	8	7	23	1,373	49
		100.0	0.1	0.2	0.1	1.0	0.5	0.5	1.6	92.6	3.3
	ふたり親（二世代）	1,135	1	3	2	13	4	5	16	1,057	34
		100.0	0.1	0.3	0.2	1.1	0.4	0.4	1.4	93.1	3.0
	ふたり親（三世代）	111	1	0	0	1	1	1	1	101	5
		100.0	0.9	0.0	0.0	0.9	0.9	0.9	0.9	91.0	4.5
	ひとり親（二世代）	182	0	0	0	1	2	1	6	167	5
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.5	1.1	0.5	3.3	91.8	2.7
	ひとり親（三世代）	32	0	0	0	0	0	0	0	30	2
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	93.8	6.3

４．子どものための支出

一般的に子どものために支出されている９項目（「毎月お小遣いを渡す」「毎年新しい（お古でない）洋服・靴を買う」「習い事（音楽、スポーツ、習字等）に通わせる」「学習塾に通わせる（または家庭教師に来てもらう、オンライン含む）」「お誕生日のお祝いをする」「1 年に 1 回くらい家族旅行に行く」「クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる」「修学旅行などお金がかかる学校の活動」「パソコンやタブレットを与える」「スマートフォンを与える」）について、保護者にそれらを支出しているかを聞いた。

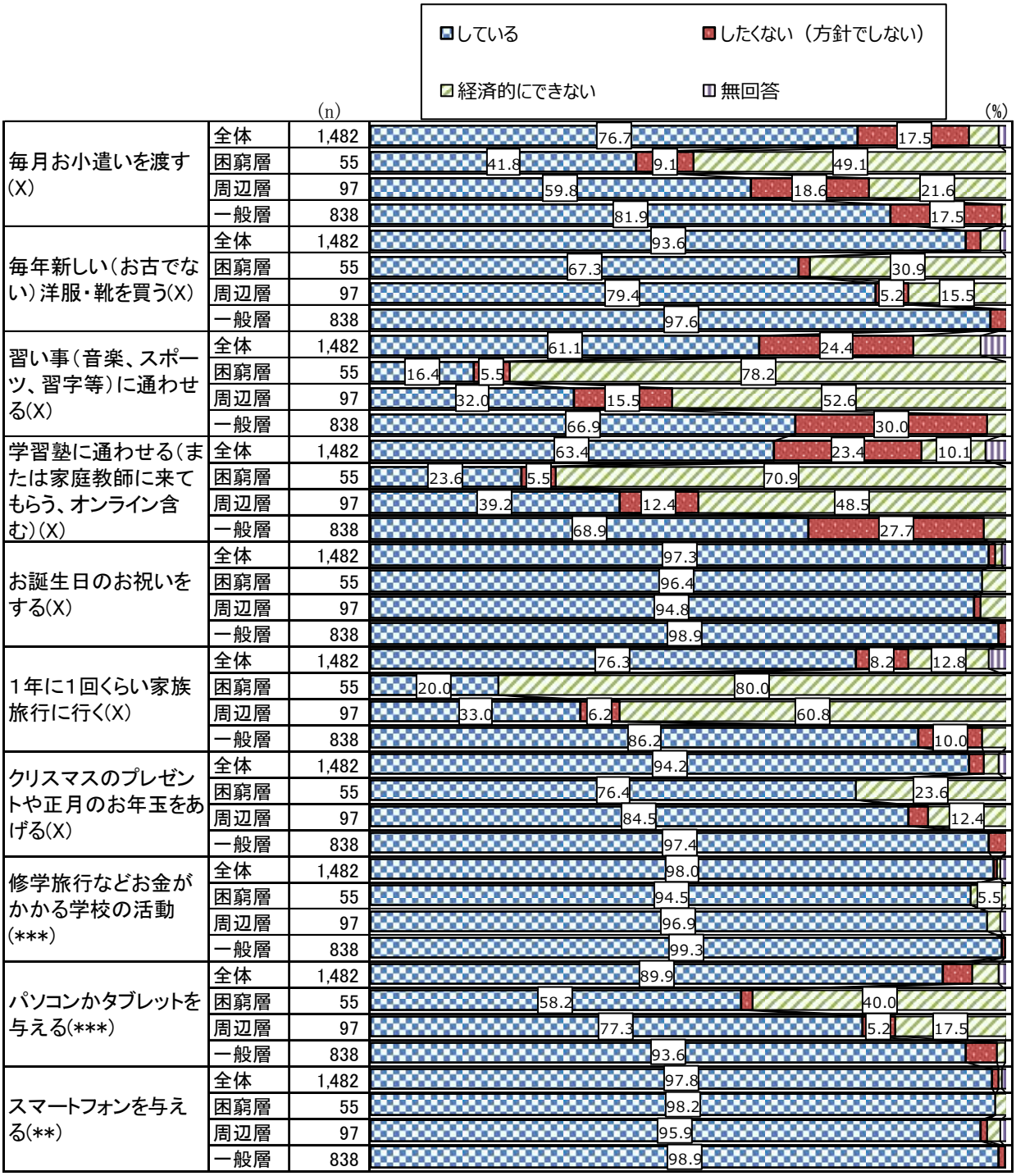
「している」と回答した割合は、「毎月お小遣いを渡す」では 76.7%、「毎年新しい（お古でない）洋服・靴を買う」では 93.6%、「習い事（音楽、スポーツ、習字等）に通わせる」では 61.1%、「学習塾に通わせる（または家庭教師に来てもらう、オンライン含む）」では 63.4%、「お誕生日のお祝いをする」では 97.3%、「1 年に 1 回くらい家族旅行に行く」では 76.3%、「クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる」では 94.2%、「修学旅行などお金がかかる学校の活動」では 98.0%、「パソコンやタブレットを与える」では 89.9%、「スマートフォンを与える」では 97.8%であった。

反対に、「経済的にできない」と回答した割合は、「毎月お小遣いを渡す」では 4.5%、「毎年新しい（お古でない）洋服・靴を買う」では 3.1%、「習い事（音楽、スポーツ、習字等）に通わせる」では 10.5%、「学習塾に通わせる（または家庭教師に来てもらう、オンライン含む）」では 10.1%、「お誕生日のお祝いをする」では 1.0%、「1 年に 1 回くらい家族旅行に行く」では 12.8%、「クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる」では 2.4%、「修学旅行などお金がかかる学校の活動」では 0.4%、「パソコンやタブレットを与える」では 4.2%、「スマートフォンを与える」では 0.4%であった。

生活困難度別に見ると、「修学旅行などお金がかかる学校の活動」「パソコンやタブレットを与える」「スマートフォンを与える」にて統計的な有意な差が確認され、一般層と比べて、生活困難層の方が「している」と回答した割合が低い傾向が見られた。なお、それ以外の項目については、「無回答」が困窮層・周辺層・一般層のいずれも 0 人であり、検定に馴染まなかったため、各項目について、「経済的にできない」を選択しているか否かということについて統計的に有意な差があるかを確認したところ、生活困難度別ではすべての項目について、一般層より生活困難層の方が「経済的にできない」割合が高い傾向が見られ、統計的に有意な差が確認された。

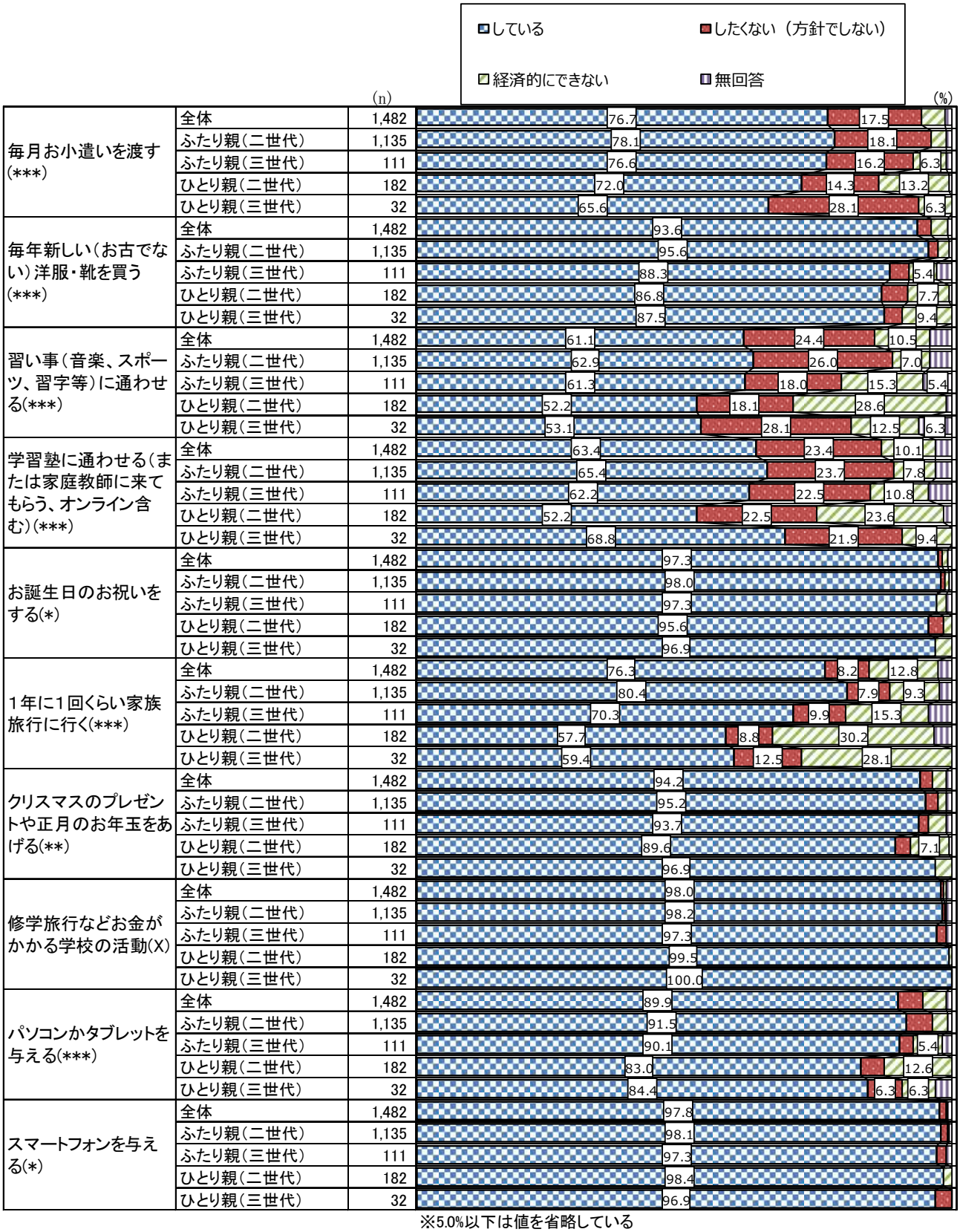
世帯タイプ別に見ると、「毎月お小遣いを渡す」「毎年新しい（お古でない）洋服・靴を買う」「習い事（音楽、スポーツ、習字等）に通わせる」にて、ふたり親世帯よりもひとり親世帯の方が「している」割合が低い傾向が見られ、統計的に有意な差が確認された。また、生活困難度別に見た場合と同様、各項目について、「経済的にできない」を選択しているか否かということについて統計的に有意な差があるかを確認したところ、世帯タイプ別では「毎月お小遣いを渡す」「毎年新しい（お古でない）洋服・靴を買う」「習い事（音楽、スポーツ、習字等）に通わせる」「1 年に 1 回くらい家族旅行に行く」「パソコンやタブレットを与える」といった項目で、ふたり親世帯よりひとり親世帯の方が「経済的にできない」割合が高い傾向が見られ、統計的に有意な差が確認された。

図表 4-4-1　子どものための支出の状況：全体、生活困難度別



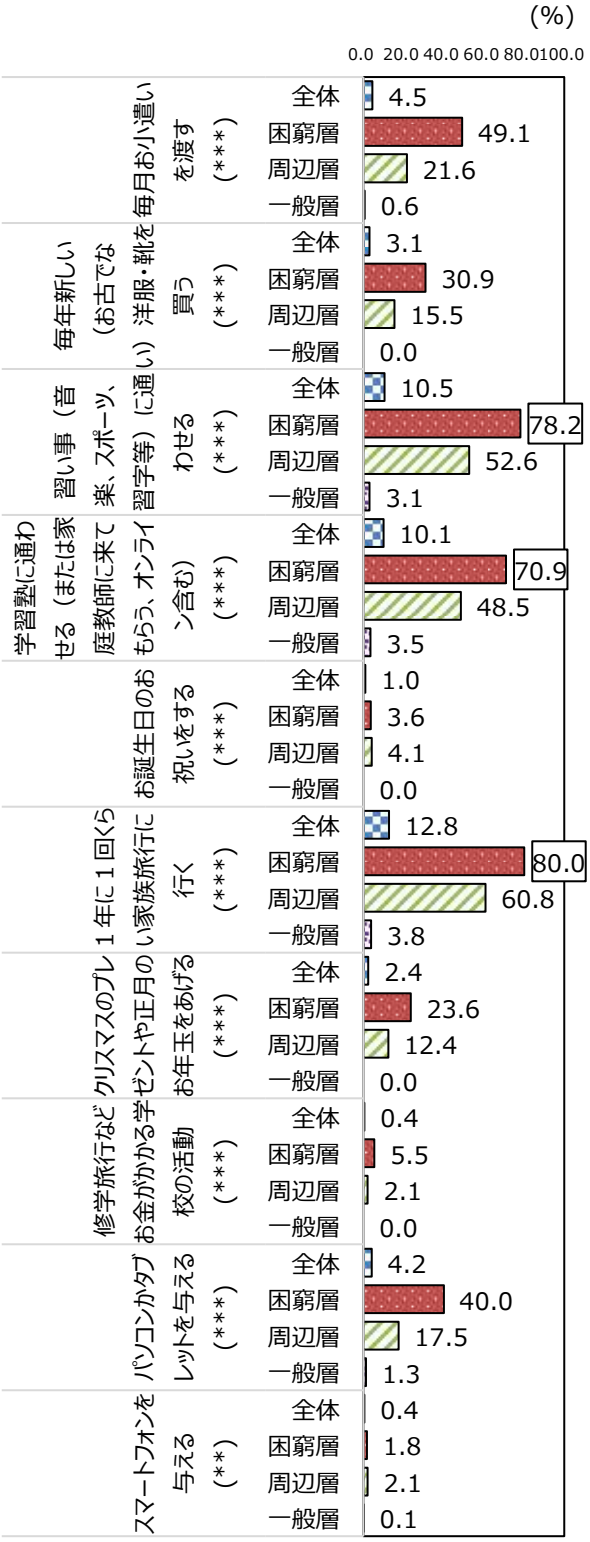
※5.0%以下は値を省略している

図表 4-4-2 子どものための支出の状況：全体、世帯タイプ別

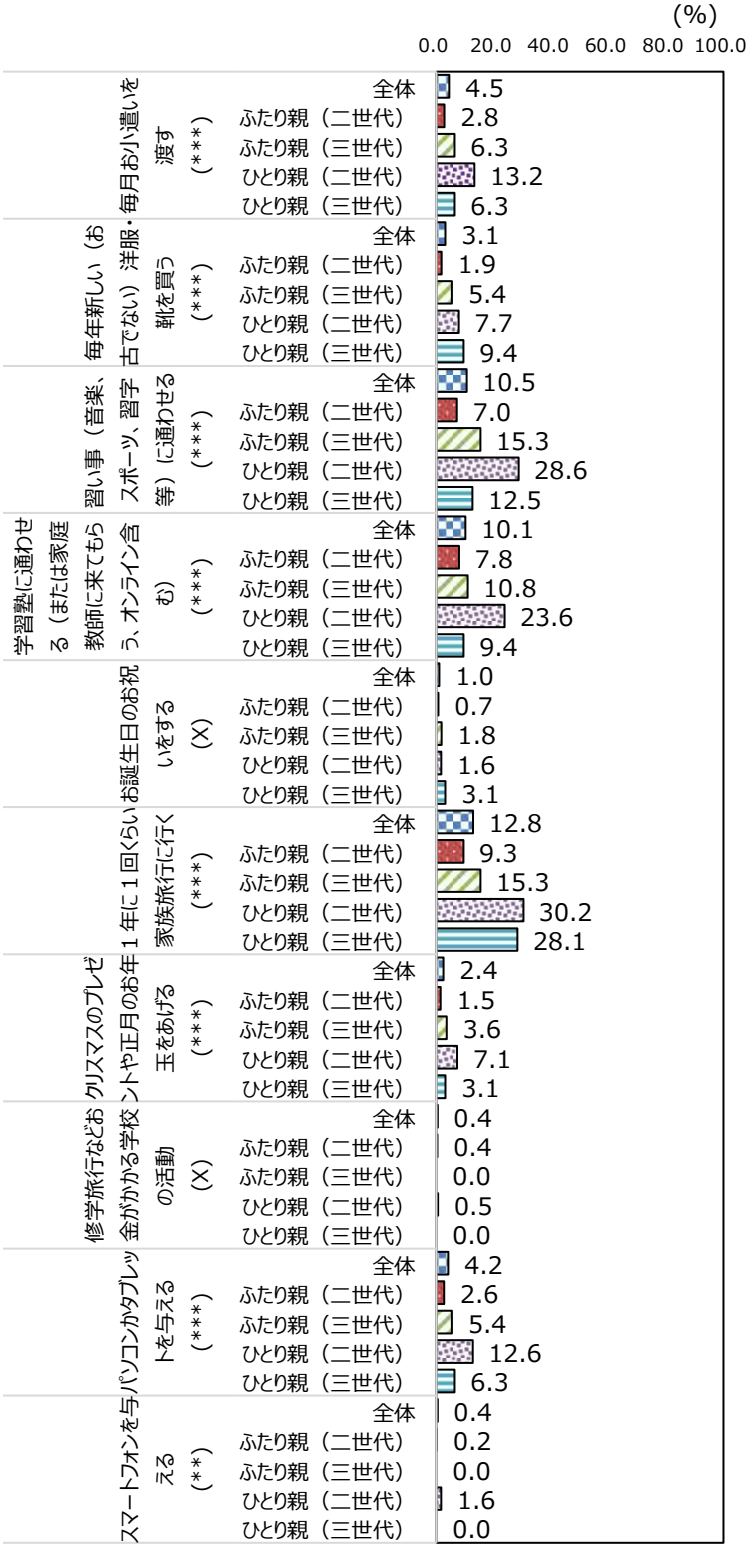


※5.0%以下は値を省略している

図表 4-4-3 子どものための支出が「経済的にできない」割合：全体、生活困難度別



図表 4-4-4 子どものための支出が「経済的にできない」割合：全体、世帯タイプ別



図表 4-4-5 子どものための支出の状況：全体、生活困難度別

		該当数	している	したくない（方針でしない）	経済的にできない	無回答
毎月お小遣いを渡す（X）	全体	1,482	1,137	260	67	18
		100.0	76.7	17.5	4.5	1.2
	困窮層	55	23	5	27	0
		100.0	41.8	9.1	49.1	0.0
	周辺層	97	58	18	21	0
		100.0	59.8	18.6	21.6	0.0
	一般層	838	686	147	5	0
		100.0	81.9	17.5	0.6	0.0
毎年新しい（お古でない）洋服・靴を買う（X）	全体	1,482	1,387	36	46	13
		100.0	93.6	2.4	3.1	0.9
	困窮層	55	37	1	17	0
		100.0	67.3	1.8	30.9	0.0
	周辺層	97	77	5	15	0
		100.0	79.4	5.2	15.5	0.0
	一般層	838	818	20	0	0
		100.0	97.6	2.4	0.0	0.0
習い事（音楽、スポーツ、習字等）に通わせる（X）	全体	1,482	905	362	155	60
		100.0	61.1	24.4	10.5	4.0
	困窮層	55	9	3	43	0
		100.0	16.4	5.5	78.2	0.0
	周辺層	97	31	15	51	0
		100.0	32.0	15.5	52.6	0.0
	一般層	838	561	251	26	0
		100.0	66.9	30.0	3.1	0.0
学習塾に通わせる（または家庭教師に来てもらう、オンライン含む）（X）	全体	1,482	939	347	149	47
		100.0	63.4	23.4	10.1	3.2
	困窮層	55	13	3	39	0
		100.0	23.6	5.5	70.9	0.0
	周辺層	97	38	12	47	0
		100.0	39.2	12.4	48.5	0.0
	一般層	838	577	232	29	0
		100.0	68.9	27.7	3.5	0.0
お誕生日のお祝いをする（X）	全体	1,482	1,442	14	15	11
		100.0	97.3	0.9	1.0	0.7
	困窮層	55	53	0	2	0
		100.0	96.4	0.0	3.6	0.0
	周辺層	97	92	1	4	0
		100.0	94.8	1.0	4.1	0.0
	一般層	838	829	9	0	0
		100.0	98.9	1.1	0.0	0.0

		該当数	している	したくない（方針でしない）	経済的にできない	無回答
1年に1回くらい家族旅行に行く（X）	全体	1,482	1,131	122	189	40
		100.0	76.3	8.2	12.8	2.7
	困窮層	55	11	0	44	0
		100.0	20.0	0.0	80.0	0.0
	周辺層	97	32	6	59	0
		100.0	33.0	6.2	60.8	0.0
	一般層	838	722	84	32	0
		100.0	86.2	10.0	3.8	0.0
クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる（X）	全体	1,482	1,396	34	36	16
		100.0	94.2	2.3	2.4	1.1
	困窮層	55	42	0	13	0
		100.0	76.4	0.0	23.6	0.0
	周辺層	97	82	3	12	0
		100.0	84.5	3.1	12.4	0.0
	一般層	838	816	22	0	0
		100.0	97.4	2.6	0.0	0.0
修学旅行などお金がかかる学校の活動（＊＊＊）	全体	1,482	1,453	8	6	15
		100.0	98.0	0.5	0.4	1.0
	困窮層	55	52	0	3	0
		100.0	94.5	0.0	5.5	0.0
	周辺層	97	94	0	2	1
		100.0	96.9	0.0	2.1	1.0
	一般層	838	832	5	0	1
		100.0	99.3	0.6	0.0	0.1
パソコンかタブレットを与える（＊＊＊）	全体	1,482	1,333	70	62	17
		100.0	89.9	4.7	4.2	1.1
	困窮層	55	32	1	22	0
		100.0	58.2	1.8	40.0	0.0
	周辺層	97	75	5	17	0
		100.0	77.3	5.2	17.5	0.0
	一般層	838	784	41	11	2
		100.0	93.6	4.9	1.3	0.2
スマートフォンを与える（＊＊）	全体	1,482	1,449	17	6	10
		100.0	97.8	1.1	0.4	0.7
	困窮層	55	54	0	1	0
		100.0	98.2	0.0	1.8	0.0
	周辺層	97	93	1	2	1
		100.0	95.9	1.0	2.1	1.0
	一般層	838	829	7	1	1
		100.0	98.9	0.8	0.1	0.1

図表 4-4-6 子どものための支出の状況：全体、世帯タイプ別

		該当数	している	したくない（方針でしない）	経済的にできない	無回答
毎月お小遣いを渡す（＊＊＊）	全体	1,482	1,131	122	189	40
		100.0	76.3	8.2	12.8	2.7
	ふたり親（二世代）	1,135	886	205	32	12
		100.0	78.1	18.1	2.8	1.1
	ふたり親（三世代）	111	85	18	7	1
		100.0	76.6	16.2	6.3	0.9
	ひとり親（二世代）	182	131	26	24	1
		100.0	72.0	14.3	13.2	0.5
	ひとり親（三世代）	32	21	9	2	0
		100.0	65.6	28.1	6.3	0.0
毎年新しい（お古でない）洋服・靴を買う（＊＊＊）	全体	1,482	1,387	36	46	13
		100.0	93.6	2.4	3.1	0.9
	ふたり親（二世代）	1,135	1,085	22	21	7
		100.0	95.6	1.9	1.9	0.6
	ふたり親（三世代）	111	98	4	6	3
		100.0	88.3	3.6	5.4	2.7
	ひとり親（二世代）	182	158	9	14	1
		100.0	86.8	4.9	7.7	0.5
	ひとり親（三世代）	32	28	1	3	0
		100.0	87.5	3.1	9.4	0.0
習い事（音楽、スポーツ、習字等）に通わせる（＊＊＊）	全体	1,482	905	362	155	60
		100.0	61.1	24.4	10.5	4.0
	ふたり親（二世代）	1,135	714	295	80	46
		100.0	62.9	26.0	7.0	4.1
	ふたり親（三世代）	111	68	20	17	6
		100.0	61.3	18.0	15.3	5.4
	ひとり親（二世代）	182	95	33	52	2
		100.0	52.2	18.1	28.6	1.1
	ひとり親（三世代）	32	17	9	4	2
		100.0	53.1	28.1	12.5	6.3
学習塾に通わせる（または家庭教師に来てもらう、オンライン含む）（＊＊＊）	全体	1,482	939	347	149	47
		100.0	63.4	23.4	10.1	3.2
	ふたり親（二世代）	1,135	742	269	89	35
		100.0	65.4	23.7	7.8	3.1
	ふたり親（三世代）	111	69	25	12	5
		100.0	62.2	22.5	10.8	4.5
	ひとり親（二世代）	182	95	41	43	3
		100.0	52.2	22.5	23.6	1.6
	ひとり親（三世代）	32	22	7	3	0
		100.0	68.8	21.9	9.4	0.0
お誕生日のお祝いをする（＊）	全体	1,482	1,442	14	15	11
		100.0	97.3	0.9	1.0	0.7
	ふたり親（二世代）	1,135	1,112	8	8	7
		100.0	98.0	0.7	0.7	0.6
	ふたり親（三世代）	111	108	0	2	1
		100.0	97.3	0.0	1.8	0.9
	ひとり親（二世代）	182	174	5	3	0
		100.0	95.6	2.7	1.6	0.0
	ひとり親（三世代）	32	31	0	1	0
		100.0	96.9	0.0	3.1	0.0

		該当数	している	したくない（方針でしない）	経済的にできない	無回答
1年に1回くらい家族旅行に行く（＊＊＊）	全体	1,482	1,131	122	189	40
		100.0	76.3	8.2	12.8	2.7
	ふたり親（二世代）	1,135	912	90	106	27
		100.0	80.4	7.9	9.3	2.4
	ふたり親（三世代）	111	78	11	17	5
		100.0	70.3	9.9	15.3	4.5
	ひとり親（二世代）	182	105	16	55	6
		100.0	57.7	8.8	30.2	3.3
	ひとり親（三世代）	32	19	4	9	0
		100.0	59.4	12.5	28.1	0.0
クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる（＊＊）	全体	1,482	1,396	34	36	16
		100.0	94.2	2.3	2.4	1.1
	ふたり親（二世代）	1,135	1,080	27	17	11
		100.0	95.2	2.4	1.5	1.0
	ふたり親（三世代）	111	104	2	4	1
		100.0	93.7	1.8	3.6	0.9
	ひとり親（二世代）	182	163	5	13	1
		100.0	89.6	2.7	7.1	0.5
	ひとり親（三世代）	32	31	0	1	0
		100.0	96.9	0.0	3.1	0.0
修学旅行などお金がかかる学校の活動（X）	全体	1,482	1,453	8	6	15
		100.0	98.0	0.5	0.4	1.0
	ふたり親（二世代）	1,135	1,115	5	4	11
		100.0	98.2	0.4	0.4	1.0
	ふたり親（三世代）	111	108	2	0	1
		100.0	97.3	1.8	0.0	0.9
	ひとり親（二世代）	182	181	0	1	0
		100.0	99.5	0.0	0.5	0.0
	ひとり親（三世代）	32	32	0	0	0
		100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
パソコンかタブレットを与える（＊＊＊）	全体	1,482	1,333	70	62	17
		100.0	89.9	4.7	4.2	1.1
	ふたり親（二世代）	1,135	1,039	56	30	10
		100.0	91.5	4.9	2.6	0.9
	ふたり親（三世代）	111	100	3	6	2
		100.0	90.1	2.7	5.4	1.8
	ひとり親（二世代）	182	151	8	23	0
		100.0	83.0	4.4	12.6	0.0
	ひとり親（三世代）	32	27	2	2	1
		100.0	84.4	6.3	6.3	3.1
スマートフォンを与える（＊）	全体	1,482	1,449	17	6	10
		100.0	97.8	1.1	0.4	0.7
	ふたり親（二世代）	1,135	1,113	14	2	6
		100.0	98.1	1.2	0.2	0.5
	ふたり親（三世代）	111	108	2	0	1
		100.0	97.3	1.8	0.0	0.9
	ひとり親（二世代）	182	179	0	3	0
		100.0	98.4	0.0	1.6	0.0
	ひとり親（三世代）	32	31	1	0	0
		100.0	96.9	3.1	0.0	0.0

５．まとめ

（１）子どもの食

子どもの食生活については困窮層とひとり親（二世代）世帯において、平日に食事をとる頻度が低くなる傾向があった（**図表 4-1-1**、**図表 4-1-2**、**図表 4-1-3**）。また、食事の内容の面でも一部で世帯の状況に応じた差が見られ、果物を毎日食べる子どもは一般層では 57.0%であったのに対し、困窮層では 41.8%であった（**図表 4-1-4**、**図表 4-1-6**）。

食に関する支援・サービスの一つである「子ども食堂」については、約 4 人に 1 人のニーズがあり、特に困窮層については 32.7%・周辺層については 35.1%と、約 3 人に 1 人のより高いニーズが確認できた（**図表 4-1-10**、**図表 4-1-12**）。また、「学校における無料の給食サービス」では 43.6%、「夕ご飯を同世代と食べることができる場所」では 40.0%が、「食料品が無料でもらえる場所」では 49.0%が「使ってみたい」または「興味がある」と回答しており、一定のニーズの存在が明らかになった。特に、困窮層においては、「学校における無料の給食サービス」では 58.2%が、「夕ご飯を同世代と食べることができる場所」では 49.1%が、「食料品が無料でもらえる場所」では 69.1%が「使ってみたい」または「興味がある」と回答しており、高いニーズが確認できた（**図表 4-1-13**、**図表 4-1-15**）。

（２）子どもの所有物・体験

子どもの所有物・体験の状況を見ると「スマートフォン」を持っている子どもの割合が 98.0%にものぼり、「自分が使えるパソコンまたはタブレット」も 93.6%と、子どもたちにとって情報機器が身近な存在であることが伺える。特に「（自宅で）インターネットにつながる環境」「スマートフォン」については、生活困難度や世帯タイプによる所有状況の差が確認されなかった。反対に、生活困難度による差が大きかったのは「自分の部屋」「学習塾（または家庭教師、オンライン含む）」「１年に１回の家族旅行（１泊以上）」である。それぞれ、困窮層の約 4 割、約３割、約５割が、「ほしい（したい）」と回答している（**図表 4-2-1**、**図表 4-2-3**）。

（３）子どもの日常的な活動

子どもたちが日常的に行っている活動を見ると、「ゲーム（ゲーム機、ウェブ等）をする」では 26.3%が、「SNS（Instagram、TikTok などを見たり、書き込んだりする）」では 26.6%が、「テレビやインターネット（YouTube など）を観る」では 34.5%が、「SNS（LINE、X（旧 Twitter）、Instagram など）などによる他者とのやりとり」では 13.8%が、２時間以上行っていると回答していた。特に困窮層においては、２時間以上「ゲーム（ゲーム機、ウェブ等）をする」割合が 43.6%、２時間以上「テレビやインターネット（YouTube など）を観る」割合が 50.9%と、高い割合を示していた（**図表 4-3-1**、**図表 4-3-3**）。

このようなゲーム機の利用・テレビやインターネットの視聴・SNS の利用については、過度な利用に対する懸念や、有害情報に接してしまう・トラブルに巻き込まれるといった子どものインターネットや SNS 等の利用に伴う様々なリスクが存在していることから、このような機器との適切な向き合い方を子どもに普及啓発していく必要性が生じている。

また、「家事（洗濯、掃除、料理、片付けなど）」「弟や妹の世話」「父母・祖父母など家族の介護・看病」「家族の通訳や手続きの手伝い」について、毎日２時間以上実施している割合はそれぞれ 1.2%・1.0%・0.2%・0.3%であった。世田谷区においても、少数だがヤングケアラー傾向にある子どもが存在することが確認できる（**図表 4-3-5**、**図表 4-3-7**）。

（４）子どものための支出

子どもための支出を見ると、多くの項目において生活困難度と世帯タイプによる差が見られた。一般層に比べて、周

辺層や困窮層、ふたり親世帯に比べて、ひとり親世帯において、経済的な理由から子どものための支出をできないと回答した保護者の割合が高かった。特に、困窮層における「習い事（音楽、スポーツ、習字等）に通わせる」（78.2%）、「学習塾に通わせる（または家庭教師に来てもらう、オンライン含む）」（70.9%）といった定期的な教育費の支出ができない保護者の割合の高さは注目に値する。これらの値は世帯タイプ別で見た際のひとり親世帯における割合よりも高い（**図表 4-4-1**、**図表 4-4-2**、**図表 4-4-3**、**図表 4-4-4**、**図表 4-4-5**、**図表 4-4-6**）。

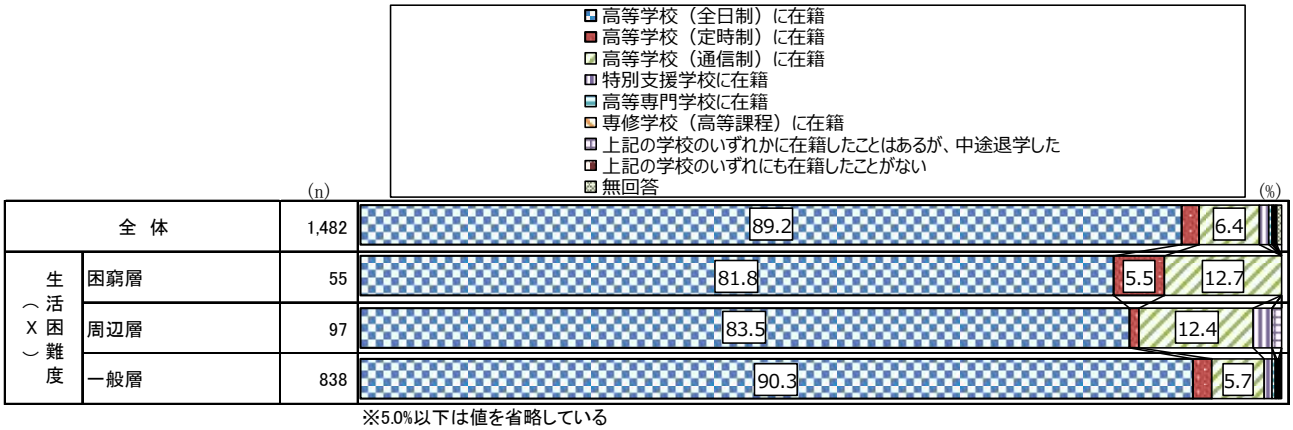
第５章　子どもの学び

１．子どもの学習状況

（１）就学状況

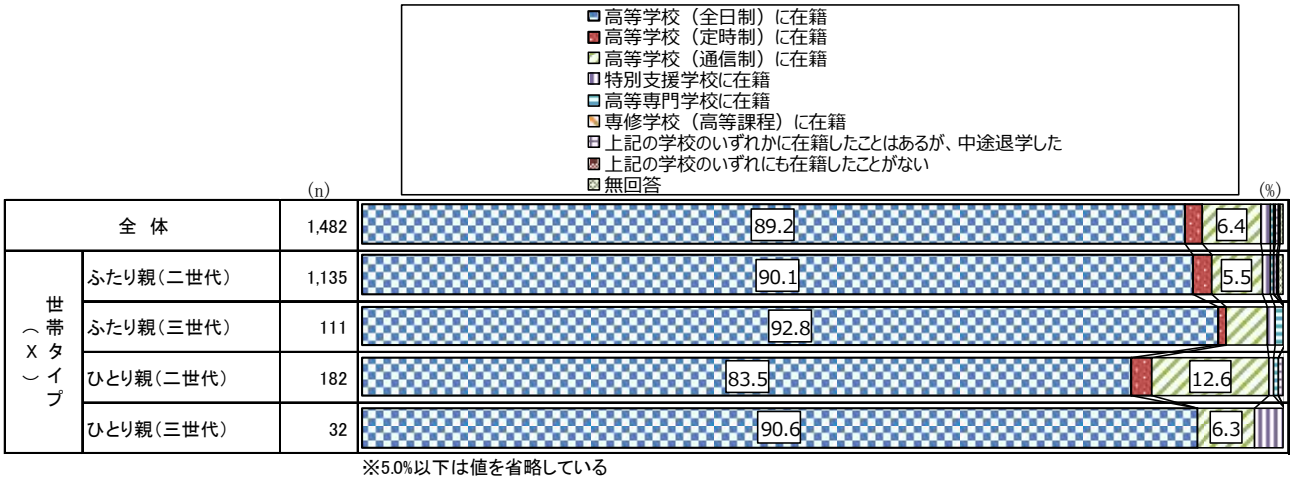
子どもに就学状況について聞いたところ、「高等学校（全日制）に在籍」している割合は 89.2%、「高等学校（定時制）に在籍」している割合は 1.9%、「高等学校（通信制）に在籍」している割合は 6.4%、「特別支援学校に在籍」している割合は 1.1%、「高等専門学校に在籍」している割合は 0.3%、「専修学校（高等課程）に在籍」している割合は 0.1%、「上記の学校のいずれかに在籍したことはあるが、中途退学した」割合は 0.3%、「上記の学校のいずれにも在籍したことがない」割合は 0.2%であった。なお、生活困難度別・世帯タイプ別のいずれについても、統計的に有意な差は確認されなかった。

図表 5-1-1　就学状況：全体、生活困難度別（X）



※5.0%以下は値を省略している

図表 5-1-2　就学状況：全体、世帯タイプ別（X）



※5.0%以下は値を省略している

図表 5-1-3 就学状況：全体、生活困難度別（X）、世帯タイプ別（X）

		該当数	高等学校（全日制）に在籍	高等学校（定時制）に在籍	高等学校（通信制）に在籍	特別支援学校に在籍	高等専門学校に在籍	専修学校（高等課程）に在籍	上記の学校のいずれかに在籍したことはあるが、中途退学した	上記の学校のいずれにも在籍したことがない	無回答
全体		1,482	1,322	28	95	16	5	2	4	3	7
		100.0	89.2	1.9	6.4	1.1	0.3	0.1	0.3	0.2	0.5
生活困難度（X）	困窮層	55	45	3	7	0	0	0	0	0	0
		100.0	81.8	5.5	12.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	周辺層	97	81	1	12	2	0	0	1	0	0
		100.0	83.5	1.0	12.4	2.1	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0
	一般層	838	757	17	48	7	3	1	2	1	2
		100.0	90.3	2.0	5.7	0.8	0.4	0.1	0.2	0.1	0.2
世帯タイプ（X）	ふたり親（二世代）	1,135	1,023	23	62	11	3	1	3	3	6
		100.0	90.1	2.0	5.5	1.0	0.3	0.1	0.3	0.3	0.5
	ふたり親（三世代）	111	103	1	5	1	1	0	0	0	0
		100.0	92.8	0.9	4.5	0.9	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0
	ひとり親（二世代）	182	152	4	23	1	1	0	1	0	0
		100.0	83.5	2.2	12.6	0.5	0.5	0.0	0.5	0.0	0.0
	ひとり親（三世代）	32	29	0	2	1	0	0	0	0	0
		100.0	90.6	0.0	6.3	3.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

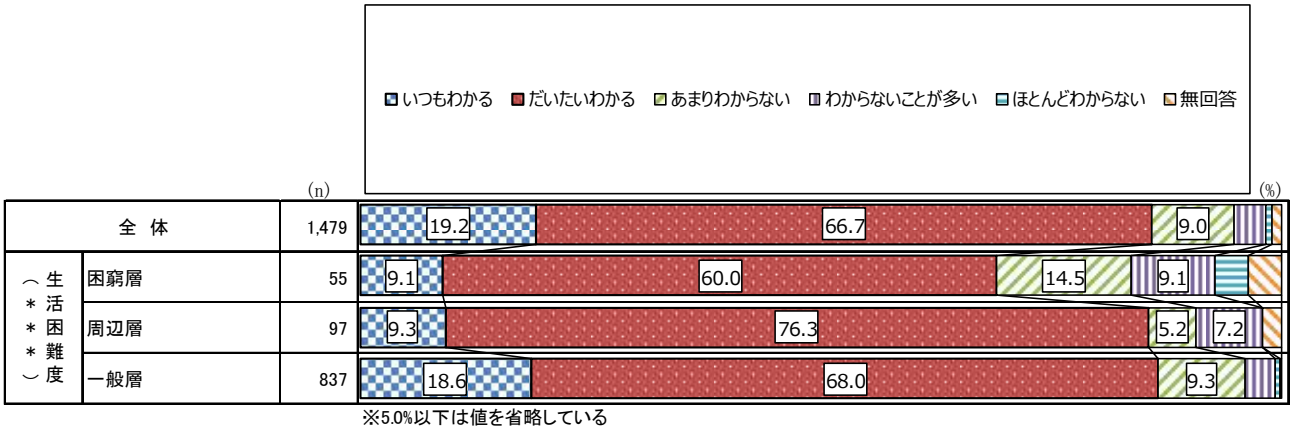
（２）授業の理解度

子ども本人に、「学校の授業がわからないことがありますか」と聞いたところ、19.2%が「いつもわかる」、66.7%が「だいたいわかる」と答えており、合わせて 85.9%が学校の授業が理解できると回答している。一方で、9.0%が「あまりわからない」、3.4%が「わからないことが多い」、0.7%が「ほとんどわからない」と回答しており、学習に課題を抱える子どもが１割強存在する。

生活困難度別に見ると、統計的に有意な差が確認され、困窮層にて「いつもわかる」と回答した子どもは 9.1%となっており、これは、一般層の 18.6%に比べ 9.5 ポイント低い。困窮層の 27.2%は、学校の授業がわからない（「あまりわからない」14.5%、「わからないことが多い」9.1%、「ほとんどわからない」3.6%）と答えている。

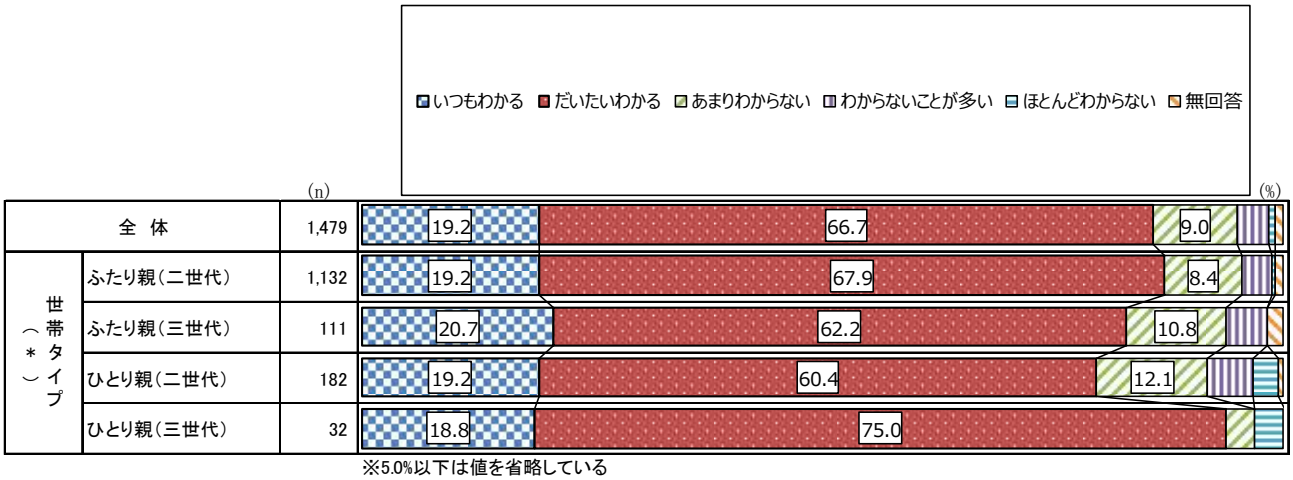
世帯タイプ別に見ると、統計的に有意な差が確認され、授業が「いつもわかる」「だいたいわかる」と回答した子どもは、ひとり親（三世代）、ふたり親（二世代）、ふたり親（三世代）、ひとり親（二世代）の順で多い。

図表 5-1-4 授業の理解度：全体、生活困難度別（*）**



※5.0%以下は値を省略している

図表 5-1-5 授業の理解度：全体、世帯タイプ別（*）



※5.0%以下は値を省略している

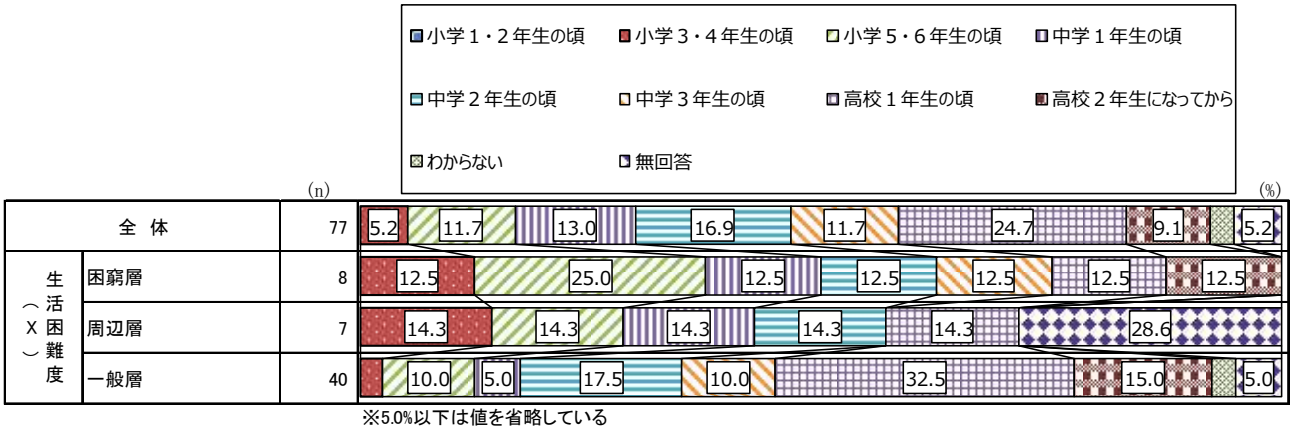
図表 5-1-6 授業の理解度：全体、生活困難度別（*）、世帯タイプ別（*）**

		該当数	いつもわかる	だいたいわかる	あまりわからない	わからないことが多い	ほとんどわからない	無回答
全 体		1,479	284	986	133	51	10	15
		100.0	19.2	66.7	9.0	3.4	0.7	1.0
生活困難度（***）	困窮層	55	5	33	8	5	2	2
		100.0	9.1	60.0	14.5	9.1	3.6	3.6
	周辺層	97	9	74	5	7	0	2
		100.0	9.3	76.3	5.2	7.2	0.0	2.1
	一般層	837	156	569	78	28	5	1
		100.0	18.6	68.0	9.3	3.3	0.6	0.1
世帯タイプ（*）	ふたり親（二世代）	1,132	217	769	95	37	4	10
		100.0	19.2	67.9	8.4	3.3	0.4	0.9
	ふたり親（三世代）	111	23	69	12	5	0	2
		100.0	20.7	62.2	10.8	4.5	0.0	1.8
	ひとり親（二世代）	182	35	110	22	9	5	1
		100.0	19.2	60.4	12.1	4.9	2.7	0.5
	ひとり親（三世代）	32	6	24	1	0	1	0
		100.0	18.8	75.0	3.1	0.0	3.1	0.0

（３）授業がわからなくなった時期

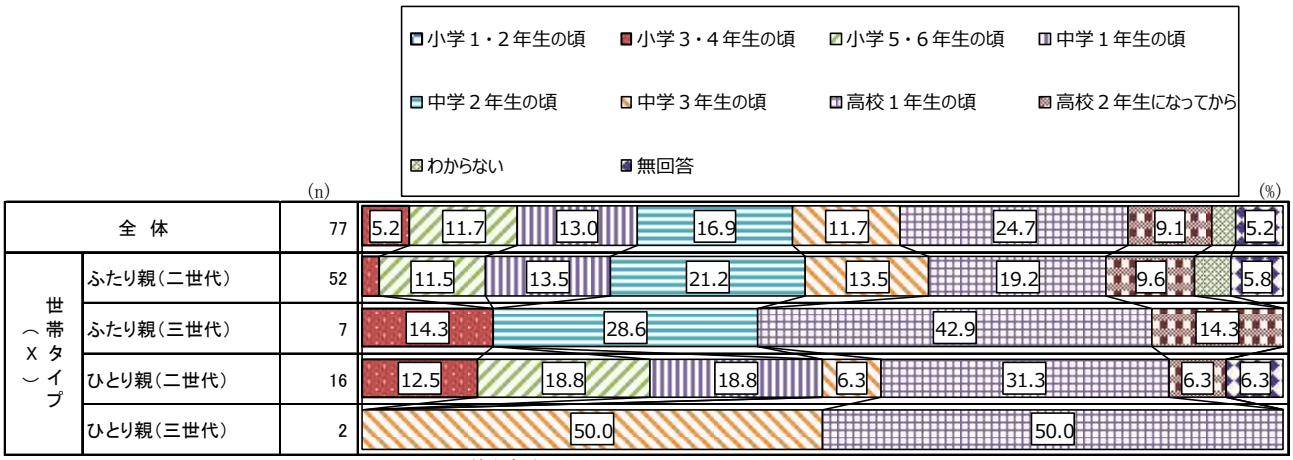
次に、授業が「わからないことが多い」または「ほとんどわからない」と答えた子どもに、いつからわからなくなったのか聞いた。すると、「高校１年生の頃」が最も多く 24.7%、次が「中学２年生の頃」の 16.9%であった。生活困難度別・世帯タイプ別には、統計的に有意な差は確認されなかった。

図表 5-1-7　授業がわからなくなった時期：全体、生活困難度別（X）



※5.0%以下は値を省略している

図表 5-1-8　授業がわからなくなった時期：全体、世帯タイプ別（X）



※5.0%以下は値を省略している

図表 5-1-9 授業がわからなくなった時期：全体、生活困難度別（X）、世帯タイプ別（X）

		該当数	小学1・2年生の頃	小学3・4年生の頃	小学5・6年生の頃	中学1年生の頃	中学2年生の頃	中学3年生の頃	高校1年生の頃	高校2年生になってから	わからない	無回答
全 体		77	0	4	9	10	13	9	19	7	2	4
		100.0	0.0	5.2	11.7	13.0	16.9	11.7	24.7	9.1	2.6	5.2
生活困難度（X）	困窮層	8	0	1	2	1	1	1	1	1	0	0
		100.0	0.0	12.5	25.0	12.5	12.5	12.5	12.5	12.5	0.0	0.0
	周辺層	7	0	1	1	1	1	0	1	0	0	2
		100.0	0.0	14.3	14.3	14.3	14.3	0.0	14.3	0.0	0.0	28.6
	一般層	40	0	1	4	2	7	4	13	6	1	2
		100.0	0.0	2.5	10.0	5.0	17.5	10.0	32.5	15.0	2.5	5.0
世帯タイプ（X）	ふたり親（二世代）	52	0	1	6	7	11	7	10	5	2	3
		100.0	0.0	1.9	11.5	13.5	21.2	13.5	19.2	9.6	3.8	5.8
	ふたり親（三世代）	7	0	1	0	0	2	0	3	1	0	0
		100.0	0.0	14.3	0.0	0.0	28.6	0.0	42.9	14.3	0.0	0.0
	ひとり親（二世代）	16	0	2	3	3	0	1	5	1	0	1
		100.0	0.0	12.5	18.8	18.8	0.0	6.3	31.3	6.3	0.0	6.3
	ひとり親（三世代）	2	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0

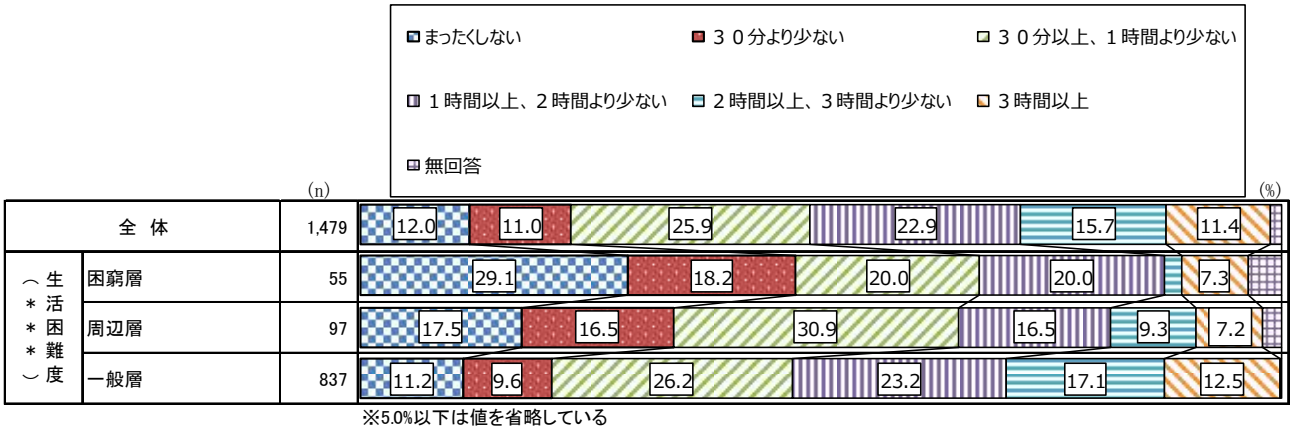
（４）授業以外の勉強時間

次に、月曜日～金曜日の、学校の授業以外の勉強時間について聞いた。すると、「30 分以上、１時間より少ない」と回答した割合が最も高く、25.9%であった。また、「まったくしない」と回答した子どもは 12.0%であった。

生活困難度別に見ると、統計的に有意な差が確認され、「まったくしない」と回答した割合が一般層では 11.2%であったのに対し、困窮層では 29.1%にのぼる等、生活困難度が高まるほど勉強時間が短くなる傾向が見られる。

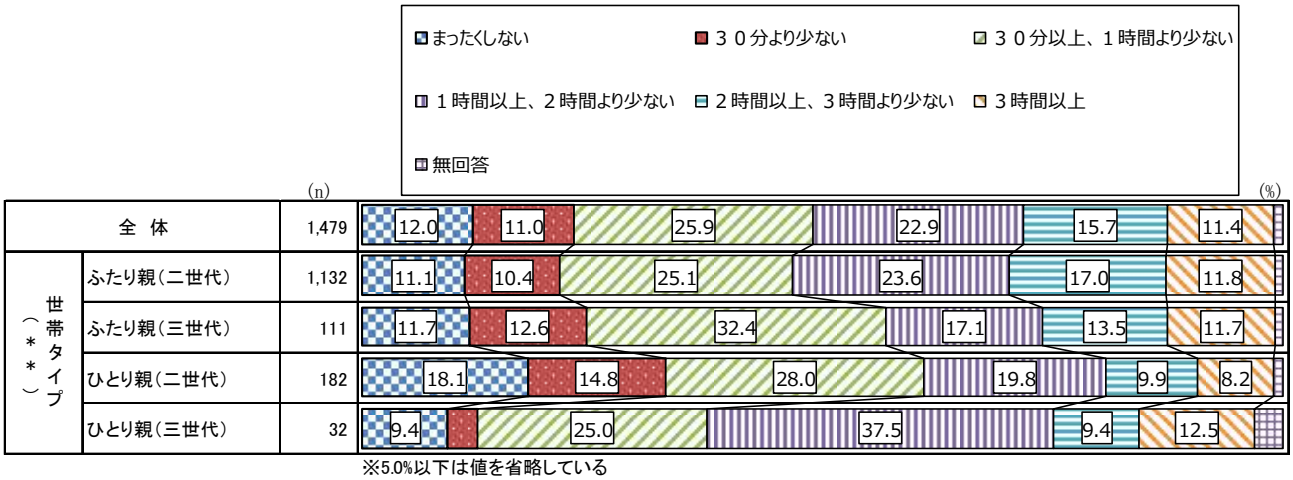
世帯タイプ別に見ると、統計的に有意な差が確認され、ひとり親（二世代）世帯の子どもの勉強時間が他と比較して短い傾向が見られた。

図表 5-1-10 学校の授業以外の勉強時間：全体、生活困難度別（*）**



※5.0%以下は値を省略している

図表 5-1-11 学校の授業以外の勉強時間：全体、世帯タイプ別（）**



※5.0%以下は値を省略している

図表 5-1-12 学校の授業以外の勉強時間：全体、生活困難度別（*）、世帯タイプ別（**）**

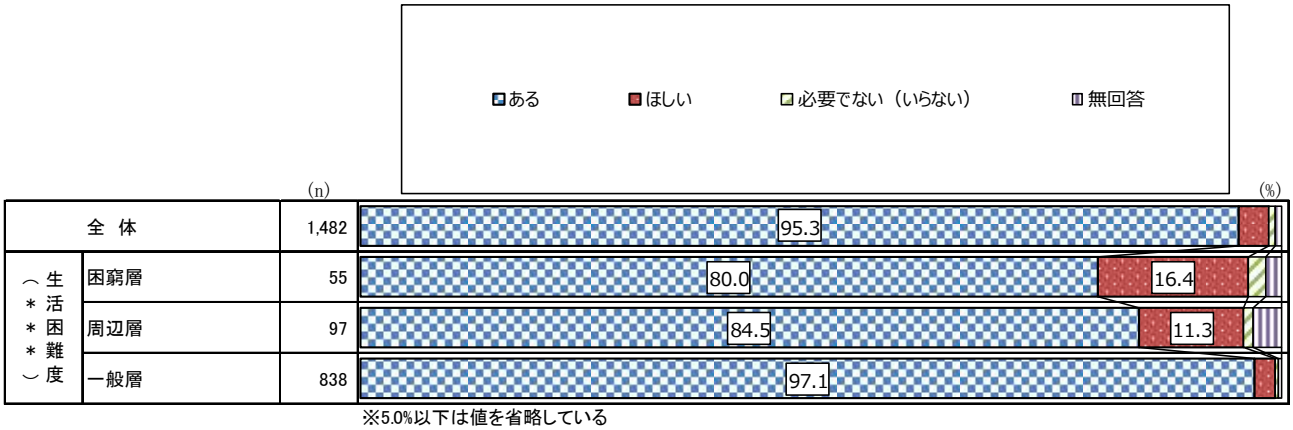
		該当数	まったくしない	３０分より少ない	３０分以上、１時間より少ない	１時間以上、２時間より少ない	２時間以上、３時間より少ない	３時間以上	無回答
全 体		1,479	177	163	383	338	232	169	17
		100.0	12.0	11.0	25.9	22.9	15.7	11.4	1.1
生活困難度（＊＊＊）	困窮層	55	16	10	11	11	1	4	2
		100.0	29.1	18.2	20.0	20.0	1.8	7.3	3.6
	周辺層	97	17	16	30	16	9	7	2
		100.0	17.5	16.5	30.9	16.5	9.3	7.2	2.1
	一般層	837	94	80	219	194	143	105	2
		100.0	11.2	9.6	26.2	23.2	17.1	12.5	0.2
世帯タイプ（＊＊）	ふたり親（二世代）	1,132	126	118	284	267	193	134	10
		100.0	11.1	10.4	25.1	23.6	17.0	11.8	0.9
	ふたり親（三世代）	111	13	14	36	19	15	13	1
		100.0	11.7	12.6	32.4	17.1	13.5	11.7	0.9
	ひとり親（二世代）	182	33	27	51	36	18	15	2
		100.0	18.1	14.8	28.0	19.8	9.9	8.2	1.1
	ひとり親（三世代）	32	3	1	8	12	3	4	1
		100.0	9.4	3.1	25.0	37.5	9.4	12.5	3.1

（５）自宅の学習環境

自宅の学習環境を把握するために、子ども本人に「家の中で勉強ができる場所」があるか否かを聞いた。「ある」と回答した割合は 95.3%であった。

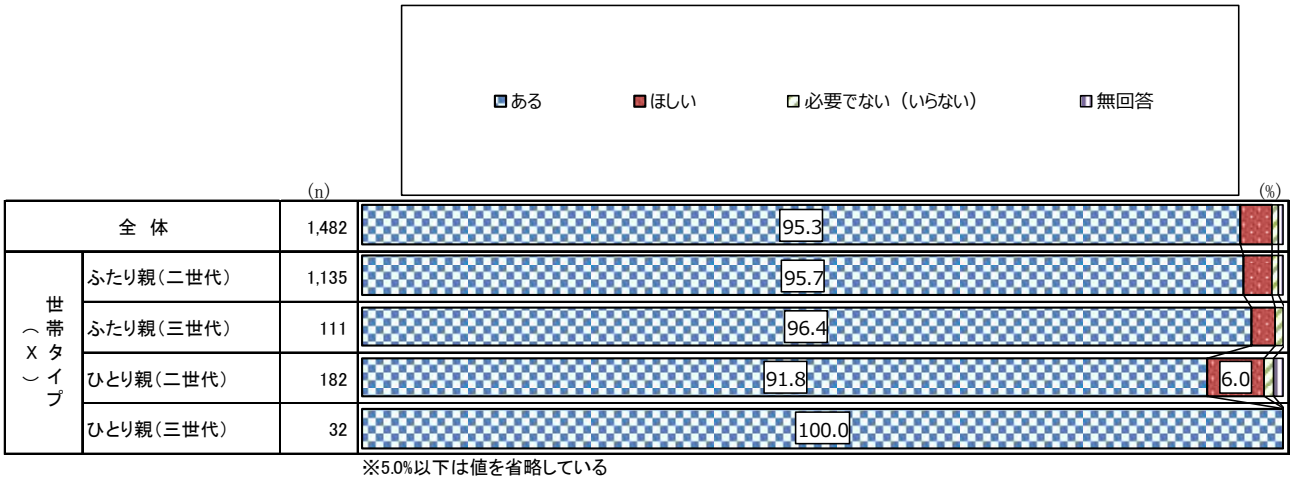
生活困難度別に見ると、統計的に有意な差が確認され、生活困難度が高いほど「ある」と回答した割合が低く、「ほしい」と回答した割合が高かった。なお、世帯タイプ別には統計的に有意な差は確認されなかった。

図表 5-1-13　家の中で勉強ができる場所：全体、生活困難度別（*）**



※5.0%以下は値を省略している

図表 5-1-14　家の中で勉強ができる場所：全体、世帯タイプ別（X）



※5.0%以下は値を省略している

図表 5-1-15 家の中で勉強ができる場所：全体、生活困難度別（*）、世帯タイプ別（X）**

		該当数	ある（できる）	ほしい（したい）	必要でない（いらない）	無回答
全 体		1,482 100.0	1,413 95.3	49 3.3	10 0.7	10 0.7
生活困難度（***）	困窮層	55 100.0	44 80.0	9 16.4	1 1.8	1 1.8
	周辺層	97 100.0	82 84.5	11 11.3	1 1.0	3 3.1
	一般層	838 100.0	814 97.1	18 2.1	3 0.4	3 0.4
世帯タイプ（X）	ふたり親（二世代）	1,135 100.0	1,086 95.7	35 3.1	7 0.6	7 0.6
	ふたり親（三世代）	111 100.0	107 96.4	3 2.7	1 0.9	0 0.0
	ひとり親（二世代）	182 100.0	167 91.8	11 6.0	2 1.1	2 1.1
	ひとり親（三世代）	32 100.0	32 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

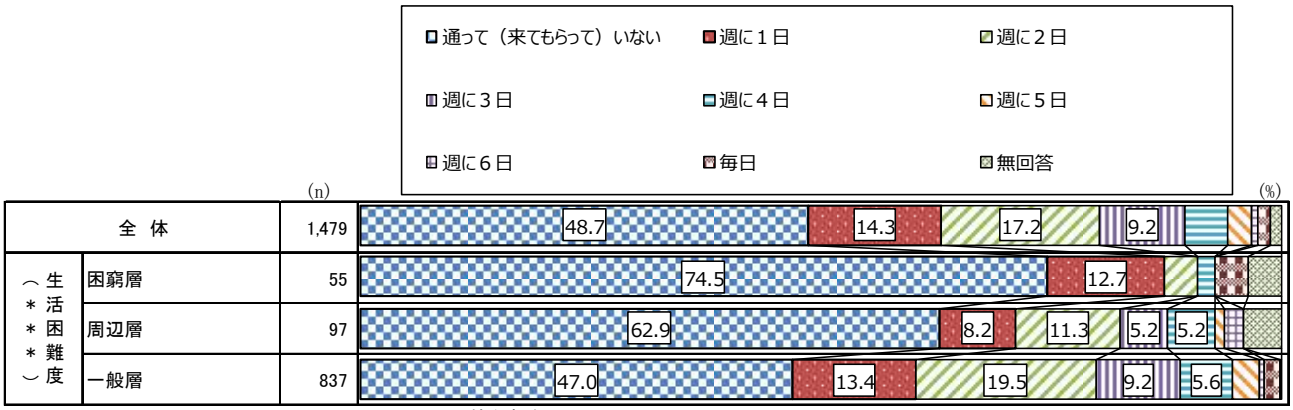
（６）塾や家庭教師の有無

通塾（又は家庭教師）については、「通って（来てもらって）いない」割合は48.7%であり、約５割が学習塾に通っている。また最も多い頻度は「週に２日」（17.2%）であり、次いで「週に１日」（14.3%）、「週に３日」（9.2%）であった。

生活困難度別に見ると、統計的に有意な差が確認され、「通って（来てもらって）いない」割合は、一般層では47.0%であったのに対し、困窮層では 74.5%にのぼる等、生活困難度が高いほど通塾率が低く、また通塾頻度が少ない傾向が見られた。

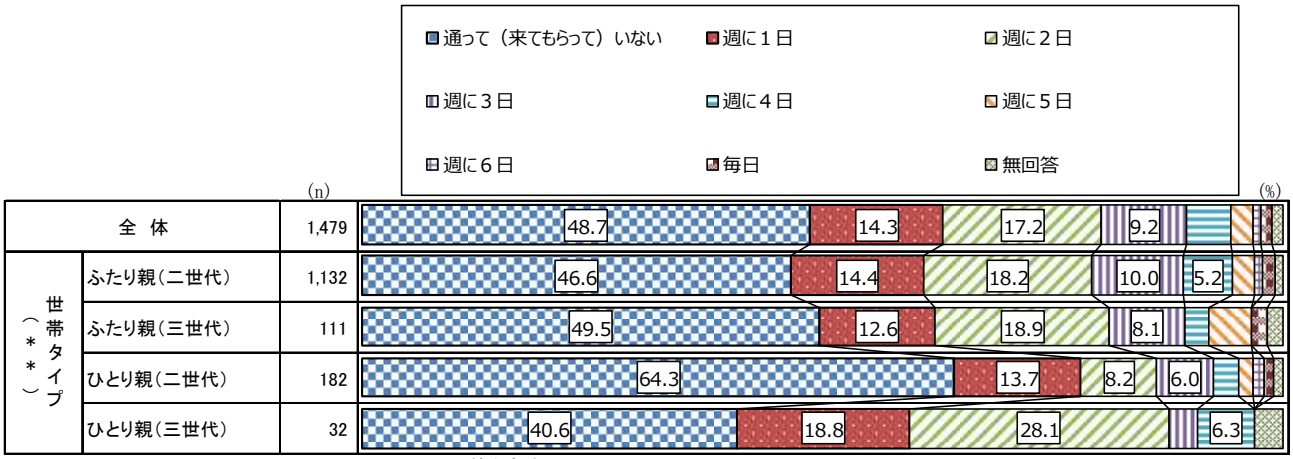
世帯タイプ別に見ると、統計的に有意な差が確認され、特にひとり親（二世代）世帯にて「通って（来てもらって）いない」割合が 64.3%にのぼる等、通塾率が低く、また通塾頻度が少ない傾向が見られた。

図表 5-1-16　塾や家庭教師の有無：全体、生活困難度別（*）**



※5.0%以下は値を省略している

図表 5-1-17　塾や家庭教師の有無：全体、世帯タイプ別（）**



※5.0%以下は値を省略している

図表 5-1-18 塾や家庭教師の有無：全体、生活困難度別（***）、世帯タイプ別（**）

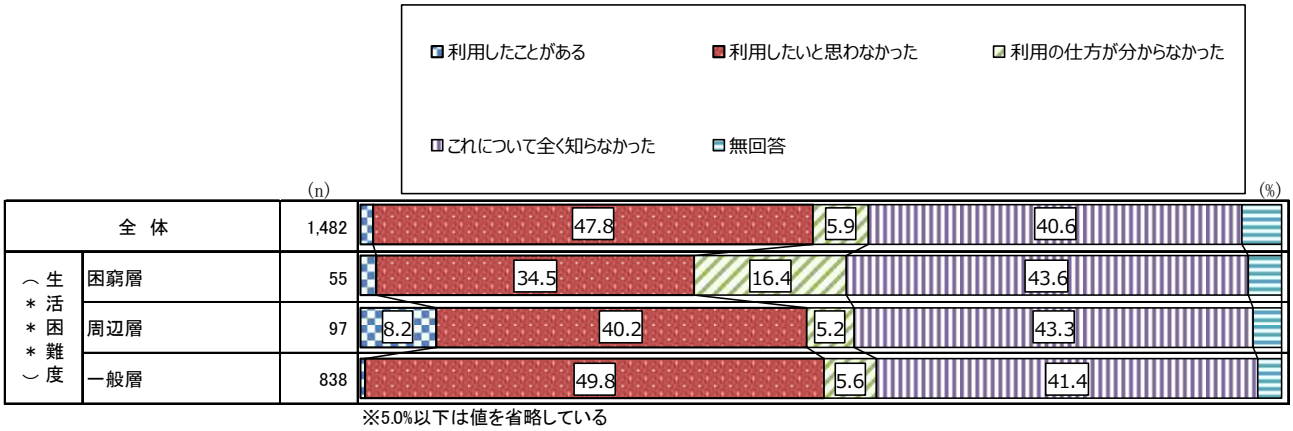
		該当数	通って（来てもらって）いない	週に1日	週に2日	週に3日	週に4日	週に5日	週に6日	毎日	無回答
全体		1,479	720	212	255	136	70	37	11	20	18
		100.0	48.7	14.3	17.2	9.2	4.7	2.5	0.7	1.4	1.2
生活困難度（***）	困窮層	55	41	7	2	0	1	0	0	2	2
		100.0	74.5	12.7	3.6	0.0	1.8	0.0	0.0	3.6	3.6
	周辺層	97	61	8	11	5	5	1	2	0	4
		100.0	62.9	8.2	11.3	5.2	5.2	1.0	2.1	0.0	4.1
	一般層	837	393	112	163	77	47	24	5	15	1
		100.0	47.0	13.4	19.5	9.2	5.6	2.9	0.6	1.8	0.1
世帯タイプ（**）	ふたり親（二世代）	1,132	527	163	206	113	59	29	9	16	10
		100.0	46.6	14.4	18.2	10.0	5.2	2.6	0.8	1.4	0.9
	ふたり親（三世代）	111	55	14	21	9	3	5	0	2	2
		100.0	49.5	12.6	18.9	8.1	2.7	4.5	0.0	1.8	1.8
	ひとり親（二世代）	182	117	25	15	11	5	3	2	2	2
		100.0	64.3	13.7	8.2	6.0	2.7	1.6	1.1	1.1	1.1
	ひとり親（三世代）	32	13	6	9	1	2	0	0	0	1
		100.0	40.6	18.8	28.1	3.1	6.3	0.0	0.0	0.0	3.1

2．学習支援事業

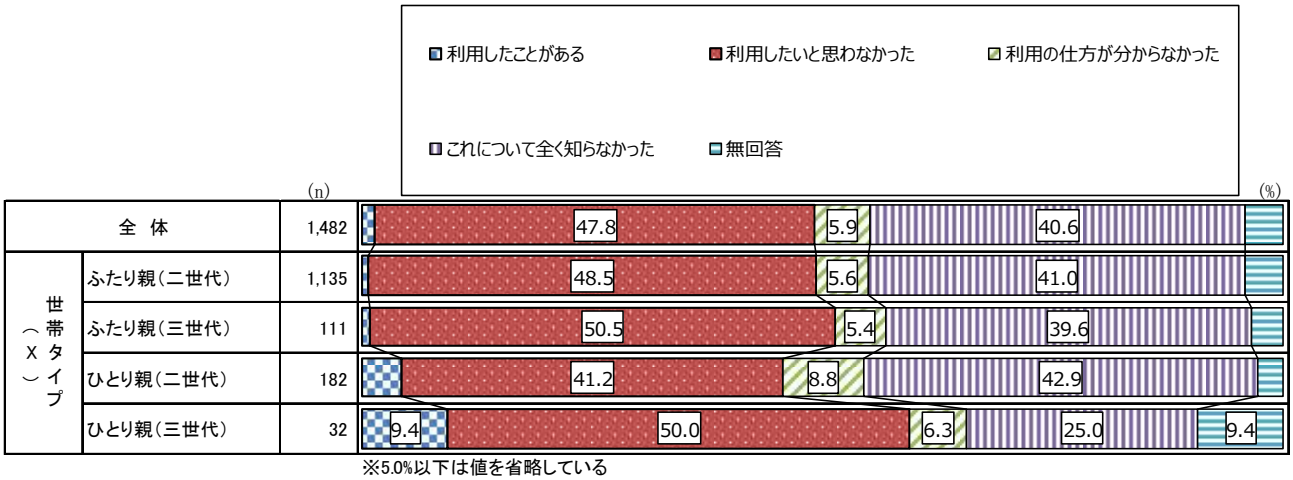
子ども本人に、各種の学習支援事業の利用状況や利用意向について聞いた。まず、無料学習支援の利用状況について聞いたところ、「利用したことがある」割合は 1.4%にとどまった。一方で、利用したことがない理由として「利用の仕方が分からなかった」割合は 5.9%であり、「これについて全く知らなかった」割合は 40.6%であった。

無料学習支援について、生活困難度別に見ると統計的に有意な差が確認され、「利用したいと思わなかった」割合は一般層では 49.8%であったのに対し、困窮層では 34.5%にとどまる。代わりに、「利用の仕方が分からなかった」割合は一般層では 5.6%であったのに対し、困窮層では 16.4%にのぼった。なお、世帯タイプ別には、統計的に有意な差は確認されなかった。

図表 5-2-1 無料学習支援の利用状況：全体、生活困難度別（*）**



図表 5-2-2 無料学習支援の利用状況：全体、世帯タイプ別（X）



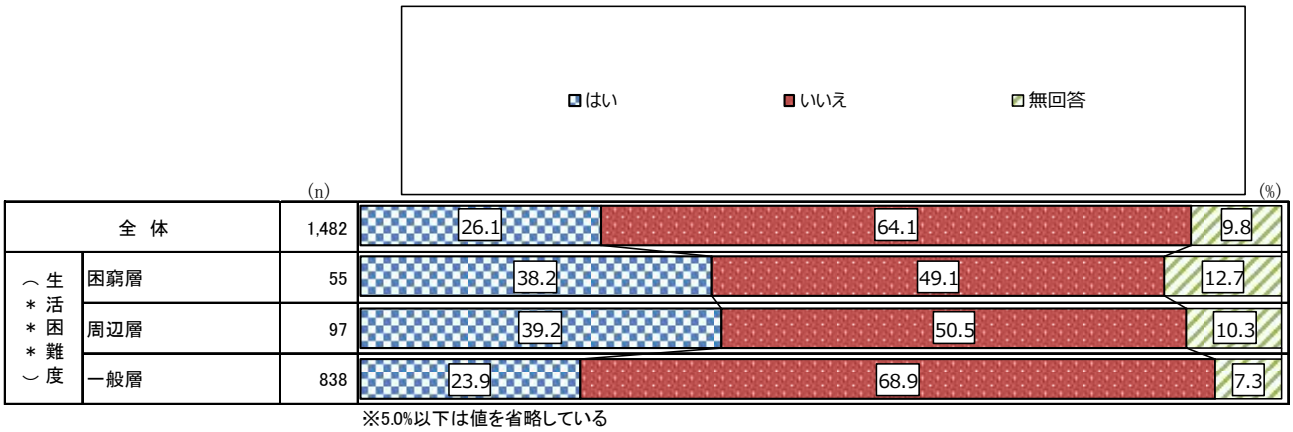
図表 5-2-3 無料学習支援の利用状況：全体、生活困難度別（*）、世帯タイプ別（X）**

		該当数	利用したことがある	利用したいと思わなかった	利用の仕方が分からなかった	これについて全く知らなかった	無回答
全 体		1,482	21	708	88	602	63
		100.0	1.4	47.8	5.9	40.6	4.3
生活困難度（***）	困窮層	55	1	19	9	24	2
		100.0	1.8	34.5	16.4	43.6	3.6
	周辺層	97	8	39	5	42	3
		100.0	8.2	40.2	5.2	43.3	3.1
	一般層	838	5	417	47	347	22
		100.0	0.6	49.8	5.6	41.4	2.6
世帯タイプ（X）	ふたり親（二世代）	1,135	9	551	63	465	47
		100.0	0.8	48.5	5.6	41.0	4.1
	ふたり親（三世代）	111	1	56	6	44	4
		100.0	0.9	50.5	5.4	39.6	3.6
	ひとり親（二世代）	182	8	75	16	78	5
		100.0	4.4	41.2	8.8	42.9	2.7
	ひとり親（三世代）	32	3	16	2	8	3
		100.0	9.4	50.0	6.3	25.0	9.4

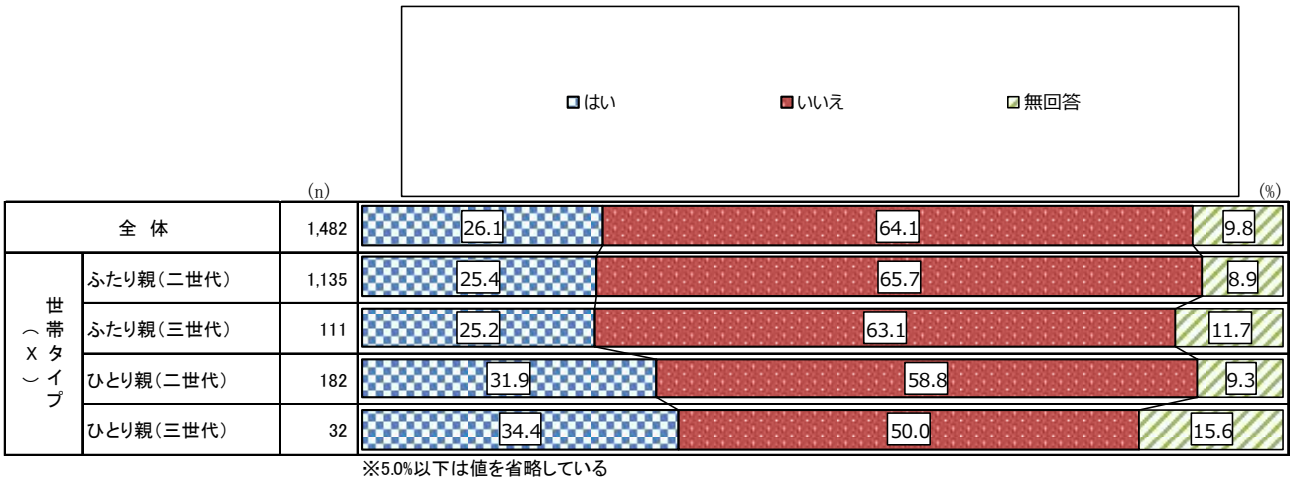
次に、無料学習支援の利用意向について、「機会があれば、利用したいか」を聞いたところ、「はい」と回答した割合は 26.1 であった。

無料学習支援について、生活困難度別に見ると統計的に有意な差が確認され、「はい」と回答した割合は一般層では 23.9%であったのに対し、困窮層では 38.2%、周辺層では 39.2%にのぼった。なお、世帯タイプ別には、統計的に有意な差は確認されなかった。

図表 5-2-4 無料学習支援の利用意向：全体、生活困難度別（*）**



図表 5-2-5 無料学習支援の利用意向：全体、世帯タイプ別（X）



図表 5-2-6 無料学習支援の利用意向：全体、生活困難度別（*）、世帯タイプ別（X）**

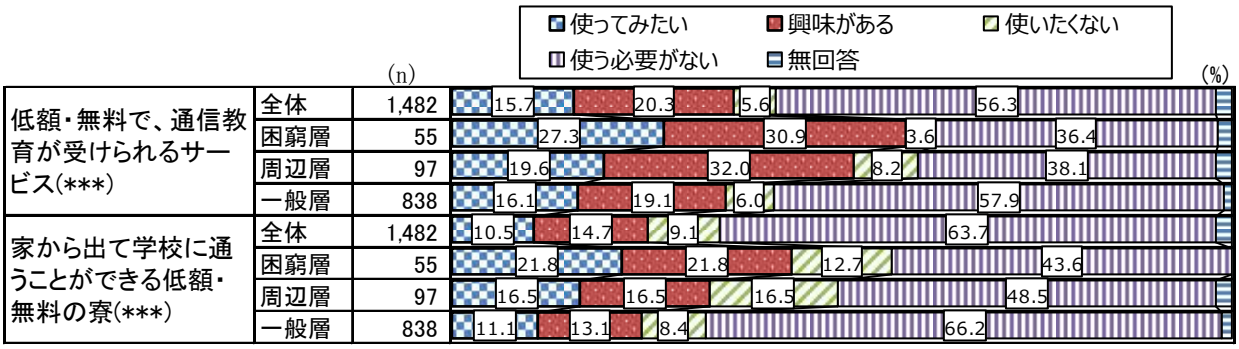
		該当数	はい	いいえ	無回答
全 体		1,482	387	950	145
		100.0	26.1	64.1	9.8
生活困難度（***）	困窮層	55	21	27	7
		100.0	38.2	49.1	12.7
	周辺層	97	38	49	10
		100.0	39.2	50.5	10.3
	一般層	838	200	577	61
		100.0	23.9	68.9	7.3
世帯タイプ（X）	ふたり親（二世代）	1,135	288	746	101
		100.0	25.4	65.7	8.9
	ふたり親（三世代）	111	28	70	13
		100.0	25.2	63.1	11.7
	ひとり親（二世代）	182	58	107	17
		100.0	31.9	58.8	9.3
	ひとり親（三世代）	32	11	16	5
		100.0	34.4	50.0	15.6

次に、「低額・無料で、通信教育が受けられるサービス」「家から出て学校に通うことができる低額・無料の寮」について利用意向を聞いたところ、「使ってみたい」「興味がある」と回答した割合は「低額・無料で、通信教育が受けられるサービス」では 36.0%、「家から出て学校に通うことができる低額・無料の寮」では 25.2%にのぼった。

いずれも生活困難度別に見ると統計的に有意な差が確認され、それぞれ、一般層では「使ってみたい」「興味がある」と回答した割合が 35.2%、24.2%であったのに対し、困窮層では 58.2%、43.6%にのぼった。

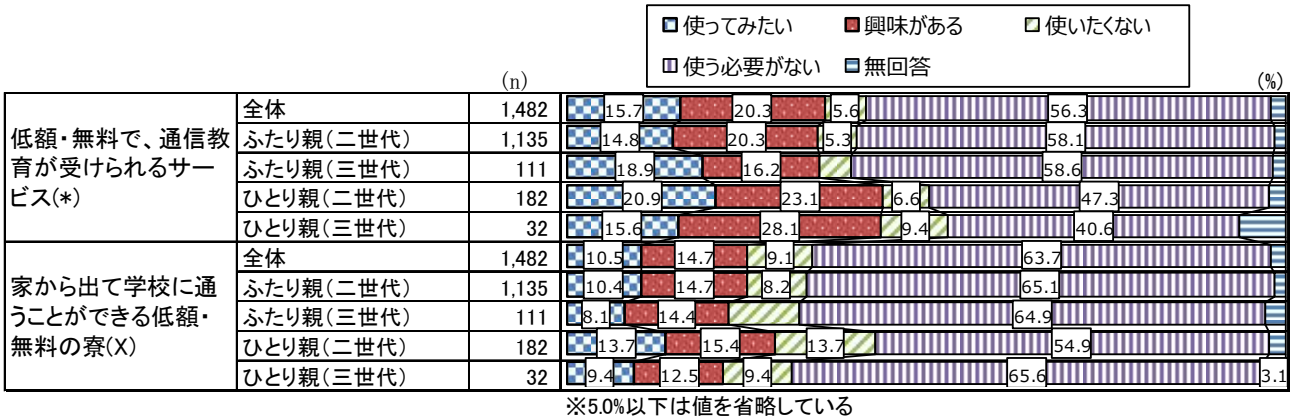
また、「低額・無料で、通信教育が受けられるサービス」については世帯タイプ別に見ると統計的に有意な差が確認され、ひとり親（二世代）にて「使ってみたい」「興味がある」と回答した割合が 44.0%と高い傾向があった。

図表 5-2-7 各種学習支援事業の利用意向：全体、生活困難度別



※5.0%以下は値を省略している

図表 5-2-8 各種学習支援事業の利用意向：全体、世帯タイプ別



※5.0%以下は値を省略している

図表 5-2-9 各種学習支援事業の利用意向：全体、生活困難度別

		該当数	使ってみたい	興味がある	使いたくない	使う必要がない	無回答
低額・無料で、通信教育が受けられるサービス（＊＊＊）	全体	1,482	233	301	83	835	30
		100.0	15.7	20.3	5.6	56.3	2.0
	困窮層	55	15	17	2	20	1
		100.0	27.3	30.9	3.6	36.4	1.8
	周辺層	97	19	31	8	37	2
		100.0	19.6	32.0	8.2	38.1	2.1
	一般層	838	135	160	50	485	8
		100.0	16.1	19.1	6.0	57.9	1.0
家から出て学校に通うことができる低額・無料の寮（＊＊＊）	全体	1,482	155	218	135	944	30
		100.0	10.5	14.7	9.1	63.7	2.0
	困窮層	55	12	12	7	24	0
		100.0	21.8	21.8	12.7	43.6	0.0
	周辺層	97	16	16	16	47	2
		100.0	16.5	16.5	16.5	48.5	2.1
	一般層	838	93	110	70	555	10
		100.0	11.1	13.1	8.4	66.2	1.2

図表 5-2-10 各種学習支援事業の利用意向：全体、世帯タイプ別

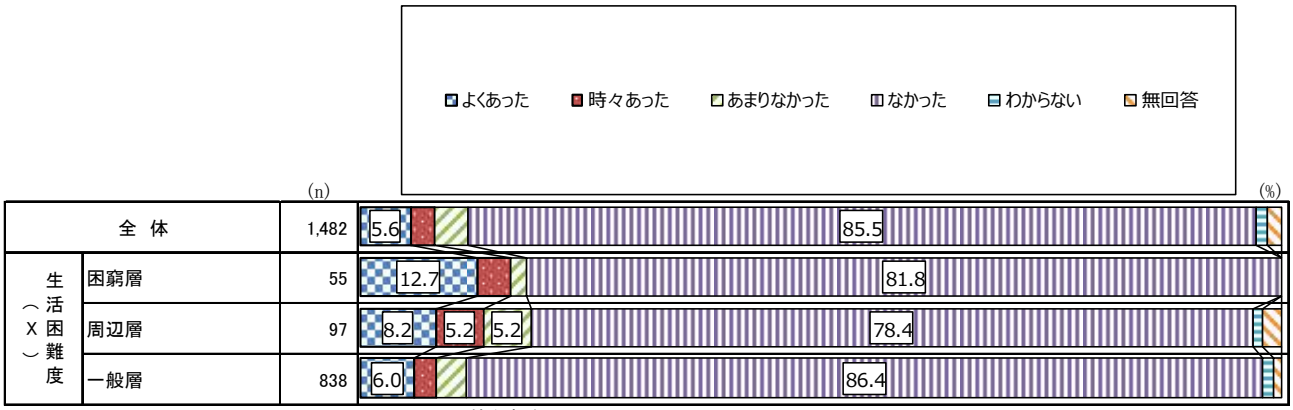
		該当数	使ってみたい	興味がある	使いたくない	使う必要がない	無回答
低額・無料で、通信教育が受けられるサービス（＊）	全体	1,482	233	301	83	835	30
		100.0	15.7	20.3	5.6	56.3	2.0
	ふたり親（二世代）	1,135	168	230	60	659	18
		100.0	14.8	20.3	5.3	58.1	1.6
	ふたり親（三世代）	111	21	18	5	65	2
		100.0	18.9	16.2	4.5	58.6	1.8
	ひとり親（二世代）	182	38	42	12	86	4
		100.0	20.9	23.1	6.6	47.3	2.2
	ひとり親（三世代）	32	5	9	3	13	2
		100.0	15.6	28.1	9.4	40.6	6.3
家から出て学校に通うことができる低額・無料の寮（Ｘ）	全体	1,482	155	218	135	944	30
		100.0	10.5	14.7	9.1	63.7	2.0
	ふたり親（二世代）	1,135	118	167	93	739	18
		100.0	10.4	14.7	8.2	65.1	1.6
	ふたり親（三世代）	111	9	16	11	72	3
		100.0	8.1	14.4	9.9	64.9	2.7
	ひとり親（二世代）	182	25	28	25	100	4
		100.0	13.7	15.4	13.7	54.9	2.2
	ひとり親（三世代）	32	3	4	3	21	1
		100.0	9.4	12.5	9.4	65.6	3.1

３．不登校･いじめの経験

（１）不登校経験

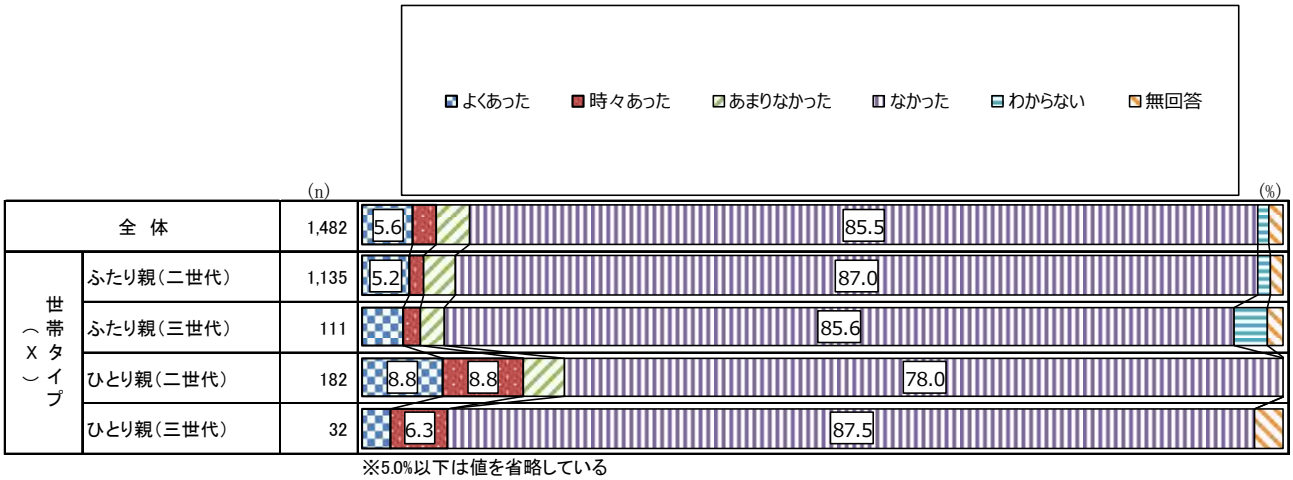
ここでは、子ども自身の回答から不登校傾向を見ていくこととする。本調査では、「あなたは、これまでに以下のようなことがありましたか。」という質問にて、「１年間の合計で 30 日以上学校を休んだ（病気の時をのぞく）」ことがあるかを聞いた。その結果、「よくあった」と回答した割合は 5.6%、「時々あった」と回答した割合は 2.6%、合わせて 8.2%、不登校経験がある子どもが存在した。

図表 5-3-1 不登校経験：全体、生活困難度別(X)



※5.0%以下は値を省略している

図表 5-3-2 不登校経験：全体、世帯タイプ別(X)



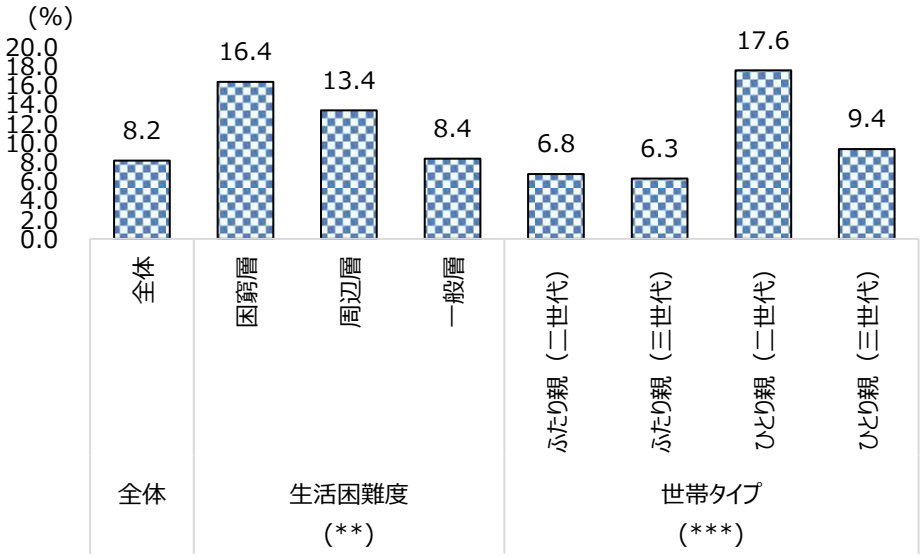
※5.0%以下は値を省略している

図表 5-3-3 不登校経験：生活困難度別(X)、世帯タイプ別(X)

		該当数	よくあった	時々あった	あまりなかった	なかった	わからない	無回答
全 体		1,482	83	38	52	1,267	19	23
		100.0	5.6	2.6	3.5	85.5	1.3	1.6
生活困難度（X）	困窮層	55	7	2	1	45	0	0
		100.0	12.7	3.6	1.8	81.8	0.0	0.0
	周辺層	97	8	5	5	76	1	2
		100.0	8.2	5.2	5.2	78.4	1.0	2.1
	一般層	838	50	20	27	724	10	7
		100.0	6.0	2.4	3.2	86.4	1.2	0.8
世帯タイプ（X）	ふたり親（二世代）	1,135	59	18	39	987	15	17
		100.0	5.2	1.6	3.4	87.0	1.3	1.5
	ふたり親（三世代）	111	5	2	3	95	4	2
		100.0	4.5	1.8	2.7	85.6	3.6	1.8
	ひとり親（二世代）	182	16	16	8	142	0	0
		100.0	8.8	8.8	4.4	78.0	0.0	0.0
	ひとり親（三世代）	32	1	2	0	28	0	1
		100.0	3.1	6.3	0.0	87.5	0.0	3.1

生活困難度別・世帯タイプ別いずれもそのままでは統計的に有意な傾向は確認されなかったが、「よくあった」「時々あった」と回答したか否かということについて検定を行ったところ、いずれも統計的に有意な傾向が確認された。生活困難度が高いほど「よくあった」「時々あった」を選択した割合が高く、一般層では 8.4%であったのに対し、困窮層では 16.4%にのぼった。また、世帯タイプ別では、ひとり親（二世代）世帯に属する子どもの 17.6%が「よくあった」「時々あった」と回答していた。

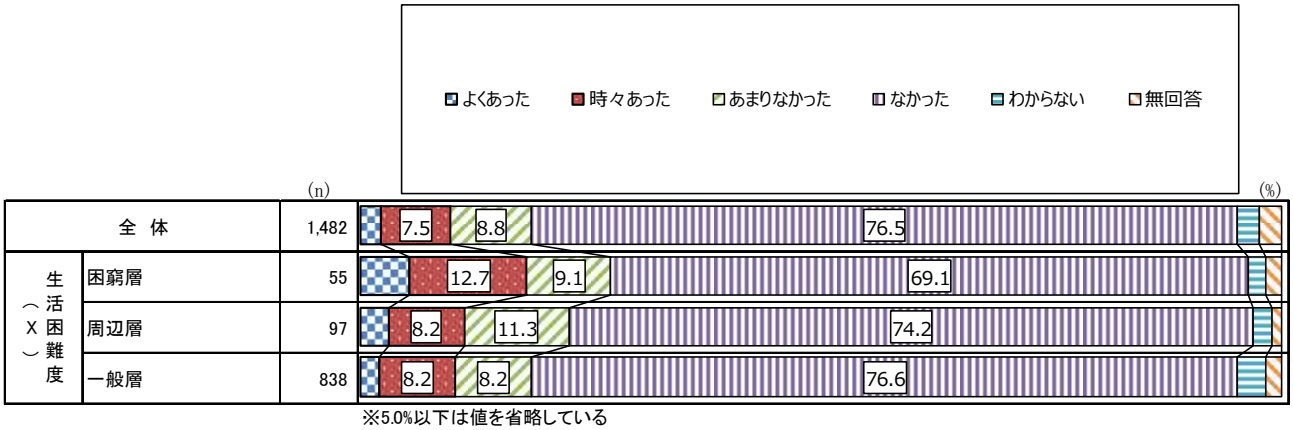
図表 5-3-4 不登校経験が「よくあった」「時々あった」割合
：全体、生活困難度別(**)、世帯タイプ別(***)



（２）いじめられた経験

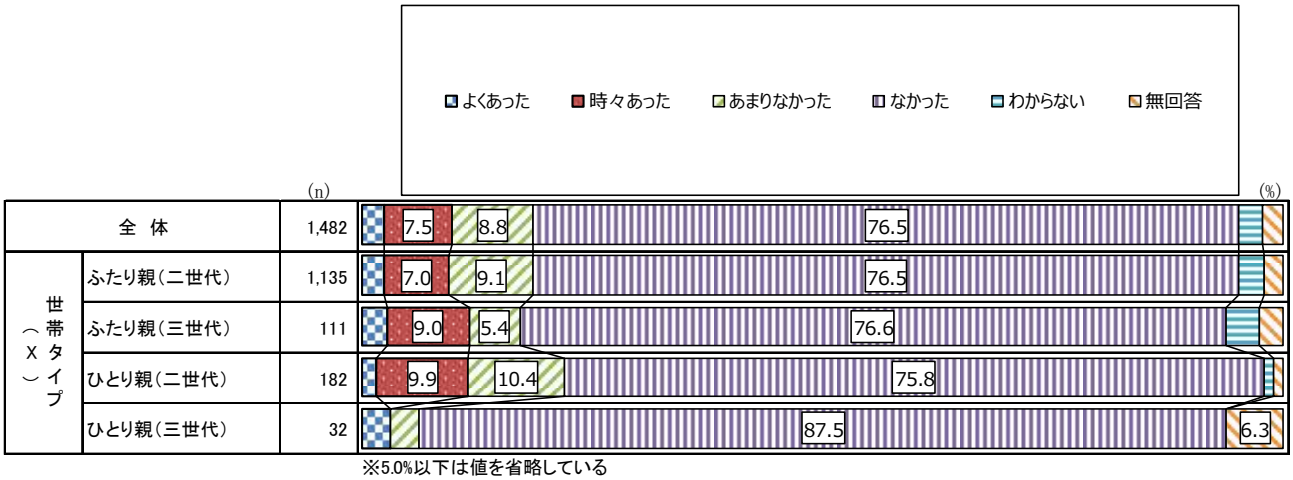
次に、子ども自身の回答からいじめられた経験について見ていくこととする。本調査では、「あなたは、これまでに以下のようなことがありましたか。」という質問にて、「いじめられた」ことがあるかを聞いた。その結果、「よくあった」と回答した割合は 2.4%、「時々あった」と回答した割合は 7.5%、合わせて 9.9%、いじめられた経験がある子どもが存在した。なお、生活困難度別・世帯タイプ別には、統計的に有意な差は確認できなかった。

図表 5-3-5　いじめられた経験：全体、生活困難度別(X)



※5.0%以下は値を省略している

図表 5-3-6　いじめられた経験：全体、世帯タイプ別(X)



※5.0%以下は値を省略している

図表 5-3-7 いじめられた経験：全体、生活困難度別(X)、世帯タイプ別(X)

		該当数	よくあった	時々あった	あまりなかった	なかった	わからない	無回答
全 体		1,482	35	111	130	1,134	37	35
		100.0	2.4	7.5	8.8	76.5	2.5	2.4
生活困難度（X）	困窮層	55	3	7	5	38	1	1
		100.0	5.5	12.7	9.1	69.1	1.8	1.8
	周辺層	97	3	8	11	72	2	1
		100.0	3.1	8.2	11.3	74.2	2.1	1.0
	一般層	838	18	69	69	642	25	15
		100.0	2.1	8.2	8.2	76.6	3.0	1.8
世帯タイプ（X）	ふたり親（二世代）	1,135	28	80	103	868	31	25
		100.0	2.5	7.0	9.1	76.5	2.7	2.2
	ふたり親（三世代）	111	3	10	6	85	4	3
		100.0	2.7	9.0	5.4	76.6	3.6	2.7
	ひとり親（二世代）	182	3	18	19	138	2	2
		100.0	1.6	9.9	10.4	75.8	1.1	1.1
	ひとり親（三世代）	32	1	0	1	28	0	2
		100.0	3.1	0.0	3.1	87.5	0.0	6.3

４．進学意向

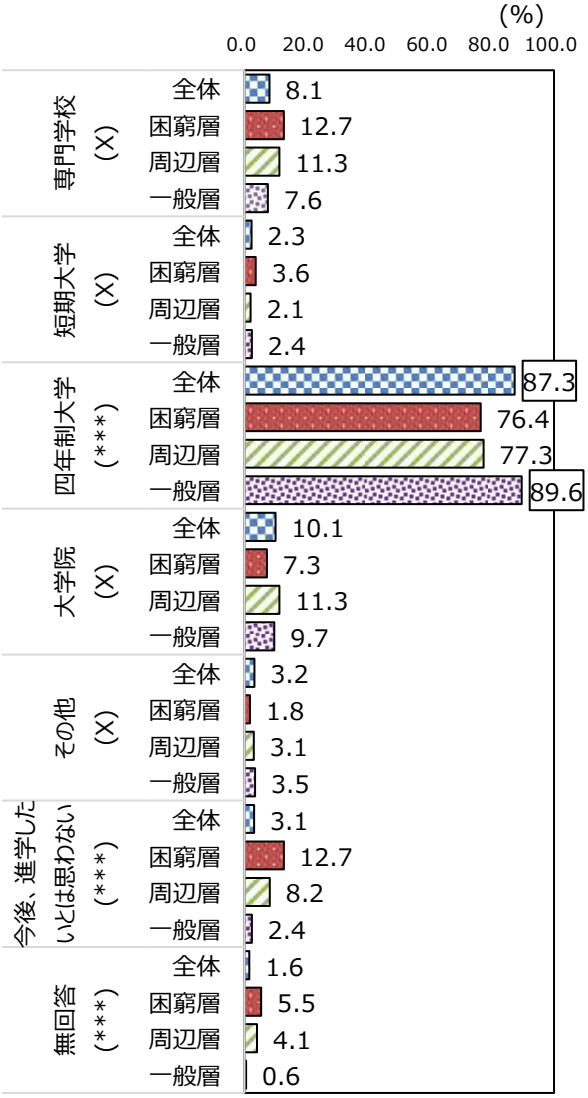
（１）希望する進学先

子ども本人に「あなたは今後、希望する進学先がありますか。」と聞いたところ、「専門学校」に進学したいと回答した割合は 8.1%、「短期大学」は 2.3%、「四年制大学」は 87.3%、「大学院」は 10.1%、「その他」は 3.2%、「今後、進学したいとは思わない」は 3.1%であった。

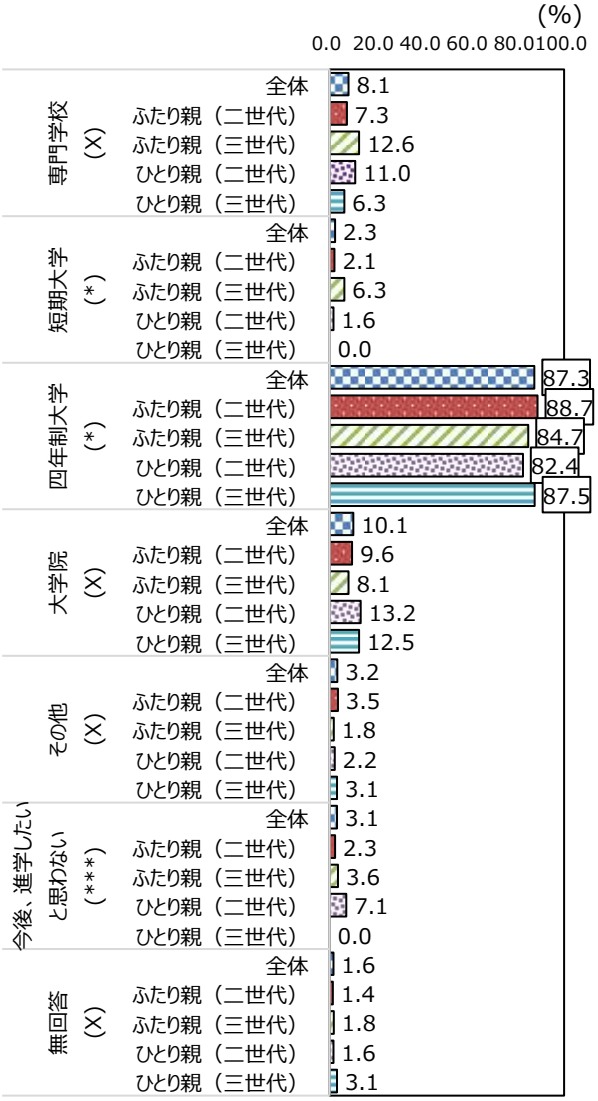
生活困難度別に見ると、「四年制大学」および「今後、進学したいとは思わない」にて統計的に有意な差が確認された。「四年制大学」は一般層では 89.6%が進学希望を示したのに対し、困窮層で進学を希望する割合は 76.4%にとどまった。また、「今後、進学したいとは思わない」と考える割合が一般層では 2.4%であったのに対し、困窮層では 12.7%にのぼった。ただし、困窮層でも８割弱が四年制大学への進学を希望しており、今後、進学したいとは思わない子どもが１割強にとどまることは重要である。

世帯タイプ別に見ると、「四年制大学」および「今後、進学したいとは思わない」にて統計的に有意な差が確認された。「四年制大学」に進学したいひとり親（二世代）世帯の子どもは 82.4%と全体と比較して低く、また、ひとり親（二世代）世帯で進学したいと思わない割合が 7.1%と、全体と比較して高い割合であった。ただし、ひとり親（二世代）世帯でも８割強が四年制大学への進学を希望しており、今後、進学したいとは思わない子どもが１割弱にとどまることは重要である。

図表 5-4-1　希望する進学先：全体、生活困難度別



図表 5-4-2　希望する進学先：全体、世帯タイプ別



図表 5-4-3 希望する進学先：全体、生活困難度別、世帯タイプ別

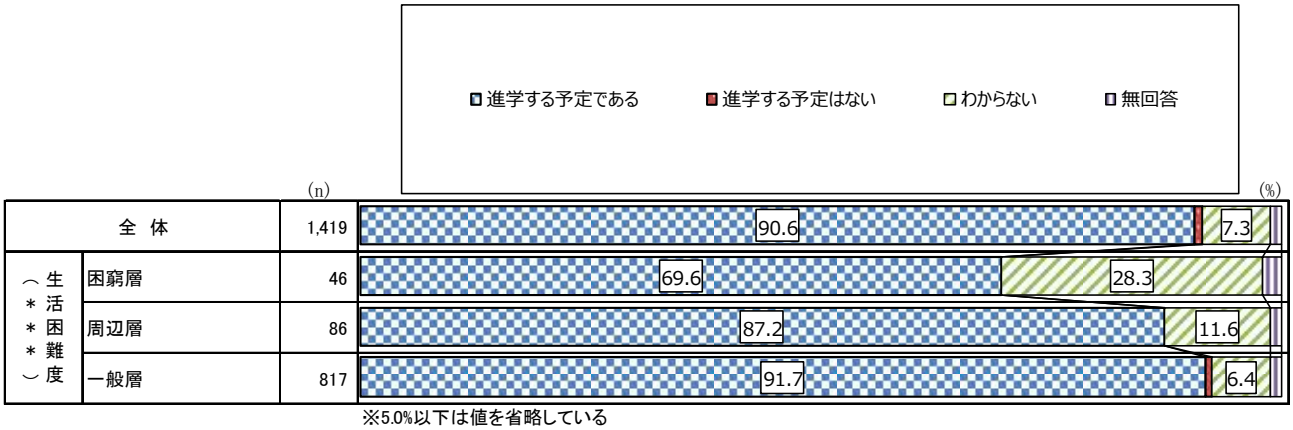
		該当数	専門学校	短期大学	四年制大学	大学院	その他	今後、進学したいとは思わない	無回答
全体		1,479	120	34	1,291	149	48	46	24
		100.0	8.1	2.3	87.3	10.1	3.2	3.1	1.6
生活困難度	困窮層	55	7	2	42	4	1	7	3
		100.0	12.7	3.6	76.4	7.3	1.8	12.7	5.5
	周辺層	97	11	2	75	11	3	8	4
		100.0	11.3	2.1	77.3	11.3	3.1	8.2	4.1
	一般層	837	64	20	750	81	29	20	5
		100.0	7.6	2.4	89.6	9.7	3.5	2.4	0.6
世帯タイプ	ふたり親（二世代）	1,132	83	24	1,004	109	40	26	16
		100.0	7.3	2.1	88.7	9.6	3.5	2.3	1.4
	ふたり親（三世代）	111	14	7	94	9	2	4	2
		100.0	12.6	6.3	84.7	8.1	1.8	3.6	1.8
	ひとり親（二世代）	182	20	3	150	24	4	13	3
		100.0	11.0	1.6	82.4	13.2	2.2	7.1	1.6
	ひとり親（三世代）	32	2	0	28	4	1	0	1
		100.0	6.3	0.0	87.5	12.5	3.1	0.0	3.1

（２）子どもの進学予定

次に、希望する進学先のうち、実際に進学する予定があるかを聞いたところ、全体の 90.6%が「進学する予定である」と回答したが、「進学する予定はない」は 0.8%、「わからない」は 7.3%おり、進学の希望があるにもかかわらず叶えられない、あるいは叶えられるかどうか分からない子どもが一定数存在することが分かる。

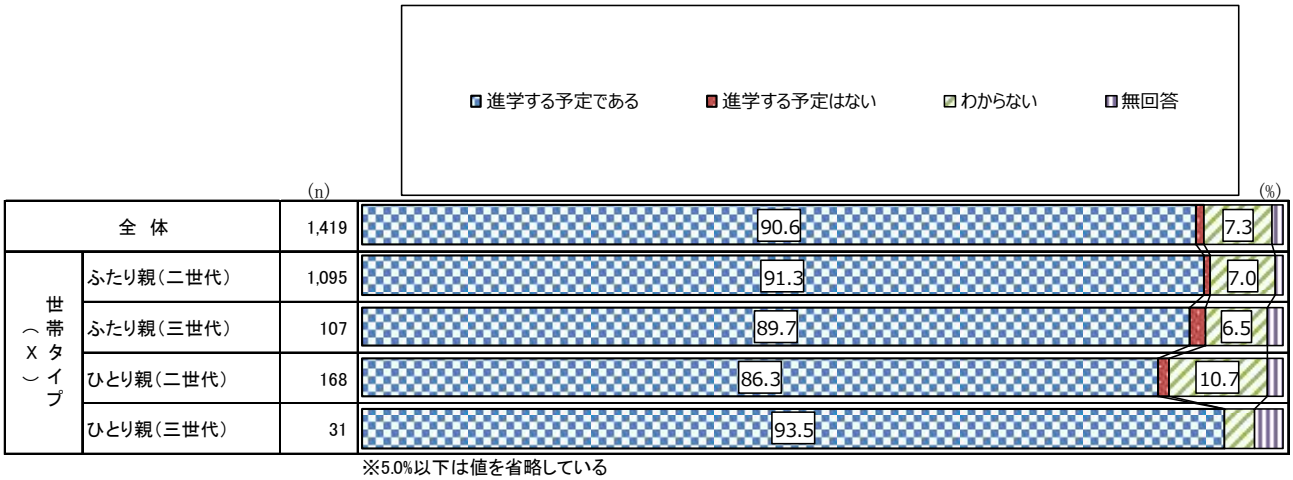
生活困難度別に見ると、統計的に有意な差が確認され、「進学する予定がある」は一般層では 91.7%であったのに対し、困窮層では 69.6%と 22.1 ポイントの差があった。一方、世帯タイプ別には統計的に有意な差は確認されなかった。

図表 5-4-4 子どもの進学予定：全体、生活困難度別(***)



※5.0%以下は値を省略している

図表 5-4-5 子どもの進学予定：全体、世帯タイプ別(X)



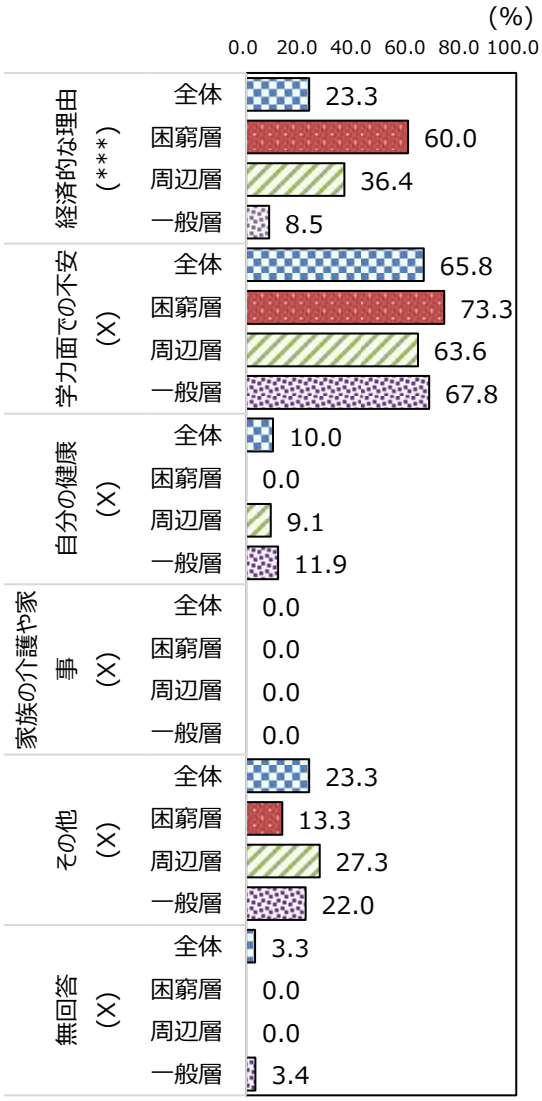
※5.0%以下は値を省略している

図表 5-4-6 子どもの進学予定：全体、生活困難度別(***)、世帯タイプ別(X)

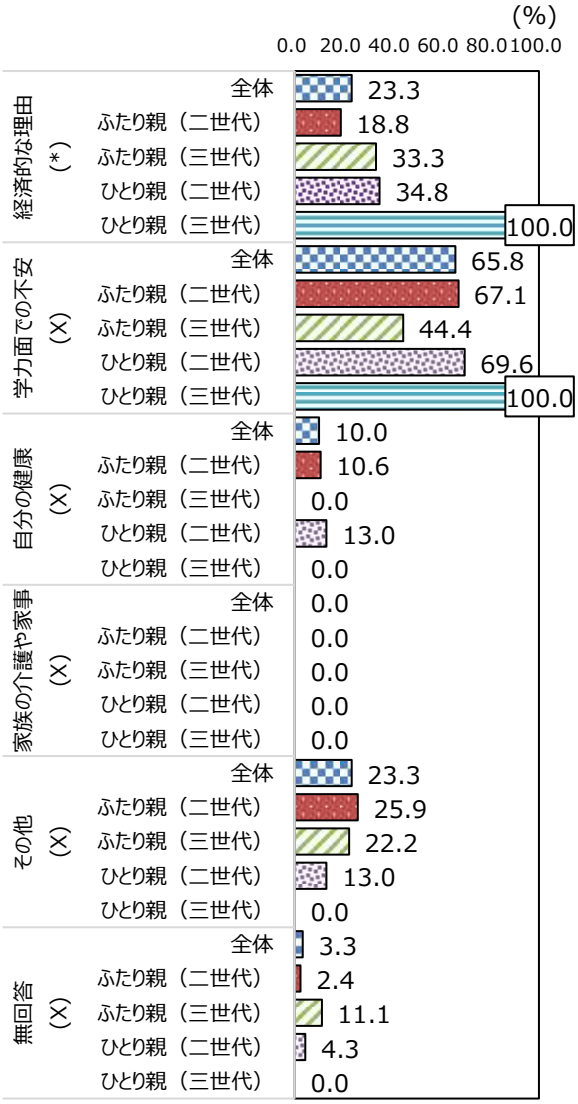
		該当数	進学する予定である	進学する予定はない	わからない	無回答
全 体		1,419	1,285	12	104	18
		100.0	90.6	0.8	7.3	1.3
生活困難度（***）	困窮層	46	32	0	13	1
		100.0	69.6	0.0	28.3	2.2
	周辺層	86	75	0	10	1
		100.0	87.2	0.0	11.6	1.2
	一般層	817	749	6	52	10
		100.0	91.7	0.7	6.4	1.2
世帯タイプ（X）	ふたり親（二世代）	1,095	1,000	7	77	11
		100.0	91.3	0.6	7.0	1.0
	ふたり親（三世代）	107	96	2	7	2
		100.0	89.7	1.9	6.5	1.9
	ひとり親（二世代）	168	145	2	18	3
		100.0	86.3	1.2	10.7	1.8
	ひとり親（三世代）	31	29	0	1	1
		100.0	93.5	0.0	3.2	3.2

n 値が小さいためあくまでも参考値だが、「進学する予定はない」「わからない」と回答した場合に、その理由を聞いたところ、「経済的な理由」が 23.3%、「学力面での不安」が 65.8%、「自分の健康」が 10.0%、「家族の介護や家事」は 0.0%、「その他」が 23.3%であった。生活困難層やひとり親世帯で「経済的な理由」を挙げる割合が高く、統計的に有意な差が確認された。

図表 5-4-7 進学予定がない･わからない理由：全体、生活困難度別



図表 5-4-8 進学予定がない･わからない理由：全体、世帯タイプ別



図表 5-4-9 進学予定がない･わからない理由：全体、生活困難度別、世帯タイプ別

		該当数	経済的な理由	学力面での不安	自分の健康	家族の介護や家事	その他	無回答
全 体		120 100.0	28 23.3	79 65.8	12 10.0	0 0.0	28 23.3	4 3.3
生活困難度	困窮層	15 100.0	9 60.0	11 73.3	0 0.0	0 0.0	2 13.3	0 0.0
	周辺層	11 100.0	4 36.4	7 63.6	1 9.1	0 0.0	3 27.3	0 0.0
	一般層	59 100.0	5 8.5	40 67.8	7 11.9	0 0.0	13 22.0	2 3.4
世帯タイプ	ふたり親（二世代）	85 100.0	16 18.8	57 67.1	9 10.6	0 0.0	22 25.9	2 2.4
	ふたり親（三世代）	9 100.0	3 33.3	4 44.4	0 0.0	0 0.0	2 22.2	1 11.1
	ひとり親（二世代）	23 100.0	8 34.8	16 69.6	3 13.0	0 0.0	3 13.0	1 4.3
	ひとり親（三世代）	1 100.0	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

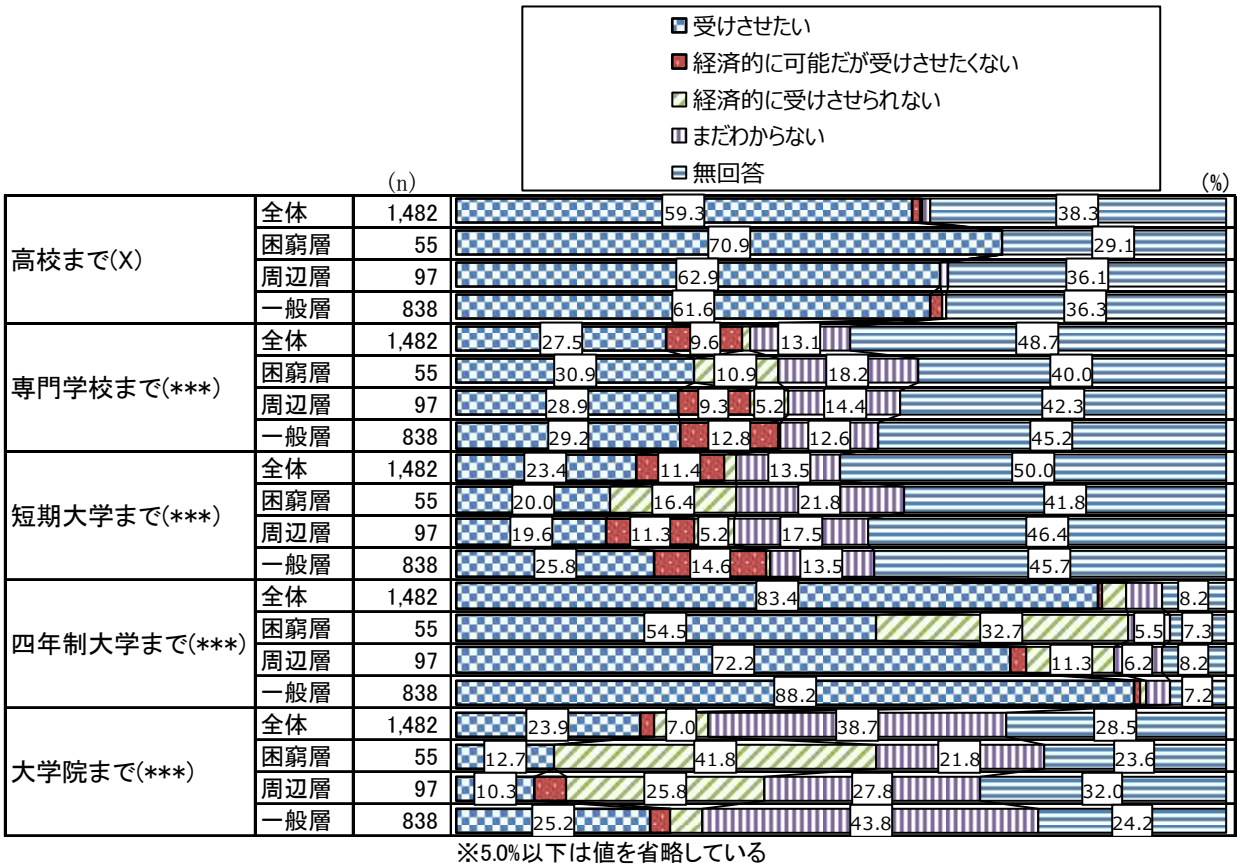
（３）保護者の進学期待

次に、保護者に対して「子どもにどの段階までの教育を受けさせたいか」を聞いた。「四年制大学まで」に注目して分析を行った結果、全体では、「四年制大学まで」受けさせたいと回答した割合は 83.4%であった。

生活困難度別に見ると、統計的に有意な差が確認され、一般層では 88.2%が四年制大学までの教育を「受けさせたい」と回答したのに対し、困窮層では 54.5%にとどまり、反対に「経済的に受けさせられない」と回答した割合は、一般層では 0.6%であったのに対し、困窮層では 32.7%にのぼった。

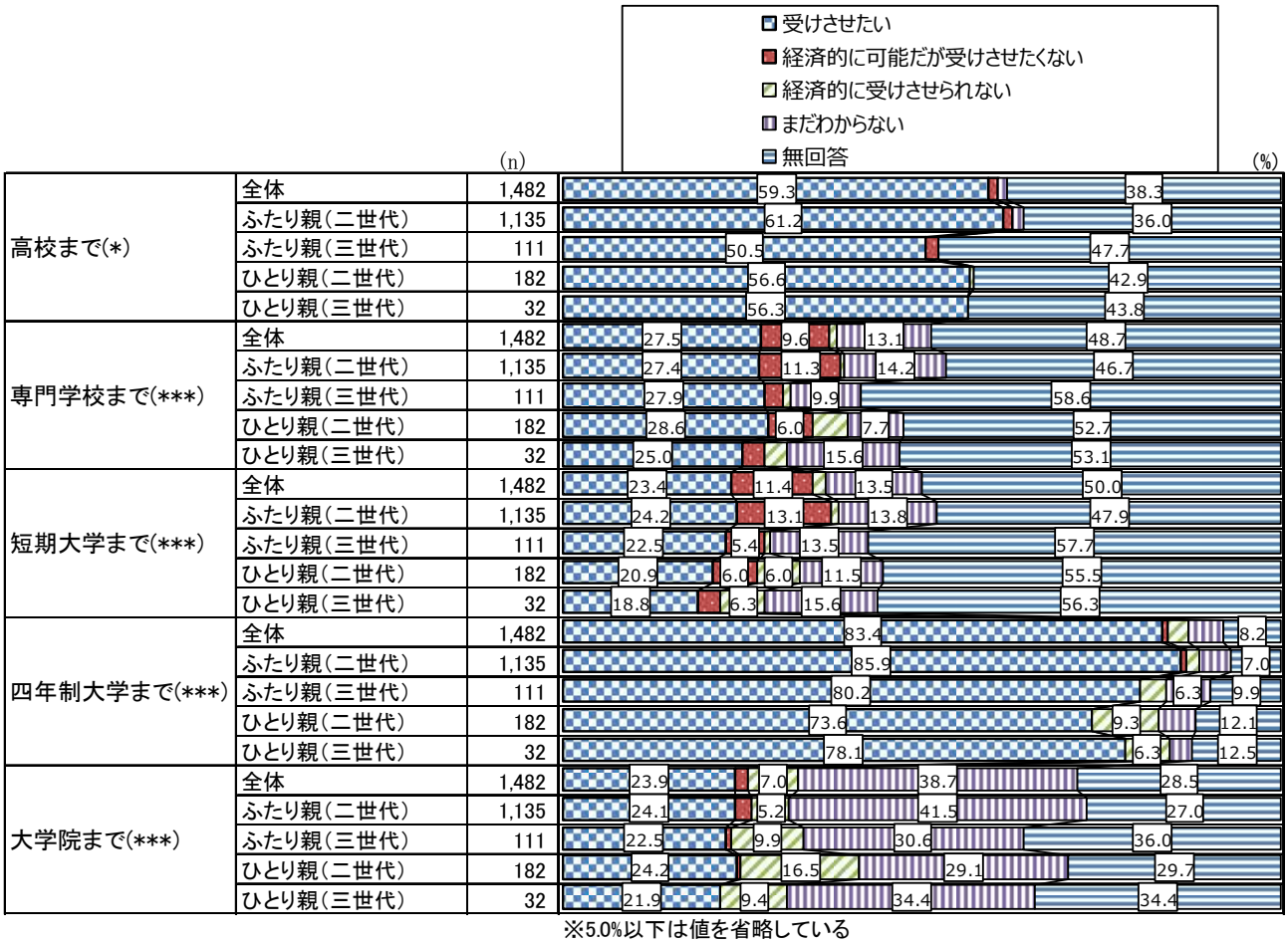
世帯タイプ別に見ると、統計的に有意な差が確認され、四年制大学までの教育を「受けさせたい」と回答した割合がひとり親（二世代）世帯では 73.6%、ひとり親（三世代）世帯では 78.1%にとどまり、全体と比較して少なかった。

図表 5-4-10 保護者の進学期待：全体、生活困難度別



※5.0%以下は値を省略している

図表 5-4-11 保護者の進学期待：全体、世帯タイプ別



※5.0%以下は値を省略している

図表 5-4-12 保護者の進学期待：全体、生活困難度別

		該当数	受けさせたい	経済的に可能だが受けさせたくない	経済的に受けさせられない	まだわからない	無回答
高校まで（X）	全体	1,482	879	16	2	17	568
		100.0	59.3	1.1	0.1	1.1	38.3
	困窮層	55	39	0	0	0	16
		100.0	70.9	0.0	0.0	0.0	29.1
	周辺層	97	61	0	0	1	35
		100.0	62.9	0.0	0.0	1.0	36.1
	一般層	838	516	14	0	4	304
		100.0	61.6	1.7	0.0	0.5	36.3
専門学校まで（＊＊＊＊）	全体	1,482	407	143	16	194	722
		100.0	27.5	9.6	1.1	13.1	48.7
	困窮層	55	17	0	6	10	22
		100.0	30.9	0.0	10.9	18.2	40.0
	周辺層	97	28	9	5	14	41
		100.0	28.9	9.3	5.2	14.4	42.3
	一般層	838	245	107	1	106	379
		100.0	29.2	12.8	0.1	12.6	45.2
短期大学まで（＊＊＊＊）	全体	1,482	347	169	25	200	741
		100.0	23.4	11.4	1.7	13.5	50.0
	困窮層	55	11	0	9	12	23
		100.0	20.0	0.0	16.4	21.8	41.8
	周辺層	97	19	11	5	17	45
		100.0	19.6	11.3	5.2	17.5	46.4
	一般層	838	216	122	4	113	383
		100.0	25.8	14.6	0.5	13.5	45.7
四年制大学まで（＊＊＊＊）	全体	1,482	1,236	10	45	69	122
		100.0	83.4	0.7	3.0	4.7	8.2
	困窮層	55	30	0	18	3	4
		100.0	54.5	0.0	32.7	5.5	7.3
	周辺層	97	70	2	11	6	8
		100.0	72.2	2.1	11.3	6.2	8.2
	一般層	838	739	7	5	27	60
		100.0	88.2	0.8	0.6	3.2	7.2
大学院まで（＊＊＊＊）	全体	1,482	354	28	103	574	423
		100.0	23.9	1.9	7.0	38.7	28.5
	困窮層	55	7	0	23	12	13
		100.0	12.7	0.0	41.8	21.8	23.6
	周辺層	97	10	4	25	27	31
		100.0	10.3	4.1	25.8	27.8	32.0
	一般層	838	211	22	35	367	203
		100.0	25.2	2.6	4.2	43.8	24.2

図表 5-4-13 保護者の進学期待：全体、世帯タイプ別

		該当数	受けさせたい	経済的に可能だが受けさせたくない	経済的に受けさせられない	まだわからない	無回答
高校まで（＊）	全体	1,482	879	16	2	17	568
		100.0	59.3	1.1	0.1	1.1	38.3
	ふたり親（二世代）	1,135	695	14	1	16	409
		100.0	61.2	1.2	0.1	1.4	36.0
	ふたり親（三世代）	111	56	2	0	0	53
		100.0	50.5	1.8	0.0	0.0	47.7
	ひとり親（二世代）	182	103	0	1	0	78
		100.0	56.6	0.0	0.5	0.0	42.9
	ひとり親（三世代）	32	18	0	0	0	14
		100.0	56.3	0.0	0.0	0.0	43.8
専門学校まで（＊＊）	全体	1,482	407	143	16	194	722
		100.0	27.5	9.6	1.1	13.1	48.7
	ふたり親（二世代）	1,135	311	128	5	161	530
		100.0	27.4	11.3	0.4	14.2	46.7
	ふたり親（三世代）	111	31	3	1	11	65
		100.0	27.9	2.7	0.9	9.9	58.6
	ひとり親（二世代）	182	52	11	9	14	96
		100.0	28.6	6.0	4.9	7.7	52.7
	ひとり親（三世代）	32	8	1	1	5	17
		100.0	25.0	3.1	3.1	15.6	53.1
短期大学まで（＊＊）	全体	1,482	347	169	25	200	741
		100.0	23.4	11.4	1.7	13.5	50.0
	ふたり親（二世代）	1,135	275	149	10	157	544
		100.0	24.2	13.1	0.9	13.8	47.9
	ふたり親（三世代）	111	25	6	1	15	64
		100.0	22.5	5.4	0.9	13.5	57.7
	ひとり親（二世代）	182	38	11	11	21	101
		100.0	20.9	6.0	6.0	11.5	55.5
	ひとり親（三世代）	32	6	1	2	5	18
		100.0	18.8	3.1	6.3	15.6	56.3
四年制大学まで（＊＊）	全体	1,482	1,236	10	45	69	122
		100.0	83.4	0.7	3.0	4.7	8.2
	ふたり親（二世代）	1,135	975	9	22	49	80
		100.0	85.9	0.8	1.9	4.3	7.0
	ふたり親（三世代）	111	89	0	4	7	11
		100.0	80.2	0.0	3.6	6.3	9.9
	ひとり親（二世代）	182	134	0	17	9	22
		100.0	73.6	0.0	9.3	4.9	12.1
	ひとり親（三世代）	32	25	0	2	1	4
		100.0	78.1	0.0	6.3	3.1	12.5
大学院まで（＊）	全体	1,482	354	28	103	574	423
		100.0	23.9	1.9	7.0	38.7	28.5
	ふたり親（二世代）	1,135	273	25	59	471	307
		100.0	24.1	2.2	5.2	41.5	27.0
	ふたり親（三世代）	111	25	1	11	34	40
		100.0	22.5	0.9	9.9	30.6	36.0
	ひとり親（二世代）	182	44	1	30	53	54
		100.0	24.2	0.5	16.5	29.1	29.7
	ひとり親（三世代）	32	7	0	3	11	11
		100.0	21.9	0.0	9.4	34.4	34.4

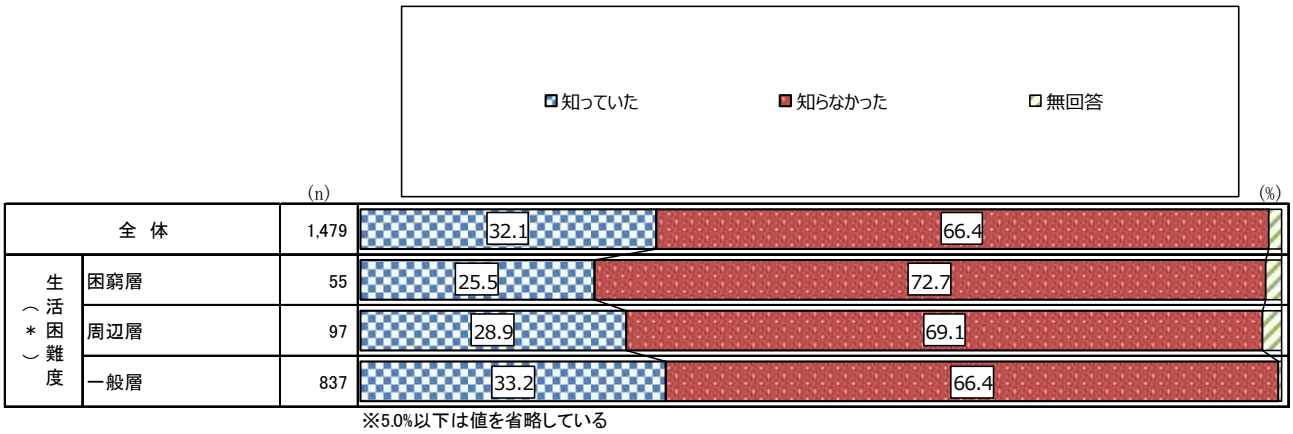
（４）子ども本人の高等教育の修学支援新制度の認知と利用意向

子ども本人に、高等教育の修学支援新制度の認知と利用意向について聞いた。認知については、「知っていた」割合が 32.1%、「知らなかった」割合が 66.4%であった。他方で、利用意向については、「利用したい」割合が 22.5%、「利用したくない」割合が 2.6%、「未定」が 25.6%、「利用対象に該当しないと思う」が 47.3%であった。

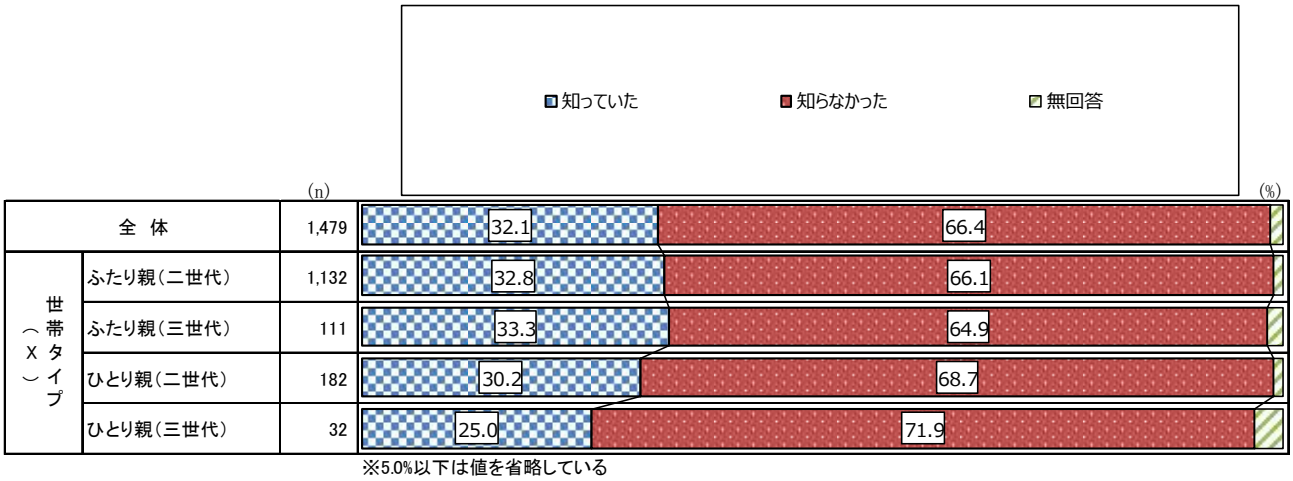
認知について生活困難度別に見ると、統計的に有意な差が確認され、「知っていた」割合が一般層では 33.2%であったが、困窮層では 25.5%にとどまる。一方で、利用意向について生活困難度別に見ると、こちらも統計的に有意な差が確認され、「利用したい」割合が一般層では 19.7%であったが、困窮層では 54.5%にのぼる。すなわち、本来制度へのニーズが高く、ターゲットとなるはずの層に、情報が行き届いていない状況にあると分かる。

世帯タイプ別に見ると、認知については統計的に有意な差は確認されなかったが、利用意向について統計的に有意な差が確認された。「利用したい」と回答した割合が、ひとり親（二世代）世帯では 43.4%、ひとり親（三世代）世帯では 40.6%にのぼる。

図表 5-4-14 子ども本人の高等教育の修学支援新制度の認知：全体、生活困難度別(*)



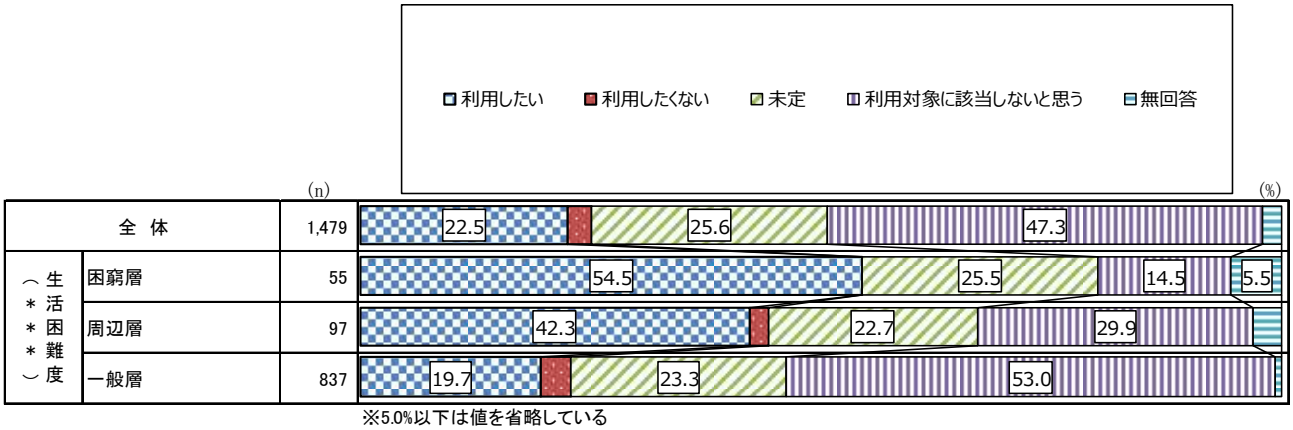
図表 5-4-15 子ども本人の高等教育の修学支援新制度の認知：全体、世帯タイプ別(X)



図表 5-4-16 子ども本人の高等教育の修学支援新制度の認知
：全体、生活困難度別(＊)、世帯タイプ別(X)

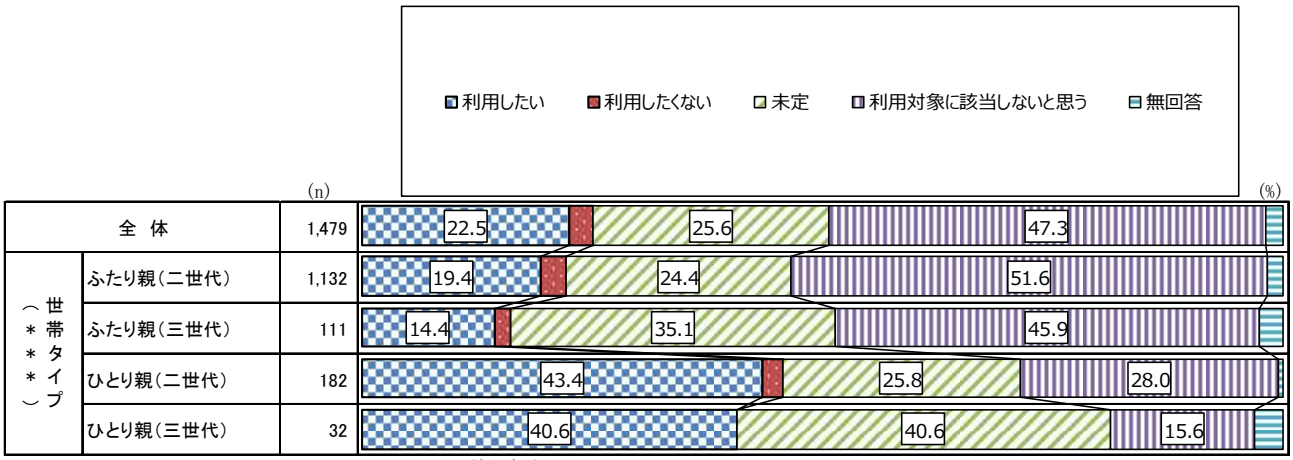
		該当数	知っていた	知らなかった	無回答
全 体		1,479	475	982	22
		100.0	32.1	66.4	1.5
生活困難度（＊）	困窮層	55	14	40	1
		100.0	25.5	72.7	1.8
	周辺層	97	28	67	2
		100.0	28.9	69.1	2.1
	一般層	837	278	556	3
		100.0	33.2	66.4	0.4
世帯タイプ（X）	ふたり親（二世代）	1,132	371	748	13
		100.0	32.8	66.1	1.1
	ふたり親（三世代）	111	37	72	2
		100.0	33.3	64.9	1.8
	ひとり親（二世代）	182	55	125	2
		100.0	30.2	68.7	1.1
	ひとり親（三世代）	32	8	23	1
		100.0	25.0	71.9	3.1

図表 5-4-17 子ども本人の高等教育の修学支援新制度の利用意向：全体、生活困難度別(***)



※5.0%以下は値を省略している

図表 5-4-18 子ども本人の高等教育の修学支援新制度の利用意向：全体、世帯タイプ別(***)



※5.0%以下は値を省略している

図表 5-4-19 子ども本人の高等教育の修学支援新制度の利用意向
：全体、生活困難度別(***)、世帯タイプ別(***)

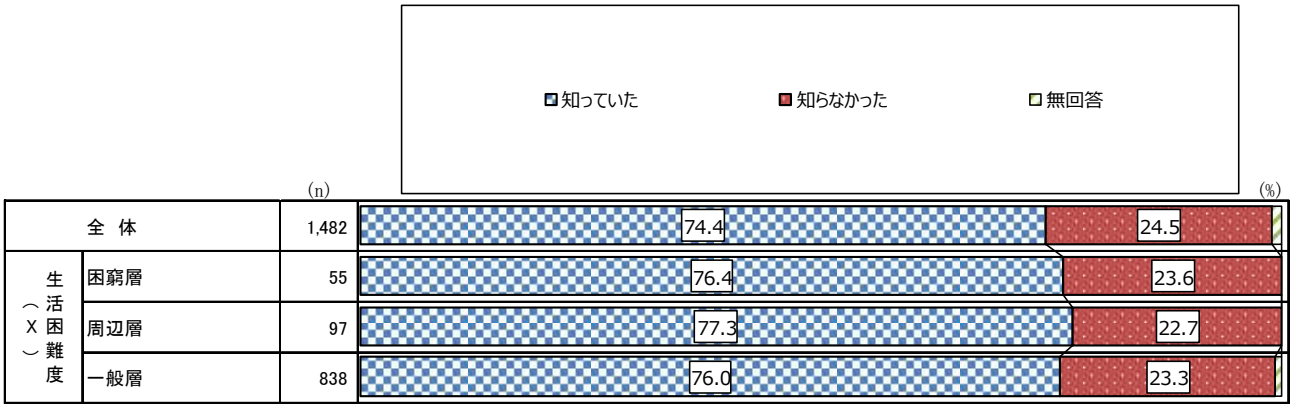
		該当数	利用したい	利用したくない	未定	利用対象に該当しないと思う	無回答
全 体		1,479	333	38	378	700	30
		100.0	22.5	2.6	25.6	47.3	2.0
生活困難度（***）	困窮層	55	30	0	14	8	3
		100.0	54.5	0.0	25.5	14.5	5.5
	周辺層	97	41	2	22	29	3
		100.0	42.3	2.1	22.7	29.9	3.1
	一般層	837	165	27	195	444	6
		100.0	19.7	3.2	23.3	53.0	0.7
世帯タイプ（***）	ふたり親（二世代）	1,132	220	31	276	584	21
		100.0	19.4	2.7	24.4	51.6	1.9
	ふたり親（三世代）	111	16	2	39	51	3
		100.0	14.4	1.8	35.1	45.9	2.7
	ひとり親（二世代）	182	79	4	47	51	1
		100.0	43.4	2.2	25.8	28.0	0.5
	ひとり親（三世代）	32	13	0	13	5	1
		100.0	40.6	0.0	40.6	15.6	3.1

（５）保護者の高等教育の修学支援新制度の認知と利用意向

保護者にも、高等教育の修学支援新制度の認知と利用意向について聞いた。認知については、「知っていた」割合が 74.4%、「知らなかった」割合が 24.5%であった。他方で、利用意向については、「利用したい」割合が 24.5%、「利用したくない」割合が 0.5%、「未定」が 6.3%、「利用対象に該当しないと思う」が 67.5%であった。

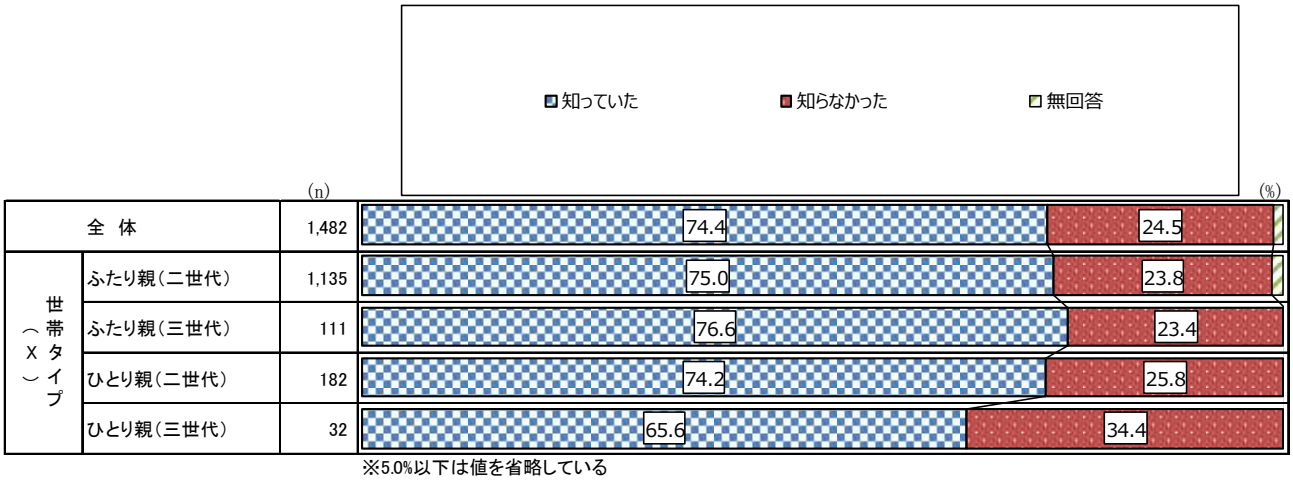
認知については統計的に有意な差は確認されなかったが、利用意向については統計的に有意な差が確認された。一般層よりも生活困難層の方が、またふたり親世帯よりもひとり親世帯の方が、利用を意向する割合が高い。

図表 5-4-20　保護者の高等教育の修学支援新制度の認知：全体、生活困難度別(X)



※5.0%以下は値を省略している

図表 5-4-21　保護者の高等教育の修学支援新制度の認知：全体、世帯タイプ別(X)

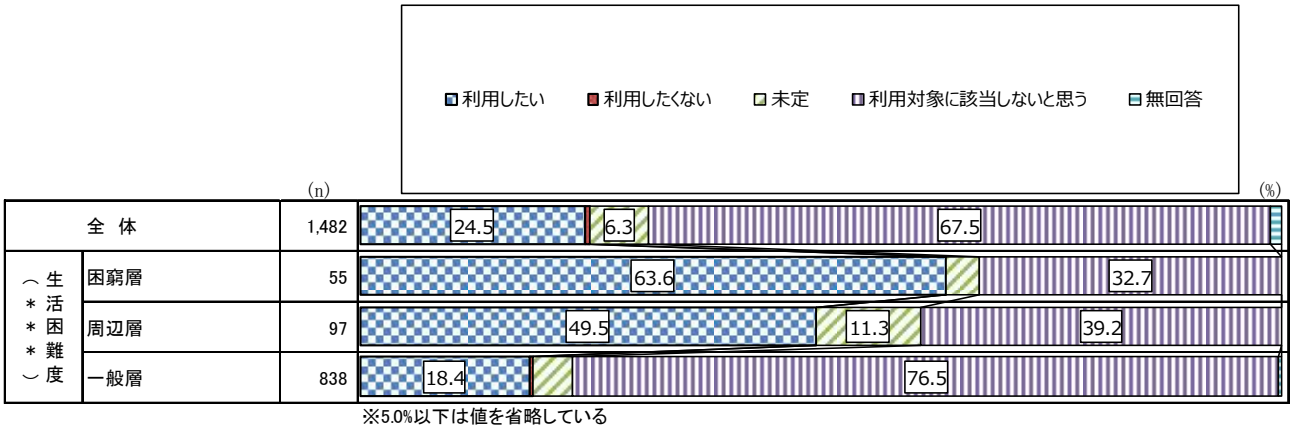


※5.0%以下は値を省略している

図表 5-4-22 保護者の高等教育の修学支援新制度の認知：全体、生活困難度別(X)、世帯タイプ別(X)

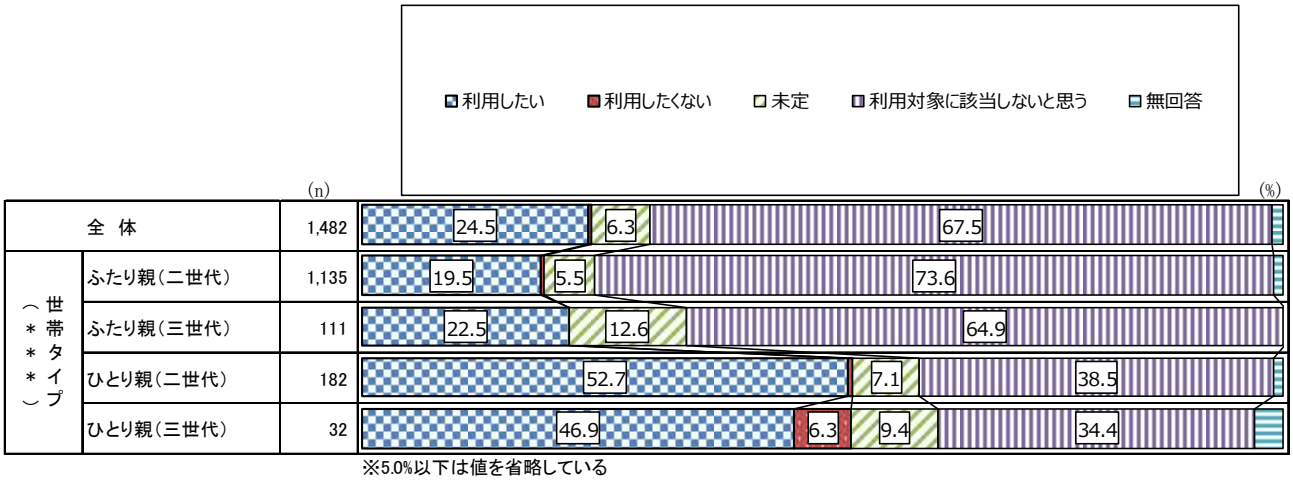
		該当数	知っていた	知らなかった	無回答
全 体		1,482	1,103	363	16
		100.0	74.4	24.5	1.1
生活困難度（X）	困窮層	55	42	13	0
		100.0	76.4	23.6	0.0
	周辺層	97	75	22	0
		100.0	77.3	22.7	0.0
	一般層	838	637	195	6
		100.0	76.0	23.3	0.7
世帯タイプ（X）	ふたり親（二世代）	1,135	851	270	14
		100.0	75.0	23.8	1.2
	ふたり親（三世代）	111	85	26	0
		100.0	76.6	23.4	0.0
	ひとり親（二世代）	182	135	47	0
		100.0	74.2	25.8	0.0
	ひとり親（三世代）	32	21	11	0
		100.0	65.6	34.4	0.0

図表 5-4-23 保護者の高等教育の修学支援新制度の利用意向：全体、生活困難度別(***)



※5.0%以下は値を省略している

図表 5-4-24 保護者の高等教育の修学支援新制度の利用意向：全体、世帯タイプ別(***)



※5.0%以下は値を省略している

図表 5-4-25 保護者の高等教育の修学支援新制度の利用意向
：全体、生活困難度別(***)、世帯タイプ別(***)

		該当数	利用したい	利用したくない	未定	利用対象に該当しないと思う	無回答
全 体		1,482	363	7	93	1,000	19
		100.0	24.5	0.5	6.3	67.5	1.3
（***）生活困難度	困窮層	55	35	0	2	18	0
		100.0	63.6	0.0	3.6	32.7	0.0
	周辺層	97	48	0	11	38	0
		100.0	49.5	0.0	11.3	39.2	0.0
	一般層	838	154	4	36	641	3
		100.0	18.4	0.5	4.3	76.5	0.4
（***）世帯タイプ	ふたり親（二世代）	1,135	221	4	62	835	13
		100.0	19.5	0.4	5.5	73.6	1.1
	ふたり親（三世代）	111	25	0	14	72	0
		100.0	22.5	0.0	12.6	64.9	0.0
	ひとり親（二世代）	182	96	1	13	70	2
		100.0	52.7	0.5	7.1	38.5	1.1
	ひとり親（三世代）	32	15	2	3	11	1
		100.0	46.9	6.3	9.4	34.4	3.1

５．まとめ

（１）子どもの学習状況

就学状況については、定時制に在籍している割合が 1.9%、通信制に在籍している割合が 6.4%、特別支援学校に在籍している割合が 1.1%と、合わせて 1 割弱がこれらの学級に在籍している。また、中途退学した子どもも 0.3%存在する（**図表 5-1-1**、**図表 5-1-3**）。

授業の理解度については、学校の授業が「あまりわからない」「わからないことが多い」「ほとんどわからない」と 1 割強が回答しており、学習に課題を抱える子どもが一定数存在することが分かる。特に、困窮層にて授業の理解度が低い傾向が見られた（**図表 5-1-4**、**図表 5-1-6**）。また、高校 1 年生や高校 2 年生になってから授業がわからなくなったと回答している子どもが 3 割強存在することも特徴的である（**図表 5-1-7**、**図表 5-1-9**）。このことは、義務教育段階のみならず、高校生世代に対する学習支援も重要であることを示唆している。

平日の学習時間について見ると、「まったくしない」割合が 12.0%、「30 分より少ない」割合が 11.0%、「30 分以上、1 時間より少ない」割合が 25.9%であった。また、困窮層やひとり親（二世代）世帯にて勉強時間が短い傾向が見られた（**図表 5-1-10**、**図表 5-1-11**、**図表 5-1-12**）。

自宅における物理的な学習環境については、概ね良好であるものの、一部の子どもにてその欠如が見られる。「家の中で宿題をすることができる場所」については、9 割以上が「ある」ものの、約 3%の子どもは所有しておらず、「ほしい（したい）」と回答している。なお、困窮層では「ほしい（したい）」の割合は 16.4%にのぼる（**図表 5-1-13**、**図表 5-1-15**）。

塾や家庭教師を利用している子どもの割合は全体的に高く、無回答を除いても約 5 割にのぼる。週 4 日以上通塾している割合は約 1 割存在する。通塾率と通塾日数は生活困難度や世帯タイプの影響を大きく受けており、塾や家庭教師を利用していない子供は、一般層では 47.0%であったのに対し困窮層では 74.5%、ふたり親（二世代）世帯では 46.6%であったのに対しひとり親（二世代）世帯では 64.3%であった（**図表 5-1-16**、**図表 5-1-17**、**図表 5-1-18**）。

（２）無料学習支援の利用意向

無料学習支援の利用状況については、「利用したことがある」子どもの割合が 1.4%にとどまった一方、「利用の仕方が分からなかった」割合は 5.9%であり、「これについて全く知らなかった」割合は 40.6%であった。

また、生活困難度別に見ると「利用したいと思わなかった」割合は生活が困窮するほど低く、困窮層にてより高いニーズが確認できる一方、「これについて全く知らなかった」割合も同様に生活が困窮するほど高かったことは重要である（**図表 5-2-1**、**図表 5-2-3**）。塾や家庭教師の有無」にて、生活困難度が高いほど通塾率が低く、また通塾頻度が少ない傾向が見られたことをふまえると、ニーズが高い層にこそ情報が伝わっていないことを示唆している。

また、「無料学習支援」「低額・無料で、通信教育が受けられるサービス」「家から出て学校に通うことができる低額・無料の寮」といった学習支援事業については、それぞれ 26.1%・36.0%・25.2%の子どもが利用意向を示している。特に、困窮層やひとり親（二世代）世帯で利用ニーズが高く、「無料学習支援」「低額・無料で、通信教育が受けられるサービス」「家から出て学校に通うことができる低額・無料の寮」については、困窮層ではそれぞれ 38.2%・58.2%・43.6%が「使ってみたい」「興味がある」と回答しており、また、「低額・無料で、通信教育が受けられるサービス」については、ひとり親（二世代）では 44.0%が「使ってみたい」「興味がある」と回答していた。このように、利用したことがある割合は低くても、困窮層やひとり親世帯を中心に潜在的なニーズは高いことが分かり、事業の拡充と周知が重要である可能性がある（**図表 5-2-4**、**図表 5-2-5**、**図表 5-2-6**、**図表 5-2-7**、**図表 5-2-8**、**図表 5-2-9**、**図表 5-2-10**）。

（３）不登校・いじめの経験

実際に、不登校を経験したと認識している子どもは全体では 8.2%である。ただし、困窮層とひとり親（二世代）世帯においてはその割合は高くなり、それぞれ 16.4%、17.6%にものぼった。困窮層・ひとり親世帯を中心に、このような子どもに対するケアが重要である（**図表 5-3-1**、**図表 5-3-2**、**図表 5-3-3**、**図表 5-3-4**）。

また、いじめについては、「いじめられた」ことが「よくあった」「時々あった」と答えた子どもの割合は 9.9%である。いじめの経験は、生活困難度や世帯タイプに関連しておらず、家庭の経済状況に関わらず、全ての子どもについて同様に配慮する必要があると言える（**図表 5-3-5**、**図表 5-3-6**、**図表 5-3-7**）。

（４）高校卒業後の進学と高等教育の修学支援新制度

子ども本人は、87.3%と高い割合で四年制大学への進学を希望している。この割合は困窮層では 76.4%と、全体と比較すると低いものの、それでも多くの高校生世代が四年制大学への進学を希望している状況がある（**図表 5-4-1**、**図表 5-4-3**）。一方で、進学の希望があるにもかかわらず、「進学する予定がない」「わからない」と回答する子どもが１割程度存在することも重要である（**図表 5-4-4**、**図表 5-4-6**）。

また、保護者の進学期待を見ても、子どもにどの段階までの教育を受けさせたいか聞いたところ、四年制大学まで受けさせたい割合は全体では 83.4%にものぼったが、困窮層ではわずか 54.5%であり、「経済的に受けさせられない」と回答した割合は全体ではわずか 3.0%であったのに対し、困窮層では 32.7%にものぼった（**図表 5-4-10**、**図表 5-4-12**）。

このような経済的支援のための制度として、文部科学省は高等教育の修学支援新制度を令和２年４月に創設した。しかし、保護者は７割以上が制度を認知していたものの（**図表 5-4-20**、**図表 5-4-22**）、子ども本人では、制度の存在を知っていた割合は 32.1%にとどまり、過半数は知らない状況にあった。制度の対象となる生活困難層ほど修学支援新制度の認知度が低く、修学支援新制度の存在を知っていた困窮層の子どもは 25.5%にとどまっている（**図表 5-4-14**、**図表 5-4-16**）。子ども本人に利用意向を聞いたところ、全体では 22.5%が「利用したい」と回答しているのに対し、困窮層では 54.5%にものぼった。困窮層に向けた制度の周知が課題であると考えられる（**図表 5-4-17**、**図表 5-4-19**）。

第６章　子どもの人間関係と居場所

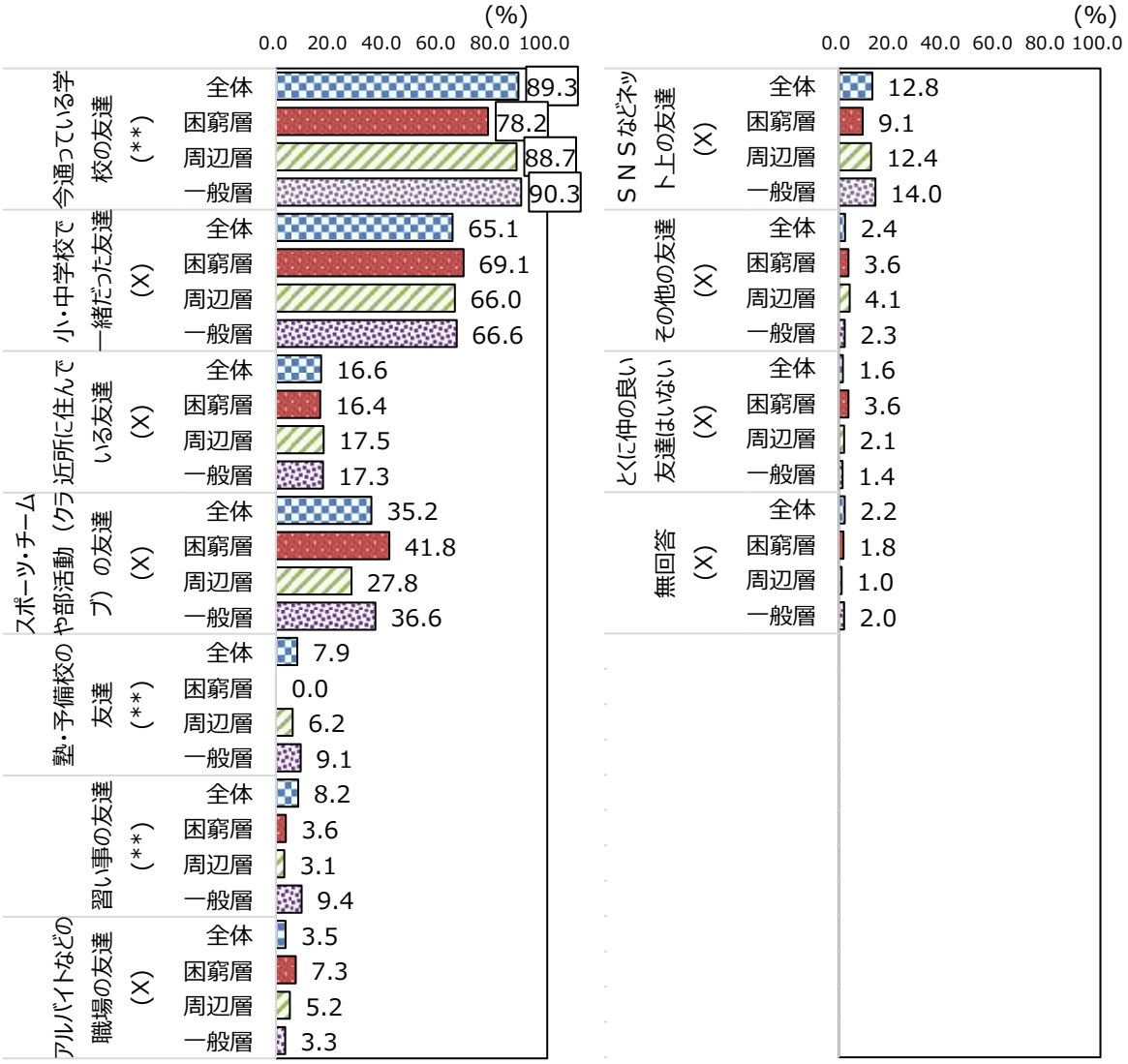
１．子どもの人間関係

（１）友人関係

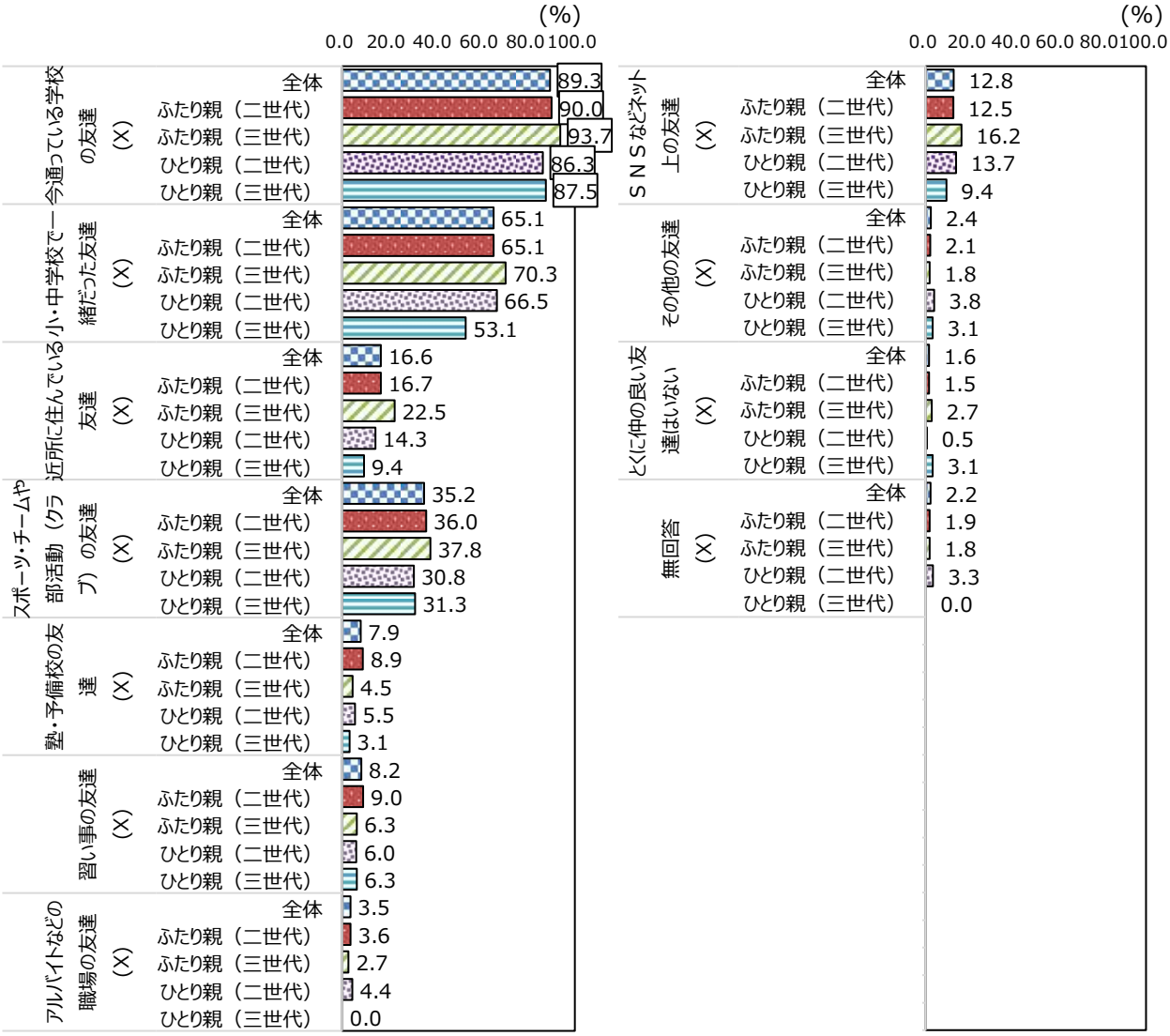
子どもに仲が良い友達を聞いたところ、「今通っている学校の友達」と回答した子どもは 89.3%、「小・中学校で一緒だった友達」は 65.1%、「近所に住んでいる友達」は 16.6%、「スポーツ・チームや部活動（クラブ）の友達」は 35.2%、「塾。予備校の友達」は 7.9%、「習い事の友達」は 8.2%、「アルバイトなどの職場の友達」は 3.5%、「SNS などネット上の友達」は 12.8%、「その他の友達」は 2.4%、「とくに仲の良い友達はいない」は 1.6%であった。

生活困難度別では「習い事の友達」にて統計的に有意な差が確認され、一般層では 9.4%であったのに対し、困窮層では 3.6%であった。世帯タイプ別には統計的に有意な差が確認されなかった。

図表 6-1-1：仲が良い友達：全体、生活困難度別



図表 6-1-2：仲が良い友達：全体、世帯タイプ別



図表 6-1-3：仲が良い友達：全体、生活困難度別･世帯タイプ別

		該当数	今通っている学校の友達	小・中学校で一緒だった友達	近所に住んでいる友達	スポーツ・チームや部活動（クラブ）の友達	塾・予備校の友達	習い事の友達	アルバイトなどの職場の友達	SNSなどネット上の友達	その他の友達	とくに仲の良い友達はいない	無回答
全 体		1,482	1324	965	246	521	117	122	52	189	35	23	33
		100.0	89.3	65.1	16.6	35.2	7.9	8.2	3.5	12.8	2.4	1.6	2.2
生活困難度	困窮層	55	43	38	9	23	0	2	4	5	2	2	1
		100.0	78.2	69.1	16.4	41.8	0.0	3.6	7.3	9.1	3.6	3.6	1.8
	周辺層	97	86	64	17	27	6	3	5	12	4	2	1
		100.0	88.7	66.0	17.5	27.8	6.2	3.1	5.2	12.4	4.1	2.1	1.0
	一般層	838	757	558	145	307	76	79	28	117	19	12	17
		100.0	90.3	66.6	17.3	36.6	9.1	9.4	3.3	14.0	2.3	1.4	2.0
世帯タイプ	ふたり親（二世代）	1,135	1021	739	189	409	101	102	41	142	24	17	21
		100.0	90.0	65.1	16.7	36.0	8.9	9.0	3.6	12.5	2.1	1.5	1.9
	ふたり親（三世代）	111	104	78	25	42	5	7	3	18	2	3	2
		100.0	93.7	70.3	22.5	37.8	4.5	6.3	2.7	16.2	1.8	2.7	1.8
	ひとり親（二世代）	182	157	121	26	56	10	11	8	25	7	1	6
		100.0	86.3	66.5	14.3	30.8	5.5	6.0	4.4	13.7	3.8	0.5	3.3
	ひとり親（三世代）	32	28	17	3	10	1	2	0	3	1	1	0
		100.0	87.5	53.1	9.4	31.3	3.1	6.3	0.0	9.4	3.1	3.1	0.0

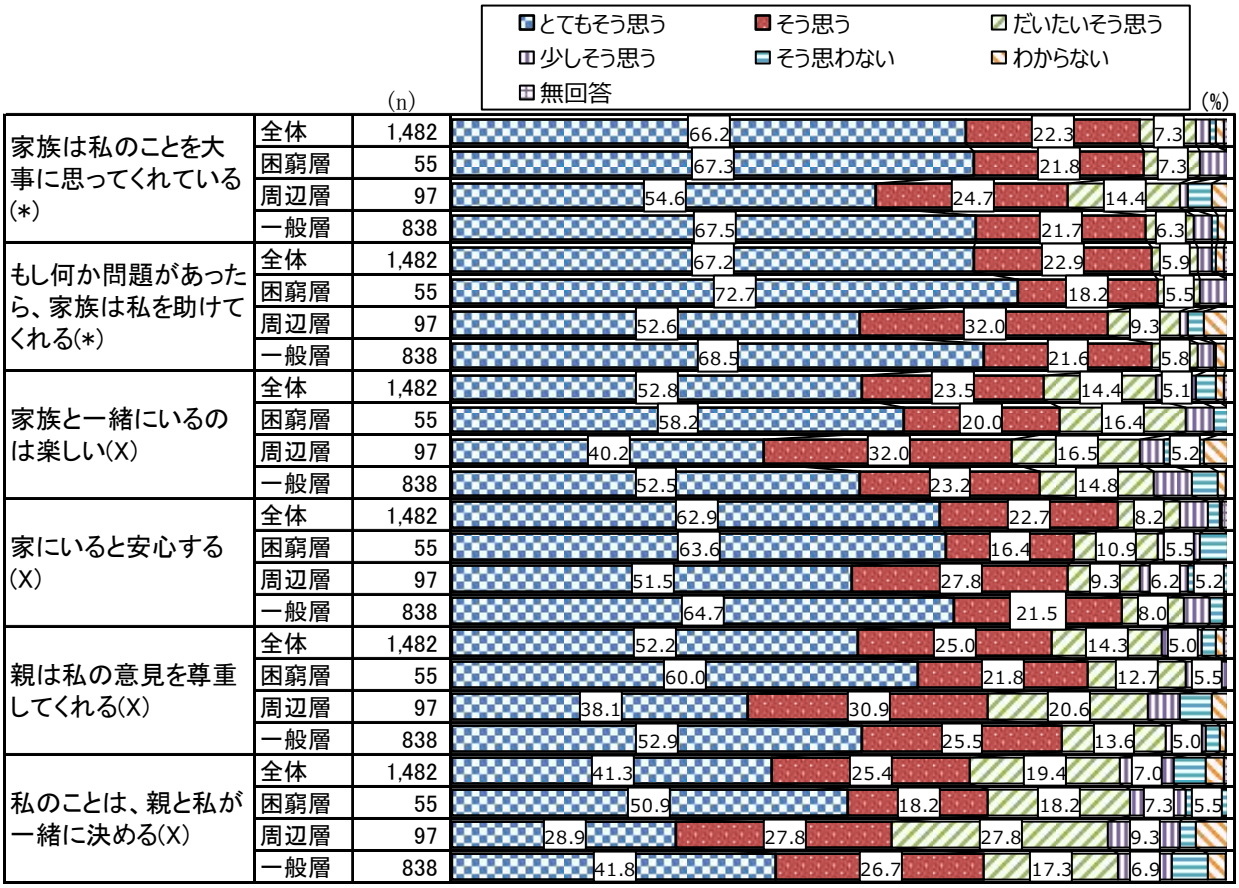
（２）家族との関係

子どもに「家族は私のことを大事に思ってくれている」「もし何か問題があったら、家族は私を助けてくれる」「家族と一緒にいるのは楽しい」「家にいると安心する」「親は私の意見を尊重してくれる」「私のことは、親と私が一緒に決める」の６つの項目について、「とてもそう思う」「そう思う」「だいたいそう思う」「少しそう思う」「そう思わない」「わからない」の６つの選択肢で当てはまるかどうかを聞き、家族との関係を調べた。

すると、「とてもそう思う」「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した割合は、「家族は私のことを大事に思ってくれている」では 95.8%、「もし何か問題があったら、家族は私を助けてくれる」では 96.1%、「家族と一緒にいるのは楽しい」では 90.7%、「家にいると安心する」では 93.8%、「親は私の意見を尊重してくれる」では 91.5%、「私のことは、親と私が一緒に決める」では 86.1%であり、大多数はこれらの項目に該当するものの、一部に該当しない子どもも存在すると分かる。

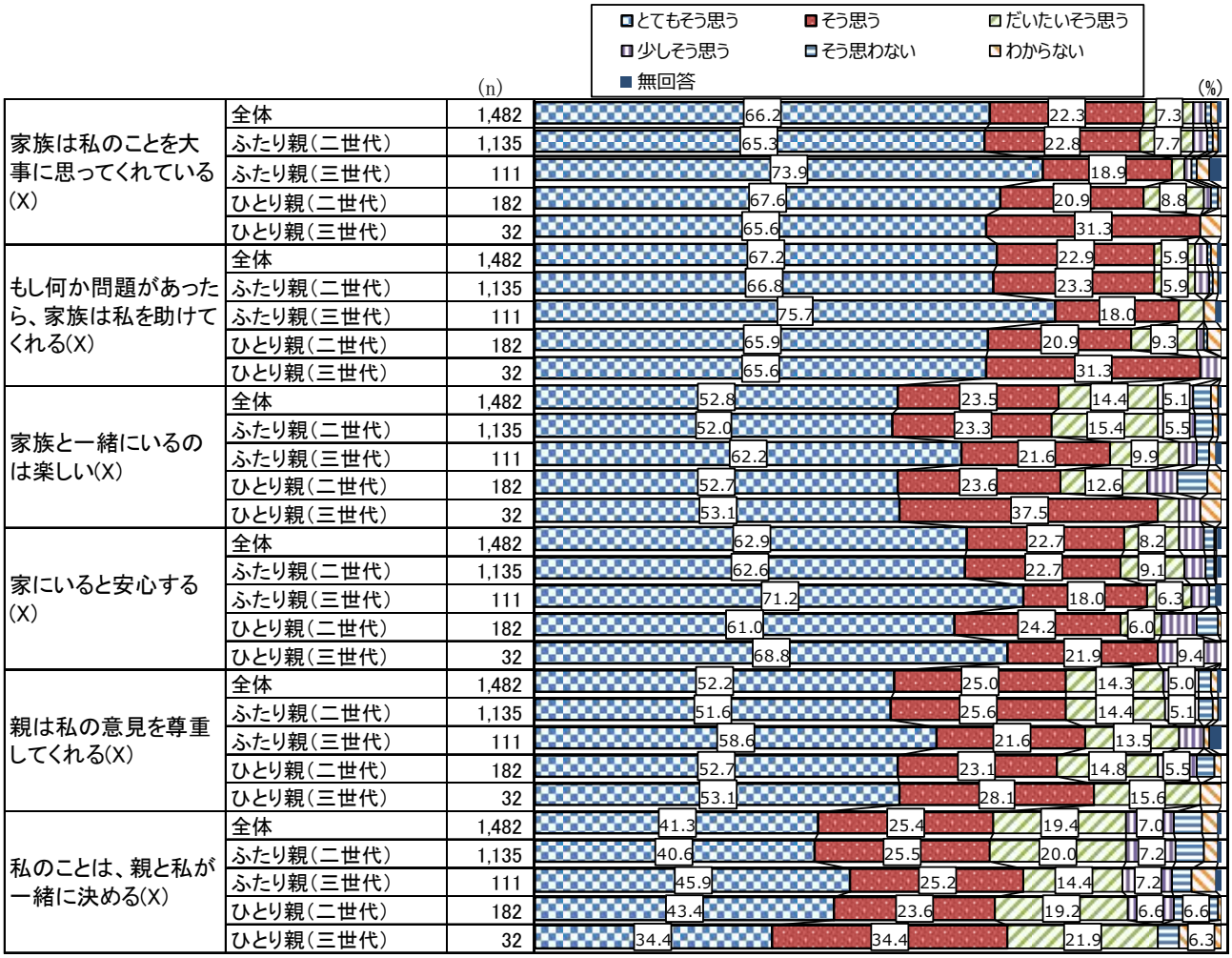
生活困難度別に見ると、「家族は私のことを大事に思ってくれている」「もし何か問題があったら、家族は私を助けてくれる」の２つの項目で統計的に有意な差が確認され、周辺層にて「とてもそう思う」と回答した割合が低かった。世帯タイプ別に見ると、統計的に有意な差は確認されなかった。

図表 6-1-4：家族との関係：全体、生活困難度別



※5.0%以下は値を省略している

図表 6-1-5：家族との関係：全体、世帯タイプ別



※5.0%以下は値を省略している

図表 6-1-6：家族との関係：全体、生活困難度別

		該当数	とてもそう思う	そう思う	だいたいそう思う	少しそう思う	そう思わない	わからない	無回答
家族は私のことを大事に思ってくれている（＊）	全体	1,482	981	331	108	27	12	13	10
		100.0	66.2	22.3	7.3	1.8	0.8	0.9	0.7
	困窮層	55	37	12	4	2	0	0	0
		100.0	67.3	21.8	7.3	3.6	0.0	0.0	0.0
	周辺層	97	53	24	14	1	3	2	0
		100.0	54.6	24.7	14.4	1.0	3.1	2.1	0.0
	一般層	838	566	182	53	19	7	8	3
		100.0	67.5	21.7	6.3	2.3	0.8	1.0	0.4
もし何か問題があったら、家族は私を助けてくれる（＊）	全体	1,482	996	340	88	26	7	15	10
		100.0	67.2	22.9	5.9	1.8	0.5	1.0	0.7
	困窮層	55	40	10	3	2	0	0	0
		100.0	72.7	18.2	5.5	3.6	0.0	0.0	0.0
	周辺層	97	51	31	9	1	2	3	0
		100.0	52.6	32.0	9.3	1.0	2.1	3.1	0.0
	一般層	838	574	181	49	17	4	10	3
		100.0	68.5	21.6	5.8	2.0	0.5	1.2	0.4
家族と一緒にいるのは楽しい（Ｘ）	全体	1,482	783	348	213	75	37	17	9
		100.0	52.8	23.5	14.4	5.1	2.5	1.1	0.6
	困窮層	55	32	11	9	2	1	0	0
		100.0	58.2	20.0	16.4	3.6	1.8	0.0	0.0
	周辺層	97	39	31	16	3	5	3	0
		100.0	40.2	32.0	16.5	3.1	5.2	3.1	0.0
	一般層	838	440	194	124	41	27	9	3
		100.0	52.5	23.2	14.8	4.9	3.2	1.1	0.4
家にいると安心する（Ｘ）	全体	1,482	932	337	121	52	23	4	13
		100.0	62.9	22.7	8.2	3.5	1.6	0.3	0.9
	困窮層	55	35	9	6	3	2	0	0
		100.0	63.6	16.4	10.9	5.5	3.6	0.0	0.0
	周辺層	97	50	27	9	6	5	0	0
		100.0	51.5	27.8	9.3	6.2	5.2	0.0	0.0
	一般層	838	542	180	67	29	14	2	4
		100.0	64.7	21.5	8.0	3.5	1.7	0.2	0.5
親は私の意見を尊重してくれる（Ｘ）	全体	1,482	774	370	212	74	26	15	11
		100.0	52.2	25.0	14.3	5.0	1.8	1.0	0.7
	困窮層	55	33	12	7	3	0	0	0
		100.0	60.0	21.8	12.7	5.5	0.0	0.0	0.0
	周辺層	97	37	30	20	4	4	2	0
		100.0	38.1	30.9	20.6	4.1	4.1	2.1	0.0
	一般層	838	443	214	114	42	16	6	3
		100.0	52.9	25.5	13.6	5.0	1.9	0.7	0.4
私のことは、親と私が一緒に決める（Ｘ）	全体	1,482	612	377	287	103	61	31	11
		100.0	41.3	25.4	19.4	7.0	4.1	2.1	0.7
	困窮層	55	28	10	10	4	3	0	0
		100.0	50.9	18.2	18.2	7.3	5.5	0.0	0.0
	周辺層	97	28	27	27	9	2	4	0
		100.0	28.9	27.8	27.8	9.3	2.1	4.1	0.0
	一般層	838	350	224	145	58	39	18	4
		100.0	41.8	26.7	17.3	6.9	4.7	2.1	0.5

図表 6-1-7：家族との関係：全体、世帯タイプ別

		該当数	とてもそう思う	そう思う	だいたいそう思う	少しそう思う	そう思わない	わからない	無回答
家族は私のことを大事に思ってくれている（X）	全体	1,482	981	331	108	27	12	13	10
		100.0	66.2	22.3	7.3	1.8	0.8	0.9	0.7
	ふたり親（二世代）	1,135	741	259	87	24	9	9	6
		100.0	65.3	22.8	7.7	2.1	0.8	0.8	0.5
	ふたり親（三世代）	111	82	21	2	1	1	2	2
		100.0	73.9	18.9	1.8	0.9	0.9	1.8	1.8
	ひとり親（二世代）	182	123	38	16	2	2	1	0
		100.0	67.6	20.9	8.8	1.1	1.1	0.5	0.0
	ひとり親（三世代）	32	21	10	0	0	0	1	0
		100.0	65.6	31.3	0.0	0.0	0.0	3.1	0.0
もし何か問題があったら、家族は私を助けてくれる（X）	全体	1,482	996	340	88	26	7	15	10
		100.0	67.2	22.9	5.9	1.8	0.5	1.0	0.7
	ふたり親（二世代）	1,135	758	265	67	23	6	9	7
		100.0	66.8	23.3	5.9	2.0	0.5	0.8	0.6
	ふたり親（三世代）	111	84	20	4	0	0	2	1
		100.0	75.7	18.0	3.6	0.0	0.0	1.8	0.9
	ひとり親（二世代）	182	120	38	17	2	1	4	0
		100.0	65.9	20.9	9.3	1.1	0.5	2.2	0.0
	ひとり親（三世代）	32	21	10	0	1	0	0	0
		100.0	65.6	31.3	0.0	3.1	0.0	0.0	0.0
家族と一緒にいるのは楽しい（X）	全体	1,482	783	348	213	75	37	17	9
		100.0	52.8	23.5	14.4	5.1	2.5	1.1	0.6
	ふたり親（二世代）	1,135	590	264	175	62	27	11	6
		100.0	52.0	23.3	15.4	5.5	2.4	1.0	0.5
	ふたり親（三世代）	111	69	24	11	3	2	1	1
		100.0	62.2	21.6	9.9	2.7	1.8	0.9	0.9
	ひとり親（二世代）	182	96	43	23	8	8	4	0
		100.0	52.7	23.6	12.6	4.4	4.4	2.2	0.0
	ひとり親（三世代）	32	17	12	1	1	0	1	0
		100.0	53.1	37.5	3.1	3.1	0.0	3.1	0.0
家にいると安心する（X）	全体	1,482	932	337	121	52	23	4	13
		100.0	62.9	22.7	8.2	3.5	1.6	0.3	0.9
	ふたり親（二世代）	1,135	710	258	103	36	16	3	9
		100.0	62.6	22.7	9.1	3.2	1.4	0.3	0.8
	ふたり親（三世代）	111	79	20	7	3	1	0	1
		100.0	71.2	18.0	6.3	2.7	0.9	0.0	0.9
	ひとり親（二世代）	182	111	44	11	9	6	1	0
		100.0	61.0	24.2	6.0	4.9	3.3	0.5	0.0
	ひとり親（三世代）	32	22	7	0	3	0	0	0
		100.0	68.8	21.9	0.0	9.4	0.0	0.0	0.0
親は私の意見を尊重してくれる（X）	全体	1,482	774	370	212	74	26	15	11
		100.0	52.2	25.0	14.3	5.0	1.8	1.0	0.7
	ふたり親（二世代）	1,135	586	290	163	58	21	10	7
		100.0	51.6	25.6	14.4	5.1	1.9	0.9	0.6
	ふたり親（三世代）	111	65	24	15	4	0	1	2
		100.0	58.6	21.6	13.5	3.6	0.0	0.9	1.8
	ひとり親（二世代）	182	96	42	27	10	5	2	0
		100.0	52.7	23.1	14.8	5.5	2.7	1.1	0.0
	ひとり親（三世代）	32	17	9	5	0	0	1	0
		100.0	53.1	28.1	15.6	0.0	0.0	3.1	0.0
私のことは、親と私が一緒に決める（X）	全体	1,482	612	377	287	103	61	31	11
		100.0	41.3	25.4	19.4	7.0	4.1	2.1	0.7
	ふたり親（二世代）	1,135	461	289	227	82	44	24	8
		100.0	40.6	25.5	20.0	7.2	3.9	2.1	0.7
	ふたり親（三世代）	111	51	28	16	8	3	4	1
		100.0	45.9	25.2	14.4	7.2	2.7	3.6	0.9
	ひとり親（二世代）	182	79	43	35	12	12	1	0
		100.0	43.4	23.6	19.2	6.6	6.6	0.5	0.0
	ひとり親（三世代）	32	11	11	7	0	1	2	0
		100.0	34.4	34.4	21.9	0.0	3.1	6.3	0.0

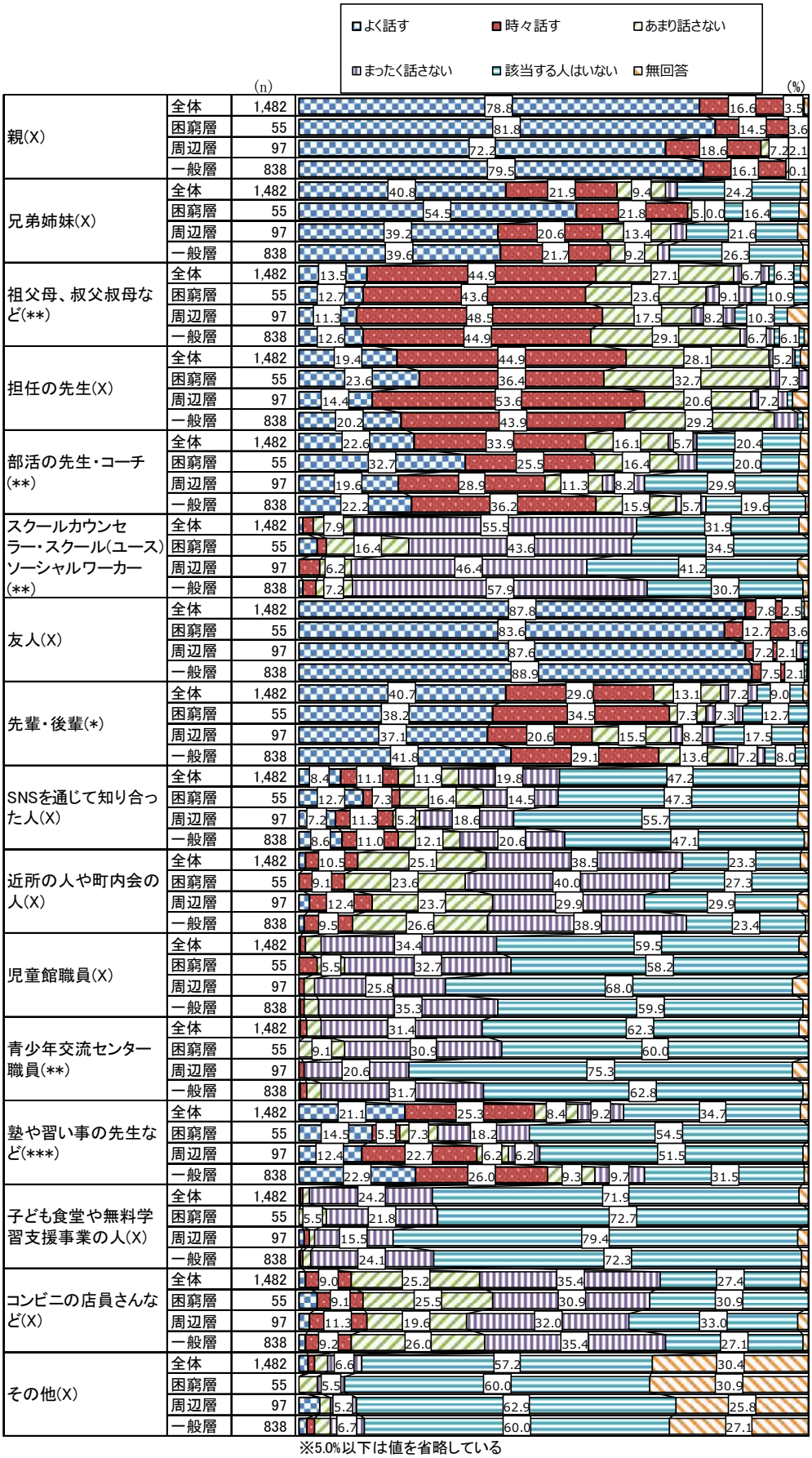
（３）他の人との会話の頻度

子どもに他の人との会話の頻度を聞いたところ、「よく話す」と回答した相手は、「友人」が87.8%、「親」が78.8%、「兄弟姉妹」が40.8%、「先輩・後輩」が40.7%であった。

生活困難度別に見ると、一貫した傾向が見られたのは「塾や習い事の先生など」であり、「よく話す」と回答した割合が、一般層では 22.9%であったのに対し、周辺層では 12.4%、困窮層では 14.5%にとどまっており、また、「該当する人はいない」と回答した割合が、一般層では 31.5%であったのに対し、周辺層では 51.5%、困窮層では 54.5%にのぼる。

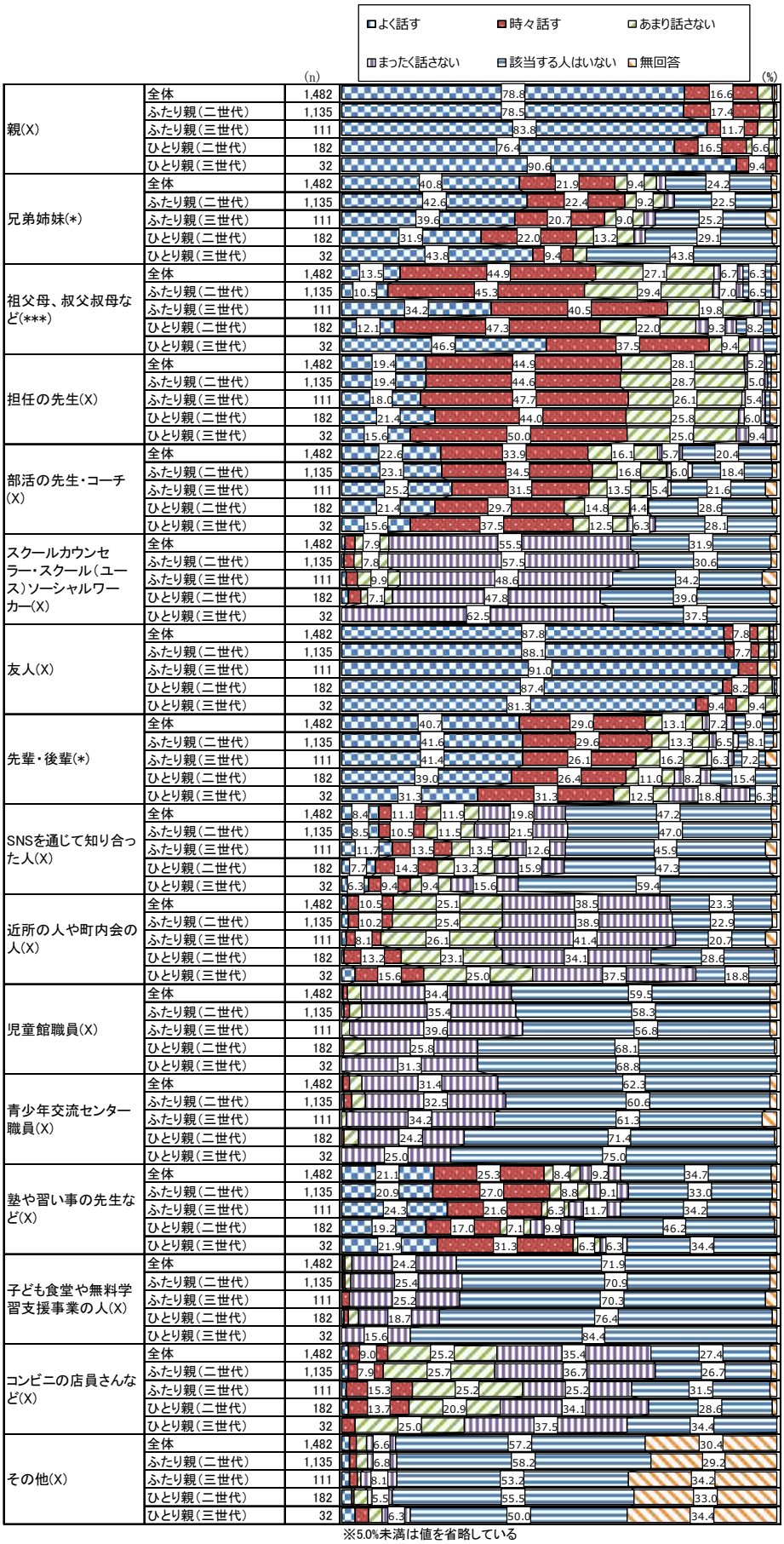
世帯タイプ別に見ると、一貫した傾向が見られたのは「先輩・後輩」であり、「よく話す」と回答した割合が、ふたり親（二世代）世帯では 41.6%、ふたり親（三世代）世帯では 41.4%であったのに対し、ひとり親（二世代）世帯では 39.0%、ひとり親（三世代）世帯では 31.3%にとどまっており、ひとり親世帯の方が「よく話す」割合が低い傾向にある。

図表 6-1-8：他の人との会話の頻度：全体、生活困難度別



※5.0%以下は値を省略している

図表 6-1-9：他の人との会話の頻度：全体、世帯タイプ別



※5.0%未満は値を省略している

図表 6-1-10：他の人との会話の頻度：全体、生活困難度別

		該当数	よく話す	時々話す	あまり話さない	まったく話さない	該当する人はいない	無回答
親（X）	全体	1,482	1,168	246	52	6	1	9
		100.0	78.8	16.6	3.5	0.4	0.1	0.6
	困窮層	55	45	8	2	0	0	0
		100.0	81.8	14.5	3.6	0.0	0.0	0.0
	周辺層	97	70	18	7	2	0	0
		100.0	72.2	18.6	7.2	2.1	0.0	0.0
	一般層	838	666	135	34	1	1	1
		100.0	79.5	16.1	4.1	0.1	0.1	0.1
兄弟姉妹（X）	全体	1,482	604	325	140	32	359	22
		100.0	40.8	21.9	9.4	2.2	24.2	1.5
	困窮層	55	30	12	3	0	9	1
		100.0	54.5	21.8	5.5	0.0	16.4	1.8
	周辺層	97	38	20	13	3	21	2
		100.0	39.2	20.6	13.4	3.1	21.6	2.1
	一般層	838	332	182	77	19	220	8
		100.0	39.6	21.7	9.2	2.3	26.3	1.0
祖父母、叔父叔母など（＊＊＊）	全体	1,482	200	665	402	100	94	21
		100.0	13.5	44.9	27.1	6.7	6.3	1.4
	困窮層	55	7	24	13	5	6	0
		100.0	12.7	43.6	23.6	9.1	10.9	0.0
	周辺層	97	11	47	17	8	10	4
		100.0	11.3	48.5	17.5	8.2	10.3	4.1
	一般層	838	106	376	244	56	51	5
		100.0	12.6	44.9	29.1	6.7	6.1	0.6
、担任の先生（X）	全体	1,482	287	665	417	77	14	22
		100.0	19.4	44.9	28.1	5.2	0.9	1.5
	困窮層	55	13	20	18	4	0	0
		100.0	23.6	36.4	32.7	7.3	0.0	0.0
	周辺層	97	14	52	20	7	1	3
		100.0	14.4	53.6	20.6	7.2	1.0	3.1
	一般層	838	169	368	245	39	9	8
		100.0	20.2	43.9	29.2	4.7	1.1	1.0
部活の先生・コーチ（＊＊＊）	全体	1,482	335	502	238	85	302	20
		100.0	22.6	33.9	16.1	5.7	20.4	1.3
	困窮層	55	18	14	9	2	11	1
		100.0	32.7	25.5	16.4	3.6	20.0	1.8
	周辺層	97	19	28	11	8	29	2
		100.0	19.6	28.9	11.3	8.2	29.9	2.1
	一般層	838	186	303	133	48	164	4
		100.0	22.2	36.2	15.9	5.7	19.6	0.5
スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー（＊＊＊）（ユース）	全体	1,482	12	32	117	823	473	25
		100.0	0.8	2.2	7.9	55.5	31.9	1.7
	困窮層	55	2	1	9	24	19	0
		100.0	3.6	1.8	16.4	43.6	34.5	0.0
	周辺層	97	0	4	6	45	40	2
		100.0	0.0	4.1	6.2	46.4	41.2	2.1
	一般層	838	8	21	60	485	257	7
		100.0	1.0	2.5	7.2	57.9	30.7	0.8
友人（X）	全体	1,482	1,301	115	37	5	12	12
		100.0	87.8	7.8	2.5	0.3	0.8	0.8
	困窮層	55	46	7	2	0	0	0
		100.0	83.6	12.7	3.6	0.0	0.0	0.0
	周辺層	97	85	7	2	2	1	0
		100.0	87.6	7.2	2.1	2.1	1.0	0.0
	一般層	838	745	63	18	3	8	1
		100.0	88.9	7.5	2.1	0.4	1.0	0.1
先輩・後輩（＊）	全体	1,482	603	430	194	106	134	15
		100.0	40.7	29.0	13.1	7.2	9.0	1.0
	困窮層	55	21	19	4	4	7	0
		100.0	38.2	34.5	7.3	7.3	12.7	0.0
	周辺層	97	36	20	15	8	17	1
		100.0	37.1	20.6	15.5	8.2	17.5	1.0
	一般層	838	350	244	114	60	67	3
		100.0	41.8	29.1	13.6	7.2	8.0	0.4

		該当数	よく話す	時々話す	あまり話さない	まったく話さない	該当する人はいない	無回答
ＳＮＳを通じて知り合った人（X）	全体	1,482	125	165	176	294	700	22
		100.0	8.4	11.1	11.9	19.8	47.2	1.5
	困窮層	55	7	4	9	8	26	1
		100.0	12.7	7.3	16.4	14.5	47.3	1.8
	周辺層	97	7	11	5	18	54	2
		100.0	7.2	11.3	5.2	18.6	55.7	2.1
	一般層	838	72	92	101	173	395	5
		100.0	8.6	11.0	12.1	20.6	47.1	0.6
近所の人や町内会の人（X）	全体	1,482	19	156	372	570	345	20
		100.0	1.3	10.5	25.1	38.5	23.3	1.3
	困窮層	55	0	5	13	22	15	0
		100.0	0.0	9.1	23.6	40.0	27.3	0.0
	周辺層	97	2	12	23	29	29	2
		100.0	2.1	12.4	23.7	29.9	29.9	2.1
	一般層	838	9	80	223	326	196	4
		100.0	1.1	9.5	26.6	38.9	23.4	0.5
児童館職員（X）	全体	1,482	5	15	46	510	882	24
		100.0	0.3	1.0	3.1	34.4	59.5	1.6
	困窮層	55	0	2	3	18	32	0
		100.0	0.0	3.6	5.5	32.7	58.2	0.0
	周辺層	97	0	1	2	25	66	3
		100.0	0.0	1.0	2.1	25.8	68.0	3.1
	一般層	838	3	7	23	296	502	7
		100.0	0.4	0.8	2.7	35.3	59.9	0.8
青少年交流センター職員（＊＊）	全体	1,482	5	21	42	465	923	26
		100.0	0.3	1.4	2.8	31.4	62.3	1.8
	困窮層	55	0	0	5	17	33	0
		100.0	0.0	0.0	9.1	30.9	60.0	0.0
	周辺層	97	0	1	0	20	73	3
		100.0	0.0	1.0	0.0	20.6	75.3	3.1
	一般層	838	4	9	25	266	526	8
		100.0	0.5	1.1	3.0	31.7	62.8	1.0
塾や習い事の先生など（＊＊＊）	全体	1,482	312	375	124	137	514	20
		100.0	21.1	25.3	8.4	9.2	34.7	1.3
	困窮層	55	8	3	4	10	30	0
		100.0	14.5	5.5	7.3	18.2	54.5	0.0
	周辺層	97	12	22	6	6	50	1
		100.0	12.4	22.7	6.2	6.2	51.5	1.0
	一般層	838	192	218	78	81	264	5
		100.0	22.9	26.0	9.3	9.7	31.5	0.6
子ども食堂や無料学習支援事業の人（X）	全体	1,482	4	9	20	358	1065	26
		100.0	0.3	0.6	1.3	24.2	71.9	1.8
	困窮層	55	0	0	3	12	40	0
		100.0	0.0	0.0	5.5	21.8	72.7	0.0
	周辺層	97	1	1	1	15	77	2
		100.0	1.0	1.0	1.0	15.5	79.4	2.1
	一般層	838	3	5	12	202	606	10
		100.0	0.4	0.6	1.4	24.1	72.3	1.2
コンビニの店員さんなど（X）	全体	1,482	21	134	373	525	406	23
		100.0	1.4	9.0	25.2	35.4	27.4	1.6
	困窮層	55	2	5	14	17	17	0
		100.0	3.6	9.1	25.5	30.9	30.9	0.0
	周辺層	97	2	11	19	31	32	2
		100.0	2.1	11.3	19.6	32.0	33.0	2.1
	一般層	838	11	77	218	297	227	8
		100.0	1.3	9.2	26.0	35.4	27.1	1.0
その他（X）	全体	1,482	28	20	37	98	848	451
		100.0	1.9	1.3	2.5	6.6	57.2	30.4
	困窮層	55	0	0	2	3	33	17
		100.0	0.0	0.0	3.6	5.5	60.0	30.9
	周辺層	97	4	0	2	5	61	25
		100.0	4.1	0.0	2.1	5.2	62.9	25.8
	一般層	838	14	13	25	56	503	227
		100.0	1.7	1.6	3.0	6.7	60.0	27.1

図表 6-1-11：他の人との会話の頻度：全体、世帯タイプ別

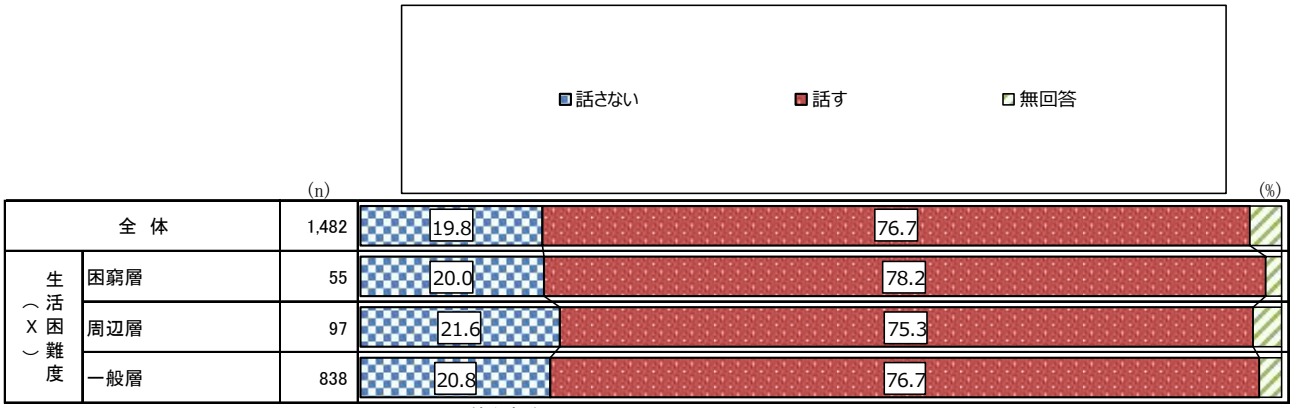
		該当数	よく話す	時々話す	あまり話さない	まったく話さない	該当する人はいない	無回答
親（X）	全体	1,482	1,168	246	52	6	1	9
		100.0	78.8	16.6	3.5	0.4	0.1	0.6
	ふたり親（二世代）	1,135	891	198	35	5	0	6
		100.0	78.5	17.4	3.1	0.4	0.0	0.5
	ふたり親（三世代）	111	93	13	4	0	0	1
		100.0	83.8	11.7	3.6	0.0	0.0	0.9
	ひとり親（二世代）	182	139	30	12	1	0	0
		100.0	76.4	16.5	6.6	0.5	0.0	0.0
	ひとり親（三世代）	32	29	3	0	0	0	0
		100.0	90.6	9.4	0.0	0.0	0.0	0.0
兄弟姉妹（＊）	全体	1,482	604	325	140	32	359	22
		100.0	40.8	21.9	9.4	2.2	24.2	1.5
	ふたり親（二世代）	1,135	484	254	104	24	255	14
		100.0	42.6	22.4	9.2	2.1	22.5	1.2
	ふたり親（三世代）	111	44	23	10	3	28	3
		100.0	39.6	20.7	9.0	2.7	25.2	2.7
	ひとり親（二世代）	182	58	40	24	5	53	2
		100.0	31.9	22.0	13.2	2.7	29.1	1.1
	ひとり親（三世代）	32	14	3	1	0	14	0
		100.0	43.8	9.4	3.1	0.0	43.8	0.0
祖父母、叔父叔母など（＊＊＊）	全体	1,482	200	665	402	100	94	21
		100.0	13.5	44.9	27.1	6.7	6.3	1.4
	ふたり親（二世代）	1,135	119	514	334	79	74	15
		100.0	10.5	45.3	29.4	7.0	6.5	1.3
	ふたり親（三世代）	111	38	45	22	2	2	2
		100.0	34.2	40.5	19.8	1.8	1.8	1.8
	ひとり親（二世代）	182	22	86	40	17	15	2
		100.0	12.1	47.3	22.0	9.3	8.2	1.1
	ひとり親（三世代）	32	15	12	3	1	1	0
		100.0	46.9	37.5	9.4	3.1	3.1	0.0
担任の先生（X）	全体	1,482	287	665	417	77	14	22
		100.0	19.4	44.9	28.1	5.2	0.9	1.5
	ふたり親（二世代）	1,135	220	506	326	57	11	15
		100.0	19.4	44.6	28.7	5.0	1.0	1.3
	ふたり親（三世代）	111	20	53	29	6	1	2
		100.0	18.0	47.7	26.1	5.4	0.9	1.8
	ひとり親（二世代）	182	39	80	47	11	2	3
		100.0	21.4	44.0	25.8	6.0	1.1	1.6
	ひとり親（三世代）	32	5	16	8	3	0	0
		100.0	15.6	50.0	25.0	9.4	0.0	0.0
部活の先生・コーチ（X）	全体	1,482	335	502	238	85	302	20
		100.0	22.6	33.9	16.1	5.7	20.4	1.3
	ふたり親（二世代）	1,135	262	392	191	68	209	13
		100.0	23.1	34.5	16.8	6.0	18.4	1.1
	ふたり親（三世代）	111	28	35	15	6	24	3
		100.0	25.2	31.5	13.5	5.4	21.6	2.7
	ひとり親（二世代）	182	39	54	27	8	52	2
		100.0	21.4	29.7	14.8	4.4	28.6	1.1
	ひとり親（三世代）	32	5	12	4	2	9	0
		100.0	15.6	37.5	12.5	6.3	28.1	0.0
スクールカウンセラー・スクール（ユース）ソーシャルワーカー（X）	全体	1,482	12	32	117	823	473	25
		100.0	0.8	2.2	7.9	55.5	31.9	1.7
	ふたり親（二世代）	1,135	7	24	89	653	347	15
		100.0	0.6	2.1	7.8	57.5	30.6	1.3
	ふたり親（三世代）	111	1	3	11	54	38	4
		100.0	0.9	2.7	9.9	48.6	34.2	3.6
	ひとり親（二世代）	182	3	5	13	87	71	3
		100.0	1.6	2.7	7.1	47.8	39.0	1.6
	ひとり親（三世代）	32	0	0	0	20	12	0
		100.0	0.0	0.0	0.0	62.5	37.5	0.0
友人（X）	全体	1,482	1,301	115	37	5	12	12
		100.0	87.8	7.8	2.5	0.3	0.8	0.8
	ふたり親（二世代）	1,135	1,000	87	25	4	11	8
		100.0	88.1	7.7	2.2	0.4	1.0	0.7
	ふたり親（三世代）	111	101	5	3	0	0	2
		100.0	91.0	4.5	2.7	0.0	0.0	1.8
	ひとり親（二世代）	182	159	15	6	1	1	0
		100.0	87.4	8.2	3.3	0.5	0.5	0.0
	ひとり親（三世代）	32	26	3	3	0	0	0
		100.0	81.3	9.4	9.4	0.0	0.0	0.0
先輩・後輩（＊）	全体	1,482	603	430	194	106	134	15
		100.0	40.7	29.0	13.1	7.2	9.0	1.0
	ふたり親（二世代）	1,135	472	336	151	74	92	10
		100.0	41.6	29.6	13.3	6.5	8.1	0.9
	ふたり親（三世代）	111	46	29	18	7	8	3
		100.0	41.4	26.1	16.2	6.3	7.2	2.7
	ひとり親（二世代）	182	71	48	20	15	28	0
		100.0	39.0	26.4	11.0	8.2	15.4	0.0
	ひとり親（三世代）	32	10	10	4	6	2	0
		100.0	31.3	31.3	12.5	18.8	6.3	0.0

		該当数	よく話す	時々話す	あまり話さない	まったく話さない	該当する人はいない	無回答
SNSを通じて知り合った人（X）	全体	1,482	125	165	176	294	700	22
		100.0	8.4	11.1	11.9	19.8	47.2	1.5
	ふたり親（二世代）	1,135	96	119	130	244	533	13
		100.0	8.5	10.5	11.5	21.5	47.0	1.1
	ふたり親（三世代）	111	13	15	15	14	51	3
		100.0	11.7	13.5	13.5	12.6	45.9	2.7
	ひとり親（二世代）	182	14	26	24	29	86	3
		100.0	7.7	14.3	13.2	15.9	47.3	1.6
	ひとり親（三世代）	32	2	3	3	5	19	0
		100.0	6.3	9.4	9.4	15.6	59.4	0.0
近所の人や町内会の人（X）	全体	1,482	19	156	372	570	345	20
		100.0	1.3	10.5	25.1	38.5	23.3	1.3
	ふたり親（二世代）	1,135	16	116	288	442	260	13
		100.0	1.4	10.2	25.4	38.9	22.9	1.1
	ふたり親（三世代）	111	1	9	29	46	23	3
		100.0	0.9	8.1	26.1	41.4	20.7	2.7
	ひとり親（二世代）	182	1	24	42	62	52	1
		100.0	0.5	13.2	23.1	34.1	28.6	0.5
	ひとり親（三世代）	32	1	5	8	12	6	0
		100.0	3.1	15.6	25.0	37.5	18.8	0.0
児童館職員（X）	全体	1,482	5	15	46	510	882	24
		100.0	0.3	1.0	3.1	34.4	59.5	1.6
	ふたり親（二世代）	1,135	5	14	34	402	662	18
		100.0	0.4	1.2	3.0	35.4	58.3	1.6
	ふたり親（三世代）	111	0	0	2	44	63	2
		100.0	0.0	0.0	1.8	39.6	56.8	1.8
	ひとり親（二世代）	182	0	1	9	47	124	1
		100.0	0.0	0.5	4.9	25.8	68.1	0.5
	ひとり親（三世代）	32	0	0	0	10	22	0
		100.0	0.0	0.0	0.0	31.3	68.8	0.0
青少年交流センター職員（X）	全体	1,482	5	21	42	465	923	26
		100.0	0.3	1.4	2.8	31.4	62.3	1.8
	ふたり親（二世代）	1,135	5	20	35	369	688	18
		100.0	0.4	1.8	3.1	32.5	60.6	1.6
	ふたり親（三世代）	111	0	0	1	38	68	4
		100.0	0.0	0.0	0.9	34.2	61.3	3.6
	ひとり親（二世代）	182	0	1	6	44	130	1
		100.0	0.0	0.5	3.3	24.2	71.4	0.5
	ひとり親（三世代）	32	0	0	0	8	24	0
		100.0	0.0	0.0	0.0	25.0	75.0	0.0
塾や習い事の先生など（X）	全体	1,482	312	375	124	137	514	20
		100.0	21.1	25.3	8.4	9.2	34.7	1.3
	ふたり親（二世代）	1,135	237	306	100	103	375	14
		100.0	20.9	27.0	8.8	9.1	33.0	1.2
	ふたり親（三世代）	111	27	24	7	13	38	2
		100.0	24.3	21.6	6.3	11.7	34.2	1.8
	ひとり親（二世代）	182	35	31	13	18	84	1
		100.0	19.2	17.0	7.1	9.9	46.2	0.5
	ひとり親（三世代）	32	7	10	2	2	11	0
		100.0	21.9	31.3	6.3	6.3	34.4	0.0
子ども食堂や無料学習支援事業の人（X）	全体	1,482	4	9	20	358	1,065	26
		100.0	0.3	0.6	1.3	24.2	71.9	1.8
	ふたり親（二世代）	1,135	3	5	16	288	805	18
		100.0	0.3	0.4	1.4	25.4	70.9	1.6
	ふたり親（三世代）	111	0	2	0	28	78	3
		100.0	0.0	1.8	0.0	25.2	70.3	2.7
	ひとり親（二世代）	182	1	2	4	34	139	2
		100.0	0.5	1.1	2.2	18.7	76.4	1.1
	ひとり親（三世代）	32	0	0	0	5	27	0
		100.0	0.0	0.0	0.0	15.6	84.4	0.0
コンビニの店員さんなど（X）	全体	1,482	21	134	373	525	406	23
		100.0	1.4	9.0	25.2	35.4	27.4	1.6
	ふたり親（二世代）	1,135	17	90	292	417	303	16
		100.0	1.5	7.9	25.7	36.7	26.7	1.4
	ふたり親（三世代）	111	1	17	28	28	35	2
		100.0	0.9	15.3	25.2	25.2	31.5	1.8
	ひとり親（二世代）	182	3	25	38	62	52	2
		100.0	1.6	13.7	20.9	34.1	28.6	1.1
	ひとり親（三世代）	32	0	1	8	12	11	0
		100.0	0.0	3.1	25.0	37.5	34.4	0.0
その他（X）	全体	1,482	28	20	37	98	848	451
		100.0	1.9	1.3	2.5	6.6	57.2	30.4
	ふたり親（二世代）	1,135	21	16	29	77	661	331
		100.0	1.9	1.4	2.6	6.8	58.2	29.2
	ふたり親（三世代）	111	2	2	1	9	59	38
		100.0	1.8	1.8	0.9	8.1	53.2	34.2
	ひとり親（二世代）	182	4	1	6	10	101	60
		100.0	2.2	0.5	3.3	5.5	55.5	33.0
	ひとり親（三世代）	32	1	1	1	2	16	11
		100.0	3.1	3.1	3.1	6.3	50.0	34.4

（４）相談相手

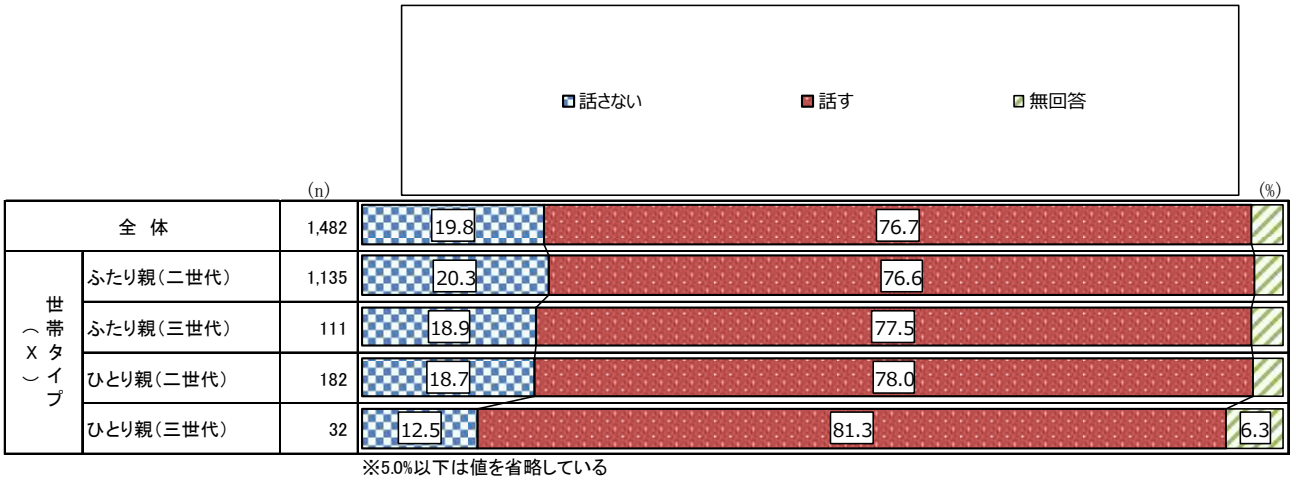
子どもに「あなたに困ったことや、悩んでいることがある時、そのことを誰かに話しますか。」と聞いたところ、「話さない」と回答した割合が 19.8%、「話す」と回答した割合が 76.7%であり、８割弱が困りごとや悩みを誰かに相談している。なお、生活困難度別・世帯タイプ別には、統計的に有意な差は確認されなかった。

図表 6-1-12：困ったことや、悩んでいることがある時、そのことを誰かに話すか：全体、生活困難度別(X)



※5.0%以下は値を省略している

図表 6-1-13：困ったことや、悩んでいることがある時、そのことを誰かに話すか：全体、世帯タイプ別(X)



※5.0%以下は値を省略している

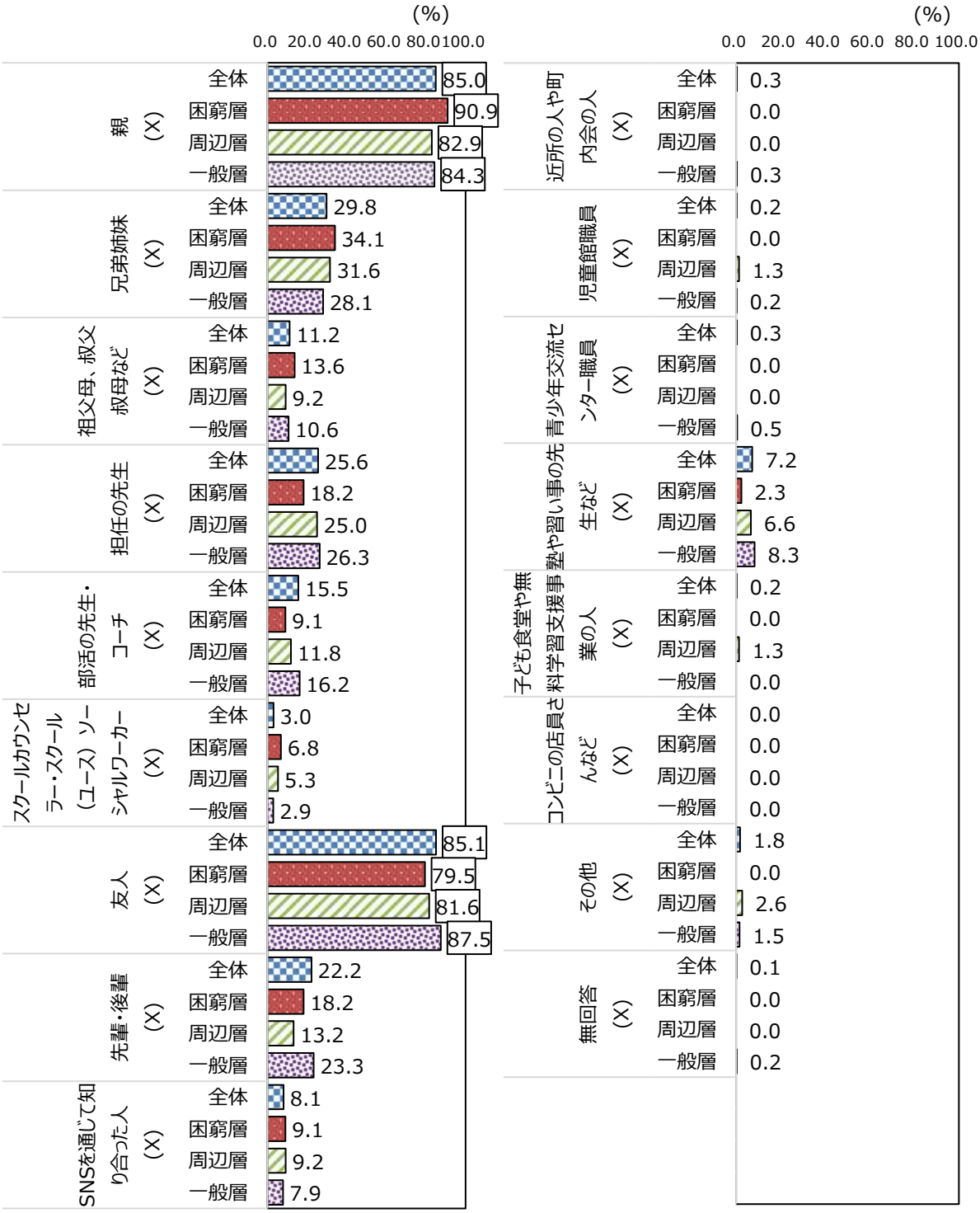
図表 6-1-14：困ったことや、悩んでいることがある時、そのことを誰かに話すか
：全体、生活困難度別(X)、世帯タイプ別(X)

		該当数	話さない	話す	無回答
全体		1482 100.0	293 19.8	1137 76.7	52 3.5
生活困難度（X）	困窮層	55 100.0	11 20.0	43 78.2	1 1.8
	周辺層	97 100.0	21 21.6	73 75.3	3 3.1
	一般層	838 100.0	174 20.8	643 76.7	21 2.5
世帯タイプ（X）	ふたり親（二世代）	1135 100.0	230 20.3	869 76.6	36 3.2
	ふたり親（三世代）	111 100.0	21 18.9	86 77.5	4 3.6
	ひとり親（二世代）	182 100.0	34 18.7	142 78.0	6 3.3
	ひとり親（三世代）	32 100.0	4 12.5	26 81.3	2 6.3

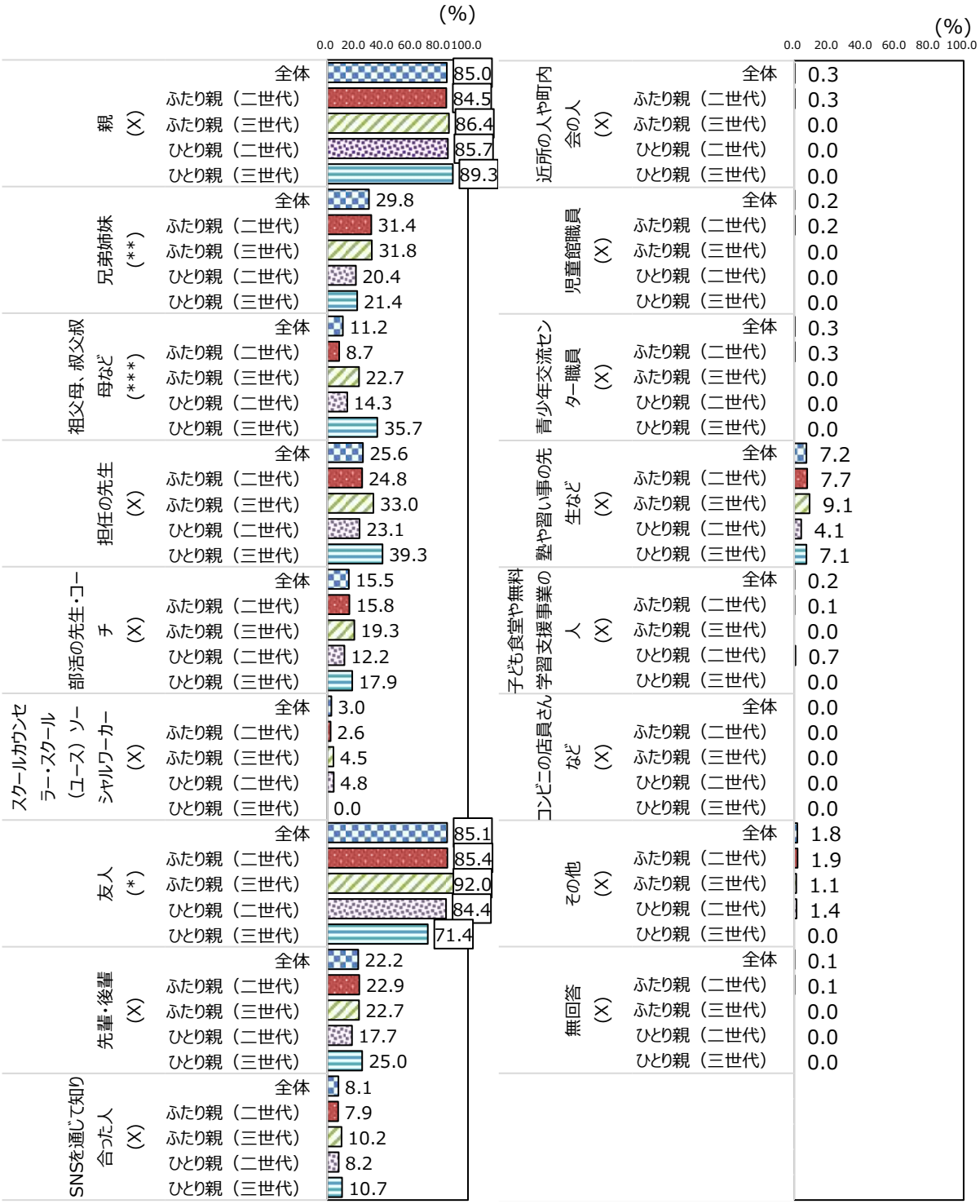
また、「話す」と回答した子どもに、困りごとや悩みを相談する相手を聞いたところ、最も多いのは「友人」（85.1%）、次いで「親」（85.0%）、「兄弟姉妹」（29.8%）、「担任の先生」（25.6%）であった。

なお、生活困難度別には一貫した傾向は見られなかったが、世帯タイプ別に見ると、「兄弟姉妹」について、ふたり親（二世代）世帯では 31.4%、ふたり親（三世代）世帯では 31.8%であったのに対し、ひとり親（二世代）世帯では 20.4%、ひとり親（三世代）世帯では 21.4%にとどまっており、ひとり親世帯の方が兄弟姉妹に相談しない傾向が見られる。また、「友人」について、ふたり親（二世代）世帯では 85.4%、ふたり親（三世代）世帯では 92.0%であったのに対し、ひとり親（二世代）世帯では 84.4%、ひとり親（三世代）世帯では 71.4%にとどまっており、ひとり親世帯の方が友人に相談しない傾向が見られる。

図表 6-1-15：困ったことや、悩んでいることを話す相手：全体、生活困難度別



図表 6-1-16：困ったことや、悩んでいることを話す相手：全体、世帯タイプ別



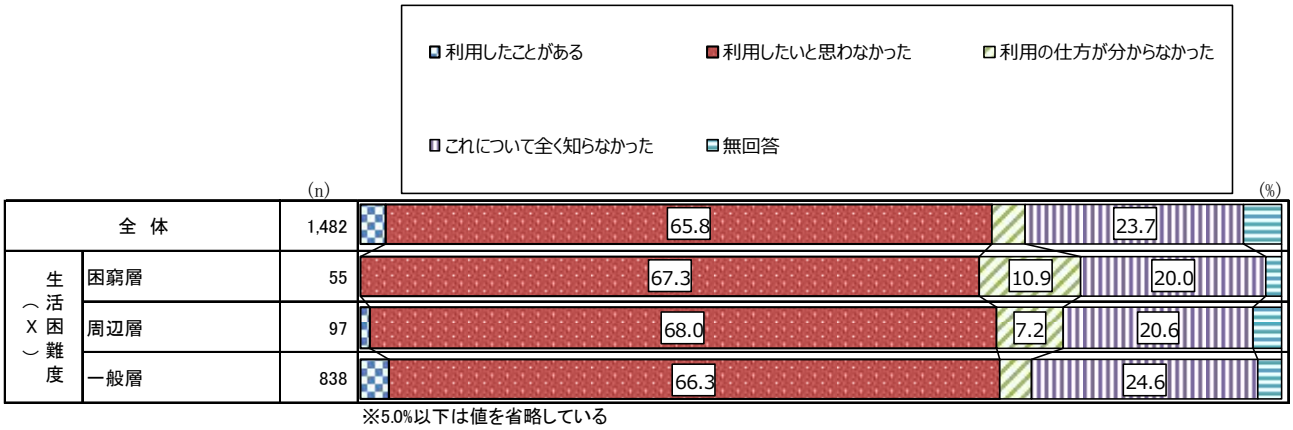
図表 6-1-17：困ったことや、悩んでいることを話す相手：全体、生活困難度別、世帯タイプ別

		該当数	親	兄弟姉妹	祖父母、叔父叔母など	担任の先生	部活の先生・コーチ	スクールカウンセラー・スクール（ユース）ソーシャルワーカー	友人	先輩・後輩	SNSを通じて知り合った人	近所の人や町内会の人	児童館職員	青少年交流センター職員	塾や習い事の先生など	子ども食堂や無料学習支援事業の人	コンビニの店員さんなど	その他	無回答
全体		1,178	1,001	351	132	301	183	35	1,002	261	95	3	2	3	85	2	0	21	1
		100.0	85.0	29.8	11.2	25.6	15.5	3.0	85.1	22.2	8.1	0.3	0.2	0.3	7.2	0.2	0.0	1.8	0.1
生活困難度	困窮層	44	40	15	6	8	4	3	35	8	4	0	0	0	1	0	0	0	0
		100.0	90.9	34.1	13.6	18.2	9.1	6.8	79.5	18.2	9.1	0.0	0.0	0.0	2.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	周辺層	76	63	24	7	19	9	4	62	10	7	0	1	0	5	1	0	2	0
		100.0	82.9	31.6	9.2	25.0	11.8	5.3	81.6	13.2	9.2	0.0	1.3	0.0	6.6	1.3	0.0	2.6	0.0
	一般層	662	558	186	70	174	107	19	579	154	52	2	1	3	55	0	0	10	1
		100.0	84.3	28.1	10.6	26.3	16.2	2.9	87.5	23.3	7.9	0.3	0.2	0.5	8.3	0.0	0.0	1.5	0.2
世帯タイプ	ふたり親（二世代）	898	759	282	78	223	142	23	767	206	71	3	2	3	69	1	0	17	1
		100.0	84.5	31.4	8.7	24.8	15.8	2.6	85.4	22.9	7.9	0.3	0.2	0.3	7.7	0.1	0.0	1.9	0.1
	ふたり親（三世代）	88	76	28	20	29	17	4	81	20	9	0	0	0	8	0	0	1	0
		100.0	86.4	31.8	22.7	33.0	19.3	4.5	92.0	22.7	10.2	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0	1.1	0.0
	ひとり親（二世代）	147	126	30	21	34	18	7	124	26	12	0	0	0	6	1	0	2	0
		100.0	85.7	20.4	14.3	23.1	12.2	4.8	84.4	17.7	8.2	0.0	0.0	0.0	4.1	0.7	0.0	1.4	0.0
	ひとり親（三世代）	28	25	6	10	11	5	0	20	7	3	0	0	0	2	0	0	0	0
		100.0	89.3	21.4	35.7	39.3	17.9	0.0	71.4	25.0	10.7	0.0	0.0	0.0	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0

（５）相談事業

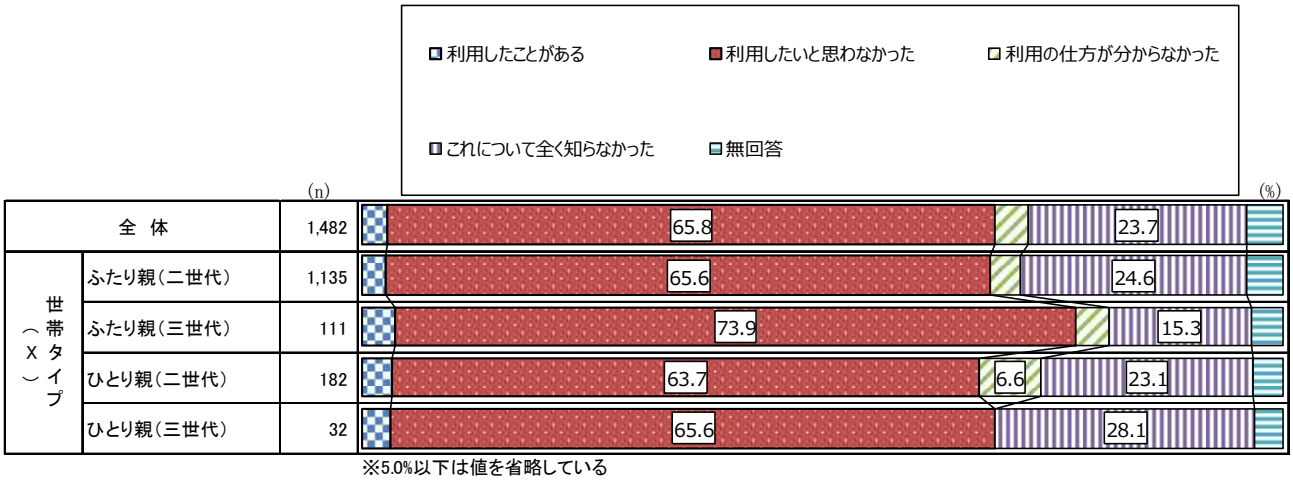
相談事業の利用状況や利用意向について子どもに聞いた。まず、「せたホッと（※困った時やつらい時に電話やメールなどで相談できるところ（無料））」について、利用状況を聞いたところ、「利用したことがある」割合は 2.8%であり、「利用したいと思わなかった」割合が 65.8%であった。一方で、「利用の仕方が分からなかった」割合が 3.6%、「これについて全く知らなかった」割合が 23.7%存在した。なお、せたホッとの利用状況に、生活困難度別・世帯タイプ別での統計的に有意な差は確認されなかった。

図表 6-1-18：「せたホッと」の利用状況：全体、生活困難度別(X)



※5.0%以下は値を省略している

図表 6-1-19：「せたホッと」の利用状況：全体、世帯タイプ別(X)



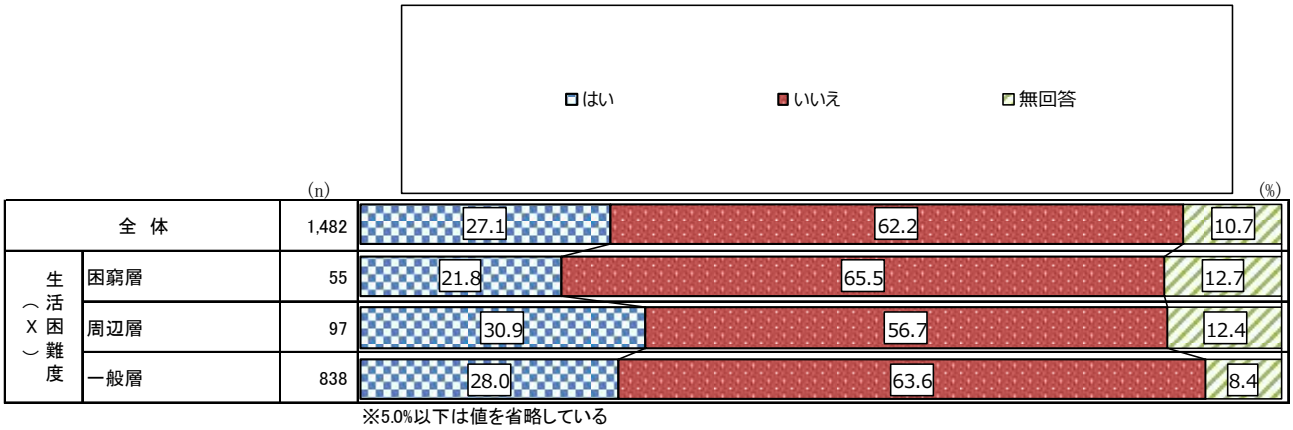
※5.0%以下は値を省略している

図表 6-1-20：「せたホッと」の利用状況：全体、生活困難度別(X)、世帯タイプ別(X)

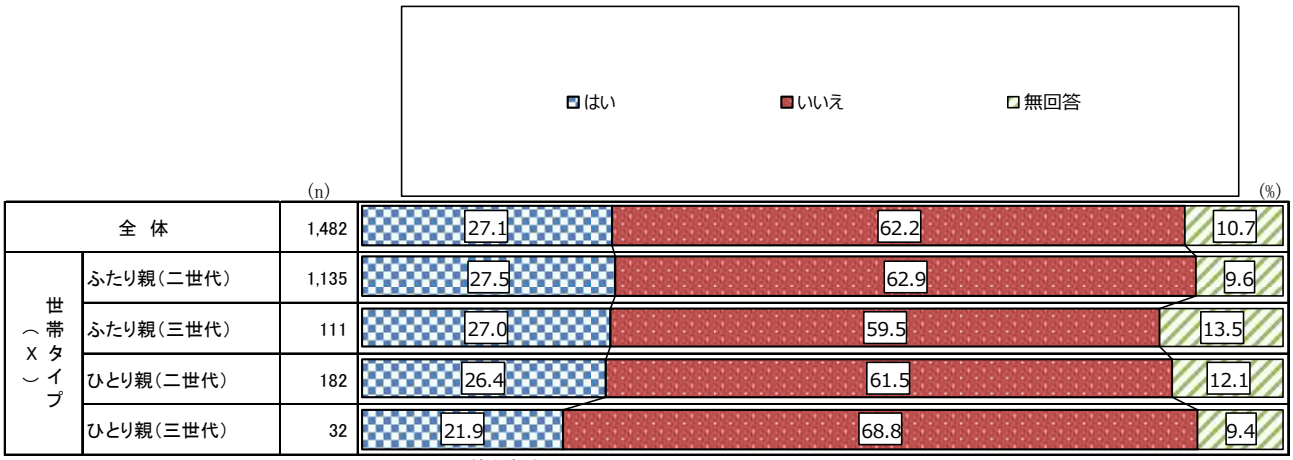
		該当数	利用したことがある	利用したいと思わなかった	利用の仕方が分からなかった	これについて全く知らなかった	無回答
全 体		1,482	42	975	53	351	61
		100.0	2.8	65.8	3.6	23.7	4.1
生活困難度（X）	困窮層	55	0	37	6	11	1
		100.0	0.0	67.3	10.9	20.0	1.8
	周辺層	97	1	66	7	20	3
		100.0	1.0	68.0	7.2	20.6	3.1
	一般層	838	26	556	28	206	22
		100.0	3.1	66.3	3.3	24.6	2.6
世帯タイプ（X）	ふたり親（二世代）	1,135	30	744	36	279	46
		100.0	2.6	65.6	3.2	24.6	4.1
	ふたり親（三世代）	111	4	82	4	17	4
		100.0	3.6	73.9	3.6	15.3	3.6
	ひとり親（二世代）	182	6	116	12	42	6
		100.0	3.3	63.7	6.6	23.1	3.3
	ひとり親（三世代）	32	1	21	0	9	1
		100.0	3.1	65.6	0.0	28.1	3.1

次に、「せたホッと」について、利用意向を聞いたところ、「はい」と回答した割合は 27.1%であり、「いいえ」と回答した割合は 62.2%であった。なお、せたホッとの利用意向に、生活困難度別・世帯タイプ別での統計的に有意な差は確認されなかった。

図表 6-1-21：「せたホッと」の利用意向：全体、生活困難度別(X)



図表 6-1-22：「せたホッと」の利用意向：全体、世帯タイプ別(X)

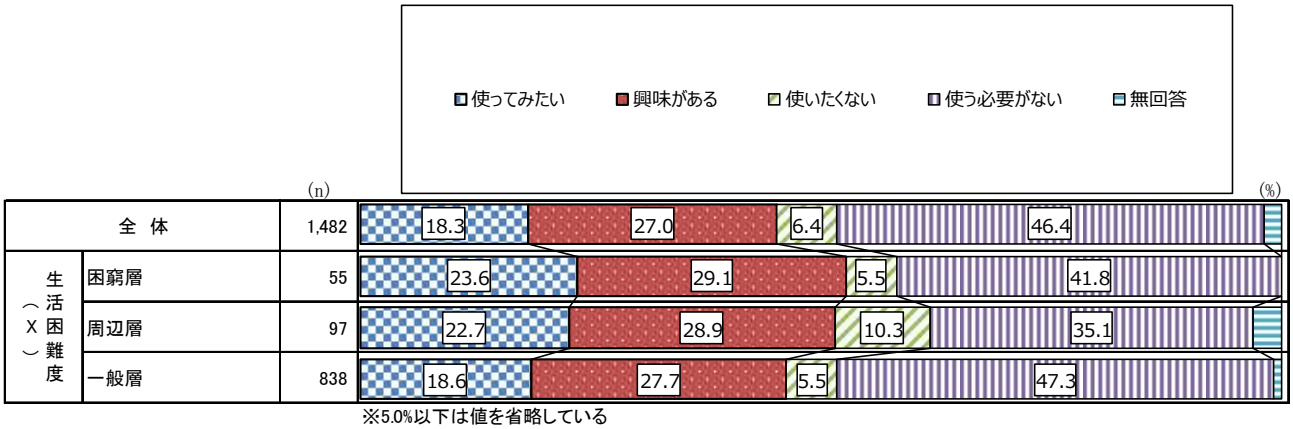


図表 6-1-23：「せたホッと」の利用意向：全体、生活困難度別(X)、生活困難度別(X)

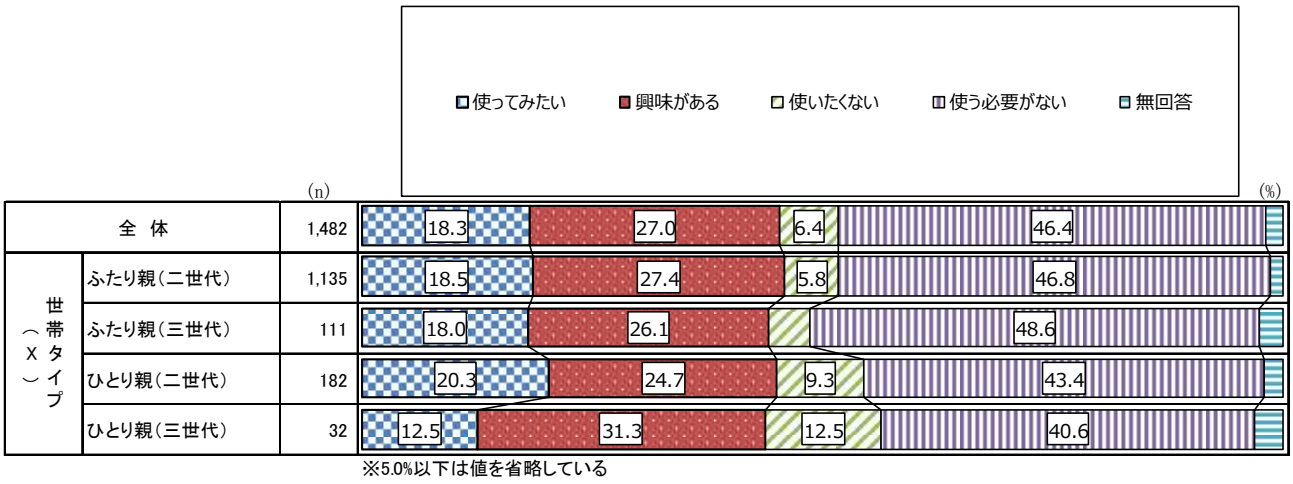
		該当数	はい	いいえ	無回答
全 体		1,482	402	922	158
		100.0	27.1	62.2	10.7
生活困難度（X）	困窮層	55	12	36	7
		100.0	21.8	65.5	12.7
	周辺層	97	30	55	12
		100.0	30.9	56.7	12.4
	一般層	838	235	533	70
		100.0	28.0	63.6	8.4
世帯タイプ（X）	ふたり親（二世代）	1,135	312	714	109
		100.0	27.5	62.9	9.6
	ふたり親（三世代）	111	30	66	15
		100.0	27.0	59.5	13.5
	ひとり親（二世代）	182	48	112	22
		100.0	26.4	61.5	12.1
	ひとり親（三世代）	32	7	22	3
		100.0	21.9	68.8	9.4

加えて、「（学校以外で）進路や勉強、家族のことなどなんでも気軽に相談できる場所」について、利用意向を聞いたところ、「使ってみたい」と回答した割合が 18.3%、「興味がある」と回答した割合が 27.0%、合わせて 45.3%が利用意向を示していた。なお、生活困難度別・世帯タイプ別での統計的に有意な差は確認されなかった。

図表 6-1-24：（学校以外で）進路や勉強、家族のことなどなんでも気軽に相談できる場所の利用意向：全体、生活困難度別(X)



図表 6-1-25：（学校以外で）進路や勉強、家族のことなどなんでも気軽に相談できる場所の利用意向：全体、世帯タイプ別(X)



図表 6-1-26：（学校以外で）進路や勉強、家族のことなどなんでも気軽に相談できる場所の利用意向：全体、生活困難度別(X)、世帯タイプ別(X)

		該当数	使ってみたい	興味がある	使いたくない	使う必要がない	無回答
全 体		1,482	271	400	95	687	29
		100.0	18.3	27.0	6.4	46.4	2.0
生活困難度（X）	困窮層	55	13	16	3	23	0
		100.0	23.6	29.1	5.5	41.8	0.0
	周辺層	97	22	28	10	34	3
		100.0	22.7	28.9	10.3	35.1	3.1
	一般層	838	156	232	46	396	8
		100.0	18.6	27.7	5.5	47.3	1.0
世帯タイプ（X）	ふたり親（二世代）	1,135	210	311	66	531	17
		100.0	18.5	27.4	5.8	46.8	1.5
	ふたり親（三世代）	111	20	29	5	54	3
		100.0	18.0	26.1	4.5	48.6	2.7
	ひとり親（二世代）	182	37	45	17	79	4
		100.0	20.3	24.7	9.3	43.4	2.2
	ひとり親（三世代）	32	4	10	4	13	1
		100.0	12.5	31.3	12.5	40.6	3.1

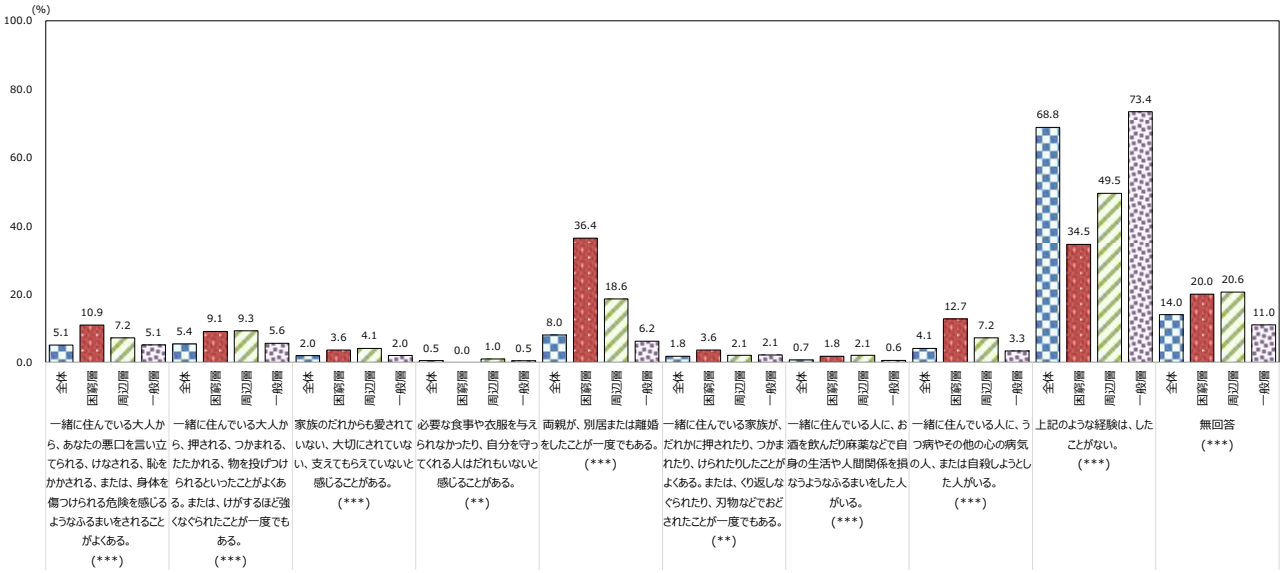
２．逆境体験

子どもに、様々な逆境体験の有無について聞いた。すると、経験している割合としては、「一緒に住んでいる大人から、あなたの悪口を言い立てられる、けなされる、恥をかかされる、または、身体を傷つけられる危険を感じるようなふるまいをされることがよくある。」は 5.1%、「一緒に住んでいる大人から、押される、つかまれる、たたかれる、物を投げつけられるといったことがよくある。または、けがするほど強くなぐられたことが一度でもある。」は 5.4%、「家族のだれからも愛されていない、大切にされていない、支えてもらえていないと感じることがある。」は 2.0%、「必要な食事や衣服を与えられなかったり、自分を守ってくれる人はだれもいないと感じることがある。」は 0.5%、「両親が、別居または離婚をしたことが一度でもある」が 8.0%、「一緒に住んでいる家族がだれかに押されたり、つかまれたり、けられたりしたことがよくある。または、くり返しなぐられたり、刃物などでおどされたことが一度でもある。」は 1.8%、「一緒に住んでいる人に、お酒を飲んだり麻薬などで自身の生活や人間関係を損なうようなふるまいをした人がいる。」は 0.7%、「一緒に住んでいる人に、うつ病やその他の心の病気の人、または自殺しようとした人がいる。」は 4.1%、「上記のような経験は、したことがない。」は 68.8%であった。

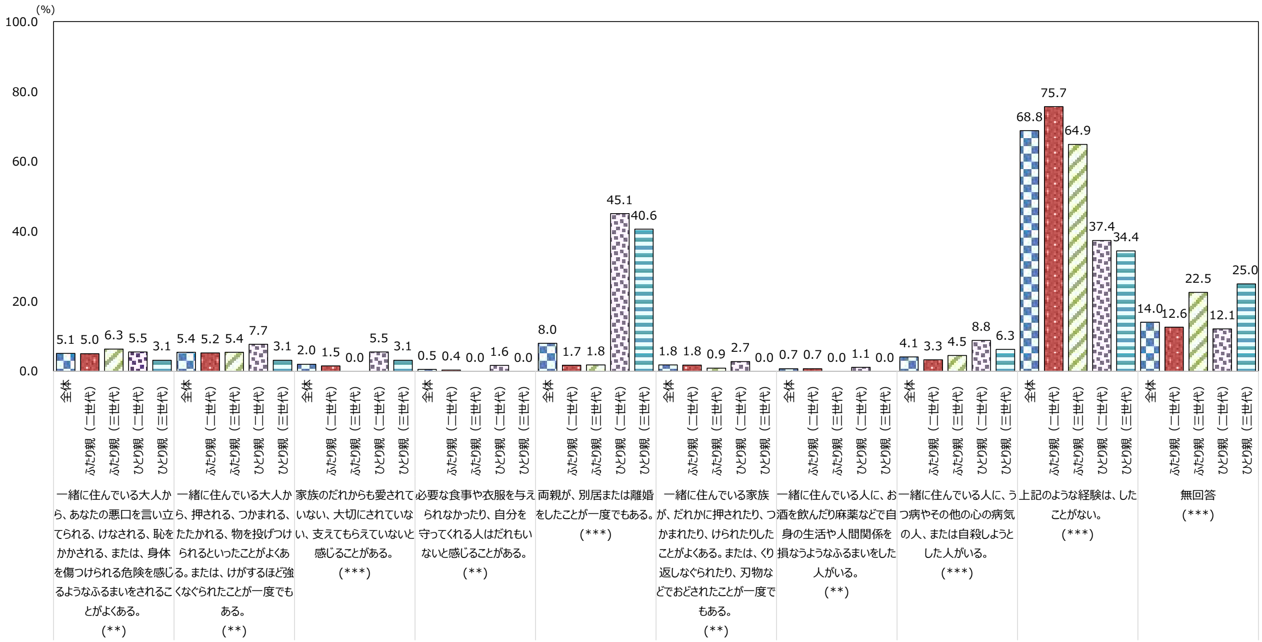
生活困難度別に見ると、多くの項目で統計的に有意な差が確認され、また、「上記のような経験をしたことがない」割合は一般層では 73.4%であったのに対し、困窮層では 34.5%にとどまっていた。生活困難層に属する子どもほど、様々な逆境体験をしている傾向があることが分かる。

世帯タイプ別に見ると、「家族のだれからも愛されていない、大切にされていない、支えてもらえていないと感じることがある。」はふたり親（二世代）世帯では 1.5%であったのに対しひとり親（二世代）世帯では 5.5%、ふたり親（三世代）世帯では 0.0%であったのに対しひとり親（三世代）世帯では 3.1%にのぼり、ひとり親世帯の方が経験している割合が高い傾向が見られた。また、「一緒に住んでいる人に、うつ病やその他の心の病気の人、または自殺しようとした人がいる。」はふたり親（二世代）世帯では 3.3%であったのに対しひとり親（二世代）世帯では 8.8%、ふたり親（三世代）世帯では 4.5%であったのに対しふたり親（二世代）世帯では 6.3%にのぼり、ひとり親世帯の方が経験している割合が高い傾向が見られた。

図表 6-2-1：逆境体験の有無：全体、生活困難度別



図表 6-2-2：逆境体験の有無：全体、世帯タイプ別



図表 6-2-3：逆境体験の有無：全体、生活困難度別、世帯タイプ別

		該当数	一緒に住んでいる大人から、あなたの悪口を言い立てられる、けなされる、恥をかかされる、または、身体を傷つけられる危険を感じるようなふるまいをされることがよくある。	一緒に住んでいる大人から、押される、つかまれる、たたかれる、物を投げつけられるといったことがよくある。または、けがするほど強くなぐられたことが一度でもある。	家族のだれからも愛されていない、大切にされていない、支えてもらえていないと感じることがある。	必要な食事や衣服を与えられなかったり、自分を守ってくれる人はだれもいないと感じることがある。	両親が、別居または離婚をしたことが一度でもある。	一緒に住んでいる家族が、だれかに押されたり、つかまれたり、けられたりしたことがよくある。または、くり返しなぐられたり、刃物などでおどされたことが一度でもある。	一緒に住んでいる人に、お酒を飲んだり麻薬などで自身の生活や人間関係を損なうようなふるまいをした人がいる。	一緒に住んでいる人に、うつ病やその他の心の病気の人、または自殺しようとした人がいる。	上記のような経験は、したことがない	無回答
全 体		1,482	75	80	29	7	119	26	10	61	1,019	208
		100.0	5.1	5.4	2.0	0.5	8.0	1.8	0.7	4.1	68.8	14.0
生活困難度	困窮層	55	6	5	2	0	20	2	1	7	19	11
		100.0	10.9	9.1	3.6	0.0	36.4	3.6	1.8	12.7	34.5	20.0
	周辺層	97	7	9	4	1	18	2	2	7	48	20
		100.0	7.2	9.3	4.1	1.0	18.6	2.1	2.1	7.2	49.5	20.6
	一般層	838	43	47	17	4	52	18	5	28	615	92
		100.0	5.1	5.6	2.0	0.5	6.2	2.1	0.6	3.3	73.4	11.0
世帯タイプ	ふたり親（二世代）	1,135	57	59	17	4	19	20	8	37	859	143
		100.0	5.0	5.2	1.5	0.4	1.7	1.8	0.7	3.3	75.7	12.6
	ふたり親（三世代）	111	7	6	0	0	2	1	0	5	72	25
		100.0	6.3	5.4	0.0	0.0	1.8	0.9	0.0	4.5	64.9	22.5
	ひとり親（二世代）	182	10	14	10	3	82	5	2	16	68	22
		100.0	5.5	7.7	5.5	1.6	45.1	2.7	1.1	8.8	37.4	12.1
	ひとり親（三世代）	32	1	1	1	0	13	0	0	2	11	8
		100.0	3.1	3.1	3.1	0.0	40.6	0.0	0.0	6.3	34.4	25.0

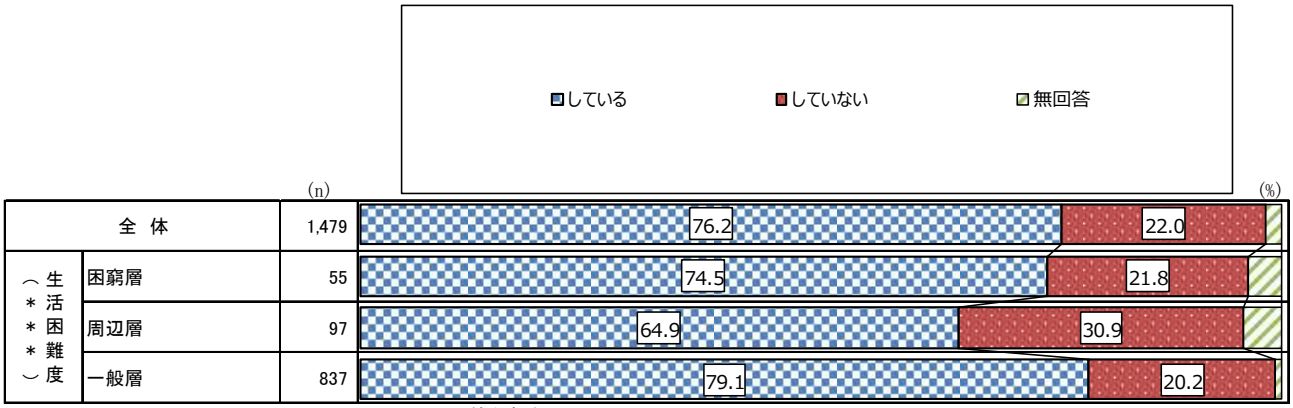
３．子どもの過ごし方

（１）部活動

子どもたちの放課後の活動状況を把握するため、部活動の参加状況と、参加していない場合についてはその理由を聞いた。

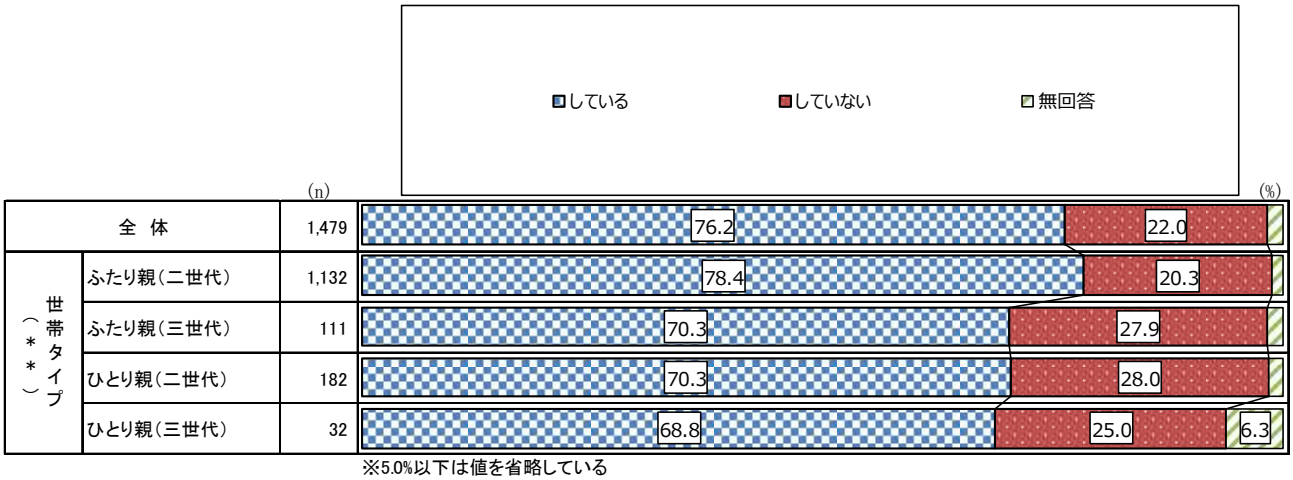
部活動の参加状況は、「参加している」が 76.2%、「参加していない」が 22.0%となった。この割合を生活困難度別に見ると、一般層では 79.1%が部活動に参加しているのに対し、周辺層では 64.9%、困窮層では 74.5%にとどまっており、生活困難層の方が部活動に参加していない傾向が見られる。世帯タイプ別に見ると、ふたり親（二世代）世帯 78.4%、ふたり親（三世代）世帯 70.3%、ひとり親（二世代）世帯 70.3%、ひとり親（三世代）世帯 68.8%となった。

図表 6-3-1：部活動の参加状況：全体、生活困難度別(***)



※5.0%以下は値を省略している

図表 6-3-2：部活動の参加状況：全体、世帯タイプ別(**)



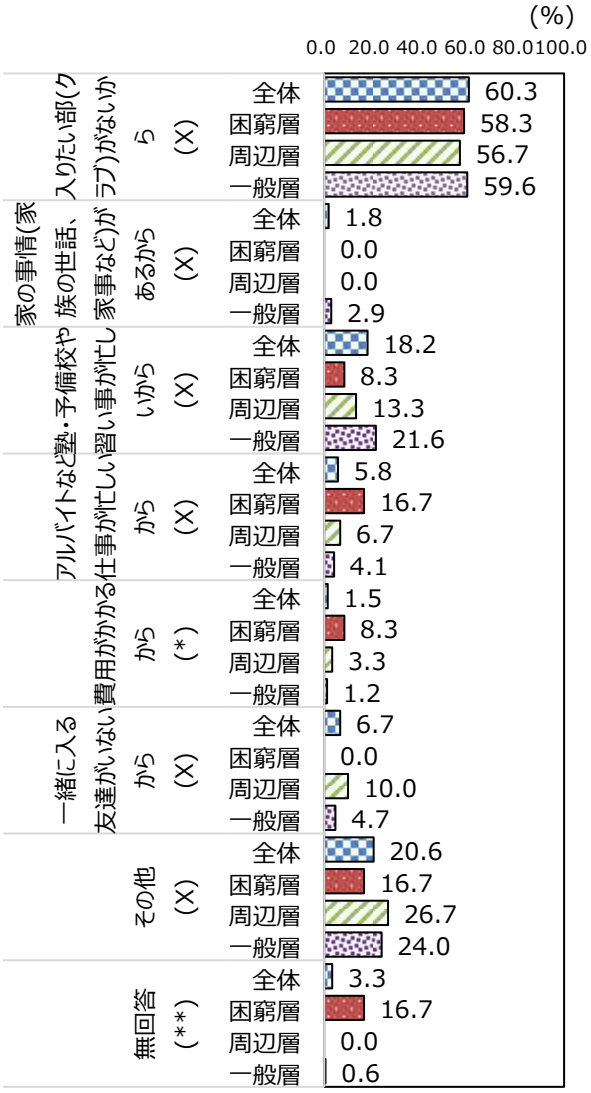
※5.0%以下は値を省略している

図表 6-3-3：部活動の参加状況：全体、生活困難度別(***)、世帯タイプ別(**)

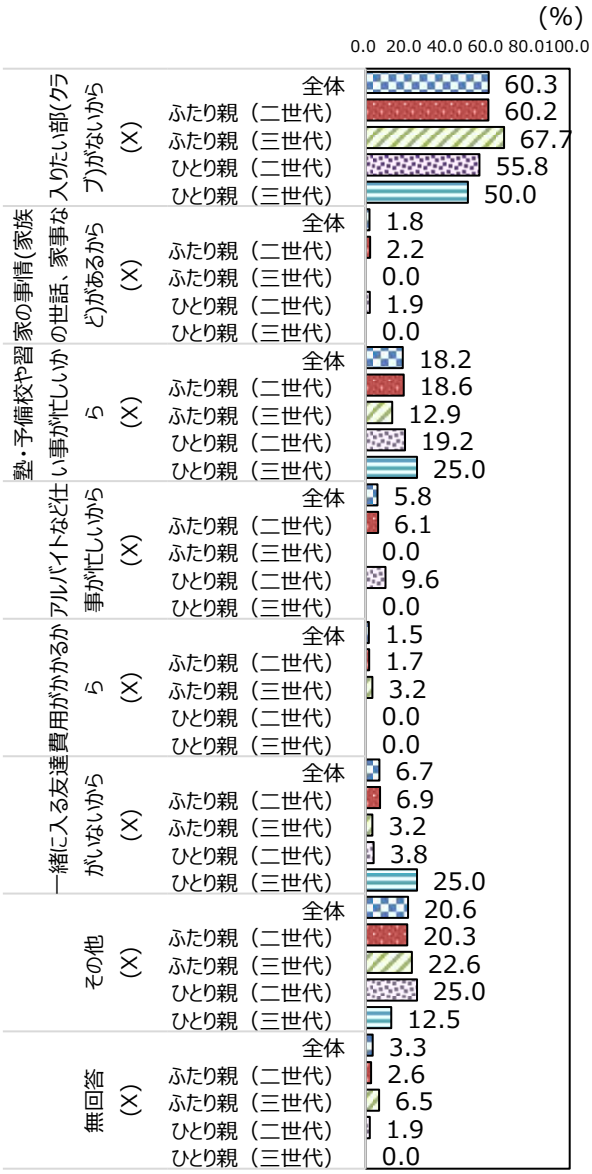
		該当数	している	していない	無回答
全 体		1,479	1,127	326	26
		100.0	76.2	22.0	1.8
生活困難度（***）	困窮層	55	41	12	2
		100.0	74.5	21.8	3.6
	周辺層	97	63	30	4
		100.0	64.9	30.9	4.1
	一般層	837	662	169	6
		100.0	79.1	20.2	0.7
世帯タイプ（**）	ふたり親（二世代）	1,132	887	230	15
		100.0	78.4	20.3	1.3
	ふたり親（三世代）	111	78	31	2
		100.0	70.3	27.9	1.8
	ひとり親（二世代）	182	128	51	3
		100.0	70.3	28.0	1.6
	ひとり親（三世代）	32	22	8	2
		100.0	68.8	25.0	6.3

部活動に参加しない理由としては、「入りたい部（クラブ）がないから」が 60.3%、「家の事情（家族の世話、家事など）があるから」が 1.8%、「塾・予備校や習い事が忙しいから」が 18.2%、「アルバイトなど仕事が忙しいから」が 5.8%、「費用がかかるから」が 1.5%、「一緒に入る友達がいないから」が 6.7%、「その他」が 20.6%であった。n 値が小さいのであくまでも参考値だが、生活困難度別に見ると、「費用がかかるから」のみ統計的に有意な差が確認され、一般層では 1.2%であったのに対し、困窮層では 8.3%にのぼった。なお、世帯タイプ別には統計的に有意な差は確認されなかった。

図表 6-3-4：部活動に参加しない理由：全体、生活困難度別



図表 6-3-5：部活動に参加しない理由：全体、世帯タイプ別



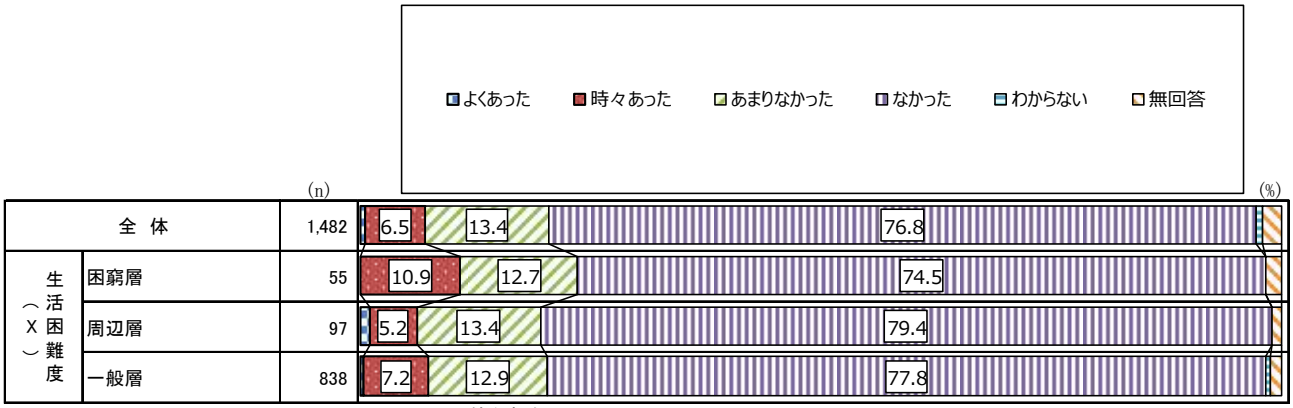
図表 6-3-6：部活動に参加しない理由：全体、生活困難度別、世帯タイプ別

		該当数	入りたい部（クラブ）がないから	家の事情（家族の世話、家事など）があるから	塾・予備校や習い事が忙しいから	アルバイトなど仕事が忙しいから	費用がかかるから	一緒に入る友達がいないから	その他	無回答
全 体		330	199	6	60	19	5	22	68	11
		100.0	60.3	1.8	18.2	5.8	1.5	6.7	20.6	3.3
生活困難度	困窮層	12	7	0	1	2	1	0	2	2
		100.0	58.3	0.0	8.3	16.7	8.3	0.0	16.7	16.7
	周辺層	30	17	0	4	2	1	3	8	0
		100.0	56.7	0.0	13.3	6.7	3.3	10.0	26.7	0.0
	一般層	171	102	5	37	7	2	8	41	1
		100.0	59.6	2.9	21.6	4.1	1.2	4.7	24.0	0.6
世帯タイプ	ふたり親（二世代）	231	139	5	43	14	4	16	47	6
		100.0	60.2	2.2	18.6	6.1	1.7	6.9	20.3	2.6
	ふたり親（三世代）	31	21	0	4	0	1	1	7	2
		100.0	67.7	0.0	12.9	0.0	3.2	3.2	22.6	6.5
	ひとり親（二世代）	52	29	1	10	5	0	2	13	1
		100.0	55.8	1.9	19.2	9.6	0.0	3.8	25.0	1.9
	ひとり親（三世代）	8	4	0	2	0	0	2	1	0
		100.0	50.0	0.0	25.0	0.0	0.0	25.0	12.5	0.0

（２）夜遅くまで子どもだけで過ごした経験

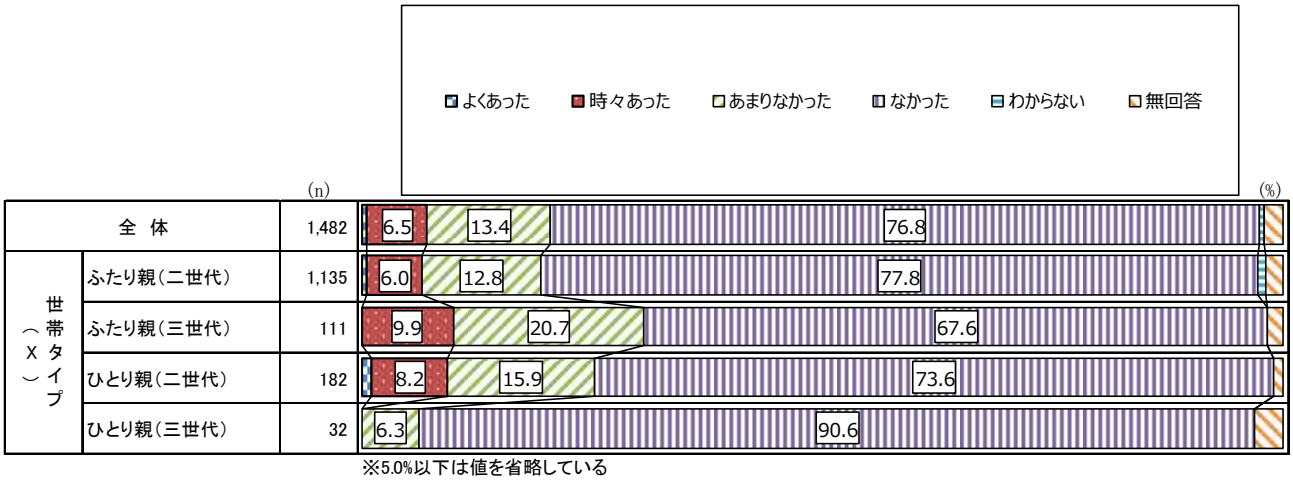
子どもに、夜遅くまで子どもだけで過ごした経験の有無を聞いたところ、「よくあった」が 0.6%、「時々あった」が 6.5%、「あまりなかった」が 13.4%、「なかった」が 76.8%、「わからない」が 0.6%であった。生活困難度別・世帯タイプ別には統計的に有意な差は確認されなかった。

図表 6-3-7：夜遅くまで子どもだけで過ごした経験の有無：全体、生活困難度別(X)



※5.0%以下は値を省略している

図表 6-3-8：夜遅くまで子どもだけで過ごした経験の有無：全体、世帯タイプ別(X)



※5.0%以下は値を省略している

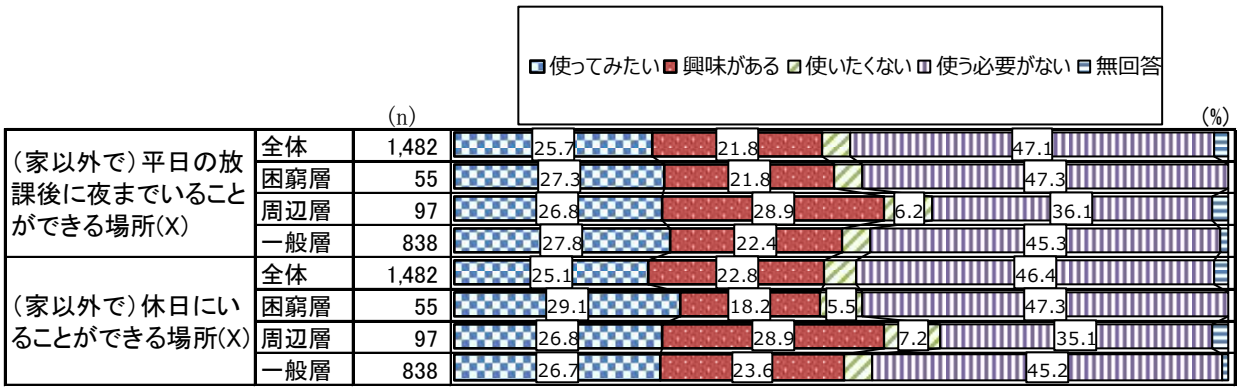
図表 6-3-9：夜遅くまで子どもだけで過ごした経験の有無：全体、生活困難度別(X)、世帯タイプ別(X)

		該当数	よくあった	時々あった	あまりなかった	なかった	わからない	無回答
全 体		1,482	9	96	199	1138	9	31
		100.0	0.6	6.5	13.4	76.8	0.6	2.1
生活困難度（X）	困窮層	55	0	6	7	41	0	1
		100.0	0.0	10.9	12.7	74.5	0.0	1.8
	周辺層	97	1	5	13	77	0	1
		100.0	1.0	5.2	13.4	79.4	0.0	1.0
	一般層	838	3	60	108	652	5	10
		100.0	0.4	7.2	12.9	77.8	0.6	1.2
世帯タイプ（X）	ふたり親（二世代）	1,135	7	68	145	883	9	23
		100.0	0.6	6.0	12.8	77.8	0.8	2.0
	ふたり親（三世代）	111	0	11	23	75	0	2
		100.0	0.0	9.9	20.7	67.6	0.0	1.8
	ひとり親（二世代）	182	2	15	29	134	0	2
		100.0	1.1	8.2	15.9	73.6	0.0	1.1
	ひとり親（三世代）	32	0	0	2	29	0	1
		100.0	0.0	0.0	6.3	90.6	0.0	3.1

（３）居場所事業

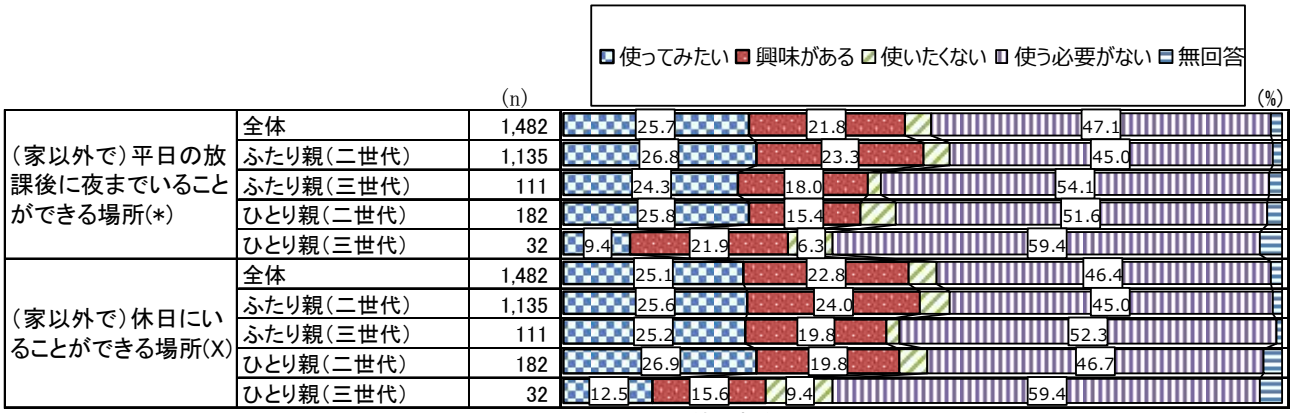
子どもに、「（家以外で）平日の放課後に夜までいることができる場所」と「（家以外で）休日にいることができる場所」の２種の居場所事業について利用意向を聞いた。「（家以外で）平日の放課後に夜までいることができる場所」では、「使ってみたい」が 25.7%、「興味がある」が 21.8%、「使いたくない」が 3.7%、「使う必要がない」が 47.1%であった。「（家以外で）休日にいることができる場所」では、「使ってみたい」が 25.1%、「興味がある」が 22.8%、「使いたくない」が 4.0%、「使う必要がない」が 46.4%であった。なお、生活困難度別・世帯タイプ別には、一貫した傾向は見られなかった。

図表 6-3-10：居場所事業の利用意向：全体、生活困難度別



※5.0%以下は値を省略している

図表 6-3-11：居場所事業の利用意向：全体、世帯タイプ別



※5.0%未満は値を省略している

図表 6-3-12：居場所事業の利用意向：全体、生活困難度別

		該当数	使ってみたい	興味がある	使いたくない	使う必要がない	無回答
（家以外で）平日の放課後に夜までいることができる場所（X）	全体	1,482	381	323	55	698	25
		100.0	25.7	21.8	3.7	47.1	1.7
	困窮層	55	15	12	2	26	0
		100.0	27.3	21.8	3.6	47.3	0.0
	周辺層	97	26	28	6	35	2
		100.0	26.8	28.9	6.2	36.1	2.1
	一般層	838	233	188	30	380	7
		100.0	27.8	22.4	3.6	45.3	0.8
（家以外で）休日にいることができる場所（X）	全体	1,482	372	338	60	687	25
		100.0	25.1	22.8	4.0	46.4	1.7
	困窮層	55	16	10	3	26	0
		100.0	29.1	18.2	5.5	47.3	0.0
	周辺層	97	26	28	7	34	2
		100.0	26.8	28.9	7.2	35.1	2.1
	一般層	838	224	198	31	379	6
		100.0	26.7	23.6	3.7	45.2	0.7

図表 6-3-13：居場所事業の利用意向：全体、世帯タイプ別

		該当数	使ってみたい	興味がある	使いたくない	使う必要がない	無回答
（家以外で）平日の放課後に夜までいることができる場所（＊）	全体	1,482	381	323	55	698	25
		100.0	25.7	21.8	3.7	47.1	1.7
	ふたり親（二世代）	1,135	304	265	40	511	15
		100.0	26.8	23.3	3.5	45.0	1.3
	ふたり親（三世代）	111	27	20	2	60	2
		100.0	24.3	18.0	1.8	54.1	1.8
	ひとり親（二世代）	182	47	28	9	94	4
		100.0	25.8	15.4	4.9	51.6	2.2
	ひとり親（三世代）	32	3	7	2	19	1
		100.0	9.4	21.9	6.3	59.4	3.1
（家以外で）休日にいることができる場所（Ｘ）	全体	1,482	372	338	60	687	25
		100.0	25.1	22.8	4.0	46.4	1.7
	ふたり親（二世代）	1,135	291	272	46	511	15
		100.0	25.6	24.0	4.1	45.0	1.3
	ふたり親（三世代）	111	28	22	2	58	1
		100.0	25.2	19.8	1.8	52.3	0.9
	ひとり親（二世代）	182	49	36	7	85	5
		100.0	26.9	19.8	3.8	46.7	2.7
	ひとり親（三世代）	32	4	5	3	19	1
		100.0	12.5	15.6	9.4	59.4	3.1

４．まとめ

（１）子どもの人間関係

子どもの人間関係では「今通っている学校の友達」を仲の良い友だちとしてあげる割合が最も高い。また、「SNS など ネット上の友達」を挙げる子どもが１割以上存在する（**図表 6-1-1**、**図表 6-1-3**）。

家族との関係については、「家族は私のことを大事に思ってくれている」「もし何か問題があったら、家族は私を助けてくれる」「家族と一緒にいるのは楽しい」「家にいると安心する」「親は私の意見を尊重してくれる」「私のことは、親と私が一緒に決める」について、それぞれ９割前後程度の子どもが「とてもそう思う」「そう思う」「だいたいそう思う」と回答しており、概ね良好な状態にあるが、一部にそう思わない子どもも存在する（**図表 6-1-4**、**図表 6-1-6**）。

他の人との会話の頻度としては、「よく話す」と回答した割合が高いのは「友人」や「親」であった。また、「SNS を通じて知り合った人」と「よく話す」割合が 8.4%、「時々話す」割合が 11.1%、合わせて２割弱にのぼる。一方で、「スクールカウンセラー・スクール（ユース）ソーシャルワーカー」「児童館職員」「青少年交流センター職員」「子ども食堂や無料学習支援事業の人」については、「よく話す」と「時々話す」を合わせてそれぞれ 3.0%、1.3%、1.7%、0.9%と、このような相談資源を活用している割合は低かった（**図表 6-1-8**、**図表 6-1-10**）。

相談相手については、困った時・悩んでいることがある時、そのことを誰にも話さない子どもが２割弱存在した（**図表 6-1-12**、**図表 6-1-14**）。また、困りごとや悩みを相談する相手としては、「よく話す」相手と同様、「友人」や「親」が多かった。また、「SNS を通じて知り合った人」に相談する子どもが１割弱存在した。一方で、「スクールカウンセラー・スクール（ユース）ソーシャルワーカー」に相談する割合は困った時・悩んでいることがある時に誰かに相談する子どものうちの3.0%、「児童館職員」は0.2%、「青少年交流センター職員」は0.3%、「子ども食堂や無料学習支援事業の人」は 0.2%と、「よく話す」相手と同様にごく僅かであった（**図表 6-1-15**、**図表 6-1-17**）。

相談事業については、困った時やつらい時に無料で電話やメールを通じて相談できる「せたホッと」を利用したことがある割合は 2.8%であった。一方で、そもそも「せたホッと」について「利用の仕方が分からなかった」割合が 3.6%、「これについて全く知らなかった」割合が 23.7%であった（**図表 6-1-18**、**図表 6-1-20**）。利用意向がある子どもは 27.1%存在していることも踏まえると（**図表 6-1-21**、**図表 6-1-23**）、事業の周知が課題である可能性がある。また、「（学校以外で）進路や勉強、家族のことなどなんでも気軽に相談できる場所」については、「使ってみたい」「興味がある」を合わせて５割弱にのぼっており、一定のニーズが存在することが分かる（**図表 6-1-24**、**図表 6-1-26**）。

（２）逆境体験

子どもの逆境体験としては、「両親が、別居または離婚をしたことが一度でもある」割合は 8.0%と約 13 人に１人、「一緒に住んでいる大人から、押される、つかまれる、たたかれる、物を投げつけられるといったことがよくある。または、けがするほど強くなぐられたことが一度でもある。」割合は 5.4%と約 19 人に 1 人、「一緒に住んでいる大人から、あなたの悪口を言い立てられる、けなされる、恥をかかされる、または、身体を傷つけられる危険を感じるようなふるまいをされたことがよくある。」割合は 5.1%と約 20 人に 1 人、「一緒に住んでいる人に、うつ病やその他の心の病気の人、または自殺しようとした人がいた。」割合は 4.1%と約 24 人に 1 人存在した。一方で、逆境体験をしたことがないと回答した割合は 68.8%であった。

特に、困窮層では逆境体験をした割合が高かった。「両親が、別居または離婚をしたことが一度でもある」割合は 36.4%と約 3 人に 1 人、「一緒に住んでいる人に、うつ病やその他の心の病気の人、または自殺しようとした人がいた。」割合は 12.7%と約 8 人に 1 人、「一緒に住んでいる大人から、あなたの悪口を言い立てられる、けなされる、恥をかかされる、または、身体を傷つけられる危険を感じるようなふるまいをされたことがよくある。」割合は 10.9%と約９人に 1 人、「一緒に住んでいる大人から、押される、つかまれる、たたかれる、物を投げつけられるといったことがよくある。ま

たは、けがするほど強くなぐられたことが一度でもある。」割合は 9.1%と約 11 人に 1 人存在した。また、困窮層のうち、逆境体験をしたことがないと回答した割合は困窮層のうち 34.5%にとどまった（**図表 6-2-1**、**図表 6-2-3**）。

（３）部活動・居場所事業

部活動の状況については、参加している割合が 76.2%、参加していない割合が 22.0%であった（**図表 6-3-1**、**図表 6-3-3**）。参加していない理由としては、「入りたい部（クラブ）がないから」（60.3%）が多い状況にあった（**図表 6-3-4**、**図表 6-3-6**）。

居場所事業については、「（家以外で）平日の放課後に夜までいることができる場所」は 47.5%が、「（家以外で）休日にいることができる場所」は 47.9%が「使ってみたい」「興味がある」と回答しており、一定のニーズが確認できた（**図表 6-3-10**、**図表 6-3-12**）。

第７章　子どもの仕事

１．子どもの就労状況

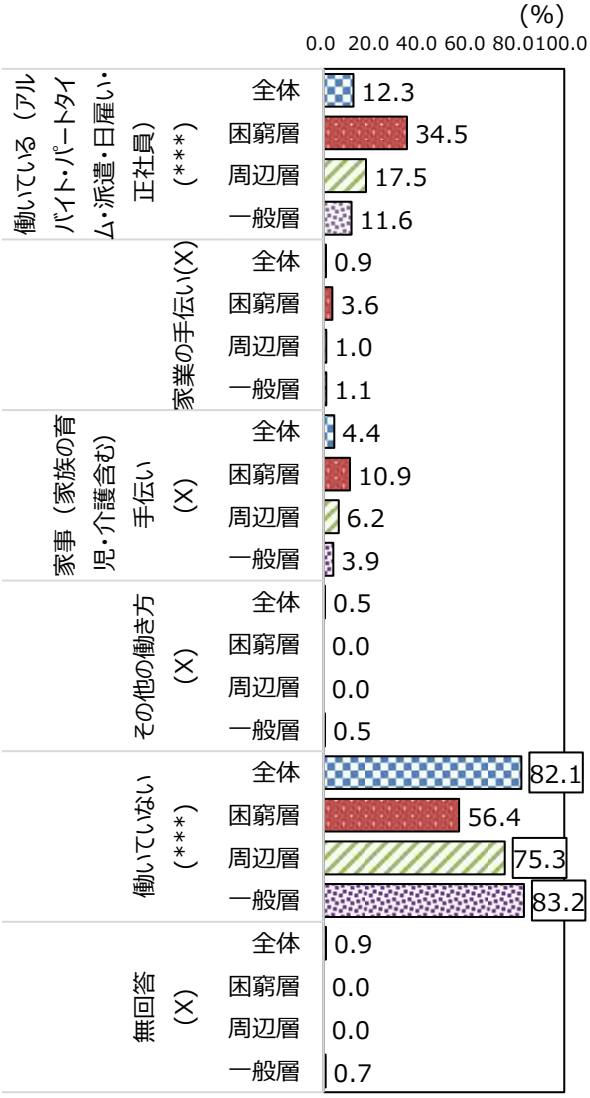
（１）就労状況

子どもに、自身の就労状況について聞いた。その結果、「働いている（アルバイト・パートタイム・派遣・日雇い・正社員）」が 12.3%、「家事の手伝い」が 0.9%、「家事（家族の育児・介護含む）手伝い」が 4.4%、「その他の働き方」が 0.5%、「働いていない」が 82.1%であった。

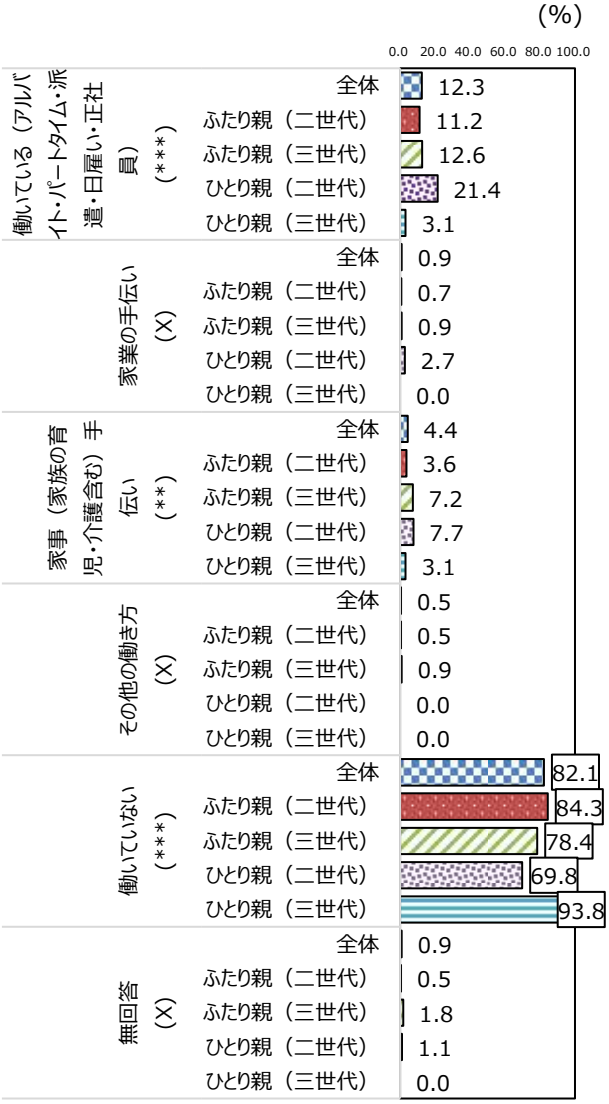
生活困難度別に見ると、「働いている（アルバイト・パートタイム・派遣・日雇い・正社員）」と「働いていない」にて統計的に有意な差が確認され、「働いている（アルバイト・パートタイム・派遣・日雇い・正社員）」と回答した割合は、一般層では 11.6%であったのに対し、困窮層では 34.5%にのぼる。また、「働いていない」と回答した割合は、一般層では 83.2%であったのに対し、困窮層では 56.4%にとどまる。すなわち、生活困難度が高いほど就労している割合が高い傾向が見られる。

世帯タイプ別に見ると、「働いている（アルバイト・パートタイム・派遣・日雇い・正社員）」と「働いていない」にて統計的に有意な差が確認され、ひとり親（二世代）世帯にて「働いている（アルバイト・パートタイム・派遣・日雇い・正社員）」と回答した割合は 21.4%にのぼり、また、「働いていない」と回答した割合は 69.8%にとどまる。すなわち、ひとり親（二世代）世帯にて就労している割合が高い傾向が見られる。

図表 7-1-1：就労状況：全体、生活困難度別



図表 7-1-2：就労状況：全体、世帯タイプ別



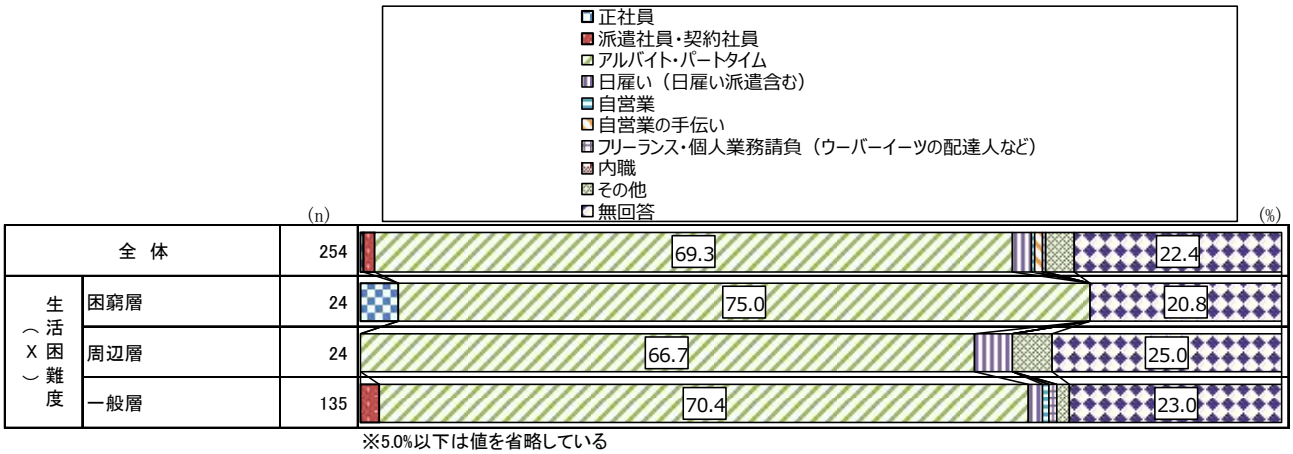
図表 7-1-3：就労状況：全体、生活困難度別･世帯タイプ別

		該当数	働いている（アルバイト・パートタイム・派遣・日雇い・正社員）	家業の手伝い	家事（家族の育児・介護含む）手伝い	その他の働き方	働いていない	無回答
全 体		1,482	183	14	65	7	1,217	13
		100.0	12.3	0.9	4.4	0.5	82.1	0.9
生活困難度	困窮層	55	19	2	6	0	31	0
		100.0	34.5	3.6	10.9	0.0	56.4	0.0
	周辺層	97	17	1	6	0	73	0
		100.0	17.5	1.0	6.2	0.0	75.3	0.0
	一般層	838	97	9	33	4	697	6
		100.0	11.6	1.1	3.9	0.5	83.2	0.7
世帯タイプ	ふたり親（二世代）	1,135	127	8	41	6	957	6
		100.0	11.2	0.7	3.6	0.5	84.3	0.5
	ふたり親（三世代）	111	14	1	8	1	87	2
		100.0	12.6	0.9	7.2	0.9	78.4	1.8
	ひとり親（二世代）	182	39	5	14	0	127	2
		100.0	21.4	2.7	7.7	0.0	69.8	1.1
	ひとり親（三世代）	32	1	0	1	0	30	0
		100.0	3.1	0.0	3.1	0.0	93.8	0.0

（2）雇用形態

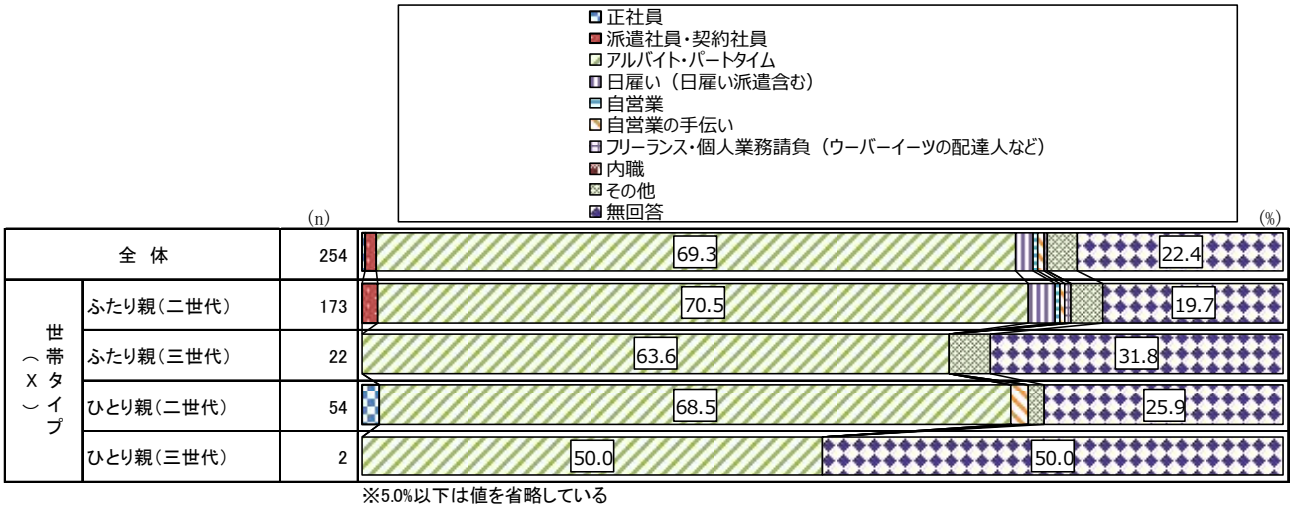
次に、就労している子どもに、雇用形態を聞いた。その結果、「正社員」が 0.4%、「派遣社員・契約社員」が 1.2%、「アルバイト・パートタイム」が 69.3%、「日雇い（日雇い派遣含む）」が 2.0%、「自営業」が 0.4%、「自営業の手伝い」が 0.8%、「フリーランス・個人業務請負（ウーバーイーツの配達人など）」が 0.4%、「内職」が 0.0%、「その他」が 3.1%であり、大多数は「アルバイト・パートタイム」であった。なお、生活困難度別・世帯タイプ別には、特に統計的に有意な差は確認されなかった。

図表 7-1-4：雇用形態：全体、生活困難度別(X)



※5.0%以下は値を省略している

図表 7-1-5：雇用形態：全体、世帯タイプ別(X)



※5.0%以下は値を省略している

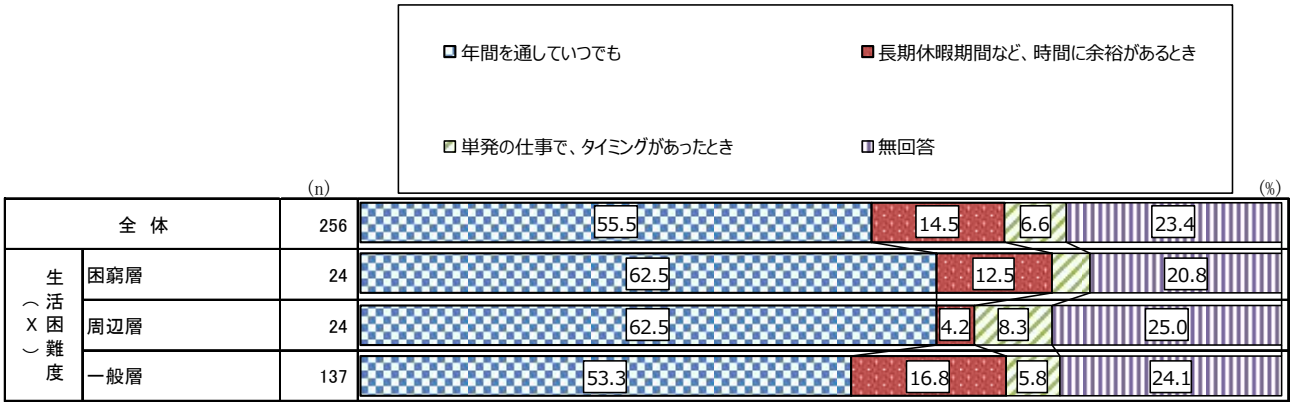
図表 7-1-6：雇用形態：全体、生活困難度別(X)、世帯タイプ別(X)

		該当数	正社員	派遣社員・契約社員	アルバイト・パートタイム	日雇い（日雇い派遣含む）	自営業	自営業の手伝い	フリーランス・個人業務請負（ウーバーイーツの配達人など）	内職	その他	無回答
全 体		254	1	3	176	5	1	2	1	0	8	57
		100.0	0.4	1.2	69.3	2.0	0.4	0.8	0.4	0.0	3.1	22.4
生活困難度（X）	困窮層	24	1	0	18	0	0	0	0	0	0	5
		100.0	4.2	0.0	75.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.8
	周辺層	24	0	0	16	1	0	0	0	0	1	6
		100.0	0.0	0.0	66.7	4.2	0.0	0.0	0.0	0.0	4.2	25.0
	一般層	135	0	3	95	2	1	0	1	0	2	31
		100.0	0.0	2.2	70.4	1.5	0.7	0.0	0.7	0.0	1.5	23.0
世帯タイプ（X）	ふたり親（二世代）	173	0	3	122	5	1	1	1	0	6	34
		100.0	0.0	1.7	70.5	2.9	0.6	0.6	0.6	0.0	3.5	19.7
	ふたり親（三世代）	22	0	0	14	0	0	0	0	0	1	7
		100.0	0.0	0.0	63.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.5	31.8
	ひとり親（二世代）	54	1	0	37	0	0	1	0	0	1	14
		100.0	1.9	0.0	68.5	0.0	0.0	1.9	0.0	0.0	1.9	25.9
	ひとり親（三世代）	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
		100.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0

（３）就労時期・就労日数・就労時間

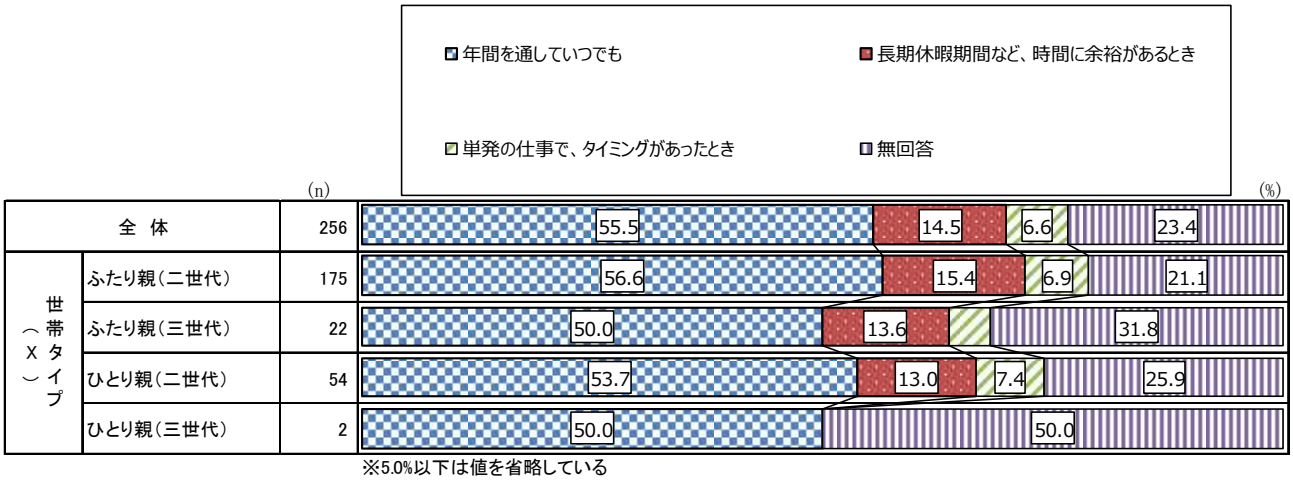
次に、就労している子どもに、就労時期・就労日数・就労時間を聞いた。就労時期については、「年間を通じていつでも」が 55.5%、「長期休暇期間など、時間に余裕があるとき」が 14.5%、「単発の仕事で、タイミングがあったとき」が 6.6%、「無回答」が 23.4%であった。なお、生活困難度別・世帯タイプ別に統計的に有意な差は確認されなかった。

図表 7-1-7：就労時期：全体、生活困難度別(X)



※5.0%以下は値を省略している

図表 7-1-8：就労時期：全体、世帯タイプ別(X)



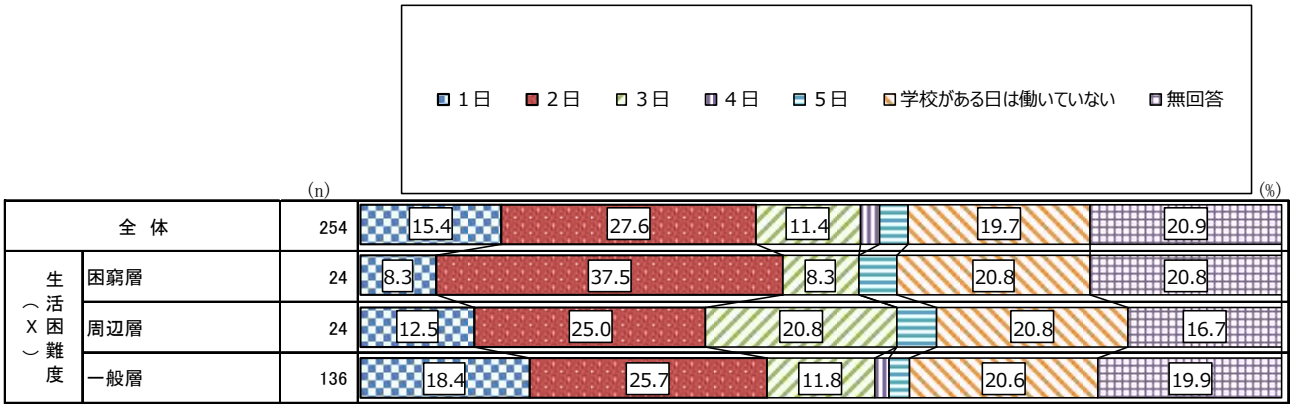
※5.0%以下は値を省略している

図表 7-1-9：就労時期：全体、生活困難度別(X)、世帯タイプ別(X)

		該当数	年間を通していつでも	長期休暇期間など、時間に余裕があるとき	単発の仕事で、タイミングがあったとき	無回答
全 体		256 100.0	142 55.5	37 14.5	17 6.6	60 23.4
生活困難度（X）	困窮層	24 100.0	15 62.5	3 12.5	1 4.2	5 20.8
	周辺層	24 100.0	15 62.5	1 4.2	2 8.3	6 25.0
	一般層	137 100.0	73 53.3	23 16.8	8 5.8	33 24.1
世帯タイプ（X）	ふたり親（二世代）	175 100.0	99 56.6	27 15.4	12 6.9	37 21.1
	ふたり親（三世代）	22 100.0	11 50.0	3 13.6	1 4.5	7 31.8
	ひとり親（二世代）	54 100.0	29 53.7	7 13.0	4 7.4	14 25.9
	ひとり親（三世代）	2 100.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0

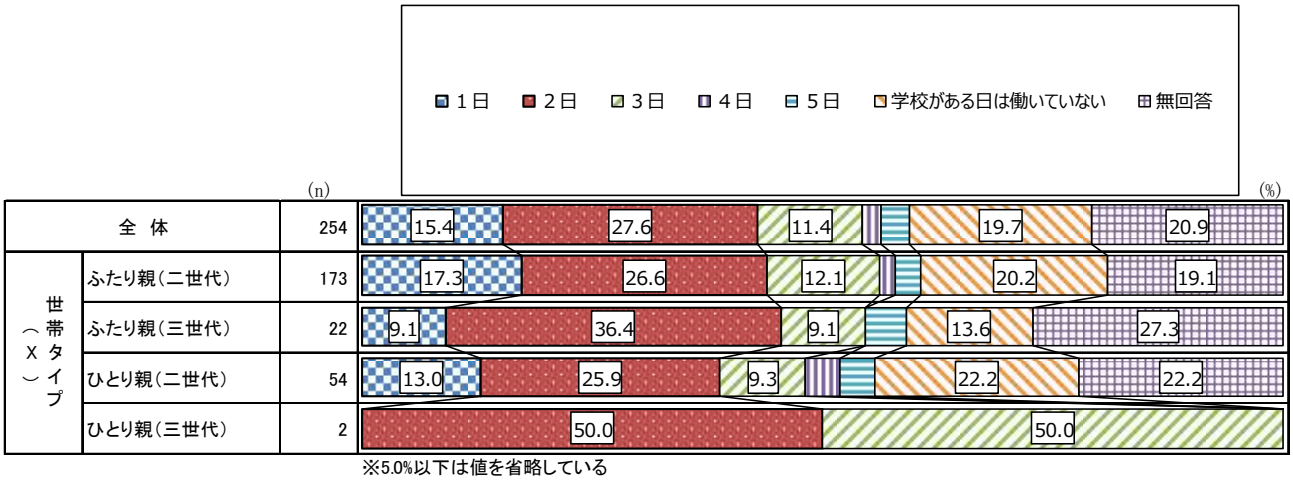
就労日数・就労時間については、平日と休日に分けて聞いた。まず、平日の就労日数について聞いたところ、「１日」が 15.4%、「２日」が 27.6%、「３日」が 11.4%、「４日」が 2.0%、「５日」が 3.1%、「学校がある日は働いていない」が 19.7%、「無回答」が 20.9%であった。なお、生活困難度別・世帯タイプ別に統計的に有意な差は確認されなかった。

図表 7-1-10：平日の就労日数：全体、生活困難度別(X)



※5.0%以下は値を省略している

図表 7-1-11：平日の就労日数：全体、世帯タイプ別(X)



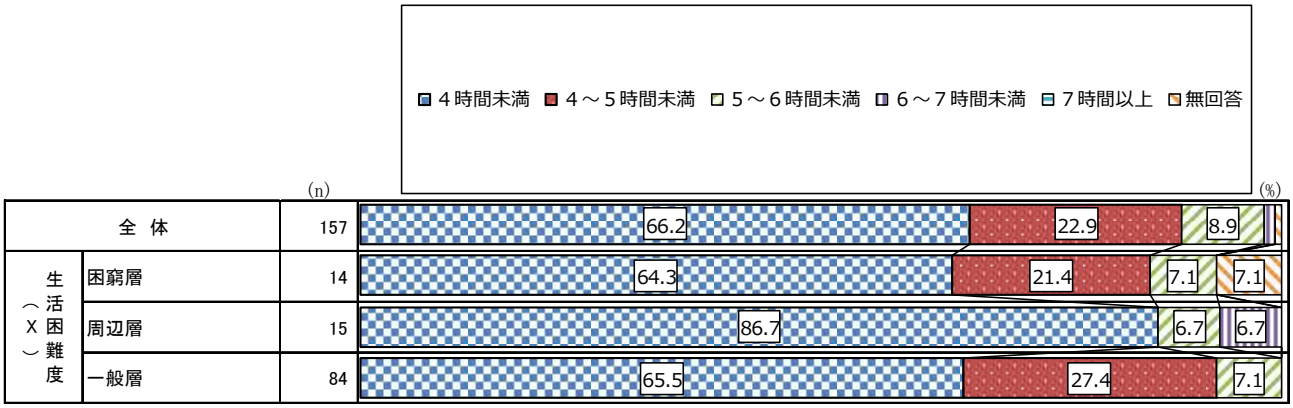
※5.0%以下は値を省略している

図表 7-1-12：平日の就労日数：全体、生活困難度別(X)、世帯タイプ別(X)

		該当数	1日	2日	3日	4日	5日	学校がある日は働いていない	無回答
全体		254	39	70	29	5	8	50	53
		100.0	15.4	27.6	11.4	2.0	3.1	19.7	20.9
生活困難度（X）	困窮層	24	2	9	2	0	1	5	5
		100.0	8.3	37.5	8.3	0.0	4.2	20.8	20.8
	周辺層	24	3	6	5	0	1	5	4
		100.0	12.5	25.0	20.8	0.0	4.2	20.8	16.7
	一般層	136	25	35	16	2	3	28	27
		100.0	18.4	25.7	11.8	1.5	2.2	20.6	19.9
世帯タイプ（X）	ふたり親（二世代）	173	30	46	21	3	5	35	33
		100.0	17.3	26.6	12.1	1.7	2.9	20.2	19.1
	ふたり親（三世代）	22	2	8	2	0	1	3	6
		100.0	9.1	36.4	9.1	0.0	4.5	13.6	27.3
	ひとり親（二世代）	54	7	14	5	2	2	12	12
		100.0	13.0	25.9	9.3	3.7	3.7	22.2	22.2
	ひとり親（三世代）	2	0	1	1	0	0	0	0
		100.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0

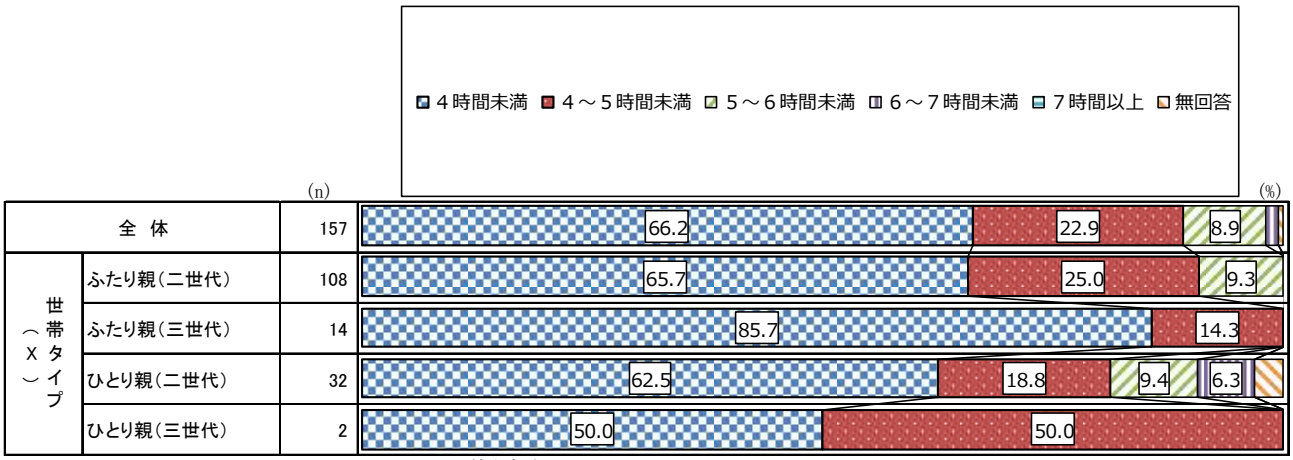
平日の１日あたりの就労時間について聞いたところ、「４時間未満」が 66.2%、「４～５時間未満」が 22.9%、「５～６時間未満」が 8.9%、「６～７時間未満」が 1.3%、「７時間以上」が 0.0%であった。なお、生活困難度別・世帯タイプ別に統計的に有意な差は確認されなかった。

図表 7-1-13：平日の就労時間：全体、生活困難度別(X)



※5.0%以下は値を省略している

図表 7-1-14：平日の就労時間：全体、世帯タイプ別(X)



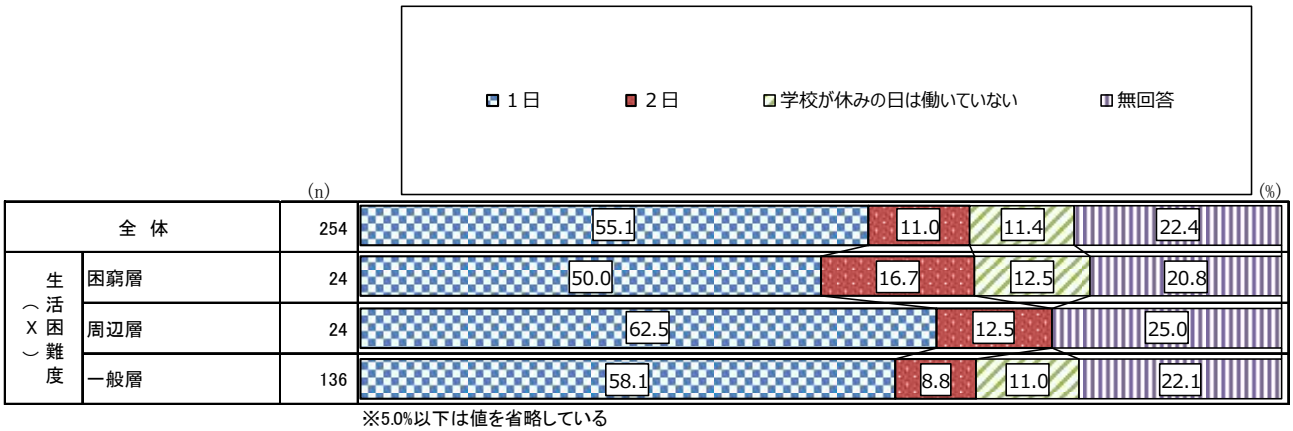
※5.0%以下は値を省略している

図表 7-1-15：平日の就労時間：全体、生活困難度別(X)、世帯タイプ別(X)

		該当数	4時間未満	4～5時間未満	5～6時間未満	6～7時間未満	7時間以上	無回答
全体		157	104	36	14	2	0	1
		100.0	66.2	22.9	8.9	1.3	0.0	0.6
生活困難度（X）	困窮層	14	9	3	1	0	0	1
		100.0	64.3	21.4	7.1	0.0	0.0	7.1
	周辺層	15	13	0	1	1	0	0
		100.0	86.7	0.0	6.7	6.7	0.0	0.0
	一般層	84	55	23	6	0	0	0
		100.0	65.5	27.4	7.1	0.0	0.0	0.0
世帯タイプ（X）	ふたり親（二世代）	108	71	27	10	0	0	0
		100.0	65.7	25.0	9.3	0.0	0.0	0.0
	ふたり親（三世代）	14	12	2	0	0	0	0
		100.0	85.7	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	ひとり親（二世代）	32	20	6	3	2	0	1
		100.0	62.5	18.8	9.4	6.3	0.0	3.1
	ひとり親（三世代）	2	1	1	0	0	0	0
		100.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0

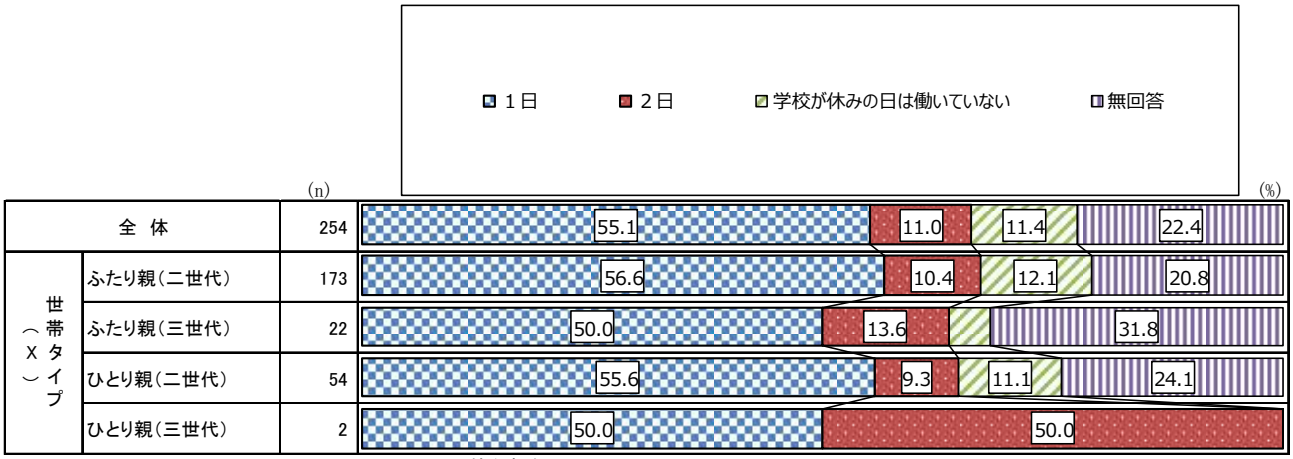
休日の就労日数について聞いたところ、「１日」が 66.2%、「２日」が 22.9%、「学校が休みの日は働いていない」が 8.9%であった。なお、生活困難度別・世帯タイプ別に統計的に有意な差は確認されなかった。

図表 7-1-16：休日の就労日数：全体、生活困難度別(X)



※5.0%以下は値を省略している

図表 7-1-17：休日の就労日数：全体、世帯タイプ別(X)



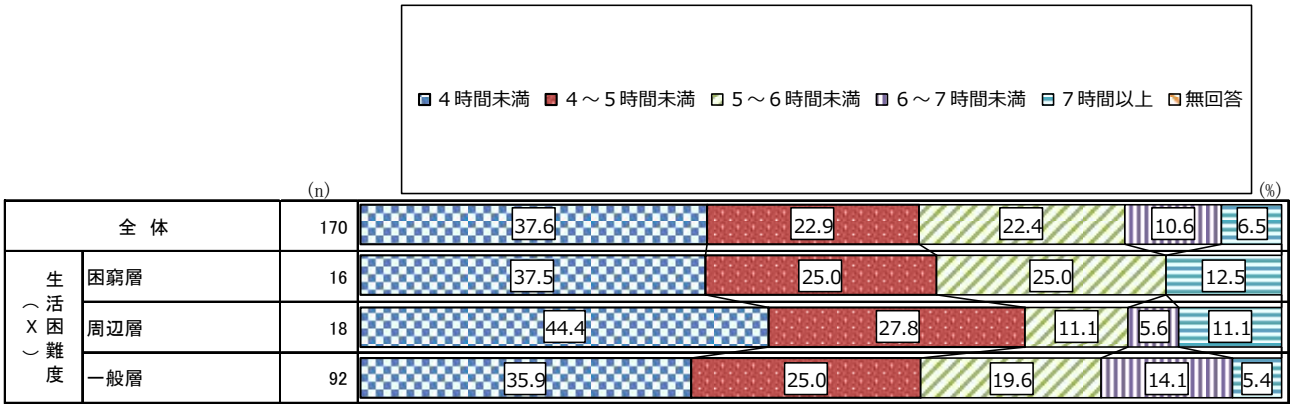
※5.0%以下は値を省略している

図表 7-1-18：休日の就労日数：全体、生活困難度別(X)、世帯タイプ別(X)

		該当数	1日	2日	学校が休みの日は働いていない	無回答
全体		254 100.0	140 55.1	28 11.0	29 11.4	57 22.4
生活困難度（X）	困窮層	24 100.0	12 50.0	4 16.7	3 12.5	5 20.8
	周辺層	24 100.0	15 62.5	3 12.5	0 0.0	6 25.0
	一般層	136 100.0	79 58.1	12 8.8	15 11.0	30 22.1
世帯タイプ（X）	ふたり親（二世代）	173 100.0	98 56.6	18 10.4	21 12.1	36 20.8
	ふたり親（三世代）	22 100.0	11 50.0	3 13.6	1 4.5	7 31.8
	ひとり親（二世代）	54 100.0	30 55.6	5 9.3	6 11.1	13 24.1
	ひとり親（三世代）	2 100.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0

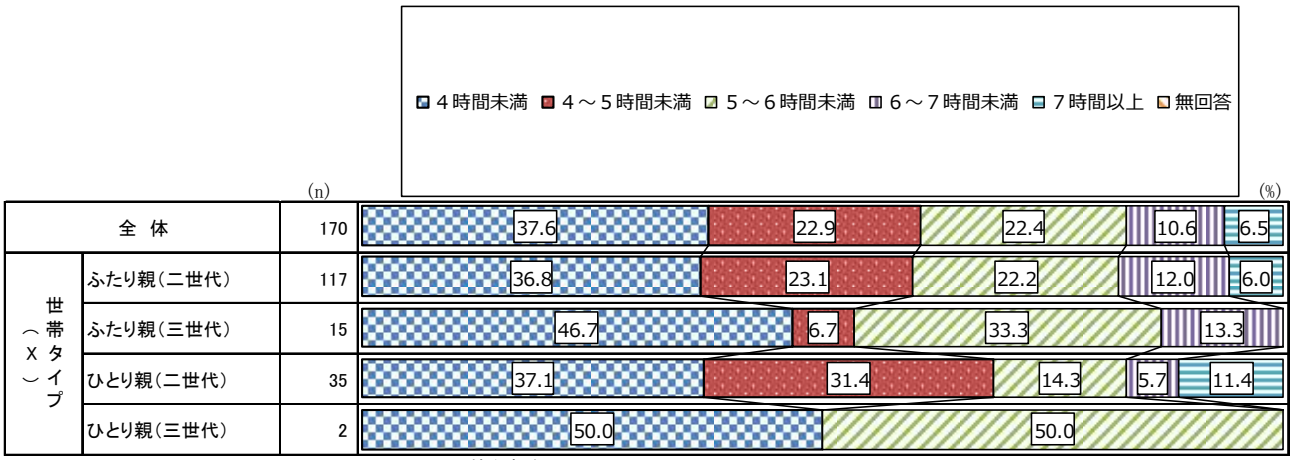
休日の１日あたりの就労時間について聞いたところ、「４時間未満」が 37.6%、「４～５時間未満」が 22.9%、「５～６時間未満」が 22.4%、「６～７時間未満」が 10.6%、「７時間以上」が 6.5%であった。なお、生活困難度別・世帯タイプ別に統計的に有意な差は確認されなかった。

図表 7-1-19：休日の就労時間：全体、生活困難度別(X)



※5.0%以下は値を省略している

図表 7-1-20：休日の就労時間：全体、世帯タイプ別(X)



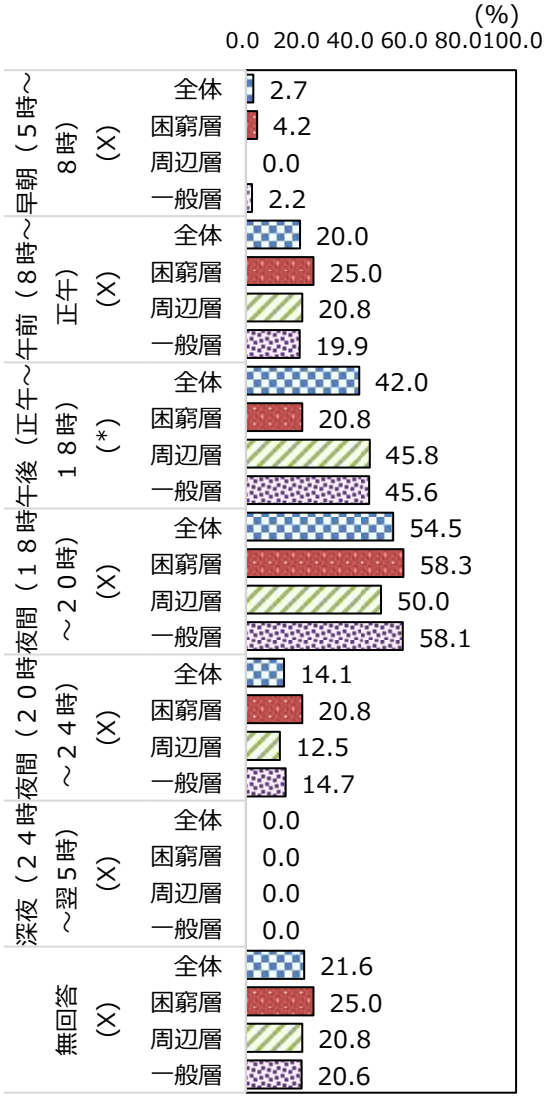
※5.0%以下は値を省略している

図表 7-1-21：休日の就労時間：全体、生活困難度別(X)、世帯タイプ別(X)

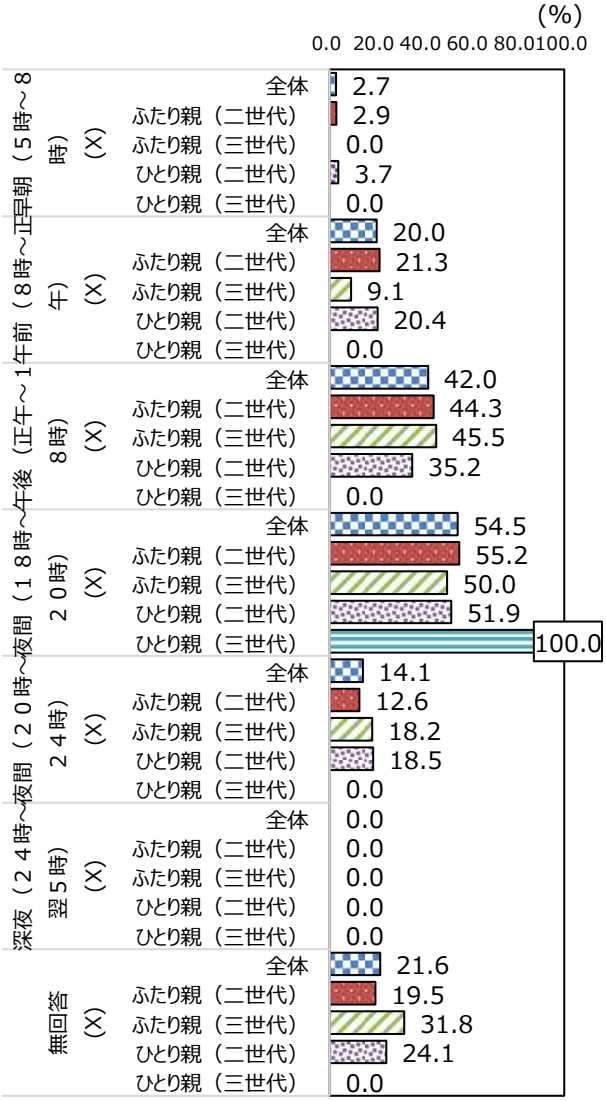
		該当数	4時間未満	4～5時間未満	5～6時間未満	6～7時間未満	7時間以上	無回答
全体		170 100.0	64 37.6	39 22.9	38 22.4	18 10.6	11 6.5	0 0.0
生活困難度（X）	困窮層	16 100.0	6 37.5	4 25.0	4 25.0	0 0.0	2 12.5	0 0.0
	周辺層	18 100.0	8 44.4	5 27.8	2 11.1	1 5.6	2 11.1	0 0.0
	一般層	92 100.0	33 35.9	23 25.0	18 19.6	13 14.1	5 5.4	0 0.0
世帯タイプ（X）	ふたり親（二世代）	117 100.0	43 36.8	27 23.1	26 22.2	14 12.0	7 6.0	0 0.0
	ふたり親（三世代）	15 100.0	7 46.7	1 6.7	5 33.3	2 13.3	0 0.0	0 0.0
	ひとり親（二世代）	35 100.0	13 37.1	11 31.4	5 14.3	2 5.7	4 11.4	0 0.0
	ひとり親（三世代）	2 100.0	1 50.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

ふだん勤務する時間帯についても聞いたところ、「早朝（６時～８時）」が 2.7%、「午前（８時～正午）」が 20.0%、「午後（正午～18 時）」が 42.0%、「夜間（18 時～20 時）」が 54.5%、「夜間（20 時～24 時）」が 14.1%、「深夜（24 時～翌５時）」が 0.0%であった。なお、生活困難度別・世帯タイプ別に統計的に有意な差は確認されなかった。

図表 7-1-22：ふだん勤務する時間帯：全体、生活困難度別



図表 7-1-23：ふだん勤務する時間帯：全体、世帯タイプ別



図表 7-1-24：ふだん勤務する時間帯：全体、生活困難度別、世帯タイプ別

		該当数	早朝（5時～8時）	午前（8時～正午）	午後（正午～18時）	夜間（18時～20時）	夜間（20時～24時）	深夜（24時～翌5時）	無回答
全体		255	7	51	107	139	36	0	55
		100.0	2.7	20.0	42.0	54.5	14.1	0.0	21.6
生活困難度	困窮層	24	1	6	5	14	5	0	6
		100.0	4.2	25.0	20.8	58.3	20.8	0.0	25.0
	周辺層	24	0	5	11	12	3	0	5
		100.0	0.0	20.8	45.8	50.0	12.5	0.0	20.8
	一般層	136	3	27	62	79	20	0	28
		100.0	2.2	19.9	45.6	58.1	14.7	0.0	20.6
世帯タイプ	ふたり親（二世代）	174	5	37	77	96	22	0	34
		100.0	2.9	21.3	44.3	55.2	12.6	0.0	19.5
	ふたり親（三世代）	22	0	2	10	11	4	0	7
		100.0	0.0	9.1	45.5	50.0	18.2	0.0	31.8
	ひとり親（二世代）	54	2	11	19	28	10	0	13
		100.0	3.7	20.4	35.2	51.9	18.5	0.0	24.1
	ひとり親（三世代）	2	0	0	0	2	0	0	0
		100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0

（４）収入と使途

次に、就労している子どもに、収入額とその使途を聞いた。収入額については、回答者全体の平均が 3.6 万円であった。また、そのうち家族に渡す生活費の額は 855 円であったが、これは多くの回答者が「０円」と回答したためであり、中には、家族に渡す生活費が 60,000 円にのぼる回答者も存在した。

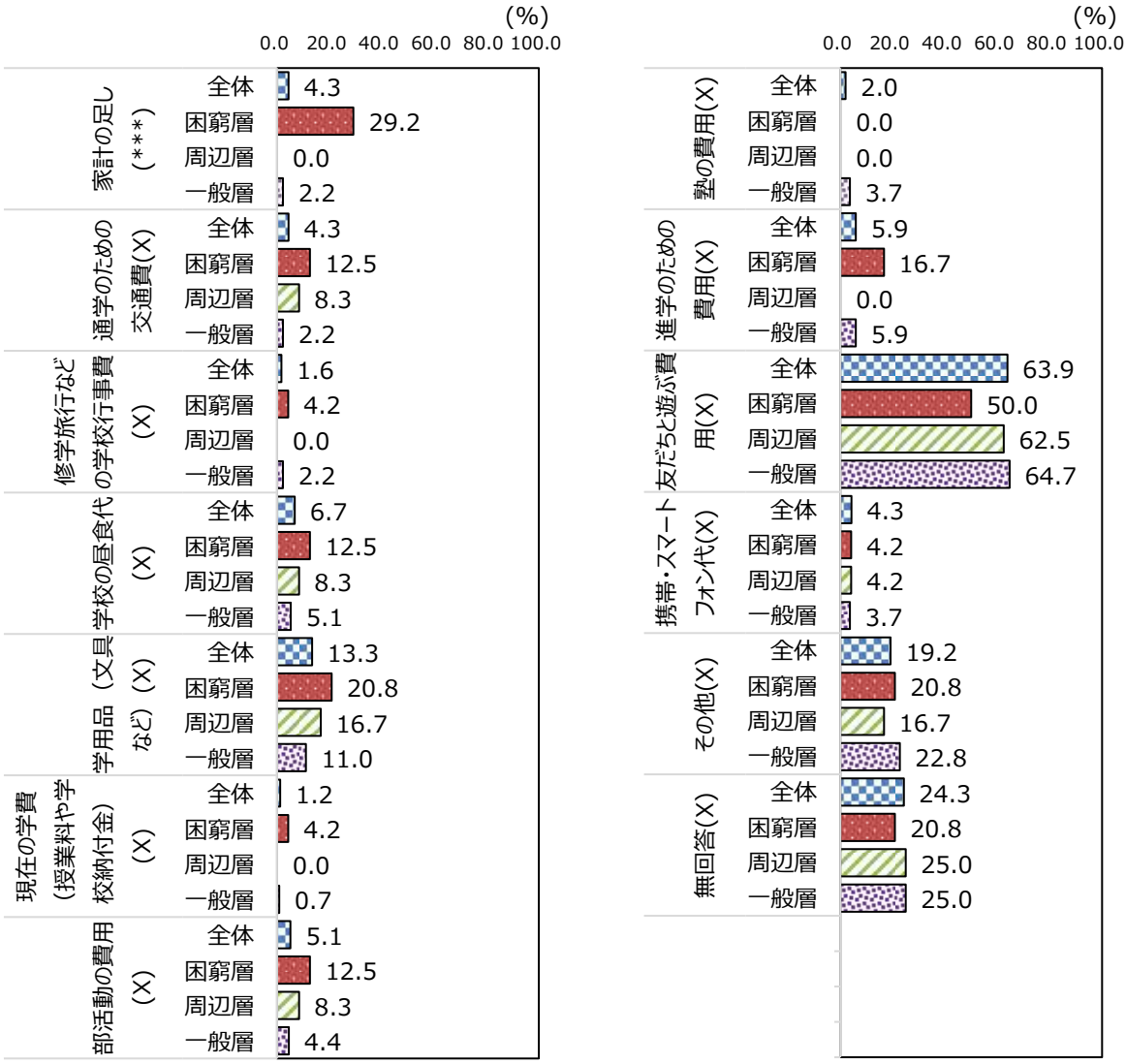
次に、収入の使途について聞いたところ、「家計の足し」が 4.3%、「進学のための交通費」が 4.3%、「修学旅行などの学校行事費」が 1.6%、「学校の昼食代」が 6.7%、「学用品（文具など）」が 13.3%、「現在の学費（授業料や学校給付金）」が 1.2%、「部活動の費用」が 5.1%、「塾の費用」が 2.0%、「進学のための費用」が 5.9%、「友だちと遊ぶ費用」が 63.9%、「携帯・スマートフォン代」が 4.3%、「その他」が 19.2%であった。

n 値が小さいためあくまでも参考だが、生活困難度別・世帯タイプ別に見ると、「家計の足し」が一般層では 2.2%であったのに対し困窮層では 29.2%、ふたり親（二世代）世帯では 1.7%、ふたり親（三世代）世帯では 0.0%であったのに対し、ひとり親（二世代）世帯では 13.0%、ひとり親（三世代）世帯では 50.0%と、困窮層やひとり親世帯で高い割合で収入を「家計の足し」にしていることが分かる。

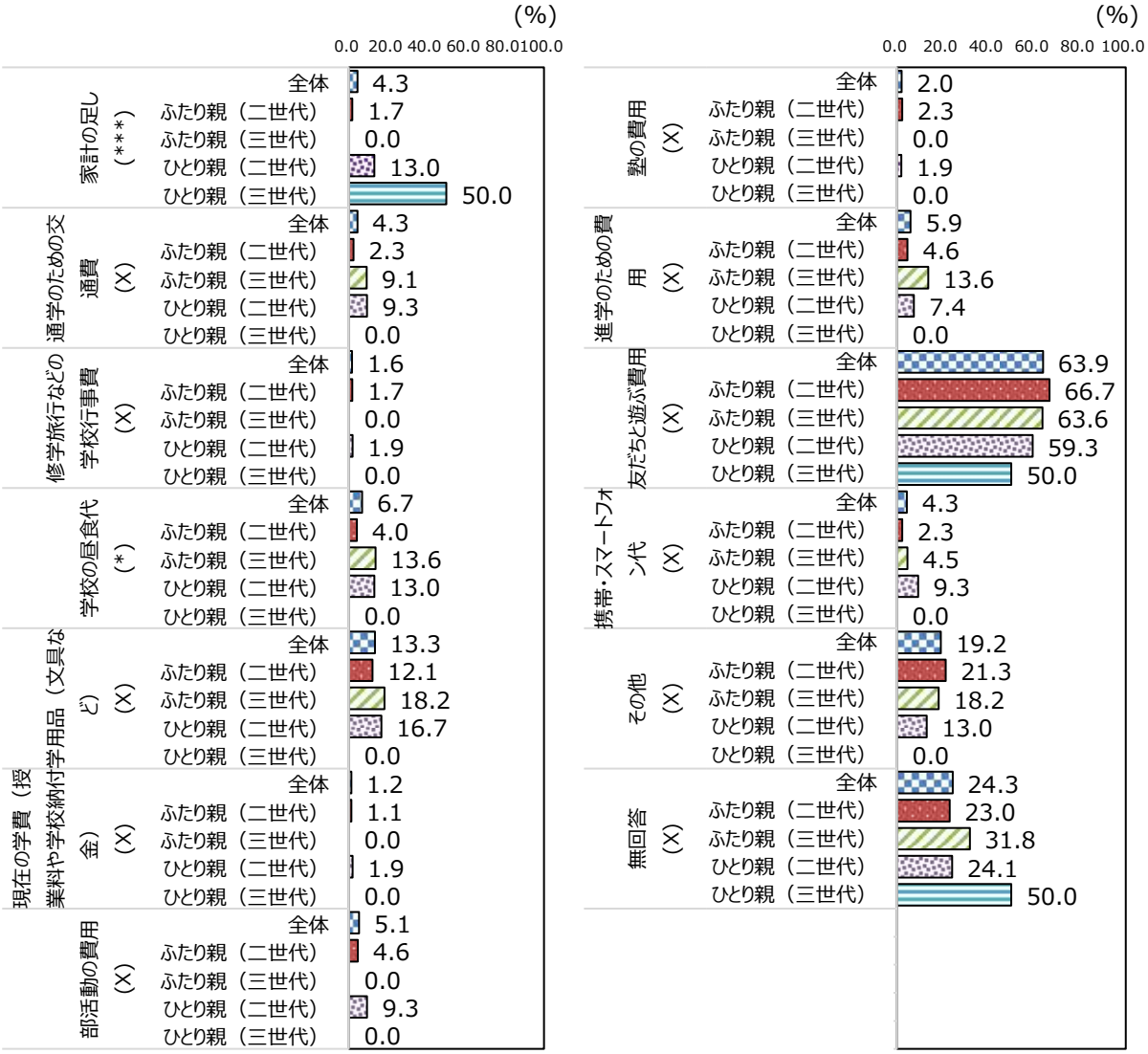
図表 7-1-25：収入額（平均）・家族に渡す生活費の額（平均）

収入額	3.6 万円
家族に渡す生活費の額	855 円

図表 7-1-26：収入の使途：全体、生活困難度別



図表 7-1-27：収入の使途：全体、世帯タイプ別



図表 7-1-28：収入の使途：全体、生活困難度別、世帯タイプ別

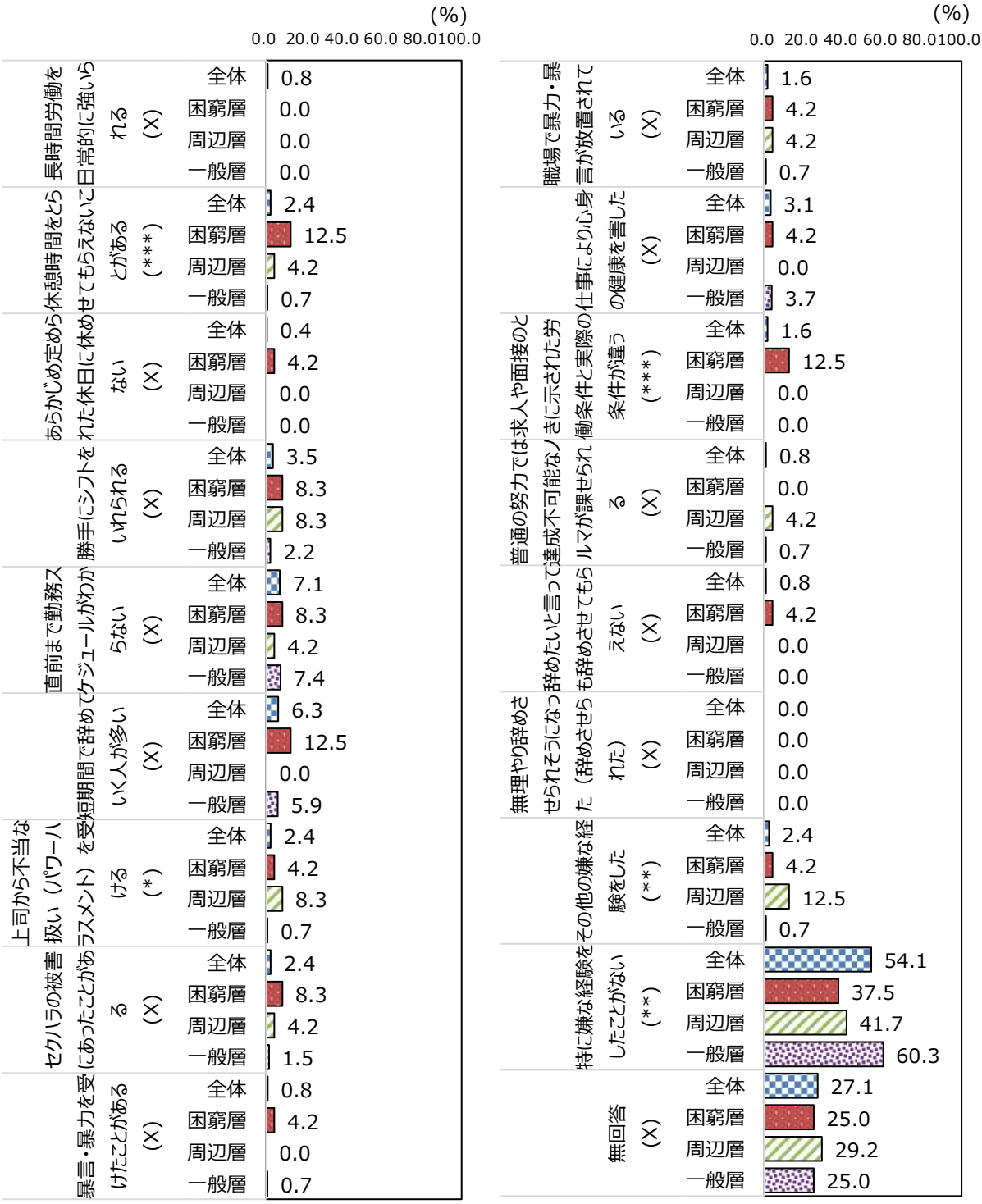
		該当数	家計の足し	通学のための交通費	修学旅行などの学校行事費	学校の昼食代	学用品（文具など）	現在の学費（授業料や学校納付金）	部活動の費用	塾の費用	進学のための費用	友だちと遊ぶ費用	携帯・スマートフォン代	その他	無回答
全 体		255	11	11	4	17	34	3	13	5	15	163	11	49	62
		100.0	4.3	4.3	1.6	6.7	13.3	1.2	5.1	2.0	5.9	63.9	4.3	19.2	24.3
生活困難度	困窮層	24	7	3	1	3	5	1	3	0	4	12	1	5	5
		100.0	29.2	12.5	4.2	12.5	20.8	4.2	12.5	0.0	16.7	50.0	4.2	20.8	20.8
	周辺層	24	0	2	0	2	4	0	2	0	0	15	1	4	6
		100.0	0.0	8.3	0.0	8.3	16.7	0.0	8.3	0.0	0.0	62.5	4.2	16.7	25.0
	一般層	136	3	3	3	7	15	1	6	5	8	88	5	31	34
		100.0	2.2	2.2	2.2	5.1	11.0	0.7	4.4	3.7	5.9	64.7	3.7	22.8	25.0
世帯タイプ	ふたり親（二世代）	174	3	4	3	7	21	2	8	4	8	116	4	37	40
		100.0	1.7	2.3	1.7	4.0	12.1	1.1	4.6	2.3	4.6	66.7	2.3	21.3	23.0
	ふたり親（三世代）	22	0	2	0	3	4	0	0	0	3	14	1	4	7
		100.0	0.0	9.1	0.0	13.6	18.2	0.0	0.0	0.0	13.6	63.6	4.5	18.2	31.8
	ひとり親（二世代）	54	7	5	1	7	9	1	5	1	4	32	5	7	13
		100.0	13.0	9.3	1.9	13.0	16.7	1.9	9.3	1.9	7.4	59.3	9.3	13.0	24.1
	ひとり親（三世代）	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
		100.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0

２．職場での経験

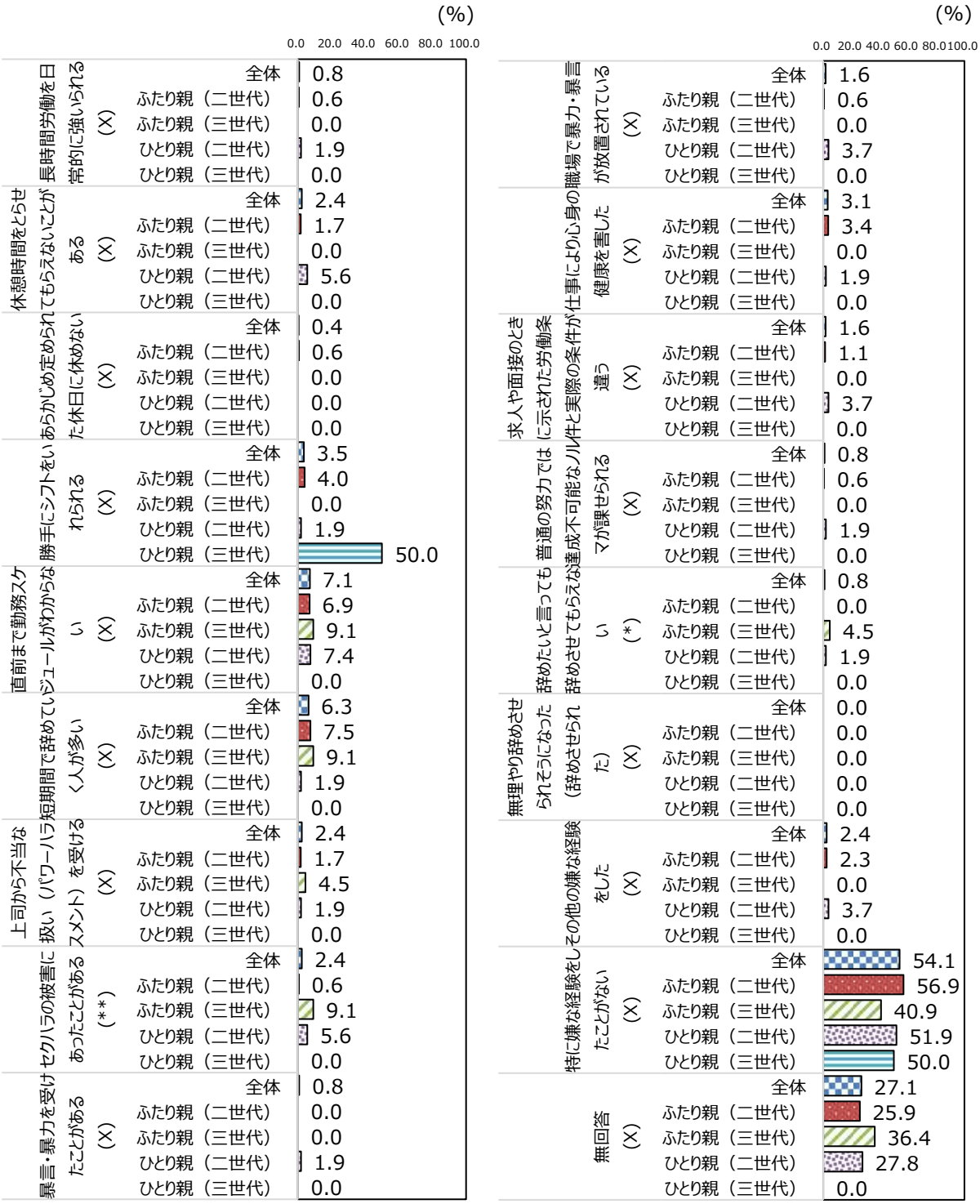
就労している子どもに、職場での問題のある経験について聞いた。その結果、「長時間労働を日常的に強いられる」が 0.8%、「休憩時間をとらせてもらえないことがある」が 2.4%、「あらかじめ定められた休日に休めない」が 0.4%、「勝手にシフトを入れられる」が 3.5%、「直前まで勤務スケジュールがわからない」が 7.1%、「短期間で辞めていく人が多い」が 6.3%、「上司から不当な扱い（パワーハラスメント）を受ける」が 2.4%、「セクハラの被害にあったことがある」が 2.4%、「暴言・暴力を受けたことがある」が 0.8%、「職場で暴力・暴言が放置されている」が 1.6%、「仕事により心身の健康を害した」が 3.1%、「求人や面接のときに示された労働条件と実際の条件が違う」が 1.6%、「普通の労力では達成不可能なノルマが課せられる」が 0.8%、「辞めたいと言っても辞めさせてもらえない」が 0.8%、「無理やり辞めさせられそうになった（辞めさせられた）」が 0.0%、「その他の嫌な体験をした」が 2.4%、「特に嫌な経験をしたことがない」が 54.1%であった。

n 値が小さいためあくまでも参考だが、生活困難度別に見ると、統計的に有意な差が確認されたのは「休憩時間をとらせてもらえないことがある」「上司から不当な扱い（パワーハラスメント）を受ける」「求人や面接のときに示された労働条件と実際の労働条件が違う」「その他の嫌な経験をした」「特に嫌な経験をしたことがない」であった。「休憩時間をとらせてもらえないことがある」が一般層では 0.7%であったのに対し周辺層では 4.2%・困窮層では 12.5%、「上司から不当な扱い（パワーハラスメント）を受ける」が一般層では 0.7%であったのに対し周辺層では 8.3%・困窮層では 4.2%、「求人や面接のときに示された労働条件と実際の労働条件が違う」が一般層・周辺層では 0.0%であったのに対し困窮層では 12.5%、「その他の嫌な経験をした」が一般層では 0.7%であったのに対し周辺層では 12.5%・困窮層では 4.2%と、生活困難層の方が一般層よりも職場での問題のある経験をしている割合が高かった。一方で、「特に嫌な経験をしたことがない」割合は、一般層では 60.3%であったのに対し周辺層では 41.7%・困窮層では 37.5%にとどまった。なお、世帯タイプ別には、一貫した傾向は確認できなかった。

図表 7-2-1：職場での問題のある経験：全体、生活困難度別



図表 7-2-2：職場での問題のある経験：全体、世帯タイプ別



図表 7-2-3：職場での問題のある経験：全体、生活困難度別、世帯タイプ別

		該当数	長時間労働を日常的に強いられる	休憩時間をとらせてもらえないことがある	あらかじめ定められた休日に休めない	勝手にシフトをいれられる	直前まで勤務スケジュールがわからない	短期間で辞めていく人が多い	上司から不当な扱い（パワーハラスメント）を受ける	セクハラの被害にあったことがある	暴言・暴力を受けたことがある	職場で暴力・暴言が放置されている	仕事により心身の健康を害した	求人や面接のときに示された労働条件と実際の条件が違う	普通の努力では達成不可能なノルマが課せられる	辞めたいと言っても辞めさせてもらえない	無理やり辞めさせられそうになった（辞めさせられた）	その他の嫌な経験をした	特に嫌な経験をしたことがない	無回答
全 体		255	2	6	1	9	18	16	6	6	2	4	8	4	2	2	0	6	138	69
		100.0	0.8	2.4	0.4	3.5	7.1	6.3	2.4	2.4	0.8	1.6	3.1	1.6	0.8	0.8	0.0	2.4	54.1	27.1
生活困難度	困窮層	24	0	3	1	2	2	3	1	2	1	1	1	3	0	1	0	1	9	6
		100.0	0.0	12.5	4.2	8.3	8.3	12.5	4.2	8.3	4.2	4.2	4.2	12.5	0.0	4.2	0.0	4.2	37.5	25.0
	周辺層	24	0	1	0	2	1	0	2	1	0	1	0	0	1	0	0	3	10	7
		100.0	0.0	4.2	0.0	8.3	4.2	0.0	8.3	4.2	0.0	4.2	0.0	0.0	4.2	0.0	0.0	12.5	41.7	29.2
	一般層	136	0	1	0	3	10	8	1	2	1	1	5	0	1	0	0	1	82	34
		100.0	0.0	0.7	0.0	2.2	7.4	5.9	0.7	1.5	0.7	0.7	3.7	0.0	0.7	0.0	0.0	0.7	60.3	25.0
世帯タイプ	ふたり親（二世代）	174	1	3	1	7	12	13	3	1	0	1	6	2	1	0	0	4	99	45
		100.0	0.6	1.7	0.6	4.0	6.9	7.5	1.7	0.6	0.0	0.6	3.4	1.1	0.6	0.0	0.0	2.3	56.9	25.9
	ふたり親（三世代）	22	0	0	0	0	2	2	1	2	0	0	0	0	0	1	0	0	9	8
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	9.1	4.5	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.5	0.0	0.0	40.9	36.4
	ひとり親（二世代）	54	1	3	0	1	4	1	1	3	1	2	1	2	1	1	0	2	28	15
		100.0	1.9	5.6	0.0	1.9	7.4	1.9	1.9	5.6	1.9	3.7	1.9	3.7	1.9	1.9	0.0	3.7	51.9	27.8
	ひとり親（三世代）	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
		100.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0

３．まとめ

（１）子どもの就労状況と収入の使途

「働いている（アルバイト・パートタイム・派遣・日雇い・正社員）」割合は 12.3%と、およそ 8 人に 1 人の割合であった（**図表 7-1-1**、**図表 7-1-3**）。雇用形態としては大多数がアルバイトであり（**図表 7-1-4**、**図表 7-1-6**）、多くの子どもは時期を問わず働いていた（**図表 7-1-7**、**図表 7-1-9**）。就労日数については、平日は 2 日程度、土日はどちらか片方のみ働くといった形態が多数である（**図表 7-1-10**、**図表 7-1-12**、**図表 7-1-16**、**図表 7-1-18**）。就労時間については、平日は 4 時間未満が多数であり、休日も 5 時間未満が過半数である（**図表 7-1-13**、**図表 7-1-15**、**図表 7-1-19**、**図表 7-1-21**）。勤務する時間としては、「午後（正午～18 時）」（42.0%）や「夜間（18 時～20 時）」（54.5%）が多いが、「夜間（20 時～24 時）」に働く子どもも 14.1%存在する（**図表 7-1-22**、**図表 7-1-24**）。収入の使途としては、「友だちと遊ぶ費用」が 63.9%と多かった。ただし、n 値が小さいのであくまでも参考値ではあるものの、困窮層では「家計の足し」と答える割合が 3 割弱にのぼっていた（**図表 7-1-26**、**図表 7-1-28**）。

（２）職場での経験

職場での問題のある経験をしたことがないと回答した割合は 54.1%であり、「無回答」を踏まえても、一定数、何らか職場での問題を経験をした子どもが存在することが分かる。特に、「直前まで勤務スケジュールがわからない」は 7.1%と 14 人に 1 人が、「短期間で辞めていく人が多い」は 6.3%と 16 人に 1 人が経験していた（**図表 7-1-29**、**図表 7-1-31**）。

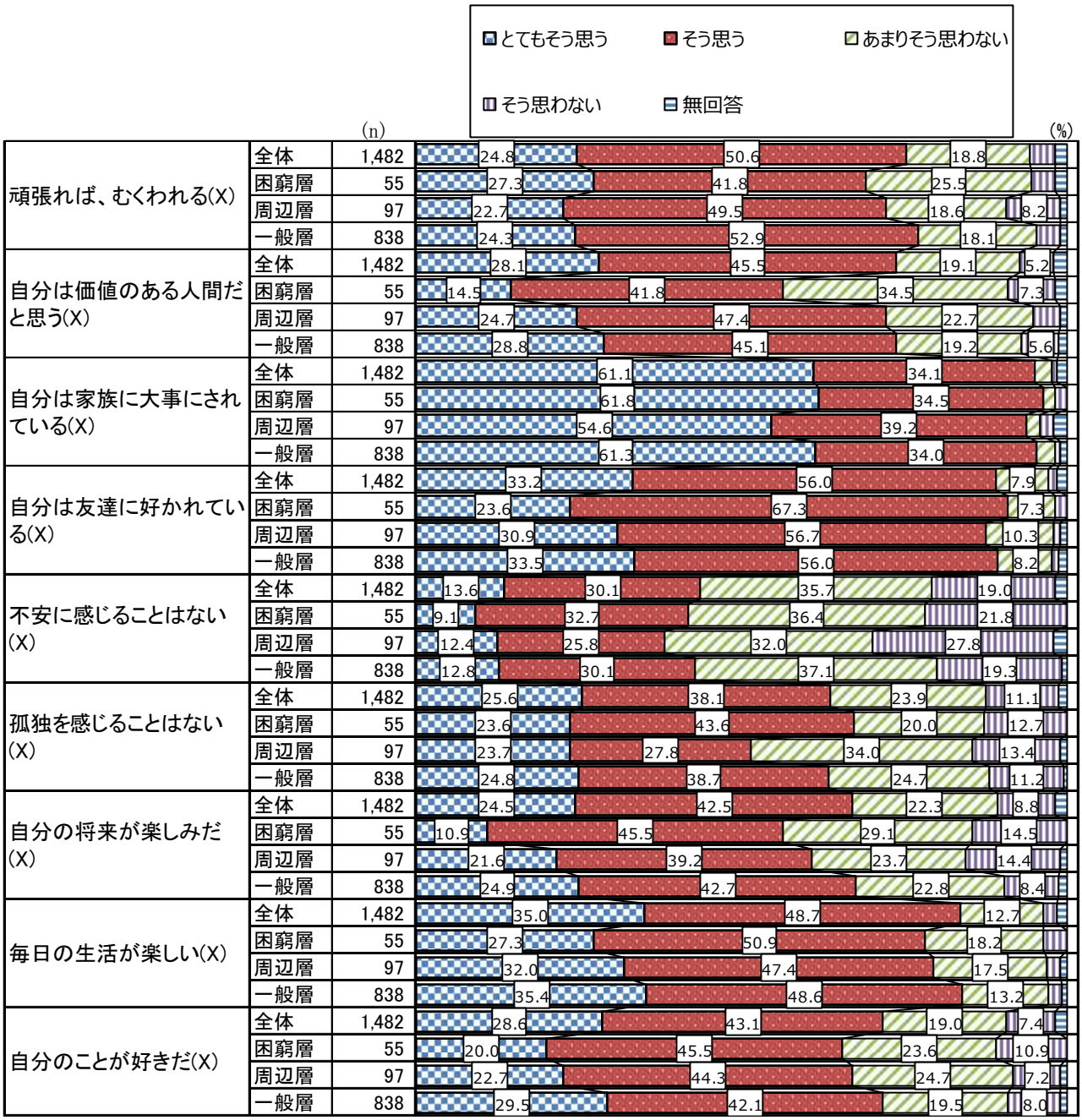
第８章　子どものこころ

１．自己肯定感

子どもの自己肯定感を、「頑張れば、むくわれる」「自分は価値のある人間だと思う」「自分は家族に大事にされている」「自分は友達に好かれている」「不安に感じることはない」「孤独を感じることはない」「自分の将来が楽しみだ」「毎日の生活が楽しい」「自分のことが好きだ」の９項目にどの程度当てはまると感じるかを聞くことで測った。その結果、「とてもそう思う」「そう思う」と回答した割合は、「頑張れば、むくわれる」では 75.4%、「自分は価値のある人間だと思う」では 73.7%、「自分は家族に大事にされている」では 95.1%、「自分は友達に好かれている」では 89.2%、「不安に感じることはない」では 43.7%、「孤独を感じることはない」では 63.7%、「自分の将来が楽しみだ」では 67.0%、「毎日の生活が楽しい」では 83.7%、「自分のことが好きだ」では 71.7%であった。

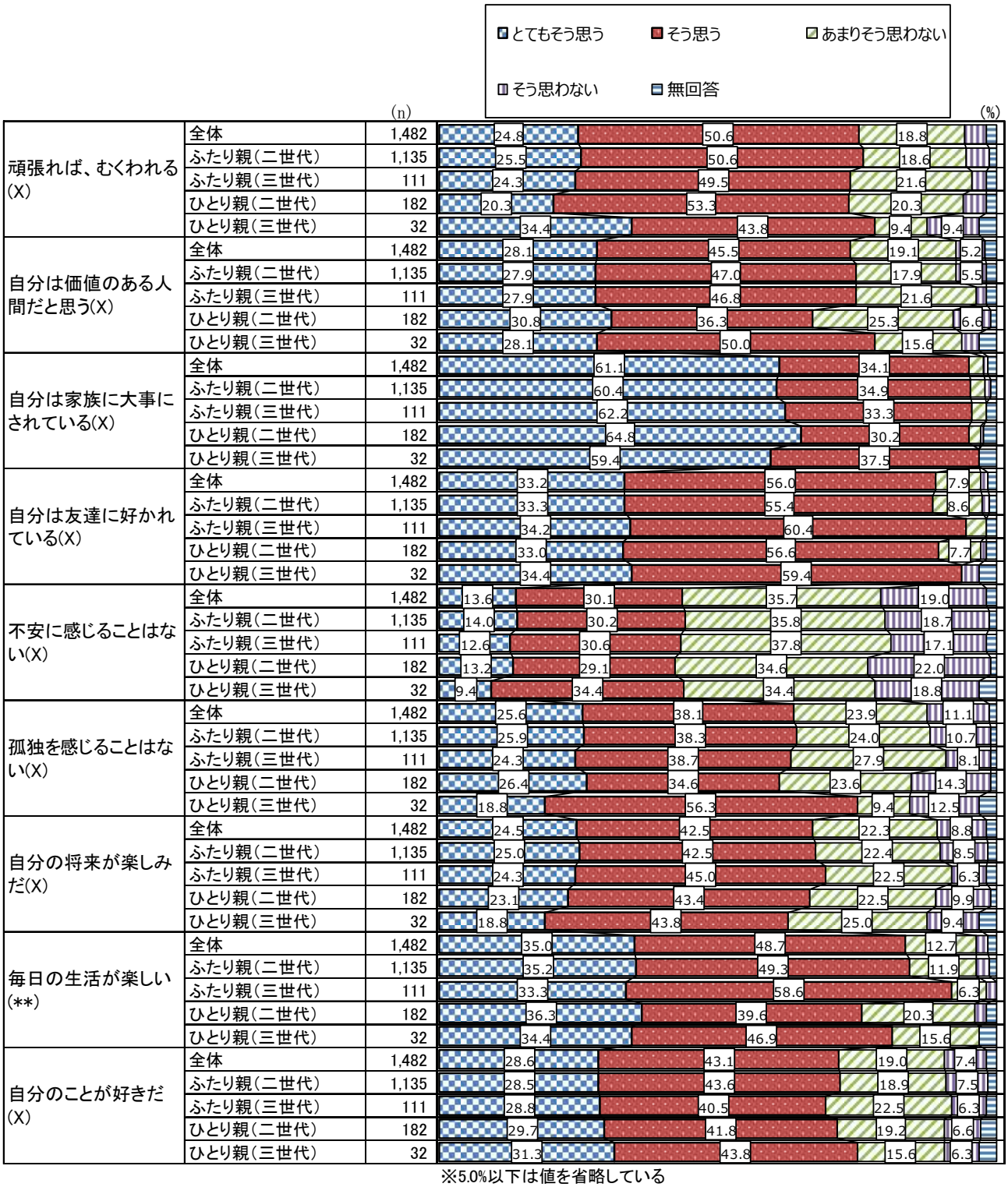
なお、世帯タイプ別では「毎日の生活が楽しい」にて統計的に有意な傾向が確認され、ふたり親（三世代）世帯の子どもにて、「とてもそう思う」「そう思う」と回答した割合が全体と比較して多かったが、それ以外の項目では生活困難度別・世帯タイプ別の統計的に有意な傾向は確認されなかった。

図表 8-1-1　子どもの自己肯定感：全体、生活困難度別



※5.0%以下は値を省略している

図表 8-1-2 子どもの自己肯定感：全体、世帯タイプ別



※5.0%以下は値を省略している

図表 8-1-3 子どもの自己肯定感：全体、生活困難度別

		該当数	とてもそう思う	そう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答
頑張れば、むくわれる（Ｘ）	全体	1,482	367	750	279	61	25
		100.0	24.8	50.6	18.8	4.1	1.7
	困窮層	55	15	23	14	2	1
		100.0	27.3	41.8	25.5	3.6	1.8
	周辺層	97	22	48	18	8	1
		100.0	22.7	49.5	18.6	8.2	1.0
	一般層	838	204	443	152	31	8
		100.0	24.3	52.9	18.1	3.7	1.0
自分は価値のある人間だと思う（Ｘ）	全体	1,482	417	675	283	77	30
		100.0	28.1	45.5	19.1	5.2	2.0
	困窮層	55	8	23	19	4	1
		100.0	14.5	41.8	34.5	7.3	1.8
	周辺層	97	24	46	22	4	1
		100.0	24.7	47.4	22.7	4.1	1.0
	一般層	838	241	378	161	47	11
		100.0	28.8	45.1	19.2	5.6	1.3
自分は家族に大事にされている（Ｘ）	全体	1,482	905	505	38	11	23
		100.0	61.1	34.1	2.6	0.7	1.6
	困窮層	55	34	19	1	1	0
		100.0	61.8	34.5	1.8	1.8	0.0
	周辺層	97	53	38	2	2	2
		100.0	54.6	39.2	2.1	2.1	2.1
	一般層	838	514	285	24	6	9
		100.0	61.3	34.0	2.9	0.7	1.1
自分は友達に好かれている（Ｘ）	全体	1,482	492	830	117	19	24
		100.0	33.2	56.0	7.9	1.3	1.6
	困窮層	55	13	37	4	1	0
		100.0	23.6	67.3	7.3	1.8	0.0
	周辺層	97	30	55	10	1	1
		100.0	30.9	56.7	10.3	1.0	1.0
	一般層	838	281	469	69	9	10
		100.0	33.5	56.0	8.2	1.1	1.2
不安に感じることはない（Ｘ）	全体	1,482	201	446	529	281	25
		100.0	13.6	30.1	35.7	19.0	1.7
	困窮層	55	5	18	20	12	0
		100.0	9.1	32.7	36.4	21.8	0.0
	周辺層	97	12	25	31	27	2
		100.0	12.4	25.8	32.0	27.8	2.1
	一般層	838	107	252	311	162	6
		100.0	12.8	30.1	37.1	19.3	0.7

		該当数	とてもそう思う	そう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答
孤独を感じることはない（Ｘ）	全体	1,482	379	565	354	164	20
		100.0	25.6	38.1	23.9	11.1	1.3
	困窮層	55	13	24	11	7	0
		100.0	23.6	43.6	20.0	12.7	0.0
	周辺層	97	23	27	33	13	1
		100.0	23.7	27.8	34.0	13.4	1.0
	一般層	838	208	324	207	94	5
		100.0	24.8	38.7	24.7	11.2	0.6
自分の将来が楽しみだ（Ｘ）	全体	1,482	363	630	331	130	28
		100.0	24.5	42.5	22.3	8.8	1.9
	困窮層	55	6	25	16	8	0
		100.0	10.9	45.5	29.1	14.5	0.0
	周辺層	97	21	38	23	14	1
		100.0	21.6	39.2	23.7	14.4	1.0
	一般層	838	209	358	191	70	10
		100.0	24.9	42.7	22.8	8.4	1.2
毎日の生活が楽しい（Ｘ）	全体	1,482	519	721	188	32	22
		100.0	35.0	48.7	12.7	2.2	1.5
	困窮層	55	15	28	10	2	0
		100.0	27.3	50.9	18.2	3.6	0.0
	周辺層	97	31	46	17	2	1
		100.0	32.0	47.4	17.5	2.1	1.0
	一般層	838	297	407	111	16	7
		100.0	35.4	48.6	13.2	1.9	0.8
自分のことが好きだ（Ｘ）	全体	1,482	424	639	282	109	28
		100.0	28.6	43.1	19.0	7.4	1.9
	困窮層	55	11	25	13	6	0
		100.0	20.0	45.5	23.6	10.9	0.0
	周辺層	97	22	43	24	7	1
		100.0	22.7	44.3	24.7	7.2	1.0
	一般層	838	247	353	163	67	8
		100.0	29.5	42.1	19.5	8.0	1.0

図表 8-1-4 子どもの自己肯定感：全体、世帯タイプ別

		該当数	とてもそう思う	そう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答
頑張れば、むくわれる（Ｘ）	全体	1,482	367	750	279	61	25
		100.0	24.8	50.6	18.8	4.1	1.7
	ふたり親（二世代）	1,135	289	574	211	46	15
		100.0	25.5	50.6	18.6	4.1	1.3
	ふたり親（三世代）	111	27	55	24	3	2
		100.0	24.3	49.5	21.6	2.7	1.8
	ひとり親（二世代）	182	37	97	37	8	3
		100.0	20.3	53.3	20.3	4.4	1.6
	ひとり親（三世代）	32	11	14	3	3	1
		100.0	34.4	43.8	9.4	9.4	3.1
自分は価値のある人間だと思う（Ｘ）	全体	1,482	417	675	283	77	30
		100.0	28.1	45.5	19.1	5.2	2.0
	ふたり親（二世代）	1,135	317	533	203	62	20
		100.0	27.9	47.0	17.9	5.5	1.8
	ふたり親（三世代）	111	31	52	24	2	2
		100.0	27.9	46.8	21.6	1.8	1.8
	ひとり親（二世代）	182	56	66	46	12	2
		100.0	30.8	36.3	25.3	6.6	1.1
	ひとり親（三世代）	32	9	16	5	1	1
		100.0	28.1	50.0	15.6	3.1	3.1
自分は家族に大事にされている（Ｘ）	全体	1,482	905	505	38	11	23
		100.0	61.1	34.1	2.6	0.7	1.6
	ふたり親（二世代）	1,135	686	396	31	10	12
		100.0	60.4	34.9	2.7	0.9	1.1
	ふたり親（三世代）	111	69	37	3	0	2
		100.0	62.2	33.3	2.7	0.0	1.8
	ひとり親（二世代）	182	118	55	4	1	4
		100.0	64.8	30.2	2.2	0.5	2.2
	ひとり親（三世代）	32	19	12	0	0	1
		100.0	59.4	37.5	0.0	0.0	3.1
自分は友達に好かれている（Ｘ）	全体	1,482	492	830	117	19	24
		100.0	33.2	56.0	7.9	1.3	1.6
	ふたり親（二世代）	1,135	378	629	98	16	14
		100.0	33.3	55.4	8.6	1.4	1.2
	ふたり親（三世代）	111	38	67	4	0	2
		100.0	34.2	60.4	3.6	0.0	1.8
	ひとり親（二世代）	182	60	103	14	2	3
		100.0	33.0	56.6	7.7	1.1	1.6
	ひとり親（三世代）	32	11	19	0	1	1
		100.0	34.4	59.4	0.0	3.1	3.1
不安に感じることはない（Ｘ）	全体	1,482	201	446	529	281	25
		100.0	13.6	30.1	35.7	19.0	1.7
	ふたり親（二世代）	1,135	159	343	406	212	15
		100.0	14.0	30.2	35.8	18.7	1.3
	ふたり親（三世代）	111	14	34	42	19	2
		100.0	12.6	30.6	37.8	17.1	1.8
	ひとり親（二世代）	182	24	53	63	40	2
		100.0	13.2	29.1	34.6	22.0	1.1
	ひとり親（三世代）	32	3	11	11	6	1
		100.0	9.4	34.4	34.4	18.8	3.1

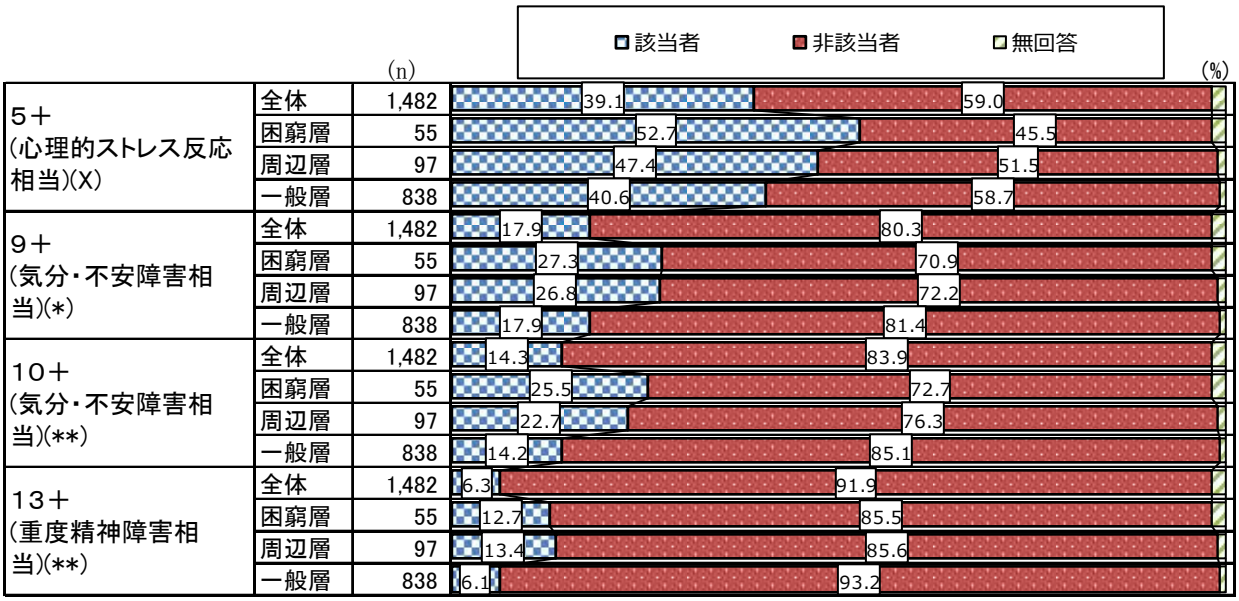
		該当数	とてもそう思う	そう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答
孤独を感じることはない（Ｘ）	全体	1,482	379	565	354	164	20
		100.0	25.6	38.1	23.9	11.1	1.3
	ふたり親（二世代）	1,135	294	435	272	122	12
		100.0	25.9	38.3	24.0	10.7	1.1
	ふたり親（三世代）	111	27	43	31	9	1
		100.0	24.3	38.7	27.9	8.1	0.9
	ひとり親（二世代）	182	48	63	43	26	2
		100.0	26.4	34.6	23.6	14.3	1.1
	ひとり親（三世代）	32	6	18	3	4	1
		100.0	18.8	56.3	9.4	12.5	3.1
自分の将来が楽しみだ（Ｘ）	全体	1,482	363	630	331	130	28
		100.0	24.5	42.5	22.3	8.8	1.9
	ふたり親（二世代）	1,135	284	482	254	97	18
		100.0	25.0	42.5	22.4	8.5	1.6
	ふたり親（三世代）	111	27	50	25	7	2
		100.0	24.3	45.0	22.5	6.3	1.8
	ひとり親（二世代）	182	42	79	41	18	2
		100.0	23.1	43.4	22.5	9.9	1.1
	ひとり親（三世代）	32	6	14	8	3	1
		100.0	18.8	43.8	25.0	9.4	3.1
毎日の生活が楽しい（＊＊）	全体	1,482	519	721	188	32	22
		100.0	35.0	48.7	12.7	2.2	1.5
	ふたり親（二世代）	1,135	400	559	135	26	15
		100.0	35.2	49.3	11.9	2.3	1.3
	ふたり親（三世代）	111	37	65	7	2	0
		100.0	33.3	58.6	6.3	1.8	0.0
	ひとり親（二世代）	182	66	72	37	4	3
		100.0	36.3	39.6	20.3	2.2	1.6
	ひとり親（三世代）	32	11	15	5	0	1
		100.0	34.4	46.9	15.6	0.0	3.1
自分のことが好きだ（Ｘ）	全体	1,482	424	639	282	109	28
		100.0	28.6	43.1	19.0	7.4	1.9
	ふたり親（二世代）	1,135	323	495	215	85	17
		100.0	28.5	43.6	18.9	7.5	1.5
	ふたり親（三世代）	111	32	45	25	7	2
		100.0	28.8	40.5	22.5	6.3	1.8
	ひとり親（二世代）	182	54	76	35	12	5
		100.0	29.7	41.8	19.2	6.6	2.7
	ひとり親（三世代）	32	10	14	5	2	1
		100.0	31.3	43.8	15.6	6.3	3.1

２．子どもの抑うつ傾向

「神経過敏に感じましたか」「絶望的だと感じましたか」「そわそわ、落ち着かなく感じましたか」「気分が沈み込んで、何が起こっても気が晴れないように感じましたか」「何をするのも骨折りだと感じましたか」「自分は価値がない人間だと感じましたか」の６つの質問について、「いつも」「たいてい」「ときどき」「少しだけ」「全くない」の５段階で回答してもらい、各項目につき 0～4 点の点数をつけ、その合計点で抑うつ傾向を把握する「K6 指標」を用いて、子どもの抑うつ傾向を測った。

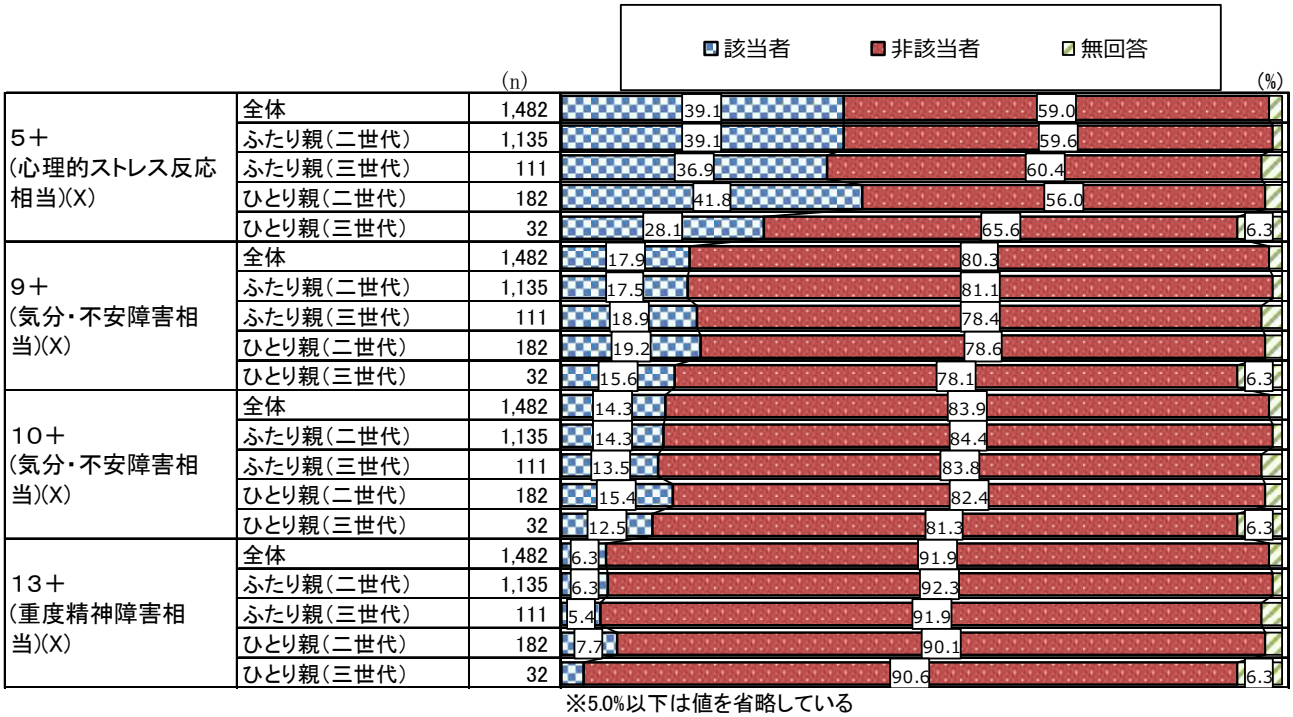
K6 指標の得点では、5 点以上（心理的ストレス反応相当）の子どもは 39.1%、9 点以上（気分・不安障害相当）の子どもは 17.9%、10 点以上（気分・不安障害相当）の子どもは 14.3%、13 点以上（重度精神障害相当）の子どもは 6.3%となっている。生活困難度別に見ると、9 点以上、10 点以上、13 点以上にて統計的に有意な傾向が確認され、9 点以上は一般層では 17.9%であったのに対し困窮層では 27.3%、10 点以上は一般層では 14.2%であったのに対し困窮層では 25.5%、13 点以上は一般層では 6.1%であったのに対し困窮層では 12.7%にのぼった。一方で、世帯タイプ別には統計的に有意な傾向が確認されなかった。

図表 8-2-1　子どもの K6 指標の得点：全体、生活困難度別



※5.0%以下は値を省略している

図表 8-2-2　子どもの K6 指標の得点：全体、世帯タイプ別



※5.0%以下は値を省略している

図表 8-2-3 子どもの K6 指標：全体、生活困難度別

		該当数	該当者	非該当者	無回答
５＋（心理的ストレス反応相当）（Ｘ）	全体	1,482 100.0	580 39.1	875 59.0	27 1.8
	困窮層	55 100.0	29 52.7	25 45.5	1 1.8
	周辺層	97 100.0	46 47.4	50 51.5	1 1.0
	一般層	838 100.0	340 40.6	492 58.7	6 0.7
９＋（気分・不安障害相当）（＊）	全体	1,482 100.0	265 17.9	1,190 80.3	27 1.8
	困窮層	55 100.0	15 27.3	39 70.9	1 1.8
	周辺層	97 100.0	26 26.8	70 72.2	1 1.0
	一般層	838 100.0	150 17.9	682 81.4	6 0.7
１０＋（気分・不安障害相当）（＊＊）	全体	1,482 100.0	212 14.3	1,243 83.9	27 1.8
	困窮層	55 100.0	14 25.5	40 72.7	1 1.8
	周辺層	97 100.0	22 22.7	74 76.3	1 1.0
	一般層	838 100.0	119 14.2	713 85.1	6 0.7
１３＋（重度精神障害相当）（＊＊）	全体	1,482 100.0	93 6.3	1,362 91.9	27 1.8
	困窮層	55 100.0	7 12.7	47 85.5	1 1.8
	周辺層	97 100.0	13 13.4	83 85.6	1 1.0
	一般層	838 100.0	51 6.1	781 93.2	6 0.7

図表 8-2-4 子どもの K6 指標：全体、世帯タイプ別

		該当数	該当者	非該当者	無回答
５＋（心理的ストレス反応相当）（Ｘ）	全体	1,482	580	875	27
		100.0	39.1	59.0	1.8
	ふたり親（二世代）	1,135	444	676	15
		100.0	39.1	59.6	1.3
	ふたり親（三世代）	111	41	67	3
		100.0	36.9	60.4	2.7
	ひとり親（二世代）	182	76	102	4
		100.0	41.8	56.0	2.2
	ひとり親（三世代）	32	9	21	2
		100.0	28.1	65.6	6.3
９＋（気分・不安障害相当）（Ｘ）	全体	1,482	265	1,190	27
		100.0	17.9	80.3	1.8
	ふたり親（二世代）	1,135	199	921	15
		100.0	17.5	81.1	1.3
	ふたり親（三世代）	111	21	87	3
		100.0	18.9	78.4	2.7
	ひとり親（二世代）	182	35	143	4
		100.0	19.2	78.6	2.2
	ひとり親（三世代）	32	5	25	2
		100.0	15.6	78.1	6.3
１０＋（気分・不安障害相当）（Ｘ）	全体	1,482	212	1,243	27
		100.0	14.3	83.9	1.8
	ふたり親（二世代）	1,135	162	958	15
		100.0	14.3	84.4	1.3
	ふたり親（三世代）	111	15	93	3
		100.0	13.5	83.8	2.7
	ひとり親（二世代）	182	28	150	4
		100.0	15.4	82.4	2.2
	ひとり親（三世代）	32	4	26	2
		100.0	12.5	81.3	6.3
１３＋（重度精神障害相当）（Ｘ）	全体	1,482	93	1,362	27
		100.0	6.3	91.9	1.8
	ふたり親（二世代）	1,135	72	1,048	15
		100.0	6.3	92.3	1.3
	ふたり親（三世代）	111	6	102	3
		100.0	5.4	91.9	2.7
	ひとり親（二世代）	182	14	164	4
		100.0	7.7	90.1	2.2
	ひとり親（三世代）	32	1	29	2
		100.0	3.1	90.6	6.3

３．まとめ

（１）自己肯定感

自己肯定感については、「がんばれば、むくわれると思う」「自分は価値がある人間だと思う」など 9 つの問いで聞いている。その結果、多くの子どもは肯定的な回答をしているものの、「頑張れば、むくわれる」「自分は価値のある人間だと思う」については２割強、「自分のことが好きだ」については３割弱、「自分の将来が楽しみだ」については３割強、「孤独を感じることはない」については３割半ば、「不安に感じることはない」については５割強が、それぞれそう思わないといった回答をしている（**図表 8-1-1**、**図表 8-1-3**）。

学術的には、自己肯定感は、「レジリエンス」（逆境に打ち勝っていく力）に関連することがわかっており、自己肯定感を高める要素としては、学力、友人関係、大人との関係などがあげられている。そのため、５章で提言した学習支援事業などと共に、まずは、多くの他者（大人および子ども）と触れ合う機会を増やし、その際には、批判的・指導的なアプローチではなく、子どもの自己肯定感を高めることを念頭に置いたアプローチが有効であろう。

（２）子どもの抑うつ傾向

抑うつ傾向については、子どもの 17.9%に抑うつ傾向が見られた。抑うつの傾向は、生活困難層において高い傾向が見られ、困窮層では 27.3%が抑うつ傾向にあった（**図表 8-2-1**、**図表 8-2-3**）。第６章にて相談事業について、一定のニーズが存在し、事業の周知が課題であると述べたが、このように一定数抑うつ傾向にある子どもが存在するという観点からも相談事業の認知度の向上等は重要である。

第９章　子どもの健康

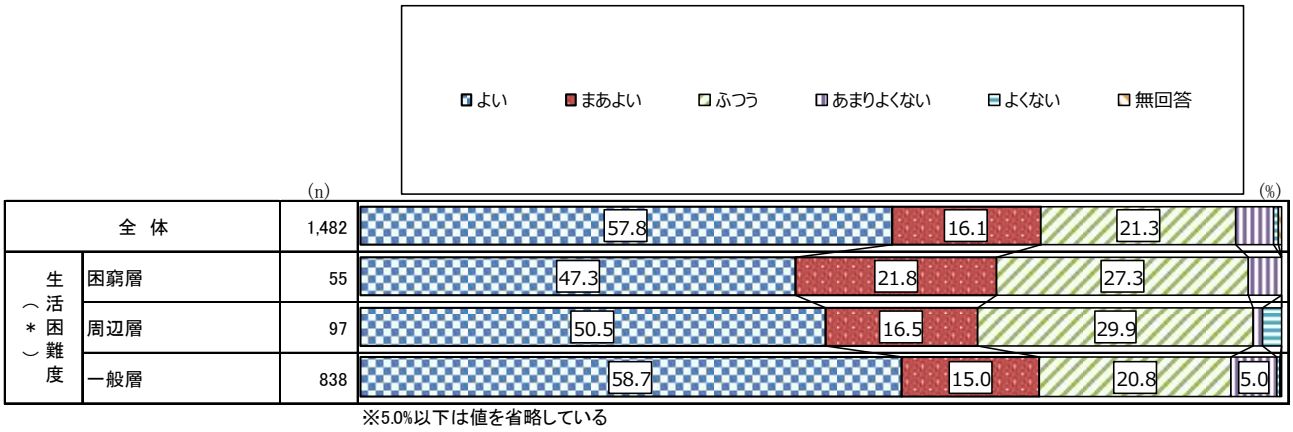
１．健康状態についての主観的評価

（１）子どもの主観的健康状態

子どもに、自分自身の健康状態について、５段階（「よい」「まあよい」「ふつう」「あまりよくない」「よくない」）の選択肢で聞いた。すると、57.8%は自分の健康状態が「よい」と答えている。健康状態が「よい」と「まあよい」を合わせると、73.9%、約７割の子どもは自分自身の健康状態をよいと考えている。一方で、4.0%が「あまりよくない」、0.5%が「よくない」と答えている。

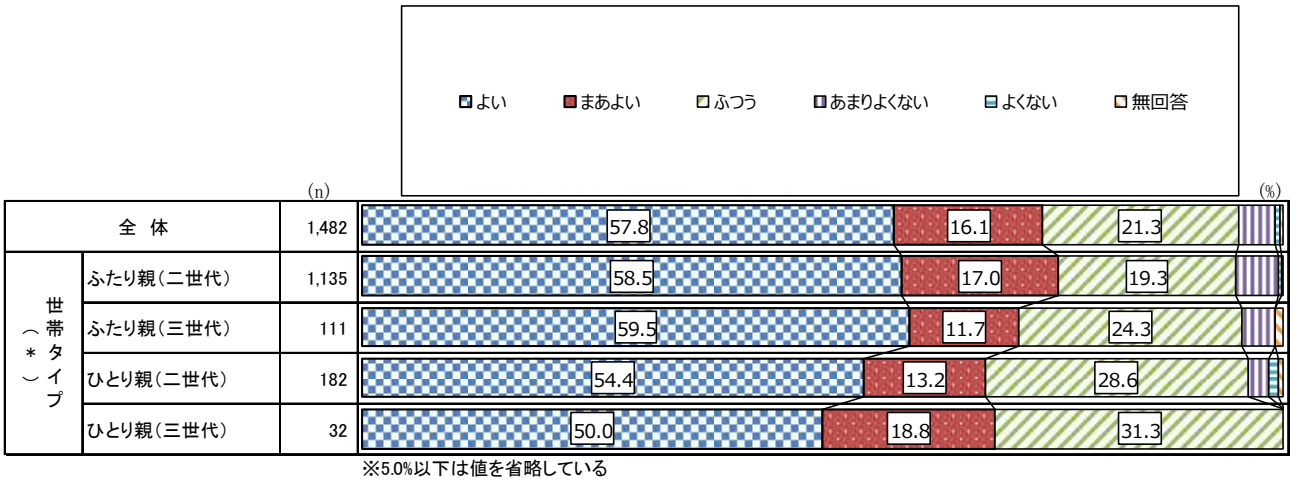
子どもの主観的健康状態を、生活困難度別、世帯タイプ別に見ると、いずれも統計的に有意な差が確認された。困窮層では、「よい」と答える子どもが低く、一般層の 58.7%と比較して、11.4 ポイント低い 47.3%である。また、ひとり親（三世代）世帯の子どもが「よい」と答える割合が低く、50.0%と、ふたり親（三世代）世帯の 59.5%に比べて 9.5 ポイントの差がある。

図表 9-1-1　子どもの主観的健康状態：全体、生活困難度別(*)



※5.0%以下は値を省略している

図表 9-1-2　子どもの主観的健康状態：全体、世帯タイプ別(*)



※5.0%以下は値を省略している

図表 9-1-3 子どもの主観的健康状態：全体、生活困難度別(*)、世帯タイプ別(*)

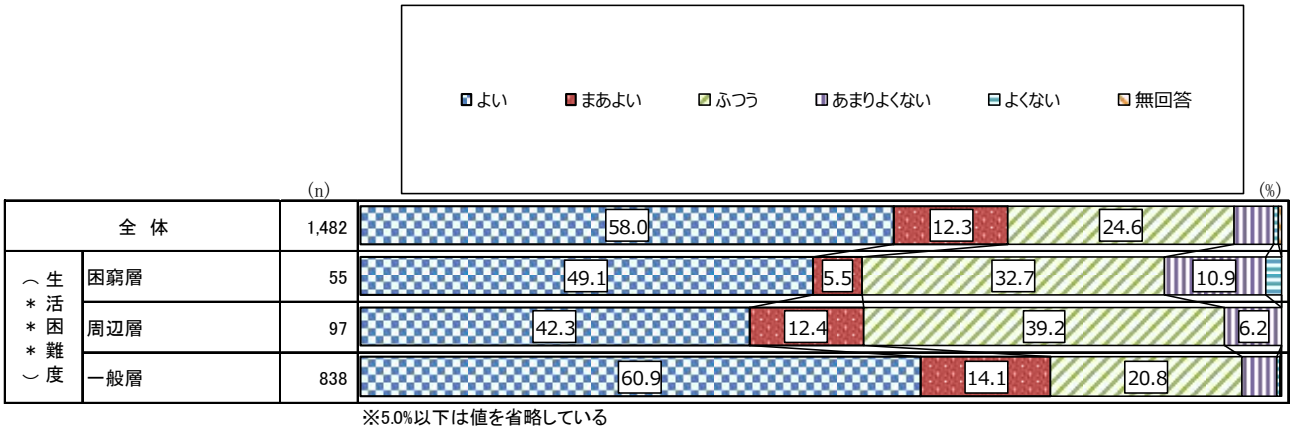
		該当数	よい	まあよい	ふつう	あまりよくない	よくない	無回答
全 体		1,482	856	238	315	60	7	6
		100.0	57.8	16.1	21.3	4.0	0.5	0.4
生活困難度（*）	困窮層	55	26	12	15	2	0	0
		100.0	47.3	21.8	27.3	3.6	0.0	0.0
	周辺層	97	49	16	29	1	2	0
		100.0	50.5	16.5	29.9	1.0	2.1	0.0
	一般層	838	492	126	174	42	3	1
		100.0	58.7	15.0	20.8	5.0	0.4	0.1
世帯タイプ（*）	ふたり親（二世代）	1,135	664	193	219	52	5	2
		100.0	58.5	17.0	19.3	4.6	0.4	0.2
	ふたり親（三世代）	111	66	13	27	4	0	1
		100.0	59.5	11.7	24.3	3.6	0.0	0.9
	ひとり親（二世代）	182	99	24	52	4	2	1
		100.0	54.4	13.2	28.6	2.2	1.1	0.5
	ひとり親（三世代）	32	16	6	10	0	0	0
		100.0	50.0	18.8	31.3	0.0	0.0	0.0

（２）保護者から見た子どもの健康状態

本調査においては、保護者にも子どもの健康状態を聞いている。すると、保護者の 58.0%が「よい」、12.3%が「まあよい」と答えている。一方で、子どもの健康状態が「あまりよくない」「よくない」と回答した保護者は 4.8%であった。

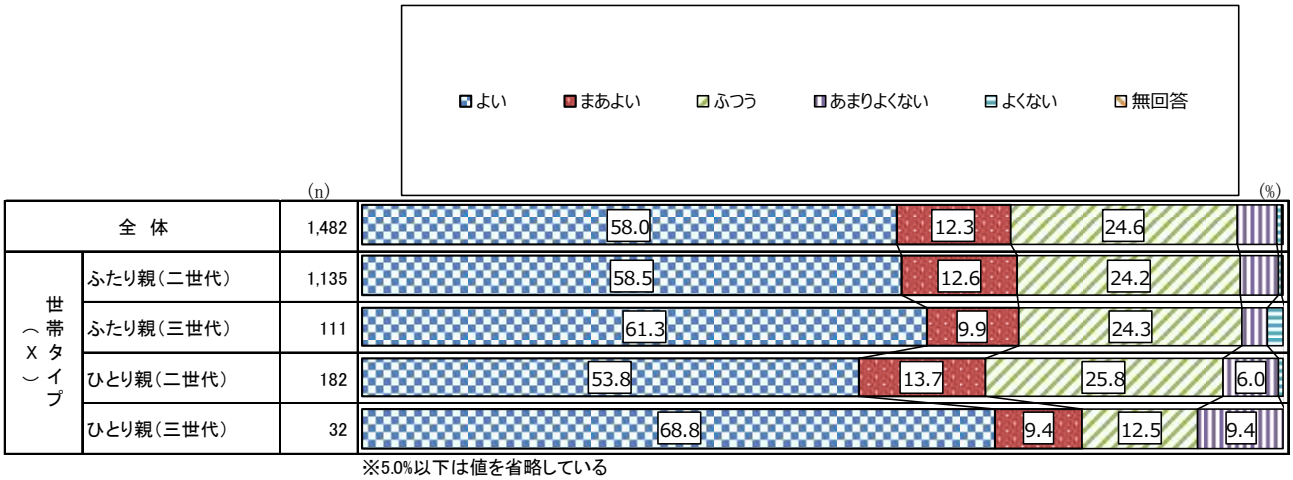
保護者から見た子どもの健康状態を、生活困難度別、世帯タイプ別に見ると、生活困難度別では差が見られるが、世帯タイプ別では統計的に有意な差が確認されなかった。子どもの健康状態が「よい」と回答した保護者の割合は、一般層が 60.9%であるのに対し、周辺層では42.3%、困窮層では49.1%と、生活困難層の方が保護者から見た子どもの健康状態が良いと回答した割合が低い。

図表 9-1-4 保護者から見た子どもの健康状態：全体、生活困難度別(***)



※5.0%以下は値を省略している

図表 9-1-5 保護者から見た子どもの健康状態：全体、世帯タイプ別(X)



※5.0%以下は値を省略している

図表 9-1-6 保護者から見た子どもの健康状態：全体、生活困難度別(***)、世帯タイプ別(X)

		該当数	よい	まあよい	ふつう	あまりよくない	よくない	無回答
全 体		1,482	859	183	364	64	7	5
		100.0	58.0	12.3	24.6	4.3	0.5	0.3
生活困難度（***）	困窮層	55	27	3	18	6	1	0
		100.0	49.1	5.5	32.7	10.9	1.8	0.0
	周辺層	97	41	12	38	6	0	0
		100.0	42.3	12.4	39.2	6.2	0.0	0.0
	一般層	838	510	118	174	31	4	1
		100.0	60.9	14.1	20.8	3.7	0.5	0.1
世帯タイプ（X）	ふたり親（二世代）	1,135	664	143	275	46	4	3
		100.0	58.5	12.6	24.2	4.1	0.4	0.3
	ふたり親（三世代）	111	68	11	27	3	2	0
		100.0	61.3	9.9	24.3	2.7	1.8	0.0
	ひとり親（二世代）	182	98	25	47	11	1	0
		100.0	53.8	13.7	25.8	6.0	0.5	0.0
	ひとり親（三世代）	32	22	3	4	3	0	0
		100.0	68.8	9.4	12.5	9.4	0.0	0.0

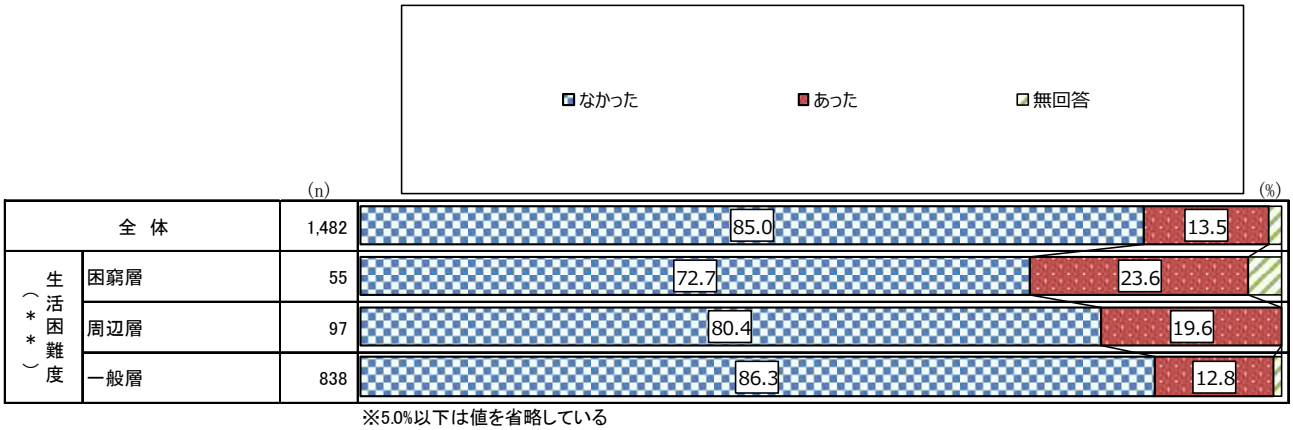
２．医療機関での受診状況

（１）受診抑制経験

保護者に対して過去 1 年間に、子どもを医療機関で受診させた方がよいと思ったが、実際には受診させなかった経験の有無を聞いた。その結果、13.5%の保護者が受診させなかった経験が「あった」と回答している。

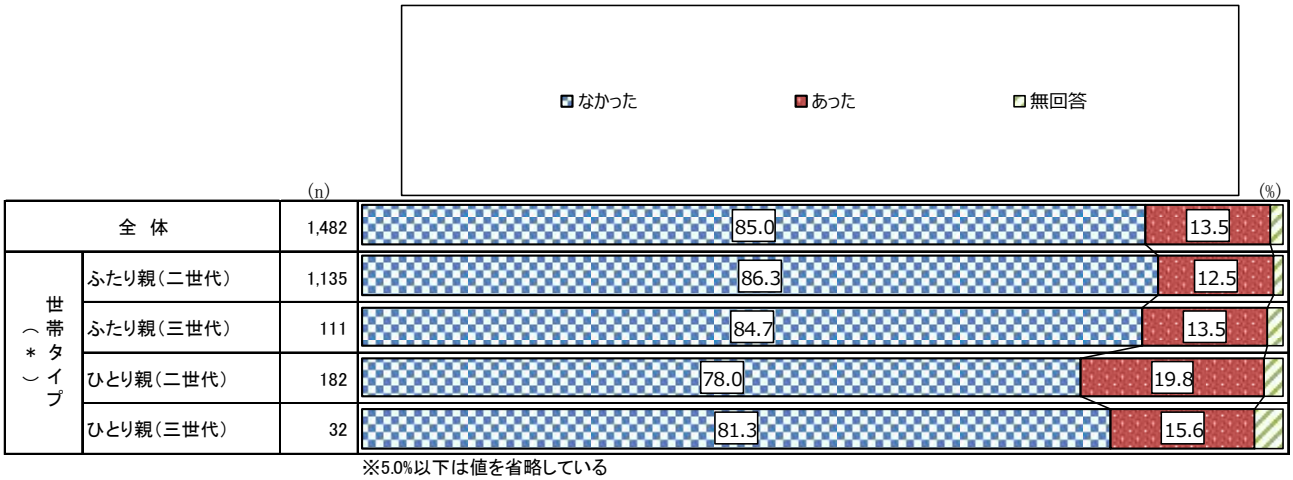
生活困難度別、世帯タイプ別に見ると、いずれも統計的に有意な差が確認された。生活困難度別では困窮層が受診抑制経験の割合が最も高く23.6%で、一般層と比較して約 2 倍である。世帯タイプ別ではひとり親（二世代）世帯で受診抑制経験のある割合が高く 19.8%となっている。

図表 9-2-1　受診抑制経験：全体、生活困難度別(**)



※5.0%以下は値を省略している

図表 9-2-2　受診抑制経験：全体、世帯タイプ別(*)



※5.0%以下は値を省略している

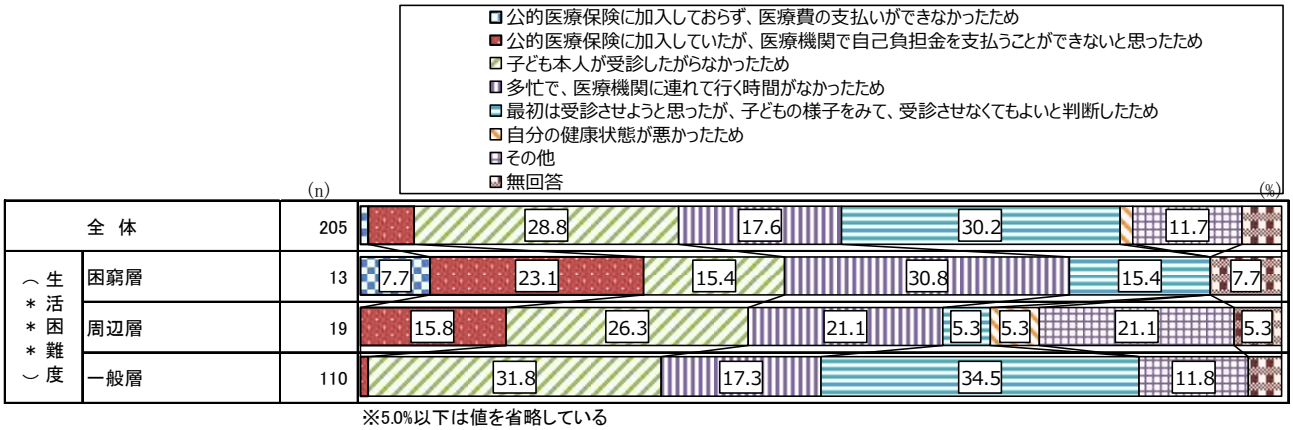
図表 9-2-3 受診抑制経験：全体、生活困難度別(**)、世帯タイプ別(*)

		該当数	なかった	あった	無回答
全 体		1,482 100.0	1,260 85.0	200 13.5	22 1.5
生活困難度（**）	困窮層	55 100.0	40 72.7	13 23.6	2 3.6
	周辺層	97 100.0	78 80.4	19 19.6	0 0.0
	一般層	838 100.0	723 86.3	107 12.8	8 1.0
世帯タイプ（*）	ふたり親（二世代）	1,135 100.0	980 86.3	142 12.5	13 1.1
	ふたり親（三世代）	111 100.0	94 84.7	15 13.5	2 1.8
	ひとり親（二世代）	182 100.0	142 78.0	36 19.8	4 2.2
	ひとり親（三世代）	32 100.0	26 81.3	5 15.6	1 3.1

（２）受診抑制の理由

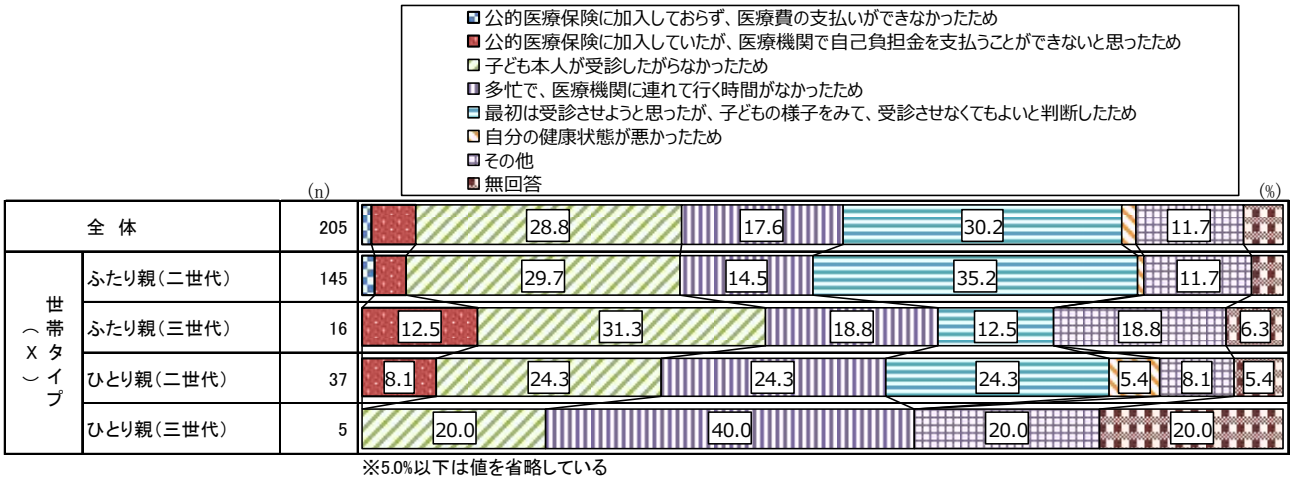
子どもを受診させなかった経験がある保護者に、その理由を聞いたところ、「最初は受診させようと思ったが、子どもの様子をみて、受診させなくてもよいと判断したため」（30.2%）、「子ども本人が受診したがらなかったため」（28.8%）、「多忙で、医療機関に連れて行く時間がなかったため」（17.6%）の順に割合が高かった。なお、生活困難度別に見ると差が見られ、n 値が小さいため参考値であるが、困窮層では「公的医療保険に加入していたが、医療機関で自己負担金を支払うことができないと思ったため」「多忙で、医療機関に連れて行く時間がなかったため」が多かった。

図表 9-2-4 受診抑制の理由：全体、生活困難度別(***)



※5.0%以下は値を省略している

図表 9-2-5 受診抑制の理由：全体、世帯タイプ別(X)



※5.0%以下は値を省略している

図表 9-2-6 受診抑制の理由：全体、生活困難度別(***)、世帯タイプ別(X)

		該当数	公的医療保険に加入しておらず、医療費の支払いができなかったため	公的医療保険に加入していたが、医療機関で自己負担金を支払うことができないと思ったため	子ども本人が受診したがらなかったため	多忙で、医療機関に連れて行く時間がなかったため	最初は受診させようと思ったが、子どもの様子をみて、受診させなくてもよいと判断したため	自分の健康状態が悪かったため	その他	無回答
全 体		205	2	10	59	36	62	3	24	9
		100.0	1.0	4.9	28.8	17.6	30.2	1.5	11.7	4.4
生活困難度（***）	困窮層	13	1	3	2	4	2	0	0	1
		100.0	7.7	23.1	15.4	30.8	15.4	0.0	0.0	7.7
	周辺層	19	0	3	5	4	1	1	4	1
		100.0	0.0	15.8	26.3	21.1	5.3	5.3	21.1	5.3
	一般層	110	0	1	35	19	38	0	13	4
		100.0	0.0	0.9	31.8	17.3	34.5	0.0	11.8	3.6
世帯タイプ（X）	ふたり親（二世代）	145	2	5	43	21	51	1	17	5
		100.0	1.4	3.4	29.7	14.5	35.2	0.7	11.7	3.4
	ふたり親（三世代）	16	0	2	5	3	2	0	3	1
		100.0	0.0	12.5	31.3	18.8	12.5	0.0	18.8	6.3
	ひとり親（二世代）	37	0	3	9	9	9	2	3	2
		100.0	0.0	8.1	24.3	24.3	24.3	5.4	8.1	5.4
	ひとり親（三世代）	5	0	0	1	2	0	0	1	1
		100.0	0.0	0.0	20.0	40.0	0.0	0.0	20.0	20.0

３．まとめ

（１）子どもの健康状態

世田谷区の子どもの７割強は自分の健康状態を「よい」「まあよい」と答えており、概ね良好であるが、ここでも生活困難度別、世帯タイプ別の格差が確認される（**図表 9-1-1**、**図表 9-1-2**、**図表 9-1-3**）。保護者から見た子どもの健康状態においても、生活困難層の方が健康状態がよいと回答した割合が低い状況にある（**図表 9-1-4**、**図図表 9-1-6**）。

高校生世代も令和５年４月より「子ども等医療費助成制度」の対象となっているが、以前として経済状況等に伴う健康格差は存在していることが伺える。

（２）医療機関での受診状況

子どもの健康格差は、二つの観点から考えることが重要である。一つは医療機関に思うようアクセスできない、子どもが病気の時に十分にケアすることができない、といった病気・怪我になってからの対応の格差という観点である。もう一つは、そもそも貧困状態で生活する子どもはそうでない子どもに比べ病気になりやすい・怪我をしやすい環境（食生活、住居、体質など）に置かれているという観点である。

そこで、世田谷区の子どもにおいて医療機関への受診抑制が起こっているのかを見たところ、保護者の 13.5%が「子どもを医療機関に受診させた方がよいと思ったが、実際には受診させなかった」経験があると答えている。この割合は、特に生活困難度別に見た際に注目すべき差があり、困窮層では 23.6%の子どもに受診抑制経験がある（**図表 9-2-1**、**図表 9-2-2**、**図表 9-2-3**）。困窮層の受診抑制の理由を確認したところ、n 値が小さいことに留意する必要はあるが、「多忙で、医療機関に連れて行く時間がなかったため」が 30.8%と最も多く、次いで「公的医療保険に加入していたが、医療機関で自己負担金を支払うことができないと思ったため」が 23.1%と多かった（**図表 9-2-4**、**図表 9-2-6**）。

前述の通り、高校生世代も令和５年４月より「子ども等医療費助成制度」の対象となっているため、令和 5 年 9 月のアンケート調査実施時点において自己負担は発生しない。しかし、本調査では過去１年間の受診抑制経験を聞いているため、令和５年３月以前に自己負担金を支払うことができなかった回答者が２割の中に含まれていると想定される。

第 10 章　保護者の状況

１．保護者の健康状態

（１）母親の主観的健康状態

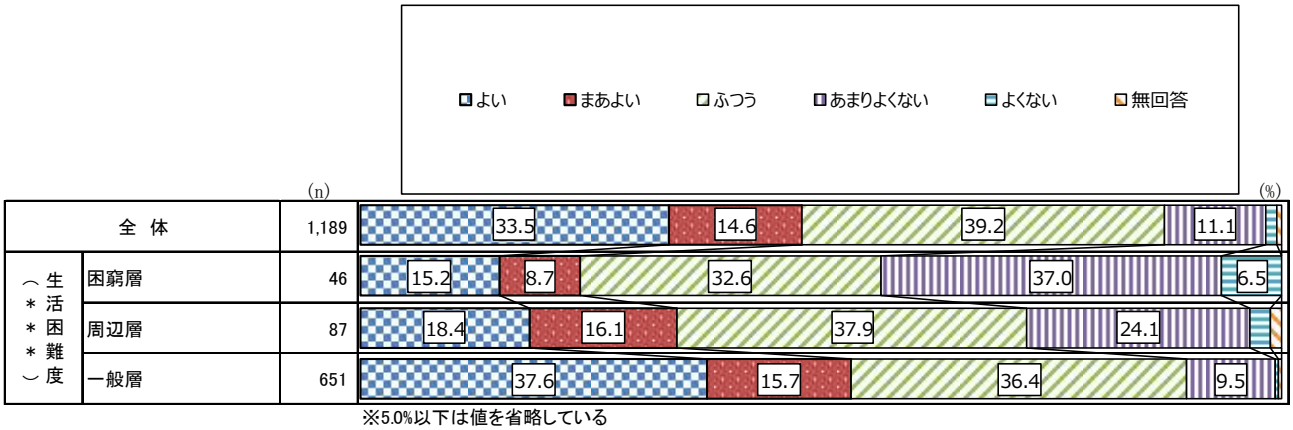
本章では、保護票の回答から、保護者の状況について見ていく。設問については、母親か父親かによって傾向が変わると考えられる項目があるため、それらについては、母親に限って分析していく（父親に限った分析は、n 値が小さいため行っていない）。

まず、保護者票の「あなたとお子さんの健康状態についておうかがいします」との設問から母親の健康状況を見ると、「よい」と答えた母親は 33.5%であった。「まあよい」と答えた母親は 14.6%、「ふつう」と答えた母親は 39.2%、「あまりよくない」と答えたのは 11.1%、「よくない」と答えたのは 1.1%であった。「あまりよくない」「よくない」と答えた割合は全体の 1 割強であった。

生活困難度別に母親の主観的健康状態を見ると、明確な違いが確認された。生活が困窮するほど、「よい」「まあよい」の割合が低下し、「あまりよくない」「よくない」の割合が増加している。特に、困窮層の 37.0%が「あまりよくない」、6.5%が「よくない」と答えていることは注目に値する。母親の主観的健康状態は、世帯の経済状況による影響を受けている。

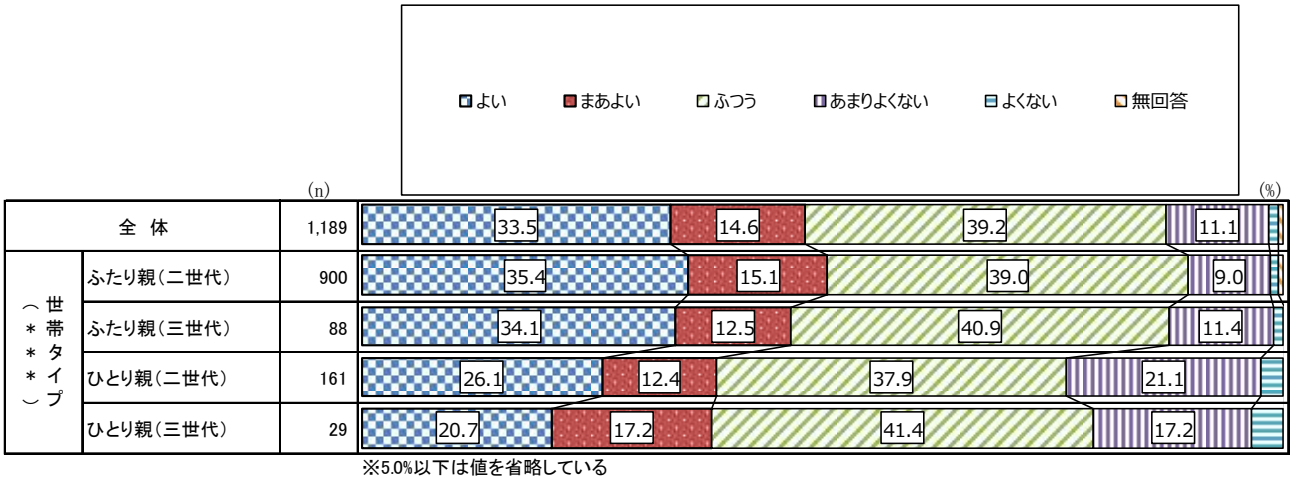
世帯タイプ別に母親の主観的健康状態を見ると、統計的に有意な差が確認された。具体的には、ひとり親世帯において、「よい」「まあよい」と回答した母親の割合が低くなっている。

図表 10-1-1：母親の主観的健康状態：全体、生活困難度別(***)



※5.0%以下は値を省略している

図表 10-1-2：母親の主観的健康状態：全体、世帯タイプ別(***)



※5.0%以下は値を省略している

図表 10-1-3：母親の主観的健康状態：全体、生活困難度別(***)、世帯タイプ別(***)

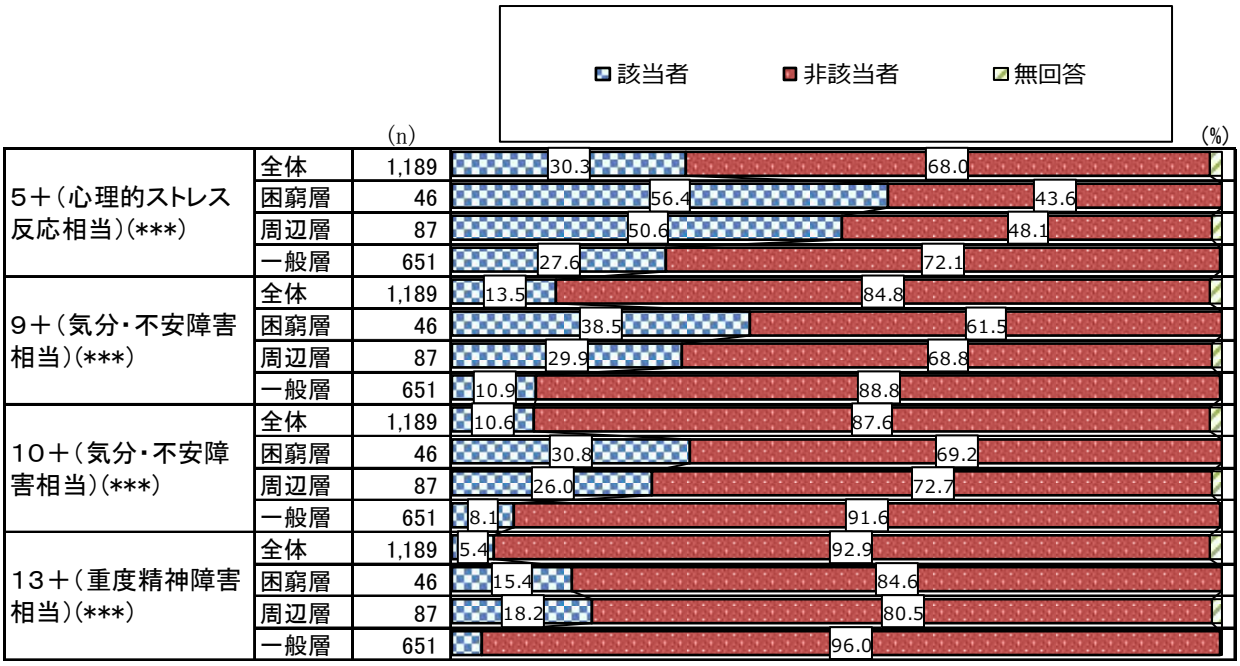
		該当数	よい	まあよい	ふつう	あまりよくない	よくない	無回答
全 体		1,189	398	173	466	132	13	7
		100.0	33.5	14.6	39.2	11.1	1.1	0.6
（生活困難度***）	困窮層	46	7	4	15	17	3	0
		100.0	15.2	8.7	32.6	37.0	6.5	0.0
	周辺層	87	16	14	33	21	2	1
		100.0	18.4	16.1	37.9	24.1	2.3	1.1
	一般層	651	245	102	237	62	3	2
		100.0	37.6	15.7	36.4	9.5	0.5	0.3
（世帯タイプ***）	ふたり親（二世代）	900	319	136	351	81	7	6
		100.0	35.4	15.1	39.0	9.0	0.8	0.7
	ふたり親（三世代）	88	30	11	36	10	1	0
		100.0	34.1	12.5	40.9	11.4	1.1	0.0
	ひとり親（二世代）	161	42	20	61	34	4	0
		100.0	26.1	12.4	37.9	21.1	2.5	0.0
	ひとり親（三世代）	29	6	5	12	5	1	0
		100.0	20.7	17.2	41.4	17.2	3.4	0.0

（２）母親の抑うつ傾向

一般にうつ傾向を測る指標として普及している K6 指標を用いて、母親の抑うつ傾向を測定した。K6 は、過去 30 日の間での心の状況（6 項目）を指数化したものであり、その得点によってそれぞれ、「心理的ストレス反応相当（5 点以上）」「気分・不安障害相当（9 点以上および 10 点以上）」「重症精神障害相当（13 点以上）」に分類される。

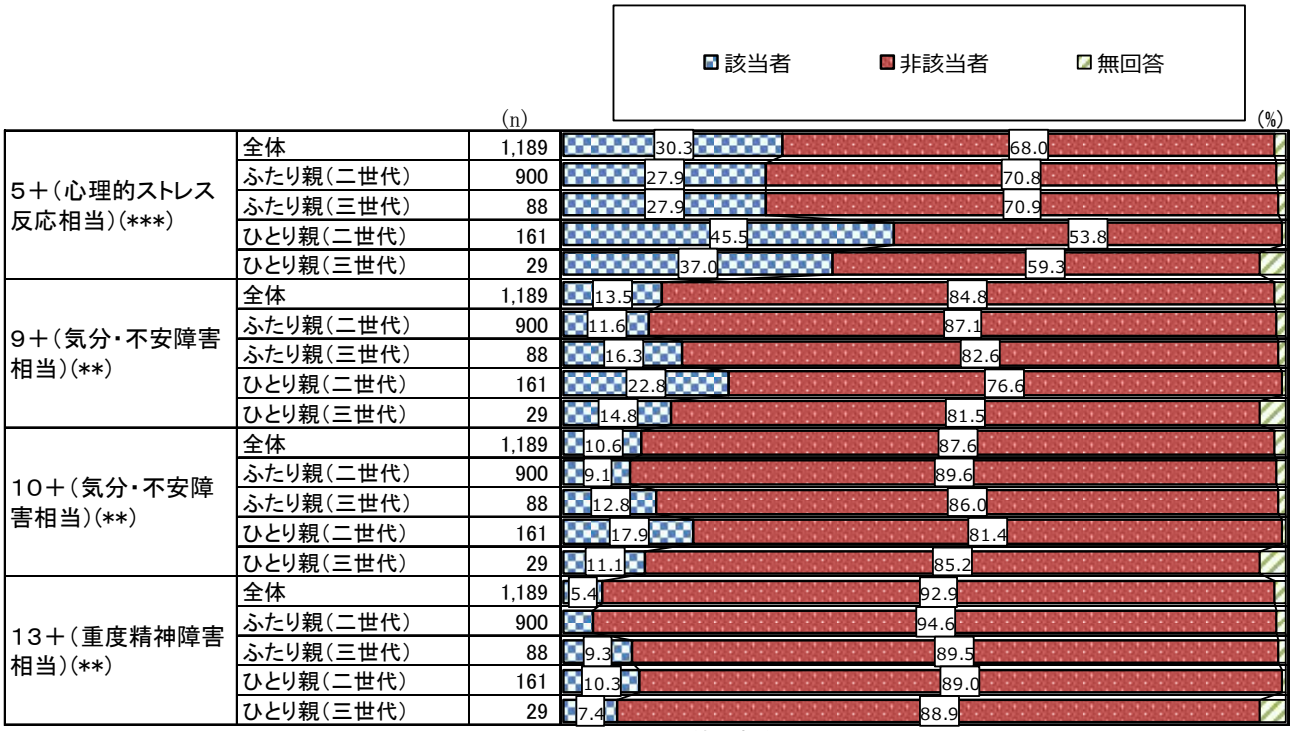
K6 指標の得点では、5 点以上（心理的ストレス反応相当）の母親は 30.3%、9 点以上（気分・不安障害相当）の母親は 13.5%、10 点以上（気分・不安障害相当）の母親は 10.6%、13 点以上（重度精神障害相当）の母親は 5.4%となっている。生活困難度別・世帯タイプ別に見ると、すべての水準で統計的に有意な差が確認され、生活困難度が高いほど、K6 指標の得点が高い傾向が見られた。また、ひとり親（二世代）世帯にて、K6 指標の得点が高い傾向が見られた。

図表 10-1-4　母親の K6 指標の得点：全体、生活困難度別



※5.0%以下は値を省略している

図表 10-1-5 母親の K6 指標の得点：全体、世帯タイプ別



※5.0%以下は値を省略している

図表 10-1-6 母親の K6 指標の得点：全体、生活困難度別

		該当数	該当者	非該当者	無回答
５＋（心理的ストレス反応相当）（＊＊＊）	全体	1,189 100.0	360 30.3	808 68.0	21 1.8
	困窮層	39 100.0	22 56.4	17 43.6	0 0.0
	周辺層	77 100.0	39 50.6	37 48.1	1 1.3
	一般層	670 100.0	185 27.6	483 72.1	2 0.3
９＋（気分・不安障害相当）（＊＊＊）	全体	1,189 100.0	160 13.5	1,008 84.8	21 1.8
	困窮層	39 100.0	15 38.5	24 61.5	0 0.0
	周辺層	77 100.0	23 29.9	53 68.8	1 1.3
	一般層	670 100.0	73 10.9	595 88.8	2 0.3
１０＋（気分・不安障害相当）（＊＊＊）	全体	1,189 100.0	126 10.6	1,042 87.6	21 1.8
	困窮層	39 100.0	12 30.8	27 69.2	0 0.0
	周辺層	77 100.0	20 26.0	56 72.7	1 1.3
	一般層	670 100.0	54 8.1	614 91.6	2 0.3
１３＋（重度精神障害相当）（＊＊＊）	全体	1,189 100.0	64 5.4	1,104 92.9	21 1.8
	困窮層	39 100.0	6 15.4	33 84.6	0 0.0
	周辺層	77 100.0	14 18.2	62 80.5	1 1.3
	一般層	670 100.0	25 3.7	643 96.0	2 0.3

図表 10-1-7 母親の K6 指標の得点：全体、世帯タイプ別

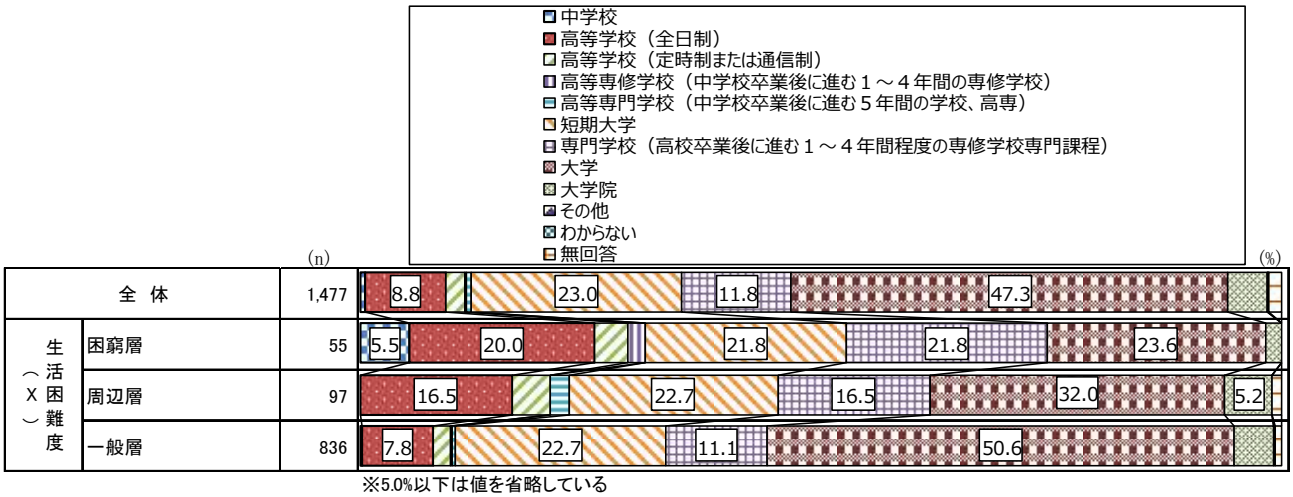
		該当数	該当者	非該当者	無回答
5＋（心理的ストレス反応相当）（＊＊＊）	全体	1,189 100.0	360 30.3	808 68.0	21 1.8
	ふたり親（二世代）	912 100.0	254 27.9	646 70.8	12 1.3
	ふたり親（三世代）	86 100.0	24 27.9	61 70.9	1 1.2
	ひとり親（二世代）	145 100.0	66 45.5	78 53.8	1 0.7
	ひとり親（三世代）	27 100.0	10 37.0	16 59.3	1 3.7
9＋（気分・不安障害相当）（＊＊）	全体	1,189 100.0	160 13.5	1,008 84.8	21 1.8
	ふたり親（二世代）	912 100.0	106 11.6	794 87.1	12 1.3
	ふたり親（三世代）	86 100.0	14 16.3	71 82.6	1 1.2
	ひとり親（二世代）	145 100.0	33 22.8	111 76.6	1 0.7
	ひとり親（三世代）	27 100.0	4 14.8	22 81.5	1 3.7
10＋（気分・不安障害相当）（＊＊）	全体	1,189 100.0	126 10.6	1,042 87.6	21 1.8
	ふたり親（二世代）	912 100.0	83 9.1	817 89.6	12 1.3
	ふたり親（三世代）	86 100.0	11 12.8	74 86.0	1 1.2
	ひとり親（二世代）	145 100.0	26 17.9	118 81.4	1 0.7
	ひとり親（三世代）	27 100.0	3 11.1	23 85.2	1 3.7
13＋（重度精神障害相当）（＊＊）	全体	1,189 100.0	64 5.4	1,104 92.9	21 1.8
	ふたり親（二世代）	912 100.0	37 4.1	863 94.6	12 1.3
	ふたり親（三世代）	86 100.0	8 9.3	77 89.5	1 1.2
	ひとり親（二世代）	145 100.0	15 10.3	129 89.0	1 0.7
	ひとり親（三世代）	27 100.0	2 7.4	24 88.9	1 3.7

２．保護者の成育環境

（１）母親の最終学歴

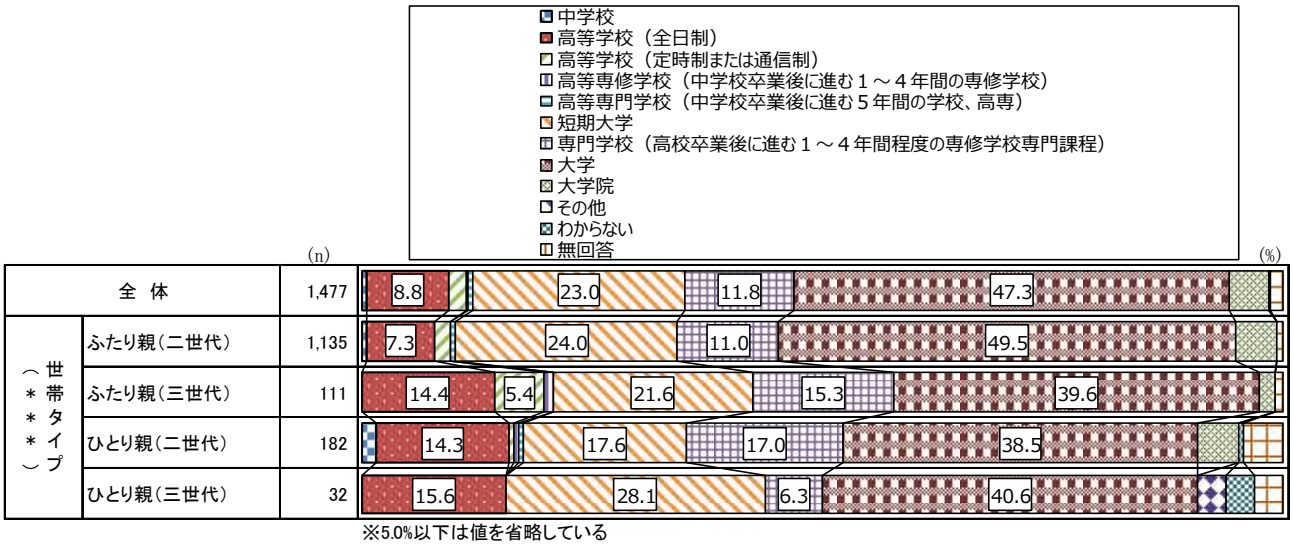
母親の最終学歴を見たところ、「大学」（47.3%）、「短期大学」（23.0%）、「専門学校」（11.8%）、「高等学校（全日制）」（8.8%）、「大学院」（4.3%）の順に割合が高かった。高等教育（高等専門学校、短期大学、専門学校、大学、大学院）を受けた母親の割合は９割弱となっており、全体的に高学歴である。

図表 10-2-1　母親の最終学歴：全体、生活困難度別(X)



※5.0%以下は値を省略している

図表 10-2-2　母親の最終学歴：全体、世帯タイプ別(***)



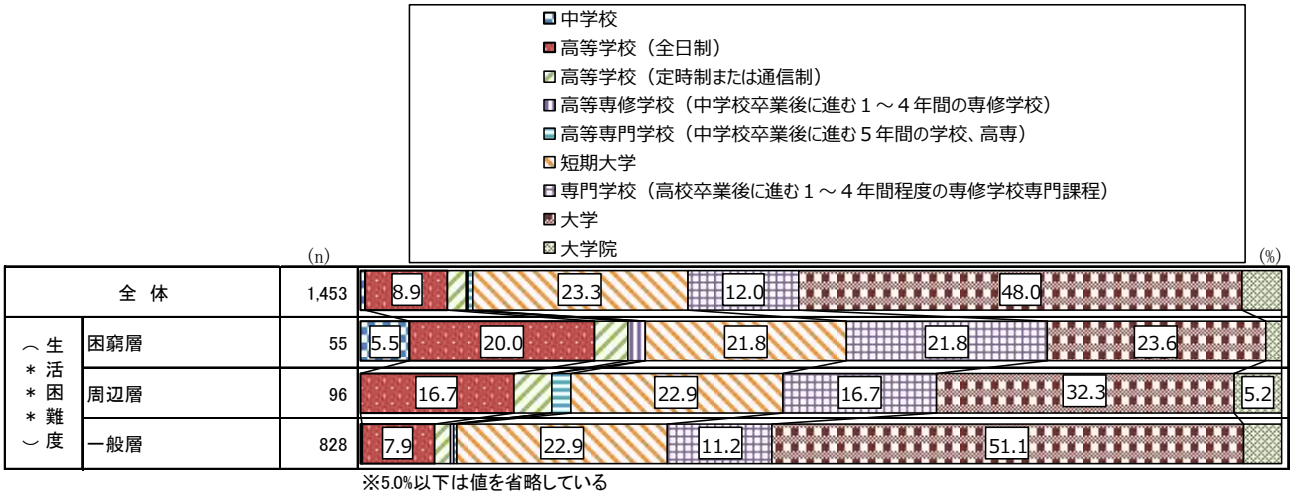
※5.0%以下は値を省略している

図表 10-2-3 母親の最終学歴：全体、生活困難度別(X)、世帯タイプ別(***)

		該当数	中学校	高等学校（全日制）	高等学校（定時制または通信制）	高等専修学校（中学校卒業後に進む1～4年間の専修学校）	高等専門学校（中学校卒業後に進む5年間の学校、高専）	短期大学	専門学校（高校卒業後に進む1～4年間程度の専修学校専門課程）	大学	大学院	その他	わからない	無回答
全体		1,477	9	130	29	3	7	339	175	698	63	1	2	21
		100.0	0.6	8.8	2.0	0.2	0.5	23.0	11.8	47.3	4.3	0.1	0.1	1.4
生活困難度（X）	困窮層	55	3	11	2	1	0	12	12	13	1	0	0	0
		100.0	5.5	20.0	3.6	1.8	0.0	21.8	21.8	23.6	1.8	0.0	0.0	0.0
	周辺層	97	0	16	4	0	2	22	16	31	5	0	0	1
		100.0	0.0	16.5	4.1	0.0	2.1	22.7	16.5	32.0	5.2	0.0	0.0	1.0
	一般層	836	2	65	15	2	3	190	93	423	35	0	2	6
		100.0	0.2	7.8	1.8	0.2	0.4	22.7	11.1	50.6	4.2	0.0	0.2	0.7
世帯タイプ（***）	ふたり親（二世代）	1,135	6	83	20	1	6	272	125	562	52	0	0	8
		100.0	0.5	7.3	1.8	0.1	0.5	24.0	11.0	49.5	4.6	0.0	0.0	0.7
	ふたり親（三世代）	111	0	16	6	1	0	24	17	44	2	0	0	1
		100.0	0.0	14.4	5.4	0.9	0.0	21.6	15.3	39.6	1.8	0.0	0.0	0.9
	ひとり親（二世代）	182	3	26	1	1	1	32	31	70	8	0	1	8
		100.0	1.6	14.3	0.5	0.5	0.5	17.6	17.0	38.5	4.4	0.0	0.5	4.4
	ひとり親（三世代）	32	0	5	0	0	0	9	2	13	0	1	1	1
		100.0	0.0	15.6	0.0	0.0	0.0	28.1	6.3	40.6	0.0	3.1	3.1	3.1

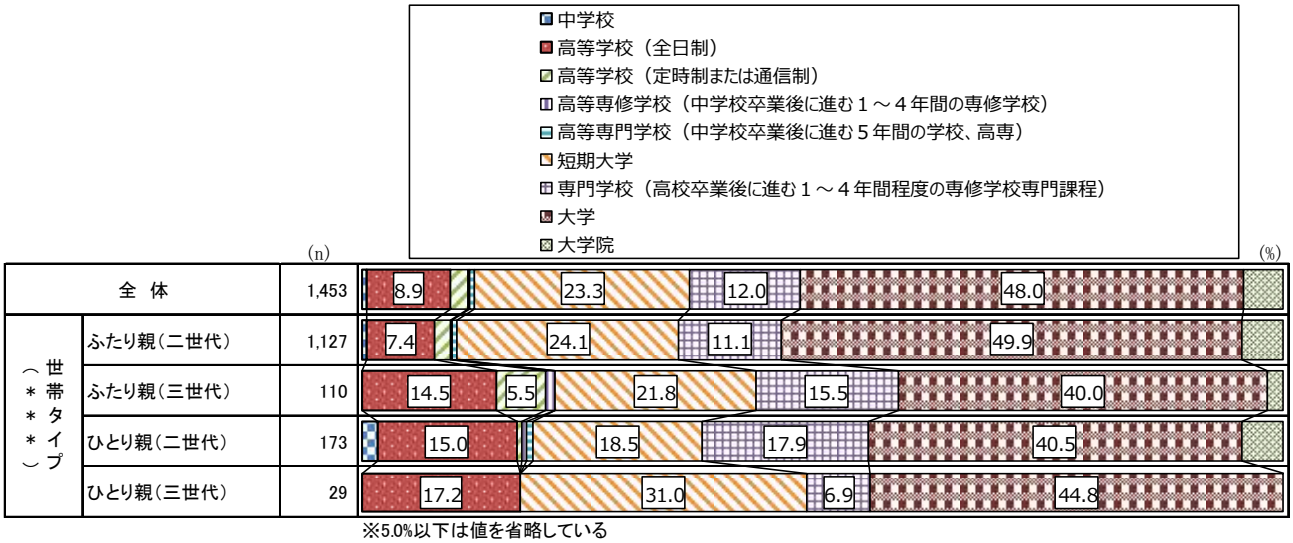
生活困難度別には、「その他」において困窮層・周辺層・一般層のいずれも 0 人であり、検定不能となっている。また、世帯タイプ別には、一貫した傾向は見られなかった。そこで、平成 30 年度調査と同様に、「その他」「わからない」「無回答」を除いて集計を行ったところ、生活困難度別・世帯タイプ別共に統計的に有意な差が確認され、高等教育を受けた割合は、生活困難層にて低いという結果が出た。ただし、困窮層でも高等教育（高等専門学校、短期大学、専門学校、大学、大学院）を受けた母親の割合は 69.1%にのぼっていることも注目に値する。

図表 10-2-4 母親の最終学歴（無回答を除く）：全体、生活困難度別(***)



※5.0%以下は値を省略している

図表 10-2-5 母親の最終学歴（無回答を除く）：全体、世帯タイプ別(***)



※5.0%以下は値を省略している

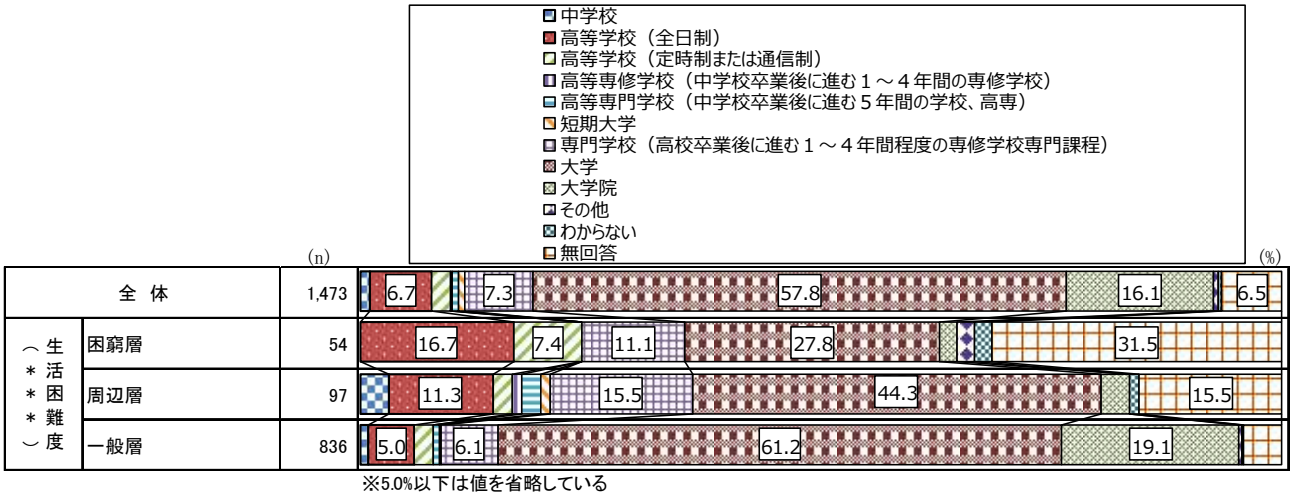
図表 10-2-6 母親の最終学歴（無回答を除く）：全体、生活困難度別(***)、世帯タイプ別(***)

		該当数	中学校	高等学校（全日制）	高等学校（定時制または通信制）	高等専修学校（中学校卒業後に進む１～４年間の専修学校）	高等専門学校（中学校卒業後に進む５年間の学校、高専）	短期大学	専門学校（高校卒業後に進む１～４年間程度の専修学校専門課程）	大学	大学院
全 体		1,453	9	130	29	3	7	339	175	698	63
		100.0	0.6	8.9	2.0	0.2	0.5	23.3	12.0	48.0	4.3
（生活困難度（***））	困窮層	55	3	11	2	1	0	12	12	13	1
		100.0	5.5	20.0	3.6	1.8	0.0	21.8	21.8	23.6	1.8
	周辺層	96	0	16	4	0	2	22	16	31	5
		100.0	0.0	16.7	4.2	0.0	2.1	22.9	16.7	32.3	5.2
	一般層	828	2	65	15	2	3	190	93	423	35
		100.0	0.2	7.9	1.8	0.2	0.4	22.9	11.2	51.1	4.2
（世帯タイプ（***））	ふたり親（二世代）	1,127	6	83	20	1	6	272	125	562	52
		100.0	0.5	7.4	1.8	0.1	0.5	24.1	11.1	49.9	4.6
	ふたり親（三世代）	110	0	16	6	1	0	24	17	44	2
		100.0	0.0	14.5	5.5	0.9	0.0	21.8	15.5	40.0	1.8
	ひとり親（二世代）	173	3	26	1	1	1	32	31	70	8
		100.0	1.7	15.0	0.6	0.6	0.6	18.5	17.9	40.5	4.6
	ひとり親（三世代）	29	0	5	0	0	0	9	2	13	0
		100.0	0.0	17.2	0.0	0.0	0.0	31.0	6.9	44.8	0.0

（２）父親の最終学歴

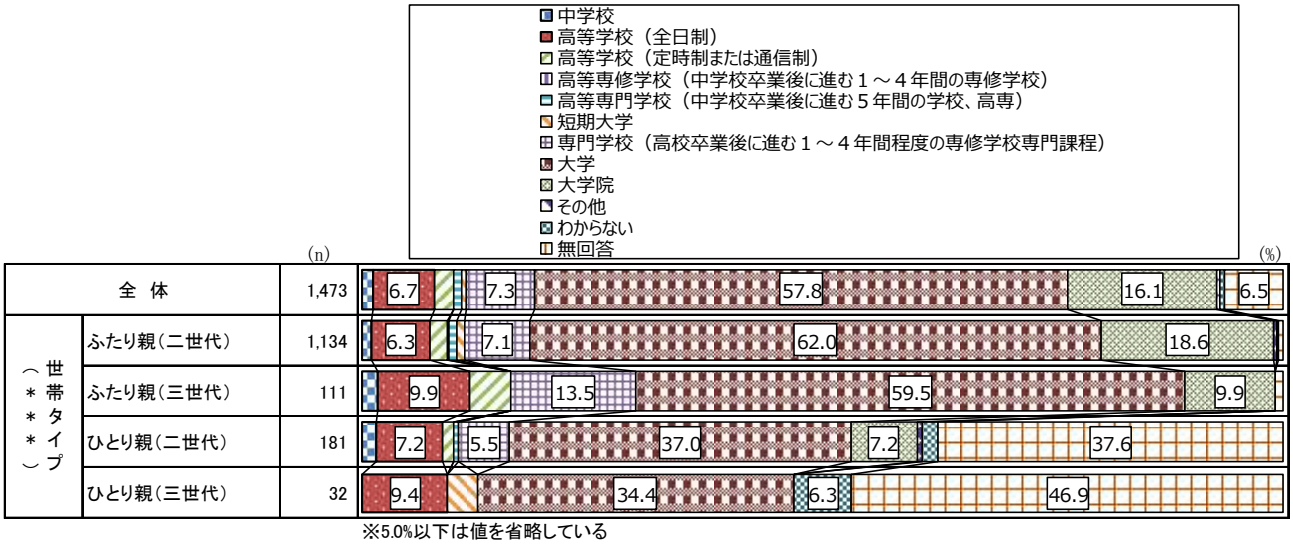
父親の最終学歴を見たところ、「大学」（57.8%）、「大学院」（16.1%）、「専門学校」（7.3%）、「高等学校（全日制）」（6.7%）の順に割合が高かった。高等教育（高等専門学校、短期大学、専門学校、大学、大学院）を受けた父親の割合は８割強となっており、全体的に高学歴である。

図表 10-2-7 父親の最終学歴：全体、生活困難度別(***)



※5.0%以下は値を省略している

図表 10-2-8 父親の最終学歴：全体、世帯タイプ別(***)



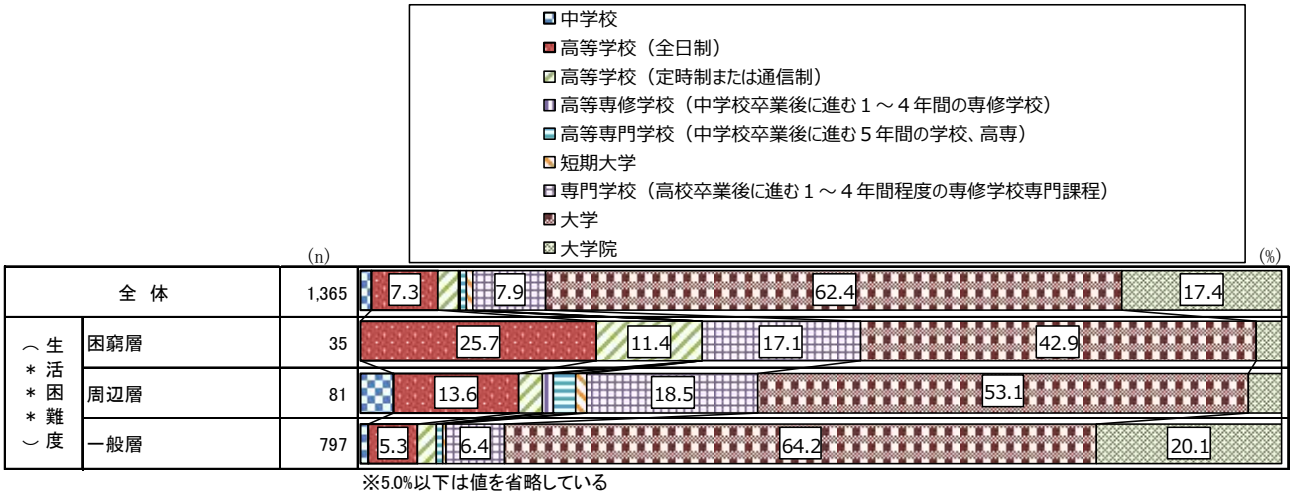
※5.0%以下は値を省略している

図表 10-2-9 父親の最終学歴：全体、生活困難度別(***)、世帯タイプ別(***)

		該当数	中学校	高等学校（全日制）	高等学校（定時制または通信制）	高等専修学校（中学校卒業後に進む1～4年間の専修学校）	高等専門学校（中学校卒業後に進む5年間の学校、高専）	短期大学	専門学校（高校卒業後に進む1～4年間程度の専修学校専門課程）	大学	大学院	その他	わからない	無回答
全体		1,473	17	99	30	2	11	9	108	852	237	6	6	96
		100.0	1.2	6.7	2.0	0.1	0.7	0.6	7.3	57.8	16.1	0.4	0.4	6.5
（生活困難度***）	困窮層	54	0	9	4	0	0	0	6	15	1	1	1	17
		100.0	0.0	16.7	7.4	0.0	0.0	0.0	11.1	27.8	1.9	1.9	1.9	31.5
	周辺層	97	3	11	2	1	2	1	15	43	3	0	1	15
		100.0	3.1	11.3	2.1	1.0	2.1	1.0	15.5	44.3	3.1	0.0	1.0	15.5
	一般層	836	8	42	17	0	5	2	51	512	160	3	2	34
		100.0	1.0	5.0	2.0	0.0	0.6	0.2	6.1	61.2	19.1	0.4	0.2	4.1
（世帯タイプ***）	ふたり親（二世代）	1,134	12	72	22	2	10	8	81	703	211	5	1	7
		100.0	1.1	6.3	1.9	0.2	0.9	0.7	7.1	62.0	18.6	0.4	0.1	0.6
	ふたり親（三世代）	111	2	11	5	0	0	0	15	66	11	0	0	1
		100.0	1.8	9.9	4.5	0.0	0.0	0.0	13.5	59.5	9.9	0.0	0.0	0.9
	ひとり親（二世代）	181	3	13	2	0	1	0	10	67	13	1	3	68
		100.0	1.7	7.2	1.1	0.0	0.6	0.0	5.5	37.0	7.2	0.6	1.7	37.6
	ひとり親（三世代）	32	0	3	0	0	0	1	0	11	0	0	2	15
		100.0	0.0	9.4	0.0	0.0	0.0	3.1	0.0	34.4	0.0	0.0	6.3	46.9

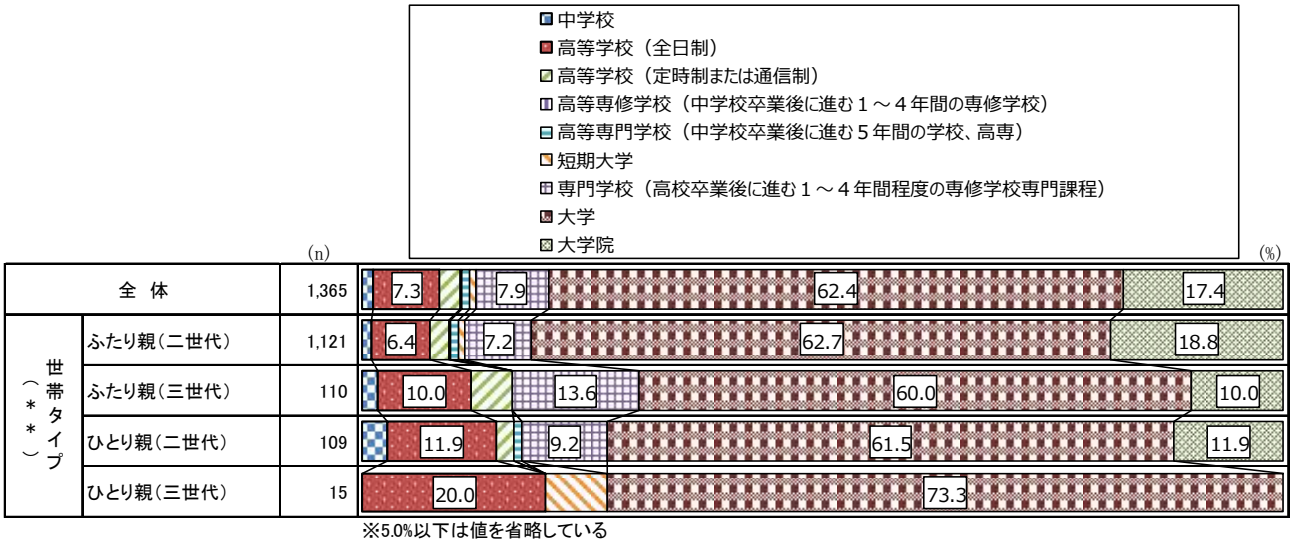
なお、父親については困窮層やひとり親世帯にて「無回答」の割合が高かった。そこで、平成30年度調査と同様に、「その他」「わからない」「無回答」を除いて集計を行ったところ、生活困難度別・世帯タイプ別共に統計的に有意な差が確認され、高等教育を受けた割合は、生活困難層にて低いという結果が出た。ただし、困窮層でも高等教育（高等専門学校、短期大学、専門学校、大学、大学院）を受けた父親の割合は 62.9%にのぼっていることも注目に値する。

図表 10-2-10 父親の最終学歴（無回答を除く）：全体、生活困難度別(***)



※5.0%以下は値を省略している

図表 10-2-11 父親の最終学歴（無回答を除く）：全体、世帯タイプ別(**)



※5.0%以下は値を省略している

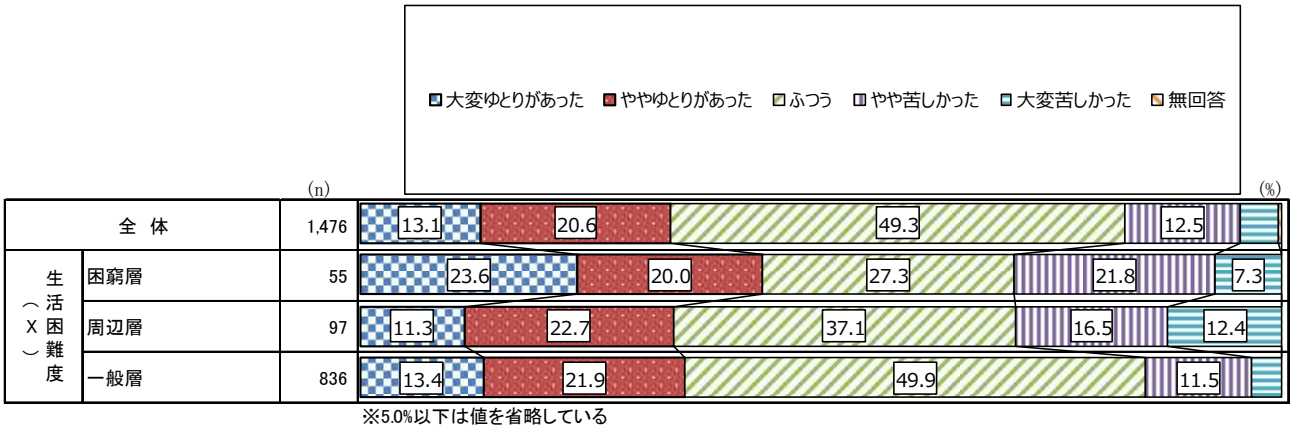
図表 10-2-12 父親の最終学歴（無回答を除く）：全体、生活困難度別(***)、世帯タイプ別(**)

		該当数	中学校	高等学校（全日制）	高等学校（定時制または通信制）	高等専修学校（中学校卒業後に進む1～4年間の専修学校）	高等専門学校（中学校卒業後に進む5年間の学校、高専）	短期大学	専門学校（高校卒業後に進む1～4年間程度の専修学校専門課程）	大学	大学院
全 体		1,365	17	99	30	2	11	9	108	852	237
		100.0	1.2	7.3	2.2	0.1	0.8	0.7	7.9	62.4	17.4
生活困難度（***）	困窮層	35	0	9	4	0	0	0	6	15	1
		100.0	0.0	25.7	11.4	0.0	0.0	0.0	17.1	42.9	2.9
	周辺層	81	3	11	2	1	2	1	15	43	3
		100.0	3.7	13.6	2.5	1.2	2.5	1.2	18.5	53.1	3.7
	一般層	797	8	42	17	0	5	2	51	512	160
		100.0	1.0	5.3	2.1	0.0	0.6	0.3	6.4	64.2	20.1
世帯タイプ（**）	ふたり親（二世代）	1,121	12	72	22	2	10	8	81	703	211
		100.0	1.1	6.4	2.0	0.2	0.9	0.7	7.2	62.7	18.8
	ふたり親（三世代）	110	2	11	5	0	0	0	15	66	11
		100.0	1.8	10.0	4.5	0.0	0.0	0.0	13.6	60.0	10.0
	ひとり親（二世代）	109	3	13	2	0	1	0	10	67	13
		100.0	2.8	11.9	1.8	0.0	0.9	0.0	9.2	61.5	11.9
	ひとり親（三世代）	15	0	3	0	0	0	1	0	11	0
		100.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	6.7	0.0	73.3	0.0

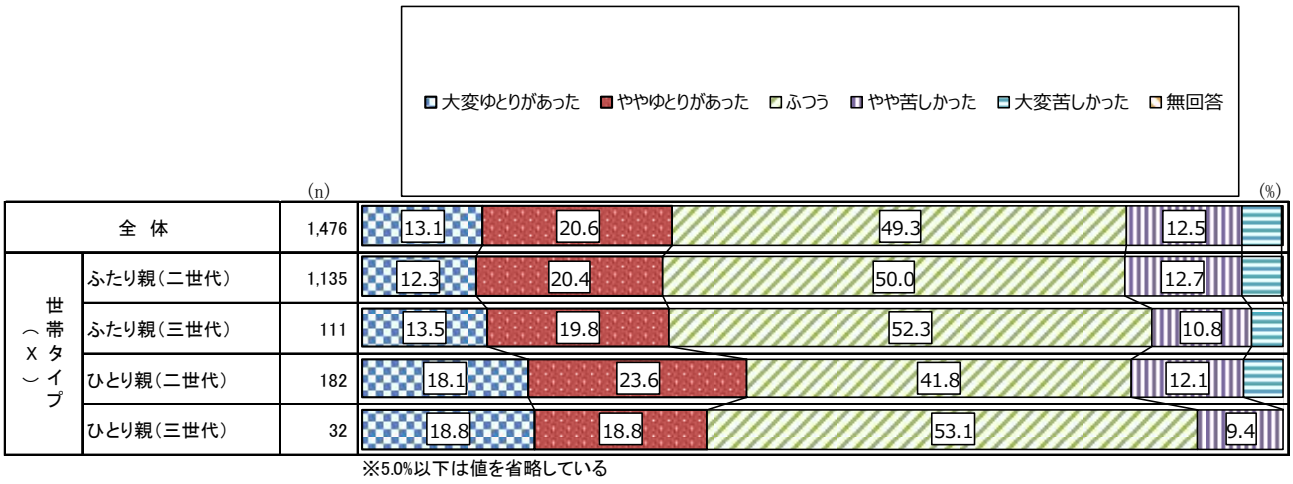
（3）15 歳当時の暮らし向き

保護者票にて、「あなたが 15 歳の頃の、あなたのご家庭の暮らし向きについて、最も近いものに○をつけてください」との問いにて、保護者の 15 歳当時の暮らし向きを見た。すると、「大変ゆとりがあった」が 13.1%、「ややゆとりがあった」は 20.6%、「ふつう」が 49.3%、「やや苦しかった」は 12.5%、「大変苦しかった」は 4.2%であった。

図表 10-2-13　15 歳当時の暮らし向き：全体、生活困難度別(X)



図表 10-2-14　15 歳当時の暮らし向き：全体、世帯タイプ別(X)

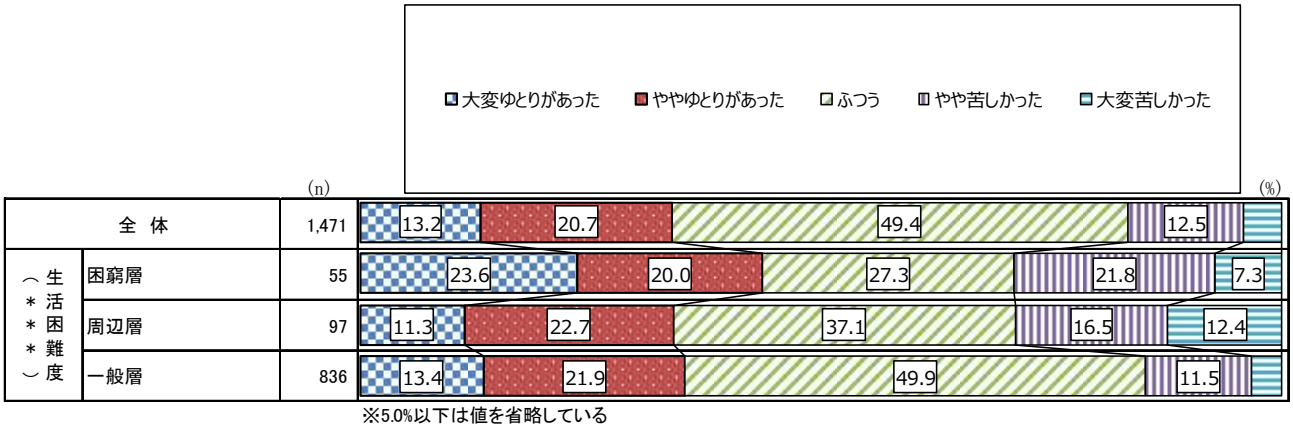


図表 10-2-15　15 歳当時の暮らし向き：全体、生活困難度別(X)、世帯タイプ別(X)

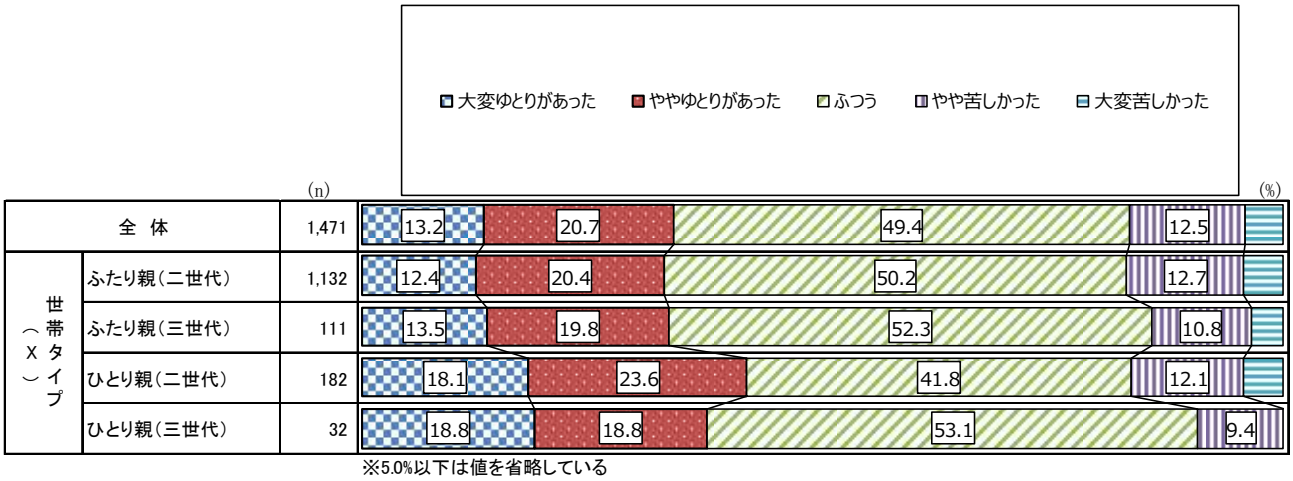
		該当数	大変ゆとりがあった	ややゆとりがあった	ふつう	やや苦しかった	大変苦しかった	無回答
全　体		1,476	194	304	727	184	62	5
		100.0	13.1	20.6	49.3	12.5	4.2	0.3
生活困難度（X）	困窮層	55	13	11	15	12	4	0
		100.0	23.6	20.0	27.3	21.8	7.3	0.0
	周辺層	97	11	22	36	16	12	0
		100.0	11.3	22.7	37.1	16.5	12.4	0.0
	一般層	836	112	183	417	96	28	0
		100.0	13.4	21.9	49.9	11.5	3.3	0.0
世帯タイプ（X）	ふたり親（二世代）	1,135	140	231	568	144	49	3
		100.0	12.3	20.4	50.0	12.7	4.3	0.3
	ふたり親（三世代）	111	15	22	58	12	4	0
		100.0	13.5	19.8	52.3	10.8	3.6	0.0
	ひとり親（二世代）	182	33	43	76	22	8	0
		100.0	18.1	23.6	41.8	12.1	4.4	0.0
	ひとり親（三世代）	32	6	6	17	3	0	0
		100.0	18.8	18.8	53.1	9.4	0.0	0.0

生活困難度別には、「無回答」の割合が困窮層・周辺層・一般層のいずれにおいても０人であり、そのままでは検定不能となっている。そこで、「無回答」を除いて集計を行ったところ、生活困難度別に統計的に有意な差が確認され、「やや苦しかった」または「大変苦しかった」割合は、一般層では 14.8%であったのに対し、困窮層では 29.1%にのぼった。

図表 10-2-16　15 歳当時の暮らし向き（無回答を除く）：全体、生活困難度別(***)



図表 10-2-17　15 歳当時の暮らし向き（無回答を除く）：全体、世帯タイプ別(X)



図表 10-2-18　15 歳当時の暮らし向き（無回答を除く）：全体、生活困難度別(***)、世帯タイプ別(X)

		該当数	大変ゆとりがあった	ややゆとりがあった	ふつう	やや苦しかった	大変苦しかった
全　体		1,471	194	304	727	184	62
		100.0	13.2	20.7	49.4	12.5	4.2
（***）生活困難度	困窮層	55	13	11	15	12	4
		100.0	23.6	20.0	27.3	21.8	7.3
	周辺層	97	11	22	36	16	12
		100.0	11.3	22.7	37.1	16.5	12.4
	一般層	836	112	183	417	96	28
		100.0	13.4	21.9	49.9	11.5	3.3
（X）世帯タイプ	ふたり親（二世代）	1,132	140	231	568	144	49
		100.0	12.4	20.4	50.2	12.7	4.3
	ふたり親（三世代）	111	15	22	58	12	4
		100.0	13.5	19.8	52.3	10.8	3.6
	ひとり親（二世代）	182	33	43	76	22	8
		100.0	18.1	23.6	41.8	12.1	4.4
	ひとり親（三世代）	32	6	6	17	3	0
		100.0	18.8	18.8	53.1	9.4	0.0

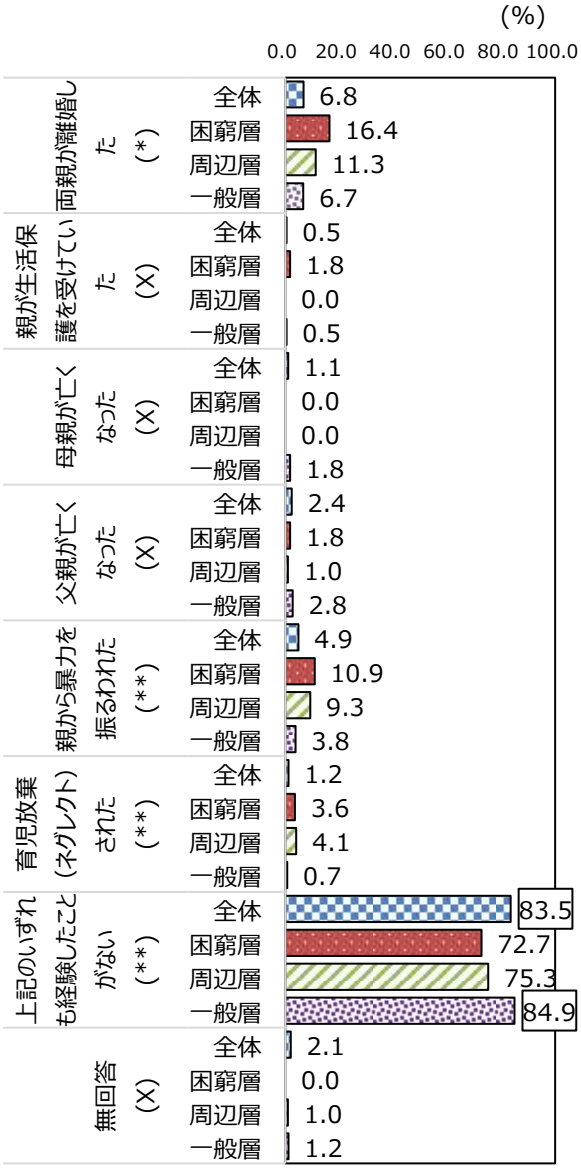
（４）成人するまでに体験した困難

保護者が成人するまでのさまざまな困難の状況を見るために、保護者票にて「あなたは、成人する前に以下のような体験をしたことがありますか」との問いにて、「両親が離婚した」「親が生活保護を受けていた」「母親が亡くなった」「父親が亡くなった」「親から暴力を受けた」「育児放棄（ネグレクト）された」について聞いた。その結果、８割以上の保護者は、どれも体験していないと答えているものの、「両親が離婚した」については 6.8%、「親から暴力を振るわれた」は 4.9%と約 20 人に 1 人の保護者がこれらを体験したと認識している。

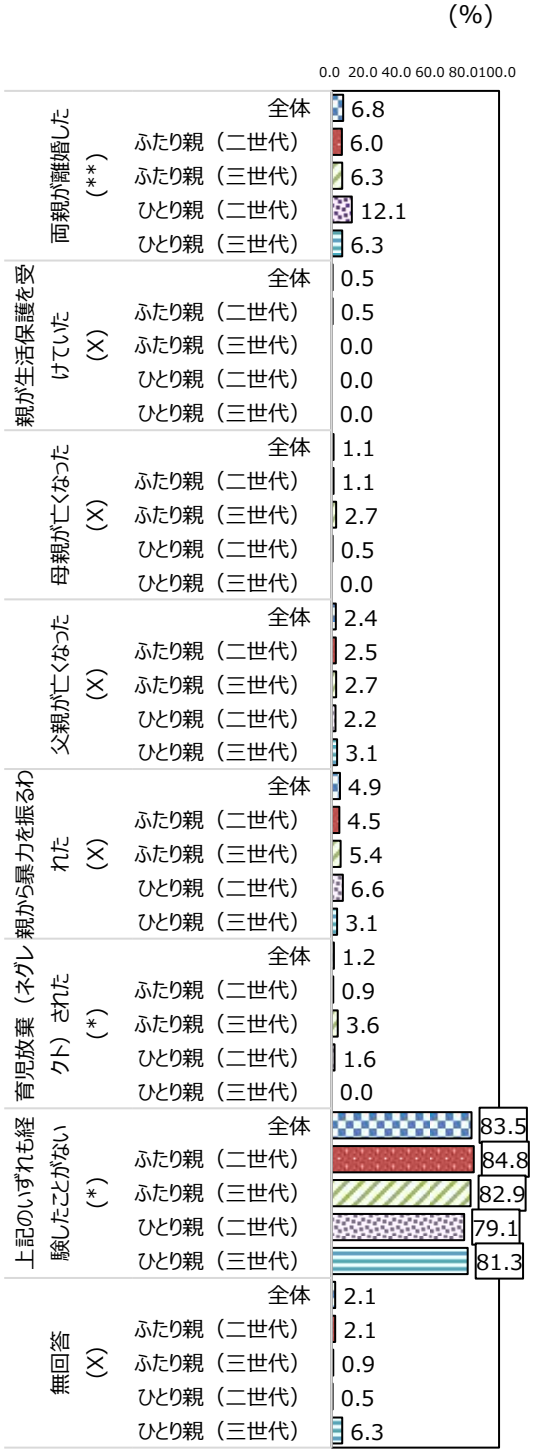
生活困難度別に見ると、「両親が離婚した」「親から暴力を振るわれた」「育児放棄（ネグレクト）された」にて統計的に有意な差が確認され、それぞれ、一般層では 6.7%・3.8%・0.7%であったのに対し、困窮層では 16.4%・10.9%・3.6%にのぼった。また、どれも経験していない保護者は一般層では 84.9%であったのに対し、困窮層では 72.7%にとどまった。

世帯タイプ別に見ると、「どれも経験していない」割合がひとり親世帯で若干ながら低い傾向が見られ、ひとり親世帯の方が「両親が離婚した」割合が高いことが分かる。ひとり親世帯は、自身の両親も離婚している傾向があると言える。

図表 10-2-19　保護者が成人するまでに体験した困難：全体、生活困難度別



図表 10-2-20 保護者が成人するまでに体験した困難：全体、世帯タイプ別



図表 10-2-21 保護者が成人するまでに体験した困難：全体、生活困難度別、世帯タイプ別

		該当数	両親が離婚した	親が生活保護を受けていた	母親が亡くなった	父親が亡くなった	親から暴力を振るわれた	育児放棄（ネグレクト）された	上記のいずれも経験したことがない	無回答
全 体		1,476	100	7	16	36	73	18	1,233	31
		100.0	6.8	0.5	1.1	2.4	4.9	1.2	83.5	2.1
生活困難度	困窮層	55	9	1	0	1	6	2	40	0
		100.0	16.4	1.8	0.0	1.8	10.9	3.6	72.7	0.0
	周辺層	97	11	0	0	1	9	4	73	1
		100.0	11.3	0.0	0.0	1.0	9.3	4.1	75.3	1.0
	一般層	836	56	4	15	23	32	6	710	10
		100.0	6.7	0.5	1.8	2.8	3.8	0.7	84.9	1.2
世帯タイプ	ふたり親（二世代）	1,135	68	6	12	28	51	10	962	24
		100.0	6.0	0.5	1.1	2.5	4.5	0.9	84.8	2.1
	ふたり親（三世代）	111	7	0	3	3	6	4	92	1
		100.0	6.3	0.0	2.7	2.7	5.4	3.6	82.9	0.9
	ひとり親（二世代）	182	22	0	1	4	12	3	144	1
		100.0	12.1	0.0	0.5	2.2	6.6	1.6	79.1	0.5
	ひとり親（三世代）	32	2	0	0	1	1	0	26	2
		100.0	6.3	0.0	0.0	3.1	3.1	0.0	81.3	6.3

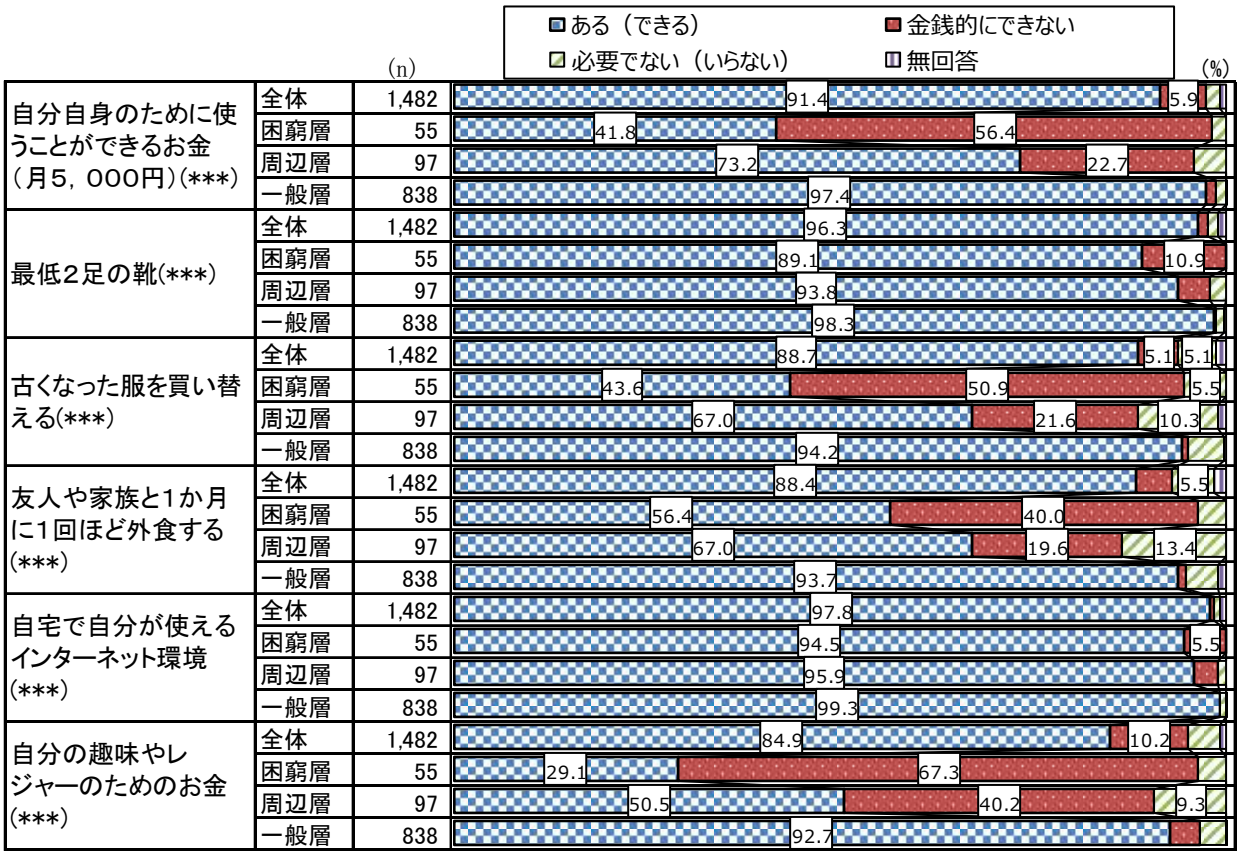
３．保護者の所有物・体験

保護者票にて、「自分自身のために使うことができるお金（月 5,000 円）」「最低２足の靴」「古くなった服を買い替える」「友人や家族と１か月に１回ほど外食する」「自宅で自分が使えるインターネット環境」「自分の趣味やレジャーのためのお金」の６項目について、「あなた自身には、自分が持っている（できる）以下のものがありますか。」と質問し、保護者の所有物・体験の状況を見た。すると、「自分自身のために使うことができるお金（月 5,000 円）」では 91.4%が、「最低２足の靴」では 96.3%が、「古くなった服を買い替える」では 88.7%が、「友人や家族と１か月に１回ほど外食する」では 88.4%が、「自宅で自分が使えるインターネット環境」では 97.8%が、「自分の趣味やレジャーのためのお金」では 84.9%が「ある（できる）」と回答していた。

生活困難度別に見ると、すべての項目で統計的に有意な差が確認され、生活困難度が高まるほど、「ある（できる）」と回答した割合が低く、「金銭的にできない」と回答した割合が高かった。

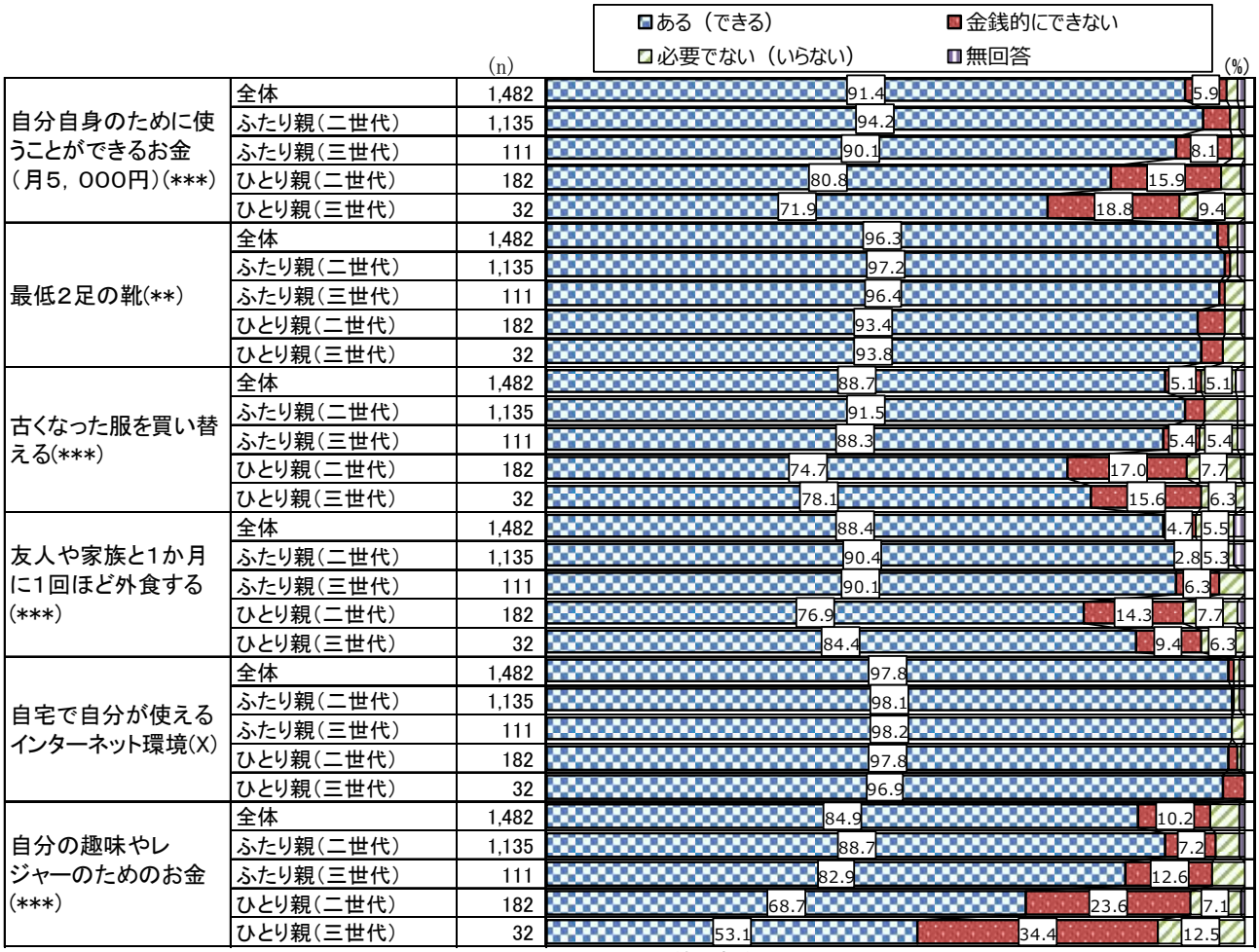
世帯タイプ別に見ると、「自宅で自分が使えるインターネット環境」以外の項目で統計的に有意な差が確認され、ひとり親世帯の方がふたり親世帯よりも所有している割合が少なく、「金銭的にできない」と回答した割合が高い傾向が見られた。

図表 10-3-1　保護者の所有物・体験：全体、生活困難度別



※5.0%以下は値を省略している

図表 10-3-2 保護者の所有物・体験：全体、世帯タイプ別



※5.0%以下は値を省略している

図表 10-3-3 保護者の所有物･体験：全体、生活困難度別

		該当数	ある（できる）	金銭的にできない	必要でない（いらない）	無回答
自分自身のために使うことができるお金（月５，０００円）（＊＊＊）	全体	1,482	1,355	88	26	13
		100.0	91.4	5.9	1.8	0.9
	困窮層	55	23	31	1	0
		100.0	41.8	56.4	1.8	0.0
	周辺層	97	71	22	4	0
		100.0	73.2	22.7	4.1	0.0
	一般層	838	816	11	10	1
		100.0	97.4	1.3	1.2	0.1
最低２足の靴（＊＊＊）	全体	1,482	1,427	20	20	15
		100.0	96.3	1.3	1.3	1.0
	困窮層	55	49	6	0	0
		100.0	89.1	10.9	0.0	0.0
	周辺層	97	91	4	2	0
		100.0	93.8	4.1	2.1	0.0
	一般層	838	824	3	9	2
		100.0	98.3	0.4	1.1	0.2
古くなった服を買い替える（＊＊＊）	全体	1,482	1,314	75	75	18
		100.0	88.7	5.1	5.1	1.2
	困窮層	55	24	28	3	0
		100.0	43.6	50.9	5.5	0.0
	周辺層	97	65	21	10	1
		100.0	67.0	21.6	10.3	1.0
	一般層	838	789	7	40	2
		100.0	94.2	0.8	4.8	0.2
友人や家族と１か月に１回ほど外食する（＊＊＊）	全体	1,482	1,310	69	81	22
		100.0	88.4	4.7	5.5	1.5
	困窮層	55	31	22	2	0
		100.0	56.4	40.0	3.6	0.0
	周辺層	97	65	19	13	0
		100.0	67.0	19.6	13.4	0.0
	一般層	838	785	10	33	10
		100.0	93.7	1.2	3.9	1.2
自宅で自分が使えるインターネット環境（＊＊＊）	全体	1,482	1,450	8	12	12
		100.0	97.8	0.5	0.8	0.8
	困窮層	55	52	3	0	0
		100.0	94.5	5.5	0.0	0.0
	周辺層	97	93	3	1	0
		100.0	95.9	3.1	1.0	0.0
	一般層	838	832	0	5	1
		100.0	99.3	0.0	0.6	0.1
自分の趣味やレジャーのためのお金（＊＊＊）	全体	1,482	1,258	151	61	12
		100.0	84.9	10.2	4.1	0.8
	困窮層	55	16	37	2	0
		100.0	29.1	67.3	3.6	0.0
	周辺層	97	49	39	9	0
		100.0	50.5	40.2	9.3	0.0
	一般層	838	777	32	28	1
		100.0	92.7	3.8	3.3	0.1

図表 10-3-4 保護者の所有物・体験：全体、世帯タイプ別

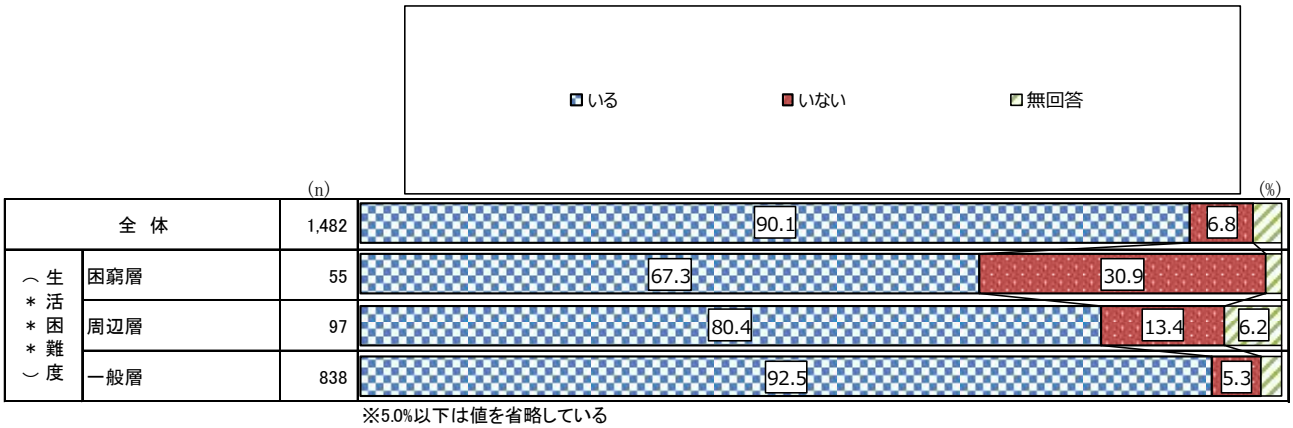
		該当数	ある（できる）	金銭的にできない	必要でない（いらない）	無回答
自分自身のために使うことができるお金（月５，０００円）（＊＊＊）	全体	1,482	1,355	88	26	13
		100.0	91.4	5.9	1.8	0.9
	ふたり親（二世代）	1,135	1,069	42	16	8
		100.0	94.2	3.7	1.4	0.7
	ふたり親（三世代）	111	100	9	2	0
		100.0	90.1	8.1	1.8	0.0
	ひとり親（二世代）	182	147	29	5	1
		100.0	80.8	15.9	2.7	0.5
	ひとり親（三世代）	32	23	6	3	0
		100.0	71.9	18.8	9.4	0.0
最低２足の靴（＊＊）	全体	1,482	1,427	20	20	15
		100.0	96.3	1.3	1.3	1.0
	ふたり親（二世代）	1,135	1,103	10	12	10
		100.0	97.2	0.9	1.1	0.9
	ふたり親（三世代）	111	107	1	3	0
		100.0	96.4	0.9	2.7	0.0
	ひとり親（二世代）	182	170	7	4	1
		100.0	93.4	3.8	2.2	0.5
	ひとり親（三世代）	32	30	1	1	0
		100.0	93.8	3.1	3.1	0.0
古くなった服を買い替える（＊＊＊）	全体	1,482	1,314	75	75	18
		100.0	88.7	5.1	5.1	1.2
	ふたり親（二世代）	1,135	1,038	32	53	12
		100.0	91.5	2.8	4.7	1.1
	ふたり親（三世代）	111	98	6	6	1
		100.0	88.3	5.4	5.4	0.9
	ひとり親（二世代）	182	136	31	14	1
		100.0	74.7	17.0	7.7	0.5
	ひとり親（三世代）	32	25	5	2	0
		100.0	78.1	15.6	6.3	0.0
友人や家族と１か月に１回ほど外食する（＊＊＊）	全体	1,482	1,310	69	81	22
		100.0	88.4	4.7	5.5	1.5
	ふたり親（二世代）	1,135	1,026	32	60	17
		100.0	90.4	2.8	5.3	1.5
	ふたり親（三世代）	111	100	7	4	0
		100.0	90.1	6.3	3.6	0.0
	ひとり親（二世代）	182	140	26	14	2
		100.0	76.9	14.3	7.7	1.1
	ひとり親（三世代）	32	27	3	2	0
		100.0	84.4	9.4	6.3	0.0
自宅で自分が使えるインターネット環境（Ｘ）	全体	1,482	1,450	8	12	12
		100.0	97.8	0.5	0.8	0.8
	ふたり親（二世代）	1,135	1,114	5	9	7
		100.0	98.1	0.4	0.8	0.6
	ふたり親（三世代）	111	109	0	2	0
		100.0	98.2	0.0	1.8	0.0
	ひとり親（二世代）	182	178	2	1	1
		100.0	97.8	1.1	0.5	0.5
	ひとり親（三世代）	32	31	1	0	0
		100.0	96.9	3.1	0.0	0.0
自分の趣味やレジャーのためのお金（＊＊＊）	全体	1,482	1,258	151	61	12
		100.0	84.9	10.2	4.1	0.8
	ふたり親（二世代）	1,135	1,007	82	38	8
		100.0	88.7	7.2	3.3	0.7
	ふたり親（三世代）	111	92	14	5	0
		100.0	82.9	12.6	4.5	0.0
	ひとり親（二世代）	182	125	43	13	1
		100.0	68.7	23.6	7.1	0.5
	ひとり親（三世代）	32	17	11	4	0
		100.0	53.1	34.4	12.5	0.0

４．保護者の相談相手の有無

保護者票にて、「あなたは、本当に困ったときや悩みがあるとき、相談できる人（家族、友人、親戚、同僚など）がいますか。」との質問にて、相談相手の有無を聞いた。すると、「いる」と回答した割合が 90.1%、「いない」と回答した割合が 6.8%であった。

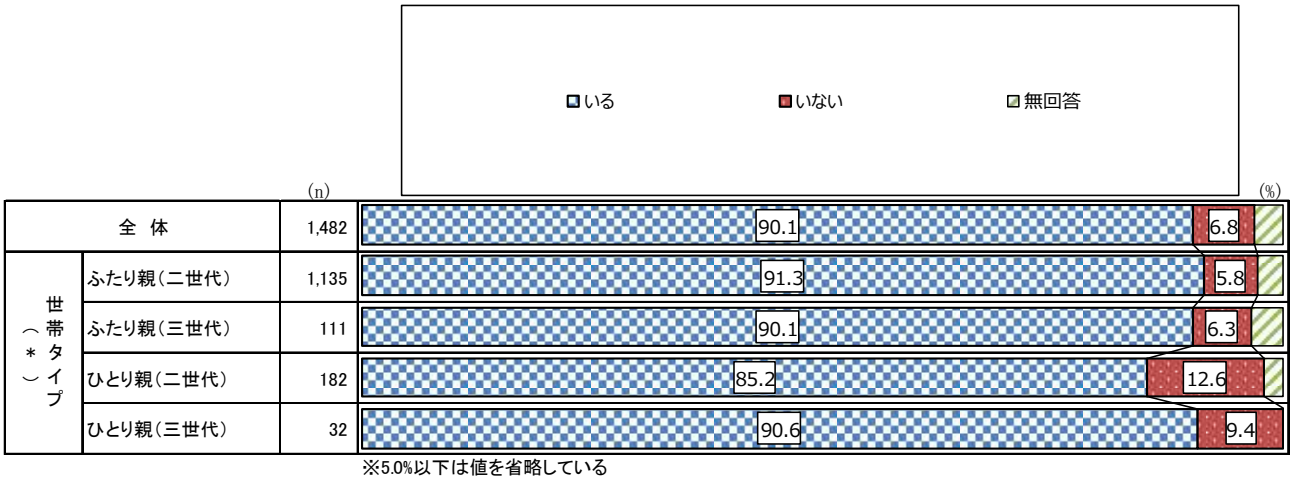
生活困難度別に見ると、「いる」と回答した割合は、生活困難度が高いほど高く、困窮層では 67.3%にとどまった。また、世帯タイプ別に見ると、「いる」と回答した割合は、ひとり親（二世代）世帯にて低かった。

図表 10-4-1 保護者の相談相手の有無：全体、生活困難度別(***)



※5.0%以下は値を省略している

図表 10-4-2 保護者の相談相手の有無：全体、世帯タイプ別(*)



※5.0%以下は値を省略している

図表 10-4-3 保護者の相談相手の有無：全体、生活困難度別(***)、世帯タイプ別(*)

		該当数	いる	いない	無回答
全 体		1,482 100.0	1,335 90.1	101 6.8	46 3.1
生活困難度（***）	困窮層	55 100.0	37 67.3	17 30.9	1 1.8
	周辺層	97 100.0	78 80.4	13 13.4	6 6.2
	一般層	838 100.0	775 92.5	44 5.3	19 2.3
世帯タイプ（*）	ふたり親（二世代）	1,135 100.0	1,036 91.3	66 5.8	33 2.9
	ふたり親（三世代）	111 100.0	100 90.1	7 6.3	4 3.6
	ひとり親（二世代）	182 100.0	155 85.2	23 12.6	4 2.2
	ひとり親（三世代）	32 100.0	29 90.6	3 9.4	0 0.0

５．まとめ

（１）保護者の健康状態・成育環境

母親の主観的健康状態は、半数程度が「よい」「まあよい」であり、「ふつう」も合わせると９割弱にのぼるが、「あまりよくない」「よくない」と回答した保護者も１割強存在した。また、母親の主観的健康状態は生活困難度や世帯タイプと密接な関係にある。困窮層では、健康状態が「よい」「まあよい」と回答した母親がわずか２割強であった。また、ひとり親世帯では４割弱であった（**図表 10-1-1**、**図表 10-1-2**、**図表 10-1-3**）。

抑うつ傾向についても懸念され、母親の 30.3%が「心理的ストレス反応相当」にあり、さらに、5.4%が「重症精神障害相当」の抑うつ傾向にある。特に、困窮層においてはおよそ２人に１人が「心理的ストレス反応相当」であり、およそ６人に１人が「重症精神障害相当」である（**図表 10-1-4**、**図表 10-1-6**）。

保護者の経済状況やひとり親世帯であることによるストレスなどに加え、保護者の抑うつ状況は、子どもの日常生活に大きな悪影響を与える。そのため、保健分野だけでなく、教育現場や児童福祉（子育て支援を含む）現場において、相談や支援を通じて、保護者の抑うつ状況を悪化させることのないよう、留意すべきであろう。また、保護者への支援が、子どもへの支援と共に検討されるべきであろう。保護者に対する医療・保健分野からの支援に加え、ストレスを緩和する支援策を充実させていくことが重要である。

一部の母親の健康状態が悪いことの要因の一つとして、保護者の成育期の逆境が考えられる。本調査においては、「親から暴力を振るわれた」といった体験を自認する保護者が少なからず存在する。成育期のこれらの経験は、親となってからの養育困難や孤立とも強い関連があることがわかっており、現在の経済状況よりも大きい影響を及ぼす可能性が指摘されている。世田谷区においては、親からの暴力について困窮層の１割強がこのような体験があったと回答しており、それを踏まえた支援が必要であろう（**図表 10-2-19**、**図表 10-2-21**）。

（２）保護者の学歴

保護者は、全体的には高学歴層が多く、高等教育（高等専門学校、短期大学、専門学校、大学、大学院）卒であると回答した割合は母親では９割弱、父親では８割強となっている。また、母親・父親共に高等教育を受けた割合が生活困難層では低いことが確認できたが、同時に、困窮層でも母親の７割弱・父親の６割強が高等教育を受けていることも注目に値する（**図表 10-2-1**、**図表 10-2-3**、**図表 10-2-4**、**図表 10-2-6**、**図表 10-2-7**、**図表 10-2-9**、**図表 10-2-10**、**図表 10-2-12**）。

（３）保護者の所有物・体験

保護者の所有物・体験について見ると、「最低２足の靴」「自宅で自分が使えるインターネット環境」はほぼ全員が、「自分自身のために使うことができるお金（月 5,000 円）」「古くなった服を買い替える」「友人や家族と１か月に１回ほど外食する」は９割前後が、「自分の趣味やレジャーのためのお金」は８割半ばが「ある（できる）」と回答しており、大多数が所有・体験をしている状況であった。しかし、困窮層になると、「自分自身のために使うことができるお金（月 5,000 円）」は「ある（できる）」割合が 41.8%、「友人や家族と１か月に１回ほど外食する」は「ある（できる）」割合が 56.4%、「自分の趣味やレジャーのためのお金」は「ある（できる）」割合が 29.1%にとどまった。このように、大多数が所有・体験している物を所有・体験できない状況にある保護者が一定数存在している（**図表 10-3-1**、**図表 10-3-3**）。

（４）保護者の相談相手の有無

９割以上の保護者に相談相手がいたが、その割合は世帯タイプと生活困難度と関係がある。特に困窮層とひとり親

（二世代）世帯の保護者において、相談相手がいる割合が低くなる傾向があり、困窮層やひとり親世帯の保護者ほど、孤立している可能性がある（**図表 10-4-1**、**図表 10-4-2**、**図表 10-4-3**）。

第 11 章　制度・サービスの利用

１．様々な支援サービス

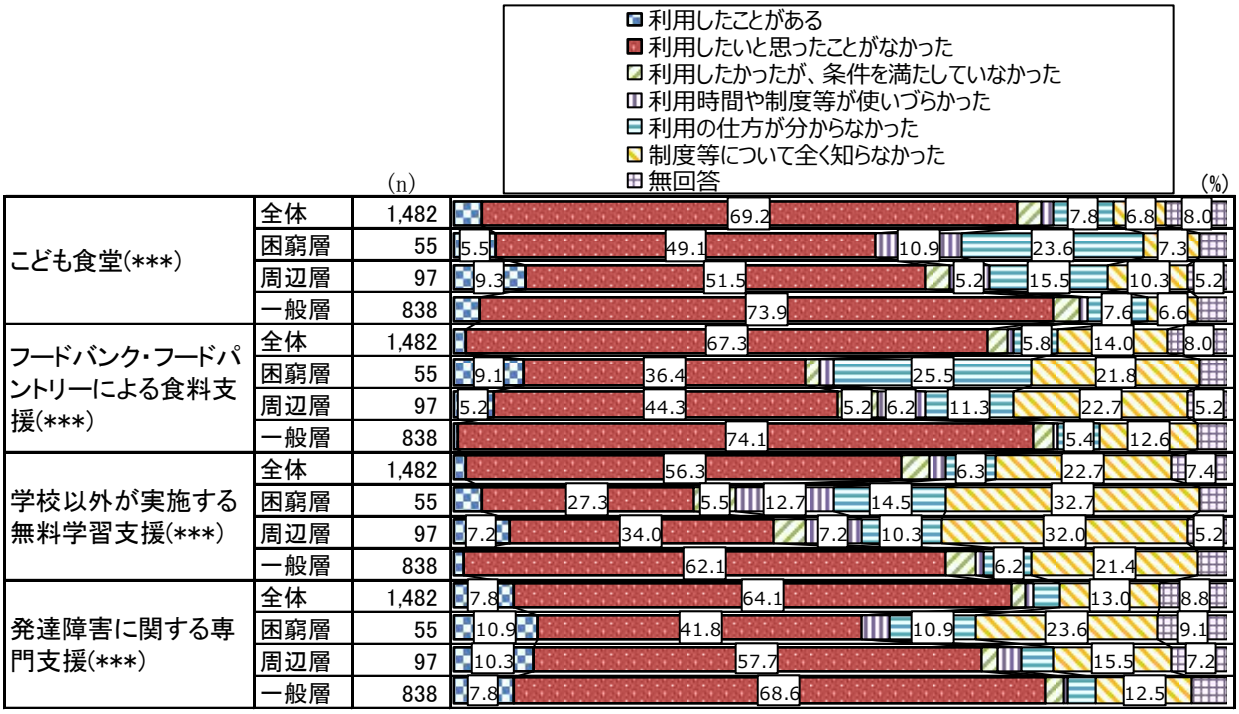
（１）支援サービスの利用状況

保護者に、様々な支援サービスの利用状況を聞いた。まず、「こども食堂」「フードバンク・フードパントリーによる食料支援」「学校以外が実施する無料学習支援」「発達障害に関する専門支援」では、利用したことがある割合はそれぞれ 3.6%、1.6%、1.7%、7.8%であった。また、「利用したかったが、条件を満たしていなかった」「利用時間や制度等が使いづらかった」「利用の仕方が分からなかった」の３つを合わせて、利用意向があったが利用しなかった割合は、それぞれ 12.3%、9.2%、11.9%、6.3%であり、一定の割合で存在することが分かる。また、「制度等について全く知らなかった」保護者も、それぞれ 6.8%、14.0%、22.7%、13.0%と一定の割合で存在している。

生活困難度別に見ると、すべての項目で統計的に有意な傾向が確認された。「利用したことがある」割合は生活困難層にて高くなり、「利用したいと思ったことがなかった」割合は生活困難層にて低かった。また、「利用したかったが、条件を満たしていなかった」「利用時間や制度等が使いづらかった」「利用の仕方が分からなかった」の３つを合わせて、利用意向があったが利用しなかった保護者とした場合、その割合は、生活が困窮するほど高かった。加えて、「制度等について全く知らなかった」割合が、生活困難層の方が高かった。

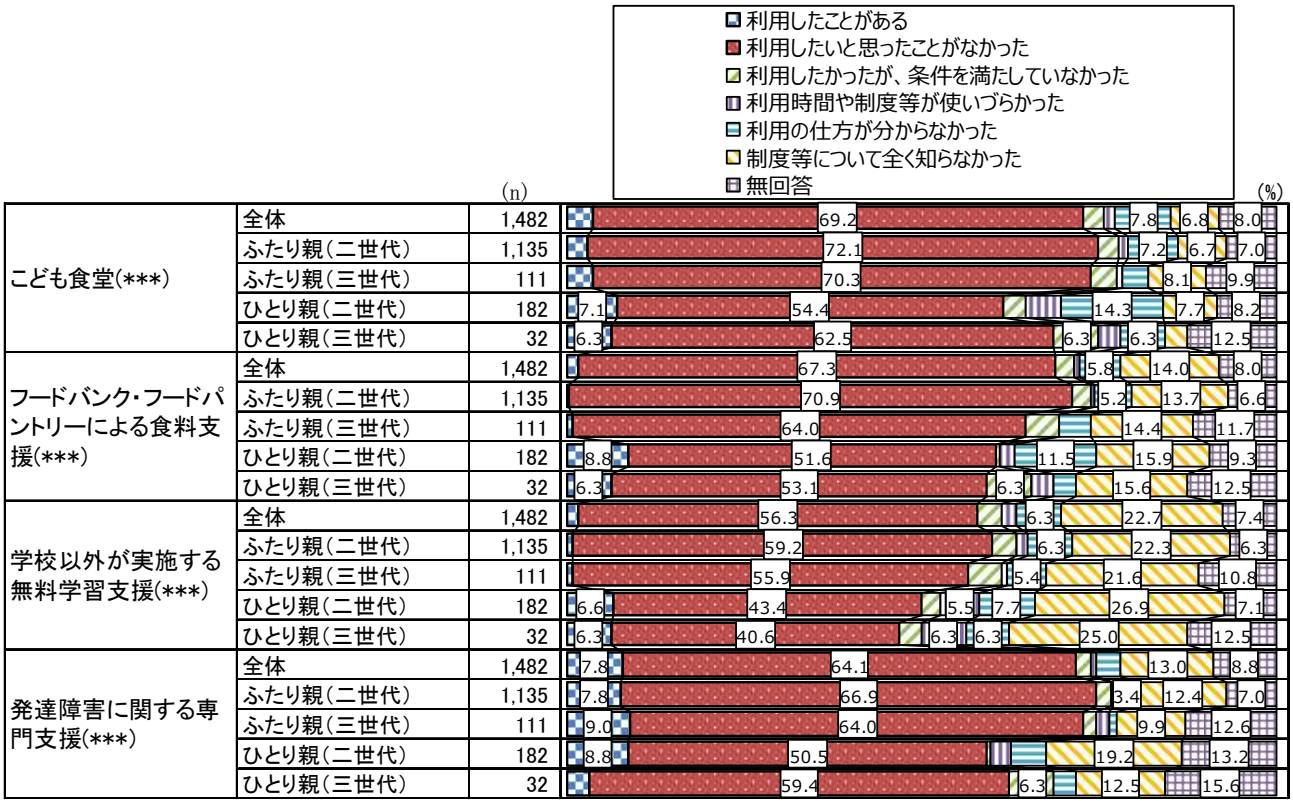
世帯タイプ別に見ると、すべての項目で統計的に有意な傾向が確認された。ひとり親世帯にて「利用したことがある」割合が「発達障害に関する専門支援」を除いて高く、「利用したいと思ったことがなかった」割合がすべての項目で低かった。また、「利用したかったが、条件を満たしていなかった」「利用時間や制度等が使いづらかった」「利用の仕方が分からなかった」の３つを合わせて、利用意向があったが利用しなかった保護者とした場合、その割合は、すべての項目でひとり親世帯の方が高かった。加えて、「制度等について全く知らなかった」割合は、「こども食堂」を除いてひとり親世帯の方が高かった。

図表 11-1-1：支援サービスの利用状況：全体、生活困難度別



※5.0%以下は値を省略している

図表 11-1-2：支援サービスの利用状況：全体、世帯タイプ別



※5.0%以下は値を省略している

図表 11-1-3：支援サービスの利用状況：全体、生活困難度別

		該当数	利用したことがある	利用したいと思ったことがなかった	利用したかったが、条件を満たしていなかった	利用時間や制度等が使いづらかった	利用の仕方が分からなかった	制度等について全く知らなかった	無回答
こども食堂（＊＊＊）	全体	1,482	54	1,025	44	24	115	101	119
		100.0	3.6	69.2	3.0	1.6	7.8	6.8	8.0
	困窮層	55	3	27	0	6	13	4	2
		100.0	5.5	49.1	0.0	10.9	23.6	7.3	3.6
	周辺層	97	9	50	3	5	15	10	5
		100.0	9.3	51.5	3.1	5.2	15.5	10.3	5.2
	一般層	838	29	619	30	8	64	55	33
		100.0	3.5	73.9	3.6	1.0	7.6	6.6	3.9
フードバンク・フードパントリーによる食料支援（＊＊＊）	全体	1,482	23	998	38	12	86	207	118
		100.0	1.6	67.3	2.6	0.8	5.8	14.0	8.0
	困窮層	55	5	20	1	1	14	12	2
		100.0	9.1	36.4	1.8	1.8	25.5	21.8	3.6
	周辺層	97	5	43	5	6	11	22	5
		100.0	5.2	44.3	5.2	6.2	11.3	22.7	5.2
	一般層	838	6	621	23	4	45	106	33
		100.0	0.7	74.1	2.7	0.5	5.4	12.6	3.9
学校以外が実施する無料学習支援（＊＊＊）	全体	1,482	25	834	51	31	94	337	110
		100.0	1.7	56.3	3.4	2.1	6.3	22.7	7.4
	困窮層	55	2	15	3	7	8	18	2
		100.0	3.6	27.3	5.5	12.7	14.5	32.7	3.6
	周辺層	97	7	33	4	7	10	31	5
		100.0	7.2	34.0	4.1	7.2	10.3	32.0	5.2
	一般層	838	12	520	33	9	52	179	33
		100.0	1.4	62.1	3.9	1.1	6.2	21.4	3.9
発達障害に関する専門支援（＊＊＊）	全体	1,482	116	950	30	12	51	192	131
		100.0	7.8	64.1	2.0	0.8	3.4	13.0	8.8
	困窮層	55	6	23	0	2	6	13	5
		100.0	10.9	41.8	0.0	3.6	10.9	23.6	9.1
	周辺層	97	10	56	2	3	4	15	7
		100.0	10.3	57.7	2.1	3.1	4.1	15.5	7.2
	一般層	838	65	575	20	4	30	105	39
		100.0	7.8	68.6	2.4	0.5	3.6	12.5	4.7

図表 11-1-4：支援サービスの利用状況：全体、世帯タイプ別

		該当数	利用したことがある	利用したいと思ったことがなかった	利用したかったが、条件を満たしていなかった	利用時間や制度等が使いづらかった	利用の仕方が分からなかった	制度等について全く知らなかった	無回答
こども食堂（＊＊＊）	全体	1,482	54	1,025	44	24	115	101	119
		100.0	3.6	69.2	3.0	1.6	7.8	6.8	8.0
	ふたり親（二世代）	1,135	34	818	32	13	82	76	80
		100.0	3.0	72.1	2.8	1.1	7.2	6.7	7.0
	ふたり親（三世代）	111	4	78	4	1	4	9	11
		100.0	3.6	70.3	3.6	0.9	3.6	8.1	9.9
	ひとり親（二世代）	182	13	99	6	9	26	14	15
		100.0	7.1	54.4	3.3	4.9	14.3	7.7	8.2
	ひとり親（三世代）	32	2	20	2	1	2	1	4
		100.0	6.3	62.5	6.3	3.1	6.3	3.1	12.5
フードバンク・フードパントリーによる食料支援（＊＊＊）	全体	1,482	23	998	38	12	86	207	118
		100.0	1.6	67.3	2.6	0.8	5.8	14.0	8.0
	ふたり親（二世代）	1,135	4	805	30	6	59	156	75
		100.0	0.4	70.9	2.6	0.5	5.2	13.7	6.6
	ふたり親（三世代）	111	1	71	5	0	5	16	13
		100.0	0.9	64.0	4.5	0.0	4.5	14.4	11.7
	ひとり親（二世代）	182	16	94	1	4	21	29	17
		100.0	8.8	51.6	0.5	2.2	11.5	15.9	9.3
	ひとり親（三世代）	32	2	17	2	1	1	5	4
		100.0	6.3	53.1	6.3	3.1	3.1	15.6	12.5
学校以外が実施する無料学習支援（＊＊＊）	全体	1,482	25	834	51	31	94	337	110
		100.0	1.7	56.3	3.4	2.1	6.3	22.7	7.4
	ふたり親（二世代）	1,135	10	672	39	18	71	253	72
		100.0	0.9	59.2	3.4	1.6	6.3	22.3	6.3
	ふたり親（三世代）	111	1	62	5	1	6	24	12
		100.0	0.9	55.9	4.5	0.9	5.4	21.6	10.8
	ひとり親（二世代）	182	12	79	5	10	14	49	13
		100.0	6.6	43.4	2.7	5.5	7.7	26.9	7.1
	ひとり親（三世代）	32	2	13	1	2	2	8	4
		100.0	6.3	40.6	3.1	6.3	6.3	25.0	12.5
発達障害に関する専門支援（＊＊＊）	全体	1,482	116	950	30	12	51	192	131
		100.0	7.8	64.1	2.0	0.8	3.4	13.0	8.8
	ふたり親（二世代）	1,135	88	759	24	5	39	141	79
		100.0	7.8	66.9	2.1	0.4	3.4	12.4	7.0
	ふたり親（三世代）	111	10	71	2	2	1	11	14
		100.0	9.0	64.0	1.8	1.8	0.9	9.9	12.6
	ひとり親（二世代）	182	16	92	1	5	9	35	24
		100.0	8.8	50.5	0.5	2.7	4.9	19.2	13.2
	ひとり親（三世代）	32	1	19	2	0	1	4	5
		100.0	3.1	59.4	6.3	0.0	3.1	12.5	15.6

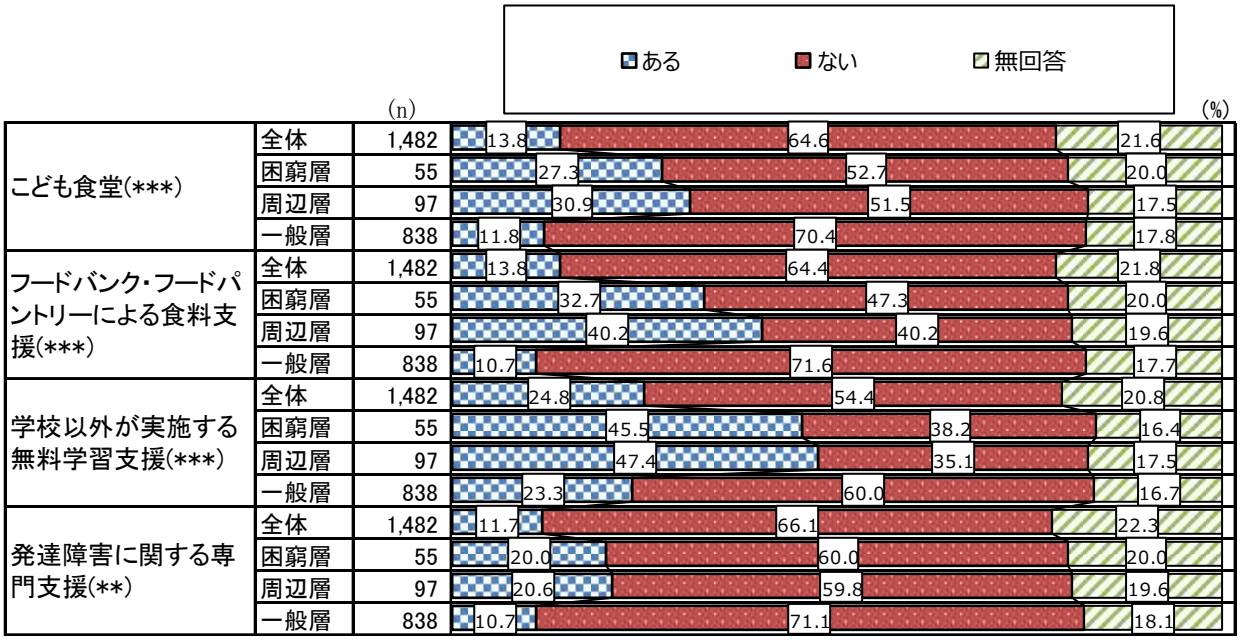
（２）支援サービスの利用意向

次に、「こども食堂」「フードバンク・フードパントリーによる食料支援」「学校以外が実施する無料学習支援」「発達障害に関する専門支援」の利用意向を聞いたところ、利用意向が「ある」と回答した割合は、それぞれ 13.8%、13.8%、24.8%、11.7%であった。

生活困難度別に見ると、すべての項目で統計的に有意な傾向が確認され、困窮層・周辺層といった生活困難層にて利用意向が「ある」と回答した割合が高かった。

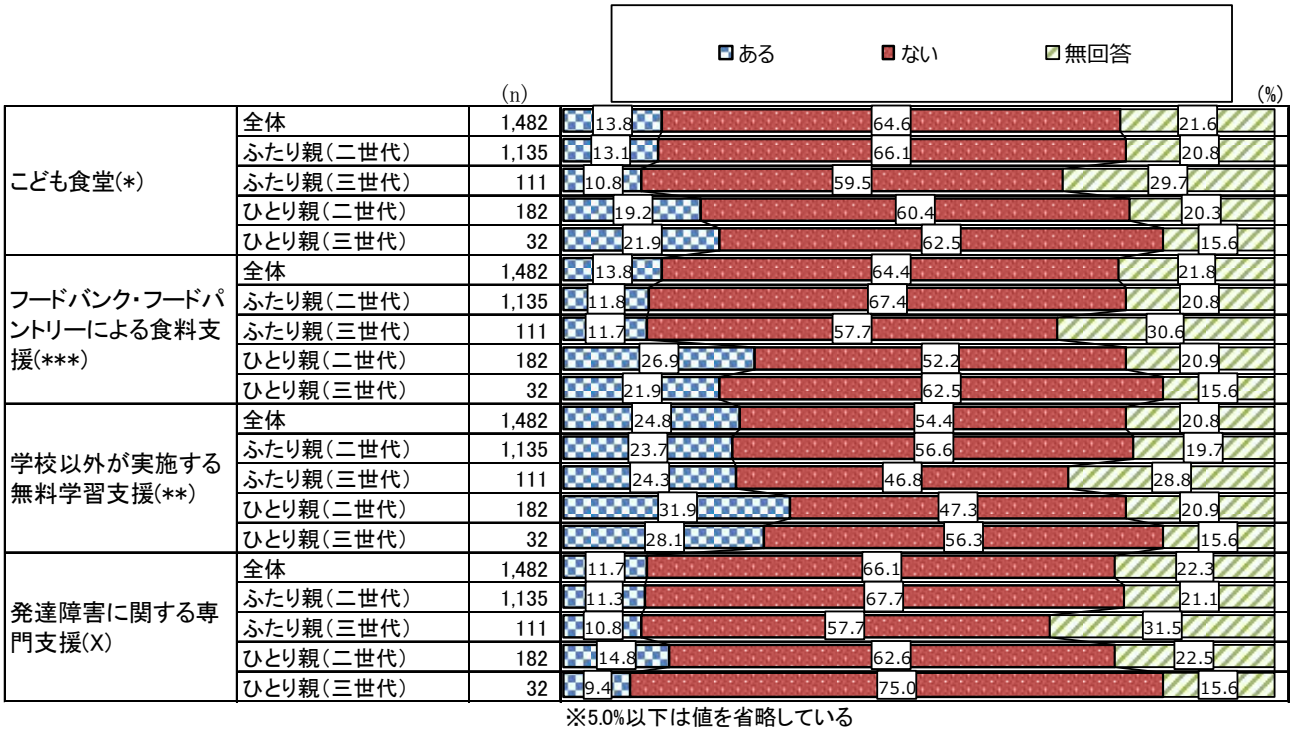
世帯タイプ別に見ると、「こども食堂」「フードバンク・フードパントリーによる食料支援」「学校以外が実施する無料学習支援」にて統計的に有意な傾向が確認され、ひとり親世帯の方が、利用意向が「ある」と回答した割合が高かった。

図表 11-1-5：支援サービスの利用意向：全体、生活困難度別



※5.0%以下は値を省略している

図表 11-1-6：支援サービスの利用意向：全体、世帯タイプ別



※5.0%以下は値を省略している

図表 11-1-7：支援サービスの利用意向：全体、生活困難度別

		該当数	ある	ない	無回答
こども食堂（＊＊＊＊）	全体	1,482 100.0	205 13.8	957 64.6	320 21.6
	困窮層	55 100.0	15 27.3	29 52.7	11 20.0
	周辺層	97 100.0	30 30.9	50 51.5	17 17.5
	一般層	838 100.0	99 11.8	590 70.4	149 17.8
フードバンク・フードパントリーによる食料支援（＊＊＊＊）	全体	1,482 100.0	205 13.8	954 64.4	323 21.8
	困窮層	55 100.0	18 32.7	26 47.3	11 20.0
	周辺層	97 100.0	39 40.2	39 40.2	19 19.6
	一般層	838 100.0	90 10.7	600 71.6	148 17.7
学校以外が実施する無料学習支援（＊＊＊＊）	全体	1,482 100.0	368 24.8	806 54.4	308 20.8
	困窮層	55 100.0	25 45.5	21 38.2	9 16.4
	周辺層	97 100.0	46 47.4	34 35.1	17 17.5
	一般層	838 100.0	195 23.3	503 60.0	140 16.7
発達障害に関する専門支援（＊＊＊）	全体	1,482 100.0	173 11.7	979 66.1	330 22.3
	困窮層	55 100.0	11 20.0	33 60.0	11 20.0
	周辺層	97 100.0	20 20.6	58 59.8	19 19.6
	一般層	838 100.0	90 10.7	596 71.1	152 18.1

図表 11-1-8：支援サービスの利用意向：全体、世帯タイプ別

		該当数	ある	ない	無回答
こども食堂（＊）	全体	1,482	205	957	320
		100.0	13.8	64.6	21.6
	ふたり親（二世代）	1,135	149	750	236
		100.0	13.1	66.1	20.8
	ふたり親（三世代）	111	12	66	33
		100.0	10.8	59.5	29.7
	ひとり親（二世代）	182	35	110	37
		100.0	19.2	60.4	20.3
	ひとり親（三世代）	32	7	20	5
		100.0	21.9	62.5	15.6
フードバンク・フードパントリーによる食料支援（＊＊＊）	全体	1,482	205	954	323
		100.0	13.8	64.4	21.8
	ふたり親（二世代）	1,135	134	765	236
		100.0	11.8	67.4	20.8
	ふたり親（三世代）	111	13	64	34
		100.0	11.7	57.7	30.6
	ひとり親（二世代）	182	49	95	38
		100.0	26.9	52.2	20.9
	ひとり親（三世代）	32	7	20	5
		100.0	21.9	62.5	15.6
学校以外が実施する無料学習支援（＊＊）	全体	1,482	368	806	308
		100.0	24.8	54.4	20.8
	ふたり親（二世代）	1,135	269	642	224
		100.0	23.7	56.6	19.7
	ふたり親（三世代）	111	27	52	32
		100.0	24.3	46.8	28.8
	ひとり親（二世代）	182	58	86	38
		100.0	31.9	47.3	20.9
	ひとり親（三世代）	32	9	18	5
		100.0	28.1	56.3	15.6
発達障害に関する専門支援（X）	全体	1,482	173	979	330
		100.0	11.7	66.1	22.3
	ふたり親（二世代）	1,135	128	768	239
		100.0	11.3	67.7	21.1
	ふたり親（三世代）	111	12	64	35
		100.0	10.8	57.7	31.5
	ひとり親（二世代）	182	27	114	41
		100.0	14.8	62.6	22.5
	ひとり親（三世代）	32	3	24	5
		100.0	9.4	75.0	15.6

２．経済的支援制度

（１）経済的支援制度の利用状況

次に、「高等学校等就学支援金（授業料支援）」「高校生等奨学給付金（授業料以外の教育費支援）」「受験生チャレンジ支援貸付」「生活保護」「生活福祉資金貸付制度」「児童扶養手当」「母子及び父子福祉資金」といった経済的支援制度の利用状況を聞いたところ、利用したことがある割合はそれぞれ 32.3%、7.8%、1.9%、0.5%、1.1%、21.8%、1.1%であった。

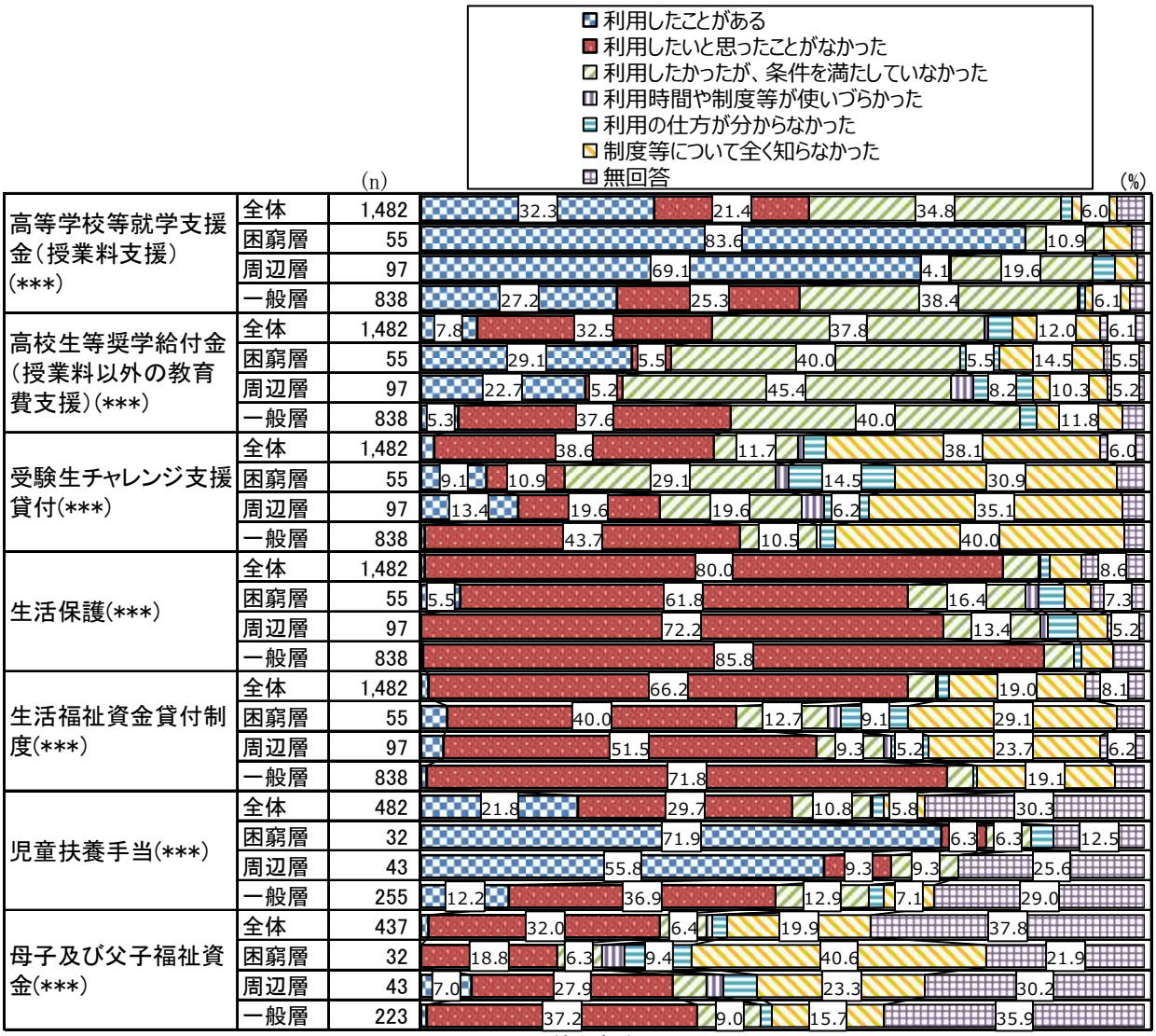
また、「利用したかったが、条件を満たしていなかった」「利用時間や制度等が使いづらかった」「利用の仕方が分からなかった」の３つを合わせて、利用意向があったが利用しなかった保護者とした場合、その割合は、それぞれ 36.5%、41.6%、15.5%、6.4%、5.6%、12.4%、9.2%であり、一定の割合で存在することが分かる。また、「制度等について全く知らなかった」保護者も、それぞれ 6.0%、12.0%、38.1%、4.5%、19.0%、5.8%、19.9%と一定の割合で存在しており、特に「受験生チャレンジ支援貸付」にて割合が高い。

生活困難度別に見ると、「利用時間や制度等が使いづらかった」にて困窮層・周辺層・一般層のいずれでも回答者が０人であり、検定不能となっている「児童扶養手当」を除いて、すべての項目で統計的に有意な傾向が確認された。「高等学校等就学支援金（授業料支援）」「高校生等奨学給付金（授業料以外の教育費支援）」「受験生チャレンジ支援貸付」「生活福祉資金貸付制度」については、一般層よりも生活困難層の方が利用したことがある割合が高かった。また、「利用したいと思ったことがなかった」割合は、一般層より生活困難層の方が低かった。

世帯タイプ別に見ると、「高等学校等就学支援金（授業料支援）」「高校生等奨学給付金（授業料以外の教育費支援）」「受験生チャレンジ支援貸付」「生活福祉資金貸付制度」「児童扶養手当」について、ひとり親世帯の方が「利用したことがある」割合が高く、また、すべての項目について、ひとり親世帯の方が「利用したいと思ったことがなかった」割合が低かった。

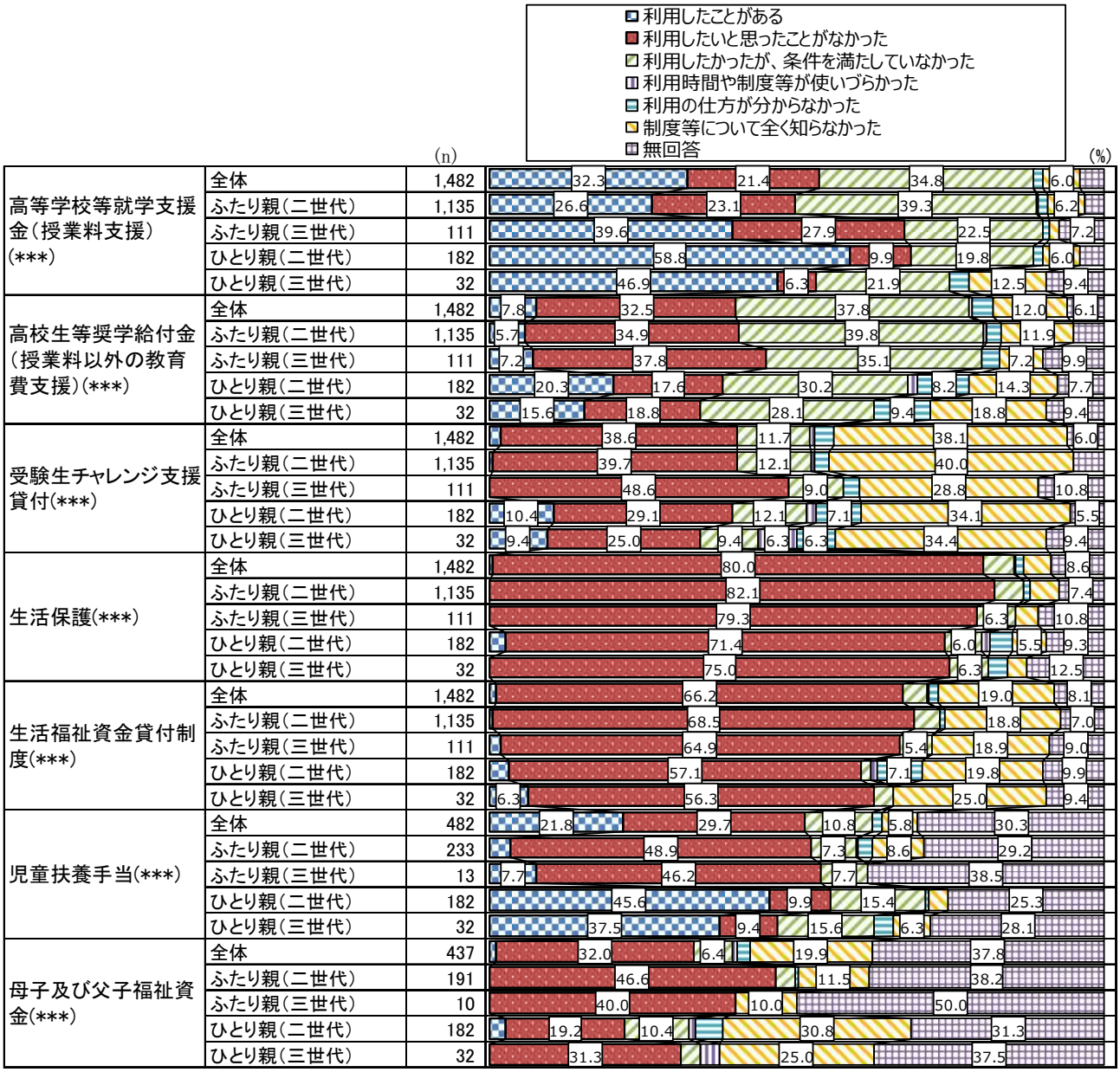
「児童扶養手当」の統計的な有意差がそのままでは確認できなかったことから、選択肢から「利用時間や制度等が使いづらかった」を除いた上で検定を行うと、統計的に有意な傾向が確認され、「利用したことがある」は生活困難度が高いほど、「利用したいと思ったことがなかった」や「利用したかったが、条件を満たしていなかった」は生活困難度が低いほど、回答している割合が高かった。**図表 11-2-1** には、この検定結果を掲載している。

図表 11-2-1：経済的支援制度の利用状況：全体、生活困難度別



※5.0%以下は値を省略している
※「児童扶養手当」の検定結果は、「利用時間や制度等が使いづらかった」を除いたもの

図表 11-2-2：経済的支援制度の利用状況：全体、世帯タイプ別



※5.0%以下は値を省略している

図表 11-2-3：経済的支援制度の利用状況：全体、生活困難度別

		該当数	利用したことがある	利用したいと思ったことがなかった	利用したかったが、条件を満たしていなかった	利用時間や制度等が使いづらかった	利用の仕方が分からなかった	制度等について全く知らなかった	無回答
高等学校等就学支援金（授業料支援）（＊＊＊）	全体	1,482	478	317	516	2	23	89	57
		100.0	32.3	21.4	34.8	0.1	1.6	6.0	3.8
	困窮層	55	46	0	6	0	0	2	1
		100.0	83.6	0.0	10.9	0.0	0.0	3.6	1.8
	周辺層	97	67	4	19	0	3	3	1
		100.0	69.1	4.1	19.6	0.0	3.1	3.1	1.0
	一般層	838	228	212	322	1	7	51	17
		100.0	27.2	25.3	38.4	0.1	0.8	6.1	2.0
高校生等奨学給付金（授業料以外の教育費支援）（＊＊＊）	全体	1,482	115	481	560	8	49	178	91
		100.0	7.8	32.5	37.8	0.5	3.3	12.0	6.1
	困窮層	55	16	3	22	0	3	8	3
		100.0	29.1	5.5	40.0	0.0	5.5	14.5	5.5
	周辺層	97	22	5	44	3	8	10	5
		100.0	22.7	5.2	45.4	3.1	8.2	10.3	5.2
	一般層	838	44	315	335	1	18	99	26
		100.0	5.3	37.6	40.0	0.1	2.1	11.8	3.1
受験生チャレンジ支援貸付（＊＊＊）	全体	1,482	28	572	173	12	44	564	89
		100.0	1.9	38.6	11.7	0.8	3.0	38.1	6.0
	困窮層	55	5	6	16	1	8	17	2
		100.0	9.1	10.9	29.1	1.8	14.5	30.9	3.6
	周辺層	97	13	19	19	3	6	34	3
		100.0	13.4	19.6	19.6	3.1	6.2	35.1	3.1
	一般層	838	5	366	88	4	17	335	23
		100.0	0.6	43.7	10.5	0.5	2.0	40.0	2.7
生活保護（＊＊＊）	全体	1,482	8	1,185	72	3	20	67	127
		100.0	0.5	80.0	4.9	0.2	1.3	4.5	8.6
	困窮層	55	3	34	9	1	2	2	4
		100.0	5.5	61.8	16.4	1.8	3.6	3.6	7.3
	周辺層	97	0	70	13	1	4	4	5
		100.0	0.0	72.2	13.4	1.0	4.1	4.1	5.2
	一般層	838	3	719	35	0	9	36	36
		100.0	0.4	85.8	4.2	0.0	1.1	4.3	4.3
生活福祉資金貸付制度（＊＊＊）	全体	1,482	17	981	58	3	22	281	120
		100.0	1.1	66.2	3.9	0.2	1.5	19.0	8.1
	困窮層	55	2	22	7	1	5	16	2
		100.0	3.6	40.0	12.7	1.8	9.1	29.1	3.6
	周辺層	97	3	50	9	1	5	23	6
		100.0	3.1	51.5	9.3	1.0	5.2	23.7	6.2
	一般層	838	7	602	30	0	5	160	34
		100.0	0.8	71.8	3.6	0.0	0.6	19.1	4.1
児童扶養手当（＊＊＊）	全体	482	105	143	52	1	7	28	146
		100.0	21.8	29.7	10.8	0.2	1.5	5.8	30.3
	困窮層	32	23	2	2	0	1	0	4
		100.0	71.9	6.3	6.3	0.0	3.1	0.0	12.5
	周辺層	43	24	4	4	0	0	0	11
		100.0	55.8	9.3	9.3	0.0	0.0	0.0	25.6
	一般層	255	31	94	33	0	5	18	74
		100.0	12.2	36.9	12.9	0.0	2.0	7.1	29.0
母子及び父子福祉資金（＊＊＊）	全体	437	5	140	28	3	9	87	165
		100.0	1.1	32.0	6.4	0.7	2.1	19.9	37.8
	困窮層	32	0	6	2	1	3	13	7
		100.0	0.0	18.8	6.3	3.1	9.4	40.6	21.9
	周辺層	43	3	12	2	1	2	10	13
		100.0	7.0	27.9	4.7	2.3	4.7	23.3	30.2
	一般層	223	2	83	20	0	3	35	80
		100.0	0.9	37.2	9.0	0.0	1.3	15.7	35.9

図表 11-2-4：経済的支援制度の利用状況：全体、世帯タイプ別

		該当数	利用したことがある	利用したいと思ったことがなかった	利用したかったが、条件を満たしていなかった	利用時間や制度等が使いづらかった	利用の仕方が分からなかった	制度等について全く知らなかった	無回答
高等学校等就学支援金（授業料支援）（＊＊＊）	全体	1,482	478	317	516	2	23	89	57
		100.0	32.3	21.4	34.8	0.1	1.6	6.0	3.8
	ふたり親（二世代）	1,135	302	262	446	2	18	70	35
		100.0	26.6	23.1	39.3	0.2	1.6	6.2	3.1
	ふたり親（三世代）	111	44	31	25	0	1	2	8
		100.0	39.6	27.9	22.5	0.0	0.9	1.8	7.2
	ひとり親（二世代）	182	107	18	36	0	3	11	7
		100.0	58.8	9.9	19.8	0.0	1.6	6.0	3.8
	ひとり親（三世代）	32	15	2	7	0	1	4	3
		100.0	46.9	6.3	21.9	0.0	3.1	12.5	9.4
高等学校等奨学給付金（授業料以外の教育費支援）（＊＊＊）	全体	1,482	115	481	560	8	49	178	91
		100.0	7.8	32.5	37.8	0.5	3.3	12.0	6.1
	ふたり親（二世代）	1,135	65	396	452	5	27	135	55
		100.0	5.7	34.9	39.8	0.4	2.4	11.9	4.8
	ふたり親（三世代）	111	8	42	39	0	3	8	11
		100.0	7.2	37.8	35.1	0.0	2.7	7.2	9.9
	ひとり親（二世代）	182	37	32	55	3	15	26	14
		100.0	20.3	17.6	30.2	1.6	8.2	14.3	7.7
	ひとり親（三世代）	32	5	6	9	0	3	6	3
		100.0	15.6	18.8	28.1	0.0	9.4	18.8	9.4
受験生チャレンジ支援貸付（＊＊＊）	全体	1,482	28	572	173	12	44	564	89
		100.0	1.9	38.6	11.7	0.8	3.0	38.1	6.0
	ふたり親（二世代）	1,135	6	451	137	6	26	454	55
		100.0	0.5	39.7	12.1	0.5	2.3	40.0	4.8
	ふたり親（三世代）	111	0	54	10	0	3	32	12
		100.0	0.0	48.6	9.0	0.0	2.7	28.8	10.8
	ひとり親（二世代）	182	19	53	22	3	13	62	10
		100.0	10.4	29.1	12.1	1.6	7.1	34.1	5.5
	ひとり親（三世代）	32	3	8	3	2	2	11	3
		100.0	9.4	25.0	9.4	6.3	6.3	34.4	9.4
生活保護（＊＊＊）	全体	1,482	8	1,185	72	3	20	67	127
		100.0	0.5	80.0	4.9	0.2	1.3	4.5	8.6
	ふたり親（二世代）	1,135	2	932	52	1	12	52	84
		100.0	0.2	82.1	4.6	0.1	1.1	4.6	7.4
	ふたり親（三世代）	111	0	88	7	0	0	4	12
		100.0	0.0	79.3	6.3	0.0	0.0	3.6	10.8
	ひとり親（二世代）	182	5	130	11	2	7	10	17
		100.0	2.7	71.4	6.0	1.1	3.8	5.5	9.3
	ひとり親（三世代）	32	0	24	2	0	1	1	4
		100.0	0.0	75.0	6.3	0.0	3.1	3.1	12.5
生活福祉資金貸付制度（＊＊＊）	全体	1,482	17	981	58	3	22	281	120
		100.0	1.1	66.2	3.9	0.2	1.5	19.0	8.1
	ふたり親（二世代）	1,135	7	778	47	1	9	213	80
		100.0	0.6	68.5	4.1	0.1	0.8	18.8	7.0
	ふたり親（三世代）	111	2	72	6	0	0	21	10
		100.0	1.8	64.9	5.4	0.0	0.0	18.9	9.0
	ひとり親（二世代）	182	6	104	3	2	13	36	18
		100.0	3.3	57.1	1.6	1.1	7.1	19.8	9.9
	ひとり親（三世代）	32	2	18	1	0	0	8	3
		100.0	6.3	56.3	3.1	0.0	0.0	25.0	9.4
児童扶養手当（＊＊＊）	全体	482	105	143	52	1	7	28	146
		100.0	21.8	29.7	10.8	0.2	1.5	5.8	30.3
	ふたり親（二世代）	233	8	114	17	1	5	20	68
		100.0	3.4	48.9	7.3	0.4	2.1	8.6	29.2
	ふたり親（三世代）	13	1	6	1	0	0	0	5
		100.0	7.7	46.2	7.7	0.0	0.0	0.0	38.5
	ひとり親（二世代）	182	83	18	28	0	1	6	46
		100.0	45.6	9.9	15.4	0.0	0.5	3.3	25.3
	ひとり親（三世代）	32	12	3	5	0	1	2	9
		100.0	37.5	9.4	15.6	0.0	3.1	6.3	28.1
母子及び父子福祉資金（＊＊＊）	全体	437	5	140	28	3	9	87	165
		100.0	1.1	32.0	6.4	0.7	2.1	19.9	37.8
	ふたり親（二世代）	191	0	89	6	0	1	22	73
		100.0	0.0	46.6	3.1	0.0	0.5	11.5	38.2
	ふたり親（三世代）	10	0	4	0	0	0	1	5
		100.0	0.0	40.0	0.0	0.0	0.0	10.0	50.0
	ひとり親（二世代）	182	5	35	19	2	8	56	57
		100.0	2.7	19.2	10.4	1.1	4.4	30.8	31.3
	ひとり親（三世代）	32	0	10	1	1	0	8	12
		100.0	0.0	31.3	3.1	3.1	0.0	25.0	37.5

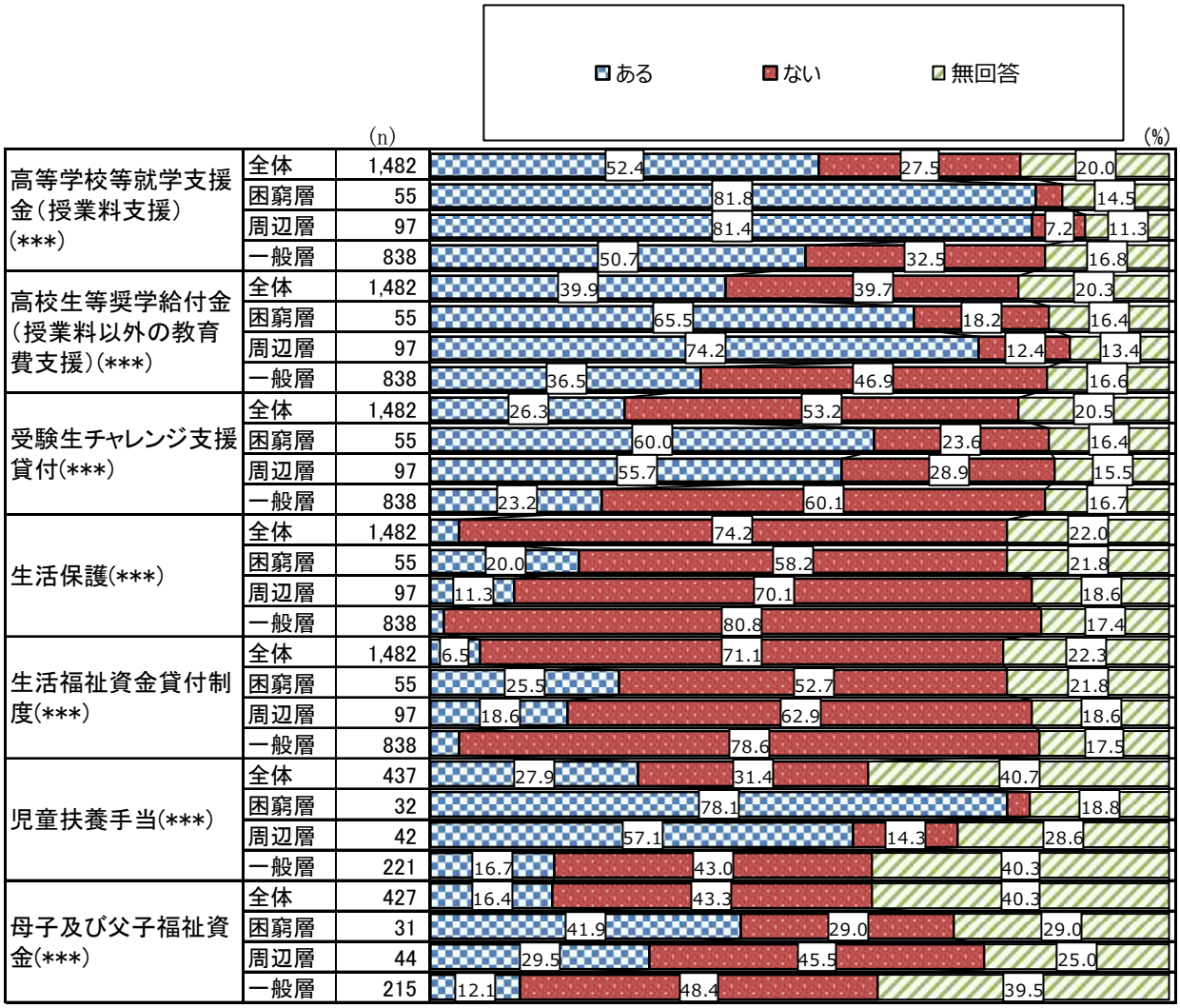
（２）経済的支援制度の利用意向

次に、「高等学校等就学支援金（授業料支援）」「高校生等奨学給付金（授業料以外の教育費支援）」「受験生チャレンジ支援貸付」「生活保護」「生活福祉資金貸付制度」「児童扶養手当」「母子及び父子福祉資金」といった経済的支援制度の利用意向を聞いたところ、利用意向が「ある」と回答した割合はそれぞれ 52.4%、39.9%、26.3%、3.8%、6.5%、27.9%、16.4%であった。

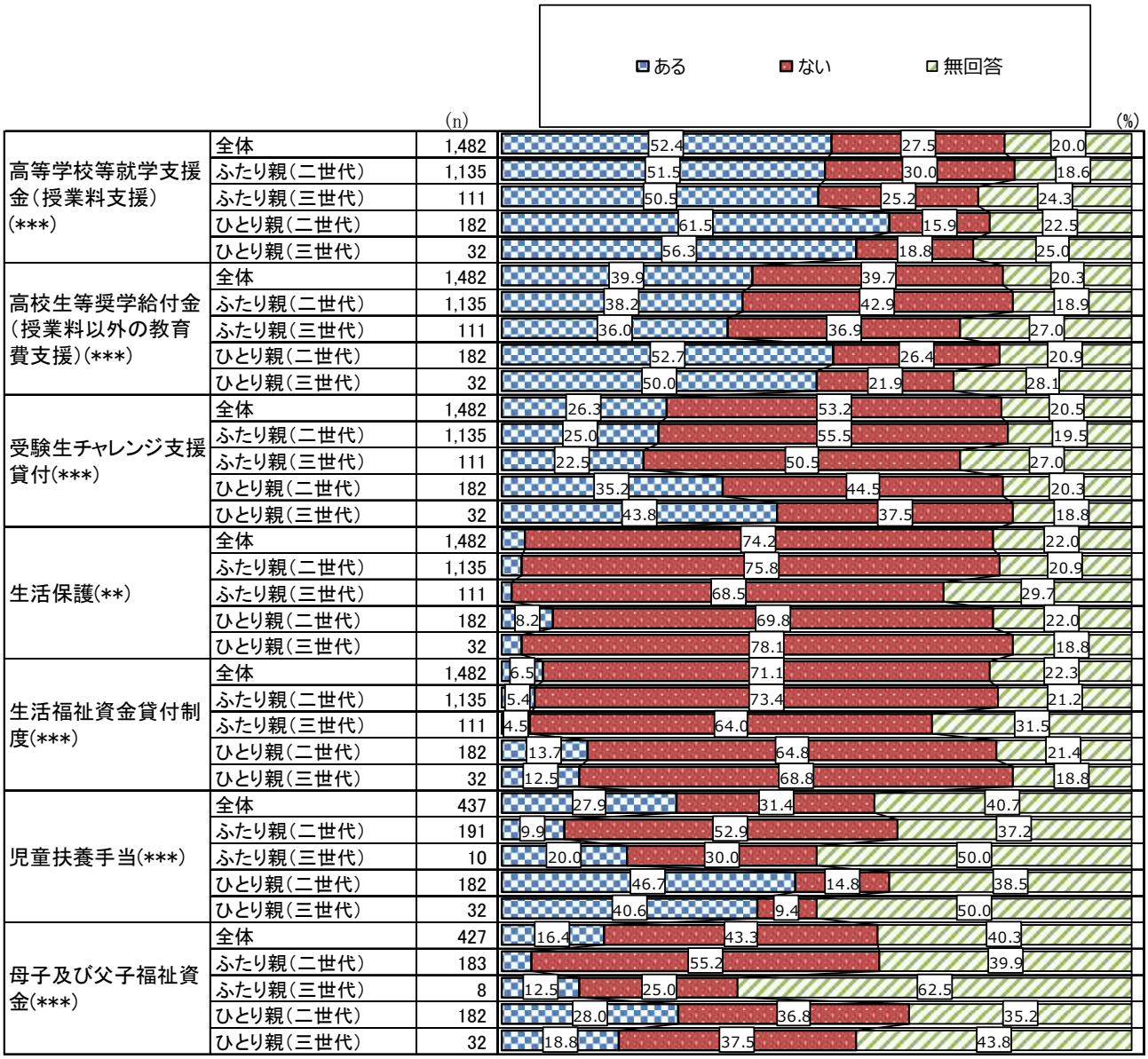
生活困難度別に見ると、すべての項目で統計的に有意な差が確認され、利用意向が「ある」と回答した割合は、一般層よりも生活困難層の方が多かった。特に、「高等学校等就学支援金（授業料支援）」や「児童扶養手当」では困窮層のうちの８割前後と高い割合で利用意向が見られた。

世帯タイプ別に見ると、「生活保護」でひとり親（三世代）世帯の利用意向が若干ふたり親（二世代）世帯の利用意向を下回っていることを除いて、すべての項目でひとり親世帯の方がふたり親世帯よりも利用意向があった。

図表 11-2-5：経済的支援制度の利用意向：全体、生活困難度別



図表 11-2-6：経済的支援制度の利用意向：全体、世帯タイプ別



※5.0%以下は値を省略している

図表 11-2-7：経済的支援制度の利用意向：全体、生活困難度別

		該当数	ある	ない	無回答
高等学校等就学支援金（授業料支援）（＊＊＊）	全体	1,482	777	408	297
		100.0	52.4	27.5	20.0
	困窮層	55	45	2	8
		100.0	81.8	3.6	14.5
	周辺層	97	79	7	11
		100.0	81.4	7.2	11.3
	一般層	838	425	272	141
		100.0	50.7	32.5	16.8
高校生等奨学給付金（授業料以外の教育費支援）（＊＊＊）	全体	1,482	592	589	301
		100.0	39.9	39.7	20.3
	困窮層	55	36	10	9
		100.0	65.5	18.2	16.4
	周辺層	97	72	12	13
		100.0	74.2	12.4	13.4
	一般層	838	306	393	139
		100.0	36.5	46.9	16.6
受験生チャレンジ支援貸付（＊＊＊）	全体	1,482	390	788	304
		100.0	26.3	53.2	20.5
	困窮層	55	33	13	9
		100.0	60.0	23.6	16.4
	周辺層	97	54	28	15
		100.0	55.7	28.9	15.5
	一般層	838	194	504	140
		100.0	23.2	60.1	16.7
生活保護（＊＊＊）	全体	1,482	56	1,100	326
		100.0	3.8	74.2	22.0
	困窮層	55	11	32	12
		100.0	20.0	58.2	21.8
	周辺層	97	11	68	18
		100.0	11.3	70.1	18.6
	一般層	838	15	677	146
		100.0	1.8	80.8	17.4
生活福祉資金貸付制度（＊＊＊）	全体	1,482	97	1,054	331
		100.0	6.5	71.1	22.3
	困窮層	55	14	29	12
		100.0	25.5	52.7	21.8
	周辺層	97	18	61	18
		100.0	18.6	62.9	18.6
	一般層	838	32	659	147
		100.0	3.8	78.6	17.5
児童扶養手当（＊＊＊）	全体	437	122	137	178
		100.0	27.9	31.4	40.7
	困窮層	32	25	1	6
		100.0	78.1	3.1	18.8
	周辺層	42	24	6	12
		100.0	57.1	14.3	28.6
	一般層	221	37	95	89
		100.0	16.7	43.0	40.3
母子及び父子福祉資金（＊＊＊）	全体	427	70	185	172
		100.0	16.4	43.3	40.3
	困窮層	31	13	9	9
		100.0	41.9	29.0	29.0
	周辺層	44	13	20	11
		100.0	29.5	45.5	25.0
	一般層	215	26	104	85
		100.0	12.1	48.4	39.5

図表 11-2-8：経済的支援制度の利用意向：全体、世帯タイプ別

		該当数	ある	ない	無回答
高等学校等就学支援金（授業料支援）（＊＊＊）	全体	1,482	777	408	297
		100.0	52.4	27.5	20.0
	ふたり親（二世代）	1,135	584	340	211
		100.0	51.5	30.0	18.6
	ふたり親（三世代）	111	56	28	27
		100.0	50.5	25.2	24.3
	ひとり親（二世代）	182	112	29	41
		100.0	61.5	15.9	22.5
	ひとり親（三世代）	32	18	6	8
		100.0	56.3	18.8	25.0
高等学校等奨学給付金（授業料以外の教育費支援）（＊＊＊）	全体	1,482	592	589	301
		100.0	39.9	39.7	20.3
	ふたり親（二世代）	1,135	434	487	214
		100.0	38.2	42.9	18.9
	ふたり親（三世代）	111	40	41	30
		100.0	36.0	36.9	27.0
	ひとり親（二世代）	182	96	48	38
		100.0	52.7	26.4	20.9
	ひとり親（三世代）	32	16	7	9
		100.0	50.0	21.9	28.1
受験生チャレンジ支援貸付（＊＊＊）	全体	1,482	390	788	304
		100.0	26.3	53.2	20.5
	ふたり親（二世代）	1,135	284	630	221
		100.0	25.0	55.5	19.5
	ふたり親（三世代）	111	25	56	30
		100.0	22.5	50.5	27.0
	ひとり親（二世代）	182	64	81	37
		100.0	35.2	44.5	20.3
	ひとり親（三世代）	32	14	12	6
		100.0	43.8	37.5	18.8
生活保護（＊＊）	全体	1,482	56	1,100	326
		100.0	3.8	74.2	22.0
	ふたり親（二世代）	1,135	38	860	237
		100.0	3.3	75.8	20.9
	ふたり親（三世代）	111	2	76	33
		100.0	1.8	68.5	29.7
	ひとり親（二世代）	182	15	127	40
		100.0	8.2	69.8	22.0
	ひとり親（三世代）	32	1	25	6
		100.0	3.1	78.1	18.8
生活福祉資金貸付制度（＊＊＊）	全体	1,482	97	1,054	331
		100.0	6.5	71.1	22.3
	ふたり親（二世代）	1,135	61	833	241
		100.0	5.4	73.4	21.2
	ふたり親（三世代）	111	5	71	35
		100.0	4.5	64.0	31.5
	ひとり親（二世代）	182	25	118	39
		100.0	13.7	64.8	21.4
	ひとり親（三世代）	32	4	22	6
		100.0	12.5	68.8	18.8
児童扶養手当（＊＊＊）	全体	437	122	137	178
		100.0	27.9	31.4	40.7
	ふたり親（二世代）	191	19	101	71
		100.0	9.9	52.9	37.2
	ふたり親（三世代）	10	2	3	5
		100.0	20.0	30.0	50.0
	ひとり親（二世代）	182	85	27	70
		100.0	46.7	14.8	38.5
	ひとり親（三世代）	32	13	3	16
		100.0	40.6	9.4	50.0
母子及び父子福祉資金（＊＊＊）	全体	427	70	185	172
		100.0	16.4	43.3	40.3
	ふたり親（二世代）	183	9	101	73
		100.0	4.9	55.2	39.9
	ふたり親（三世代）	8	1	2	5
		100.0	12.5	25.0	62.5
	ひとり親（二世代）	182	51	67	64
		100.0	28.0	36.8	35.2
	ひとり親（三世代）	32	6	12	14
		100.0	18.8	37.5	43.8

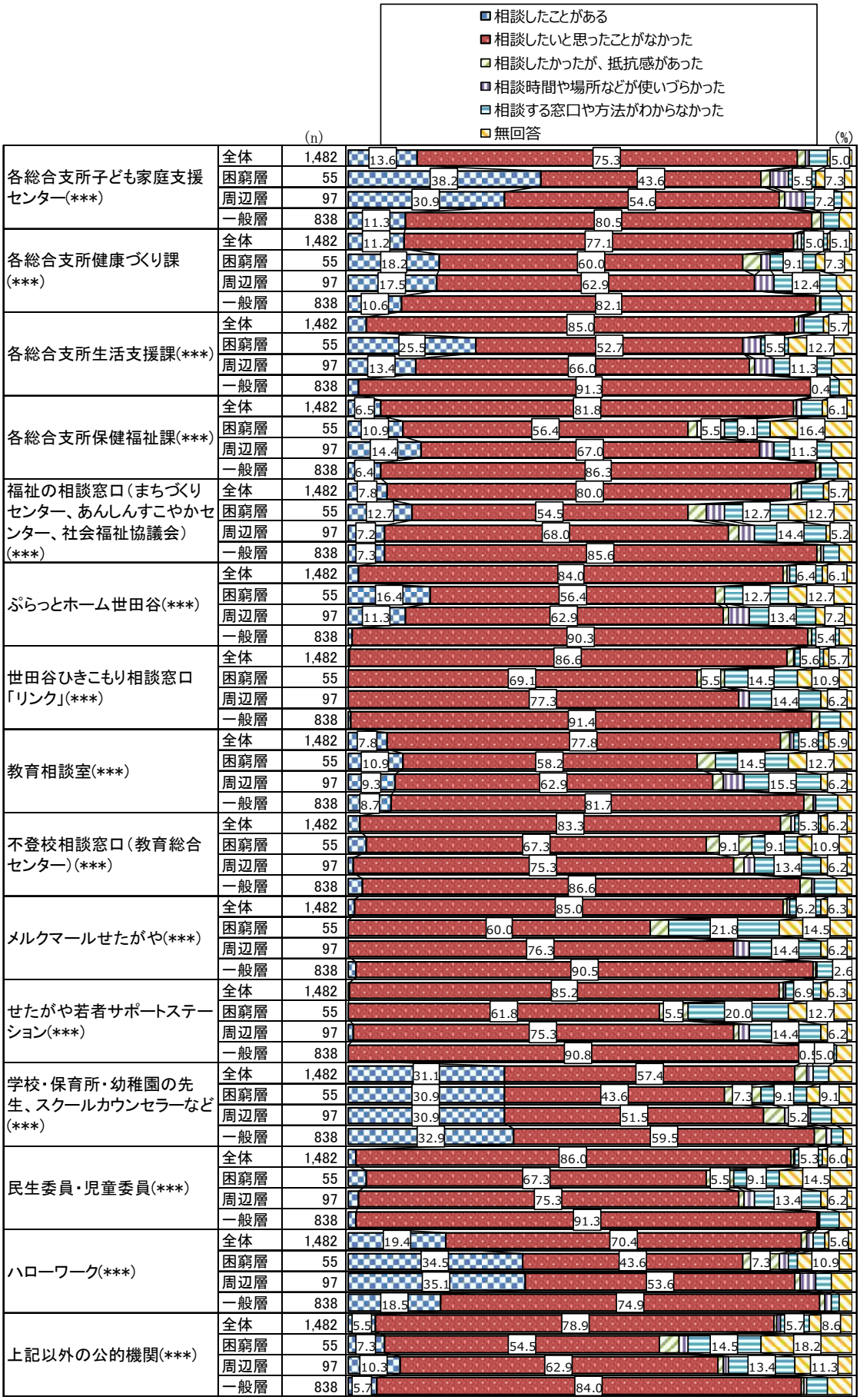
３．公的機関への相談

「各総合支所子ども家庭支援センター」「各総合支所健康づくり課」「各総合支所生活支援課」「各総合支所保健福祉課」「福祉の相談窓口（まちづくりセンター、あんしんすこやかセンター、社会福祉協議会）」「ぷらっとホーム世田谷」「世田谷ひきこもり相談窓口「リンク」」「教育相談室」「不登校相談窓口（教育総合センター）」「メルクマールせたがや」「せたがや若者サポートステーション」「学校・保育所・幼稚園の先生、スクールカウンセラーなど」「民生委員・児童委員」「ハローワーク」「上記以外の公的機関」の、各種の公的機関への相談の状況を聞いた。

その結果、「相談したことがある」保護者の割合は、「学校・保育所・幼稚園の先生、スクールカウンセラーなど」（31.1%）が最も多く、次いで「ハローワーク」（19.4%）、「各総合支所子ども家庭支援センター」（13.6%）が多かった。また、「相談したかったが、抵抗感があった」「相談時間や場所などが使いづらかった」「相談する窓口や方法がわからなかった」を合わせて、相談意向があったが相談しなかった保護者とした場合、その割合は「教育相談室」（8.5%）が最も多く、次いで「せたがや若者サポートステーション」（8.2%）、「不登校相談窓口（教育総合センター）」（8.0%）が多かった。

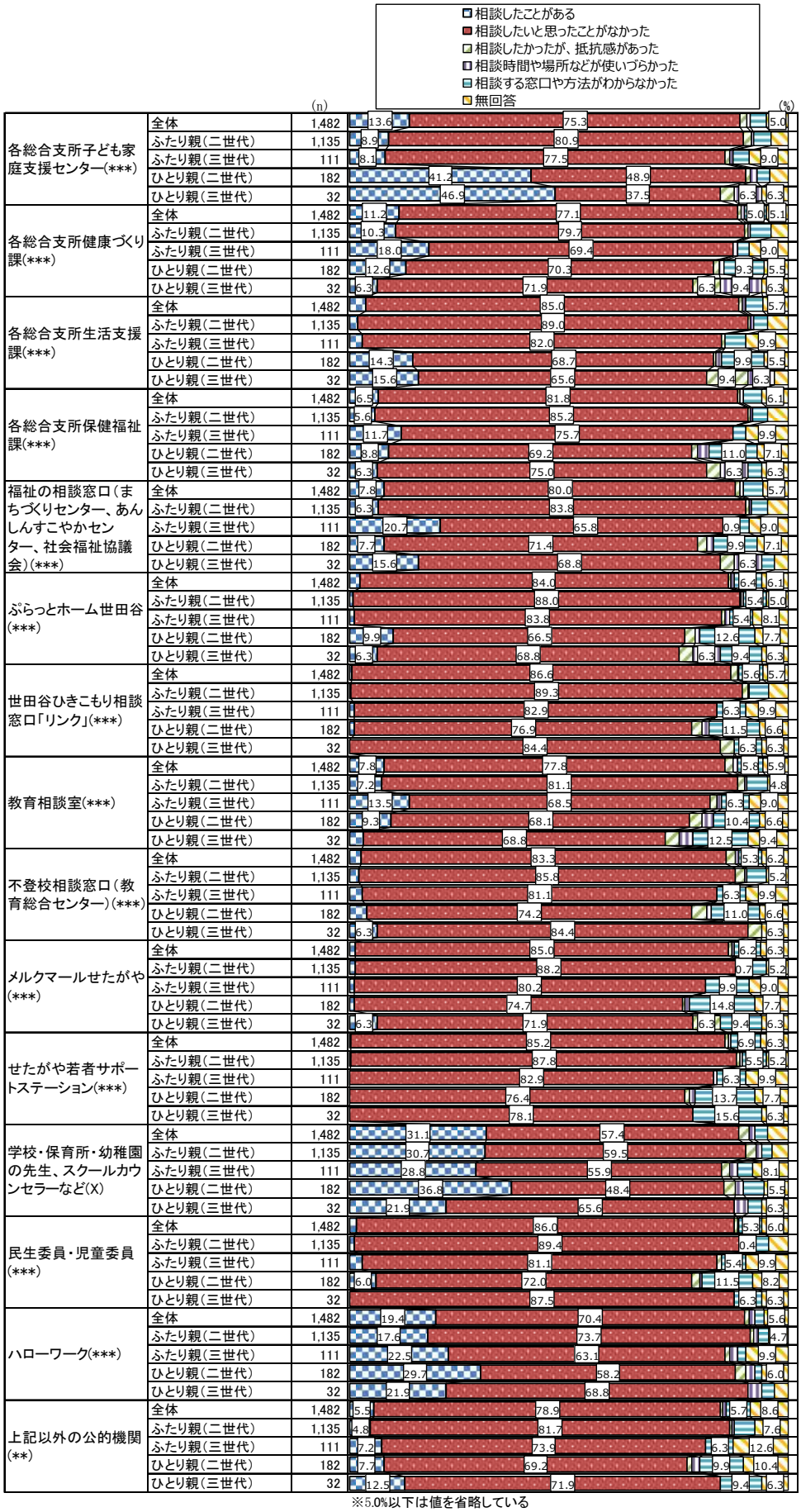
生活困難度別に見ると、すべての公的機関で生活困難度が高いほど「相談したいと思ったことがなかった」割合が低かった。また、世帯タイプ別に見ると、「各総合支所子ども家庭支援センター」や「各総合支所生活支援課」にて顕著な傾向が見られ、ひとり親世帯の方が「相談したことがある」割合が高く、「相談したいと思ったことがなかった」割合が低かった。

図表 11-3-1：公的機関への相談状況：全体、生活困難度別



※5.0%以下は値を省略している

図表 11-3-2：公的機関への相談状況：全体、世帯タイプ別



※5.0%以下は値を省略している

図表 11-3-3：公的機関への相談状況：全体、生活困難度別

		該当数	相談したことがある	相談したいと思ったことがなかった	相談したかったが、抵抗感があった	相談時間や場所などが使いづらかった	相談する窓口や方法がわからなかった	無回答
各総合支所子ども家庭支援センター（＊＊＊）	全体	1,482	202	1,116	23	12	55	74
		100.0	13.6	75.3	1.6	0.8	3.7	5.0
	困窮層	55	21	24	1	2	3	4
		100.0	38.2	43.6	1.8	3.6	5.5	7.3
	周辺層	97	30	53	1	4	7	2
		100.0	30.9	54.6	1.0	4.1	7.2	2.1
	一般層	838	95	675	16	4	25	23
		100.0	11.3	80.5	1.9	0.5	3.0	2.7
各総合支所健康づくり課（＊＊＊）	全体	1,482	166	1,142	12	12	74	76
		100.0	11.2	77.1	0.8	0.8	5.0	5.1
	困窮層	55	10	33	2	1	5	4
		100.0	18.2	60.0	3.6	1.8	9.1	7.3
	周辺層	97	17	61	0	4	12	3
		100.0	17.5	62.9	0.0	4.1	12.4	3.1
	一般層	838	89	688	5	3	34	19
		100.0	10.6	82.1	0.6	0.4	4.1	2.3
各総合支所生活支援課（＊＊＊）	全体	1,482	55	1,259	11	12	60	85
		100.0	3.7	85.0	0.7	0.8	4.0	5.7
	困窮層	55	14	29	0	2	3	7
		100.0	25.5	52.7	0.0	3.6	5.5	12.7
	周辺層	97	13	64	1	4	11	4
		100.0	13.4	66.0	1.0	4.1	11.3	4.1
	一般層	838	18	765	3	2	27	23
		100.0	2.1	91.3	0.4	0.2	3.2	2.7
各総合支所保健福祉課（＊＊＊）	全体	1,482	97	1,212	7	15	61	90
		100.0	6.5	81.8	0.5	1.0	4.1	6.1
	困窮層	55	6	31	1	3	5	9
		100.0	10.9	56.4	1.8	5.5	9.1	16.4
	周辺層	97	14	65	0	3	11	4
		100.0	14.4	67.0	0.0	3.1	11.3	4.1
	一般層	838	54	723	5	3	28	25
		100.0	6.4	86.3	0.6	0.4	3.3	3.0
福祉の相談窓口（まちづくりセンター、あんしんすこやかセンター、社会福祉協議会）（＊＊＊）	全体	1,482	116	1,186	16	12	67	85
		100.0	7.8	80.0	1.1	0.8	4.5	5.7
	困窮層	55	7	30	2	2	7	7
		100.0	12.7	54.5	3.6	3.6	12.7	12.7
	周辺層	97	7	66	2	3	14	5
		100.0	7.2	68.0	2.1	3.1	14.4	5.2
	一般層	838	61	717	8	3	26	23
		100.0	7.3	85.6	1.0	0.4	3.1	2.7
ぷらっとホーム世田谷（＊＊＊）	全体	1,482	32	1,245	11	9	95	90
		100.0	2.2	84.0	0.7	0.6	6.4	6.1
	困窮層	55	9	31	1	0	7	7
		100.0	16.4	56.4	1.8	0.0	12.7	12.7
	周辺層	97	11	61	1	4	13	7
		100.0	11.3	62.9	1.0	4.1	13.4	7.2
	一般層	838	7	757	5	2	45	22
		100.0	0.8	90.3	0.6	0.2	5.4	2.6
世田谷ひきこもり相談窓口「リンク」（＊＊＊）	全体	1,482	5	1,283	20	6	83	85
		100.0	0.3	86.6	1.3	0.4	5.6	5.7
	困窮層	55	0	38	3	0	8	6
		100.0	0.0	69.1	5.5	0.0	14.5	10.9
	周辺層	97	0	75	0	2	14	6
		100.0	0.0	77.3	0.0	2.1	14.4	6.2
	一般層	838	5	766	11	2	34	20
		100.0	0.6	91.4	1.3	0.2	4.1	2.4
教育相談室（＊＊＊）	全体	1,482	116	1,153	26	14	86	87
		100.0	7.8	77.8	1.8	0.9	5.8	5.9
	困窮層	55	6	32	2	0	8	7
		100.0	10.9	58.2	3.6	0.0	14.5	12.7
	周辺層	97	9	61	2	4	15	6
		100.0	9.3	62.9	2.1	4.1	15.5	6.2
	一般層	838	73	685	14	5	37	24
		100.0	8.7	81.7	1.7	0.6	4.4	2.9

		該当数	相談したことがある	相談したいと思ったことがなかった	相談したかったが、抵抗感があった	相談時間や場所などが使いづらかった	相談する窓口や方法がわからなかった	無回答
不登校相談窓口（教育総合センター）（＊＊＊）	全体	1,482	36	1,235	31	10	78	92
		100.0	2.4	83.3	2.1	0.7	5.3	6.2
	困窮層	55	2	37	5	0	5	6
		100.0	3.6	67.3	9.1	0.0	9.1	10.9
	周辺層	97	1	73	2	2	13	6
		100.0	1.0	75.3	2.1	2.1	13.4	6.2
	一般層	838	25	726	18	5	38	26
		100.0	3.0	86.6	2.1	0.6	4.5	3.1
メルクマールせたがや（＊＊＊）	全体	1,482	19	1,260	11	7	92	93
		100.0	1.3	85.0	0.7	0.5	6.2	6.3
	困窮層	55	0	33	2	0	12	8
		100.0	0.0	60.0	3.6	0.0	21.8	14.5
	周辺層	97	0	74	0	3	14	6
		100.0	0.0	76.3	0.0	3.1	14.4	6.2
	一般層	838	14	758	5	2	37	22
		100.0	1.7	90.5	0.6	0.2	4.4	2.6
せたがや若者サポートステーション（＊＊＊）	全体	1,482	4	1,263	11	8	102	94
		100.0	0.3	85.2	0.7	0.5	6.9	6.3
	困窮層	55	0	34	3	0	11	7
		100.0	0.0	61.8	5.5	0.0	20.0	12.7
	周辺層	97	1	73	1	2	14	6
		100.0	1.0	75.3	1.0	2.1	14.4	6.2
	一般層	838	1	761	4	4	42	26
		100.0	0.1	90.8	0.5	0.5	5.0	3.1
学校・保育所・幼稚園の先生、スクールカウンセラーなど（＊＊＊）	全体	1,482	461	851	36	19	44	71
		100.0	31.1	57.4	2.4	1.3	3.0	4.8
	困窮層	55	17	24	4	0	5	5
		100.0	30.9	43.6	7.3	0.0	9.1	9.1
	周辺層	97	30	50	4	5	4	4
		100.0	30.9	51.5	4.1	5.2	4.1	4.1
	一般層	838	276	499	19	8	19	17
		100.0	32.9	59.5	2.3	1.0	2.3	2.0
民生委員・児童委員（＊＊＊）	全体	1,482	24	1,275	9	6	79	89
		100.0	1.6	86.0	0.6	0.4	5.3	6.0
	困窮層	55	2	37	3	0	5	8
		100.0	3.6	67.3	5.5	0.0	9.1	14.5
	周辺層	97	2	73	1	2	13	6
		100.0	2.1	75.3	1.0	2.1	13.4	6.2
	一般層	838	14	765	2	2	32	23
		100.0	1.7	91.3	0.2	0.2	3.8	2.7
ハローワーク（＊＊＊）	全体	1,482	288	1,044	16	19	32	83
		100.0	19.4	70.4	1.1	1.3	2.2	5.6
	困窮層	55	19	24	4	1	1	6
		100.0	34.5	43.6	7.3	1.8	1.8	10.9
	周辺層	97	34	52	1	3	3	4
		100.0	35.1	53.6	1.0	3.1	3.1	4.1
	一般層	838	155	628	9	11	13	22
		100.0	18.5	74.9	1.1	1.3	1.6	2.6
上記以外の公的機関（＊＊＊）	全体	1,482	82	1,169	9	10	84	128
		100.0	5.5	78.9	0.6	0.7	5.7	8.6
	困窮層	55	4	30	2	1	8	10
		100.0	7.3	54.5	3.6	1.8	14.5	18.2
	周辺層	97	10	61	1	1	13	11
		100.0	10.3	62.9	1.0	1.0	13.4	11.3
	一般層	838	48	704	6	4	35	41
		100.0	5.7	84.0	0.7	0.5	4.2	4.9

図表 11-3-4：公的機関への相談状況：全体、世帯タイプ別

		該当数	相談したことがある	相談したいと思ったことがなかった	相談したかったが、抵抗感があった	相談時間や場所などがいづらかった	相談する窓口や方法がわからなかった	無回答
各総合支所子ども家庭支援センター（＊＊＊）	全体	1,482	202	1,116	23	12	55	74
		100.0	13.6	75.3	1.6	0.8	3.7	5.0
	ふたり親（二世代）	1,135	101	918	19	6	45	46
		100.0	8.9	80.9	1.7	0.5	4.0	4.1
	ふたり親（三世代）	111	9	86	1	1	4	10
		100.0	8.1	77.5	0.9	0.9	3.6	9.0
	ひとり親（二世代）	182	75	89	2	3	5	8
		100.0	41.2	48.9	1.1	1.6	2.7	4.4
	ひとり親（三世代）	32	15	12	1	2	0	2
		100.0	46.9	37.5	3.1	6.3	0.0	6.3
各総合支所健康づくり課（＊＊＊）	全体	1,482	166	1,142	12	12	74	76
		100.0	11.2	77.1	0.8	0.8	5.0	5.1
	ふたり親（二世代）	1,135	117	905	8	6	53	46
		100.0	10.3	79.7	0.7	0.5	4.7	4.1
	ふたり親（三世代）	111	20	77	0	1	3	10
		100.0	18.0	69.4	0.0	0.9	2.7	9.0
	ひとり親（二世代）	182	23	128	2	2	17	10
		100.0	12.6	70.3	1.1	1.1	9.3	5.5
	ひとり親（三世代）	32	2	23	2	3	0	2
		100.0	6.3	71.9	6.3	9.4	0.0	6.3
各総合支所生活支援課（＊＊＊）	全体	1,482	55	1,259	11	12	60	85
		100.0	3.7	85.0	0.7	0.8	4.0	5.7
	ふたり親（二世代）	1,135	20	1,010	6	8	36	55
		100.0	1.8	89.0	0.5	0.7	3.2	4.8
	ふたり親（三世代）	111	3	91	1	0	5	11
		100.0	2.7	82.0	0.9	0.0	4.5	9.9
	ひとり親（二世代）	182	26	125	1	2	18	10
		100.0	14.3	68.7	0.5	1.1	9.9	5.5
	ひとり親（三世代）	32	5	21	3	2	0	1
		100.0	15.6	65.6	9.4	6.3	0.0	3.1
各総合支所保健福祉課（＊＊＊）	全体	1,482	97	1,212	7	15	61	90
		100.0	6.5	81.8	0.5	1.0	4.1	6.1
	ふたり親（二世代）	1,135	64	967	4	8	36	56
		100.0	5.6	85.2	0.4	0.7	3.2	4.9
	ふたり親（三世代）	111	13	84	0	0	3	11
		100.0	11.7	75.7	0.0	0.0	2.7	9.9
	ひとり親（二世代）	182	16	126	2	5	20	13
		100.0	8.8	69.2	1.1	2.7	11.0	7.1
	ひとり親（三世代）	32	2	24	1	2	1	2
		100.0	6.3	75.0	3.1	6.3	3.1	6.3
福祉の相談窓口（まちづくりセンター、あんしすこやかセンター、社会福祉協議会）（＊＊＊）	全体	1,482	116	1,186	16	12	67	85
		100.0	7.8	80.0	1.1	0.8	4.5	5.7
	ふたり親（二世代）	1,135	72	951	10	7	41	54
		100.0	6.3	83.8	0.9	0.6	3.6	4.8
	ふたり親（三世代）	111	23	73	1	0	4	10
		100.0	20.7	65.8	0.9	0.0	3.6	9.0
	ひとり親（二世代）	182	14	130	4	3	18	13
		100.0	7.7	71.4	2.2	1.6	9.9	7.1
	ひとり親（三世代）	32	5	22	1	2	1	1
		100.0	15.6	68.8	3.1	6.3	3.1	3.1
ぷらっとホーム世田谷（＊＊＊）	全体	1,482	32	1,245	11	9	95	90
		100.0	2.2	84.0	0.7	0.6	6.4	6.1
	ふたり親（二世代）	1,135	9	999	5	4	61	57
		100.0	0.8	88.0	0.4	0.4	5.4	5.0
	ふたり親（三世代）	111	1	93	1	1	6	9
		100.0	0.9	83.8	0.9	0.9	5.4	8.1
	ひとり親（二世代）	182	18	121	4	2	23	14
		100.0	9.9	66.5	2.2	1.1	12.6	7.7
	ひとり親（三世代）	32	2	22	1	2	3	2
		100.0	6.3	68.8	3.1	6.3	9.4	6.3
世田谷ひきこもり相談窓口「リンク」（＊＊＊）	全体	1,482	5	1,283	20	6	83	85
		100.0	0.3	86.6	1.3	0.4	5.6	5.7
	ふたり親（二世代）	1,135	2	1,013	15	3	50	52
		100.0	0.2	89.3	1.3	0.3	4.4	4.6
	ふたり親（三世代）	111	1	92	0	0	7	11
		100.0	0.9	82.9	0.0	0.0	6.3	9.9
	ひとり親（二世代）	182	2	140	4	3	21	12
		100.0	1.1	76.9	2.2	1.6	11.5	6.6
	ひとり親（三世代）	32	0	27	1	0	2	2
		100.0	0.0	84.4	3.1	0.0	6.3	6.3
教育相談室（＊＊＊）	全体	1,482	116	1,153	26	14	86	87
		100.0	7.8	77.8	1.8	0.9	5.8	5.9
	ふたり親（二世代）	1,135	82	921	18	7	53	54
		100.0	7.2	81.1	1.6	0.6	4.7	4.8
	ふたり親（三世代）	111	15	76	2	1	7	10
		100.0	13.5	68.5	1.8	0.9	6.3	9.0
	ひとり親（二世代）	182	17	124	5	5	19	12
		100.0	9.3	68.1	2.7	2.7	10.4	6.6
	ひとり親（三世代）	32	1	22	1	1	4	3
		100.0	3.1	68.8	3.1	3.1	12.5	9.4

		該当数	相談したことがある	相談したいと思ったことがなかった	相談したかったが、抵抗感があった	相談時間や場所などがいづらかった	相談する窓口や方法がわからなかった	無回答
不登校相談窓口（教育総合センター）（＊＊＊）	全体	1,482	36	1,235	31	10	78	92
		100.0	2.4	83.3	2.1	0.7	5.3	6.2
	ふたり親（二世代）	1,135	23	974	24	7	48	59
		100.0	2.0	85.8	2.1	0.6	4.2	5.2
	ふたり親（三世代）	111	3	90	0	0	7	11
		100.0	2.7	81.1	0.0	0.0	6.3	9.9
	ひとり親（二世代）	182	7	135	6	2	20	12
		100.0	3.8	74.2	3.3	1.1	11.0	6.6
	ひとり親（三世代）	32	2	27	1	0	0	2
		100.0	6.3	84.4	3.1	0.0	0.0	6.3
メルクマールせたがや（＊＊＊）	全体	1,482	19	1,260	11	7	92	93
		100.0	1.3	85.0	0.7	0.5	6.2	6.3
	ふたり親（二世代）	1,135	13	1,001	8	5	49	59
		100.0	1.1	88.2	0.7	0.4	4.3	5.2
	ふたり親（三世代）	111	1	89	0	0	11	10
		100.0	0.9	80.2	0.0	0.0	9.9	9.0
	ひとり親（二世代）	182	2	136	1	2	27	14
		100.0	1.1	74.7	0.5	1.1	14.8	7.7
	ひとり親（三世代）	32	2	23	2	0	3	2
		100.0	6.3	71.9	6.3	0.0	9.4	6.3
せたがや若者サポートステーション（＊＊＊）	全体	1,482	4	1,263	11	8	102	94
		100.0	0.3	85.2	0.7	0.5	6.9	6.3
	ふたり親（二世代）	1,135	3	997	9	5	62	59
		100.0	0.3	87.8	0.8	0.4	5.5	5.2
	ふたり親（三世代）	111	0	92	0	1	7	11
		100.0	0.0	82.9	0.0	0.9	6.3	9.9
	ひとり親（二世代）	182	0	139	2	2	25	14
		100.0	0.0	76.4	1.1	1.1	13.7	7.7
	ひとり親（三世代）	32	0	25	0	0	5	2
		100.0	0.0	78.1	0.0	0.0	15.6	6.3
学校・保育所・幼稚園の先生、スクールカウンセラーなど（X）	全体	1,482	461	851	36	19	44	71
		100.0	31.1	57.4	2.4	1.3	3.0	4.8
	ふたり親（二世代）	1,135	349	675	28	12	28	43
		100.0	30.7	59.5	2.5	1.1	2.5	3.8
	ふたり親（三世代）	111	32	62	2	2	4	9
		100.0	28.8	55.9	1.8	1.8	3.6	8.1
	ひとり親（二世代）	182	67	88	5	3	9	10
		100.0	36.8	48.4	2.7	1.6	4.9	5.5
	ひとり親（三世代）	32	7	21	0	1	1	2
		100.0	21.9	65.6	0.0	3.1	3.1	6.3
民生委員・児童委員（＊＊＊）	全体	1,482	24	1,275	9	6	79	89
		100.0	1.6	86.0	0.6	0.4	5.3	6.0
	ふたり親（二世代）	1,135	10	1,015	5	5	47	53
		100.0	0.9	89.4	0.4	0.4	4.1	4.7
	ふたり親（三世代）	111	3	90	1	0	6	11
		100.0	2.7	81.1	0.9	0.0	5.4	9.9
	ひとり親（二世代）	182	11	131	3	1	21	15
		100.0	6.0	72.0	1.6	0.5	11.5	8.2
	ひとり親（三世代）	32	0	28	0	0	2	2
		100.0	0.0	87.5	0.0	0.0	6.3	6.3
ハローワーク（＊＊＊）	全体	1,482	288	1,044	16	19	32	83
		100.0	19.4	70.4	1.1	1.3	2.2	5.6
	ふたり親（二世代）	1,135	200	836	10	12	24	53
		100.0	17.6	73.7	0.9	1.1	2.1	4.7
	ふたり親（三世代）	111	25	70	1	2	2	11
		100.0	22.5	63.1	0.9	1.8	1.8	9.9
	ひとり親（二世代）	182	54	106	4	4	3	11
		100.0	29.7	58.2	2.2	2.2	1.6	6.0
	ひとり親（三世代）	32	7	22	0	1	1	1
		100.0	21.9	68.8	0.0	3.1	3.1	3.1
上記以外の公的機関（＊＊＊）	全体	1,482	82	1,169	9	10	84	128
		100.0	5.5	78.9	0.6	0.7	5.7	8.6
	ふたり親（二世代）	1,135	54	927	7	7	54	86
		100.0	4.8	81.7	0.6	0.6	4.8	7.6
	ふたり親（三世代）	111	8	82	0	0	7	14
		100.0	7.2	73.9	0.0	0.0	6.3	12.6
	ひとり親（二世代）	182	14	126	2	3	18	19
		100.0	7.7	69.2	1.1	1.6	9.9	10.4
	ひとり親（三世代）	32	4	23	0	0	3	2
		100.0	12.5	71.9	0.0	0.0	9.4	6.3

４．まとめ

（１）様々な支援サービス

様々な支援サービスの利用状況・利用意向を見ると、「こども食堂」「フードバンク・フードパントリーによる食料支援」「学校以外が実施する無料学習支援」の各項目において、利用したことがある保護者の割合よりも、「条件を満たしていなかった」「利用時間や制度等が使いづらかった」「利用の仕方が分からなかった」といった理由で、利用意向があったにもかかわらず利用しなかった保護者の割合の方が多い状況であった。また、この割合は、生活困難度および世帯タイプの影響を受けており、困窮層・ひとり親世帯において、利用意向はあったが、利用しなかった保護者の割合が高い傾向にある。また、「制度等について全く知らなかった」割合が生活困難層・ひとり親世帯の方が高かった（世帯タイプについては「こども食堂」を除く）（**図表 11-1-1**、**図表 11-1-2**、**図表 11-1-3**、**図表 11-1-4**）。

一方で、今後の利用意向を確認すると、ほぼすべての支援サービスにて生活困難層やひとり親世帯の方が、利用意向が高い傾向にあり、特に「学校以外が実施する無料学習支援」については、困窮層の 45.5%、ひとり親（二世代）世帯の 31.9%に利用意向があった（**図表 11-1-5**、**図表 11-1-6**、**図表 11-1-7**、**図表 11-1-8**）。

（２）経済的支援制度

経済的支援制度の利用状況・利用意向を見ると、一定所得以下の世帯を対象とした「高等学校等就学支援金（授業料支援）」は利用したことのある割合が高く、全体では 32.3%、困窮層では 83.6%にのぼる。また、ひとり親世帯等を対象とした「児童扶養手当」についても利用率が高く、全体では 21.8%、ひとり親（二世代）世帯では 45.6%、ひとり親（三世代）世帯では 37.5%にのぼる。

一方で、一定所得以下の世帯を対象とした「受験生チャレンジ支援貸付」「生活福祉資金貸付制度」については、「利用したことがある」割合がそれぞれ困窮層の 9.1%・3.6%と低いのに対し、「制度等について全く知らなかった」割合がそれぞれ困窮層の 30.9%・29.1%と比較的高い。加えて、これらの制度の利用意向を見ると、利用意向が「ある」と回答した割合はそれぞれ困窮層の 60.0%・25.5%と一定のニーズが確認できる。同様に、ひとり親世帯を対象とした「母子及び父子福祉資金」は「利用したことがある」割合がひとり親（二世代）世帯の 2.7%・ひとり親（三世代）世帯の 0.0%であったのに対し、「制度等について全く知らなかった」割合がひとり親（二世代）世帯の 30.8%・ひとり親（三世代）世帯の 25.0%、利用意向が「ある」と回答した割合はひとり親（二世代）世帯の 28.0%・ひとり親（三世代）世帯の 18.8%にのぼった。すなわち、これらの制度については、対象者への事業の周知が課題である可能性がある（**図表 11-2-1**、**図表 11-2-2**、**図表 11-2-3**、**図表 11-2-4**、**図表 11-2-5**、**図表 11-2-6**、**図表 11-2-7**、**図表 11-2-8**）。

（３）公的機関への相談

公的機関への相談は、「学校・保育所・幼稚園の先生、スクールカウンセラー」に対しては約 3 割の保護者が、「ハローワーク」については約 2 割の保護者が相談しているものの、その他の公的機関については、約 1 割かそれ以下の保護者しか相談していない。また、民生委員・児童委員は、地域の最も身近な公的相談窓口であるが、実際に相談経験を持つ保護者は 2%にも満たない。すべての相談窓口において、保護者が相談しない理由の殆どは「相談したいと思ったことがなかった」であるが、時間や場所の使いづらさ、相談方法がわからない、相談することに抵抗感があるなどの理由によって相談に至っていない保護者も 1 割未満だが存在する。また、すべての公的機関にて「相談したいと思ったことがなかった」割合は生活困難度が高いほど低かった。困窮層・周辺層において、相談経験がある割合が高い傾向にあることや、相談意向があるのに相談に至っていない率が高い傾向にあることは、これらの世帯において、そもそも相談を必要とするニーズが高いからと考えられる。そのため、時間的制約や身近であるからこその「気まずさ」「言いづらさ」等を考

慮しながら、ニーズが高いこれらの世帯が最もアクセスしやすい相談方法を検討していくことが重要である（**図表 11-3-1**、**図表 11-3-3**）。